静岡県高校バスケットボール

大会展望クロニクル

2014－2025

著：中島　洋己

静岡県高校バスケットボール

大会展望クロニクル 2014－2025

著：中島　洋己

はじめに

平成26年9月、コンビニに立ち寄った時に目に留まったのが「D-sports Shizuoka 創刊号」、高校サッカー選手権県予選特集号だった。パラパラめくってみると文藝春秋社の「Number（ナンバー）」誌レベルの出来上がり、オールカラーで出場校のプロファイリング、県高校サッカーの歴史コラムまで掲載されていた。「いつか静岡県の高校バスケも取り上げて欲しいなぁ」などと思っていたところ、勤務校にくまふメディア制作事務所の藤原志織編集長から電話があり、「高校バスケ特集号を創りたい」という話を聞き、後日学校で打ち合わせをすることとなった。打ち合わせの中で構想や今後の日程を確認したあと、藤原さんから「中島先生に大会展望と高校バスケの歴史コラムを寄稿していただきたい」という信じられないオファーを頂いた。それが私と高校バスケ大会展望との出会いであった。

以後、高校3大大会のたびに協会HPに掲載、平成27年にもD-sportsに展望と静岡県高校バスケの現在地を寄稿させていただき、D-sportsが高校バスケ特集号を休刊した平成28年以降は県総体・県新人をHPに、ウインター県予選を大会プログラムに掲載させていただいている。また令和4年には７年ぶり高校バスケ特集号が復刊し、書名は『DRIVE』、『D-sports Shizuoka』と変遷しながらも続けて展望を寄稿させてもらっていることは光栄の極みである。

A4 2,3枚程度から始まった大会展望も、執筆に熱を帯びるようになり最近では14～18枚程度にまで増えて推敲作業が大変になるうれしい悲鳴が続いている。毎回大会の時期になるとそろそろ書き始めないという気持ちになる反面、今回もきちんと書けるだろうか、校務と両立しながら期日までに出来上がるだろうかと焦燥感に駆られることや、掲載内容に関するクレームや客観的事実の間違い、または一番してはいけない校名・人名の誤表記などを恐れながらの執筆になり、これは10年たった今でも変わっていない。しかしながら、近年は私の大会展望やコラムを楽しみにしてくれている方が増えてきて、クレームや否定的な意見は全く私の耳に入ってこなくなった。これは書く側からすると相当のストレスから解放される安心材料である。今後は私の思い込みや目の衰えによる人名の変換ミス等をなくして、読み手が実際会場に行って試合が見たくなる展望、選手および保護者が読んでいて喜ぶ展望を書き続けたいと思っている。

今回、平成26年ウインターの大会展望を書いてから11年、今年の県新人で30作目の大会展望を書き終えた記念に、悲願であったコラム集としてまとめて発行することとなった。この本を出版するにあたり、よくある「大幅に加筆・訂正をして」という作業を行なおうと思ったが、結果が分からない時点で書いた大会展望を結果が分かっている現在に加筆すると執筆時の緊張感・臨場感が損なわれる恐れがあるので、今回は「加筆」せず、客観的事実や固有名詞等のミスを直すなど「訂正」のみをして入稿することにした。それでも膨大な作業であったが今まではウインタープログラム以外の展望にはデザインやレイアウトが施されていなかったので、全展望・コラムに素敵なデザインが入り、若き日に日本史の教科書で重要語句に太字ゴシックが施されたスタイルで読んでいけるのはまさに執筆者として感動を超えて言葉も見当たらない。

訂正作業をしながら全作品をもう一度読み直してみると、静岡県の高校バスケの名シーンとスーパースターの顔が走馬灯のように蘇ってきた。この本を手に取った皆様も同じ気持ちで読んでいただけることを切に願っている。

CONTENTS

1. はじめに
2. ウインターカップ2014静岡県予選 大会展望 …… 1
3. 平成27年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望 …… 3
4. 第46回全国高校選抜優勝大会（ウインターカップ）静岡県予選 大会展望
   ～ *PREVIEW of WINTER CUP 2015* ～ …… 5
5. *Shizuoka Prefecture High School Basketball*
   静岡県高校バスケットの現在地 プレイバック静岡・高校バスケ2014 ～ 2015 …… 7
6. 平成27年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望 …… 9
7. 平成28年度全国高校総体静岡県予選バスケットボール競技 大会展望 …… 11
8. ウインターカップ2016静岡県予選 大会展望 …… 13
9. プレイバック静岡・高校バスケ 2015 ～ 2016 …… 17
10. 平成28年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望 …… 19
11. 平成29年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望 …… 22
12. ウインターカップ2017静岡県予選 大会展望 …… 25
13. プレイバック静岡・高校バスケ 2016 ～ 2017 …… 29
14. 平成29年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望 …… 31
15. 平成30年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望 …… 34
16. ウインターカップ2018静岡県予選 大会展望 …… 37
17. プレイバック静岡・高校バスケ 2017 ～ 2018 …… 41
18. 平成30年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望 …… 43
19. 令和元年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望 …… 47
20. ウインターカップ2019静岡県予選 大会展望 …… 52
21. プレイバック静岡・高校バスケ 2018 ～ 2019 …… 57
22. 令和元年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望 …… 59
23. 静岡県高等学校体育連盟75周年記念に添えて
   【静岡県高体連創立75周年記念誌（令和５年４月刊行）寄稿文】 …… 64
24. ウインターカップ2020静岡県予選 大会展望 …… 65
25. プレイバック静岡・高校バスケ 2019 ～ 2020 …… 71
26. 令和2年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望 …… 73
27. 令和3年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望 …… 79
28. ウインターカップ2021静岡県予選 大会展望 …… 86
29. プレイバック静岡・高校バスケ 2020 ～ 2021 …… 93
30. 令和3年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望 …… 96
31. 令和4年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望 …… 103
32. ウインターカップ2022静岡県予選 大会展望【県協会HP掲載・ブロック別版】 …… 109
33. ウインターカップ2022静岡県予選 大会展望【DRIVE誌　寄稿版】 …… 115
34. 令和4年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望 …… 117
35. 令和5年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望 …… 123
36. ウインターカップ2023静岡県予選 大会展望 …… 131
37. ウインターカップ2023静岡県予選 大会展望【D-sports SHIZUOKA誌 寄稿版】 …… 139
38. 令和5年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望 …… 141
39. 令和6年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望 …… 148
40. ウインターカップ2024静岡県予選 大会展望 …… 159
41. ウインターカップ2024静岡県予選 大会展望【D-sports Shizuoka vol.30 寄稿版】 …… 169
42. *History of Winter Cup* 2024　ウインターカップ（選抜･選手権）の歴史と静岡県予選の歩み …… 171
43. 令和6年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望 …… 175
44. 令和7年度全国高校総体静岡県予選 大会展望（案） …… 186
45. おわりに …… 187
46　著者略歴・参考文献 …… 188

ウインターカップ2014静岡県予選 大会展望

文・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己　（浜松市立高校教諭）
（平成26年10月発売　D-sports SHIZUOKA vol.2 掲載）

男子

本命は昨年の覇者、**藤枝明誠**。史上最年少で日本代表候補に選出されてはや2年、エース・**角野亮伍**のプレーを見られる最後の大会となる。その角野を中心に、ガードの阿部駿太、中盤の**宮越康槙・川原一仁**、196cmの高身長センター**片山和哉**、192cm中国人留学生の**潘広晨**など各ポジションバランスの取れたチームである。登録15人の平均身長も182.4cmと他校と比べて群を抜いている。今夏の全国総体3回戦で東海大四（北海道）に惜敗したものの、強豪・正智深谷（埼玉）や幕張総合（千葉）を破るなど戦力は充実期にある。連覇で5回目の優勝を狙う大本命のチームに死角はないように思われる。

対抗は飛龍・沼津中央の東部勢。**飛龍**は県総体決勝リーグで2位を争う沼津中央に67-65で辛くも勝利、7年ぶりの全国出場を果たした。全国総体では帝京長岡（新潟）のマリ人留学生・タヒロウディアバテへの対応に苦しみ敗れたが、今大会は中国人留学生・**陳東祥**と**馮俊凱**を交互に効果的に使って高さで勝負、8年ぶりの優勝をうかがう。主将・**長島蓮**や2年生エース・**安部紘貴**の巧みなドライブもチームのオフェンスにリズムを与える。

もう一つの対抗馬・**沼津中央**は藤枝明誠に負けず劣らずタレント揃いのチーム。県総体は3位で惜しくも全国出場を逃したが、東海総体では8月の全国総体3位の桜丘（愛知）に快勝、準決勝で藤枝明誠との「静岡ダービー」に78-79で惜敗したものの、互角以上の戦いを演じ、チーム全体のポテンシャルの高さを見せた。司令塔・**藤原翔真**、中盤の**大橋聖也**、インサイドの**ベルナルドモリタ**という3人の国体選手を抱える戦力、特に2年次に福岡第一から転校してきた大橋のドライブによる突破力はなかなか止められない。昨年は県代表決定戦で飛龍を下し4年連続のウインターカップ出場を果たしたが、決勝戦では藤枝明誠に歯が立たず、優勝を逃した。今大会2年ぶりの優勝で5年連続のウインターカップ出場を飾るためには準決勝で予想される飛龍との今季3度目の戦いが最大の山場となる。東部総体・県総体と連敗しているだけに、雪辱を期しているはずである。

3強を猛追するのが、県総体4位の**浜松学院**。安定した実力を持つ上級生に加え、昨年の静岡全中で優勝、大会ベスト5にも選出された**田中旭・横川真那斗**の1年生コンビが加入、層の厚みを増した。県総体から5 ヶ月、経験値を積み重ねた選手たちが王者・藤枝明誠に挑む。

その他、国体選手・**下瑞希**を擁する**浜松開誠館**も侮れない。6年前に浜松開誠館中学校男子バスケ部が創部、その時入部した1期生たちが国体会高校3年生として最後の大会に臨む。現役時代日本代表として活躍した後藤正規監督の手腕にも注目したい。まずは準々決勝で予想される沼津中央戦がポイントとなる。

県総体8強の**静岡学園**も上位争いに絡んでくることは必至。一方で同じく8強の**常葉学園菊川・静岡東**は主力の3年生が引退、新メンバーでどこまで戦えるかも注目である。

女子

今年も常葉学園と駿河総合の中部勢2強中心の争いになると思われる。**常葉学園**は3年生の**稲葉さつき・稲葉さくら**姉妹に平成24年の埼玉全中で3位入賞した時の主力であるエース・**篠宮杏奈**、**見﨑南美・柴美佑**、そして高校から常葉学園に加わった**河合夏海**など戦力が多彩。ただチーム最高身長の河合が172cmと全国レベルで見ると決して大きいとは言えない。県総体決勝リーグでは駿河総合の猛追に耐えきり優勝。全国総体では山形市立商業に敗れたが、総合力で頭一つ抜けているように思われる。今年も堅実なバスケットで4年連続15回目の優勝とウインターカップ出場を狙う。

駿河総合は県2位で出場した全国総体で1回戦・鹿児島純心女子に圧勝、2回戦で全国総体3位になる大阪薫英女学院に敗れたが接戦を演じた国体主将を務めたガード・**遠藤美紀**が唯一の3年生だが、華麗なパスワークは他の追随を許さない。さらにセンター陣は同じく国体選手の172cm**池ヶ谷優香**、178cm**大串梨沙**を始め、1年生センター・**加藤陽**も178cmと高さは群を抜いている。登録選手の平均身長も167cm、この高さをどう生かしていくか注目である。チームを率いる青木良浩監督は過去市立沼津時代に8回、静岡商業時代に2回の県予選優勝、全国選抜出場経験を持つ。自身3校目の優勝、ウインターカップ出場そして学校創立2年目の駿河総合に初の栄冠をもたらすことができるか注目したい。

この2強に迫るのが**浜松開誠館**。県総体では惜しくも3位で全国を逃したが、出場した東海総体では初戦・県立岐阜商業に圧勝、強さを見せつけた。決勝リーグで脚を負傷した**伊藤琴野**の復調具合が気になるが、司令塔・**杉浦佑奈**、中盤・**小幡美乃**

理の国体コンビの得点力は素晴らしいものがある。特に杉浦は8月の東海国体・岐阜県戦、3点ビハインドの終了間際、延長に持ち込む3Pを決めて最終的に静岡県に勝利をもたらした。カギを握るのは伊藤を補佐するセンターだが、173cmと長身の**平野未来**が任される模様。得意の全員一丸バスケで昭和61年の浜松市立以来28年ぶり西部地区女子チームの優勝を狙う。

県総体4強の一角・**浜松海の星**は3年生中心のチーム。国体でセンターを任された**坂口日菜・鈴木葉央莉**のツインタワーに加え、ゲームキャプテンとしてチームを引っ張る**出羽彩乃**、司令塔の**髙井香凛・野中梨緒**、中盤の**徳増美佳・松原杏花**の3年生7人を中心としたバスケットで初優勝を狙う。対戦チームが国体センターコンビをいかに抑えていくか、東海国体で実践を積んだこの2人がどれだけ得点を重ねていくのか楽しみである。浜松開誠館同様、西部地区女子バスケ復活という大役も担う。

県総体4強以外では、市立沼津・藤枝順心が台風の目になると思われる。

市立沼津は昨年準優勝、1年時からの主力で国体選手でもある**齋藤さき・渡邉優花**に**阿部田瑞稀**を加えた3年生が4強以上進出のカギを握る。準々決勝では県総体で惜敗した駿河総合との戦いが予想される。県総体では後半の猛追があと一歩及ばなかったが、準々決勝を突破すれば4年ぶり12回目の優勝も見えてくるはずである。

藤枝順心は県新人4位、県総体ベスト8、県総体準々決勝では浜松開誠館に終了間際で逆転されて初の決勝リーグ進出を阻まれた。3年生が一部引退し、3年生3人と下級生というチーム編成だが、県新人・県総体上位進出の立役者・**福井咲**、インサイドへの抜群の突破力を誇る**柴田江マ**、アウトサイドシュートを得意とする**高橋萌花**などが準々決勝での対戦が予想される浜松海の星とまの戦いでどこまで踏ん張れるかが勝負の生命線となる。両者は県新人3位決定戦で対戦、藤枝順心は終盤足が止まって力尽き東海新人を逃し、浜松海の星は初の東海新人出場を決めて明暗を分けた。藤枝順心は県新人のリベンジを果たせるか、はたまた浜松海の星が返り討ちにするか注目の一戦となる。

その他、スピード感あふれる大型センター・**小林梨花**を擁する**沼津中央**、リズム感あるディフェンスの**飛龍**も侮れない。

ウィンターカップ2014 県予選展望

平成26年10月発売「D-Sports shizuoka」掲載　大会展望

平成27年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己　（浜松市立高校教諭）

平成27年度**全国高校総体（インターハイ）静岡県予選**は5月23日、池新田高校体育館等で開幕する。男女とも地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、4ブロックに分かれたトーナメトのあと各ブロック1位校による決勝リーグが5月30日,31日に**静岡市北部体育館**で行われる。男女とも上位2校が7月28日に京都府京都市（**ハンナリーズアリーナ・島津アリーナ**）で開幕する**全国高校総体**へ、上位3校が6月20,21日に静岡県浜松市・**浜松アリーナ**で行われる**東海高校総体**への出場権を獲得する。

男子

ここ数年続いた藤枝明誠や沼津中央の独走時代が終わり、県新人上位4チームが並ぶ群雄割拠の時代に突入したと言える。その中でも優勝候補の本命は県新人優勝、東海新人3位の**飛龍**。

多彩な攻めが魅力のエース・**安部紘貴**（3年）は1on1からのドライブに絶対的な自信を持つ。キャプテン**小宮光紀**（3年）はディフェンスの要としてチームを支える。中盤の**関屋風画**（3年）から長身193cmの中国人留学生・**馮俊凱**（2年）にボールがつながる場面が多く見られるようになれば8年ぶりの優勝も現実味を帯びてくる。

対抗は県新人準優勝の**浜松学院**。併設中学が平成25年に静岡全中で優勝した時のメンバーが主力となり、17年ぶりの優勝が視界に入ってきた。

191cmの大型センター**田中旭**（2年）と**横川真那斗**（2年）の静岡全中大会優秀選手コンビを中心に司令塔**･伊藤颯太**（2年）の華麗なパスワークで全国総体を引き寄せることが出来るか。特に横川は県新人準決勝で3P6本を決めるなど躊躇なく放たれるロングシュートのセンスは天下一品。大物新人・**ダシルバヒサシ**（1年）も加わりさらに全体の戦力も厚みが増した。下級生中心の若いチームではあるが全国の檜舞台で培ってきた経験値を生かすことが出来るか注目である。

県総体3連覇中の**藤枝明誠**もこのままでは終われない。2月に三上淳監督が急逝､現在は三上氏が札幌創成高校時代の愛弟子･**江口理沙**監督が采配をふるう。エース・角野が抜けて得点源が心配されるが、シューターの**草野佑太**（3年）を軸に、春季強化遠征メンバーにも選ばれた**坂下郁弥**、**林大眞**（ともに3年）、**富田一成**（2年）の中盤勢がセンター 192cmの中国人留学生・**潘広晨**（3年）にどれだけボールをつなげられるかが勝負の鍵を握る。県内初の女性監督が男子チームを率いてのインターハイ出場なるかにも注目したい。

東部予選決勝で飛龍に惜敗した**沼津中央**も優勝候補の一角として外せない。U18日本代表候補にも選ばれたエース・**今村拓夢**（3年）は抜群の跳躍力を誇り攻守の要としてチームを支える。昨年からレギュラーで活躍する**石丸彪**（3年）、引退した藤原の後継者として白羽の矢が立った**小花巧**（3年）、司令塔**･荻野賢雅**（3年）、3月の国内遠征メンバーに選ばれた**宮澤亮**（2年）に加え、新加入のセネガル人留学生・**サンブーアンドレ**（1年）は県内最高身長の200cm。この高さと沼津中央のモットーである「走り勝つバスケ」が有機的に機能すれば3年ぶりの全国総体出場、さらには4年ぶりの優勝が見えてくる。決勝リーグまで勝ち上がった場合、初戦での対戦が予想される東部決勝の再戦となる飛龍戦がポイントとなる。

この4強を猛追するのが、西部予選準優勝の**浜松開誠館**と中部予選準優勝の**静岡学園**、そして県新人公立高校男子唯一8強、東部予選も3位に食い込んだ**伊豆中央**。

浜松開誠館、静岡学園、ともに国内遠征メンバーである**二村響**（浜松開誠館2年）、**高橋佳希**（静岡学園3年）を軸とする攻撃的バスケットを得意とするチーム。二村、高橋に加え、伊豆中央のエース・**井村大我**（2年）も全中出場経験があり、大舞台での試合経験が豊富なのも強みである。同じく県新人8強の星陵、県内日本人最高身長192cm**越後航平**（3年）を擁する**加藤学園**も侮れない。

女子

優勝候補筆頭・県新人覇者の**常葉学園**の優位は揺るがない。現在県内3大大会（総体・選抜・新人）5連覇中。戦力的も充実期にあり、チームのスコアラー（得点源）・**篠宮杏奈**、ディフェンスの要・**見崎南美**、ゴール下で果敢にシュートを放つ**河合夏海**、抜群のドライブ力を持つ・**柴美佑**（すべて3年）、2年の**伊東ひかる・伊東かおる**姉妹、**高橋夏瑠**、そして新加入の長身センター**野本陽香**（1年）と他チームのつけいる隙が見当たらない。エース篠宮はケガとの戦いとなるが、2年連続12回目の優勝、5年連続21回目の全国総体出場を狙う常勝チームに死角は見当たらない。天下の宝刀とも言える「ステイローからの速攻」の切れ味はすでに全国レベルである。

対抗はその常葉学園と中部予選決勝で激闘を繰り広げた駿河総合と、西部予選14連覇を遂げた浜松開誠館。**駿河総合**は昨年のエース・遠藤が抜けただけでレギュラーメンバーは昨年とほぼ変わらない。司令塔・**西村茉優**（2年）を始め、中盤の**浜辺詞織**、**瀧本菜々子**（ともに3年）は昨年から実戦を多く経験し上積みも見込める。センター陣は172cmの**池ヶ谷優香**（3年）、178cm**大串梨沙**（3年）、同じく178cmで今春トップエンデバーにも招集された**加藤陽**（2年）など高さでは他の追随を許さない。その中でチームの信条である「考えて創り出すバスケ」を十分に展開できるか注目したい。常葉、浜松開誠館に競り勝って、2年連続の全国総体出場を初優勝で飾りたいところである。

県新人準優勝の**浜松開誠館**は平成24年の埼玉全中でベスト8に輝いた時の主力が3年生になり、こちらも戦力的には整っている。3月の少年女子選抜の遠征メンバーに選ばれた**小幡美乃里**、**平野未来**、**山口史乃**（すべて3年）、**陽本麻優**（2年）を中心に、西部地区としては平成2年の西遠女子以来、25年ぶり、まさに四半世紀ぶりの県総体制覇を狙う。県新人決勝では王者・常葉学園を第4Q途中までリードし、土俵際まで追い詰めた。チーム全体としてリバウンド、ルーズボールなど球際にも抜群の強さを発揮している。浜松開誠館初の優勝と7年ぶりの全国総体出場はセンター平野が173cmの長身を生かしリバウンドの支配が出来るかにもかかっている。

この3強を追うのが、西部予選準優勝を果たし第4シードに食い込んだ浜松海の星と県新人4位の実績を誇る西部予選3位・浜松学院の西部勢。

浜松海の星は**鈴木朋香**、**飯島渚**（ともに3年）、**名倉百香**（2年）の170cm超の長身センター陣3人を抱え、ガード陣も抜群のシュート成功率を誇る。

浜松学院は県新人で強豪・市立沼津、藤枝順心を破り初の4強入りを果たし、シューター**添田南葉**（2年）も安定したシュート成功率を誇る。勝負所でインサイドにボールを集め、スピードあるセンター・**古野実希**（2年）と県内女子最高身長180cmの**新村莉子**（3年）を軸にゴール下から得点を量産していきたい。

この2チームに加え、一昨年全国総体ベスト8で今回の東部予選も制覇した**市立沼津**や県新人ベスト8の3校、強靭的なフィジカルを誇るエース・**柴田江マ**（3年）を擁する**藤枝順心**、司令塔・**瀬崎真由**（3年）が得点源の**浜松市立**、スピードあふれるセンター・**小林梨花**（3年）、大ケガから復帰した**夏目唯衣**（3年）を筆頭に選手層の厚い**沼津中央**も虎視眈々と地元開催の東海総体出場を狙っている。

平成27年10月発売「D-Sports shizuoka」掲載　大会展望

第46回全国高校選抜優勝大会（ウインターカップ）静岡県予選 大会展望
～ *PREVIEW of WINTER CUP 2015* ～

文・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己　（浜松市立高校教諭）

高校バスケット3大タイトルのひとつ、全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会（通称:ウインターカップ）静岡県予選が、いよいよ10月24日から静岡県武道館他で開催される。（全国大会は12月23日から東京体育館で開催）。高校バスケの集大成ともいえるこの大会にかける想いはどのチームも強い。そこで今年のウインターカップの展望を中島洋己氏（静岡県バスケットボール協会広報委員長）に聞いてみた。

第46回全国高校選抜優勝大会（ウインターカップ2015）静岡県予選は平成27年10月24日から**静岡県武道館**他で開催される。男女優勝チームが12月23日に**東京体育館**で開幕する**全国選抜大会（ウインターカップ）**への出場権を獲得する。

男子

近年県4強と言えば飛龍・藤枝明誠・沼津中央・浜松学院だが、その中でも本命はやはり県新人と県総体で優勝、7月の全国総体でもベスト16に入った**飛龍**。

エース・**安部紘貴**のスピード感あふれるプレーは全国でも大いに通用することが証明された。カットインしてからの切れ味あるドライブはインサイドのディフェンスがそのスピードに追いけないほどである。間違いなく今大会注目度ナンバーワンプレーヤーである。中盤の**小宮光紀**は再三再四怪我に泣かされてきたが大事なところで勝負を決めるチームの大黒柱である。インサイドの**関屋風画**、**馮俊凱**はともに県選抜選手。この2人にボールが多くつながるような展開に持ち込めれば9年ぶりの優勝、そして県内大会三冠の可能性は高い。

対抗は**藤枝明誠**。2月に三上淳前監督が急逝、高木彰監督代行が暫定的に東海新人の指揮をとったが、4月に**江口里沙**監督が正式に就任。選手と「姉弟」のような年齢差ではあるが抜群のリーダーシップでチームを牽引、県総体準優勝で10年連続の全国総体出場を勝ち取った。大会直前に監督が金本鷹に代わったが、チームが目指すものに変わりはない。

責任感の人一倍強い主将・**林大眞**はチームの司令塔で積極的にゴール下に切り込むプレーを得意とする。中盤の**草野佑太**、**奥野綾汰**は共に185cmを超える長身を生かしたつなぎのプレーが魅力。特に奥野は東海国体少年男子の主将を務め、信頼感も絶大である。**石井竜馬**、**富田一成**に加え、5月から合流した200cmの中国人留学生・**張新鋒**を擁するセンター陣は高さだけでなくブレイク時のスピードも他チームには脅威になるに違いない。

沼津中央はU18日本代表候補にも選ばれ県選抜選手でもある**今村拓夢**がチームの得点源。抜群の跳躍力で相手チームのブロックをかわしながらのシュートはここ一番でチームを救い続けてきた。得点が欲しい時に流れを引き寄せてくれるスコアラーとしてチームの浮上の鍵を握るプレイヤーである。

その他、昨年から主力として活躍する**石丸彪**や司令塔・**荻野賢雅**、中盤の**藤原佑介**、華麗なパスワークでディフェンスを幻惑させる**小花巧**、成長著しいセンターの**宮澤亮**など戦力は上記2チームにひけをとらない。そして藤枝明誠・張に並ぶ200cm、県内最高身長のセネガル人留学生・**サンヴーアンドレ**は県総体、東海総体にも出場しプレイングタイムを多く与えられ実戦経験を積んできた。この秋までの上積みによってはチームを全国に導く可能性も十分ある。準決勝で予想される藤枝明誠との戦いが3年ぶりの優勝に向けての大きな修羅場となる。

4強の一角、**浜松学院**は県新人では惜しくも準優勝、満を持して臨んだ県総体ではまさかの決勝リーグ3連敗で4位。東海総体出場すら逃してしまった。併設中学が平成25年の静岡全中で優勝した時のメンバーが主力という若いチームだが、その「若さ」が「うまさ」にやられてしまう結果となってしまった。

しかしエースの**田中旭**は厳しいマークとディフェンスに手を焼きながらも決勝リーグ3試合で78得点。U18日本代表候補にも選ばれた意地を見せた。アウトサイドシュートに絶対の自信を持つ**横川真那斗**、そして広い視野からボールを繰り出すチームの司令塔・**伊藤颯太**、そして平成26年香川全中で全国3位を経験、1年生ながら決勝リーグでは3年生相手に堂々たるプレーを見せた**ダシルバヒサシ**、**石川晴道**などが全国の檜舞台で培った経験値を生かすことが出来るか注目したい。

その他、3月の国内遠征メンバーにも選ばれたエース・**二村響**や抜群のボディーバランスを誇る**神田諒成**を中心に攻守隙のないバスケを展開する**浜松開誠館**、平成24年埼玉全中に出場経験があり、東海国体では県総体4強チーム以外から唯一県選抜に選ばれた**高橋佳希**を擁する**静岡学園**、昨年の県選抜、県新人、県総体と3期連続でベスト8に食い込み、エース・**井村大我**の攻撃力が魅力である公立の雄・**伊豆中央**、県新人、県総体ともにベスト8の**星陵**、そして県内日本人最高身長192cm**越後航平**や全中出場経験のある**古藤田雄貴**など戦力的にも充実している**加藤学園**などが4強を追いかけ県武道館メインコートの舞台

を目指している。

女子

今年も**常葉学園**が他の追随を許していない強さを誇る。現在県内3大大会（総体・選抜・新人）6連覇中。2年半県勢相手に負けなし、まさに無敵である。

戦力も充実期にさしかかり、エース・**篠宮杏奈**の広いシュートエリアから放たれる正確なジャンプシュートは全国でも間違いなくトップレベルである。司令塔の**見崎南美**は軽快なフットワークが持ち味でディフェンスの要となっている。センターを任されている**河合夏海**はリバウンドやゴール下での果敢なシュートでチームに貢献、怪我から復帰した**柴美佑**や下級生の**伊東ひかる・かおる**姉妹や国体選手・**高橋夏瑠**、控えの長身センター 174cmの**野本陽香**など4年連続16回目の優勝に向かって天下の宝刀、「ステイローからの速攻」の切れ味はますます冴えわたる。

「ストップ・ザ・常葉」の一番手は**駿河総合**。昨年とほとんどレギュラーメンバーは替わらない。特にセンター陣3人の平均身長は176cm。

地道な下半身トレーニングで課題のスピード力を強化した**大串梨沙**、今春トップエンデバーに選ばれた**加藤陽**、速さが魅力のオールラウンドプレーヤー**池ヶ谷優香**を揃える多彩な顔ぶれ。司令塔・**西村茉優**は45度から切れ込むシュートを得意とし、中盤の**浜辺詞織**、**瀧本菜々子**は多くの実戦を経験しチームの得点源となってきた。

全国総体で強豪・山村学園（埼玉）を攻略した「考えて創り出す激しいバスケ」にさらなる磨きをかけ王者・常葉学園の牙城を切り崩し、悲願の初優勝を目指す。

県総体3位の**浜松開誠館**も2強を猛追する。埼玉全中ベスト8時の主力が3年生になり勝負の年でもある。エース・**小幡美乃理**に加え、司令塔・**山口史乃**、2年生の**陽本麻優**と3人の国体選手を抱えている。特に山口はディフェンスのブロックを巧みにかわし、クイックリリースで放つ3Pが持ち味で、東海総体ではその潜在能力を遺憾なく発揮し会場から大きな拍手と歓声を浴びた。

前身の「誠心」として昭和63年に全国選抜出場経験があるが、「浜松開誠館」としてはまだ聖地・東京体育館のコートには未踏である。合わせてその時の出場が現在まで西部地区女子最後の全国選抜出場となっている。初優勝で27年ぶりの全国選抜出場を決めることが出来るか。市立沼津、浜松学院が集う激戦ブロックであるだけに一戦一戦の積み重ねが続く駿河総合、常葉学園との戦いに大きく影響することだろう。

県総体4位の**東海大静岡翔洋**は一部の3年生が県総体で引退し、2年生主体のチームで臨む。静岡全中に出場したメンバーが中心の布陣で、攻撃の要は**濱本希代加**。決勝リーグ3試合でチーム総得点149点中52点、実に35%を濱本が記録、切れ込んでのドライブシュートやディフェンスが対応する前に放たれる3Pシュートなど多彩な攻撃が持ち味である。

その他173cmのセンター・**西村紗那**や怪我から復調し万全な体制で出場が出来る**糟屋栞里**、チームの精神的支柱である主将・**平田萌香**などチームに勢いがある時には上記の3強にも迫る強さを持つ。初の県武道館での試合前日に対戦が予想される東部の強豪・沼津中央戦が大きなカギを握る。昨年の大会では1点差で翔洋が勝ちきったが、県新人では沼津中央が勝利。今回3度目の戦いが注目である。

県総体ベスト8のチームに目を移すと県新人4位の**浜松学院**が上記4チームに最も肉薄している。安定したシュート成功率を誇る**添田南葉**に加え、インサイドにはスピード感あふれる**古野実希**と県内女子最高身長183cm、リバウンドを常に味方の得点につなげる**新村莉子**が控える。準々決勝で予想される浜松開誠館とは県総体準々決勝で対戦、第4Q終盤で離され惜しくも涙を飲んだが、昨年もこの大会ではベスト8に入っているだけに今回は是が非でも勝利し県4強に足を踏み入れたい。

浜松海の星と藤枝順心は主力の3年生が県総体で引退し、苦しい戦いが予想される。

浜松海の星はインサイドでのボール支配が巧みな**飯島渚**が残りチームの核となっている。インサイドの173cm**名倉百香**とのツインタワーを有機的に活用出来ればどのチームも苦戦するだろう。

藤枝順心は3年生エース・**柴田江マ**が残ったのが大きい。強靱なフィジカルを誇り、半ば強引なドライブから放たれるレイアップシュートは他チームの脅威となる。

浜松市立は3年生が全員引退し完全に新チームになった。都道府県対抗ジュニアに出場経験のある**白井渚**や8月の県トップアスリートにも招集された**天野優**がチームの中心。早く新チームとして始動した利点を生かし、まずは確実に2勝して王者・常葉学園に挑みたい。

その他、県総体で惜しくもベスト8を逃した**市立沼津**や**沼津中央**、**飛龍**の東部勢も虎視眈々と県武道館進出を狙っている。

Shizuoka Prefecture High School Basketball

静岡県高校バスケットの現在地

プレイバック静岡・高校バスケ2014～2015

文：　中島　洋己（県協会広報委員長・浜松市立高校教諭）

現在、全国における静岡県高校バスケが『どのようなレベルにあるのか』を理解するために、昨年のウインターカップから東海国体までの、静岡県勢の東海・全国での戦いを振り返ってみたい。**【D-Sports Shizuoka vol.8掲載】**

（平成27年9月末現在）

【ウインターカップ県予選】　平成26年11月　　静岡県武道館

県高校バスケの頂点を決める大会は、男女とも県総体の決勝リーグでしのぎを削った4チーム、男子・**藤枝明誠**、**飛龍**、**沼津中央**、**浜松学院**、女子・**常葉学園**、**駿河総合**、**浜松開誠館**、**浜松海の星**が準決勝に勝ち上がってきた。

女子準決勝・浜松開誠館－駿河総合は最後に**田中凛**（2年）のフリースローで駿河総合が逆転し辛くも決勝進出を決めたが、決勝で常葉学園に惜敗し全国を逃した。

男子は**角野亮伍・阿部駿太・宮越康槙・片山和哉・園田健太**らスーパースター軍団を擁した藤枝明誠が危なげなく連覇を達成。日本代表候補・角野が決勝でも40得点。角野のプレーを県内会場で見られる最後の大会ということで会場も大いに盛り上がった。

【ウインターカップ】　平成26年12月　　東京体育館

男子代表・**藤枝明誠**は3年前の準優勝チーム・**尽誠学園**（香川）相手に終始優位に試合を進めていたが、ディフェンスの乱れから第4Qで逆転を許しそのまま振り切られ、まさかの初戦敗退となった。

4年連続で女子県代表の**常葉学園**は初戦の**奈良文化**戦、エース**篠宮杏奈**が40得点を記録し快勝。2回戦では平均身長176cmと実業団チーム並みの**八雲学園**（東京）の高さに苦しみ敗退、大会2日目で県勢は姿を消した。

【県新人大会】　平成27年1月　　沼津市民体育館

男子はウインターカップ静岡県予選4強と同じ顔ぶれがベスト4に進出。常勝・**藤枝明誠**はレギュラーがごっそり引退し新チーム結成1ヶ月で仕上がりは不十分であった。優勝は静岡全中優勝メンバーを擁する**浜松学院**を振り切った**飛龍**が9年ぶりの優勝。スピードあふれるプレーを見せた**安部紘貴**（飛龍）のプレーは新たなスター誕生の予感をさせた。なお3位決定戦は藤枝明誠が勝利、東海新人出場を決めた試合が三**上淳**監督最後の采配となった。

女子は第4シード・**市立沼津**が2回戦で浜松学院に敗退、勢いに乗った**浜松学院**は準々決勝でも**藤枝順心**を破りベスト4進出。残念ながら東海新人出場は逃したが、女子にもオレンジ旋風を巻き起こした。優勝は2年連続で**常葉学園**。その常葉学園を決勝残り5分までリードし土俵際まで追い詰めた**浜松開誠館**、怒濤の攻撃に場内は大いに湧き上がった。

【東海新人大会】　平成27年2月　　浜松アリーナ

地元・浜松アリーナでの開催となった東海高校新人大会、男子・**飛龍**、**浜松学院**、**藤枝明誠**、女子・**常葉学園**、**駿河総合**、**浜松開誠館**が出場した。大会直前に藤枝明誠・三上淳監督が急逝するというショッキングなニュースが飛び込み、会場が悲しみに包まれた。**高木彰**監督代行が急遽指揮をとった藤枝明誠は喪章をつけて**中部大第一**（愛知）に挑んだが選手の気持ちが空回り、初戦敗退となった。浜松学院と浜松開誠館は共に2回戦で延長の末、**四日市工業**、**四日市商業**の三重県勢に惜敗したが、常葉学園と飛龍が激戦区・東海の中で見事3位に食い込んで静岡県の意地を見せた。

【県高校総体】　平成27年6月　　静岡市北部体育館

男子は前年度の県総体、ウインター、県新人4強同様、**飛龍**、**浜松学院**、**浜松学院**、そして就任したばかりの弱冠23歳・**江口里沙**監督率いる"新生"**藤枝明誠**が決勝リーグを戦った。3チームが2勝1敗で並ぶ近年希に見る大混戦となり、リーグ最終戦の藤枝明誠戦に惜しくも敗れた飛龍が該当チーム同士の得失点差により見事8年ぶり10回目の優勝を飾った。新生・藤枝明誠は得失点差で準優勝、10年連続の全国総体出場を決め、江口監督は県内初の「男子チームを率いて全国大会出場を果たした女性監督」となった。

女子は東海新人に出場した3チームに加え、2回戦で市立沼津、ブロック決勝で浜松海の星を下した**東海大静岡翔洋**が決勝リーグに進出。強豪を倒した若い力で決勝リーグを戦った。惜しくも3敗で全国・東海とも逃したが、これからに期待を抱かせる戦いぶりであった。結果は**常葉学園**が大会3連覇、**駿河総合**も準優勝で2年連続の全国大会出場を決めた。

【東海高校総体】　平成27年6月　　浜松アリーナ

東海新人同様、地元・浜松アリーナでの開催。男子・飛龍、沼津中央、藤枝明誠、女子・常葉学園、駿河総合、浜松開誠館

が出場した。男子は**沼津中央**が1回戦で**中部大第一**（愛知）に敗れ、**藤枝明誠**は1回戦・**美濃加茂**（岐阜）には108-48で快勝したものの優勝した**桜丘**（愛知）と2回戦で対戦、惜しくも敗れた。**飛龍**は2回戦で**富田**（岐阜）を14点差で破り中部大第一と準決勝で対戦、最後の最後までどちらが勝つかわからない展開となり、残り2分でエース・**安部紘貴**がファウルアウトし3点差で惜敗したが、3位決定戦では**県立岐阜商業**との接戦をものにして3位に食い込んだ。

女子は**浜松開誠館・駿河総合**が1回戦を突破したが、シードの**常葉学園**を含め3チームとも2回戦で愛知県・岐阜県勢に敗退、惜しくも上位入賞を逃した。

【全国高校総体】　平成27年8月　京都市　ハンナリーズアリーナ

京都市で行われた全国総体。男子・**飛龍**は初戦の**札幌工業**（北海道）戦を危なげなく乗り切ると、2回戦で新興勢力、今年創部3年目で北信越総体を征した**北陸学院**の攻撃をロースコアに封じ勝利。3回戦では**原田裕作**監督の母校・**福岡第一**と対戦、敗れはしたものの最後まで執念を見せ、まさに雑草軍団の意地を見せた。**藤枝明誠**は初戦で強豪・**北陸**（福井）と対戦、一時は1点差まで追い上げたが最後に力尽きた。

女子は**常葉学園**が初戦**高岡第一**（富山）、2回戦で東海総体3位の**四日市商業**（三重）に快勝、8強を狙った3回戦では**小林**（宮崎）と対戦。常葉の主力と小林の主力は3年前の埼玉全中準決勝で常葉学園中－五十川中として対戦し常葉が惜敗した因縁の相手。今回はリベンジを狙ったが小林にロケットダッシュされ55-69で返り討ちにあった。**駿河総合**は初戦から強豪・**山村学園**（埼玉）と対戦。不利の下馬評を覆し、司令塔・**浜辺詞織**（3年）が3Pを6本決めるなどオフェンスにリズムを見いだし2年連続の初戦突破。2回戦はエース・**オコエ桃仁花**を擁する**明星学園**（東京）の高さを生かした全員リバウンドの前に敗退した。ちなみに女子決勝は桜花学園－岐阜女子の東海対決。男子の準優勝も桜丘（愛知）で東海のレベルの高さが際立った大会でもあった。

【東海国体】　平成27年8月　岐阜メモリアルセンター

優勝チームのみが9月の**和歌山国体**への出場権をつかめる熾烈な戦い。**少年女子**は本国体へフルエントリーできるため、少年の部は男子のみ行われた。**静岡県少年男子**は新監督に**後藤正規**（浜松開誠館）を迎え、総体ベスト4のチームにベスト8の静岡学園から1名を加えた混成チーム。初戦・県立岐阜商業と岐阜農林を母体とした**岐阜県**に快勝して、決勝では全国総体準優勝の桜丘、ベスト8・中部大第一主体の**愛知県**に最後まで粘り強く追いすがったが惜しくも準優勝に終わり、10年ぶりに本国体出場を逃した。

静岡県高校バスケットの現在地
Shizuoka HighSchool Basketball
プレイバック静岡・高校バスケ 2014-2015

平成27年10月発売「D-Sports shizuoka」掲載　静岡県高校バスケの現在地

平成27年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望

文責・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己（浜松市立高校教諭）

静岡県高校バスケットボール新人大会は平成28年1月24日、県立磐田農業高校体育館他で開幕する。男女とも地区大会を勝ち抜いた31校と全国選抜大会に出場した沼津中央男子、常葉学園女子が出場し、30日に準々決勝、31日に準決勝、決勝、3位決定戦が**沼津市民体育館**で行われ、上位2校が2月13日,14日に岐阜市・**岐阜メモリアルセンター**で開催される**東海新人大会**への出場権を獲得する。なお、最終日1月31日には静岡県バスケットボール協会高校部優秀選手25名の表彰式も行われる。

男子

新人戦各地区大会覇者3校と年末の全国選抜大会に出場した**沼津中央**が優勝争いの中心となる。その沼津中央は全国選抜大会では近大付属に苦杯を喫したが、セネガル人留学生・2㍍のセンター・**サンブーアンドレ**（1年）によるゴール下の支配は他のチームを完全に圧倒している。そのサンブーをフォワード・**宮澤亮**（2年）、**藤原佑介**（2年）など周りの選手がうまく使いきれれば誰にも止められない攻撃力を発揮し、今大会でも優勝の大本命である。

西部覇者の**浜松学院**は昨年から下級生中心のチームだったが、主力がそのまま残り今大会14年ぶりの優勝も現実味を帯びてきた。
平成25年静岡全中優勝時の浜松学院中メンバーである、司令塔・**伊藤颯太**（2年）、中盤の**横川真那斗**（2年）、不動のセンターで今大会日本人選手最高身長191cmの**田中旭**（2年）を始め、香川全中3位の原動力となった**石川晴道**（1年）、そして昨秋の全国選抜大会県予選準々決勝で大観衆の中、ダンクショットを決めた**ダシルバヒサシ**（1年）など戦力の厚みは4強の中でもずば抜けている。チームが目指すディフェンスからの速攻が多く決まれば、他チームの追随を許さないであろう。

4強の一角・**藤枝明誠**も危なげない戦いで中部新人を制した。その中でもカギを握る選手はインサイドの**富田一成**（2年）。選抜大会県予選準決勝の沼津中央戦ではサンブーとマッチアップ。12cmの身長差によるミスマッチ気味のディフェンスながらもサンブーへのパスコースをふさぎ、敗れはしたものの高さに勝る留学生センター対策のお手本のようなプレーを見せてくれた。オフェンス面でもアウトサイドシュートの成功率が高く、**石井竜馬**（2年）や全中出場経験のある**照井龍次**（2年）、サンブー同様県内最高身長・2㍍の中国人留学生・**張新鋒**（1年）とともに総合的な高さで優るバスケットで勝負する。

東部覇者でディフェンディングチャンピオンの**飛龍**は地区予選から苦しい戦いを強いられてきた。エースでセンターを守る中国人留学生・**馮俊凱**（2年）を故障で欠く中、新主将の**山本留佳**（2年）を中心にゴール下を必至に守り、東部決勝では伊豆中央の猛追を振り切った。その中でもガードとしては大柄な178cm・**松下裕汰**（1年）は選抜大会県予選決勝でもシックスマンとして起用され、この地区大会でも持ち味を十分に発揮した。2番ポジションの**伊東潤司**（1年）、**廣岡耕平**（2年）など実績のある選手の経験値を武器に大会連覇に照準を合わせる。

この4強に挑むのが各地区準優勝チーム。

浜松開誠館は創部4年目を迎え、県大会では常にベスト8以上に名を連ねるチームとなった。ダブルエースの**二村響**（2年）・**神田諒成**（2年）を軸に東海新人出場、そして県制覇を狙う。
伊豆中央は戦力充実期。静岡全中出場経験のある**井村大我**（2年）、**鈴木敏哉**（2年）、**遠藤一真**（2年）などを中心に東部決勝では飛龍と5点差のゲーム、王者を土俵際まで追い詰めた。公立高校で練習時間等も限られた中で10年ぶりの東海新人出場を狙う。
中部新人準優勝の**城南静岡**は昨年に続き2度目の県新人出場で第7シードに入った。フレッシュな旋風を巻き起こすことが出来るか期待である。

その他、**新居**（西部3位）、**島田工業**（中部4位）、**三島北**（東部3位）など新興勢力が上位シードに食い込んで来ているのも今大会の特色である。

女子

女子は大会連覇中の**常葉学園**の安定感が抜群である。主力の3年生・篠宮、見崎、河合、柴などが抜けても下級生の層は厚く、優位は揺るぎない。昨年の和歌山国体メンバーで、特に中距離のシュート力に秀でる**高橋夏瑠**（2年）やガード陣の**伊東かおる**（2年）、**伊東ひかる**（2年）に加え河合に代わる大型センター 174cmの**野本陽香**（1年）や全国選抜大会県予選決勝でも出

場機会を得た**山下あい**（1年）など戦力も豊富である。今年も絶対王者に死角はないように思われる。

対抗は昨年の京都インターハイ出場チームで、今回も激戦の中部新人を制した駿河総合と、浜松開誠館の西部新人11連覇、そして地区大会22連覇を阻止して西部新人優勝を飾った浜松学院、そして惜しくもその浜松学院に西部新人決勝で敗れ西部2位となった浜松開誠館の3校が横一線で並ぶ。

駿河総合は司令塔・浜辺と大型ツインセンターの大串・池ヶ谷が抜けた穴を新たな司令塔・**西村茉優**（2年）や県内女子選手最高身長178cmの**加藤陽**（2年）、そして**長嶋アンソニー真弥**（1年）らで埋めるが、中部新人では優勝したものの準々決勝4点差、準決勝3点差、決勝はわずか1点差と薄氷を踏む戦いが続いた。経験も実績も十分あるチームなので、中部新人での課題を修正して県新人までにチームを仕上げて来るだろう。

浜松学院は昨年のこの大会で強豪チームを次々と破り準決勝進出。惜しくも初の東海新人出場を逃し4位に終わった雪辱を期し、堂々西部1位で今大会に臨む。司令塔・**加藤百夏**（2年）が絶妙なボールハンドリングからのパスワークでボールをつなぎ、中盤の**添田南葉**（2年）、そして長身センター陣173cm**添田涼葉**（1年）、174cm**新村茉亜子**（1年）、175cm**古野実希**（2年）が得点源となる。短い時間で大量得点を取れる爆発的な破壊力を誇るチームなだけに、今年こそ東海新人出場、そして平成元年度の西遠女子学園以来26年ぶりの西部地区女子チームの優勝を目指す。

西部新人決勝で浜松学院に惜敗した**浜松開誠館**も戦力的には前述の3チームに全くひけをとらない。昨年はこの大会の決勝で王者・常葉学園を残り5分までのリードをしていたが、あと一歩で初の県制覇を逃した。また選抜大会県予選決勝でも常葉学園と対戦し、敗れはしたが終盤に怒濤の追い上げを見せた。

昨年からの主力である司令塔**・陽本麻優**（1年）は和歌山国体での貴重な経験を生かし、勝負所でシュートを確実に決めるチームの得点源である。陽本を助ける攻守のポイントゲッターは**石田悠月**（1年）。華麗なドライブや3Pなどを持ち味に高い得点能力を誇る。

中盤の**栗田真生**（2年）や**奈須希咲**（1年）は試合経験こそ浅いが実戦向きで試合ごとに成長の跡を見せている。インサイドを任されている173cm・**樋口栞帆**（2年）は陽本と共に昨年からの主力でスピードあふれるセンターとしてコートを駆け巡る。チームの信条である「粘り強いディフェンス」で東海新人出場はもちろん、一気に初優勝を狙う。

東部新人を制した**市立沼津**はチームを牽引する主将・**小野愛加里**（2年）とシューター・**武藤誉敬**（2年）の出来がカギを握る。2人とも中学時に都道府県対抗Jr.にも出場経験あり、大試合の場数も多く踏んでいる。まずは3年ぶりの県新人4強を確実にしたい。そのためには準々決勝で対戦が予想される東海大静岡翔洋との試合が正念場となるだろう。

また、不利な体勢からも確実にシュートを決めていくエース・**濱本希代加**、センター・**西村紗那**を擁する**東海大静岡翔洋**も中部新人決勝で駿河総合相手に1点差で初優勝を逃したが、雪辱を期して今大会に臨む。

その他、エース・**山藤歩**が得点源となる**藤枝順心**、チーム一丸のバスケで西部新人3位を勝ち取った**浜松市立**、東部新人準優勝の**沼津中央**なども虎視眈々と東海新人出場を狙っている。

平成28年度全国高校総体静岡県予選バスケットボール競技 大会展望

文・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己　（静岡県立科学技術高校教諭）

平成28年度全国高校総体静岡県予選は5月21日、駿河総合高校体育館他で開幕する。男女とも地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、4ブロックに分かれたトーナメントのあと各ブロック1位校による決勝リーグが5月28日、6月4日に**焼津市総合体育館（焼津シーガルドーム）**で行われる。男女とも上位2校が7月31日に広島市・**広島サンプラザホール**他で開幕する**全国高校総体（インターハイ）**へ、上位3校が6月11日、12日に岐阜市・**岐阜メモリアルセンター**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。

男子

ここ3年間、常に飛龍、沼津中央、藤枝明誠、浜松学院が県4強の座を堅持し、県3大大会では優勝を飛龍3回、沼津中央1回、浜松学院1回、藤枝明誠4回と互角に分け合ってきた。今年もこの4強時代が続く中で、優勝候補の本命として、県新人優勝、東海新人3位、そして圧倒的な強さで県総体西部地区予選も制した**浜松学院**を推したい。

浜松学院中時代、平成25年の静岡全中優勝や翌26年の香川全中3位を経験したメンバーが主力となり、まさに戦力充実期にある。抜群のリーダーシップでチームを引っ張る**伊藤颯太**（3年）、インサイドでもアウトサイドからでも得点を重ねられるオールラウンドプレイヤー**・田中旭**（3年）、確実性のある3Pでチームの士気を高める**横川真那斗**（3年）、リバウンド、ルーズボールなどの泥臭いプレーをひたむきにこなす**横山寛太**（3年）、驚異的な跳躍力で時にダンクショットを繰り出す**ダシルバヒサシ**（2年）、下級生ながら東海新人3試合すべてにスタメン出場した**石川晴道**（2年）など戦力はタレント揃い。個の力からチームの力へ有機的に機能できれば3年ぶりの全国総体出場はもちろん、前身の興誠高校時代の平成10年以来18年ぶり11回目、そして浜松学院として初めての県総体優勝も見えてくる。

対抗としては東部予選覇者の飛龍、中部予選覇者の藤枝明誠、そして東海新人準決勝で浜松学院にも快勝した沼津中央。**飛龍**は県新人決勝で浜松学院に敗れたが、県総体東部予選決勝で同地区永遠のライバル、沼津中央を破り東部を制した。1年時からインサイドを守る中国人留学生・195cmの**馮俊凱**（3年）を中心にロングシュートを得意とする**廣岡耕平**（3年）や得点源・**伊東潤司**（2年）など高い得点力を誇る。さらに東部予選決勝で途中出場した**関屋心**（1年）が予想以上に得点に絡むいい働きをしチームに勢いをつけた。ただ昨年から出場機会を得ていた**松下裕汰**（2年）の怪我の復調具合が気がかりではある。

その飛龍に東部予選で惜敗した**沼津中央**は県内最高身長2㍍のセネガル人留学生・**サンブー・アンドレ**（2年）を生かしたインサイドプレーを軸に得点を重ねていくのが特徴。しかしながら相手チームによる研究も進み、執拗なマークに時折いらだちを見せることもあり、周りがどれだけサンブーを助けられるかが勝敗の鍵を握ってくる。サンブーにマークが集中している隙にインサイドから**山田陸**（3年）、アウトサイドから**鈴木翔**（3年）、**宮澤亮**（3年）が得点チャンスを増やしていけば相手を一気に突き放すだけの破壊力を持つチームである。攻守に堅実な働きをするキャプテン・**藤原佑介**（3年）のいぶし銀な働きにも注目したい。

中部予選覇者の**藤枝明誠**はこの4月に指揮官が交代、新しい体制でスタートを切った。司令塔として切れ味のある突破力を誇る**森大空**（3年）が落ち着いてボールを運び、**富田一成**（3年）、**石井竜馬**（3年）、**南サーマン**（3年）、**張新鋒**（2年）など身長190cm級のセンター陣が鍛えられたフィジカルでゴール下を支配し得点を奪う。スタメンの平均身長では4強の中でも随一で、さらには地区予選では出場機会のなかった192cmインド人留学生**アダルシュ・ジャヤクマール**（1年）の出場も考えられるだけに、平成18年以来10年間続く全国総体出場の記録をさらに伸ばす可能性は十分ある。また他県出身選手が多い中、県内出身選手である**照井龍次**（3年）、**冨永涼介**（3年）、**高木卓也**（2年）らのプレーにも注目が集まる。

この4強の牙城に挑むのが浜松開誠館と伊豆中央。

浜松開誠館は創部以来常に県8強をキープ、3年前の平成25年には東海総体出場の実績もある。「フィジカルバスケ」をチームの信条とし、3月の強化遠征県選抜選手にも選ばれた**二村響**（3年）と広い視野を持ち、シュートエリアから放たれるボールの軌跡が魅力的な**神田諒成**（3年）の活躍で、まずは決勝リーグ出場を狙う。そのためにはブロック決勝で予想される沼津中央への「高さ対策」がカギとなる。

伊豆中央は修善寺中出身で静岡全中出場にも出場した**井村大我**（3年）、**鈴木敏哉**（3年）、**遠藤一真**（3年）に加え、県選抜選手の**山本貴斗**（3年）の成長も著しく、浜松開誠館同様4強に迫れる可能性のある数少ないチームである。東海総体に出場した平成19年以来の決勝リーグ進出を果たすことが出来るか、県新人8強の三島北とともに公立高校の意地に期待したい。

その他、前出の三**島北**、中部予選準優勝の**静岡学園**、爆発的な突破力が魅力のWエース・**大塩智寛**（3年）、**池谷駿佑**（3年）を擁する**城南静岡**、そして西部予選3位の古豪・**浜松西**も上位進出、そして東海総体出場を虎視眈々と狙っている。

女子

ここ数年、女王・常葉学園の独走状態が続いていたが、その常葉学園が県新人準々決勝で敗退、優勝は西部の浜松学院が勝ち取った。しかしその浜松学院もこの西部予選決勝で浜松開誠館に惜敗。この県総体は上記の3チームに、中部予選準優勝の駿河総合、東部予選覇者の市立沼津を含めた5チームの大混戦が予想される。

浜松学院は、西部新人および県新人決勝で浜松開誠館に連勝し、西部地区として26年ぶりの県新人優勝を勝ち取った。台湾遠征県選抜主将も務めたチームの大黒柱、175cm**古野実希**（3年）、同じく県選抜選手、県新人決勝で3P6本を含む27得点を記録し優勝の原動力となった**添田南葉**（3年）、絶妙のパスワークで相手のディフェンスを幻惑する**加藤百夏**（3年）に加え、インサイドを古野とともに、173cm**添田涼葉**（2年）、174cm**新村茉亜子**（2年）が固める。高さと突破力では他の追随を許さないだけに、まずはその多彩なオフェンスでリズムをしっかり作り気持ちよくディフェンスにつなげていければ初の全国総体出場、そして県総体優勝も視界に入ってくる。

浜松開誠館は県新人準々決勝で3年間県内無敗を誇ってきた常葉学園に勝利、決勝で浜松学院に敗れ惜しくも準優勝となったが、県総体西部予選決勝で浜松学院に雪辱、西部予選14連覇を達成した。総合力では先述5チームの中ではNo.1と言っても過言ではない。どんなポジション、どんな体勢からも確実なシュートを放つ司令塔・**陽本麻優**（3年）、高い得点能力に加えリバウンドにも能力を発揮する**石田悠月**（2年）、常葉戦で1Q3本の3Pを決めるなど空中戦も得意とする**栗田真生**（3年）、スピードあふれる動きでゴール下から得点を重ねる**樋口栞帆**（2年）などがチームを支える。ずば抜けた選手はいないが、チーム一丸となり努力と執念でボールを追い続け、8年ぶりの全国総体出場を初の県総体優勝で果たすことができるか、注目である。

東部予選覇者・**市立沼津**は県新人3位決定戦で延長の末、駿河総合に勝利、東海新人切符を勝ち取り、3年ぶりに出場した東海新人でも初戦で県立岐阜商業を破り東海大会勝利を飾った。東部予選も危なげなく勝ちあがり、県総体に向け仕上がりは順調である。チームを牽引する主将・**小野愛加里**（3年）を始め、台湾遠征にも参加した**武藤誉敬**（3年）、**市川千風**（3年）など非凡な選手を多く擁する。バスケットの基本であるディフェンスとリバウンドを徹底し、全国ベスト8に入った平成25年以来の全国総体出場・県総体優勝を目指す。

中部予選準優勝の**駿河総合**は3年連続の全国総体出場、そして初の県総体制覇を目指す。ドライブの切れ味抜群の**西村茉優**（3年）、大怪我から復帰してチームの原動力となっている**青島沙季**（3年）、ボディバランスも良く高いバスケIQを持つ**長嶋アンソニー真弥**（2年）、非凡なシュートセンスが魅力の**小山内パメラウーゴ**（2年）など戦力も多彩である。このチームの鍵はゴール下を守る、県内最高身長178cmセンター・**加藤陽**（3年）の出来次第である。リバウンドに入る際の初動スピード、スクリーンアウトでのゴール下の支配位置などさすがに県選抜選手とうならせる技術を持ちながら、中部予選決勝の常葉学園戦では従来の持ち味を十分に発揮できなかった。常葉学園とは順調に勝ち進めばブロック決勝での再戦が予想されるだけに、高さを生かした加藤のプレーがうまく機能すれば駿河総合の勝機も十分にある。

県総体連覇中の**常葉学園**は県新人準々決勝で浜松開誠館に惜敗、東海新人出場を逃したが、県総体中部予選決勝で駿河総合に快勝、持ち前の強さを発揮した。篠宮、見崎、河合、柴らの主力が抜けたが、ここ1年で劇的にシュート成功率が上がりチームの得点源となっている**高橋夏瑠**（3年）、アウトサイドシュートに非凡なポテンシャルを感じさせる**伊東かおる**（3年）、キャプテンに就任し、チームの精神的支柱となっている**伊東ひかる**（3年）、そしてゴール下には公式戦や台湾遠征などで経験を積んだ**野本陽香**（2年）を擁し、さらには**山下あい**（2年）も徐々にプレイングタイムを増やしチームプレイに貢献し始めた。まずはブロック決勝で予想される駿河総合との再戦を勝利し、6年連続22回目の全国総体出場、そして県総体3連覇に弾みをつけたい。

上記の5強に迫るチームとして、中部予選3位決定戦で延長戦の激闘を演じた、**東海大静岡翔洋**を挙げたい。その3位決定戦は延長戦でエース・**濱本希代加**（3年）が得意の3Pを決め勝利を勝ち取った。濱本はここぞという時のシュートへ持ち込む判断力は天才的なものがある。台湾遠征にも選ばれた173cmセンター・**西村紗那**（3年）、西村を助けチームを鼓舞する・**平田萌香**（3年）、西村とともにインサイドを任されている**石川彩美**（3年）、怪我から復帰し持ち前の高い得点能力でチームに勝利を呼び寄せる**糟屋栞里**（2年）などチームが勢いに乗った時の強さは他チームも警戒するところ。昨年のこの大会は上位チームを次々倒し、見事初の決勝リーグ出場を果たした。結果的には3敗に終わったが、その時の経験が現在の翔洋を支えている。まずは2年連続の決勝リーグ出場を目指す。

このほか、エース・**山藤歩**（3年）に加え、中学時代に全中出場経験を持つ1年生が多く加わった**藤枝順心**、東部予選準決勝で沼津中央に勝利し初の東部2位での出場、躍動感あふれる司令塔・**菅原未聖**（3年）や力強い面取りからシュートを確実に決める**達川弥澪**（3年）を擁する**飛龍**、西部3位・**袴田佳奈美**（3年）、**宮澤しなの**（2年）などセンスあふれる選手を多く抱える**西遠女子**などにも注目したい。さらには今大会男女通じて唯一の初出場校となる**富岳館**が初勝利をつかめるか、こちらも楽しみである。

ウインターカップ2016静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第47回全国高校選抜優勝大会（ウインターカップ2016）静岡県予選が平成28年10月22日に県内高校体育館で開幕する。11月13日に**静岡県武道館**で行われる男女決勝戦の勝者が12月23日に**東京体育館**で開幕する全国大会への出場権を獲得する。

男子

ここ数年、4強と呼ばれた沼津中央、浜松学院、藤枝明誠、飛龍がハイレベルな横一線の戦いを繰り広げてきたが、インターハイ県予選を見る限り沼津中央と浜松学院が大きく抜け出したように思われる。今大会もこの2校を中心とした熾烈な優勝争いが繰り広げられるのは必至である。

インターハイ県予選優勝の**沼津中央**は**サンブー・アンドレ**、**山田陸**の高さを生かしたインサイドプレーを軸に内外にバランスのとれたオフェンスのバスケットを展開する。県内最高身長202cmのサンブーは持ち味のダンクやアリウープにも磨きがかかり、まさに攻撃の要である。その反面、執拗なプレスやファウルで集中力を欠くこともしばしば見受けられた。チームの勝利のカギを握るプレーヤーだけに常に冷静な判断をし、周りが彼をフォローしていくことが出来るかが見どころである。主将の**藤原佑介**は得意のディフェンスから走る展開へとつなげるバスケットが魅力。サンブーとともにインサイドの柱となる山田は右足の怪我の回復が心配されたが全国総体や東海国体ではそれが杞憂となるほどのハツラツとしたプレーを見せてくれた。

この3人に加え、苦しい展開の中でも度胸よく放たれる**鈴木翔**の3Pが確実に決まり、さらに中盤の**宮澤亮**がゴール下のサンブーにつなげる場面が多く見られる沼津中央本来のバスケットが出来れば、2年連続の県予選優勝、ウインターカップ出場も現実味を帯びてくる。

浜松学院は走り続けるバスケットが信条。広島インターハイでは1,2回戦は相手を全く寄せ付けない圧勝。3回戦では外国人留学生を2人抱える新潟の新興勢力、優勝候補の一角にも挙げられた開志国際に延長の末惜敗したが、全国トップレベルの実力を見せた。

191cm、日本人最高身長のセンター・**田中旭**は外国人留学生や相手ビッグマンの高さに十分な対応が出来ず辛酸を舐めた日々もあったが、フィジカルだけでなくメンタルの強化にも努めプレーに余裕が出てきた。さらにはアウトサイドからの得点パターンも確立し、攻撃にも幅が出た。

ガード陣は**伊藤颯太**と**石川晴道**のツーガード。主将の伊藤は試合中もキャプテンシーを十分に発揮、相手のカードに密着し攻撃を遅らせパスミスなどターンオーバーを誘発させるプレーを得意とする。石川は攻撃的なポイントガードでシュートフェイクからのノールックパスはまさに超美技。自身もアウトサイドから積極的に得点を狙う。

シューターの**横川真那斗**は「天下の宝刀」3Pが冴えわたり、インターハイの豊浦戦でも6本成功、外だけでなくドライブでも好機を演出するマルチプレーヤーである。昨年の県予選でダンクシュートを放ち観客を沸かせた**ダシルバヒサシ**は春先に痛めた右足が心配されるが、高いポテンシャルを持ちチームを勝利に導く原動力となるであろう。**横山寛太**のように球際の泥臭いプレーに精進する選手もいるだけに、チームが豊浦戦で見せた相手に吸い付くような厳しいマンツーマンディフェンスでリズムに乗りきれれば15年ぶり、そして現校名・浜松学院となって初めての県予選優勝が見えてくる。

対抗馬となるのが、県総体決勝リーグで2強としのぎを削った藤枝明誠と飛龍。

藤枝明誠は決勝リーグ最終戦で飛龍に競り勝ち東海総体最後の切符を手にした一方で、インターハイの連続出場が10年で途切れた。今大会は雪辱を期して臨むであろう。4月に都内の中学指導で全国的な実績を残した**阿部桂**氏を新監督に迎え、秋までには監督の戦術がチームに浸透するはずである。

チームの中心・**富田一成**は力強さと手先の器用さを生かしたプレーだけでなく、アウトサイドから得点を重ねチームに勢いを与えるプレーヤーである。司令塔の**森大空**はスピードが持ち味で当たり負けしないフィジカルを誇る。200cmの中国人留学生・**張新鋒**、190cm級の**冨永涼介**、**照井龍次**、**南サーマン**、**石井竜馬**などセンター陣の高さにおいては県下随一である。順調にいけば準決勝で予想される浜松学院との戦いが2年ぶりの賜杯奪還に向けて大きなカギとなる。

10年ぶりの優勝を狙う**飛龍**は万難を排してこの大会に臨む。県総体は沼津中央、藤枝明誠に惜敗し4位、3年ぶりにインターハイを逃してしまった。それでも戦力的には他3チームと比べ勝るとも劣らないものを持っている。

スコアラーの**廣岡耕平**は華麗なシュートフォームからリングに吸い込まれるような軌道を描く3Pを得意とする「アウトサイドの魔術師」である。ただ入らないとそのままカウンターで失点を許してしまうこともあり、195cmの中国人留学生・**馮俊凱**のリバウンド支配が生命線となる。その馮はゴール下での強さを発揮し、裏パスをも器用にこなすテクニシャンである。

主将の**山本留佳**は常にポジティブ思考で個性派軍団をまとめ上げチーム力の底上げに貢献している。下級生にも国体県選抜

選手・**松下裕汰**や1年生の**関屋心**など有望選手を多く抱えるチームだけに、夏からの上積みを今大会で発揮し、準備と努力は裏切らないことを証明したい。

この4チームを追うのは**浜松開誠館**。ここ3年県内大会ではすべてベスト8以上。しかしながら4強入りは平成25年の県総体3位以来果たせていない。今年の県総体ブロック決勝では沼津中央に肉薄、王者を土俵際あと一歩のところまで追いつめた。
国体選手の**二村響**、**神田誠仁**、そしてチームを支える大黒柱・**神田諒成**など戦力も充実しており、4強の牙城を崩すのはもはやこのチームしかないだろう。創部5年目の若いチームは一気にウインターカップ初出場を狙う台風の目である。言うまでもなく、準々決勝での対戦が予想される浜松学院との戦いが運命を大きく左右する。1点を争う白熱した好ゲームになること間違いない。

ここ2年間県内大会すべてベスト8をキープしてきた**伊豆中央**や県新人、県総体ベスト8・**三島北**の公立勢は主力の3年生が引退し苦しい戦いが予想されるが、夏のトップアスリート事業にも選ばれた**渡辺寛人**、**井村飛美希**（伊豆中央）や**菊澤裕**（三島北）などを中心に新メンバーでどこまで戦えるか注目したい。また同じく県総体ベスト8の**浜松西**は**刑部克輝**、**玉木健太郎**の成長が著しく、今大会でのさらなる躍進が期待される。

女子

現在常葉学園が5連覇中ではあるが、まさに「群雄割拠」の言葉がふさわしい静岡県高校女子。近年まれに見る大混戦が予想される。

その中でも優勝の大本命は県総体で優勝、創部54年目にして初の県制覇を成し遂げた**浜松開誠館**。県新人、県総体で女王・常葉学園に連勝、鍛え上げられた脚力をベースにした厳しく激しい粘りのディフェンスからの速攻が持ち味のチームで得意のロースコアゲームに持ち込み勝ち続けてきた。
司令塔でエースの**陽本麻優**は1on1のディフェンスに絶対の自信を持つ。攻撃では相手ディフェンスにマッチアップされながらも度胸あるシュートを放ち、安定したプレーでチームを牽引、県総体優勝の原動力となった。ドライブで高い得点力を持つ**石田悠月**、167cmながら誰よりも粘り強いリバウンドを見せ、3Pも得意とする**栗田真生**、フィジカルを強化し果敢なブロックショットでゴール下を死守する174cmセンター・**樋口栞帆**、不断の努力で大怪我から復帰し今大会に照準を合わせる**奈須希咲**、そして1年生ながら東海国体にも出場した**石牧葵**など多彩な戦力による全員バスケで初優勝、そして28年ぶりのウインターカップ出場を狙う。西部地区に昭和61年度の浜松市立以来、30年ぶりの優勝をもたらすことが出来るかも楽しみである。

対抗の1番手は県総体準優勝の**市立沼津**。決勝リーグでは常葉の猛追を振り切り、3年ぶりのインターハイ出場を決めた。高さがない分、オールコートマンツーでプレッシャーをかけ相手のミスを誘うなど巧みなバスケットが魅力。インターハイ2回戦では関東王者・八雲学園の高さに屈したが、エース・**武藤誉敬**が24得点。168cmと全国的に見れば長身とは言い難いが粘り強くリバウンド、ルーズボールを拾う献身的なプレーを随所に見せる。
シューターである**梅田真紘**は外角からの3Pを得意とし、八雲戦でもロングシュートを確実に決め相手に食い下がった。中盤の**市川千風**はインターハイ1回戦の近江兄弟社（滋賀）戦で20得点を挙げるなど得点源となる選手。またチームの支柱である**小野愛加里**は抜群のディフェンス力、リバウンド力を誇り、守りからリズムを作っていくユーティリティープレーヤーである。県選抜に選ばれた**遠藤真帆**のように下級生にも非凡な選手を抱える恵まれた戦力の中で、相手ディフェンスが整う前に崩すブレイクと常に動き続けるパスアンドラン、そして時折絶妙なタイミングで見せる効果的なゾーンディフェンスが有機的に機能すれば、6年ぶりの優勝の可能性も十分ある。

インターハイに出場した2チームを追うのは現在2度目の5連覇中、男女通じて大会史上初の6連覇を狙う**常葉学園**。県新人は浜松開誠館、県総体では開誠館と市立沼津に敗れ、優勝と全国大会には届かなかったが持ち前の堅いディフェンスと鍛え上げられた脚力・集中力を武器に優勝を狙う。
エース・**高橋夏瑠**は不断の練習でシュートの成功率が劇的に上昇してきた。昨年この大会で驚くべきリバウンド力を見せた**野本陽香**は国体や台湾遠征などで経験値を積み重ね立派な攻撃の軸として成長した。シューティングガードの**伊東かおる**も野本同様経験を積み、高いポテンシャルを実践で発揮できるようになった。主将の**伊東ひかる**、中盤の**造酒祐香**など自身の役割をきちんと理解しそれを仲間に伝えコート上で発揮できる力を持つ選手も多い。
県新人、県総体とここまで西部勢の後塵を拝してきたが、終わってみれば今大会覇者も女王・常葉、ということも考えられる。女王の意地に期待したい。**山下あい**、**北村音緒**など下級生にも優秀な人材が多いことがこのチームの伝統的な層の厚さを物語っている。

東海総体に出場した上記3チームに続き、県総体4位の藤枝順心、ブロック決勝で惜しくも常葉学園に破れた駿河総合、そして県新人覇者の浜松学院が横一線に並ぶ。

中部4位で臨んだ県総体ブロック決勝で県新人優勝の浜松学院を番狂わせの勝利で破り、初の決勝リーグ進出を果たした**藤枝順心**は主力だった3年生が引退、1,2年生のみの新体制で臨むが戦力は全く落ちていない。

司令塔の**杉本ちひろ**は1on1で相手を抜く技術にたけ、アウトサイドシュートの成功率も高い。簡単にシュートを打たせないディフェンス力も評価され東海国体のメンバーに選出された。1年生には**駒形伊恭**、**柴田珠り亜**、**滝澤有希**、**山藤うららな**ど藤枝順心中学時代に岩手全中出場を果たした選手が多く、伸びしろがあり成長がとても楽しみなチームである。この夏の練習の成果を十分に発揮し、まずは地元藤枝市・県武道館で開催される準決勝、初のメインコートを目標にその先の決勝、そして優勝をも狙う。

駿河総合は県総体ブロック決勝、残り30秒で常葉学園に逆転を許し3年連続のインターハイ出場を逃した。粘りのディフェンスと多彩なオフェンスをモットーとし、高さが魅力のチームである。登録選手の平均身長は県内一の167.6cm。2位の常葉学園164cmを大きく上回る。

176cmの**寺尾友里**、174cmの**小山内パメラウーゴ**、172cmの**長嶋アンソニー真弥**など長身選手は数え上げればきりがないが、その中でも県内最高身長178cmの**加藤陽**は恵まれた体格を生かした迫力あるプレーが魅力で、東海国体では静岡県少年女子の砦としてゴール下を任され強豪・愛知、岐阜とも互角に渡り合った。加えて攻撃力にも優れ、鍛え上げたジャンプ力を利してのリバウンドショットで何度もチームの危機を救ってきた。1年の春からスターターとしてチームを引っ張ってきた司令塔の**西村茉優**とともに、悲願の初優勝はこの2人の頑張りに懸かっていると言っても過言ではない。準々決勝での対戦が予想される市立沼津との戦いは大会屈指の好カードである。

県新人で初優勝し、総体、選抜、新人を通じて西部地区に26年ぶりの優勝をもたらした**浜松学院**は優勝候補に挙げられた県総体のブロック決勝で藤枝順心にまさかの敗戦、全国大会初出場を逃した。ウインター県予選は過去2年連続で準々決勝敗退しているだけに県新人時の勢いを取り戻し一気に県制覇に持ち込みたい。

台湾遠征でも県選抜主将を務めた**古野実希**はスピードあふれるプレーが特色。**添田南葉**は優勝した県新人の決勝・浜松開誠館戦で第2Q10分間で4本の3Pを決めるなど躊躇しないシュートセレクションで味方の士気を鼓舞する。また司令塔の**加藤百夏**は華麗なパスワークと勝負強いドライブでチームに勝利をもたらす。インサイドには173cmの古野と172cmの**添田涼葉**が待ち構える。準々決勝で対戦が予想される浜松開誠館とは今季2勝1敗と勝ち越している。総体王者を倒して一気に全国まで駆け上がり県勢初の男女アベックウインターカップ出場を果たせるか、注目したい。

そのほか、県総体ベスト8、的確な状況判断で緻密なゲームメークが出来る経験豊富な司令塔・**濱本希代加**を擁し、次世代のエース・**糟谷栞里**も着実に育ってきた**東海大静岡翔洋**、この大会一昨年ベスト4、昨年ベスト8と安定した成績を収め、台湾遠征メンバーにも選ばれた**飯島桜**や軽快なフットワークを誇る**松原明日香**を中心とした新チームで臨む**浜松海の星**、そして**宮澤しなの**、**石橋由衣**など中学時代に東海中学総体出場経験を持つ技巧派選手が揃う**西遠女子学園**もまずは確実に聖地・県武道館への出場切符獲得を目指す。

【参考資料】全国高校総合体育大会（インターハイ）静岡県予選

年度	全国開催県	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
H26	千葉	藤枝明誠	飛龍	沼津中央	浜松学院	常葉学園	駿河総合	浜松開誠館	浜松海の星
H27	京都	飛龍	藤枝明誠	沼津中央	浜松学院	常葉学園	駿河総合	浜松開誠館	東海大翔洋
H28	広島	沼津中央	浜松学院	藤枝明誠	飛龍	浜松開誠館	市立沼津	常葉学園	藤枝順心
H29	福島	飛龍	浜松学院	藤枝明誠	浜松開誠館	浜松開誠館	東海大翔洋	市立沼津	常葉大常葉
H30	愛知	飛龍	藤枝明誠	浜松開誠館	浜松学院	浜松開誠館	常葉大常葉	駿河総合	市立沼津
R元	鹿児島	飛龍	藤枝明誠	静岡学園	浜松学院	浜松開誠館	常葉大常葉	島田	静岡西
R2	石川	新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止							
R3	新潟	飛龍	浜松開誠館	沼津中央	静岡学園	浜松開誠館	常葉大常葉	市立沼津	浜松学院
R4	香川	藤枝明誠	浜松開誠館	飛龍	浜松商業	浜松開誠館	浜松学院	市立沼津	東海大翔洋
R5	北海道	藤枝明誠	浜松開誠館	浜松学院	飛龍	浜松開誠館	市立沼津	浜松聖星	浜松学院
R6	福岡	藤枝明誠	沼津中央	浜松開誠館	飛龍	浜松開誠館	市立沼津	東海大翔洋	浜松学院
R7	岡山								

ウインターカップ　静岡県予選

年度	全国開催場所	男子				女子		
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位（順不同）
		全国高等学校選抜優勝大会（ウインターカップ）静岡県予選						
H26	東京	藤枝明誠	沼津中央	飛龍 / 浜松学院		常葉学園	駿河総合	浜松開誠館 / 浜松海の星
H27	東京	沼津中央	飛龍	藤枝明誠 / 浜松学院		常葉学園	浜松開誠館	駿河総合 / 沼津中央
H28	東京	浜松学院	沼津中央	飛龍 / 藤枝明誠		浜松開誠館	駿河総合	常葉学園 / 沼津中央
		全国高等学校選手権大会（ウインターカップ）静岡県予選						
H29	東京	飛龍	藤枝明誠	浜松学院 / 浜松開誠館		浜松開誠館	市立沼津	常葉大常葉 / 藤枝順心
H30	武蔵野の森	飛龍	浜松開誠館	浜松学院 / 藤枝明誠		浜松開誠館	駿河総合	常葉大常葉 / 藤枝順心
R元	武蔵野･八王子	藤枝明誠	飛龍	浜松学院 / 静岡学園		浜松開誠館	常葉大常葉	市立沼津 / 藤枝順心
R2	東京･武蔵野	飛龍	藤枝明誠	静岡学園 / 沼津中央		浜松開誠館	浜松市立	市立沼津 / 静岡西
R3	東京・駒沢	浜松開誠館	飛龍	藤枝明誠 / 浜松学院		浜松開誠館	常葉大常葉	市立沼津 / 浜松学院
R4	東京・大田区	藤枝明誠	浜松開誠館	飛龍 / 浜松学院		浜松開誠館	浜松学院	市立沼津 / 浜松南
R5	東京･武蔵野	藤枝明誠	浜松学院	飛龍	浜松開誠館	浜松開誠館	市立沼津	浜松聖星 / 浜松学院
R6	東京･武蔵野	藤枝明誠	浜松開誠館	沼津中央 / 飛龍		浜松開誠館	浜松南	市立沼津 / 沼津商業
R7	東京･武蔵野							

東海高校新人大会　静岡県予選

年度	東海大会開催場所	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
H26	浜松	飛龍	浜松学院	藤枝明誠	沼津中央	常葉学園	浜松開誠館	駿河総合	浜松学院
H27	岐阜	浜松学院	飛龍	沼津中央	藤枝明誠	浜松学院	浜松開誠館	市立沼津	駿河総合
H28	名張・伊賀	飛龍	浜松学院	浜松開誠館	藤枝明誠	浜松開誠館	駿河総合	常葉学園	浜松海の星
H29	小牧・一宮	飛龍	浜松開誠館	藤枝明誠	浜松学院	浜松開誠館	駿河総合	市立沼津	常葉大常葉
H30	静岡	藤枝明誠	飛龍	静岡学園	浜松開誠館	浜松開誠館	常葉大常葉	駿河総合	島田
R元	岐阜・大垣	飛龍	藤枝明誠	静岡学園	沼津中央	浜松開誠館	藤枝順心	浜松学院	静岡西
R2	中止(三重)	飛龍	浜松開誠館	藤枝明誠 / 浜松学院		浜松開誠館	常葉大常葉	浜松市立 / 藤枝順心	
R3	中止(愛知)	新型コロナウイルス感染症の影響で県新人大会開催中止（地区大会は実施）							
R4	袋井	藤枝明誠	浜松開誠館	飛龍	浜松学院	浜松開誠館	市立沼津	藤枝順心	浜松聖星
R5	岐阜・大垣	藤枝明誠	沼津中央	飛龍	浜松学院	浜松開誠館	市立沼津	浜松学院	東海大翔洋
R6	四日市	藤枝明誠	浜松開誠館	浜松学院	静岡商業	浜松開誠館	浜松南	市立沼津	東海大翔洋
R7	一宮								

プレイバック静岡・高校バスケ 2015～2016

文：　中島　洋己（県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

【ウインターカップ】　平成27年12月　　東京体育館

男子代表の**沼津中央**は初戦・**近大付属**（大阪）と対戦。開始早々から**サンブーアンドレ**がファウルトラブルでベンチに下がる劣勢を強いられる展開。その間8連続でシュートを決められ一時は最大31点差をつけられる。主将・**今村拓夢**のドライブも相手に警戒され得点源も封じられる中、最終Qに15点差まで追いすがるが逆転ならず、2年ぶりの出場を白星で飾れなかった。

女子代表の**常葉学園**は**作新学院**（栃木）と対戦。序盤**篠宮杏奈**、**河合夏海**、**高橋夏瑠**らの爆発的な攻撃で第1Q11点差、第2Qには最大17点までリードを広げたが、中盤以降インサイドの守りを厚くし常葉の攻撃を封じる作新学院の守りを攻めあぐみ、さらにゾーンアタックも十分に機能せず主導権を奪えないまま55-54、常葉1点リードで迎えた第4Q残り1.9秒、作新学院捨て身のシュートが鮮やかに決まり逆転。常葉にとって10年ぶりの初戦敗退、そして県勢男女とも同じく10年ぶりに大会初日で姿を消した。

【東海新人大会】　平成28年2月　　岐阜メモリアルセンター、ヒマラヤアリーナ

岐阜県開催となったこの大会、男子は浜松学院、飛龍、沼津中央、女子は浜松学院、浜松開誠館、市立沼津が出場した。**浜松学院**は初のアベック出場を果たした。男子は県新人3位の**沼津中央**が愛知2位の**桜丘**、岐阜1位・**美濃加茂**を連破、サンブーはこの2試合で59得点をたたき出した。準決勝、県新人覇者・浜松学院との静岡ダービーも征し一気に決勝まで進む。決勝戦ではウインター 4位の**中部大第一**に惜敗、5年ぶりの優勝を逃し7年間チームを率いた**杉村敏英**総監督の勇退を白星で飾れなかった。

女子は県王者の**浜松学院**と、準優勝の**浜松開誠館**がともに初戦で敗退、**市立沼津**は初戦・**県立岐阜商業**に快勝したが2回戦で大会10連覇中の**桜花学園**（愛知）の牙城を崩せず、上位進出は果たせなかった。

【東海高校総体】　平成28年6月　　岐阜メモリアルセンター

東海新人同様、岐阜県での開催となった東海総体。男子は**沼津中央**、**浜松学院**、そして決勝リーグで飛龍との接戦を制し11年連続の出場を決めた**藤枝明誠**、女子は**浜松開誠館**、**市立沼津**、そして惜しくもインターハイ出場を逃した**常葉学園**が出場した。男子・浜松学院は桜丘、美濃加茂に連勝、特に美濃加茂戦ではガードの**石川晴道**が攻撃の軸となり14得点、4アシスト。続く準決勝では4月の埼玉カップで敗れている中部大第一に返り討ちされたが、**四日市工業**との3位決定戦で**ダシルバヒサシ**が厳しいマークの中24得点、見事3位を勝ち取った。県王者・沼津中央は決勝まで危なげなく勝ち進み東海新人決勝で敗れた中部大第一と再戦、互いにトランジションの激しい展開となったが中部大第一が3Pシュートやドライブなど多彩な攻めを見せ沼津中央を一蹴。**宮澤亮**の健闘が光った一戦ではあったが攻撃の一角を担う**山田陸**の欠場が大きく響いた。

女子は市立沼津、常葉学園が2回戦で敗退、残る浜松開誠館は2回戦、愛知の強豪・**星城**に快勝したが準決勝で**桜花学園**に敗れ、3位決定戦では**いなべ総合学園**（三重）相手に最終Q**陽本麻優**、**栗田真生**を軸に3点差まで迫る怒涛の追い上げを見せたが力及ばず、惜しくも東海4位に終わった。

【全国高校総体】　平成28年7月～　　広島サンプラザホール、広島グリーンアリーナ他

4年前のウインターも開催された広島でのインターハイ。男子は**沼津中央**、**浜松学院**、女子は8年ぶり出場の**浜松開誠館**、そして**市立沼津**が出場した。

沼津中央は内外にバランスのとれた**育英**（兵庫）と対戦。サンブーの攻撃を育英のチームディフェンスに封じられる。終了間際、ストーリングで逃げ切りを図る相手にファウルゲームを仕掛け何とか勝機を見出そうとするが最後は2点差で逃げ切られ、まさかの初戦敗退となった。浜松学院は**法政大二**（神奈川）、**豊浦**（山口）を寄せ付けない圧勝。しかしながら3回戦・**開志国際**（新潟）戦では全国トップレベルを誇る高さに苦戦、センター・**ババガーナッシー**のインサイド封じに苦慮したが、第4Q残り4分石川の3Pで逆転。最後は同点に追いつかれたが猛追をしのぎ切り勝負は延長戦へ。逆転につぐ逆転、近年まれに見るシーソーゲームは相手エース・**西村一輝**のシュートが決勝点となり、91-94で19年ぶりの全国ベスト8進出を逃した。

女子は市立沼津、浜松開誠館ともに危なげなく初戦突破。続く2回戦、市立沼津は実業団並みの高さを誇る**八雲学園**（東京）と対戦。U17日本代表の180cm**奥山理々嘉**など長身選手相手にオールコートプレスを仕掛けたがインサイドを攻め切れず惜しくも敗退。浜松開誠館は**福島西**にまさかのスタートダッシュを許しその点差がそのまま最終スコアの差となり初の3回戦進出は果たせなかった。その中でも**石田悠月**が鋭いドライブを駆使し31得点。全国レベルのスキルを観衆に見せつけた。ちなみにこの大会も前年のウインターに続き女子決勝は桜花学園－岐阜女子の東海対決となり、改めて東海女子のレベルの高さが証明された。

【東海国体】　平成28年8月　　岡崎市中央体育館

10月の岩手国体出場権を賭けた東海国体が愛知県で開催された。今年は東海ブロックから各種別2枠の本国体出場権が与えられているため、東海4県総当たりリーグ戦で行われた。

少年男子は沼津中央、浜松学院、飛龍、浜松開誠館の選手で編成されたまさに「オール静岡」で臨んだ。沼津中央・サンブー、山田陸、**藤原佑介**、浜松学院・**横川真那斗**、ダシルバを中心に**三重県**、**岐阜県**を撃破、2年後にインターハイ開催を控え強化も進む愛知県との戦いは中部大第一、安城学園、桜丘の選手を中心としたまさに全国トップレベルの戦力を誇り苦戦が予想されたが、第3Qに逆転して最後は力の差を見せつけて完勝、見事全勝で3年ぶりの東海国体優勝を果たし岩手国体への切符を手

にした。

少年女子は東海地区にバスケ王国・愛知、岐阜の両巨頭がそびえたつ全国随一の激戦区。まさに「死のリーグ」と言える。浜松開誠館、市立沼津、常葉学園を中心としたこちらもオール静岡の布陣で臨んだが桜花学園を母体とする**愛知県**に敗れ、続く岐阜女子を母体とする**岐阜県**との戦いは前半10点差、第3Q終了時15点差と逆転圏内で試合は進んだが惜敗。最終戦・**三重県**には前半は劣勢のまま進んだが、後半一気に差を縮め猛追、第4Q残り1分52-57、5点差まで追いつめたがそのまま逃げ切られ厚い東海の壁を破ることは出来なかった。

【岩手国体】　平成28年10月　　奥州市総合体育館、一関市総合体育館他

岩手県で開催される国民体育大会。東海国体で全勝優勝した**少年男子**は2年ぶりの本国体出場。1回戦はインターハイ3位の**山形南**を母体とする**山形県**と対戦、勝てばインハイ優勝の**福岡第一**と**福岡大大濠**の連合チーム**・福岡県**との戦いが待っている。どの県との戦いも厳しい展開が予想されるが、この戦いをクリアすれば一気に優勝も現実味を帯びてくるだけに47年ぶりの優勝を目指し、県代表選手一丸となっての奮闘を期待する。

【参考資料】　日清食品　U18トップリーグ

年度	メイン会場	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
R４	代々木第二	福岡第一	福岡大大濠	中部大第一	東海大諏訪	桜花学園	京都精華学園	岐阜女子	大阪薫英女学院
R５	代々木第二	開志国際	東山	福岡第一	福岡大大濠	京都精華学園	桜花学園	岐阜女子	大阪薫英女学院
R６	代々木第二	福岡大大濠	美濃加茂	福岡第一	東山	京都精華学園	岐阜女子	桜花学園	慶誠
R７									
R８									

日清食品　U18東海ブロックリーグ

年度	東海大会開催県	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
R４	愛知	藤枝明誠	富田	桜丘	美濃加茂	浜松開誠館	名経大高蔵	名古屋女子大	浜松学院
R５	愛知・三重	高山西	美濃加茂	桜丘	四日市メリノール学院	星城	浜松開誠館	名経大高蔵	市立沼津
R６	東海４県	名古屋DU18	富田	中部大第一	高山西	星城	県岐阜商業	浜松開誠館	安城学園
R７									
R８									

平成28年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望

文：　中島　洋己
（静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

平成28年度**静岡県高校新人大会バスケットボール競技**が平成29年1月22日に藤枝順心高校体育館他で開幕する。**草薙このはなアリーナ**で28日に準々決勝、29日に準決勝、決勝、3位決定戦が行われ、男女3位までが2月11,12日に三重県**・県立夢ドームうえの**、**HOS名張アリーナ**で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。また1月29日には平成28年度県協会高校部優秀選手の表彰式も合わせて行われる。

今大会では先月のウインターカップ2016でも大活躍した浜松学院男子・ダシルバヒサシ、浜松開誠館女子・石田悠月というトップレベルのプレーヤーが全国の檜舞台を経験し県内に凱旋する大会となる。多くの熱い戦いを期待したい。

男子

優勝候補最右翼は昨年末ウインターカップで強豪・八王子学園八王子（東京）を破り見事全国16強となり、今大会でも連覇を狙う**浜松学院**。静岡全中優勝世代の田中、横川、伊藤ら3年生は引退したが、相変わらず層の厚い戦力を誇る。

チームを牽引する**ダシルバヒサシ**は内外角からの得点、特にドライブの破壊力が抜群。強靭なフィジカルを誇り、八王子戦でも2㍍超の留学生ドゥドゥ・ゲイとリバウンドを競り合い24得点、12リバウンドを記録、華麗なプレースタイルで見る者の心も魅了するスーパースターである。スコアラーの**石川晴道**はウインター県予選決勝・沼津中央戦でも3P4本を含む27得点、ウインター 2回戦の八王子戦でも最終Qで見事に逆転の3Pを決めチームに大金星をもたらした。敗れた3回戦・北陸学院（石川）戦でも終盤に連続得点し強豪相手に肉薄するなど勝負強いプレーヤーである。さらに、180㌢を超える長身で鍛え抜かれた脚力でランニングプレーが自慢の**亀山憧哉**、**小池玲史**などが持ち味の粘り強いディフェンスからの速攻を仕掛ける。長らく続いた4強時代から浜松学院独走時代に突入するのか試金石となる大会である。

浜松学院を追うのは各地区予選優勝チームの飛龍、藤枝明誠、浜松開誠館とウインター県予選準優勝の沼津中央が挙げられる。

飛龍は全員で攻めて全員で守る「全員バスケット」が特徴。エース・**松下裕汰**は鋭いドライブからの得点能力に長け、リバウンドにも積極的に参加するチームの柱である。昨年の岩手国体でも出場機会に恵まれ経験値の上積みをした。アウトサイドからの得点源・**伊東潤司**はウインター県予選準々決勝・静岡市立戦で3P9本を含む39得点、空いたスペースを見逃さず積極的に攻撃を展開するシューターである。**関屋心**は1on1に絶対の自信を持ち相手と駆け引きしながら試合をコントロール出来る選手で、東部新人決勝でもサンブー相手にドライブで切り込みシュートを決める場面も見受けられた。195㌢、期待の中国人留学生・**張述凱**も少しずつプレイングタイムが増えてきた。沼津中央戦で見せた圧倒的な強さから飛龍を打倒浜松学院の一番手に挙げたい。

中部新人覇者の**藤枝明誠**はチーム唯一の県内中学出身選手・**高木卓也**が主将となり、抜群のキャプテンシーでチームをまとめる。中部新人決勝・静岡学園戦でも17得点を奪い、さらにアシスト、リバウンド、巧みなディフェンスを見せるなどチームの大黒柱としてフル回転をした。決勝では2㍍のセンター・**張新鋒**との呼吸が十分に合わず、張の長身を生かしたゴール下のプレーを導けなかったが、持ち味のスピードあふれるドライブは相手の脅威となる。ガードの**中村和磨**は下級生ながらゲームコントロールがうまく3Pの成功率も高い。まずは去年逃した東海新人出場を目指し、その先にある3年ぶりの優勝を狙う。

浜松開誠館はここ4年間常に県大会ベスト8以上をキープしているが4強入りは平成25年度の県総体、県新人のみにとどまっている。西部新人覇者として出場するこの大会は4年前に逃した初の東海新人出場、そして県新人優勝への千載一遇のチャンスといえる。

松本うみ、**神田誠仁**、**田中勇樹**を中心とした鍛えられたフィジカルが特徴のチームで、特に神田は岩手国体の県選抜に唯一1年生として選ばれた逸材である。初戦の山形県戦では得点も決め、続く準々決勝・福岡県戦でも出場機会を与えられ貴重な実戦経験を積んだ。男子4強時代を打ち破るためにもまずは準々決勝で対戦が予想される強豪・沼津中央との戦いを制し、東海新人出場そして県制覇を狙う。この戦いは今大会屈指の好カードとして注目を集めることだろう。

ウインター県予選準優勝・**沼津中央**は東部新人決勝で飛龍に敗れたが、ゴール下の要である**サンブー・アンドレ**を擁し優勝候補の一角であることに間違いはない。

県内一の高さを誇り、類まれなる得点能力を持つサンブーだが、ウインター県予選決勝ではメンタル面の弱さを露呈してしまった。東部新人決勝でもファウルトラブルに苦しみ十分な力を発揮できなかったが、どんな状況下でも自分をコントロールしチームの大黒柱としての活躍が出来れば、チームを5年ぶりの優勝に導く可能性は十分ある。そしてサンブーにボールをつなぐ役割として**渡辺僚**のいぶし銀の働きも見逃せない。ウインター県予選決勝でもスティール、アシストなどつなぎのプレー

から自らゴールに切り込んで行くプレーなど八面六臂の活躍を見せたが途中でファウルアウト。最後の大切な場面でチームに貢献できなかった。彼の活躍が今後のチーム浮上のカギを握っている。

その他、中部新人準優勝の原動力となったエース・**石部歩希**を擁する**静岡学園**、**刑部克輝**、**斉藤駿祐**、**玉木健太郎**などポテンシャルの高い選手が揃う西部予選準優勝の浜松西、ウインター県予選ベスト8、東部新人も3位となった**加藤学園**、そして昨年のこの大会そして県総体、連続してベスト8入りし、さらにはエース・**菊澤裕**の活躍などで東部選手権優勝、東部新人は4位に甘んじたがチーム全体が確実に力をつけている三**島北**などが「5強」を追い、東海新人出場を狙う。

また中部3位で出場する**静岡**にも注目したい。4月の総体地区予選ではまさかの初戦敗退、県大会出場を逃してしまったが、その後たゆまぬ努力と精進の結果、この中部新人で一気に3位に入り3年ぶりの県新人出場を決めた。司令塔・**小前利徳**の優れたパスワークと果敢にゴール下に切れ込む突破力が県大会でどこまで通用するのか、まずは初戦の富士宮東戦で見極めてみたい。

女子

ウインターカップで全国の強豪相手に3連勝し見事ベスト8に入った**浜松開誠館**が優勝の大本命と言える。陽本、栗田というチームの柱は抜けたが、**石田悠月**という新たな大黒柱がその穴を十分に埋めていくはずだ。相手ディフェンスを置き去りにするドライブの威力は天下一品で、全国でも十分通用することが証明された。特にウインター 3回戦の湯沢翔北戦では26得点、その試合で見せたバックドアからのバスケットカウントはまさに「超美技」であった。シュートも多彩でアウトサイドからの3Pが決められることが強み。ウインター 4試合で76得点を挙げた爆発的な得点力でチームのオフェンスを引っ張っていくことは間違いない。

そしてインサイドにはターンシュートが得意な**樋口栞帆**が待ち構える。ウインターでは十分な出場機会には恵まれなかったが県選抜選手としてゴール下の攻防で持ち味を発揮してくれることを信じている。

また**石牧葵・鈴木侑**の1年生コンビの活躍にも注目したい。石牧はウインター 1回戦・中津北戦で21得点。1on1に絶対の自信を持ち、ディフェンス面でも相手に時間を使わせるクレバーな選手である。鈴木はウインター 2回戦、総体ベスト8の就実相手に勝負どころで度胸ある3Pを2本決めて勝利の立役者となった。浜松開誠館にとってこの新人大会は県内大会で唯一優勝経験のない大会である。チームの戦力も充実期にあり、得意のロースコアゲームに持ち込み、新人戦初優勝を飾り「総体・選抜・新人」の県内三冠を目指す。

王者・浜松開誠館を追うのはやはり各地区予選の覇者・市立沼津、駿河総合、浜松海の星と常葉学園、そして連覇を狙う浜松学院だろう。その中でもまずは駿河総合に注目したい。

中部新人覇者の**駿河総合**は、ウインター県予選決勝で浜松開誠館に延長の末敗れ全国を逃した雪辱を期して今大会に臨む。西村、加藤というチームの柱は抜けたが戦力的には浜松開誠館同様充実している。

エース・**長嶋アンソニー真弥**はチームのスコアラーで中部予選決勝・常葉学園戦では34得点を決めた。抜群の勝負強さを持ちスピードある突破力も兼ね備え、当たり負けしないプレーで得点が重ねられるオールラウンドプレーヤーである。また小**山内パメラウーゴ**はランプレーを得意とし積極的にリバウンド争いに参加して得点に絡んでくる。

この得点源2人を支えるのが**寺尾友里**と**西尾優香**。寺尾は176cmの長身を生かしたジャンプショットと外でも中でも器用にプレーが出来ることが特徴。西尾もリバウンド、ルーズボールなど玉際の泥臭いプレーを一生懸命こなす縁の下の力持ち的な存在である。外からはシューターの**野村某由**が得点を重ねることもできる。これら充実した戦力が有機的に機能していけば優勝の可能性も十分ある。公立高校は駿河総合（平成25年度に県立静岡南と静岡市立商業を再編して開校）の前身である静岡南以来4年間優勝から遠ざかっているだけに公立高校の意地を見せ、開校4年目での初優勝を狙う。

東部覇者の**市立沼津**も優勝候補の一角である。県総体では準優勝しインターハイにも出場、2回戦まで駒を進めたがウインター県予選では準々決勝で惜敗。しかしながら今回の東部予選では磐石の強さを見せて優勝を飾った。

県選抜選手にも選ばれた**遠藤真帆**は積極的にインサイドに切れ込むプレーが魅力で1on1の勝負も得意とするプレーヤー。**飯田帆乃香**もインサイドプレーを得意とし、粘り強いディフェンスが持ち味。チームも多彩なディフェンスのバリエーションを持っており、粘り強い守備からリバウンドを奪っての速攻を繰り出すことが出来れば他チームの脅威となることは間違いない。8年ぶりの優勝を飾ることが出来るか、まずは準々決勝で対戦が予想される常葉学園戦が大きな山場となる。

浜松海の星は西部新人では第3シードながら西遠女子、浜松学院という強豪を連破し見事優勝を飾った。チームワークの良さが特色で勢いに乗ると手が付けられないチームでもある。

エース・**飯島桜**をはじめ、**小笠原萌楓**、**松原明音**、**鈴木凛花**など戦力的にも申し分なく、インサイド・アウトサイドどこからでも攻撃の糸口が見出せるのも特徴。「女子校の伝統校」として長らく県内女子バスケ界を牽引してきた浜松海の星だが、今年4月から男女共学となり学校名も「浜松聖星」に改称し新たなスタートを切ることとなる。この大会は「浜松海の星」で臨む最後の大会となり、選手たちが心の中に秘めるものも大きいだろう。第1シードで挑む今大会でまずは3年ぶり2回目となる東海新人出場を目標に、さらには初優勝を狙い1日、1試合でも多く「浜松海の星」として試合が出来るよう全員の気持ち

が一つになっているに違いない。

3地区覇者とともに浜松開誠館を追う中部予選準優勝の**常葉学園**。
主将に就任した**野本陽香**はディフェンス時に強烈なプレッシャーで相手のミスを誘発するプレーが得意で、チームが苦しい時に長身を利してディフェンスリバウンドからの速攻プレーで何度もチームの窮地を救ってきた。常葉としては野本を起点としたスピーディーな展開に持ち込みたいところである。**井上麗**は新チームの得点源で確実性の高いシュートでチームを支える。ウインター県予選準決勝ではチーム最多の19得点を記録した。外からシュートを放つ選手ではないが勝負どころでゴール下からシュートを決められる能力は県内有数である。
その他にも、飛び込みのリバウンドを得意とする**山下あい**や新・司令塔、広い視野を持ち多彩なパスを繰り広げ、ディフェンス時には執拗なプレッシャーをかけブレイクにつなげることも出来る**北村音緒**など魅力的な選手も数多く擁し選手層の厚さが目につく。ウインター県予選準決勝、そして中部新人決勝と続けて駿河総合に敗れた悔しさをバネに、2年ぶり14回目の優勝とともに女王奪還も目指す。

浜松学院は島田、駿河総合との戦いが予想される厳しいブロックに入ったが、フォワード陣の**添田涼葉**、**伊藤百音**が持ち前の体を張ったディフェンスからリズムをつかんでいけば十分に勝機は見出せる。最終的な目標は言うまでもなく県内初となる県大会アベック連覇であろう。

ウインター県予選3位、東部予選準優勝の**沼津中央**も侮れない。「パッシング」主体のチームで、ボールマン以外の選手も絶えず「合わせ」を繰り返し連続的なオフェンスチャンスを創り出していくのが特徴。司令塔・**文屋萌々華**は華麗かつ正確なアウトサイドシュートが魅力。ウインター県予選準決勝・浜松開誠館戦でも3P3本を含む20得点をたたき出した。センター・**佐藤優樹**のインサイドプレーにも見るべきものがあり、ウインター県予選同様台風の目となるのか注目したい。

その他県選抜にも選ばれた**杉本ちひろ**や**柴田珠り亜**、**駒形伊恭**、**滝澤有希**など豊富な戦力でタフなバスケットを展開する**藤枝順心**、西部予選3位、主力だけでなく控えの層も厚みを増した**浜松市立**、そして惚れ惚れするような素晴らしいボディバランスを誇る**杉山花菜**や司令塔・**市川礼菜**を擁する**島田**なども虎視眈々と東海新人出場を狙う。

全国に静岡県情報を発信!

大会記録にプレイ写真。たくさんの情報が掲載されている静岡県協会のホームページを取りまとめているのが県協会の広報委員長・中島洋己氏だ。今大会も1回戦からの結果はもとより、大会前の展望もホームページにアップ。記事の内容も細かく、多くの選手の名前が挙げられている（ホームページにて閲覧可能）。

元々、バスケット経験者ではなかったが、赴任先の学校でバスケット部の顧問を務めるのと同時に、前任者が行っていた広報活動を引き継いだのをキッカケに約10年、県協会の広報に携わっている。「裾野が広くて競技人口がいっぱいいるのに、報道されることが少ないので、一人でも多くの人に知ってもらうこと、また選手の名前や写真を多く載せることで本人や親御さんたちの励みになれば」という思いで業務にあたる中島氏。大会を運営するにあたり、なくてはならない存在だ。

中島 洋己 先生
（静岡県協会広報委員長）

平成28年6月　月刊バスケットボール誌掲載記事

平成29年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己 （静岡県立科学技術高校教諭）

平成29年度全国高校総体（インターハイ）静岡県予選は5月27日に島田高校体育館他で開幕する。男女とも各地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、28日に行われるブロック決勝を勝ち抜いた4校による決勝リーグが6月3,4日に袋井市・**エコパアリーナ**で行われる。上位2校が7月27日から福島県・**県営あづま総合体育館**で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月17,18日に三**重県・AGF鈴鹿体育館、四日市中央緑地体育館**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。2月に行われた東海新人大会では「激戦区・東海」の中で4位以上に男女合わせて3チームが入り、静岡県高校バスケのレベルの高さを証明した。今大会は全国総体出場がかかる大きな大会、選手たちの熱い戦いに注目したい。

また、今年度からこの大会が毎年年始に行われる**全日本選手権**（旧称全日本総合、通称**オールジャパン**）の予選も兼ねることとなった。男子上位2チーム、女子上位3チームが8月末に行われる第一次ラウンドの出場権を獲得することが出来る。最終的には非常に高い壁ではあるが正月の**代々木第二体育館**につながる大会であるので、選手・指導者共に例年以上にモチベーションが高まっていることに違いない。

男子

1月の県新人を勝ち抜き東海新人大会に出場した飛龍、浜松学院、浜松開誠館に、全国大会常連の藤枝明誠、沼津中央を加えた5強の争いになると思われるが、その中でも優勝候補筆頭は東海新人準優勝の**飛龍**だろう。東海新人決勝ではマリ人留学生を擁する中部大第一（愛知）相手に最後の最後まで食い下がり、24年ぶりの優勝は逃したもののこれからの飛躍が大いに期待される戦いを演じた。

スコアラーの**伊東潤司**はコート上を素早く駆け回るスピードプレーが持ち味。3Pの成功率も圧巻で、東海新人準決勝・四日市工業（三重）戦で5本、さらに決勝では8本を決めるなどプレッシャーのかかる試合ほど燃える闘志あふれるプレーヤー。3月の少年男子台湾遠征でも主将を務め、チーム全体を見渡せる広い視野をも培った。インサイドでは**関屋心**が得点を重ねる。鋭いドライブからのレイアップシュートが魅力の選手で県新人決勝では31点、東海新人準決勝は34点を取るなどオフェンシブなバスケットを信条とするチームの矢板骨を支えている。まだ2年生で、時折見受けられる好不調の波をなくしていけばこれからの静岡県を代表する選手になるであろう。

ほかにも県新人では十分に実力を発揮できなかったがシュート力がチームの勝敗を分けるキーマンの**松下裕汰**、当たり負けしない強いフィジカルを持った**金井星也**、試合の流れを引き寄せるような勝負強い3Pを放つシックスマンの**山村祥太郎**、リバウンドシュートが得意な**杉山裕介**、そして中国人留学生193cmの**張述凱**と191cmの新入生・**リュウヤハオ**などスター選手を多数抱える。スクリーンや速いパス回しを駆使した多彩なオフェンスで2年ぶりの優勝、そして全国まで上り詰めるためにもまずはブロック決勝で対戦が予想される東部決勝の再現となる・沼津中央戦を確実にクリアしたい。

飛龍を追う一番手は県新人準優勝の**浜松学院**。主力は昨年度のインターハイ、ウインターカップでも大活躍し観客をも魅了した**ダシルバヒサシ**と**石川晴道**。ダシルバは1on1から相手を振り切ってのレイアップ、ピックアンドロール、そして随所に見せる華麗なプレー、石川はきれいな軌道を描く3Pやドライブで共に攻守の要としてチームを牽引する。石川と同じく外角シュートとドライブで得点を重ねる**谷口夏樹**や積極的にリバウンドに絡んでいく**葉山大誠**、そしてこのタレントたちをまとめていくのがキャプテンの**岡村泰知**。前主将・伊藤から受け継いだ浜学伝統のキャプテンシーを試合中にも発揮、泥臭いプレーにも汗を流しながらチームを支えている。オフェンスばかりが注目されるチームではあるが粘り強いディフェンスも特長のチーム。2年連続の全国総体出場はもちろん、19年ぶりそして浜松学院としての初の県総体制覇を狙う。

県新人3位、そして第3シードとして臨む**浜松開誠館**も優勝候補の一角である。マンツーマン、ゾーンプレスなどチェンジングディフェンスが魅力のチームで、フォーメーションも多彩。まさに鍛えられた感のあるチームである。

田中勇樹は3月のU18東海エンデバーにも招集された逸材。非凡なセンスをもち、ドライブやミドルレンジでのシュートを得意としている。**神田誠仁**は昨年の岩手国体にも出場した経験を十分に生かし、初の東海新人出場を決めた県新人・藤枝明誠戦では3P本を含む34得点。リングに吸い込まれていくようなシュートは創部6年目の浜松開誠館を初の全国総体、そして一気に県制覇まで導く可能性を十分に秘めたものである。ドリブルの突破力に秀でる主将・**伴拓実**、オフェンスリバウンドを中心に東海新人・美濃加茂（岐阜）戦では17得点を記録した**川邉隆景**、ドライブの切れ味抜群の**松本うみ**の活躍にも注目したい。

東海新人大会出場を逃した藤枝明誠、沼津中央も雪辱を期す。**藤枝明誠**は県新人3位決定戦で浜松開誠館相手に怒涛の追い上げを見せたが2点差で涙を呑んだ。リバウンドから瞬時にプレーを切り出す速攻バスケが特色のチームで、主将・**高木卓也**（島田初倉中卒）は藤枝明誠が平成18年以降全国大会に常時出場するようになってから初の県内出身主将。アウトサイドからのシュート力に長け、力強いオフェンスリバウンドも魅力。

司令塔の**中村和磨**はスピードを生かしたプレーで3Pや1on1に自分の境地を見出す。高木と共に3月の台湾遠征にも選ばれ

た**中坪崇斗**、**浅見晴**、そしてゴール下には200cmの中国人留学生**・張新鋒**が待ち構える。さらにはこの春、身長206cm**オマール・ディディアン・ティアヌ**、197cm**セコウ・ドゥクレ**という2人のマリ人留学生を加え、ゴール下に一段と厚みを増した。特にオマールは中部地区予選でもその類まれなジャンプ力と器用なボールハンドリングを披露し観衆を驚かせた。外国人留学生のベンチ入りは2人まで、出場はオンザコートワンと規定されているので留学生の起用法が2年ぶりの全国総体出場のカギを握る可能性もある。

県新人準々決勝で敗退した**沼津中央**は大黒柱**・サンブーアンドレ**がどこまで復調しているかに連覇の命運がかかっている。昨年のウインターカップで精神的なもろさを露呈し、県新人準々決勝も欠場。どのあたりまで復調しているか分からないが、静岡県高校バスケのスーパースター、そして全国の留学生の中でもトップレベルの実力を誇るだけにメンタル面を強化してこの大会に臨み、もう一人の得点源**・渡辺僚**とともにチームを連覇、そして全国へと導いてくれることに期待する。

ダークホースとして中部地区予選準優勝、県新人ベスト8の**静岡学園**を推したい。エース**・石部歩希**が抜群のリーダーシップで引っ張っているチームだが、新入生として203cmの**市川真人**が加わりインサイドが格段に強化された。我々が長らく待ち望んだ日本人の2㍍を超える選手、しかも静岡県出身（磐田市）選手の登場である。中部地区予選決勝では途中出場し、藤枝明誠のオマールとゴール下で互角以上にわたりあい、その潜在能力の高さを見せてくれた。順調に行けばブロック決勝で藤枝明誠との再戦が濃厚、オマールとのマッチアップに注目が集まる。まだチームに合流して2 ヶ月弱だが温かい目で見守りながらも今後の成長と活躍に期待したい。

その他、新人大会同様東部3位、安定した成績を残し続ける**加藤学園**、中部3位、司令塔**・小前利徳**が持ち味の力強いドリブルでゴール下に切れ込み正確なジャンプシュートで得点を重ねる理想的な展開に持ち込みたい**静岡**、186cmのビッグマンセンター**・山村吏玖**を擁し大会のたびにじわりじわりと順位を上げてきた西部3位**・浜松工業**、エース**・刑部克輝**やU18東海エンデバーにも参加した**玉木健太郎**など戦力も整っている**浜松西**などもまずは決勝リーグ進出を目指し、その先の東海総体そして全国総体出場までつなげていきたい。

上記に挙げた以外の注目選手としては中部4位、今回15年ぶりの県総体出場となる**静岡商業**の**五十嵐貴大**。185cmの長身を利してのインサイドプレーだけでなく、ドライブ、3P、そしてディフェンスを引き付けてパスをさばく器用なバスケスタイルを持つまさしくオールラウンドプレーヤーである。プレーのムラをなくし、過去6回全国総体出場経験のある古豪・静岡商業に34年ぶりの県総体勝利をもたらして欲しい。そして同じく中部の**静岡市立・東裕隼**も注目選手に挙げたい。昨年、静岡県武道館でのウインター県予選準々決勝・飛龍戦で見せた3Pライン外側から飛び込んで来てのリバウンドはまさに野生的。華麗かつ堅実なプレーで何度もチームの窮地を救ってきた。どうしても優勝争いや全国出場争いばかりに目が行ってしまいがちだが、このような個性的な選手に注目して大会を観戦するのも面白いかもしれない。

女子

昨年はこの展望で「群雄割拠」と記したが、今年は県新人優勝、東海総体3位の浜松開誠館と県新人準優勝、東海総体4位の駿河総合の「2強」が他チームを大きく引き離しているように思われる。

浜松開誠館は戦力充実期。東海新人準決勝では全国優勝62回を誇る日本高校バスケ界の「女王」・桜花学園（愛知）相手にすさまじい死闘を繰り広げ、最後は6点差で敗れたが全員でチャンスを作り出し、ドライブでの合わせや速攻を多用し一時は2点差まで迫り日本一のチームを土俵際まで追い詰めた。

その試合、エース**・石田悠月**は激しいマークをものともせず切れ味抜群のドライブとバスケットカウントを連発、合計43得点、チームの7割の得点を一人でたたき出した。月刊バスケットボール誌でも「今年度期待される全国の20人」に選ばれ、まさに今大会男女通じて一番の注目選手である。キャプテンとしても試合中常にチームメイトに気を配り、声かけを欠かさない選手でもある。シュートだけではなく相手ディフェンスをひきつけてパスをさばき得点のアシストをすることも出来るマルチプレーヤーである。唯一の心配は県新人決勝でも直面した自身のファウルトラブル。しかしながら接触を嫌がらず果敢に邁進する強気のプレーが一番の特色でもある。3月にはU18日本代表エントリーキャンプにも参加し自信を得てきたはずである。見ている側に夢を与えるようなプレーを今大会でも披露してくれることを期待する。2年生の**鈴木侑**は粘り強いリバウンドや3Pを得意とし、3月にはU16日本代表のカナダ遠征にも参加し経験値を積んできた。また先般、10月に行われるU16アジア選手権の日本代表候補にも選ばれ、静岡県のみならず日の丸を背負う可能性を秘めた全国レベルの選手となった。

その他、オフェンスではターンシュート、ディフェンスではブロックショットを得意とするセンターの**樋口栞帆**、石田、鈴木に次ぐ新たな得点源としてオフェンスリバウンドからチームにセカンドチャンスを見出してくれる**石牧葵**、そしてチームの精神的支柱**・奈須希咲**など注目選手も多い。激しいプレッシャーで相手を意気消沈させ攻撃を一気に封じ込めるディフェンスがチームの特徴。昨年度は県三冠を達成、磐石の布陣でこの大会も制し大会連覇、そして2年連続4回目の全国総体出場を狙う。

対する**駿河総合**は県新人決勝、東海新人3位決定戦ともに浜松開誠館相手に惜しくも5点差で破れ悔しい思いをした。しかしながら最後の最後まで開誠館と互角以上に渡り合い底力を見せつけ、当然今大会でも優勝候補に挙げられ、中部地区予選は圧倒的な強さを見せて初優勝を飾った。エース**・長嶋アンソニー真弥**は内外角から積極的に1on1を仕掛け、スピードあふれ

るドライブとインサイドプレーが持ち味の選手。怪我に苦しんだ時期もあったが持ち前のガッツでチームを鼓舞し県制覇へと導いてくれるだろう。**西尾優香**は広い視野を持ち、インサイドに切れ込んでのジャンプシュートを得意とする。ゴール下をテリトリーとする**小山内パメラウーゴ**はオフェンスリバウンドの支配率が高く、176cmの**寺尾有里**とともに攻撃の中核を担っている。アウトサイドからは**野村茉由**や**永石華萌**の正確な3Pもあり、非常にバランスの取れた理想的なチームである。基本に忠実かつ経験豊富な選手が揃っており、決勝リーグで再戦が予想される宿敵・浜松開誠館を倒して悲願の初優勝、そして2年ぶり3回目（前身の静岡南時代を含めると4回目）の全国総体出場に向けて突き進んで行く。

この2チームを追うのが第3シードの藤枝順心と第4シード・浜松聖星。**藤枝順心**は昨年のこの大会で創部初の決勝リーグ出場を果たした。最終的には県4位で東海総体は惜しくも逃したが貴重な経験を積んだ。今回中部地区大会準優勝で悲願の東海総体、そして全国総体まではっきりと視野に入ってきた。司令塔の**杉本ちひろ**は昨年度県協会高校部の優秀選手にも選ばれ、県選抜選手として東海国体にも出場した実績を持つ。下級生には一昨年、藤枝順心中学時代に岩手全中へ出場した時のメンバーである**柴田珠リ亜**、**駒形伊恭**、**滝澤有希**などを擁し大願成就の可能性もある。中部決勝では駿河総合に惜敗したが、今大会ではまずは2年連続の決勝リーグ進出を確実に果たし、上記2チームとの戦いにつなげていきたい。

西部地区予選準優勝の**浜松聖星**は今年度から共学化、そして校名も「浜松海の星」から変更しまさしく新たなスタートを切った。海の星としての最後の大会となった県新人では3位決定戦で常葉学園（当時）に破れ惜しくも4位、3年ぶりの東海新人出場を逃した。その悔しさをバネに今大会に臨む。チームの特長として足を使った平面的なバスケットを展開する。ずば抜けて大きい選手がいないため、様々な選手が交替でインサイドを務めている。攻撃のキーマンは共に勝負どころの3Pを得意とする**飯島桜**と**松原明音**。飯島は浜松聖星初代主将としてチームを支える。突破力抜群のドリブルで果敢にゴールを狙い、ディフェンスではインサイドのペイントエリアを確実に守っていく。2月にはU18東海エンデバーにも参加して大いに刺激を受け、そのパフォーマンスをコートで発揮してくれるはずである。松原は得点感覚に優れたオールマイティーの選手、飯島とのコンビで得点を重ねながら試合の流れやチームのリズムを引き寄せていく。**鈴木凛花**は県新人でも見せたバックドアからカットインしてくる飯島に合わせるプレーでチームの士気を盛り上げる。まさに「浜松聖星元年」メモリアルイヤーの今年、まずは3年ぶりの決勝リーグ出場を第一目標とし、初の東海総体、全国総体出場を虎視眈々と狙う。

このほか、東部予選優勝の市立沼津、同準優勝の沼津中央、そして西部3位の浜松学院も侮れない。この3チームすべてが県新人ベスト8、四隅のチームにとっても決勝リーグ進出のためにはこれらのチームを倒していかなければならない。

市立沼津は昨年のこの大会で見事準優勝、3年ぶりに出場した全国総体でも見事1回戦を突破した。昨年1年生ながら県選抜選手にも選ばれた**遠藤真帆**や主将兼司令塔、158cmと小柄ながらコートを駆けまわる**飯田帆乃香**など能力の高い選手を擁し2年連続の全国出場を狙う。

浜松学院も172cmの長身・**添田涼葉**や中盤を守る**伊藤百音**、**加茂七華**など充実した戦力で初の決勝リーグ進出を目指す。

2年連続ウインター県予選4強の**沼津中央**は、昨年のウインター県予選準決勝でも開誠館相手に20得点をたたき出し、3月の静岡県少年女子国内強化遠征（奈良）にも参加した**文屋萌々華**や大型センター・**佐藤優樹**などの主力を中心に7年ぶりの決勝リーグ出場を果たすことができるか注目したい。

また今大会・台風の目として**静岡西**を挙げたい。ご存知の通り、中部地区予選準々決勝で中部総体6連覇中だった常葉大常葉を1点差で下す大金星をあげた。準決勝では藤枝順心に惜敗したが、3位決定戦では島田を振り切り堂々の中部3位で県総体に出場する。司令塔の**花村歩美**は的確な判断能力を持ち、ドライブ、バス回しなど多彩な攻めで相手を幻惑させる。大怪我から復帰した**伊藤寧々**は島田戦で3P2本を含む16得点で完全復調を印象づけた。2年生の**森田七海**や**杉本弥月**も徐々にプレイングタイムが増えつつあり、現在最も勢いに乗っている静岡西は他チームにとって脅威の的に違いない。静岡西が地区予選同様旋風を巻き起こし、そしてブロック決勝での対戦が予想される浜松聖星を倒してエコパアリーナまでたどり着くことが出来るのか、まさに注目の的である。

そして忘れてはならないのが県総体優勝12回、全国総体出場21回を誇る**常葉大常葉**（旧常葉学園）。県新人3位で出場した東海新人は1回戦四日市四郷に辛勝、つづく桜花学園戦で敗れ上位進出を果たせなかった。万難を排して臨んだ中部地区予選では静岡西、東海大静岡翔洋に破れまさかの6位。選手たちも悔しさで涙を枯らすまで泣いたことであろう。攻守の軸である**野本陽香**は内外やどこからでも力強いシュートを打てるのが強み。ガードの**渡邉侑季**は前から相手に吸い付くようなプレスディフェンスが秀逸。その他にもドライブインしてのジャンプシュートを放つ**山地菜月**、アウトサイドから1on1を積極的に仕掛ける**北村音緒**、ジャンプシュートだけでなく外からも得点をはじき出せる**井上麗**など戦力は上位チームに勝るとも劣らない。地区予選終了から県総体まで約2週間の準備期間があり、その間に従来の「常葉スタイル」のバスケに仕上げてくるに違いない。2回戦では駿河総合との黄金カードの実現が予想され、初日から目が離せない戦いが繰り広げられるだろう。

最後に22年ぶり県総体に出場する**榛原**についても触れておきたい。榛原はこの3月まで1,2年生計5人で活動していた。ウインター県予選では3回戦まで勝ち上がりながら怪我で棄権、新人大会中部予選では県新人出場に王手をかけた静岡戦、清水東戦で連敗、悔やんでも悔やみきれない戦いが続いた。交代要員が全くいなかったためファウルを恐れるあまりインサイドでのボディーコンタクトが積極的に出来なくなっていたが、新年度6人の新入部員が入り選手層に厚みを増した。この中部予選、同じく最後の県切符を賭けた11位決定戦で清水南を破り悲願の県総体出場を勝ち取った。相手は第1シード・浜松開誠館、打ち破るにはあまりにも大きすぎる難敵だか全力でぶつかり悔いの残らない試合をしてもらいたい。

ウインターカップ2017静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第70回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2017）静岡県予選が平成29年10月21日に県内高校体育館で開幕する。11月12日に**静岡県武道館**で行われる決勝戦の勝者が12月23日に**東京体育館**で開幕する全国選手権大会への出場権を獲得する。今年から大会の名称が「**選抜優勝大会**」から「**選手権大会**」に変わり、名実ともまさに高校バスケ最高峰となったこの大会、栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

男子

ここ数年、4強と呼ばれた沼津中央、浜松学院、藤枝明誠、飛龍に浜松開誠館を加えた上位5校がしのぎを削る優勝争いが続いていたが、今年は県新人・県総体を制し、福島インターハイでも市立船橋、桜丘と強豪を次々に破りベスト8入りした飛龍が頭一つも二つも抜け出した感がある。今年はこの飛龍の快進撃を止めるチームがあるのか、それとも県内無敗のまま東京体育館まで突っ走るのだろうか。

飛龍は、身長は決して高くないが個々の能力を生かしながら絶妙な合わせで相手ディフェンスを翻弄していく攻撃スタイルが持ち味。分厚い選手層のもと、粘り強いディフェンスからのブレイクで素早い展開に持っていき勝利を積み重ねてきた。特にインハイ・市立船橋戦、桜丘戦の後半に見せたオールコートプレスから相手のミスを誘発させ、嵐のような猛攻を仕掛けるスタイルは圧巻の一言に尽きる。

Mr.3Pの異名を持つエース・**伊東潤司**は文字通り、勝負所で連続して放たれる伝家の宝刀・値千金の3Pが魅力。インハイ・高松商業戦では3P8本を含む33得点、まぎれもないチームのスコアラーである。1on1にも絶対の自信を持ち、相手に体を密着させシュートまで行かせない鉄壁のディフェンスもトップレベル。まさに今大会No.1の注目選手である。

関屋心は個人技に優れ、爆発的な跳躍力と強気なドライブでカットインして、相手ファウルをものともしないバスケットカウントで観客を魅了する。インサイドの**奥村大翔**はインハイ、そして東海国体で対戦、マッチアップした桜丘の留学生ジャニャ・クルに対し、身長差15cm、完全なミスマッチ状態ながらも体を張ってディフェンスし、ビッグマン対応のお手本を見せてくれた。同じくインサイドには中国人留学生191cm**リュウハヤオ**も待ち構える。

そして他にも左腕骨折から復帰、粘り強いリバウンドや鉄壁のボックスアウトなどディフェンスからリズムを作っていく**松下裕汰**、攻撃の起点となり、時にはゴール下で最後の砦となる**杉山裕介**、プレイングタイムは短いが要所で起用され得意の3Pをきちんと決める仕事人・**西尾昂也**、そして**金井星也**はドライブで相手を崩し、伊東にゴールを射抜かせるプレーを得意とする。日本人1年生唯一インハイでベンチ入りした**高須崇介**や、同じく1年生でどのポジションも器用にこなす**色山輝**などタレント揃いの戦力を誇る。チームが信条とする「しぶといバスケ」を今まで通り展開できれば11年ぶり、そして**原田裕作**監督就任8年目にして初のウインター出場はおのずと近づいてくる。

「ストップ・ザ・飛龍」の一番手は昨年のWC県予選覇者、そして福島インターハイにも出場した**浜松学院**だろう。県新人・県総体とも飛龍に敗れ準優勝。この大会に打倒・飛龍の目標を掲げ雪辱を誓う。

もちろん注目はチームの得点源、**ダシルバヒサシ**。高い身体能力を誇り、相手との間合いを取ったジャンプシュートは絶妙。最近は相手にも研究されフェイスガードで密着されることも多いが、キレることなく冷静に対応し広いシュートレンジを利してシュートを放つ場面や、時には味方にパスをさばく場面もよく目にする。一昨年、昨年と県武道館でダンクシュートにも挑戦。今年、自身最後の県武道館で是非ダンクを成功させ、見る者に夢を与えて欲しい。

そしてもう一人忘れてはならないのが**石川晴道**。チームの司令塔でアウトサイドの魔術師、度胸よく放たれるシュートは美しい放物線を描きリングに吸い込まれていく。長距離砲だけではなくスピードあるドライブも得意とし、東海国体決勝・愛知県戦では3P6本を含む29得点、ダシルバとともに愛媛国体出場の立役者となった。攻守ともに高いパフォーマンスを見せる文字通りチームの中心的存在である。

他にも、速攻を得意とする**亀山憧弥**、ドライブの切れ味が増した**葉山大誠**、3P、ドライブともにそつなくこなす**谷口夏樹**、ゴール下に切れ込んでリバウンドをもらい得点を重ねる**小池玲史**、個性派ぞろいのチームをうまくまとめる主将・**岡村泰知**、1年生ながら185cm・長身の**丁振華**、そして創部以来初の留学生195cm中国出身の**陳相廷**などを擁し、飛龍を倒してのウインター連続出場に向けて勇往邁進する。

県総体3位の**藤枝明誠**はドリブルやパス回しでスペースを作り24秒を有効的に使って攻めるパターンと、走るファストブレイクバスケを併せ持ち、内外バランスよく攻める多彩な攻撃力を持つ。

チームの核弾頭・**高木卓也**はアウトサイドシュート、リバウンドセンスに優れ、さらに卓越したキャプテンシーを持つチームの柱である。鋭いドライブを得意とする**中坪崇志**、リバウンドからの速攻を駆使し、時には司令塔も任される**浅見晴**、広い視野と華麗なパスワークでチームに貢献する**中村和磨**などで外まわり・中盤をつなぎながらゴール下には空中戦を得意とする留学生たちが待ち構える。来日3年目、ゴール下の防波堤としてチームに勝利をもたらしてきた200cmの**張新鋒**と県内最高身

長206cm、来日直後の怪我も完治し県総体決勝リーグでデビュー、たぐいまれな能力を発揮したマリ人留学生**セコウ・ドゥクレ**をオンザコートワンルールのもと状況に応じて交代で起用しつづけ、高さでは他のチームの追随を許さない。**角野俊伍**、**冨永優也**、**丹藤和輝**、**オマール・ティジャン・チュヌ**など将来性のある新戦力も補強し、3年ぶりのWC出場に照準を定める。

県新人で昨年のWC覇者・沼津中央を破り、県新人、県総体と連続4強入りした**浜松開誠館**も優勝候補の一角である。
エース・**田中勇樹**は美しいフォームから放たれる正確なミドルシュートが切り札、攻撃の起点としてもチームを支える。ロングシュートを武器とする**神田誠仁**は怪我の影響から一時調子を落とした時期もあったが現在は復調、田中とともに国体選手にも選ばれており、十分なキャリアをチームに還元し勝利にもすることだろう。その他、ドライブがさらに切れ味を増した**松本うみ**、得意のジャンプシュートだけではなく浜松学院戦で見せた、吸い込まれるような3Pにも磨きがかかった**伴拓実**、リバウンドを支配し確実に得点に結びつける**川邉隆景**、そして要所で決まる3Pが心強い**佐原和樹**など、他の上位チームにひけを取らない厚い選手層で初優勝を狙う。

一昨年の覇者、昨年は決勝戦で辛酸を舐めた**沼津中央**はやはり大黒柱・204cmのセネガル人留学生・**サンブーアンドレ**の出来がすべてを握る。昨年の決勝戦で悔しい思いをして以来、なかなか本来のプレーが出来ず本人としてもフラストレーションのたまる日々を過ごしてきたであろう。その中でも8月の東海国体・愛知県戦では今までにない献身的なプレーで勝利に貢献、一味違ったプレースタイルを見せてくれた。主将でもありアウトサイドからの得点源でもある**渡辺僚**を始めとするチームメイトがサンブーの支えとなり、彼に気持ち良くプレーさせるような環境を整えていけば、準々決勝で対戦が予想される宿敵・飛龍の一戦も最後までどちらが勝つかわからない熾烈な戦いとなるはずだ。今まで何度となく対戦してきた宿命のライバル同士の「名勝負数え歌」はこの大会を大いに盛り上げていくことになるだろう。

そして今大会ダークホースとなりそうなのが**静岡学園**。県8強の常連ではあるが、ここ最近は分厚い4強の壁に跳ね返され続けてきた。そのような状況が続く中、今年は県内日本人最高身長205cmを誇る**市川真人**が加わり、長年チームの課題であったインサイドが格段に強化された。今年で48年の歴史を誇るこの県予選において県内出身選手としては最高身長、そして現在日本を見渡しても彼ほど背の高い日本人高校生プレーヤーは見当たらない。それほどの逸材であり、まさに静岡県バスケ界の宝でもある。バスケのキャリアがまだ短く現在も成長過程だが、長い目で見守り今後の成長と活躍を楽しみに待ちたい。準々決勝では浜松学院との対戦が予想され、厳しい戦いとなるであろうが、司令塔・**石部歩希**や今大会参加の日本人では市川に次ぐ長身191cm**柴田祐希**など貴重な戦力をうまく使い、8年ぶりの4強を目指したい。

ともに県総体で8強入りした浜松西と浜松工業も虎視眈々と4強入りを狙う。

浜松西は昨年の県総体から現在4大会連続県8強入り、まさしく公立の雄となった。戦力的にも**刑部克輝**、**玉木健太郎**、**高橋駿**、**花田竜輔**など豊富な戦力を誇り、19年ぶりの4強入りへ準備万端である。

同じく**浜松工業**も今年の県新人、県総体と連続8強入り、大会のたびに順位を上げ続けている。経験値のある3年生に加え、188cmの長身センター・**山村吏玖**や1年生・**大滝龍**二など戦力は充実しているだけに、12年ぶりの4強を目指しさらなる飛躍を期待せずにはいられないチームである。

注目選手に目を移すと上記以外では、**井村飛美希・福本海成**（伊豆中央）、**寺﨑竜也**（加藤学園）、**三浦秀成・須藤士恩**（星陵）、**鈴木隼剛**（清水東）、**加藤由弘・松田光平**（静岡）、**五十嵐貴大**（静岡商業）、**小林卓真・大池隆太郎**（静岡東）、**小澤優太朗**（静岡市立）、**木下真之介**（藤枝東）、**岡島真乃介**（浜松湖東）などが挙げられる。いずれも県内を代表するまさにトップアスリートたちばかりである。

最後に今大会は**菊川南陵**が3年ぶり、**御殿場西**が6年ぶりに出場するが、男女通じて唯一の初出場となるのが**浜松聖星**。女子は言わずと知れた強豪校。今春共学化と同時に男子部を創部、すでに総体西部予選で公式戦初勝利を挙げている。今回WC県予選の初舞台で、「県大会初勝利」を挙げることが出来るか、こちらも注目したい。

女子

昨年の展望で「群雄割拠」と綴ったが、今年は現在県大会4連覇中、昨年28年ぶりに出場したWCで堂々ベスト8入りした浜松開誠館が他を大きく突き離し、独走態勢に入ったと言っても過言ではない。

浜松開誠館は、県総体決勝リーグ3試合すべて20点以上の大差をつけて大勝、相手を寄せ付けない強さで女王の貫録を見せた。粘り強いディフェンスで体を張り、リバウンドからの速攻で得点を重ね、ロースコアのゲームに持ち込んで勝つバスケットが特徴。多彩なチェンジングディフェンスを持ち、ルーズボールなど球際のプレーも全員が徹底して心掛けている。
エースで司令塔の**石田悠月**は全国的にも注目選手である。ドライブの切れ味、3Pの正確さ、1on1の強さは言わずもがなだが、高速ドリブルからリズムを作り出し、ディフェンスのズレを巧みに使って一気に相手を抜き、ファウルされてもそのままバスケットカウントを決めるフィジカルの強さで相手を翻弄する。また相手マークが自身に集中していると見るや素早くパスを回

し、アシストに徹することも出来る。今大会でも厳しい執拗なマークが予想されるが、的確な判断力と卓越したゲームコントロールで得点を重ね、目標である連覇の原動力となってくれるであろう。
また**鈴木侑**も連覇へのキープレイヤーである。10月にインドで行われるU16アジア選手権日本代表にも選ばれ、日の丸を背負ってプレーした経験がこの大会にどう生かされるか注目したい。
高精度の3Pを武器とする**石牧葵**は得点力あるフォワードとして勝利に貢献する。**樋口琹帆**はスピードあふれるセンターとしてリバウンドとブロックショットに活路を見出すプレーヤー。その樋口をゴール下で1年生の**松岡木乃美**が助ける。**大西莉央**は全中出場の実績を持ち、得意のドライブからのレイアップに加え3Pも果敢に打てるようになった。1年生では唯一県選抜に選ばれ、東海国体・愛知県戦では堂々のスタメン出場を果たした。このような充実した戦力で挑んだ8月の全日本選手権第1次ラウンドでは大学、クラブ、実業団を次々に撃破、初出場で見事県代表となった。チームとしての円熟期を迎えた今、昨年4月の総体西部予選から続く県内試合30連勝をどこまで伸ばすことが出来るか注目したい。

浜松開誠館の連覇を阻止するチームを挙げるとすれば、県総体決勝リーグを戦った東海大静岡翔洋、市立沼津、常葉大常葉、そして昨年のWC県予選、県新人、東海新人で浜松開誠館と激闘を繰り広げた駿河総合を挙げたい。

東海大静岡翔洋は中部5位で臨んだ県総体、快進撃で勝ちあがり決勝リーグでも得失点差で準優勝、初のインターハイ出場を勝ち取った。晴れ舞台では緊張のあまり動きが硬く市立前橋相手に初戦敗退となったが、強豪相手に大いに善戦をした。
速攻、アーリーオフェンスなど走って地道に得点を積み重ねていくチームで、主将・**糟谷琹里**は抜群の統率力でチームを牽引、チームで唯一県選抜にも選ばれ個人技にも長けたプレーヤーである。**野田夢佳**は味方からのスキップパスを受け、落ち着いて正確に3Pを決めるシューターであり、当たり負けしないフィジカルが強み。また下級生に目を移せば**増田優真**は勇往果敢に仕掛けるドライブが魅力、スピードあふれるプレーでチームの先陣を切る。**鈴木彩夏**は怪我でインハイ欠場を余儀なくされたが、ポストプレーや3Pに見るべきものがあり、今後の成長が楽しみである。**川村菜摘**は1年生ながらインハイでスタメン出場し3P3本を含む15得点。数字だけでなくこの時期に貴重な経験を積んだことがこれから生かされていくに違いない。もちろん優勝候補の一角ではあるが、まずは準々決勝で予想される藤枝順心との試合をきちんと乗り切ることに全力を注ぎたい。

得失点差で惜しくもインハイを逃した**市立沼津**は雪辱を期す大会となる。元来スロースターターなチームではあるが、基本に忠実なディフェンスが徹底されていて、そこからブレイクに糸口を見出すバスケットが信条。
ポイントゲッターの**杉浦雅**は3Pと華麗なポストプレーが持ち味。好不調の波が多少あるがまだ2年生、これから軌道修正していくであろう。**遠藤真帆**は172cmの長身を生かしながらスピードあるドライブも器用にこなす。このWエースに加え攻撃の起点となるのが**飯田帆乃香**。主将として泥臭いプレーに徹し、**滝口美里**とともにチームを支えている。4回戦・県武道館行きを賭けて駿河総合との対戦が予想される厳しいブロックに入ったが、県総体の悔しさをバネに目指すは7年ぶりのWC出場しかない。

2度の5連覇経験のある**常葉大常葉**にとっては2年ぶりのWC出場を狙い、背水の陣で臨む大会となる。中部総体6位から一気に県総体決勝リーグまでたどり着いたが東海大翔洋を倒しながら得失点差で涙を呑んだ。一昨年のこの大会での優勝以来2年間県大会優勝から遠ざかっており一丸となって優勝を狙う。
ドライブ、ミドルからのジャンプショット、そして3Pと恵まれた体を生かしてオールラウンドなプレーが出来る**野本陽香**、1on1に絶対の自信を持つ**井上麗**、ドライブの突破力に秀でる**山地菜月**、積極的にプレッシャーディフェンスを仕掛ける**渡邉侑季**、怪我から復帰した司令塔・**北村音緒**、1年生ながらスタメンを堅持し6月の開誠館戦ではチーム最多の19得点を奪った**保坂悠月**、そしてチームの精神的支柱である**山下あい**など百戦錬磨のつわものが揃う。目指すは浜松開誠館を倒しての優勝しかないであろうが、その前に浜松聖星・沼津中央など一筋縄ではいかない強豪相手が待ち構える。歴代最多16回の優勝を誇る伝統校の意地をこの大会でも見せて欲しい。

ある意味、**駿河総合**はどのチームよりもこの大会に賭ける思いがあり、本来浜松開誠館の連覇を阻止する一番手に挙げられるべきチームであろう。昨年の決勝戦では惜しくも敗れはしたが浜松開誠館と大会史上に残る名勝負を繰り広げた。県新人決勝、東海新人3位決定戦でも浜松開誠館を土俵際まで追い詰め、互角以上の戦いを展開した。中部予選優勝で臨んだ県総体は2回戦で常葉大常葉の鬼のような執念に惜しくも屈したが、実力的には今大会優勝しても全くおかしくないだけの戦力を十分に持つ。
小山内パメラウーゴを中心にチーム一丸で粘り強くオフェンスリバウンドを奪い、セカンドチャンスを確実に得点に結びつけるスタイルが持ち味で、東海国体でもスタメン出場したエース・**長嶋アンソニー真弥**は1on1が非常に強く、インサイドやミドルで多彩なシュートを放ち得点を重ねる。**野村茉由**はドライブ、ゴール下でのプレー、3Pなどどのような形からも得点に結び付けられるユーティリティープレーヤーである。身長176cmの**寺尾友里**は内外どこからでも攻撃の軸となり、守備でもゴール下の砦としてチームに貢献する。その他インサイドプレーを得意とする**西尾優香**、正確な3Pを放つ永石華萌、県内最高身長177cm**加茂恵**、そして大怪我を克服した**勝又亜梨沙**など充実した戦力を武器に前回大会と県総体の雪辱を胸に期し、まずは4回戦で対戦が予想される県総体3位・市立沼津との戦いに挑む。昨年は準々決勝で対戦、熱戦の末駿河総合が勝利を収めた黄金カードが今年はなんと県武道館決戦の前に実現する。一瞬たりとも気が抜けない、そして私たちも最後まで目が離せない試合になること請け合い、まさに今大会屈指の好カードである。駿河総合はこの試合を何としてでもものして一気に悲願の初優勝に向かって突き進みたい。

県総体ベスト8のチームに目を移すと、**藤枝順心**は県総体ブロック決勝で市立沼津に延長戦の末惜敗。県総体、県新人とも

4強入り経験もある実力派チームだか、地元・藤枝市をメインに開催するこの大会だけ4強入りの経験がない。
昨年県選抜に選ばれた**杉本ちひろ**は得意の1on1や度胸のある3Pでチームを牽引する。長身173cmの**内海遥**、中盤の得点源・**滝澤有希**、キレのあるドライブが魅力の**柴田珠り亜**、ケガを乗り越え見事復活した**駒形伊恭**、成長著しい**山藤うららら**など戦力的には十分に4強を狙えるものを持つ。4回戦では初の県武道館進出を狙う新興勢力・島田の挑戦を受ける。これも激戦必至であろう。そしてこの試合を切り抜けても準々決勝で東海大翔洋との対戦が予想される。ともに中部地区同士、相手を知り尽くしての戦いとなるが、インハイ出場チームを相手に接戦に持ち込み、勝利をもぎ取りたい。

同じく県総体8強の**浜松学院**は苦しい戦いを強いられそうだ。3年生が全員引退し、まさしく新チームで挑む。その中でも強靭なフィジカルを誇る**持原光里**、司令塔・**村上愛佳**、173cm長身センター・**佐藤佳乃**、そして1年生期待の星・**杉山琳々香**などセンスある選手を数多く擁するだけにいち早く新チームの始動が出来たことをポジティブに捉え、まずは確実に4回戦で予想される静岡女子との戦いに勝利し、1試合でも多く県武道館でプレーをして経験を積みたい。

ウインター県予選2年連続3位の**沼津中央**は毎回台風の目となり上位進出を続ける。県総体ブロック決勝で浜松開誠館と対戦、最後まで接戦を繰り広げて底力を見せた。この試合は結果的に県総体で開誠館が最も苦戦した試合であった。不動のエース・**文屋萌々華**は華麗なプレーの連続でまさに「華のある」選手、その美技に魅了された観客は会場で拍手喝采を送る。特にアウトサイドシュートやノールックパス、絶妙な合わせでオフェンスチャンスを絶え間なく作る。今回も勝利の女神となれるのか、是非今年も県武道館のメインコートでプレーを見たい選手である。

清水西、浜松聖星も侮れない。**清水西**は3年生が一部引退したが、県総体8強入りの立役者・**小澤碧海**や1年時から多くの試合を経験、主将に就任しチームをまとめ上げる**牧田紗季**などの活躍で8年ぶりの県武道館切符を手にしたい。

現校名で初の出場となる**浜松聖星**は県新人4位の実力派チーム。西部予選準優勝で臨んだ県総体は2回戦で東海大翔洋に苦杯、翔洋はそのまま一気に全国まで駆け上った。その悔しい思いを胸に今大会にすべてを賭ける。国体メンバー・**飯島桜**を筆頭に、天性のシュート感覚で得点を積み重ねる**松原明音**、高校に入って劇的にスキルアップした大器晩成型の**大場愛花**、そして恵まれたポテンシャルをコートで遺憾なく発揮する**坂口可恵**など厚い選手層を誇る。県武道館行きを賭けて対戦が予想される県新人3決の再戦・常葉大常葉戦は激闘必至、アップセットを起こすことが出来るか目が離せない戦いとなるだろう。

上記以外の注目選手として、**勝又彩・阿部莉子**（飛龍）、**佐藤優樹**（沼津中央）、**法月己歩**（沼津商業）、**花村歩美・伊藤寧々・森田七海・杉本弥月**（静岡西）、**市川礼菜・杉山花菜・杉本いちご・大石ほのか**（島田）、**鈴木好**（静岡女子）、**角本光**（浜松市立）、**内山さつき・大場裕月**（浜松南）、**石橋由衣**（西遠女子学園）、**中川楓・横山遥香**（浜松商業）などが思いつく。どの選手たちも聖地・県武道館で試合をするのにふさわしいスキルの持ち主である。

ウインター県予選の醍醐味は、完全トーナメント制の一発勝負、本当に一番強いチームだけが勝ち残り、全国の檜舞台を踏むことが出来るところにある。しかしながら今年も3週間に渡る長期決戦、何が起こるかわからない。まさに一寸先は闇である。選手たちは「勝利」の二文字だけを目指し、手を抜かずひたむきにプレーを続ける。我々にできることはその選手たちを支え応援することだけだが、一人でも多くの方々に会場に足を運んでもらい選手たちと一緒にその素晴らしい瞬間を共有してもらいたい。そして実際のプレーを見て、その感動を目にも心にも十分焼き付けて欲しい。選手たちの若さあふれる、熱い戦いを心から期待したい。

プレイバック静岡・高校バスケ 2016～2017

文=中島　洋己（県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

【ウインターカップ】　平成28年12月23日～　東京体育館

男子代表の**浜松学院**は初戦・**松江西**（島根）に快勝、続く2回戦は大会No.1留学生の呼び声高い**ドゥドゥ・ゲイ**を擁する**八王子学園八王子**（東京）、史上稀に見るシーソーゲームの展開に加え、ゲイと**田中旭**の火花散るマッチアップに会場もヒートアップ。最後は**石川晴道**、**ダシルバヒサシ**の得点で逃げ切り優勝候補の一角を破る大金星を挙げた。3回戦は新興勢力・今大会台風の目となった**北陸学院**（石川）。この世代のスーパースター**大倉颯太**の爆発的な得点力に苦しみ7点差で惜敗したが県代表としての重責は十分に果たしたと言える。

女子代表・**浜松開誠館**は1回戦、**中津北**（大分）相手にウインター初勝利。上位進出に向けて最大の関門となった広島総体ベスト8・**就実**（岡山）との2回戦、エース・**塩見あずさ**やU17日本代表の**那須愛加**など多彩な戦力を誇る相手に主将・**陽本麻優**を中心に堅い守りで得意のロースコアゲームに持ち込み逆転勝利。3回戦は**湯沢翔北**（秋田）の精錬された攻撃力に中盤苦戦する場面があったが終わってみれば圧勝。準々決勝では全国総体3位、**高原春季**という絶対的エースを擁する**大阪薫英女学院**と対戦、最後は力尽きたが28年ぶりの出場での全国3勝は十分賞賛に値する。男女とも県代表のチームが大会全体を大いに盛り上げた。

【東海新人大会】　平成29年2月　ゆめドームうえの、HOS名張アリーナ

雪が舞い散る三重県伊賀市・名張市での開催となったこの大会、男子は飛龍、浜松学院、浜松開誠館、女子は浜松開誠館、駿河総合、常葉学園が出場、浜松開誠館は初のアベック出場を果たした。

男子は**浜松開誠館**が**美濃加茂**（岐阜）、**浜松学院**は**桜丘**（愛知）に初戦で敗れたが、**飛龍**は**安城学園**（愛知）、**四日市工業**（三重）と強豪を連破、決勝に進み**中部大第一**（愛知）と対戦、互いに譲らない攻防を見せ、司令塔・**伊東潤司**が3P8本を含む30得点を挙げたが、相手のWエース・**星野京介**、**坂本聖芽**を抑えられず24年ぶりの優勝を逃した。

女子は3チームとも初戦突破、中でも浜松開誠館と駿河総合の健闘は目を見張るものがあり、**浜松開誠館**は初戦・**名経大高蔵**（愛知）に快勝し、準決勝でウインター覇者・**桜花学園**（愛知）と対戦。スピードで相手を圧倒しようと怒涛の攻めを展開し、一時は2点差まで迫り横綱を土俵際まで追い詰め、6点差で敗れたがエース**石田悠月**がチームの7割にあたる42得点を挙げたことは特筆される。**駿河総合**も**高山西**（岐阜）、そして三重王者・**いなべ総合学園**を立て続けに破り、県新人決勝と同一カードとなった県勢同士の3位決定戦では浜松開誠館と熾烈な戦いを再現、一進一退の攻防を繰り返し惜しくも最後は浜松開誠館に寄り切られたが、県王者と互角以上の戦いを繰り広げたことは大いに評価される。

【東海高校総体】　平成29年6月　AGF鈴鹿体育館、四日市市中央緑地体育館

男子は飛龍、浜松学院、12年連続の出場となった藤枝明誠、女子は浜松開誠館、東海大静岡翔洋、市立沼津が出場した。男子は**藤枝明誠**、**浜松学院**がそれぞれ**安城学園**、**桜丘**の愛知勢に敗れ、**飛龍**の奮闘に期待が寄せられた。初戦の**富田**（岐阜）を危なげなく一蹴し、準決勝・インハイ出場を決めている桜丘と対戦。実力伯仲の接戦となり、セネガル人留学生の**ジャイニャクル**は攻略したが、絶対的エース・**富永啓生**に29得点を許し惜しくも敗れたが、3位決定戦では安城学園に完勝、**松下裕汰**も21得点を記録し復調の兆しを見せた。

女子は東海大会・インハイ共に初出場を決めた**東海大静岡翔洋**が初の大舞台に緊張したのか岐阜3位の**高山西**に初戦で敗れる波乱が起きた。**市立沼津**は2回戦で敗退したが、**四日市四郷**（三重）、**桜花学園**という強豪相手に**遠藤真帆**が47得点、**杉浦雅**が33得点、ウインターに向け明るい光が見えてきた。岐阜女子、桜花学園という全国のワンツーが揃う東海で両巨頭の牙城に迫る**浜松開誠館**は初戦・**名経大高蔵**（愛知）に快勝、準決勝で再度桜花学園と対戦。東海新人では思わぬ苦戦を強いられた桜花学園が2度と同じ徹を踏むまいと常時優位な試合展開をし、得点源・**山本麻衣**がドライブと長距離砲で26得点、浜松開誠館も一時は7点差まで詰め寄ったが逆転までにはいたらなかった。続く3位決定戦、**四日市商業**（三重）戦では石田をベンチに下げての苦しい戦いとなったが、**鈴木侑**がドライブ、3Pと八面六臂の大活躍で見事東海3位の座を死守した。

【全国高校総体】　平成29年7月　福島県福島市　県営あずま総合体育館　他

男子は2年ぶりの飛龍、2年連続の浜松学院、女子は同じく2年連続の浜松開誠館、そして初出場となる東海大静岡翔洋が出場した。

強豪ひしめく「死のブロック」に入った**飛龍**だが、初戦の**高松商業**（香川）戦で100点ゲームを展開し攻撃型バスケットを十分に見せつけて挑んだ2回戦、相手は圧倒的な力で関東総体を制した**市立船橋**（千葉）。**保泉遼**と**野崎由之**という爆発的な得点力を誇る選手に粘り強いディフェンスで得点を最小限に抑え、ロースコアに持ち込んで見事勝利を収めた。続く3回戦では東海総体で敗れた**桜丘**への雪辱戦。強豪・北陸を破り意気揚々と戦いを挑んでくる相手に強めのプレッシャーディフェンスを展開、インサイドの得点源・クルにボールを触らせない展開に持ち込んで**関屋心**の活躍もあり14点差をつけての快勝、23年ぶりのベスト8進出を決めた。初の4強進出を賭けた大一番、相手はウインター3連覇の実績を持つ**明成**（宮城）。怪物・**八村阿蓮**に得点させまいと必死のディフェンスを施すが身長差は如何ともしがたく、残り4分で2点差まで追い詰めるのが精一杯で準決勝進出は果たせなかったが、「飛龍旋風」を吹き起こした功績は大きい。**浜松学院**は全国常連の**東海大諏訪**（長野）相手に終盤5点差まで迫ったがあと一歩届かず無念の初戦敗退となった。

女子は初戦・**和歌山信愛**に快勝した**浜松開誠館**が東京の第3代表・**明星学園**にまさかの大苦戦、**パレイのりこ**のインサイドプレーや途中で仕掛けられたゾーンディフェンスの攻略に苦慮し得点を思うように伸ばせず、皮肉にも開誠館得意のロースコ

アゲームに持ち込まれまさかの2回戦敗退。**東海大静岡翔洋**は**市立前橋**(群馬)相手に終始リードを奪われる苦しい戦いが続き、そのまま押し切られたが一時は4点差まで詰め寄るなど今後の戦いに希望を持たせる敗戦となった。ちなみにこの大会も昨年に続き女子決勝は桜花学園－岐阜女子の東海対決となり、言うまでもないが改めて東海女子のレベルの高さが証明された。

【東海国体】　平成29年8月　　浜松アリーナ

10月の**愛媛国体**の出場権を賭けた東海国体が地元・浜松アリーナで開催された。昨年は東海ブロックから2枠の国体出場権が与えられたが、今年はわずか1枠を賭けた熾烈な戦いとなった。

少年男子は飛龍、浜松学院、藤枝明誠、浜松開誠館、沼津中央の選手で編成されたまさに「オール静岡」で臨んだ。少年男子は初戦・**岐阜県**と対戦、**石川晴道**が第1Qだけで3P5本という離れ業をやってのけ快勝、決勝戦は永遠のライバル・**愛知県**との戦いとなった。愛知は中部大第一と桜丘の連合軍編成で坂本聖芽、富永啓生、ジャイニャクル、**張本正登**などまさに全国トップレベルの布陣。試合は一瞬たりとも気が抜けない白熱した戦いとなり、富永6本、石川6本を筆頭に両軍合わせて24本の3Pが飛び交うまさに空中戦。石川から**サンブーアンドレ**へのアリウープも決まり、観客も両軍の全国トップレベルの戦いに息を飲んだ。一進一退の攻防が続く中、サンブーがファウルトラブルで一旦ベンチに退いたあとも愛知の得点源・クルの高さに対し**奥村大翔**が体を張った捨て身のプレーでゴール下を守り、コートに戻ったサンブーが残り2分で高さだけに頼らない献身的なポストプレーを見せついに逆転、愛媛国体への出場を決めた。試合終了後も会場は興奮冷めやらない状態が続くまさに歴史に残る「死闘」であった。

少年女子は桜花学園主体の**愛知県**と初戦で対戦。本国体に出るためには、愛知・岐阜を連破しなければならないというタフな条件の下、静岡はスタートダッシュに成功し愛知のスコアラー山本麻衣に対してはフェイスカードを用いて抑えにかかり前半をリードして折り返すも、愛知はダブルチームを狙う静岡の隙をつきフリーの選手を見つけパスを回してゴール下で得点を重ねる巧みな攻撃を見せ逆転、さらに突き放しにかかる。静岡も**長嶋アンソニー真弥**が思い切りのよいミドルシュートなどで一人気を吐き17得点するが、愛知の落ち着いたパスワークとゴール下を制した高さに圧倒され惜敗、今回も分厚すぎる東海の壁を破ることは出来なかった。

【愛媛国体】　平成29年10月　　愛媛県　　鬼北総合公園体育館

愛媛国体への出場を決めた少年男子は初戦で203cmセネガル人留学生・**イブラヒマンジャイ**（福島東陵）を擁する**福島県**と対戦、それをクリアすれば準決勝で昨年敗れた**福岡県**との再戦が予想される。インハイ優勝・**福岡大大濠**とウインター優勝・**福岡第一**の連合軍、まさに最強の強敵ではあるが東海国体決勝で見せた怒涛のバスケを展開すれば勝機は十分見出せるだけに、48年ぶりの優勝を目指し一丸となっての奮闘を期待したい。

平成29年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

平成29年度**東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選**が平成30年1月20日に駿河総合高校体育館他で開幕する。今年から大会のレギュレーションが大きく変わり、昨年までは完全トーナメント制に加えて、3位決定戦が東海新人出場決定戦と銘打たれ行われていたが、今年から県総体同様4つのブロックに分けてトーナメント戦を行い、そのブロック優勝4チームが**決勝リーグ**に挑む形式となった。さらには今まで行われてこなかった**5位決定トーナメント**も行われるようになり、その結果も来年度の県総体シード順の参考資料となるだけに今まで以上に熾烈な戦いが予想される。ブロック決勝は21日に男子は飛龍高校、女子は三島南高校で、そして27,28日に**草薙このはなアリーナ**で決勝リーグおよび5位決定T（27日のみ。7位決定戦は行わない）が行われ、男女3位までが2月10,11日に今夏の愛知インターハイメイン会場となる一**宮総合体育館**、**パークアリーナ小牧**で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。また1月28日には平成29年度（一社）静岡県バスケットボール協会高校部優秀選手の表彰式も行われる。

今大会では先月のウインターカップ2017でも大活躍した飛龍・関屋心、そしてU16女子日本代表に選ばれアジア大会にも出場、ウインターでも経験値を積み重ねた浜松開誠館・鈴木侑がアジア・全国の檜舞台を経験し、県内に凱旋する大会となる。多くの熱い戦いを期待したい。

男子

優勝候補最右翼はやはりウインターベスト8・**飛龍**。年末のウインターでは高知中央、実践学園、帝京長岡という名だたる強豪校と激戦を繰り広げ堂々のベスト。今大会も優勝候補の筆頭として満を持しての登場となる。

エース・**関屋心**は攻撃の起点となり積極的なドライブを展開していく。ウインター 3回戦の実践学園戦では26得点、相手に合わせることなく自らタイミングをずらしながら持ち前の力強いフィジカルを生かしてシュートに持ち込むプレーが魅力。華のある選手なので、観客にも夢を与えるようなプレーを見せてチームを勝利に導いてほしい。関屋同様、昨年の愛媛国体で活躍した**杉山裕介**は絶妙なタイミングで飛び込むリバウンドでチームの危機を救い、守備面ではゴール下の砦として持ち味を発揮する。この2人が今年の飛龍を牽引していくことは間違いない。

他のプレーヤーに目を移せば新主将に選ばれた**西尾昂也**は抜群のゲームコントロール能力をもち、リーダーシップにたけ、決定力のある3Pを誇る。シューターとしては2年生の**山村祥太郎**や**原田未央**を擁し、インサイドにはウインター・高知中央戦で203cmナイジェリアからの留学生にマッチアップし、体を寄せて相手の攻撃を封じ、攻撃面でも器用なドライブを見せてチーム最多の16得点を挙げた**リュウヤハオ**が待ち構える。足を使ってパスを散らすバスケで磐石な試合運びを続ける王者に今大会も死角はないだろう。

飛龍に続くのはウインター県予選準優勝・中部新人覇者の藤枝明誠とウインター県予選3位・西部新人覇者の浜松開誠館。

藤枝明誠はウインター県予選決勝戦でゾーンティフェンスを効果的に使って飛龍に食い下がったがあと一歩で涙を呑んだ。ゲームキャプテンを務める**中村和磨**は広い視野を持ち、シュートセレクションの見極めが天才的で放たれるシュートの成功率が非常に高いプレーヤーである。ドライブにも切れ味がありオールマイティーな司令塔である。中部新人決勝・静岡学園戦でも3P本を含む27得点を挙げ、貴重なスコアラーとしてチームを支えている。新主将・中盤を任されている**野口嶺**はルーズボールやリバウンドなどの球際の強さが目立つがそれ以上に選手と監督とのパイプ役を務め、双方からの信頼も厚く、チームをまとめる存在でもある。アウトサイドに目を移すと明誠のお家芸とも言える高さでの勝負は他校の追随を許さない。

インサイドに待ち構えるのは206cm・ピックアンドロールからのシュートを得意とするマリ人留学生・**セコウドゥクレ**と、類まれなジャンプ力を生かし必死にリバウンドを取りにいく192cm**山下輝夫**。もう一人のマリ人留学生・**オマールティジャンチュヌ**は怪我の影響で中部新人は出場機会がなかったが県新人では出場する可能性も十分あり、どのチームも「高さ対策」には苦労するであろう。その高さを十分に生かし4年ぶりの優勝を勝ち取りたい。

浜松開誠館は2年連続西部新人を制した。決勝では強豪・浜松学院に競り勝ち連覇に華を添えた。昨年から主力としてチームを支えた田中、神田が最上級生となりさらにチームを引っ張っていく。

田中勇樹は度胸よく放たれる高確率の3Pが魅力、**神田誠仁**は闘志あふれるプレーを信条に体を張った力強いディフェンスでチームの士気を高めていく得点源の選手である。また1年生にも逸材が多く、188cm**田中駿**とフォワード・**今井田大輝**はウインター県予選準決勝・飛龍戦でスタメン出場、特に今井田はアグレッシブなプレーで6得点を記録、大舞台で貴重な戦力として貢献した。さらに西部新人決勝でも勝利の立役者となりチームに不可欠な戦力へと成長した。開誠館のバスケは激しいプレスからの速攻が特徴、常に5人が連動し人もボールも常に動く機動的なバスケットを展開し、まずは2年連続の東海新人出場、そして一気に初優勝を狙う。

上記3強を追うのが昨年度本大会準優勝、福島インターハイにも出場した浜松学院と東部部新人覇者・三島北。この2チームはブロック決勝での対戦が予想される。今大会屈指の好カード、激戦必至である。

浜松学院は西部新人決勝で浜松開誠館に惜しくも敗れ西部2位での出場となり、雪辱を期する大会となる。ダシルバ、石川という核となってきた主力が抜け例年以上に厳しい戦いが予想されるが、ウインター県予選・藤枝明誠戦で途中出場ながら切れ味抜群のドライブで21得点を記録し、リバウンドにも活路を見出す**葉山大誠**や同じく準決勝でスタメン出場した**新村健心**の2年生大黒柱に加え、新司令塔の**中村健生**やインサイド要員として控える195cm**陳相廷**、185cm**于振華**などの1年生が活躍すれば2年ぶりの優勝も十分現実味を帯びてくる。

公立の雄・**三島北**は東部新人決勝では伊豆中央との公立高校対決を制し、昨年11月の東部選手権に続く優勝を飾った。創部14年目での初優勝は、今年で31回を数える東部新人で公立高校が初めて優勝を手にした快挙でもある。夏のトップアスリートにも参加し、司令塔としては比較的長身のユーティリティープレーヤー・**末永悠士**を始め、インサイドには180cm**末永昂士**、181cm**長島駿**、そして186ｃｍの**渡邉慎矢**など大型プレーヤーが揃っており、優勝争いを大きく左右する「台風の目」となる存在である。特に末永昂士のリバウンド支配率は驚異的でまさに「タフネス」の一語に尽きる。非常にまとまりのあるチームなだけに一丸となっての頑張りを期待したい。まずは平成24年度の浜松西以来5年ぶりとなる公立高校としての東海新人出場を目指していきたい。

中部新人準優勝の**静岡学園**も侮れない。どの大会でも確実に県ベスト8まで勝ち進むがなかなかその先の大きな壁を打ち破れずにいる。今大会では何としてでも決勝リーグへ駒を進め、東海も制した平成11年度以来18年ぶりの東海新人出場を果たしたい。そのためには新チームの主将・**鈴木一輝**の多彩なパスワーク、そして「静岡県の至宝」である205cm**市川真人**の活躍が不可欠である。特に市川は中部総体決勝・藤枝明誠戦では5連続得点を含む20得点を記録、成長著しいところを見せてくれた。まだまだ成長過程であることを考慮しながらも彼の活躍に期待せずにはいられない。飛龍とのブロック決勝での挑戦権を賭けて2回戦で対戦が予想される西部3位・**浜松工業**との戦いが一つの大きな山場となる。

その他、各地区大会上位に入った**浜松工業**、**浜松西**、**静岡**、**静岡商業**、**伊豆中央**、**星陵**、**沼津中央**なども虎視眈々と東海新人出場を狙っている。各チームとも**山村吏玖**、**大滝龍二**（浜松工業）、**玉木健太郎**、**高橋駿**（浜松西）、**加藤由弘**、**松田光平**（静岡）、**五十嵐貴大**（静岡商業）、**井村飛美希**、**福本海成**（伊豆中央）、**須藤士恩**（星陵）、**加藤麗央**（沼津中央）などウインター県予選でも活躍した一級品の選手を擁しており、今大会ではその後の成長を見られるのも楽しみである。

最後に今大会初出場となる2チームを紹介したい。まずは今年度から男女共学となった**浜松聖星**が堂々の初出場を決めた。創部初年度での県新人出場は平成24年度の浜松開誠館以来5年ぶりとなる。**小笠吏規斗**を中心とした1年生のみのフレッシュなメンバーでまずは県大会の雰囲気を大いに満喫して欲しい。そしてもう1校は**小山**。浜松聖星とは対照的に、こちらは苦節・創部33年目にして初の県新人出場を決めた。両チームとも出場することだけに満足せずに勝利目指して悔いのない戦いを繰り広げて欲しいと思っている。

女子

こちらもウインター県予選を制した**浜松開誠館**が優勝候補の筆頭に挙げられる。前回大会の覇者、現在県内大会6連覇中（全日本総合第一次ラウンドも含む）、そして県内試合35連勝中と記録をあげれば枚挙に暇はないが、その開誠館も年末のウインターは聖和学園相手にまさかの初戦敗退。チームは相当な危機感を持ちながら気を引き締めて今大会に臨むことであろう。

得点源となるエースは**鈴木侑**。昨年10月FIBA U16アジア選手権に出場し準優勝に貢献。6試合すべてに出場し29得点を記録した。大会で随所に見せた切れ味鋭いドライブはアジアでも十分通用することを証明した。球際にも強く、ここぞという大事な局面でシュートを決めきれるクラッチシューターでもある。今大会でもその素晴らしいプレーを存分に披露し、私たちを感動させてくれるであろう。鈴木とともに新チームを引っ張っていくのが**石牧葵**。粘り強いディフェンスと高確率で決まる3Pが持ち味でゴール下でも力強さを見せ攻撃の軸となっている。1年生ながらウインター県予選でもスタメン出場した**松岡木乃美**は強靭なフィジカルを誇り、体を張ったプレーでチームの勝利に貢献する。他にもウインター県予選や本戦でもシックスマンとして起用され自分の役割をきっちりとこなした**小幡桃花**やスピードあるプレーが魅力の県選抜選手・**伊藤綾優花**、そして昨年のウインター県予選準決勝で出場機会を得た**奈須梓咲**などが新チームの一翼を担い、連覇に向かい邁進していくであろう。持ち味のスピードを生かして相手のオフェンスに適応し、得点を最小限に抑えながら競り勝つ開誠館のバスケスタイルで一つ一つ勝利を積み重ねて欲しい。

浜松開誠館を追うのはウインター県予選決勝で開誠館に敗れ雪辱を誓う市立沼津と中部新人覇者、3年ぶりの優勝を狙う常葉大常葉であろう。

市立沼津は前チームからの主力だった県選抜選手・杉浦と遠藤が残り、優勝を十分狙える戦力が整っている。**杉浦雅**は果敢にカットインする突進力が魅力、2年生になって最も伸びた選手である。172cm、インサイドの要・**遠藤真帆**は常にリバウンドに絡み得点を積み重ねていくセンスあふれるプレーヤーである。主将の**上柳穂夏**は小柄ながら飛び込みのリバウンドを積極

的に見せ、コート上では常に声を出しチームメイトを鼓舞するチームの精神的支柱でもある。**古賀理紗**もゴール下で力を発揮するタイプ。昨年はインターハイ・ウインター出場をあと一歩で逃した悔しい気持ちをバネに9年ぶりの優勝を勝ち取りたい。

常葉大常葉は一昨年度この大会で優勝を逃してから2年間、県内大会の優勝から遠ざかっており、賜杯奪還を目指し背水の陣でこの大会に臨む。1,2年生ともに実戦経験を豊富に積んだ選手を数多く擁し、優勝戦線に加わる。新主将となった**山地菜月**は粘りのあるディフェンスが強み。司令塔・**北村音緒**は切れ味鋭いドライブに加え、低い姿勢で相手にプレッシャーを与えるディフェンスは絶品である。1年生にも中部新人決勝・藤枝順心戦で3P3本を含むチーム最多の30得点を記録した**林美也子**はミニ・中学でも全国の檜舞台を経験、度胸あるプレーを見せる。U16日本代表候補にも選ばれた経験もある**保坂悠月**はスピードあるプレーで中部新人決勝では20得点を挙げた。その他**見崎菜摘**、**池田桃子**、**山口郁実**なども控え、優勝への戦力は整っている。

激戦の西部新人を制した浜松学院と中部新人2位の藤枝順心も3チームを追いかける。**浜松学院**は新チームで挑んだウインター県予選でベスト16止まり、悔しい思いをした。その思いを胸に西部新人決勝では浜松市立を5点差で破り優勝を飾った。リバウンドやルーズボールへの反応が抜群の**北川眞子**、シューター・**持原光里**、**村上愛佳**、大怪我を乗り越え持ち前のスピードも戻りゴールを量産する**加茂七華**に加え、インサイドには175cm**佐藤佳乃**や177cm・**早崎琳里香**など大型センターを擁する。チームが掲げる速いトランジションで走って守るバスケのもと、2年ぶりの優勝を目指すためには東部2位の沼津中央または中部3位の駿河総合との対戦が予想されるブロック決勝での勝利が必須条件となる。

ウインター県予選準決勝・市立沼津戦、残り30秒で逆転されて悔し涙を流した**藤枝順心**は、中部新人決勝では信条である「堅守速攻のバスケ」が十分に機能せず惜しくも常葉大常葉に敗れた。チームのポイントゲッター・**内海遥**はチーム一の長身173cm。非常に器用な選手で内外から多彩なシュートを繰り出せる選手である。オフェンスリバウンドを始め、ゴール下のプレーに絶対の自信を持つ主将・**駒形伊恭**、リズムあるディフェンスを見せる**滝澤有希**、スペースを素早く見つけてドライブで切れ込むプレーを得意とする**柴田珠リ亜**、中部新人決勝で途中出場ながらチーム最多の14点を挙げて孤軍奮闘した**高橋香菜子**などウインター県予選3位のメンバーがほぼそのまま残っており、他チームにとっては脅威となるだろう。ブロック決勝で予想される浜松開誠館との戦いでは全身全霊で勝利を掴みにいくに違いない。

その他、各地区の上位チーム・**浜松市立**、**西遠女子**、**駿河総合**、**静岡女子**、**沼津中央**、**三島北**、**沼津商業**なども東海新人出場、そして優勝争いに加わる可能性は十分ある。そういう意味では今年は「群雄割拠」とも言えるかもしれない。注目選手である**角本光**、**荒木柚衣**、**藤田みゆう**（浜松市立）、**石橋由衣**、**本橋成奈**（西遠女子）、**野村茉由**、**勝又亜梨沙**、**加茂恵**（駿河総合）、**鈴木好**（静岡女子）、**石井香帆**（沼津中央）、**山田幸**（三島北）、**法月己歩**（沼津商業）などは是非決勝リーグでその華麗なプレーを見たいと思わせる一流の選手たちである。

今大会女子で唯一の初出場校が**浜松大平台**。創部12年目で悲願の初出場。前身の農業経営時代も果たせなかった夢をついに実現させた。平均身長158cmと決して高いチームではないが、日々練習に精進し、チームのモットーである「泥臭いバスケ」が浸透して初の県切符を勝ち取った。初戦は東部王者・市立沼津。非常に厳しい戦いになるであろうが、相手のペースに惑わされることなく、40分間自分たちのバスケットを貫き通して欲しい。

平成30年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

（一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己 （静岡県立科学技術高校教諭）

平成30年度全国高校総体（インターハイ）静岡県予選は5月26日に静岡西高校体育館他で開幕する。男女とも各地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、27日に行われるブロック決勝で勝利した4校による**決勝リーグ**が6月2,3日に袋井市・**エコパアリーナ**で行われる。上位2校が8月2日から愛知県一宮市・**一宮市総合体育館**、小牧市・**パークアリーナ小牧**、そして大相撲名古屋場所が行われる名古屋市・**ドルフィンズアリーナ（愛知県体育館）**で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月16,17日に愛知県小牧市・パークアリーナ小牧で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。2月に行われた東海新人大会では「激戦区・東海」の中で飛龍男子と浜松開誠館女子が準優勝、静岡県高校バスケのレベルの高さを改めて証明した。今大会は全国総体出場がかかる大きな大会、さらには静岡県が男女とも2枠の出場権を得られる最後の大会、選手たちの熱い戦いに注目したい。さらには今年度もこの大会が**全日本選手権（オールジャパン）**の予選も兼ねており、男女とも上位2チームが8月末にエコパアリーナ・サブで行われる**県代表決定トーナメント大会**の出場権を獲得する。昨年は浜松開誠館女子が大学生、社会人を破り優勝、第2次ラウンドに進むなど**東京オリンピック**でバスケットボールの会場となる**さいたまスーパーアリーナ**で正月に行われる大会につながるので、選手・指導者共にモチベーションが高まっていることに違いない。

またこの大会も1月に行われた県新人大会同様「**5位決定トーナメント**」を行う。県総体としては初の試みとなる。県新人で行われた際は決勝リーグに勝るとも劣らない白熱した戦いが繰り広げられた。その結果もウインター県予選シード順の参考資料となるだけにこちらの方も今まで以上に熾烈な戦いが予想される。

男子

やはり優勝候補筆頭は昨年度県総体・ウインター・県新人の県三冠王者、そして東海新人準優勝の**飛龍**。昨年末のウインターでは月刊バスケットボール誌選定の感動大賞も受賞、先輩たちが残した粘り強さは新たな伝統として後輩たちに引き継がれている。

チームの中心は言わずと知れた**関屋心**。先日U18日本代表強化合宿にも参加、1on1や3Pにさらに磨きをかけた。緩急をつけた力強いドライブなどアグレッシブなプレーが持ち味で、相手の執拗なシュートチェックも巧みなポンプフェイクでかわして得点を重ねていく。相手がパスを警戒すれば瞬時の判断でドライブに切り替えゴールに突き進むような、相手の守りを見て駆け引きをし、攻撃の幅を広げていくまさに神がかり的な選手である。今大会一番の注目選手と言っても過言ではない。関屋同様チームの大黒柱となるのが**杉山裕介**。全ポジションをこなせる器用な選手で、力強いドライブは天下一品である。

インサイドには中国人留学生・**リュウヤハオ**が待ち構える。まだディフェンスに課題は残るが、以前にもましてプレイエリアが広がりオフェンスのバリエーションも格段に増えた。県新人の優勝決定戦・浜松開誠館戦では20得点、さらには3Pも披露、さらなる成長に期待させる。そして忘れてはならないのが、県新人でブレイクした**原千容**。以前時折見受けられた消極性が影を潜め、ドライブ・リバウンドに八面六臂の活躍を見せた。また**原田未央**は東海新人・高山西戦で3p8本を決めた。特に第3Qだけで6本の3Pを決めるなど大舞台で驚異的な活躍を見せた。前述の4選手同様、春先に行われた県協会の強化遠征選手にも選ばれさらに経験値を上積みしたことであろう。その他にも、3Pを得意とする主将・**西尾昂也**、昨春の右膝の大怪我を乗り越え、東海新人・中部大第一戦で3P5本を決めて見事な復活を遂げた**山村祥太郎**、控えの司令塔としていぶし銀の働きを見せる**高須崇志**、シューター・**色山輝**など戦力の厚さは県下随一、全国レベルとも言える。一昨年度の県新人から県内無敗のチームは2年連続の全国総体出場、そして県総体連覇に向けて死角はない。

その絶対王者・飛龍を猛追するのが県新人準優勝の**浜松開誠館**。今まで県内大会では何度となくベスト4入りを果たしていたが、今年1月の県新人で初の準優勝。東海総体と合わせて3度目の東海大会出場となった東海新人では初戦・名古屋大谷に快勝、見事東海初勝利を飾った。打倒・飛龍の一番手に挙げられるチームだけに、磐石の態勢で決勝リーグに臨みたい。

県新人・東海新人ともスターターは一貫して**神田誠仁**、**田中駿**、**田中勇樹**、**飯島友法**、**佐原和樹**の5人。チームのスコアラーである神田はドライブ、3P、そして相手ディフェンスを引き付けてのパスさばきなどすべてをそつなくこなすオールラウンダー。東海新人・四日市工業戦では全国大会常連の強豪相手に22得点を記録した。神田と双璧をなす田中勇樹は精度の高い3Pと鋭いドライブ、粘り強いディフェンスで相手を翻弄していくプレーが信条、田中駿とのドライブからの息のあった合わせも絶品である。佐原は神田・田中勇に次ぐ得点源で、県新人決勝リーグの藤枝明誠戦では3P4本を含む23得点を挙げた。今大会でもディフェンスからの速攻を武器とし、チームを全国の檜舞台に導いてくれるだろう。オールコートプレスなど多彩なディフェンス、そして堅い守りに一層の磨きをかけて、悲願である初の全国総体出場、そして初の県大会制覇へ勇往邁進する。

県新人3位、中部総体を13年連続で制した**藤枝明誠**も優勝候補の一角である。持ち前の高さを生かしたバスケに加え、そのインサイドを軸にして内外の連携が有機的に調和したバスケを展開する。「高さ」の象徴として3人のマリ人留学生がインサイドの起点として交代でコートに出てくる。

206cmの**セコウ・ドゥクレ**は地区予選では怪我により出場機会がなかった。しかしながら昨年のウインター県予選や1月の

県新人で見せた力強いプレーは我々の脳裏に焼きついて離れない。日本のバスケットにもすっかり順応、県総体では万全の体調でその雄姿を見せてくれるに違いない。そのセコウの代役として中部予選でも活躍した200cm**・オマール・ティジャン・チュヌ**や新入生198cm**・カミソコ・オマール**も限られたプレイタイムの中で自分たちの持ち味を十分発揮したプレーをした。留学生とともにゴール下を守る**山下輝夫**は試合経験を積むたびに技術が上達して今やチームにはなくてはならない存在である。

その他、ゲームキャプテンで司令塔・シュートエリアの広い**中村和磨**、中部予選決勝・静岡学園戦では19得点を記録したトリッキーなサウスポー**浜本健**、小岩四中時代から阿部監督と共にバスケをして6年目、監督の想いを選手に伝える役割も担う**野口嶺**、そして山下と共に国内強化遠征にも参加した**菊地広人**など能力のあるプレーヤーが揃っているだけに、ずば抜けた高さを生かして3年ぶりの全国総体出場、そして4年ぶりの県総体制覇を目指す。

昨年の福島インターハイにも出場、県新人4位で東海新人出場を逃し、西部予選も2位に甘んじた**浜松学院**も侮れない。昨年のこの大会は準優勝で2年連続の全国総体出場を果たした。その後のウインター県予選では3位、県新人4位と不満足な結果が続くだけに今大会に期する思いはどのチームよりも強いだろう。エースの**葉山大誠**は県新人決勝リーグの3試合で強豪相手に67点を挙げた得点源である。リバウンドにも絶対の自信を持っておりチーム浮上のカギを握る。ガードの**新村健心**や**伊藤凪都**も高確率で外角からのシュートが決まりチームの窮地を度々救ってきた。インサイドの**于振華**も献身的なリバウンドを見せるようになって来た。今年で66回を数える県総体で優勝10回、全国総体出場19回を数える静岡県高校バスケ界を代表する「レジェンド」のチームだけに今大会での巻き返しを期待したい。

県大会初の試みである5位決定Tを制し県新人5位となり、東部予選も準優勝を飾った公立の雄・**伊豆中央**には絶対的なエース・**井村飛美希**がいる。強靭なフィジカルを誇る井村は崩れた体勢からも確実に得点を重ね1月の県新人5位決定戦・三島北戦でも勝負強さを発揮、25得点を記録した。精神的な要となる**木代祥太**、外からの長距離砲が魅力・**福本海成**、185cm、インサイドで成長著しい**山晶なさにえる**など十分に東海総体出場も目指せる戦力である。まずは確実に県4強入りを狙い、公立勢としては平成24年の浜松商業以来6年ぶりの東海総体出場をも射程内に捉える。そのためにはブロック決勝で予想される浜松学院戦が最大の修羅場となる。

その他、県新人6位、春の強化遠征にも選ばれた**末永悠士**や2月の東海エンデバーにも参加した**末永昂士**を擁する**三島北**、4月にU18日本代表ドイツ強化遠征にも参加して体に柔軟性が生まれ、ダンクシュートはもちろんドライブや3Pも器用にこなすようになり一回りたくましくなった「静岡県バスケ界の至宝」身長205cm**市川真人**や県選抜選手・**鍋田隆征**を擁する県新人7位・中部予選準優勝の**静岡学園**、2年前の覇者・東部予選3位、昨年度一年間は十分な結果が得られなかったが、コンゴ人留学生・202cmの**フェイ・モハメド**が加わり雪辱を期す**沼津中央**、西部予選3位、**山村吏玖**、**大滝龍**二などメンバーに180cm台の選手を5人抱える**浜松工業**、派手さはないが堅実なプレーでチームを勝利に導く**須藤士恩**を擁する県新人7位・**星陵**などがエコパのコート、その先の東海総体、全国総体を目指ししのぎを削るだろう。

最後に初出場と久々に出場するチームを紹介したい。初出場は創部2年目の**浜松聖星**。1,2年生のみの新進気鋭のチームである。すでに1月の県新人で初の大舞台は経験済みであるが、得点源である**小笠吏規斗**を中心としたフレッシュなバスケットが強豪・沼津中央相手にどこまで通用するか楽しみである。

また昭和40,45年度県総体3位の古豪・**沼津工業**は、東部総体11位決定戦で県新人にも出場した小山相手に2点差で勝利、見事昭和54年以来39年ぶりの県総体出場を決めた。夏場に工業大会で戦いぶりを見た時にはまだまだ荒削りで県大会に届くレベルではないように思えたが、東部新人での11位（県新人出場には届かず）、そしてその後の鍛錬により県切符を勝ち取った。非常に厳しい組み合わせであるが、中部予選王者の藤枝明誠に全力で向かって行き、悔いのない戦いをして欲しい。

女子

一昨年のこの大会から県内負けなし、県高校三大大会6連覇中、県内試合45連勝中の**浜松開誠館**が他の追随を許さない大本命である。県新人も圧倒敵な強さで優勝、続いて挑んだ東海新人では準決勝でインターハイ21回・ウインター 22回の優勝を誇る桜花学園相手に一度もリードを許すことなく62-57で見事勝利、県勢としては平成13年度の常葉学園以来の対桜花学園戦勝利を勝ち取った。前年度の大会でも6点差にまで追い詰めており、大金星というには浜松開誠館にとっては失礼すぎる感さえある。決勝はウインター準優勝の安城学園に惜敗したが言葉には言い表せない価値のある準優勝だった。この常勝チームに対する他チームの包囲網は厚くなるばかりだが、勝って兜の緒を締めるチームの雰囲気に慢心も油断も感じられない。

攻守の柱**は鈴木侑**と**石牧葵**。鈴木は4月に行われたU17日本代表ラトビア遠征にも参加、昨秋のU16アジア選手権（インド開催）に続き貴重な実戦経験を積んだ。切れ味鋭いドライブと粘り強いリバウンドはさらに磨きがかかったことであろう。石牧も3月のU18日本代表アメリカ遠征に参加した。生まれ持ったポテンシャルは誰よりも高く、どんな状況下でもレイアップや3Pを冷静沈着に決めることが出来るプレーヤーである。東海新人でも桜花学園戦28点、安城学園戦25点を挙げ全国トップレベル相手にも十分通用する攻撃力を見せてくれた。

絶大なキャプテンシーを持つ**小幡桃花**はエース2人にディフェンスが密着した時にはパスをつないで周りから攻撃の糸口を見つけて攻められる抜群の状況判断力の持ち主である。昨年県選抜にも選ばれた**伊藤綾優花**は東海新人・名経大高蔵戦では真骨頂の3PPを7本決め勝利に貢献した。元々ディフェンスの足があり球際にも強い選手ではあるが外角からのシュートも正確性が増し、今度は県総体優勝の救世主となるであろう。

下級生に目を移すと**松岡木乃美**は内角の起点となり力強いジャンプショットで得点を積み重ねる。シックスマンの**奈須梓咲**は県新人・東海新人共に全試合出場、徐々にプレイングタイムを伸ばしてきた。特に東海新人決勝では得点も記録し自信もついたはずである。選手層の厚さに加え、スキのないオフェンス、スクリーンへの忠実な対応、素早いヘルプ、徹底したインサイドのディフェンスなどチームは円熟期にさしかかり完成度も高い。西部予選でもそうであったが、県総体でも一つ一つ目の前の試合を「全員で攻めて全員で守るバスケ」で戦い、勝利を積み重ねて県総体3連覇へと突き進むことであろう。

浜松開誠館を横一線で追いかけるのは、県新人で決勝リーグを共に戦った駿河総合、市立沼津、常葉大常葉に加え、ブロック決勝で開誠館に惜敗した藤枝順心の4チーム。

駿河総合は県新人決勝リーグ、得失点差で準優勝を勝ち取り東海新人出場権も獲得した。内外のバランスがとてもよく取れたチームであり、主将・**野村茉由**は度胸よく放たれる3Pや思いきりのよいドライブで仕掛ける1on1が魅力、東海新人・岐阜農林戦では22得点を記録した。得点源である**鈴木美優**は160cmにも満たない小柄ながら、レイアップ・3Pと多彩なシュートで得点を量産、まさに「小さな巨人」である。県新人・常葉大常葉戦ではチーム総得点・74点の半分にあたる37得点を一人で稼ぎ出すなど素晴らしい活躍を見せた。**勝又亜梨沙**はリバウンドを制してのブレイクが絶品、同じくゴール下を守る178cm**加茂恵**はプレーに力強さが増し、インサイドからのオフェンスの起点となっている。中部予選では準決勝で藤枝順心に惜敗して3位、第5シードで臨む今大会、まずはブロック決勝での対戦が予想される宿敵･藤枝順心との戦いを制し、決勝リーグに駒を進めたい。そうすればおのずと3年ぶりの全国総体出場、そして悲願の初優勝まで現実味を帯びてくる。

県新人3位で東海新人にも出場した東部予選覇者・**市立沼津**は杉浦・遠藤という内外角から高い得点源を擁する。外角の**杉浦雅**は県新人・浜松開誠館戦で3P6本、東海新人・いなべ総合学園戦では3P4本を決め、さらにはドライブも絶妙で多彩な個人技で観客を魅了した。インサイドの要である**遠藤真帆**は県総体決勝リーグ3試合で合計70得点、特に駿河総合戦ではフリースロー 11本を含む27点を挙げた安定感のある選手である。2人とも昨年県選抜に選ばれており、特に遠藤は1年次から抜擢され和歌山国体にも出場した。遠藤と共にゴール下を守る**古賀理紗**は日々の精進でローポストだけでなくハイポストまでシュートエリアを広げ攻撃のバリエーションを増やした。**上柳穂夏**は試合中も落ち着いてチームをまとめ士気を上げる大切な役割も担う。古賀、遠藤、杉浦と170cm台3人を生かしてのインサイドプレーで、昨年得失点差で惜しくも逃した全国総体出場を目指す。

得失点差で惜しくも東海新人出場を逃した**常葉大常葉**は危なげない戦いで中部予選を制し、今大会第2シードで賜杯奪還に挑む。司令塔の**北村音緒**はゴール下に果敢に飛び込むリバウンドと高い得点力が特徴、県新人・駿河総合戦では33得点、中部予選決勝・藤枝順心戦では28得点を挙げチームの勝利に多大なる貢献をした。主将・**山地菜月**は藤枝順心戦ではファウルトラブルに遭ったが前半だけで11得点、粘り強いディフェンスとともにオフェンス面でも上達の跡が見えてきた。またスタメンには常時3人の2年生が名を連ねる。**保坂悠月**は持ち前のスピードを生かし、競った展開でも適切な状況判断をして詰めまできちんとやり切れるスマートな選手である。**山口郁実**はリバウンドへの初動が速く、いい位置でボールを支配してブレイクに持ち込んでいく。**林美弥子**はミニ・中学時代のキャリアが抜群、その経験値を生かして度胸あふれるドライブや3Pを見せる。昨年の県総体、そして今年の県新人ともに得失点差で上位大会出場を逃した悔しさをバネに、持ち味の脚力を生かしたトランジションバスケで接戦を粘り勝つ展開をし、3年ぶりの全国総体出場・県総体優勝を狙う。

中部総体準優勝・県新人5位の**藤枝順心**は、藤枝順心中学時代に全中出場を経験した主力が最高学年となり、今年がまさに勝負の年である。長身173cmの**内海遥**はインサイドプレーヤーながら器用に3Pも放つスコアラー、身長はそれほど高くないがシュートの軌道を読みきってゴール下の絶妙な位置でリバウンドを奪う**駒形伊恭**、積極的なディフェンスからオフェンスにつなげる**滝澤有希**、新チームになってレギュラーに定着、低い体勢からのドライブやパスを受けて迷うことなく瞬時に放つ3Pが魅力の**柴田珠リ亜**、その他にもバックビハインドドリブルを得意とする**南部響**、ルーズボール・リバウンドなど泥臭いプレーに汗を流す**望月彩楓**など4強にひけをとらない戦力を誇る。一丸となってフィジカルの強化に努め、最後は個々の1on1の能力を高めていくことを目標に掲げるチームは初の東海大会出場、そして高校でも全国大会出場を目指す。ブロック決勝で予想される駿河総合との今年3度目の対決となる。過去2回は藤枝順心が勝利しているが今回は負けた方が全国への道を完全に閉ざされる大切な試合、勝利の女神はどちらに微笑むのか、今大会屈指の好カードである。

その他、県新人6位・西部新人3位、春の国内強化遠征にも参加したエース・**角本光**を擁する**浜松市立**、県新人7位・西部新人準優勝、上記の強化遠征にも選ばれた177cm・**早崎莉里香**がインサイドで待ち構える**浜松学院**、同じく県新人7位・西部予選4位、県新人・浜松市立戦で3P3本を含む22得点で一人気を吐いた**石橋由衣**を擁する**西遠女子学園**の西部勢に加え、県協会強化トップアスリートにも参加した**鈴木好**が軸となる中部予選4位の**静岡女子**、そして東部予選で初の準優勝を飾った**三島北**も虎視眈々と決勝リーグ進出を狙っている。

最後に男子同様、初出場と久々に出場するチームを紹介して展望を締めくくりたい。初出場は西部10位・**浜松大平台**。創部13年目にして初の県総体出場を果たした。一足早く初出場を果たした今年の県新人では県3位の市立沼津に44-77で敗れたものの、強豪相手に自分たちが持っているすべてを出し切り大健闘した。今回も市立沼津との対戦が決まり、県新人の再戦となる。あの試合で見せた何事にも手を抜かないひたむきな姿勢を忘れずに最後まで悔いのない戦いをして欲しい。

そして西部7位の**浜松東**は平成4年以来26年ぶりの出場となる。今年の県新人にも7年ぶりに出場し、勝利は掴めなかったが静岡女子相手に大善戦、今回は実質的な地区の順位を上げての出場となり、県大会初勝利も視界に入ってきた。チームの信条である「全員守備と速攻」をきちんと試合でも実践し、夢を現実のものとして欲しい。

ウインターカップ2018静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第71回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2018）静岡県予選が平成30年10月20日に県内高校体育館で開幕する。11月11日に**静岡県武道館**で行われる決勝戦の勝者が12月23日に**武蔵野の森総合スポーツプラザ**で開幕する全国選手権大会への出場権を獲得する。今年から2年間は改修工事のために聖地・**東京体育館**を離れることにいささか寂しさを感じるが、昨年から大会名が「選手権」となり名実ともに高校バスケ最高峰となったこの大会、栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

男子

県新人、県総体の大会展望でともに「優勝候補筆頭は飛龍」と綴らせてもらったが、県総体決勝リーグでは飛龍、藤枝明誠、浜松開誠館の3チームが2勝1敗で並び、さらに該当チーム間の得失点も7点差の中に3チームと近年稀に見る大混戦となった。4位の浜松学院も浜松開誠館に延長まで持ち込み、最後にブザービーターで敗れはしたものの、東海総体出場を勝ち取らんと気迫こもる戦いを繰り広げた。この4強に県総体5位の静岡学園を加えたまさに「群雄割拠」の争いが最後の最後まで繰り広げられるであろう。

昨年の新人戦から現在県内大会5連覇中の**飛龍**はインハイでもベスト16、全国の強豪と試合を重ねた分、頭一つリードしている感がある。

もはや説明の必要もないであろうエース**関屋心**は8月の日中韓ジュニア交流競技大会にも参加、堂々のスタメン出場を果たしまた一つ経験値を上げた。チームの大黒柱として活躍を期待されながら、昨年のウインター以来怪我に泣かされ続け、東海総体は出場することすら出来なかった。持ち前の破壊力のあるドライブを武器に、どこからでも点数に結び付けられる1on1の能力がチームの生命線となるであろう。インハイ3試合全国の強豪相手に54得点、華のある稀代のスコアラーがチームを全国の檜舞台に再び導くであろう。関屋と共にチームを支える**杉山裕介**はまさに「オールラウンダー」。この言葉はまさに彼のようなプレーヤーのためにある言葉だ。得意とするディフェンスリバウンドから仕掛けるオフェンス、相手の隙をついての電光石火のスティール、そしてインサイドをドライブで切り裂き確率よく決めるシュートなど何をやらせても器用にこなすユーティリティープレーヤーでこれほど頼もしい選手はいない。

そして杉山と共にゴール下を守るリバウンド王**リュウ・ヤハオ**はこの1年で著しい成長を遂げ、チームの窮地を何度となく救ってきた。特にディフェンス面では体を張ってインサイドを守り、相手をペイントエリアに入れさせない守りを徹底して行った。またオフェンスでは力強いインサイドプレーや相手ブロックをかわす器用なフェイダウェイだけでなく、相手ディフェンスを引き離してアウトサイドからもかなりの高確率で得点を稼ぎ出すことが出来るようになった。広いシュートエリアとブレイクにも対応するスピードなど他の留学生にはない持ち味を今大会でも披露してくれるであろう。

保坂晃毅は1年生ながら飛龍の走るスピードバスケを象徴する選手で、1on1を得意とし攻撃の起点となっている。ゴール下に果敢に飛び込むリバウンドも得意とし、今後キャリアを積んでの更なる飛躍が期待される選手である。県総体決勝リーグでブレイクした**色山輝**は藤枝明誠戦、続く東海総体・四日市工業戦でも3P5本を決めて、勝負強さを十分に発揮した。

その他、決勝リーグ3試合で3P10本、42%という驚異的な成功率を残した**山村祥太郎**、ペネトレイトからシュートまたはアウトレットパスと臨機応変に攻撃のパターンを変えられる**高須崇介**、3Pを得意とする**原田未央**、ドライブ、リバウンドに自分の活路を見出す**原千容**、そしてそんなタレント揃いのチームを抜群のリーダーシップでまとめる**西尾昂也**もいぶし銀プレーヤーとしてチームを支えている。信条である「リバウンドに飛びつき全員で走るバスケ」を展開して大会連覇、そして2年連続県内高校三冠を狙う。

その飛龍を猛追するのが藤枝明誠と浜松開誠館。**藤枝明誠**は留学生を中心としたインサイドを生かすプレースタイルで3年ぶりのインハイ出場を果たした。やはり一番の魅力は3人のマリ人留学生の高さである。

県内最高身長207cm**セコウ・ドゥクレ**は押しも押されもしないチームの屋台骨。他の留学生とタイムシェアしながらも県総体決勝リーグ3試合で60得点。リバウンドやピックアンドロールだけでなく、1on1で相手ディフェンスをひきつけてドライブで抜く駆け引きも覚えた。昨年のこの大会決勝戦ではファウルトラブルに陥り悔し涙を流す場面も見られたが、その後のたゆまぬ鍛錬でメンタル面も強化。敗れはしたもののインハイの能代工業戦では競り合った後半で力強いセンタープレーを繰り返し、それがチームの底力として反映した。200cm**カミソコ・オマール**も空中戦だけでなく、器用なドリブルでディフェンスを抜きブレイクで攻める攻撃の起点となっている。恵まれた体でポストを占め、インサイドでダブルチーム、トリプルチームを仕掛けられても連続してリバウンドを拾い得点を重ね、さらには相手のファウルも誘い出すプレーを得意とし、さらなる成長が楽しみな選手である。197cm**オマール・ディディアン・チュヌ**は留学生枠の関係で今大会は登録外ながら、県新人・県総体でもセコウが負傷欠場した際にベンチ入りし、与えられた役割を必死に果たした。リバウンドに対する執着心も人一倍持ち、チームの状況によっては県武道館でプレーを見られる可能性もある。

以上の留学生たちや192cm**山下輝夫**、194cm**川越大輔**などの大型センター陣に目を奪われがちだが、アウトサイドからだ

けでも十分勝機を見出せる選手層である。シューター・**菊地広人**は相手ディフェンスが甘くなる一瞬の隙を見逃さずドライブに持ち込んでいく。**中村和磨**は広い視野から的確なタイミングでパスを供給する司令塔。現在はシックスマン的な役割に甘んじているが、躊躇なく放たれる3Pはインサイドで守りを固められている時の突破口となっている。主将としてチームを支える**野口嶺**はインサイドにマークが集中している間にスペースを確保し得点に結びつける。そして幾度となく起死回生の3Pでチームを救った**浜本健**などがコートを縦横無尽に走り回り、常にミドルやペネトレイトのチャンスをうかがう。その他**中谷陸人**、**冨永優也**、**早瀬悠斗**などバイプレーヤーも多く抱え戦力も充実、満を持して4年ぶりのウインター出場を狙う。

浜松開誠館はどのチームよりもこの大会にかける思いが強く、背水の陣で大会に臨むであろう。県総体で当時県内チームに対し39連勝中だった無敵の飛龍に死闘の末に逆転勝ち、最終試合でも粘る浜松学院を延長で振り切り、辛くも東海総体出場を勝ち取ったが、優勝した飛龍と得失点差7点、準優勝でインハイ出場を勝ち取った藤枝明誠とはわずか5点差で惜しくも優勝とインハイ出場を逃した。しかしながら東海総体でもインハイ出場を決めていた桜丘にも鮮やかな逆転勝ち、続く四日市工業には敗れたものの互角以上の戦いを繰り広げ、実力はすでに全国レベルにあると言える。今年はタブルエースと称される神田と田中がチームを全面的に支え続けている。

神田誠仁はドライブ、3P、相手をひきつけてのパスアウトに加えて、リバウンドにも献身的に参加する。県総体・藤枝明誠戦では3P3本を含む30得点。特筆されるのはフリースローを13本決めたこと。きちんと落ち着いて狙いを定め、指先まで集中したスナップで放たれるフリースローは絶品である。点取り屋の**田中勇樹**は滞空時間の長い3Pだけでなく、ドライブ、ジャンプシュート、そしてバックシュートとバラエティーに富むシュートが魅力。特に東海総体出場を賭けた浜松学院戦の延長戦で決めたタップシュートのブザービートは今でも脳裏に焼きついて離れない神業であった。この2人が昨年からチームを牽引してきただけに2人の出来次第で浜松開誠館のウインター初出場が決まるといっても過言ではない。

2人をアシストするのは佐原と今井田。**佐原和樹**はディフェンスからの速攻を武器とし、アウトサイドから果敢にゴールを狙う。県総体・飛龍戦では膠着する試合展開の中、残り1分決めたドライブからの3Pでチームに値千金の勝利をもたらした。東海総体・桜丘戦でも3P5本を含む25得点、立て続けに勝利の立役者となった。**今井田大輝**もシュートチャンスを逃さない天才的感覚を持つプレーヤー。劣勢の状況下で力強く放つ絶妙の3Pはチームの士気を大いに上げてきた。桜丘戦では残り1分同点の場面でレイアップを決めて価値ある勝利を引き寄せた。その他、長身189cmの**田中駿**、飛び込みのリバウンドを得意とする**飯島友汰**、桜丘戦途中出場で勝利に貢献した1年生・**川嶋耕平**など戦力も多彩。バリエーションに富んだディフェンスで相手を翻弄し、得意のロースコアゲームに持ち込み勝利を重ねて県総体での雪辱を果たしてくれるだろう。

3チームを猛追するのが**浜松学院**。県総体・浜松開誠館戦延長で見せた鬼気迫る追い上げは賞賛に値するものだった。惜しくも4位に終わり東海総体も逃したが収穫も多かった戦いとなった。

チームの中心はこの試合でも36得点を稼いだ**葉山大誠**。フラッシュしながらポストアップ、そこからターンシュートやドライブに持ち込むテクニックは必見。派手さはないがリバウンドでもチームに貢献、攻守に渡りチームの大黒柱である。司令塔・**新村健心**は以前の3P中心からインサイドに切れ込んでドライブに持ち込むプレーにシフトチェンジ、新たな境地を見出し始めた。忘れてはならないのが、中川と後藤のフレッシュな1年生コンビ。2人とも全中出場経験もあり、キャリアも十分である。共に県総体はすべてスタメン出場、貴重な経験を積んだ。特に**後藤陸人**は決勝リーグ3試合で3P4本を含む29得点、上級生相手に物怖じしないプレースタイルは今後の飛躍を予感させた。

187cm**中川賢人**もインサイドで必死にリバウンド争いを繰り広げ、ボールへの執着心を十分に見せた。大型選手が多く集う激戦区のポジションだけに、さらに強靭なフジカルを作り上げ留学生相手に互角以上に渡り合えるプレーヤーになって欲しい。その他堅実なディフェンスを得意とする**伊藤凪都**、センター陣185cm**于振華**、195cm**陳相廷**、丁寧なボールミートから得意のジャンプシュートに持ち込む**辺田涼介**などがうまく機能すれば、全国ベスト16に入った一昨年以来2年ぶりの優勝も現実味を帯びてくる。そのためにはまず準々決勝で対戦が予想される静岡学園との試合を確実に乗り切りたい。

県総体4強中心の優勝争いに絡んでいくのは**静岡学園**であろう。県新人7位、県総体5位と着実に順位を上げ、今回9年ぶりの4強、そしてさらに上位を狙う。やはりその命運を担うのは「静岡県バスケ界の至宝」205cm**市川真人**。U18ドイツ遠征や日中韓ジュニア交流競技大会にも参加、体に柔軟性が生まれ、膝を使ったプレーが今まで以上に出来るようになった。3Pや鋭いドライブも随所に見せ、派手なダンクも披露、一回りも二回りも成長した。市川だけでなく、県選抜選手として春の強化遠征にも参加した**鍋田隆征**、県新人2回戦・浜松工業戦で劇的なブザービーターを決めた**鈴木建人**、夏に焼津市のモンゴル遠征メンバーにも選ばれた**杉山大起**、**増田尋斗**、そして187cm**永井涼也**、長身191cm、抜群のポテンシャルを誇る**柴田祐希**のセンター陣など4強に負けない厚い選手層を誇る。18年ぶりの優勝に向けて、準々決勝で予想される浜松学院戦が大きな山場となる。

その他県総体6位、5位決定戦では22得点を記録したスコアラー**末永昂士**を擁する**三島北**、県総体・三島北戦で29得点を叩き出した**奥村彗人**、インサイドの要・**加藤麗央**、そして長いリーチを生かしたリバウンドが魅力の204cm**フェイ・モハメド**など戦力の整う**沼津中央**などが県武道館のメインコートを虎視眈々と狙っている。

上記以外の注目選手として、**福本海成**、**紅林慶**（伊豆中央）、**寺崎竜也**、**鈴木真斗**（加藤学園）、**須藤士恩**、**戸田寛大**（星陵）、**田形一真**（清水東）、**杉本健**（清水西）、**鈴木正宗**、**伊東宏人**（静岡）、**小林幹大**、**小坂成**（静岡東）、**林愛翔**（科学技術）、**メラクリノスフィリップ**（静清）、**篠島奏杜**（島田工業）、**玉木健太郎**、**花田竜輔**（浜松西）、**山村吏玖**、**大滝龍二**（浜松工業）、**岡島真之介**（浜松湖東）、**山下颯**（浜松湖北）、**小笠吏規斗**（浜松聖星）などが挙げられる。県武道館でこの選手たちの雄姿が見られることを心から期待する。

女子

女子は現在県内高校大会7連覇、51連勝中、まさに県内敵なしの強さを誇る浜松開誠館が他の追随を許さない状況が続いている。8月の全日本選手権県予選も大学生、社会人を圧倒敵な強さで破り連覇。全カテゴリーを含む県内大会は9連覇、57連勝まで伸ばした。まさに長期政権を築く独走態勢に入ったと言っても過言ではない。そして王者・浜松開誠館を追うのが県総体4強の常葉大常葉、駿河総合、市立沼津になるであろう。

大本命の**浜松開誠館**は高さで劣る分、ゴール下の攻防で主導権を握り、どこよりも走りどこよりも組織的に攻撃を展開していくバスケットを続けてきた。攻守の柱はアンダーカテゴリーの日本代表としても活躍する鈴木と石牧。

鈴木侑は昨年この大会前にU16アジア選手権に出場し準優勝を経験、今年は7月にベラルーシで行われたU17世界選手権の代表にも選ばれ7試合すべてに出場、プレイングタイムも115分を数え27得点、世界の強豪相手に堂々の7位、上位浮上に大いに貢献した。特にベラルーシ戦ではグッドパスを連発し9アシストを記録、アウェー感漂う敵地で開催国相手に勝利を引き寄せた。持ち味はゴール下にドライブで切れ込み、相手守備の動きを見て外からもシュートを決める的確な判断力とシュートエリアの広さであろう。またオフェンスのスペースに走り込み1on1を仕掛けるなどコートを縦横無尽に走り、フィニッシャーとなって得点を重ねるオールマイティーなプレーヤーでもある。世界選手権での貴重な経験から高さ対策は十分、果敢にゴール下やドライブからのレイアップ、ミドルシュートを決めてくれるであろう。**石牧葵**はこの1年間で誰よりも成長した選手であろう。元来キャリアもテクニックもポテンシャルもある選手であったが、怪我に苦しみ十分に自分の力を出し切れない時期が続いた。しかしながら日々練習に精進し努力を重ね、類まれな才能を十分に発揮出来るようになった。鋭いドライブ、ミドルレンジからのジャンプシュート、そして随所で決まる3Pを得意とするスコアラーで、ディフェンスを引き付けてのパスさばき、粘り強いディフェンスなど攻守に渡りチームの要である。今春にはU18アメリカ遠征にも参加、さらにスキルアップして臨んだ県総体決勝リーグ3試合すべて30得点以上、計102点を記録した。東海総体・安城学園戦でも35得点、もはやこの選手を止めるのは至難の技と言える。敗れはしたもののインハイ・八雲学園戦では高さに勝る相手にもドライブラッシュ、スティールからの速攻などで28得点、もはや全国トップレベルのプレーヤーである。鈴木・石牧をいかに抑えるか、果たして実際に抑え切れるのか、他チームにとっては頭の痛い悩みとなるだろう。

劣勢であってもコートで声を出し続け仲間を叱咤激励し、チームを鼓舞する精神的支柱となっているのが絶大なキャプテンシーを誇る**小幡桃花**。昨年まではシックスマンとして縁の下の力持ち的な役割を果たしてきたが、今年に入ってレギュラー獲得、県選抜として出場した東海国体では後半から出場、得点も記録し重責を果たした。**伊藤綾優花**はスピードあふれるプレーでコート狭しと走りまわり、入りだしたら止まらない長距離砲も魅力。戦況を見ながら必要な役割を判断しプレーすることができる。下級生に目を移すと、**松岡木乃美**は内角の起点。強靭なフィジカルを誇り、体を張ったプレーが得意で、ゴール下やローポストでボールをもらいセンタープレーで巧みに得点を重ねる技術を持つ。**大西莉央**は昨年の大怪我から不断の努力で見事復活、東海総体・県立岐阜商業戦で約1年ぶりにコートに帰ってきた。インハイ・西原（沖縄）戦では得点も飾り、まさに力強い戦力が戻ってきた。1年生**山本涼菜**は170cm、待望の大型センター加入となり、課題であったインサイドが強化された。相手マークをインサイドに向けさせ、外からシュートをアシストするスピードあるパスは数ヶ月前まで中学生だったとは思えないほどの完成度である。西原戦では18得点、すでにチームに必要不可欠な戦力である。**塩澤小夏**は8月の全日本選手権県予選で初のスタメン出場、貴重な経験をした。ボディーバランスがよく、シュート確率も上がってきているだけにさらに出場機会を増やし、チームに貢献していきたい。どの試合でも全選手がボールに執着心を持ち、攻めるディフェンスで相手を追い詰め、ボールを勝ち取り相手の攻撃機会を奪う浜松開誠館のバスケットが徹底されれば、大会3連覇はもちろん、ウインターでも全国上位を十分狙えるであろう。

常葉大常葉は言わずと知れたウインター出場16回を誇る名門中の名門。3年前のウインター以来全国出場から遠ざかっていたが、今年の県総体で駿河総合、市立沼津に競り勝ち準優勝、インハイ出場を果たした。インハイでは聖和学園と死闘の末惜敗したが、ウインターへの手ごたえは十分掴んだはずだ。

司令塔・**北村音緒**は得点感覚に優れ、外からのシュート、そして鋭いペネトレーションを得意とする。経験を重ねるたびに精度も上がり、苦境に立たされたチームを救うクラッチシューターである。インサイドのプレーも器用にこなし、プレーの幅も広がったように思える。東海総体・岐阜女子戦では42得点、その高い得点能力は石牧葵と双璧をなす存在である。主将・**山地菜月**は体勢を崩しながらもシュートを確実に決める堅実なプレーヤーで、相手ディフェンスのフォーメーションバランスの隙をうかがい、1on1からレイアップへ持ち込むプレーが特色。ディフェンスも粘り強く、相手が嫌がるほどに密着してボールを奪いに行く。東海国体にも出場した**山口郁実**はチームの状況を見て好機を作るのに必要な動きを見極める天才肌のプレーヤー。リバウンドへの一歩目が速く、ボールの落下位置を予測しながらより良い位置でリバウンドを支配し、ブレイクにつなげて得点を重ねる。東海総体・名古屋女子大学戦は26得点、インハイ・聖和学園戦では29得点と北村とともにチームの攻撃の柱にまで成長した。他にもドライブやパスを待ち構えての3Pを切り札に持つ**林美弥子**、県総体や東海総体では十分な出場機会に恵まれなかったが聖和学園戦では堂々のスタメン初出場、緊張の中38分間献身的なプレーを続け6リバウンドを記録、センターと呼べるポジションがいないチームの中でカットインからパスを受けてのレイアップに持ち込む力強いプレーを見せてくれた**池田桃子**、そしてインハイは怪我で欠場したが、スピードあふれるプレーで観客を魅了し、県総体・市立沼津戦では執念の追い上げで迫ってくる相手に勝負どころで得点を重ね、チームの窮地を救った**保坂悠月**など個々の能力では決して他チームにひけをとらない。「ステイロー」のモットーを忘れずに、全員で攻めて全員で守る一丸となったバスケで3年ぶりの

優勝を狙う。

駿河総合は県総体・事実上のインハイ出場決定戦となった常葉大常葉戦、最後に3P攻勢で怒涛の追い上げを見せたが7点差で惜しくも敗れ、涙を呑む結果となった。この悔しさをバネに背水の陣で今大会に臨む。
得点源の**野村茉由**は要所で決まる3Pとドライブからの1on1に絶対の自信を持つ。ここぞという場面で見せる飛び込みのリバウンドからセカンドチャンスを逃さずシュートを決めるプレーは幾度となくチームを勇気づけ、ピンチを救ってきた。県総体・市立沼津戦でも36得点、東海総体・安城学園戦では9リバウンド24得点を挙げる大活躍を見せた。もう一人のスコアラー**鈴木美優**は160cmの小柄ながらインサイドにカットインしてパスを受けてのレイアップ、3P、ドライブなど多彩なオフェンスバリエーションを持つ。安城学園戦では22得点を挙げて強豪相手にも通用するオフェンス力を見せた。この2人のずば抜けた破壊力は他チームにとって脅威の的となるだろう。**勝又亜梨沙**は持ち味のスピードを利して、リバウンドからブレイクに持ち込むプレーが特長である。県内最高身長178cm、ゴール下を任せられている**加茂恵**はフィジカルのさらなる強化に努め、ひとつひとつのプレーに力強さが出てきた。県総体、東海総体全試合スタメン出場、実戦経験を重ねて経験値を上げてさらにチームに貢献して欲しい。**永石華萌**は野村と共にチームを支える大黒柱、ドライブ、ミートシュートを器用にこなす選手。真骨頂は安城学園戦、いつも以上に執拗なディフェンスを繰り出しスティール4本を記録、まさにお手本となるような積極的なプレーを見せてくれた。シックスマンとしていつでも出場機会をうかがう**佐々木萌**は途中出場でもその実力を遺憾なく発揮するタイプ。ベンチにいても常に身を乗り出して出番に備え、まるで自分が試合に出ているかのように試合にのめり込んでいる。難しい場面で起用されてもすぐに試合に順応し、得意の3Pやドライブで自分のバスケットを貫くことが出来る好選手である。
厚い選手層、そして適材適所に仕事が出来るプレーヤーが多数揃う中、各々自分に与えられた仕事をきちんと果たすことが出来れば悲願の初優勝も十分現実味を帯びてくるであろう。

昨年準優勝の**市立沼津**は県総体4位、全国も東海も逃した。その悔しさを強く胸に刻んで今大会に臨む。チームの主軸は東海国体・岐阜県戦、共にスタメン出場し活躍した遠藤と杉浦。
遠藤真帆は3年連続県選抜選手に選ばれた県内有数のトップアスリート、インサイドの砦である。県総体決勝リーグでも3試合すべてインサイド勝負で80得点、緊張する場面でのフリースローも常に冷静沈着に決める頼れるエースである。**杉浦雅**も遠藤に負けないくらいのキャリア、テクニックを持ち合わせる。決勝リーグ3試合で59点、遠藤と並ぶ得点源となっている。得意のドライブだけでなく、常葉大常葉戦では3P3本とアウトサイドでも勝負出来るのが強みである。長身センター 175cm**古賀理紗**はハイポストまでの広範囲なシュートエリアを持ち、ゴール下でも必死にリバウンドを取りに行き、アウトレットパスを出して外からのシュートにつなげる役割も果たしている。上記3選手に加え、早々にレギュラーを獲得した1年生**齊藤汐海**や県総体では途中出場していい働きを見せた**進藤いづみ**など若い力が台頭してきたので、個々が有機的に機能していけば8年ぶりの優勝も視界に入ってくるであろう。そのためには準々決勝で予想される昨年準決勝の再現カード・藤枝順心との試合を是が非でも勝ち抜きたい。

4強を猛追するのが、県総体5位の藤枝順心と6位の浜松学院。**藤枝順心**は昨年この大会で初の地元・県武道館のメインコート、そして3位入賞を果たし全国が見える位置まで来た。続く県新人は浜松開誠館、県総体では中部総体準決勝で勝利を収めた駿河総合にブロック決勝で敗れ、決勝リーグ進出を果たせなかった。それでも5位決定Tでは他校を圧倒し県新人・県総体ともに5位を勝ち取った。今回は一部主力3年生が引退、苦しい戦いが予想される。しかしながら戦力は充実、今回も打倒4強の一番手に挙げられる。エース・174cm**内海遥**はチームで唯一県選抜に選出され東海国体にも出場、インサイドプレーヤーながら器用に3Pも放ち、時にはボールを支配して1on1で強気に勝負して得点を奪うプレーが醍醐味。2年連続のメインコート進出はこの選手の活躍に委ねられていると言えるだろう。**駒形伊恭**もゴール下のプレーで真価を発揮する選手で、特にオフェンスリバウンドに強く、県総体・浜松学院戦では20得点を獲得、そのほとんどがリバウンドシュートであった。下級生にも**望月彩楓**や**高橋香菜子**など中学時代からキャリアを積んだ選手を多く擁するだけに準々決勝で予想される市立沼津との戦いは壮絶な試合となるであろう。

浜松学院は県総体・浜松市立戦3P5本を含む27得点を記録した**持原光里**の攻撃力が生命線となる。内外から一気呵成に放たれるシュートは入りだしたら止まらない。インサイドには174cm**佐藤佳乃**、173cm**足立玲那**、そして加茂恵と並ぶ県内最高身長178cmの**早崎莉里香**が待ち構える。高さでは県内トップクラスの戦力だけに、準々決勝で予想される駿河総合戦が今から楽しみである。早崎と加茂の大型センター同士、迫力に満ちたマッチアップにも注目したい。

上記以外の注目選手として、**進藤綾乃**、**山田幸**（三島北）、**法月己歩**（沼津商業）、**阿部莉子**、**高橋呉波**（飛龍）、**長谷川舞乃**、**田野原清香**（沼津中央）、**牧田紗季**（清水西）、**増田優真**、**鈴木彩夏**、**川村菜摘**（東海大静岡翔洋）、**森田七海**、**杉本弥月**（静岡西）、**鈴木好**（静岡女子）、**石橋由衣**、**古林真汐**（西遠女子学園）、**大久保涼**（浜松市立）、**坂口可恵**、**大場愛花**、**鈴木碧月**（浜松聖星）、**横山遥香**（浜松商業）などが挙げられる。県武道館でこの選手たちの雄姿が見られることを心から期待している。

今大会は男女とも初出場チームはないが、**吉原**（男子）、**稲取**（女子）が2年ぶりに大会に参加する。そし2年前常葉学園橘（現常葉大橘）と大会史上初の合同チームで出場、見事初戦勝利を飾った**静岡英和女学院**が3年ぶりに単独チームで参加、16年ぶりの単独勝利を狙う。

プレイバック静岡・高校バスケ 2017〜2018

文=中島　洋己（県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

【ウインターカップ】　平成29年12月23日〜　東京体育館

男子代表の**飛龍**は初戦、興南（沖縄）に大勝し勢いに乗る**高知中央**と対戦。前日1人で44点を叩き出した203cm留学生**ジョセフネリー・ジュニア**をいかに封じるかが命運を握ることになったが、**リュウ・ヤハオ**は相手が嫌がるくらいに体を密着させ体力も気力も削いでいくことに成功､「アウトサイドの魔術師」**伊東潤司**も3P8本を決め､13年ぶりのウインター勝利を挙げた。続く3回戦・全中優勝経験選手を多数抱える**実践学園**（東京）との戦い、**関屋心**がドライブ・3Pなど内外から八面六臂の大活躍で快勝、20年ぶりにベスト8進出を果たし念願の**メインコート**に立つこととなった。準々決勝、相手はインハイ3位・**帝京長岡**（新潟）。次々と難敵が続く中、**ティレラ・タヒロウ、ブラ・グロリダ**というトップクラスの留学生に加え、インハイ準決勝で福岡大大濠と4度に及ぶ延長戦を戦い抜いたタフなフィジカルを併せ持つ相手に対し、飛龍は徹底的に鍛え上げたボールさばきでコートをかき回し、インサイドで果敢に肉体をぶつけていく、まさに目指す「スモールバスケット」の集大成のような試合を見せてくれた。惜しくも残り2分で逆転され初の全国4強は果たせなかったが、我々に勇気と希望を与えてくれた証として**月刊バスケットボール**誌の「**ウインターカップ感動大賞**」を受賞した。

女子代表・**浜松開誠館**はU18日本代表・**今野紀花**を擁する名門・**聖和学園**（宮城）の高さに大苦戦。平均身長で4cm勝る相手に前半同点で折り返す。後半は前線から執拗なゾーンプレスで守る相手ディフェンスの包囲網に自慢の攻撃力を封じられる展開、ことごとくシュートコースを封じられ、苦しい体勢で打たされる場面が続いた。結局最後までリズムを掴めず51-63、悔やみきれない初戦敗退となった。それでも徹底マークされたエース**石田悠月**が両チーム最多の26得点をたたき出し孤軍奮闘、翌年からプレーするWリーグでの活躍を予感させた。

【東海新人大会】　平成30年2月　一宮総合体育館、パークアリーナ小牧

今夏の愛知インターハイと同会場での開催となったこの大会、男子は飛龍、浜松開誠館、藤枝明誠、女子は浜松開誠館、駿河総合、市立沼津が出場した。

藤枝明誠は強豪・**桜丘**（愛知）と対戦､終始リードを保ったが残り2秒で同点に追いつかれ延長へ。インサイドの**セコウ・ドゥクレ**が一人気を吐いたが、相手スコアラーのスーパースター・**富永啓生**に合計52点取られて初戦敗退となった。**浜松開誠館**は初戦・**名古屋大谷**（愛知）にロースコアで勝ち、東海新人初勝利、続く三重王者の**四日市工業**戦では善戦したが、**水谷祐葵**に要所でシュートを決められ惜しくも準決勝には進めなかった。**飛龍**は2回戦から登場、初戦は留学生2人を擁する**高山西**（岐阜）に快勝、準決勝の**桜丘**戦・富永への対応に苦慮しながらも接戦を7点差で勝ち抜き決勝へ。**中部大第一**（愛知）との決勝では相手留学生**ブンカー・ンディアイエ**の強引なインサイドプレーに苦戦するが、リュウがゴール下のプレーに活路を見出し必死に喰らいつく。終盤相手シューター**矢澤樹**に決定的な3Pを決められ優勝は逃したが、東海王者を決めるのにふさわしい激戦となった。

女子は**市立沼津**が初戦で**いなべ総合学園**（三重）に惜敗、**駿河総合**は**岐阜農林**に競り勝ち初戦突破したが、続く**四日市商業**（三重）戦では相手の得点源・**堀江ゆうみ**の突破力を止めきれず惜しくも2年連続の準決勝進出は果たせなかった。最後の砦・浜松開誠館は初戦で**名経大大蔵**（愛知）を破った勢いそのままに準決勝で**桜花学園**（愛知）と対戦、この大会31年連続出場を果たして過去3敗のみ、しかも準決勝は30連勝中という強豪相手にチーム一丸で挑み、見事歴史的勝利を飾った。県勢としても桜花学園戦の勝利は平成13年度の常葉学園以来16年ぶりの快挙となった。ウインター準優勝・**安城学園**（愛知）との決勝戦では力尽き敗れてしまったが、非常に価値ある準優勝となった。

【東海高校総体】　平成30年6月　愛知県　パークアリーナ小牧

男子は飛龍、藤枝明誠、浜松開誠館、女子は浜松開誠館、常葉大常葉、駿河総合が出場した。

藤枝明誠は愛知3位の**愛産大三河**にまさかの逆転負けで初戦敗退、**浜松開誠館**はインハイ出場を決めている**桜丘**（愛知）の留学生2人を完全に封じ逆転勝ちの大金星､続く2回戦､東海新人で敗れた**四日市工業**（三重）にリベンジを果たせなかったが、点差は確実に詰まっており県代表としての使命は十分に果たした。**飛龍**は留学生を擁する**高山西**（岐阜）、全国常連の**四日市工業**を撃破し、決勝で東海新人決勝の再現となる**中部大第一**（愛知）と対戦。このあとの愛知インターハイで準優勝を果たすこととなる最強の敵相手にお互い1度も2桁点差に離れない互角の展開、センターの**リュウ・ヤハオ**が勝負どころで3Pを2本決めるなど最後まで懸命にリングに向かったが、最後まで運動量の落ちない中部大第一にあと一歩及ばず、11年ぶりの優勝は逃したが堂々の準優勝を飾った。

安城学園（愛知）と対戦した**駿河総合**はチームの得点源である**野村茉由**と**鈴木美優**が合わせて46点を記録､持ち前の堅いディフェンスも機能するが惜しくも初戦敗退。**常葉大常葉**は初戦・開催地枠でインハイに初出場する**名古屋女子大学高校**（愛知）に快勝、2回戦では**岐阜女子**と対戦、強豪相手に司令塔・**北村音緒**が3P6本を含む42得点という驚異的な攻撃力を披露したが、留学生188cm**ハディ・ダフェ**や高校生最高身長196cm**勅使河原帆南**のインサイドを最後まで止められなかった。**浜松開誠館**は初戦**県立岐阜商業**に快勝、準決勝で東海王者・**安城学園**に挑んだ。終始リードを許す苦しい展開だったが、残り50秒で**山本涼葉**のシュートで同点に追いつき延長戦に持ち込む。最後は安城学園のエース・**野口さくら**に連続得点を許して惜しくも東海新人の再現にはならなかった。3位決定戦では**岐阜女子**とも熱戦を展開、第3Q終了間際に逆転した浜松開誠館は**鈴木侑**、**石牧葵**の高い得点力を駆使して逃げ切りを図るが、残り2秒で岐阜女子・**池田沙紀**の3Pで追いつかれ延長に持ち込まれる。そのまま岐阜女子の勢いに押されて敗れたが、安城学園、岐阜女子という全国屈指の強豪相手に延長戦まで持ち込んだ浜松開誠館の底力とタフネスには驚かされるとともに、今後のさらなる飛躍が期待できる戦いぶりであった。

【全国高校総体】　平成30年8月　一宮総合体育館,パークアリーナ小牧,愛知県体育館

男子は2年連続の飛龍、3年ぶりの藤枝明誠、女子は3年連続の浜松開誠館、そして3年ぶりとなる常葉大常葉が出場した。

藤枝明誠は大相撲名古屋場所でお馴染みの**愛知県体育館（ドルフィンズアリーナ）**で大会最多22回の優勝を誇る古豪・**能代工業**（秋田）と対戦、接戦に持ち込んだが相手の速い寄りへの対応が遅れ、4年ぶりの総体勝利はならなかった。**飛龍**は**光泉**（滋賀）、**文星芸術大附属**（栃木）に快勝、危なげなくベスト16に進み優勝候補の一角、**北陸**（福井）と対戦。序盤から北陸の速い攻めと留学生**ダンテ・スレイマニ**の高さに苦しみリードを許すが、**高須崇介**、**山村祥太郎**が3Pを続けざまに決めて必死に食い下がる。一進一退の攻防が続くが、ディフェンスリバウンドからブレイクという北陸のお家芸を崩しきれず、惜しくも2年連続でのベスト8進出は果たせなかった。

常葉大常葉は**聖和学園**（宮城）と対戦、両チームとも逆転、同点、再逆転を繰り返す壮絶な試合となり、最後はウインターでも浜松開誠館が翻弄された**今野紀花**のオールラウンドなプレー、中でも相手を巧みにかわす軽快なジャブステップに惑わされ2回戦進出ならず。

浜松開誠館は**鵠沼**（神奈川）、そして強豪・山形市立商業を破るアップセットを演じた**西原**（沖縄）を圧倒敵な強さで破り、ベスト8を賭けて挑んだ関東王者・**八雲学園**（東京）戦は息詰まる熱戦となった。昨年ウインターで1試合62得点の大会新記録を樹立した**奥山理々嘉**という超高校級の点取り屋に対し、**鈴木侑**が粘り強いディフェンスで突破口を封じ活路を見出し後半で逆転に成功するが、勝負どころで相手に3Pを決められ4点差の敗戦、最後の最後で力尽きた。

【東海国体】　平成30年8月　OKBぎふ清流アリーナ

たった1枠しかない本出場権を賭けた**少年女子**の熱い戦いが敵地・岐阜で繰り広げられた。

静岡県は県総体4強に藤枝順心の1人を加えた布陣を編成、2週間前のインターハイで準優勝した岐阜女子の単独チーム・**岐阜県**と対戦した。本国体に出るためには岐阜、愛知を連破しなければならないタフな条件下で、前半はコート上の5選手が終始うまくかみ合った静岡県がリードを奪い、12点差で折り返す。特に留学生センターを徹底マークし、完全に攻撃の糸口を封じ込めた。後半に入って一時はその差を14点差にまで広げたが、岐阜県主将**・池田沙紀**のゴール下への鋭いパス運び怒涛のカットイン、躊躇なく放たれる3P、そして巧みなドライブで徐々に点差を詰められ、残り1分33秒で72-73、ついに逆転を許す。その後両チームとも素晴らしいディフェンスを見せ、お互い得点を挙げることが出来ずにタイムアップ。1点差で惜しくも決勝進出そして本国体出場を逃したが、スタメン出場した**鈴木侑**、**石牧葵**、**遠藤真帆**、**杉浦雅**が2ケタ得点を記録、さらに下級生の**山口郁実**、**松岡木乃美**、山本が合わせて15得点、筆舌に尽くしがたい死闘だったとともに今後への光明が大いに見えてきた好勝負であった。

【福井国体】　平成30年10月　福井県営体育館、福井市体育館

静岡県少年男子はフルエントリーで開催される**福井国体**に出場、1回戦から尽誠学園を母体とする**香川県**と対戦、勝てばインハイ3位・東海大諏訪中心の編成となる**長野県**との戦いが待ち受ける。強豪との対戦が続くが、昨年惜しくも3位に終わった悔しさを糧に「オール静岡」で半世紀ぶりの優勝を狙う。

平成30年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

平成30年度第32回**東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選**が平成31年1月26日に**草薙このはなアリーナ**他で開幕する。27日に男女ブロック決勝が同じく草薙で行われ、2月2日に**静岡市北部体育館**で昨年から導入された決勝リーグの初戦と同じく昨年から始まった**5位決定トーナメント**が行われる。翌3日には決勝リーグの残りを**静岡市立高校体育館**で行い、上位3チームが2月9日,10日に地元・草薙で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。平成最後の県新人大会、制するのはどのチームなのか、また28年ぶりに静岡市で開催される東海新人に駒を進めるのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

なお大会最終日の2月3日に平成30年度**（一社）静岡県バスケットボール協会U18優秀選手**の表彰式も行われる。

今大会から年末のウインターカップ2018でともに全国で2勝し、ベスト16の成績を残した男子・飛龍と女子・浜松開誠館が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。

男子

大本命はやはりウインターで、インハイで敗れた北陸に見事雪辱、優勝した福岡第一には敗れたものの確かな足跡を残した**飛龍**であろう。関屋、杉山という絶対的エースは抜けたが、主力も多く残っており、飛龍の代名詞とも言える「リバウンドからのブレイク」を信条としたバスケットは健在。今大会でも優勝候補筆頭である。

新チームのキャプテンとしてチームを引っ張るのはポイントガード・**高須崇介**。ゲームコントロールがうまく、試合展開に応じて攻守のパターンを変えていける器用な選手である。副キャプテンの**色山輝**は得意のロングシュートでチームの窮地を数多く救ってきた。二人ともチーム内で「しかるべきポジション」を与えられ、それが相乗効果となっていくであろう。ウインターカップ3試合で33得点を記録した**保坂晃毅**は1年生ながら物怖じせず、積極的にゴールに向かう姿勢が魅力、わずかなスペースを見つけてドライブシュートやレイアップを狙う新チームの得点源である。U16日本代表候補にも選ばれエントリーキャンプにも参加、チーム信条通りのリバウンドからの速攻にさらなる磨きがかかった。またオフボールポジションにいる時にはパスをもらいに走り続け、シュートチャンスを逃さない姿勢は賞賛に値する。まだまた伸びしろが多い選手なだけにさらなる精進を続けて全国を代表するような選手になってもらいたい。同じく1年生の**古大内雄梨**は果敢に放たれる3Pとその確実性が特長、先月U18日本代表候補にも選ばれた。入りだしたら止まらない3Pは今まで飛龍に代々在籍したシューターと遜色なく、新・アウトサイドの魔術師と言っても過言ではない。対戦チームも彼の3Pを封じるのに苦慮するであろう。

インサイドには試合経験豊富な中国人留学生**リュウ・ヤハオ**が待ち構える。持ち味の力強いリバウンド術だけでなく、器用なドライブやアウトサイドシュートも巧みにこなすようになった。マークマンがドライブに対応してシュートコースを先回りするようなディフェンスをしてくる時にはストップしてジャンプシュートを放つなど考えるバスケットがさらに出来るようになってきた。この選手がオールラウンドな攻めを遺憾なく発揮するようになると飛龍はさらなる百万馬力の強さを得るであろう。その他、成長著しいスコアラー・**松井翔**、強靭なフィジカルを誇り最近は課題であったスピディーな動きも見せるようになった三**橋翔**など先輩たちの「遺伝子」を受け継ぐ戦力を多く抱える。現在県内高校大会6連覇中、そしてこの大会3連覇を狙う王者に油断も死角もないだろう。

飛龍に続くのはウインター県予選準優勝・中部新人覇者の藤枝明誠とウインター県予選3位・西部新人覇者の浜松開誠館。

藤枝明誠はウインター県予選準決勝で浜松開誠館に悪夢のような逆転負けを喫し、全国を逃した。指導者・選手共に思い出したくない試合であろうが、今年も中部新人を制し、仕切りなおして今大会に臨む。やはり中心となるのはマリ人留学生たちであろう。

セコウ・ドゥクレは新チームの柱であり、ゴール下の防波堤として攻守に活躍する。インサイドプレーにも幅が出てきて、今まで以上に力強さも出てきた。県内最高身長の207cmを誇り、その高さは驚異のレベルに達しているので、そこにうまさが加われば鬼に金棒の感がある。**カミソコ・オマール**もセコウ同様200cmの長身を生かしての空中戦が持ち味。さらに高さだけでなく巧みなスクリーンを仕掛けて味方のシュートチャンスを創り出すなどオフボール時の動きにも目を見張るものがある。**オマール・ディディアン・チュヌ**はウインター県予選で4,5回戦に出場、得意のピックアンドロールだけでなくハイアンドローポストプレイを見せて好機を作り出すなど、多彩なオフェンスパターンを器用にこなす姿が見られた。留学生のオンザコートワンの関係で出場機会も限られているが、コートに立てば全力でチームに貢献するはずである。

インサイドにはU18日本代表候補の194cm**川越大輔**もいる。高さにおいてはもちろん県内トップ、他チームの脅威の的と言えるだろう。しかしながら各チームも次第にその高さを研究し、ダブルチームやキックアウト、フェイスガードやフルフロントでの守りなど様々な対応策を練り始めてきた。そのためアウトサイドプレーヤーの活躍にも期待したい。その他、福井国体にも出場した**菊地広人**や3Pシューター**浜本健**、中盤の**中谷陸人・丹藤和輝・冨永優也**など能力や経験値の高い選手も揃っている。ウインター県予選の雪辱を胸に、5年ぶりの優勝を狙う。

浜松開誠館は決勝戦でライバル・浜松学院に競り勝ち、3年連続で西部新人を制した。絶対的エースの神田、田中勇樹、そしてウインター県予選準決勝で大活躍して逆転の立役者となった佐原は抜けたがトップレベルの実力は今年も健在である。
攻撃の柱は福井国体県選抜メンバーの**今井田大輝**。高確率の3Pが持ち味で、常に冷静沈着なプレーは高校生とは思えない逸材である。ウインター県予選・決勝では中盤一時負傷退場したが、痛みに耐えながらもコートに戻り、第3Q終了間際に3Pを決め飛龍に食い下がる姿勢は、勝負を簡単に諦めない怒涛の執念を感じさせ、連日の激戦で疲労困憊するチームの士気を鼓舞した。最高学年になった今、人一倍責任感を感じながらチームをまとめ上げていってくれるだろう。
チーム最高身長189cm**田中駿**は文字通り高さを生かしたプレーに境地を見出している。リバウンドや当たり負けをしないフィジカルを持ち、ウインター県予選準決勝では神田の代わりにスタメン出場、エース不在の時間帯を十二分に補う活躍をした**飯島友汰**や1年生ながらウインター県予選全試合に出場し、持ち前のオフェンス力で勝利に貢献した**川嶋耕平**など、県上位や東海での厳しい戦いから得たものを生かして毎年チームの底上げがなされている。昨年1年間はあと一歩のところで県制覇、そして全国を逃してきた。まずはこの大会で初優勝して県制覇、3年連続の東海新人出場も果たして夏に初の全国出場を目指したい。

上記3強を追うのがウインター県予選3位、そして西部新人準優勝の浜松学院とウインター県予選ベスト8、東部部新人覇者・三島北、そして同じくウインター県予選ベスト8、中部新人準優勝の三島北であろう。

浜松学院は西部新人決勝で浜松開誠館に惜しくも敗れ西部2位での出場となり、雪辱を期する大会となる。昨年は絶対的なエースが不在で苦しい戦いが続いたが、葉山、新村など3年生がよく頑張り、3大大会すべてでベスト4に入った。その中でも1年生3人がスタメン出場を続け、新しい芽も出てきた。インサイドの要・**中川賢人**はウインター県予選・静岡学園戦で厳しい闘いの中、相手のビッグマンを完全に封じチームの勝利をもたらした。ゴール下のプレーには自信を持ち、ペイントエリアで相手にパスを通させない位置取りを徹底して行えるようになった。課題であるスタミナ面も徐々に克服、将来が楽しみな選手である。新・司令塔の**後藤陸人**や**前田晃希**はともにドライブからの得点を生命線とし、チームの得点源である。レベルの高い試合の中でキャリアを積んだ今、さらなる成長を今大会で見せてくれるであろう。

公立の雄・**三島北**は東部新人決勝では沼津中央に勝利、東部新人連覇を飾った。主将の**望月孝太郎**は司令塔、シューター、そしてリバウンダーなどすべてを一人でこなすまさにオールラウンダー。ウインター県予選加藤学園戦では内外角から36得点を記録、チームを初めて聖地・県武道館に導いた。その県武道館での浜松開誠館戦でも3P4本を含む21得点の大活躍、この大会でも華麗なプレーを見せて欲しい。インサイドの**末永昂士**はゴール下のリバウンドプレーだけでなく時折放つ正確な3Pも魅力、上記の開誠館戦でも16得点を稼ぎ出した。昨年の県新人戦、県総体、ウインター県予選とすべてベスト8以上を残し、成績も安定してきた。非常にまとまりのあるチームなだけに一丸となっての頑張りを期待したい。まずは平成24年度の浜松西以来6年ぶりとなる公立高校としての東海新人出場を視野に捉えて大会に臨みたい。

中部新人準優勝の**静岡学園**は昨年のウインター県予選準々決勝で終盤まで浜松学院相手にリードを保ちながら最後の最後、土壇場で逆転され県武道館のメインコートにたどり着けなかった。どの大会でも確実に県ベスト8まで勝ち進むがなかなかその先の大きな壁を打ち破れずにいる。今大会では何としてでも決勝リーグへ駒を進め、まずは東海も制した平成11年度以来19年ぶりの東海新人出場を果たしたい。今回の開催地は草薙このはなアリーナ、10年前まで静岡学園があった場所である。先輩たちの汗が染み込んだ聖地に立つために全力を尽くすであろう。
もちろんその命運を握るのは「静岡県の至宝」、205cm**市川真人**。アンダーカテゴリーの日本代表合宿や遠征で培った色々なテクニックを試合でも遺憾なく披露するようになったが、やはり最大の魅力は日本出身選手で全国一の身長を生かした高さでのプレー、この大会はリバウンドやポストプレーに特化したバスケットに専念した方が、持ち味を十分に発揮できるのではと感じる。いずれにせよ私たちに夢と希望を与えてくれる大器であることは間違いないので今大会での活躍を期待したい。その他、福井国体にも出場した**永井涼也**や国体予備登録選手として遠征にも帯同、黒子に徹しながらパスを裁いて得点につなげていくことが出来るようになった**鍋田隆真**、未完の大器・長身191cm**柴田祐希**、焼津市選抜としてモンゴル遠征にも参加した**杉山大起**、**増田尋斗**など多彩な戦力を擁するだけに、東海新人出場も十分射程距離県内に捉えている。

他にも、各地区大会上位に入った**浜松工業**、**浜松西**、**清水東**、**静岡商業**、**伊豆中央**、**星陵**、**沼津中央**なども虎視眈々と東海新人出場を狙っている。

上記以外の注目選手として**紅林慶**、**福本海成**、**山晶なさにえる**（伊豆中央）、**フェイ・モハメド**（沼津中央）、**田形一真**、**松田岳歩**（清水東）、**望月陽大**（静岡商業）、**佐野大河**（焼津中央）、**大滝龍二**、**黒田敏矢**、**山下晃汰**（浜松工業）、**花田竜輔**、**玉木俊介**、**杉本晋作**（浜松西）、**高橋卓巳**（浜松湖東）、**小笠吏規斗**（浜松聖星）などウインター県予選でも活躍した一級品の選手を擁しており、今大会ではその後の成長を見られるのも楽しみである。

最後に今大会初出場となる2チームを紹介したい。まずは前身の富士宮農業時代も含めて初の県新人出場を決めた**富岳館**。昨年度から県大会を狙える実力はあったが、その力を十分に発揮しきれずに涙を呑んできた。今年度は工業大会3位、そして東部新人7位で堂々の県大会初出場を果たした。出場することだけに満足せずに勝利目指して悔いのない戦いを繰り広げて欲しい。

女子

こちらも現在県内高校大会8連覇、56連勝中、さらには他カテゴリーを含めた全日本選手権県予選も連覇中、社会人・大学生をも寄せ付けない無敵の強さを誇る**浜松開誠館**が頭一つも二つも抜けている感がある。

ウインターでは一関学院に快勝、続く開志国際にも留学生の高さを封じ込み競り勝った。インハイ王者の桜花学園には6点差で惜敗したが、その強さがすでに全国レベルであることを多くの人に知らしめた。鈴木、石牧というアンダーカテゴリー日本代表の2人が抜けたが、全国を経験したプレーヤーを多く擁するその戦力は他の追随を許さない。

新キャプテンに就任したエース・**松岡木乃美**は1年次から主力として活躍する大黒柱である。主にインサイドを任されて、華麗なポストプレー、ゴール下に鋭く切れ込むドライブ、そして体を張って支配したリバウンドから仕掛けられるブレイクなど多彩な攻撃の引き出しを持っている。ウインターでも一関学院戦21得点、開志国際戦14リバウンド19得点など3試合でチーム最多の64得点を記録。ハイレベルな全国の強豪相手にこれだけの得点を記録する攻撃力は他チームの脅威の的となるであろう。右膝の大怪我から昨夏に復帰し、ウインターでも全試合に出場した**大西莉央**も体を張ったプレーでチームを支える。1年次からスタメンとして出場を続け、県選抜にも選出された類まれなポテンシャル、そしてキャリアを持つ大器だけに新チームの要となり活躍をしてくれるであろう。1年生に目を移すと**山本涼菜**が頭角を現してきた。チーム最高身長の170cm、開志国際戦では180cmのセネガル人留学生にマッチアップ、素早くピックアップし相手にボールを持たせないよう徹底的にマークし得点源を封じ込めた。夏過ぎから磨きがかかってきた3Pも3本決め、チームタイの23得点を挙げる大車輪の活躍、勝利に貢献した。要所で確実に決める勝負強さも持ち合わせており、今後チームの柱となっていく注目選手である。

ウインター・一関学院戦で思い切りのよい3Pを3本決め15得点を記録した**黒川菜津菜**も忘れてはならない。初のウインターで途中出場、緊張する間もなく持ち味の3Pを放ちそれを決める勝負度胸は並大抵のものではない。今後さらに出場機会が増えていくであろう。その他、スピードある1on1や鋭いドライブが魅力の**樋口沙彩**、ジャンプシュートを得意とする**奈須梓咲**、天才的なアシストパスを繰り出す**塩澤小夏**、ウインター初得点も記録した**マッカラム杏菜**、ドライブに活路を見出す**中田絵美**など今年も厚い戦力を誇る。チーム全体の特徴でもある、粘り強いディフェンスからの速攻を武器に今年も連勝街道を突っ走り、全国屈指の強豪が集う東海新人へと戦いの場を移していくであろう。

駿河総合はこの大会2年連続準優勝。ウインター県予選準決勝、中部新人決勝で常葉大常葉に連勝、中部覇者としてウインター県予選決勝で敗れた浜松開誠館に挑む。チームの柱はアウトサイドシューター、小さな巨人・**鈴木美優**。ウインター県予選・常葉大常葉戦では果敢に放つロングシュートが随所に決まり、3P5本を含む22得点、闘志あふれるプレーも見せ、数字以上に価値のある値千金の活躍をした。続く決勝の浜松開誠館戦でもチーム最多の18得点。内外角の多彩なシュートレンジから相手をかわしてバリエーション豊かに放たれるシュートは天下一品。今年のチームを支える大黒柱である。インサイドには県内最高身長・**加茂恵**が待ち受ける。ウインター県予選では残念ながら怪我のため出場機会がなかったが中部新人から戦線復帰、チームに心強い戦力が戻ってきた。長身を利してのリバウンドやゴール下はもちろん、ミドルシュートや積極的なディフェンスにも見るべきものがあり、万全な体調で挑む今大会での活躍が楽しみである。その他、ウインター県予選決勝でも出場機会を得た**四竈恵子**や**土勢佳穂**など球際に強いプレーヤーも育ってきており、学校創立6年目にしての初優勝、そして3年連続の東海新人出場を狙う。

東部覇者の**市立沼津**は3年間チームを引っ張った杉浦と遠藤が引退し、戦力的には苦しいが新たにフレッシュな戦力が伸びてきており、今大会の台風の目となる可能性は十分ある。主将の**進藤いづみ**はミドルシュートを得意とし、試合中も常に声を出しモチベーションを高めるチームの精神的支柱となっている。**齊藤汐海**と**西山沙希**はともにウインター県予選準々決勝でスタメン出場、一つ一つのプレーに将来性を予感させた。2年連続の東海新人出場を果たすためにはブロック決勝で予想される駿河総合との戦いが大きな修羅場となるであろう。

常葉大常葉は3年前のこの大会で優勝を逃してから県内大会の優勝から遠ざかっており、賜杯奪還を目指し背水の陣でこの大会に臨む。主力の山地、北村は抜けたが、昨年のインターハイを経験した選手も多く残っており、今年の戦いが注目されるチームである。

得点源は県選抜選手でもある**山口郁実**。リバウンドへの初動対応が早く、ブレイクへの起点となるプレーヤーでミドルシュートの成功率も高い。ウインター県予選・駿河総合戦でもチーム最多の22得点を稼ぎ、新チームとなってもスコアラーとして大車輪の活躍をするであろう。司令塔の**林美弥子**は攻守ともに落ち着いて確実なプレーが出来る好選手である。得意とする3Pも冴え、チームの窮地を救う場面も増えていくであろう。

保坂悠月は怪我でウインター県予選を棒に振ってしまったが、たゆまぬ努力で中部新人から見事復帰、持ち前のスピードあふれるプレーを見せてくれた。保坂の復帰はチームにとって何よりも心強いことであろう。その他、プレー中は常に走り続けレイアップや3Pなどを思い切りよく繰り出す**池田桃子**や、ウインター県予選準決勝でスタメン出場を果たし、ドライブを得意とする**山本光夏**など十分に戦力は整っている。まずは昨年惜しくも得失点差で逃した東海新人出場を確実なものとし、優勝を目指す。

激戦の西部新人を制した2年連続で制した**浜松学院**は3年前のこの大会の覇者、その時は浜松開誠館を破って初優勝を飾り、現王者・浜松開誠館が最後に負けた県内チームでもある。それ以降、ベスト4の壁を打ち破れずにいる。今大会はまずその壁

を突破し、3年ぶりの優勝、東海新人出場を目指したい。
中心となるのはインサイドに待ち構える県内最高身長177cm**早崎琳里香**と173cm**足立玲那**。早崎は優れたリバウンド力とジャンプ力を持ち、オフェンス・ディフェンス両方のリバウンドを高確率で支配する。足立はウインター県予選準々決勝、1年生で唯一出場しかもスタメンで登場し得点も記録した。他にも、長身の170cm**関百花**も控えており、インサイドは県内トップクラスといえる。アウトサイドにはシューターの**山田涼乃**、**白井凛**、中盤には身を挺した果敢なディフェンスが目を引く**杉山琳里香**を擁しており、波に乗れれば東海新人出場の可能性は十分にある。チームが掲げる速いトランジションで走って守るバスケのもと、2年ぶりの優勝を目指すためには東22位の沼津中央または中部3位の駿河総合との対戦が予想されるブロック決勝での勝利が必須条件となる。

ウインター県予選準々決勝では怒涛の追い上げを見せる市立沼津を振り切り、2年連続のベスト4を果たした**藤枝順心**は内海、駒形などの主力は抜けたが、ウインター県予選も下級生中心で試合に臨んでおり、戦力育成に余念はない。
昨年5月から主将を務める**望月彩楓**はまさにチームのコントロールタワー。派手さはないがプレーはいつも冷静沈着、ディフェンス力はチーム随一でルーズボールにも人一倍執着心を見せる。ダブルエースの**望月玲奈**は3Pシューターで、前述の市立沼津戦では3P5本を含む19得点、続く浜松開誠館戦でも11得点、新チームのスコアラーである。その浜松開誠館戦でも途中出場した**高橋香菜子**はスピードを生かしたプレーが持ち味で、特にブレイク時のダッシュ力は一見の価値がある。その他、ゴール下で力強いターンシュートを見せる**佐口愛莉**、ミートしてのジャンプシュートが得意の**石橋里奈**、スピードあるドリブルが魅力の**秋山未来**など全員一丸となって新人大会・総体を通じて初の東海大会出場を狙う。そのためにはブロック決勝で対戦が予想される浜松学院戦が大きなカギを握る。まずは決勝リーグ進出を目指し、全身全霊で勝利を掴みたい。

その他、各地区の上位チーム・**浜松市立**、**西遠女子**、**浜松聖星**、**島田**、**沼津中央**、**三島北**、**沼津商業**なども東海新人出場、そして優勝争いに加わる可能性は十分ある。そういう意味では今年は「群雄割拠」とも言えるかもしれない。

上記以外の注目選手は**稲田凛**、**森山未愛**（沼津商業）、**山田幸**（三島北）、**高橋呉波**、**阿部莉子**（飛龍）、**杉本ももか**、**八木愛理奈**（島田）、**大久保涼**、**池田昱**（浜松市立）、**辻本茉衣華**（浜松商業）、**竹内彩萌**（浜松東）、**鈴木亜子**（西遠女子）、**高林由佳**、**平野未佑**（浜松聖星）などは是非決勝リーグでその華麗なプレーを見たいと思わせる一流の選手たちである。

今大会女子で唯一の初出場校が**浜松大平台**。創部12年目で悲願の初出場。前身の農業経営時代も果たせなかった夢をついに実現させた。平均身長158cmと決して高いチームではないが、日々練習に精進し、チームのモットーである「泥臭いバスケ」が浸透して初の県切符を勝ち取った。初戦は東部王者・市立沼津。非常に厳しい戦いになるであろうが、相手のペースに惑わされることなく、40分間自分たちのバスケットを貫き通して欲しい。

令和元年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

（一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己 （静岡県立科学技術高校教諭）

令和元年度全国高校総体（インターハイ）バスケットボール競技静岡県予選は5月25日に藤枝順心高校体育館他で開幕する。男女とも各地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、26日午前に行われるブロック決勝を制した4校による決勝リーグが同日午後から始まり、6月2,8日には袋井市・**エコパアリーナ**で残りのリーグ戦が行われ、優勝校のみが7月27日から鹿児島県薩摩川内市・**サンアリーナせんだい**他で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月22,23日にエコパアリーナでの地元開催となる**東海高校総体**への出場権を獲得する。今年からインハイの出場枠が男女とも1枠減って「**優勝校のみ**」となり、今までにない過酷な争いとなることが予想される。また併せて、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県（関東は優勝・準優勝）に年末の**ウインターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを擁する県もウインター出場権が「**増枠**」となる。そのためにも各県はより強いチームを東海総体に送り込み、ウインターカップの追加出場枠を獲得する使命も担っていると言えるだろう。

2月に草薙で行われた東海新人大会では藤枝明誠男子がウインター準優勝校・中部大第一を破り6年ぶりの東海制覇、浜松開誠館女子はウインター全国ワン・ツーの岐阜女子、桜花学園に続く3位、改めて男女ともに静岡県高校バスケのレベルの高さを証明した。今大会は全国総体出場がかかる大きな大会、例年以上に狭き門、そして「令和初」の全国切符獲得を目指す選手たちの熱い戦いに注目したい。また今年度もこの大会が**全日本選手権（オールジャパン）**県予選の出場選考も兼ねており、上位2チームが8月に静岡県高校バスケの聖地・**静岡県武道館**で行われる**県代表決定トーナメント大会**の出場権を獲得する。女子は2年連続で浜松開誠館女子が大学生、社会人を破り優勝。この予選は**東京オリンピック2020**でバスケットボールのメイン会場となる**さいたまスーパーアリーナ**で正月に行われる大会につながるので、選手・指導者共にモチベーションが高まっていることに違いない。

今大会も昨年から行われている5位決定Tを継続して実施する。昨年初めて実施されて決勝リーグに勝るとも劣らない白熱した戦いが繰り広げられた。その結果もウインター県予選シード順の参考資料となるだけにこちらも昨年以上に熾烈な戦いが予想される。

男子

やはり優勝候補筆頭は1月の県新人、2月の東海新人を圧倒的な強さで制した**藤枝明誠**。これまでこの展望では藤枝明誠と言えばマリ人留学生たちを中心とした「高さ」を真っ先に挙げていたが、その高さもさることながら今年のチームは外まわりの選手たちも計り知れないポテンシャルを持つ選手が多い。

その筆頭となるのが、昨年の福井国体でも活躍、県協会優秀選手にも選ばれた**菊地広人**。鋭いドライブでゴール下にトップスピードでまわりこむプレースタイルで東海新人決勝ではチーム最多の27得点を稼ぎだした。相棒の岩下にマークが集中する中で相手ディフェンスをかいくぐり得点を重ねていくプレーは相手にとってまさに脅威。ディフェンスでは必要以上にプレッシャーをかけ相手にミスを誘発させてチャンスを呼び込む献身的なプレーが目に付く。本来の司令塔としての役割だけでなく、ゲームコントロールをも行うそのプレースタイルはまさにチームの大黒柱である。中部総体決勝・静岡学園戦でも32得点、ライバル相手に勝利を呼び寄せた。ダブルエースの**岩下恵達**は新人戦からチームに加わった新戦力。試合中コートを縦横無尽に走り回り、飛び込みのリバウンドや躊躇せず一気呵成に放たれるシュートが持ち味。またルーズボールなどの球際にも粘り強いプレーを見せる。さらに東海新人準決勝・美濃加茂戦の第4Qで見せた天下の宝刀・ステップバックシュートも絶品。

この2人を中心としたアウトサイドと有機的にかみ合って藤枝明誠をここまでのし上げてきたのが自慢のインサイド。**オマール・ディディアン・チュヌ**は恵まれた体格を生かしながらピックアンドロールを多用、器用さが目立つようになってきた。また巧みなスクリーンプレーで味方のシュートチャンスを演出、リバウンドでも体を張ってチームに貢献できるようになった。徐々に出場機会も増え自分のプレーに自信が出てきたようにも思える。オマールとプレイングタイムをシェアする**カミソコ・オマール**は類まれなジャンプ力を生かしたリバウンド支配と躍動感あふれるスピードが魅力。チームが得意とするリバウンドからのブレイク攻撃の起点となっている。2㍍トリオの重鎮・**セコウ・ドゥクレ**は昨年のウインター県予選以来実践から遠ざかっている。体調が万全でコートに戻ってくればチームにとってこれほど頼もしいことはない。さらには4月にU18日本代表候補に選出されて強化合宿にも参加した195cm**川越大輔**も徐々にチャンスを掴みつつあり、インサイドは全国でもトップレベルにあるといえる。この内外のつなぎの役割を担うのは**中谷陸人**。派手さはないが堅実なプレーが持ち味でここぞという時にミドルや3Pを効果的に決める勝負強さは今のチームになくてはならない存在である。その他にも3Pシューター**浜本健**、県新人決勝リーグすべてでスタメン出場した**朝比航士郎**、東海新人にも出場した**押金紘輔**、**藤澤晴琉**、**石橋永遠**、**高野敢太**などが控えにおり、戦力も充実している。インサイドとアウトサイドが東海新人の時のように機能し、自慢のピックアンドロールを生かした攻撃が随所に炸裂すれば2年連続のインハイ出場そして5年ぶりの県総体優勝はもちろん、東海総体も制し、6年前に大分インターハイで準優勝してウインター出場枠を静岡県にもう1枠もたらしてくれた再現が見られる可能性も十分にある。

藤枝明誠の独走を許すまいと猛追するのが前回大会覇者の飛龍と中部総体決勝で藤枝明誠と死闘を繰り広げた静岡学園、そ

して西部総体を制した浜松開誠館であろう。

飛龍は平成29,30年と2年連続で県高校三冠を達成してきたが、今年の県新人で藤枝明誠に惜敗、2位に甘んじた。続く東海新人では準決勝で愛知王者・中部大第一に敗れたものの、三重王者・四日市工業、岐阜王者・美濃加茂に快勝、東海3位を勝ち取った。3連覇を目指す今大会は藤枝明誠への雪辱を期して臨むであろう。

チームの要は、インサイドに構える中国人留学生**リュウ・ヤハオ**。リバウンドやローポストでのジャンプシュートだけでなく、時に鋭いドライブも見せるようになった。また最上級生となり自覚も芽生え、インハイやウインター、国体などの全国大会で得た経験値も十分、キャリアという点ではチーム随一である。同じく3年生では勝負所で威勢よく放たれる3Pが魅力の**色山輝**、抜群のリーダーシップでチームの精神的支柱となっている**高須昂也**、ガードとして見事開花した**松井翔**などがチームを支える。

下級生に目を移すと、すでにチームの中心的な役割を任されている**保坂晃毅**が光る。U16日本代表候補として合宿にも参加し、日の丸を背負う重圧を感じながらも貪欲に技術習得に努めた。アグレッシブなドライブが持ち味で、スピードあふれるプレーも魅力。インハイ、ウインターと全国の檜舞台を経験し、場数を踏んだ分ますますプレーに味が出てきた。以前見られたマッチアップする大型選手への寄りの甘さも東海新人を見る限り見事修正されており、今大会でもますますの成長が期待される選手。U18日本代表候補に選ばれた経験を持つ**古大内雄梨**は怪我のため県新人決勝リーグには出場できなかったが東海新人で見事戦線復帰、四日市工業戦では途中出場にもかかわらず鋭いドライブや3Pが冴え渡り14得点を記録して復活を印象づけた。他にも、リバウンドに自分の境地を見出しプレーが安定してきた**三橋翔**、長身187cm、東海新人全試合にスタメン出場を果たし得点を重ねた**鳥見勇敬**、県新人・東海新人でタフショットをことごとく決め一躍脚光を浴びた**遠藤歩夢**など藤枝明誠と互角に渡り合えるだけの戦力は十分持っている。決勝リーグで待ち構える強豪との戦いを制し、3年連続17回目のインハイ出場を勝ち取りたい。

静岡学園は県新人3位、そして10年前まで学校の体育館があり先輩たちの汗が染みこんだ場所に新たに建った草薙このはなアリーナで行われた東海新人ではウインター 3位の桜丘に快勝、続く美濃加茂戦は敗れたものの最後の最後まで1点を争う好ゲームを繰り広げた。

大黒柱は言わずもがな、「静岡県バスケ界の至宝」205cm・**市川真人**。U22日本代表候補にも選れ、現役高校生では唯一、もちろん30名中最年少での選出であった。静岡県だけではなく日本期待の和製ビッグマン、色々な経験を積んで持ち味のインサイドプレーだけでなく、器用なフックシュートや迫力あるドライブ、アウトレットパスを受けての3Pも難なく決めるオールラウンダーに見事成長した。県外相手の公式戦初陣となった東海新人では、リトアニア、セネガル、ナイジェリア出身の留学生と堂々マッチアップ、リバウンド争いに互角以上の働きを見せた。課題であった重心の高さも膝を使って腰の位置を低くして対応、ゴール下の激しい戦いで押されてぶれる場面が見られなくなった。中部総体でも藤枝明誠の留学生と互角以上の攻防を見せ、県総体で予想される再戦が今から待ち遠しい。**永井涼也**は高校になって急成長した選手で市川と共に今やチームを支える屋台骨である。強靭なフィジカルを誇り、ディフェンスが待ち構えるゴール下に果敢にカットイン、丸太のような筋肉で固められた腕から繰り出されるレイアップは圧巻。また数多くのシューターを抱えるのも静岡学園の特徴である。3年生シューター・**柴田祐希**は人並外れたポテンシャルを持ちながら昨年まで出場機会に十分恵まれなかったが今年の新人戦からレギュラーに定着、他のチームにはなかなかいない191cmの長身シューターである。元来センタープレーヤーではあるが、インサイドは市川に任せ、スモールフォワードに自身の活路を見出して一気に開花、桜丘戦では初の檜舞台で3P6本を決める離れ業を見せた。

2年生シューターは**良知宏大**。県新人決勝リーグ3試合で44得点をマーク、まさに点取り屋の異名通りの選手で特に終盤勝負所での得点が目立つ。県新人・藤枝明誠戦では第4Qだけで12得点、先日の中部総体決勝でも第4Qだけで9得点、まさに苦しい時の救世主的な働きが目立つ。この個性派軍団をまとめるのが主将で司令塔、ゲームメイクも担う**鍋田隆征**。県新人決勝リーグ3試合で3P11本、東海新人2試合で4本、中部総体決勝では第4Qで3連続3Pを含む43点を稼ぐなどチームに必要不可欠な存在である。鍋田の魅力はただやみくもに打つのではなく、ひたすら好機を待って的を絞りながら長距離砲を放つことである。また東海新人2試合とも先発出場し勝負強さを発揮した**小川大新**なども成長著しい。チームの主力が3年生となり気力も戦力も充実、今大会を制し、全国ベスト8に入った平成12年以来19年ぶり3度目の全国出場を狙う。

浜松開誠館も西部総体を制し、昨年この大会わずかな得失点差でインハイ出場を逃し、さらに県新人でも4位に終わり東海新人をも逃した苦い思いを胸にこの大会へ臨む。

全体が一丸となって貪欲な執着心でゴールに向かう姿勢が印象的なチームであり、そのチームの中でも押しも押されもせぬ大黒柱は**今井田大輝**。常に落ち着いてプレーができる選手でチームメイトにも一目置かれる存在である。県新人決勝リーグでは3試合ともチーム最高得点を記録、合計3P16本を含む75得点をたたき出しスコアラーとしての重責を十分に果たした。これほど高確率で3Pが決まる選手は近年県内では見られなかったまさに「アウトサイドの魔術師」である。それほどの逸材であると言っても過言ではない。1年時からキャリアを十分に積み重ねているだけにこの選手の存在が浜松開誠館の命運を握っているだろう。その他にも、県新人決勝リーグで3P13本を決めるなどシューターとして立派に成長した**岡龍之介**、チーム最高身長189cm・**田中駿**、まさに「戦場」と化しているゴール下から必死にシュートを放つ**飯島友汰**、小柄ながらも果敢にゴール下までドライブし確実にシュートを決める**近田都和**、出場機会も増え得意なアウトサイドシュートが目立つようになってきた**宇野至音**など他チームに引けを取らない厚い選手層を誇る。コート上の選手がうまく連動し人もボールも動く機動力あふれる展開ができれば一気に初優勝、初の全国大会出場も見えてくる。

上記4強を猛追するのが西部総体準優勝の浜松学院と東部総体準優勝・星陵。**浜松学院**は県新人ブロック決勝で飛龍に敗れ、

3大大会では5年ぶりに4強進出を逃した。手堅いディフェンスが持ち味で、ドライブ・カットインともに一人の動きだけでは簡単に中に切り込ませない鉄壁の守りを誇る。

司令塔の**後藤陸人**、冷静沈着に得点を稼ぐ**辺田涼介**、ゴール下の体を張ったプレーが信条の**中川賢人**、鋭いドライブが持ち味の**大庭颯馬**がチームを支える。ブロック決勝で対戦が予想される西部総体決勝の再現・浜松開誠館との戦いが大きな山場となるであろう。**星陵**は東部新人5位に終わったが、東部総体では沼津中央・加藤学園と強豪を連破し準優勝。第6シードとなり今大会の台風の目となることであろう。**佐野悠斗**、**佐野謙斗**、**中村樂斗**、**渡邉柊**などが中学時代から同じチームでプレーしてきたのでチームワークも良くプレーも阿吽の呼吸、攻守にわたり非常にバランスが取れたチームである。ブロック決勝で対戦が予想される静岡学園戦は全身全霊でぶつかって初の決勝リーグ進出を目指す。

その他、県新人7位、パスからゲームを作りそこから隙を見て中に切れ込みゴールをアシスト、ボールマンが困る前にパスの受け手が必ず出てくる意識の高いバスケで西部総体でも浜松学院を苦しめた**浜松工業**、中部総体3位、192cmの長身を利して内外角どこでも器用にこなすマルチプレーヤー**田形一真**を擁する**清水東**、そして東部新人覇者、県新人7位、東部総体3位の**加藤学園**がまずは決勝リーグ進出、その先の東海総体出場を虎視眈々と狙う。

注目選手としては、**服部龍雅・鈴木真斗**（加藤学園）、**望月孝太郎・末永昂士**（三島北）、**小林優里・谷口海輝・小林亮介**（沼津中央）、**福本海成・山品なさにえる**（伊豆中央）、**木元杏児**（富士宮東）、**白井咲弥**（三島南）、**鈴木凌真**（下田）、**松田岳歩・横井颯大**（清水東）、**望月陽大・椙本翼**（静岡商業）、**小坂成・永岡想**（静岡東）、**鈴木正宗・吉岡倫太郎**（静岡）、**中村泰樹・永石圭**（焼津中央）、**篠島奏杜・杉本航海**（島田工業）、**山本晃正**（静岡市立）、**花崎海**（清水西）、**大滝龍二・河村颯哉・山下晃汰**（浜松工業）、**高橋卓巳・石田翔大**（浜松湖東）、**小畑樹**（浜松商業）、**花田竜輔・黒田敏矢・玉木俊介**（浜松西）、**小笠吏規斗・天野佑哉**（浜松聖星）、**鈴木涼央**（磐田南）、**池田英二**（袋井商業）を挙げさせていただきたい。

最後に今大会も男女を通じて唯一初出場となるのが**富岳館**。**田村魁利**、**藤田亮汰**を中心にチーム一丸となって県総体初出場を果たした。今年の県新人にも初出場、その時は初戦で焼津中央に惜敗したが、今回は東部6位での出場、今度こそ県大会初勝利に手が届くところまで来た。悲願の初勝利を目指し、全力で相手に立ち向かっていって欲しい。

女子

3年前のこの大会から県内負けなし、県高校三大大会9連覇中、県内高校相手に62連勝中の**浜松開誠館**が今回も他の追随を許さない大本命である。県新人も圧倒的な強さで優勝、続いて挑んだ東海新人2回戦で前回覇者の宿敵・安城学園に勝利、準決勝ではウインター覇者の岐阜女子に敗れたが、3位決定戦では名古屋女子大学高校に快勝、全国随一の激戦区・東海でも底知れぬ強さを見せてくれた。今大会でもこの常勝チームに対する他チームの包囲網は厚くなるばかりだが、これだけ勝ち続けても「勝って兜の緒を締める」チームの雰囲気に慢心も油断も感じられない。

チームの中心は**松岡木乃美**。1年時からの公式戦出場で得た貴重な経験を現在主将という立場からチームメイトにフィードバックしながらチームを牽引している。右からのドライブや刹那に振り返ってのジャンプシュートが得意な選手で、東海新人3試合で74点を獲得した。自ら率先して体を張ったプレーでチームを鼓舞し、手本となりながら仲間にいい刺激を与える模範的な面も持ち合わせる。気持ちで負けないタフなディフェンスも魅力で、粘り強く守って得意の速攻につなげていく攻撃の起点でもある。常に勝利が求められる厳しい重圧の中でも、攻守に抜群の働きを見せるエースが今大会でも期待にそぐわぬ活躍を見せてくれるだろう。右ひざの大怪我を昨年見事に克服、県新人・東海新人すべてにスタメン出場して第一線に戻ってきた**大西莉央**の完全復活は浜松開誠館にとっては何よりも心強いことである。粘り強いディフェンスや飛び込みのリバウンド、鋭い切れ込みのドライブが得意で1年次から県選抜選手に選ばれるなどその実績の数は枚挙に暇がない。松岡と共にチームの要となり、さらなる飛躍が期待される選手である。

インサイドを守る**山本涼菜**はウインターの開志国際戦や桜花学園戦、東海新人の岐阜女子戦で県内では外国人留学生とのマッチアップを経験、一見するとミスマッチになってしまう可能性もあるなか、臆することなく果敢にリングへシュートを放ち得点を量産してきた。そしてディフェンスでも常に面取りを意識し、シールして相手の攻撃糸口を封じる徹底した守備は自分より背の高い相手とマッチアップした際の教科書を見ているようである。県新人では時折3Pを放つ姿も見られ、まさに内外でバランスの取れた素晴らしい選手である。昨年のウインターデビュー戦で15得点を挙げて注目された**黒川菜津美**は度胸良くかつ正確に放たれる3Pが持ち味。東海新人・安城学園戦でも決めた得点はすべて3P、途中出場ながら効果的に6本決めて勝利の立役者となった。今後は相手のマークも厳しくなり自由に打たせてもらえない場面もあるだろうが、好機を逃さず果敢にゴールを狙って欲しい。**塩澤小夏**は県新人決勝リーグでは途中出場だったが、東海新人では3試合すべてにスタメン出場、着々とチャンスを掴んできた。さらにプレイングタイムを増やし、得点に絡めるようになるとレギュラー定着も見えてくるだろう。その他にも、ジャンプシュートやスピードを生かした1on1が得意な**奈須梓咲**、東海新人3位決定戦で終盤に途中出場、鮮やかに連続シュートを決めた**中田絵美**、スピードあふれるドライブが魅力の**樋口沙彩**、そしてU16日本代表にも選ばれニュージーランド遠征にも参加、得意とするドライブとジャンプシュートにさらに磨きがかかった**マッカラム杏菜**など戦力は全国の強豪と比べて全く遜色ない。この大会でも自分たちが追い求めるバスケットを貫き通し、大会4連覇、そして6度目のインハイ出場を果たしたい。

ストップ・ザ・浜松開誠館の一番手に挙げられるのは、県新人準優勝、そして中部総体も制した**常葉大常葉**であろう。昨年

の県総体では準優勝して3年ぶりにインハイ出場を果たした。しかしながら今年のインハイ出場枠は「1」、優勝チームしか出場権が与えられないため、常葉としては是か非でも王者・浜松開誠館を倒し2年連続のインハイ出場を果たしたい。

チームの要は昨年も県選抜選手として活躍した**山口郁実**。チームの得点源でもあり、県新人決勝リーグ3試合で脅威の94得点、特に浜松開誠館ではチーム総得点の7割強に相当する44得点を記録、ドライブ、3P、ミドルシュート、ディフェンスを引き付けてのアシストパスなど大活躍で孤軍奮闘をした。リバウンドからブレイクを出す初動が速く、相手ディフェンスが整う前にアウトナンバーを生かして得点に結びつけられるうまさを持っている。東海新人・皇學館戦でも30点、中部総体決勝・島田戦でも25得点をマーク、どんな試合でも安定して得点を積み重ねていけるプレーヤーでチームにとってはこれほど頼もしい選手はいない。山口と共にチームを支えるのは**林美弥子**。始動が速く、試合早々から躊躇なく得意の3Pを放ち、常時リードを保ちながら優位に試合を運んでいく常葉のスタイルを率先して実践する選手である。チームの窮地を救い、流れを劇的に変えるような3Pを数多く決めてチームに貢献してきた。山口と林の頑張りが賜杯奪還へのカギを握るであろう。

その他にも、県・東海新人でも活躍し激しいトランジションにも持ち前のスピードで機敏に対応する**池田桃子**、怪我からの復調具合が気にかかるが出場機会があれば大きな戦力アップとなる**保坂悠月**、皇學館戦にスタメン出場し共に2桁得点を記録した2年生コンビ**山本光夏・本間海麗**、そして1年生ながら中部総体決勝にもスタメン出場、3P2本を含む18得点を記録した**市川凛香**など、1年生から3年生までバランスよく戦力として機能し、ここまで勝ち続けてきた。常に心掛けてきたチームワークの強化も徹底しており、手堅いディフェンスをした上で、リバウンド、3P、カッティングプレーで得点を量産し、4年ぶりの優勝そして23度目のインハイ出場を目指す。

常葉大常葉とともに打倒浜松開誠館を目指すのは中部総体準優勝・**島田**。昨年の県総体はベスト16、新チームで挑んだウインター県予選は初のベスト8、聖地・県武道館のコートを踏んだ。その勢いで臨んだ県新人は初の決勝リーグ進出を果たしながらも最終戦・駿河総合との3位決定兼東海新人出場決定戦で力尽き4位に終わり、惜しくも地元開催の東海新人出場を逃した。しかしこのチームは大会の度に順位を上げており、中部総体準決勝では県新人で敗れた駿河総合に雪辱、中部2位で臨む今大会でも県新人以上の結果、すなわち3位以上・東海総体出場を最低ラインとして目標設定し大会に臨むであろう。何よりも昨年5月から現在のチームを新チームとして始動させており、他のチームよりも活動期間が長く、実戦経験が豊富なところもチームの強さの秘訣と言える。

チームの中心は司令塔・**杉本ももか**とインサイドの**丸目陽**。杉本はドライブ、3P、リバウンド、ルーズボール、そしてゲームコントロールなどすべてをそつなくこなすまさにオールラウンドプレーヤー、一人で十分ゲームメイクできる選手である。ディフェンス面ではボールへのプレッシャーが厳しく、相手のパスを通らせないようディナイも欠かさない。相手の不用意なパスに対しては容赦なくスティールを仕掛けワンマン速攻に持ち込むスキのない選手である。得点力もあり中部総体決勝・常葉大常葉戦では21得点、攻撃の突破口でもある。166cm・インサイドの丸目は他チームのセンターと比べ身長が劣る分、スピードで対抗、コート狭しと精力的に走る姿が印象的である。当たり負けしないポストプレーや力強い1on1の仕掛けが巧みなだけでなく、シールも基本に忠実でまさに相手の攻撃を「ふさぐ」お手本のようなディフェンスをする。その他にも、厳しいディフェンスから攻撃のリズムを作る**鈴木美沙**、相手のヘルプディフェンス時に生じるわずかなスペースを見逃さずに絶妙なグッドパスを繰り出し得点の機会を与える**渡邉彩乃**など厚い戦力、初の東海総体出場に向けて「機は熟した」感がある。

その他の注目チームとして、東部総体覇者・市立沼津、西部総体準優勝・浜松学院、中部総体3位・静岡西、同じく4位の駿河総合を挙げたい。

市立沼津は東部1位で出場した県新人2回戦で東海大静岡翔洋にまさかの敗戦、仕切り直して臨んだ東部総体では見事優勝、新たなる決意で今大会に臨む。ミドルシュートが得意な**進藤いずみ**、司令塔・**西山沙希**、3Pを得意とする**滝口祐里**、チーム随一の実戦経験を持つ**齊藤汐海**に加え、シューターやインサイドを守る有望な新入生も加わった。まずは2回戦で対戦が予想される西部新人3位、ゲームを通じてトップスピードで戦い続け運動力が落ちないだけのフィジカルを全員が持つ**浜松聖星**との戦いが上位進出への試金石となるであろう。

県新人7位の**浜松学院**は二枚看板のセンター陣である177cm県内最高身長・**早崎莉里香**と173cm・**足立玲那**のプレーに力強さが増し、インサイドに安定感が出てきた。加えて足立は3P、早崎はドライブなど幅広いプレーも見られるようになった。相手が意識をインサイドばかりに置くと外角から**金井凛莉**や**白井凛**が3Pやミドルを決める。特に白井はディフェンスの位置に応じてシュートとドライブを適切にセレクト出来る技術を持ち合わせる。安定した得点力を持つ**藤田亜未**や相手をかわすのが上手い**金谷百々子**、長身170cm・キャリア抜群の**関百花**など多彩な戦力を擁し、まずは初の決勝リーグ進出を目指す。そのためにもブロック決勝で予想される県新人で敗れた島田との再戦が正念場となる。

県新人5位の**静岡西**は中部新人・県新人・中部総体で常葉大常葉に敗れたものの3試合すべてで常葉に肉薄、県新人でも5位決定Tを勝ち切り今大会は第4シードで出場、初の決勝リーグ進出そしてその先の東海総体出場まで射程距離圏内にとらえてきた。左右どちらからでも抜群のドライブを見せる**菅原希美・岩野怜華**はきちんとコースを見極め十分なスペースコースを作ってからの仕掛けが魅力。主将として抜群のリーダーシップを発揮しチームを掌握する**梶山来愛**、そして中部総体・3位決定戦では25得点、今やチームのスコアラーとして大活躍している**北條明星**など戦力は十分に揃っている。静岡西最大の魅力は非常に粘り強いこと。劣勢を強いられても必死に食らいつき絶対に離されないよう追いすがり、最後まで集中力を切らさない。負けた試合もすべて数点差以内に収めている。決勝リーグに行けば得失点が大きく影響することもあるのでどのチームも粘りが重要なカギとなる。まずはブロック決勝で予想される駿河総合との再戦に勝ち、初の決勝リーグに駒を進めたい。

県新人3位・東海新人にも出場した**駿河総合**は第5シードで今大会に臨む。やはりカギを握るのは、県新人決勝リーグ3試合で66得点、東海新人・四日市商業戦でも17得点、闘志あふれるプレーと3Pが持ち味である「小さな巨人」**鈴木美優**のシュート力と県内最高身長178cm**加茂恵**や171cm**佐々木聖愛**など高さのあるセンター陣の頑張りであろう。他にもウィングからの1on1を随所に見せる**小原嘉佳**やリバウンド、ルーズボールなど球際の泥臭いプレーにも汗を流す**四竈恵子**などいぶし銀の選手も多く抱える。県新人では中部新人で敗れた島田に競り勝って東海新人出場を決めた。今回も中部総体で敗れた静岡西とブロック決勝での対戦が予想される。駿河総合にとっても絶対に負けられない一戦となる。

注目選手としては、**石坂瑠海・益田空羽**（加藤学園）、**稲田凛・森山未愛・笹原遥奈**（沼津商業）、**阿部莉子・高橋呉波・渡邊七海**（飛龍）、**山田幸**（三島北）、**平松優希**（富士宮北）、**望月彩楓・服部満里奈・高田晴妃**（藤枝順心）、**杉村泉・川村菜摘**（東海大静岡翔洋）、**原川知裕・吉永芽生**（静岡東）、**清水万尋**（清水南）、**山寄優衣**（静岡市立）、**寺本小雪・天野由麻・平野未祐**（浜松聖星）、**大久保涼・花田明音**（浜松市立）、**金子愛・辻本茉衣華・酒井柚葉・鈴木茉実奈**（浜松商業）、**堀野仁海**（浜松日体）、**桑原花奈**（掛川東）、**竹内彩萌**（浜松東）、**鈴木亜子・田開理生**（西遠女子学園）を挙げさせていただきたい。

【参考資料】　東海高校総体

年度	開催場所	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
H26	小牧	中部大第一	藤枝明誠	沼津中央	岐阜農林	桜花学園	安城学園	岐阜女子	常葉学園
H27	浜松	桜丘	中部大第一	飛龍	岐阜農林	桜花学園	岐阜女子	四日市商業	安城学園
H28	岐阜	中部大第一	沼津中央	浜松学院	四日市工	桜花学園	岐阜女子	いなべ総合	浜松開誠館
H29	四日市・鈴鹿	中部大第一	桜丘	飛龍	安城学園	岐阜女子	桜花学園	浜松開誠館	四日市商業
H30	小牧	中部大第一	飛龍	美濃加茂	四日市工	安城学園	桜花学園	岐阜女子	浜松開誠館
R元	浜松	桜丘	中部大第一	藤枝明誠	飛龍	桜花学園	岐阜女子	名古屋女子大	安城学園
R２	岐阜	新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止							
R３	伊勢	中部大第一	富田	高山西	浜松開誠館	岐阜女子	桜花学園	浜松開誠館	名経大高蔵
R４	一宮	中部大第一	桜丘	富田	高山西	桜花学園	岐阜女子	名経大高蔵	安城学園
R５	浜松	藤枝明誠	美濃加茂	中部大第一	桜丘	桜花学園	浜松開誠館	岐阜女子	星城
R６	岐阜	美濃加茂	藤枝明誠	高山西	中部大第一	岐阜女子	桜花学園	浜松開誠館	安城学園
R７	四日市								

東海高校新人大会

年度	開催場所	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
H26	浜松	桜丘	中部大第一	飛龍	四日市工業	桜花学園	岐阜女子	常葉学園	四日市商業
H27	岐阜	中部大第一	沼津中央	浜松学院	四日市工業	桜花学園	岐阜女子	星城	安城学園
H28	名張・伊賀	中部大第一	飛龍	桜丘	四日市工業	岐阜女子	桜花学園	浜松開誠館	駿河総合
H29	小牧・一宮	中部大第一	飛龍	桜丘	四日市工業	安城学園	浜松開誠館	桜花学園	四日市商業
H30	静岡	藤枝明誠	中部大第一	飛龍	美濃加茂	岐阜女子	桜花学園	浜松開誠館	名古屋女子大
R元	岐阜・大垣	中部大第一	美濃加茂	富田	四日市工業	桜花学園	岐阜女子	浜松開誠館	安城学園
R２	津	新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止							
R３	豊田	新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止							
R４	袋井	藤枝明誠	美濃加茂	中部大第一	桜丘	桜花学園	岐阜女子	安城学園	星城
R５	岐阜・大垣	美濃加茂	藤枝明誠	桜丘	中部大第一	桜花学園	岐阜女子	星城	浜松開誠館
R６	四日市	藤枝明誠	高山西	富田	美濃加茂	岐阜女子	桜花学園	四日市メリノール学院	浜松開誠館
R７	一宮								

ウインターカップ2019静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第72回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2019）静岡県予選が令和元年10月19日に県内高校体育館で開幕する。11月10日に**静岡県武道館**で行われる決勝戦の勝者が12月23日に**武蔵野の森総合スポーツプラザ・エスフォルタアリーナ八王子（八王子市総合体育館）**で開幕する**全国選手権大会**への出場権を獲得する。今年からウインターカップの出場校枠が大幅に増え、男女各60校となり例年以上に盛り上がることが予想される。また来年から年末にはU15選手を対象とした**Jr.ウインターカップ**が予定され、U18のウインターカップは年始開催に移行する予定である。今年で32年間続いた年末開催も一区切り、そしてオリンピック改修工事の影響で聖地・東京体育館を離れることにいささか寂しさを感じるが、元号が「**令和**」に変わり初めて開催される高校バスケ最高峰の戦い、その栄冠をつかむのはどのチームなのか今から興味が尽きない。

男子

今年は県総体を制した飛龍と県新人を制した藤枝明誠の2強を中心とした優勝争いが予想される。両チームの今年の対戦成績は藤枝明誠の2勝1敗、この「1敗」で明誠は今年から1枠となったインハイ出場を逃しただけに、このウインターは両チームの最終決着戦の様相を呈していくであろう。

昨年度覇者・**飛龍**は一昨年・昨年と県内高校三冠を達成。ウインターでも2年間で5勝。勢いそのまま県新人に臨んだが、決勝リーグで藤枝明誠にまさかの敗戦。その悔しさをバネに県総体に臨み、事実上の決勝戦・藤枝明誠戦では圧倒的不利の下馬評の中、粘り強いバスケットを展開して逆転、3連覇を飾った。インハイでは2回戦で強豪・明成に敗れたものの、8月末全日本選手権県予選では、社会人・大学生を立て続けに破り準優勝。今大会も優勝候補筆頭であろう。

要はインサイドに構える**リュウ・ヤハオ**。リバウンドやローポストのプレーだけでなく、鋭いドライブや外角からのシュートに磨きがかかり、チームの中心選手としてこの1年間活躍してきた。ディフェンス面でも体を張ったプレーが目立つようになり、相手をペイントエリアに入れさせない守りがさらに徹底してきたように思える。さらにリバウンドとシュート力は安定感を増し、3Pも含めてアウトサイドからのドライブもできるようになり攻撃のバリエーションも豊富になった。またアフリカ系留学生とマッチアップする機会が多いが、自分よりも背が高い相手の動きを封じるのがとてもうまく、敵の得点源を封じる場面も多くなってきた。シュートエリアも徐々に広くなり、速攻にも十分対応できるスピードを併せ持つなどさらにスキルアップしたプレーを披露してくれるであろう。**保坂晃毅**は昨年から常時試合に出場している万能選手、U16日本代表候補にもなり、ますますキャリアアップした。また東海国体はU16となった少年男子の主将として、本国体出場は逃したもののチームをまとめ上げた。とにかくこの選手の魅力はスピード。何をするにしても速い、鋭い。ドライブ、ブレイク、そしてオフェンスからの戻り、すべてが迅速、まさに「走るスピードバスケ」を象徴する選手である。相手のパスミスを逃さず、積極的にスティールに飛び込みワンマン速攻で得点を重ねるプレーが持ち味。以前はディフェンス時に接触を嫌がる傾向が見受けられたが試合を重ねるたびにきちんと修正。見るたびにプレーの質が上がっている選手だけに、今大会でのさらなる活躍が楽しみである。次なるキープレーヤーとして3年生・**中山田海渡**を紹介したい。この大会展望にも初めて名前を挙げる選手であり、県・東海・全国総体を経て、今やチームの大黒柱、なくてはならない存在にまで成長した「遅咲きの大器」である。県新人決勝リーグでは出場わずか2分、東海新人ではベンチ入りすらできなかったが春の遠征で結果を残してから覚醒し、県・東海・全国総体すべてスタメン出場、全国総体・明成戦では相手ディフェンスを攻めあぐむなか、孤軍奮闘し22得点、全国屈指の強豪にもひるむことなく立ち向かった。堂々と放たれる長距離砲は成功率も高く、チームの窮地を幾度となく救ってきた。今大会ではどのチームも対策を講じてくることが予想され、今までのような結果か残せるか不安であろうが、不撓不屈の魂でウインターの初舞台でも実力を発揮して欲しい。シューターの点取り屋、U18日本代表候補の経験がある**古大内雄梨**は果敢に放たれるシュートの確実性が特色。インハイ・光泉戦ではフリースロー・2Pとも成功率100%、3Pも4本決め成功率4割と超人的なスタッツを残した。飛龍の代名詞「アウトサイドの魔術師」を新たに襲名し、対戦チームをさらに苦しめていくであろう。チームの司令塔・**松井翔**は得点が滞りチーム内の雰囲気が悪くなった時にも全体を見て冷静沈着に対応、チームがいい方向に向かうよう舵を切り、相手に傾きかけた流れを引き戻せる選手で得点では測れないチームへの貢献度がある。重心も低くターンオーバーも極端に少ない、チームにとっては貴重な戦力である。

その他、ここぞという勝負所の場面で威勢よく放たれる3Pが魅力の**色山輝**、リバウンドとスピードが取り柄の**三橋翔**、県新人でつかんだレギュラーの座を安定感あるプレーで死守し続ける**鳥見勇敬**、新人戦で次々とタフショットを決めたことから脚光を浴び、県総体以降さらにチャンスをつかみインハイにも出場、得点を記録した**遠藤渉夢**、そして精神的支柱としてチームを支え、プレーでは激しいプレスをかけて相手ミスを誘発するディフェンスを得意とする主将・**高須崇介**などまさにタレント揃いの面々を抱えて今大会に臨む。各チームの飛龍包囲網も厳しくなるが、代名詞である「リバウンドからのブレイク」がうまく機能し続ければ3連覇もさらに現実味を帯びてくるであろう。

その飛龍と並ぶ今大会の優勝候補は**藤枝明誠**。留学生を中心としたインサイドの高さを生かしながら、アウトサイドからも積極的に攻撃を組み立てていくプレースタイルで6年ぶりの優勝を狙う。県総体・飛龍戦では攻撃の歯車がうまくかみ合わず、

クロスゲームが続くなかで最後に逆転を許し掴みかけた全国切符を4点差で逃してしまった。昨年のこの大会でも準決勝で浜松開誠館にまさかの逆転負けを喫するなど悔しい思いが続く1年であった。その中でも東海新人決勝で中部大第一に快勝した試合は明誠の強さが発揮された会心の試合であった。今大会ではその時の明誠の強さをもう一度見てみたい。

一番の魅力はマリ人留学生の高さ。**オマール・ディディアン・チュヌ**は今まで外国人枠の関係で出場時間が制限されてきたが、セコウの怪我で得たチャンスを十分に生かし、技術の高さを見せることが出来た。一言でいえばテクニシャン、他の留学生にはない泥くさいプレーにも汗をかく、そんな印象を抱く。当初は留学生特有のピックアンドロールばかりに頼るプレーが目に付いたが､味方のシュートをアシストするためにハイポストスクリーンをかけるプレーや､パスアンドランしたあとにボールマンのティフェンスに対してきちんと止まって腰を落としてスクリーン、そのままインサイドにターゲットハンドを出しながら切れ込みシュートを打つなど見ているものを唸らせる玄人好みのプレーを随所に見せる。**カミソコ・オマール**は対照的にスピードが持ち味。留学生を擁するチームでよく目にするのが、ブレイク時に留学生がスピードについていけないことやディフェンスの戻りが遅くなりがちなことが挙げられるが、カミソコはハイスピードの展開にも十分対応。リバウンド時の超人的な跳躍力に加え、リーチも長くリバウンド支配率は県内でも群を抜く。留学生の中ではやや線が細い感もあるが、鍛えられた筋肉で当たり負けしないフィジカルも併せ持つ。「フォー・ザ・チーム」の気持ちが強く、特に敗れた飛龍戦に出場していたオマールとカミソコは試合終了後、悔しさのあまりコートに横たわり人目もはばからず大粒の涙を流ししばらく立ち上がれなかった。その光景を私は今でも鮮明に覚えていて忘れることができない。県内最高身長208cm**セコウ・ドゥクレ**は昨年のウインター県予選後、腰の痛みに悩まされ欠場が続き苦しい日々が続いたが東海総体で見事戦線復帰、長期間戦列を離れていたとは思えない躍動感あふれるプレーを見せてくれて私たちを安心させた。強靭なフィジカルを誇り常にリバウンドを支配、そのままセカンドショットに持ち込む時もあれば無理をせずアウトレットパスでさばいて外角で勝負させるなど何でも器用にこなせる選手である。スタミナ面で若干の不安はあるが体調を万全に整えて県武道館に戻って来るだろう。

その外角には菊地・岩下が待ち構える。**菊地広人**はガードとしてゲームメイクするだけでなく自ら積極的に得点に絡んでいくアグレッシブなプレーヤー。広い視野からスペースを探し、パスを要求しながら果敢に切れ込みシュートにつなげるプレーは職人技と言える。飛龍戦でも26得点、持ち前のスピードを生かした緩急あるプレーで相手ディフェンスを抜き去るプレーが目に付いた。**岩下恵達**は静岡県でのウインターカップ予選は初出場となる。昨年末の新人戦からチームに合流､すぐさまチームに溶け込んだ。ディフェンスとの間合いを常に意識し、距離が開けば果敢にゴールに打ち込む点取り屋。ディフェンスでも相手エースにマッチアップすることが多く、相手を得点パターンに持ち込ませないよう激しいディフェンスを繰り返す粘り強いプレーヤーである。県総体決勝リーグ3試合で58得点、まさにチームの屋台骨である。その他、高確率3Pシューターの司令塔・**浜本健**、内外のつなぎ役を器用にこなす**中谷陸人**、U18日本代表候補にも選ばれた**川越大輔**、2年連続焼津市選抜にも選ばれるなど成長著しい**高野敢太**、東海総体にも出場した**冨永優也**、**石橋永遠**、**朝比航士郎**など、実力ある選手を数多く抱えるだけに十分優勝を狙える戦力である。昨年県武道館で、そしてこの夏エコパで流した悔し涙を笑顔に変えるためにもまずは準々決勝で予想される浜松開誠館戦、そして準決勝での静岡学園戦を乗り切って決勝の舞台にたどり着きたい。

この2強を猛追するのが、県新人・県総体ともに3位で東海新人・東海総体に出場した**静岡学園**。エース・市川も最高学年、戦力も充実しいよいよ19年ぶりの優勝も射程距離圏内にとらえ始めた。

静岡県バスケ界の至宝・**市川真人**は日本人高校バスケ選手最高身長の205cm、力強いジャンプでリバウンドを支配、加えて日本代表合宿で習得したドライブや3Pも時折見せるようになり攻撃の幅が広がった。リバウンド保持時に腕が下がる癖も見事修正し一流選手に成長した。夏に行われたU18 3x3アジアカップでは見事優勝、アジア王者となるなど実績も十分、次なる狙いはたった1つ、ウインター出場であろう。**永井涼也**は試合を重ねるたびにうまくなっている、と感じさせる選手である。体もひとまわり大きくなり、プレーにも迫力が出てきた。ディフェンスにカットを躊躇させるほど強烈なレイアップには鬼気迫るものを感じさせる。**柴田祐希**は今年の県新人から頭角を現したプレーヤー、もともと類まれなポテンシャルを持ちそれが時間をかけて開花した感がある。191cmの長身シューターということで各チームもブロックに苦慮、対応されてもフェイダウェイで3Pを決めることができる。

2年生シューターの**良知宏大**は3Pを難なく決めるチームの得点源、東海総体・中部大第一戦は激しい相手ディフェンスに苦戦する中で､同じく2年生でスタメン出場した**小川大新**とともに得点を重ね2人で34点、チーム総得点の約6割をたたき出した。このチームをまとめるのは主将・**鍋田隆征**。正確な3P、鋭いドライブ、粘り強い球際、長所を挙げれば枚挙に暇はないが、やはりこの選手の一番の魅力は素晴らしいキャプテンシーに尽きる。東海総体出場を賭けた浜松学院戦の終盤、2点差まで詰め寄られ土俵際まで追い詰められた時もチームメイトに声をかけ続け、落ち着いてプレーするよう笑顔で指示していたシーンを思い出す。チーム全体が意気消沈してしまいがちなあの場面で彼の笑顔・声掛けでどれだけの選手が救われたであろう。彼の存在自体がチームの励みになっているように思う。機は熟した、このまま一気に全国を目指して駆け上がりたい。

上記3チームを追うのは、県総体ブロック決勝で同地区の宿敵・浜松開誠館を下した**浜松学院**。常に全力投球、リバウンド・ルーズボールを必死に追いかけて満身創痍になりながらも勝利に貢献する**辺田涼介**、県総体・静岡学園戦途中出場ながら3P3本を決めて追い上げのきっかけを作った**小金沢彪**、ゴール下のパワープレーだけでなく、器用なミートシュートやジャンプシュートも見せるようになった**中川賢人**、司令塔・パスコントロールのよい**後藤陸人**、U16県代表にも選ばれた**曽布川翔月**などを中心に3年ぶりの優勝を狙う。

県総体5位の**浜松工業**は大会ごとに着実に順位を上げ、昨年のウインター県予選ベスト16、県新人7位、県総体は見事5位、ついに公立高校最上位までたどり着き、14年ぶりのベスト4に手が届くところまで来た。爆発的な攻撃力はいったん火が付くと止められないが、その中にも緻密なモーションオフェンスを取り入れて得点を重ねている。個人技に長けた**大滝龍二**、190cm・**河村颯哉**、東海国体にも出場した**山下晃汰**、柔らかいシュートタッチが魅力の**平本大也**などバランスが取れた戦力

を誇る。準々決勝で対戦が予想される浜松学院は西部・県大会で何度も死闘を繰り広げ、僅差で跳ね返されてきた宿敵。今度こそ大きな壁を打ち破り県武道館のメインコートを目指したい。

清水東は県総体で強豪・浜松開誠館を下すというアップセットを演じ6位、一躍脚光を浴びた。3年生は引退したがレギュラーメンバーが4人残り、今大会台風の目となるであろう。抜群のドライブ力を誇るスコアラー・**松田岳歩**、スクリーンアウトへの初動が速くリバウンドへも執念を燃やす**横井颯大**、163cmと小柄ながらも飛び込みのリバウンドやセイフティーなどでチームに貢献する**横川蓮**などを中心にまずは5年ぶりの県武道館、そして初のメインコートを狙う。課題は引退したセンター・田形の後釜。心身ともにチームには大きい存在であったが、**梅原瑠也**がその穴をソツなく埋めてくれることであろう。

そして**浜松開誠館**を忘れることはできない。昨年藤枝明誠戦で見せた大逆転劇は歴史に残る名勝負で、勝負は最後まで絶対にあきらめてはならないという当たり前のことを私たちに再確認させてくれた。県総体ではブロック決勝で同地区のライバル・浜松学院に惜敗、気持ちを取り戻せないまま清水東にも敗れてしまった。飛龍や藤枝明誠と優勝争いをしてもおかしくないチームだけに今大会は背水の陣で臨む。エースは昨年の福井国体でも活躍した**今井田大輝**。県新人決勝リーグ3試合で記録した3P16本を含む75得点は大記録。コート上でも仲間に指示を出し、監督の分身としてゲームコントロールも出来る逸材である。インサイドには189cm**田中駿**が待ち構える。その他にもシューター・**岡龍之介**、ゴール下の密集から果敢にシュートを打つ**飯島友汰**、鋭いドライブの**近田都和**、2年生ながら出場機会が多い**川嶋耕平**などの多彩な戦力を持ち、準々決勝で予想される藤枝明誠戦に向けて全力を尽くして欲しい。
その他、県総体7位・**浜松湖東**や**星陵・加藤学園・沼津中央**の東部勢も虎視眈々と上位進出を狙う。

上記以外の注目選手として、**藤曲海斗**（御殿場）、**小林亮介・小林優里・マーシーD龍・新井楽人**（沼津中央）、**服部龍雅・鈴木真斗**（加藤学園）、**末永昂士・古根村友哉**（三島北）、**白井咲弥**（三島南）、**木元杏児**（富士宮東）、**佐野悠斗・佐野謙斗・中村樂斗**（星陵）、**田村魁利**（富岳館）、**松永祐悟**（清水西）、**木下大輝**（東海大静岡翔洋）、**増田尽**（静岡商業）、**内山幸大**（静岡東）、**太田怜**（科学技術）、**大城和也・浮島光央・大橋勇輝**（静岡市立）、**鬼澤惇**（静岡大成）、**川口司**（城南静岡）、**永石圭・杉本寛**（焼津中央）、**樋口倭**（島田工業）、**池田英二・星野智輝**（袋井商業）、**花田竜輔・玉木俊介・杉本晋作・加藤大智**（浜松西）、**小畑樹**（浜松商業）、**高橋卓巳・石田翔大・根木豊征**（浜松湖東）、**小笠吏規斗・石田龍星**（浜松聖星）などが挙げられる。県武道館でこの選手たちの雄姿が見られることを心から期待する。

今回、昨年部員不足で無念の出場見送りとなった**金谷**と**静岡サレジオ**が2年ぶりに戻ってきた。どのチームにも当てはまることだが、出場することだけに満足せず、その先の目標を常に設定して練習に精進し、一つでも多く勝てるようたゆまぬ努力をしてくれることを願ってやまない。

女子

今年も現在県内高校大会10連覇、72連勝中、まさに県内敵なしの強さを誇る浜松開誠館が他の追随を許さない状況が続いている。8月の全日本選手権県予選も大学生、社会人を圧倒敵な強さで破り3連覇。全カテゴリーを含む県内大会は13連覇、81連勝まで伸ばした。まさに長期政権を築く独走態勢に入ったと言っても過言ではない。そしてその王者を追うのが県新人・県総体準優勝の常葉大常葉になるであろう。

大本命の**浜松開誠館**は県総体も圧倒的な強さで制し4連覇、盤石な強さに見えたが続く東海総体は安城学園に逆転負けを喫し初戦敗退。県内無敵を誇るチームが敗れ去る姿を見て衝撃を受けたことを覚えている。手綱を締めて挑んだインハイでは白鷗大学足利・れいめいに快勝、続く札幌山の手には惜敗したものの2年連続で全国ベスト16となった。全日本選手権県予選決勝・静岡産業大学戦では県勢と久しぶりの接戦なったが見事勝利、安城・山の手と続けて競り合った試合を落としていただけにこの勝利で得たものは大きかった。昨年同様、絶対的な高さこそないが、タフなディフェンスに速いオフェンスなど、機動力を特長とするスタイルは今年も健在。ウインター県予選4連覇がかかるこの大会、持ち味の粘り強さを武器に気迫を前面に出して常勝軍団の名をさらに確かなものにするだろう。
チーム自体は下級生中心のチームであるが、牽引していくのは3年生・**松岡木乃美**。ポジション的にはパワーフォワードに分類されるが、どこでも何でも器用にこなすオールラウンダー。力強いドライブと激しいディフェンスでチームに勢いを与え、さらには誰よりも率先してリバウンド・ルーズボールを奪いに行き、ファウルをもらってでもタフショットを決め切り、フリースローも冷静に決める。札幌山の手戦でも体を張ったプレーで総得点の約半分となる30得点を記録、全国レベルでも全く当たり負けしないフィジカルの強さを証明した。勝利へのカギはリバウンドにあると信じ、少しでもいい位置で、1㎜でも高く飛びたいという姿勢はまさに選手の模範である。ディフェンス面でも気持ちで負けないよう積極的に前に出て相手のボールを奪いにかかる。さらにこの選手の最大の特色はスティールの数が多いことである。インハイ3試合でその数16、驚異の数字である。札幌山の手戦では得点30、リバウンド12、そしてスティール6、高校生女子がトリプルダブル（得点・リバウンド・アシスト・スティール・ブロックショットのうち3項目で2桁を記録すること）に最も近づいた試合であった。今大会1番の注目選手は県武道館の観客をも魅了してくれることであろう。**山本涼菜**はセンターとしては決して長身とは言えない171cm、マッチアップする相手のほとんどが自分より身長が高く、一見するとミスマッチにもなってしまいがちだが、臆することなく果敢にリングを目指し得点を量産していく。相手ディフェンスを巧みなステップでかわし、ドライブで鋭く切れ込む技術も持

ち、松岡に次ぐ得点源である。時折3Pも見せるなど内外にバランスの取れた好選手である。どのチームも松岡にマークが集中するなかでも相手ディフェンスを巧みにかわしてフリーの好機を作り出しシュートにつなげるプレーも出来る。守備からリズムを作り上げ、それをオフェンスにもつなげて得点を量産。今大会でも松岡と共に攻守の要として活躍してくれるだろう。

シューター・**黒川菜津奈**は言わずと知れた3Pシューター、インハイ3試合で10本決めるなど躊躇なく放つ度胸と正確性が魅力の選手である。特に県総体・常葉戦でも3P7本を決め、4連覇の立役者となった。新人戦後は相手マークもさらに厳しくなったが、そのマークをかいくぐって3Pチャンスの逃さないテクニックは天賦の才能としか言いようがない。外角でボールを持つと各チームがダブルチームを組みシュートブロックをするがそれでも決め切る場面もあり、どのチームも対応に頭を悩ませている。**塩澤小夏**は県新人以降試合をこなすごとに着実に力を発揮し、東海新人・県新人・東海総体すべてでスタメン出場、キャリアをさらに積んだ。司令塔という難しい位置を任されたが、常に考えながら状況に応じてパスを出し、コートバランスを意識しながら自分の位置取りを見つけられる頭脳解析な選手である。シュートにつながるアシストパスも多く貢献度は数字だけでは測り切れないものがある。粘り強いディフェンスも魅力で、重心の低い体勢から相手に激しく詰め寄りスティールを積極的に狙う。インハイではスタメンから外れ悔しい思いをしたが、ここで一念発起してチームの勝利に貢献して欲しい。

樋口沙彩はスモールフォワードという中盤の役目を任せられている。全体の身長が決して高いとは言えないチームの中で、リバウンド争いやジャンプしてのブロックショットなど目に見えない高さでチームを支えている。攻撃では1on1や鋭いドライブも見せ、チームに不可欠な戦力となっている。今まで挙げてきた5選手は今年から高2の遅生まれ以上が出場できるようになった国体の成年女子・静岡県代表にも大学・社会人選手に交じって堂々の選出、東海国体にも出場し開誠館の選手層の厚さと共に個々の選手たちのスキルの高さを改めて実感した。またインハイ3試合すべてにスタメン出場した**中田絵美**の存在を忘れることはできない。今まではシックスマンとして試合終盤、シビアな試合展開のさなかに投入され限られた時間で見事結果を出してきたがその努力がインハイで報われた形となった。もともとミニ・中学で全国を経験するなど誰よりもキャリアは十分、れいめい戦では3Pを3本決めて自信をつけたことであろう。東海国体でも成年女子の予備登録選手にも選ばれ、出場機会はなかったものの先述の5選手と遜色ない実力を持つことが証明された。その他にも度重なる怪我に苦しんできたがこの大会、不撓不屈の精神で復活をかける大器・**大西莉央**、U16日本代表にも選出経験があり、東海国体少年女子のメンバーにも選出、インハイでも得点を決めた**マッカラム杏菜**、鋭いドライブからのジャンプシュートが得意の**奈須梓咲**、1年生ながらインハイ全試合にスタメン出場、東海国体でも活躍し少年女子の茨城国体出場にも貢献した**中山未悠**、同じく少年女子のメンバーに選ばれた**岩永美空**、**西田妃那**、そしてインハイ終了後から頭角を現し全日本選手権県予選決勝でチームの勝利に貢献した**柴田麻子**など選手層はとてつもなく厚い。チームの特徴でもある粘り強いディフェンスからの速攻を武器に今年も盤石の試合運びで連勝街道を突き進み、4連覇を目指すとともに全国の強豪が集う武蔵野の森での戦いでも上位を狙っていくであろう。

常葉大常葉は言わずと知れたウインター出場16回を誇る名門中の名門だが4年前の県予選優勝以来、ウインターの舞台から遠ざかっている。しかしながら昨年は3年ぶりのインハイ出場、そして今年も県新人・県総体と連続準優勝、王者・浜松開誠館の背中が見えるところまで来た。今大会でライバル・浜松開誠館を下して4年ぶりの優勝を狙う。

チームの中心は昨年に引き続いて**山口郁実**。攻守の要としてチームに必要不可欠な存在である。攻撃では県総体決勝リーグ3試合で60得点、東海総体2試合で47得点、特徴は強豪相手にも果敢に攻め込み得点を奪えること。ウインター覇者・岐阜女子戦でも堅実な相手ディフェンスのわずかな隙を見つけて猛スピードでドライブ、22得点を挙げた。ゴール下、ミドル、3Pなど幅広い場所からシュートを放ち確実に決める類まれなセンスの持ち主である。敵が寄ってきた時には強引に持って行かずに巧みにアシストパスを出し、リバウンドからブレイクを出すタイミングも抜群で、相手ディフェンスが整う前にアウトナンバーのアドバンテージを生かして得点につなげられる。ディフェンスでは常葉バスケの信条である「ステイ・ロー」を誰よりも徹底し、低い重心で相手オフェンスに対峙している。山口と共にチームを牽引するのは司令塔・**林美弥子**。怪我に苦しんだ時期もあったが、幼少期から積み上げた抜群のキャリアを生かしながら今や常葉の中心選手となった。「安心・確実・安定」、そんな言葉が当てはまる選手で、ボールコントロールしながら一番成功確率が高いプレーをイメージして次のプレーにつなげられる頭脳明晰さも感じられる。オフェンスの始動も速く、ディフェンスが来る前に躊躇なく3Pを放ち、流れを自陣に引き寄せるプレーも見られ、賜杯奪還には欠かせない万能選手である。

池田桃子には努力の人という印象を抱く。昨年のインハイ・聖和学園戦で活躍したのをきっかけに出場機会を得られるようになり、東海総体・四日市四郷戦では中盤相手の戦意を削ぐような速攻を連続して決めた。スピードが醍醐味の選手で激しいトランジションにもきちんと対応できることが頼もしい。**保坂悠月**は下級生の時から出場機会に恵まれ、先輩に薫陶を受けながらスキルアップをしていたが、大怪我のため戦線離脱、その後たゆまぬ努力でインハイ地区予選から見事復帰、チームにとってこれほど心強い朗報はない。復帰直後ということで県・東海総体ともスタメン出場はなかったが、全試合で途中出場し得点を挙げた。スピード満載のプレーで2桁得点を記録した試合もあり、ウインターでは完全復活の雄姿を見せてくれるであろう。また今年度スタメン出場している下級生が3人とも1年生というフレッシュ満載なチームであることも忘れてはならない。県選抜選手にも選ばれて茨城国体にも出場する**市川凛香**・**植田希歩**と予備登録選手としてチームに帯同する**伊藤愛莉**。特に市川は爆発的な破壊力が魅力で県総体決勝リーグ・東海総体の5試合で85得点、県や東海トップレベルの相手に1年生ながらこれだけの得点力を発揮する姿を見て末恐ろしい感を覚えた。上級生・下級生とバランスの取れたチーム構成、そして控えも充実しており、持ち前の手堅いディフェンス、どこからでも得点できるオフェンスを有機的に機能させ4年ぶりの賜杯を狙う。

この2チームを追うのが東海総体出場を争った新興勢力の公立勢、島田と静岡西だろう。

県新人で決勝リーグに出場したものの、最後の最後で東海新人出場を逃した**島田**は雪辱を期して臨んだ県総体で一進一退の攻防から静岡西を破り昭和53年以来41年ぶりの3位、そして悲願の東海総体初出場を果たした。その東海総体でも全国大会出場経験のあるいなべ総合学園相手に第3Q終了時には2点差まで詰め寄るなど敗れはしたものの最後の最後まで接戦を演じ、

チームの底力を見せつけた。また県総体・浜松開誠館戦では前半終了時まで5点リードを保つなど、近年開誠館を県内で一番苦しめたチームでもある。今大会はチームの主力であった杉本など3年生の一部が引退し、下級生メインのチームでの出場となるが、昨年も1,2年生だけでこの大会初のベスト8入りしているだけに期待はさらに高まっている。

チームの大黒柱は3年生として唯一のエントリーとなる**丸目陽**。杉本と共に「島田旋風」を巻き起こした立役者である。県総体決勝リーグでは3試合で80得点、東海総体出場を決めた静岡西戦では3P2本を含む36得点、打つシュートすべてが入ったような印象を抱かせる試合であった。高身長の選手がいないチーム事情の中、インサイドを任されているが当たり負けしないポストプレーやシュート選手に対して執拗に間を詰める絶妙のディフェンスでチームの屋台骨を支える。下級生に目を移すと厳しいディフェンスから攻撃のリズムを作り出す**鈴木美沙**や華麗なジャンプシュートを放つ**八木愛理奈**、相手のヘルプディフェンス時に生じるわずかなスペースを見逃さず絶妙なパスワークで得点を導き出す**渡邊彩乃**など上位進出のチャンスは十分にある。まずは1つ1つ勝利を積み重ね、4回戦で予想される駿河総合、準々決勝で予想される市立沼津との戦いを確実に制して初の県武道館メインコートに進みたい。

惜しくも東海総体出場を逃した**静岡西**は背水の陣でこの大会に臨むであろう。昨年のこの大会ベスト16、県新人は5位、県総体は4位と着実に順位を上げているだけに県武道館のメインコートは最低限の目標である。チームのエースは2年生・**北條明星**。チームを牽引するスコアラーで、県総体決勝リーグでは並み居る強豪相手に56得点、特に常葉戦では総得点の半分近くを一人で稼ぎ31得点。1on1の強さ、ドライブの速さ・鋭さ、相手との駆け引き、間合いの取り方、パスのさばき、時折効果的に放たれる3P、どれをとっても一級品の技術を持っているユーティリティープレーヤーである。どのチームも彼女の個人技に手を焼き対応に苦慮している。ビデオやデータを活用して中心選手の動きや癖を分析してくる時代、相手チームも開幕までに研究を続けてくるであろうが、常にプレーが進化し続けるのが彼女の持ち味、さらなる向上を期待したい。

県総体で一部の3年生が引退したが、島田戦でチーム最多の18得点・ゲームの要所で内外から確実性の高いシュートを放つ**土本花奈**、常葉戦17得点・左右どちらからでもスピードあふれるドライブが打てる**菅原希美**、限られた時間の中で粘り強く相手にプレッシャーをかけるいぶし銀プレーヤー・**齋藤愛美**、主将としてチームを掌握、抜群のリーダーシップで人望も厚い**梶山来愛**、以上4人の3年生が残り、戦力も県総体とほぼ変わらない状態で今大会に臨む。まず目標を達成するためには準々決勝で対戦が予想される藤枝順心に勝つことが絶対条件となる。

その他、県総体5位・外には司令塔・**望月彩楓**と**服部満里奈**、中盤に動きの速い**望月玲那**、インサイドには1年生コンビ・170cm**高田晴妃**と県代表にも選ばれた169cm**野末舞**などバランスが取れた布陣で3年連続ベスト4を目指す**藤枝順心**、県総体6位・東海国体主将として静岡県を本国体に導いたキャリア抜群の**齊藤汐海**、司令塔・**西山沙希**、3Pシューター・**滝口祐里**、インサイドに待ち構える県選抜選手の1年生・172cm**鈴木芹菜**・174cm**望月莉七**、国体予備登録選手の**川口美空**など多彩な戦力を擁する**市立沼津**、県総体7位・ブロック決勝では最後まで静岡西と接戦を演じ、茨城国体にも主将・**花田明音**と175cm・**萩原羽海**の2人を送り込み優勝7回を誇る古豪復活を予感させる**浜松市立**、同じく県総体7位・**早崎莉里香・足立玲那・関百花**など170cm代を5人も抱え、その一方で小柄ながらドライブや3Pに長ける**藤田亜未・金谷百々子・白井凛・金井凛莉**などを擁し、準々決勝で予想される浜松開誠館戦で「開誠館に勝った最後のチーム」としての意地を見せたい**浜松学院**、そして昨年準優勝・県新人3位・東海新人にも出場したが県総体でまさかの2回戦敗退、闘志あふれるプレーと華麗な3Pが持ち味「小さな巨人」**鈴木美優**のシュート力を突破口にまずは県武道館を目指す**駿河総合**などにも注目したい。

上記以外の注目選手として、**奥脇愛美**（三島北）、**稲田凛・森山未愛・笹原遥奈**（沼津商業）、**阿部莉子・高橋呉波・渡邊七海**（飛龍）、**田野原清香・前嶋心花**（沼津中央）、**石坂瑠海・益田空羽**（加藤学園）、**イカイ・ジョバンナ、川口由理奈**（吉原）、**川村菜摘・森藤夏未・杉村泉**（東海大静岡翔洋）、**宮城島彩名**（清水南）、**吉永芽生**（静岡東）、**市川ことね・望月麻美**（静岡商業）、**伊藤優希**（静岡市立）、**加茂恵・小原嘉佳・四竈恵子・佐々木聖愛・勝亦彩乃**（駿河総合）、**田開理生**（西遠女子学園）、**天野由麻・高林由佳・氏本弥呼・内山優奈**（浜松聖星）、**金子愛・酒井柚葉・鈴木芙実奈・横山遥香**（浜松商業）などが挙げられる。県武道館でこの選手たちの雄姿が見られることを心から期待している。

今大会女子の参加チームが2チーム増えて102となった。2年ぶりの出場となる**御殿場**と初出場の**御殿場西**。学校統廃合等を除けば平成18年の浜松啓陽以来13年ぶりの女子チーム初出場校が生まれた。2年生1人,1年生4人、計5人のチームだが、日頃の練習成果を十分に発揮し初勝利を目指して欲しい。

最後に、ウインターの醍醐味は完全トーナメント制の一発勝負、1回も負けていない本当に強いチームだけが勝ち残り全国の檜舞台を踏むことができるところにある。しかしながら3週間に渡る長期決戦、何が起こるかわからないまさに一寸先は闇である。選手たちは勝利の2文字だけを目指し、手を抜かず気を抜かずひたむきにプレーに取り組み続ける。私たちに出来ることはその選手たちを支え、応援することだけであるが、1人でも多くの方々に実際に会場に足を運んでもらい選手たちと一緒にその素晴らしい瞬間を共有してもらいたい。そして実際のプレーを見て、その感動を目にも心にも焼き付けて欲しい。何ものにも代えがたい「宝物」になるであろう。選手たちの高校生らしい若さあふれる熱い戦いを心から期待したい。

プレイバック静岡・高校バスケ 2018〜2019

文=中島　洋己（県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

【ウインターカップ】　平成30年12月23日〜　武蔵野の森総合スポーツプラザ

平成最後のウインター、男子代表の**飛龍**は**川内**（鹿児島）と対戦、2年生ながら大会屈指の点取り屋として注目を浴びる**野口佑真**に33得点を許すなど序盤は苦戦したが後半エース・**関谷心**が30得点とオフェンスが大爆発し会心の勝利。2回戦はインハイで惜敗した**北陸**（福井）と再戦、一転してロースコア勝負に持ち込み前回対応に苦慮した**ダンテ・スレイマニ**の高さを封じ込み見事勝利、夏のリベンジを果たした。メインコート進出を賭けた3回戦では**原田裕作**監督の母校、最終的に圧倒的な強さで優勝した**福岡第一**と対戦。鍛えに鍛えられた県内最強の雑草軍団も圧巻の強さを誇る王者に歯が立たず、得意の留学生対策を駆使してインサイドの**クベマジョセフ・スティーブ**は抑えたものの、Wエース**松崎裕樹・河村勇輝**に計50点を奪われるなど全国上位の壁を痛感した戦いとなった。

女子代表・**浜松開誠館**は初戦・**一関学院**（岩手）に快勝、2年ぶりのウインター勝利を挙げた。2回戦、創部5年目で5年連続出場、新興勢力の強豪・**開志国際**（新潟）と対戦、U17日本代表の**山口里奈**と留学生**サンブ・アストゥ**という攻撃の核を擁する相手に苦戦しながらも**石牧葵**を中心に持ち前のスピードと球際の強さで見事競り勝った。県内では実戦経験が詰めない留学生対策も東海大会や強化遠征等の経験からきちんと対応策を練り、それが功を奏した結果となった。3回戦はインハイ覇者・**桜花学園**（愛知）とこの年3度目の対戦。東海新人では開誠館、東海新人では桜花が勝利、今回1勝1敗からの決着戦となった。過去の試合同様壮絶な戦いとなり、桜花は外から**坂本雅・平下愛佳**、中から185cm**オコンクウォ・スーザンアマカ**が得点を重ね一気に突き放そうとするが、開誠館も第4Qに**松岡木乃美**を起点に怒涛の追い上げを見せ最終的には6点差まで迫ったが総体王者の壁は厚く、2年ぶりのベスト8進出は果たせなかった。

【東海新人大会】　平成31年2月　静岡市　草薙このはなアリーナ

32年ぶりにバスケの聖地「草薙」に戻ってきた東海新人、男子は藤枝明誠、飛龍、19年ぶりの静岡学園、女子は浜松開誠館、常葉大常葉、駿河総合が出場した。

静岡学園は10年前まで学校が所在した「聖地」で行われた今大会に奮起、初戦でウインター3位の**桜丘**と対戦、留学生**センマム・リバス**の高さを**市川真人**が徹底的に封じ込め快勝。続く岐阜王者・**美濃加茂戦**は高さに加え巧みなテクニックも併せ持つ**アジャイ・アーノルド**を軸とした相手の攻撃に苦戦、残り1秒まで分からないスリリングな試合となったが最後に力尽き4強入りを逃した。**飛龍**は**安城学園**（愛知）、三重王者・**四日市工業**と強豪を連破、準決勝ではウインター準優勝の**中部大第一**（愛知）と対戦、**仲宗根弘・深田怜音**のドライブを抑えきれず惜敗するも3位決定戦では美濃加茂に激しいディフェンスで迫り攻撃を封じて快勝、3位を確保した。県王者・**藤枝明誠**は**富田・美濃加茂**の岐阜勢を次々と破り、余裕の決勝進出。愛知王者・**中部大第一**との戦いでは**岩下恵達・菊地広人**のホットラインが持ち味を発揮、強靭なフィジカルに器用さも兼ね備える**ハトゥマニ・クリバリ**の得点で追い上げられる場面もあったが一度もリードを許すことなく勝利をおさめ、6年ぶりの東海王者となった。

女子は**駿河総合**が**四日市商業**（三重）と対戦、「小さな巨人」**鈴木美優**が一人気を吐き孤軍奮闘するも、**田中万衣羽**の高い得点力とスピードに翻弄され初戦敗退となった。**常葉大常葉**は**皇學館**（三重）を撃破したあと**桜花学園**と対戦、**岡本美優・田中平和**の高さにやられて惜しくも2回戦敗退となった。**浜松開誠館**は初戦から強豪・**安城学園**と対戦、松岡の小気味よいシュートが随所に決まり、さらには**黒川菜津奈**が3P6本を決める大活躍、ディフェンスも相手の要・**佐藤愛夏**のスピードを封じ快勝。準決勝ではウインター王者・**岐阜女子**と対戦、立ち上がり**林真帆**のドライブと**イベンスター・チカンソ**のポストプレーに苦しみリズムに乗り切れず、後半は途中出場した日本最高身長196cm**勅使河原帆南**にもポストを奪われ敗戦。しかしながら3位決定戦では松岡や今大会絶好調の黒川などの活躍で**名古屋女子大学高校**を一蹴し、日本一の激戦区・東海で堂々3位の栄誉を得た。

【東海高校総体】　令和元年6月　袋井市　エコパアリーナ

東海総体初の袋井市開催、そして県内最大規模の体育館・エコパが会場、さらには優勝県にウインター出場権のプラス1枠が与えられるということで否が応でも盛り上がる大会となり、男子は飛龍、藤枝明誠、静岡学園、女子は浜松開誠館、常葉大常葉、島田が出場した。

東海新人同様19年ぶりの出場となった**静岡学園**は初戦から**中部大第一**と対戦、クリバリや**アブドゥレイ・トラオレ**の留学生には市川が体を張ってマッチアップしたが相手の外角シュートを止め切れず惜敗。**藤枝明誠**は207cm**セコウ・ドゥクレ**が7ヶ月ぶりに戦線復帰、**豊川**（愛知）、岐阜王者・**美濃加茂**に快勝し準決勝で愛知王者・**桜丘**と対戦した。全国的にも珍しいリトアニアからの留学生207cm**ラポラス・ベンツロバス**の多彩なシュートや合わせにディフェンスが対応しきれず序盤から点差を広げられる。後半菊池のドライブや岩下の3Pで追い上げを図り、プレッシャーディフェンスも仕掛けたが最後は逃げ切られた。**飛龍**はマリ人留学生2人を擁する**高山西**（岐阜）に快勝し準決勝では東海新人準決勝で惜敗した中部大第一との再戦、相手の深田やスーパールーキー・**谷口歩**のシュートが要所で決まるが、飛龍はボールがことごとくリングに嫌われ点差がなかなか縮まらない。終盤勝負に出た飛龍はさらに厳しいプレッシャーで相手のミスを誘い出すが、落ち着いたボール運びを見せた相手に惜しくも敗れた。その中でも31得点を記録した遅咲きの華・**中山田海渡**の活躍は今後に光明を見出すものであった。県勢対決となった3位決定戦は藤枝明誠が県総体・同じ会場で敗れた飛龍に雪辱を果たし3位を勝ち取った。

悲願の初出場となった**島田**は大舞台で緊張感に満ち溢れるなか積極的な戦いを披露。主将・**杉本ももか**や**丸目陽**を起点とした攻撃で格上の三重2位・**いなべ総合学園**に最後まで食い下がり、敗れはしたが心に残る感動的な試合をしてくれた。**常葉大**

常葉は**四日市四郷**（三重）に勝って**岐阜女子**と対戦、留学生不在の強豪相手にエース・**山口郁実**が確実にシュートを決めて中盤12点差まで追い上げるも、ケガから復帰したU17日本代表の**藤田和**の絶妙なパスワークから繰り出される華麗な攻撃パターンを切り崩せず敗退した。**浜松開誠館**はインハイ出場を逃した**安城学園**と東海新人以来の再戦。一進一退の攻防は開誠館・松岡が43得点、安城・佐藤45得点と両チーム・エースの意地がぶつかり合った熱戦となり、終盤まで目まぐるしい展開の攻防が続いた。その中でも安城学園・**鈴木かりん**の高さを生かした献身的なプレーなどが功を奏し、最後の最後で安城学園が辛くも勝利をつかんだ。女子県代表3チームが初日で姿を消してしまう予想すら出来ない展開に観客はしばらく呆然となり場内も騒然としていた。

【全国高校総体】　令和元年7月　　鹿児島県　　サンアリーナせんだい　他

令和初のインハイとなった今大会から規模が大幅に縮小され、東京・千葉・埼玉・兵庫・静岡・福岡が男女1枠減、愛知・北海道が女子1枠減となり、静岡県も平成元年以来30年ぶりに男女とも1校のみ全国出場となり、県総体優勝の男子・飛龍、女子・浜松開誠館のみが出場した。

飛龍は初戦・**光泉**（滋賀）と対戦、昨年と同一カードとなったが危なげなく勝利。2回戦は先ごろNBAウィザーズ入りした**八村塁**の母校・**明成**（宮城）。ウインター優勝5回を誇る一級品の強豪は下級生もスタメンに登用、3年生の**木村拓郎**、2年生の**越田大翔**に大型ルーキーの**山崎一翔・菅野ブルース**が有機的に機能、さらにスタメン平均身長193cmは今大会随一。182cmの飛龍はこの差を埋めるためにスタートからオールコートマンツーで奇襲をかけ、リバウンドにも全員が参加し必死に対抗、一時は同点に追いつく。その後も手に汗握る攻防が続き、**中山田海渡**の1on1が効果的に決まり、途中出場の**古大内雄梨**が活躍して相手に傾きかけた流れを呼び戻すなど飛龍にも十分勝機はあったが土壇場で山崎にドライブと3Pを決められて試合終了。しかしながら両チームの実力差は実際の得点差ほど離れていない、と改めて感じさせる白熱の戦いであった。

浜松開誠館は初戦・**白鷗大足利**（栃木）に快勝、続く開催地代表・**れいめい**（鹿児島）との戦いは完全アウェー感が会場中に漂う中、選手たちは自分たちが日々行ってきた練習の成果を信じ平常心でプレーを続けて見事勝利、2試合ともベンチ入りメンバー全員が出場する余裕の展開のなかでもチーム力の底上げを行うことを忘れていなかった。3回戦は優勝経験もある**札幌山の手**（北海道）､浜松開誠館はスタートからゾーンプレスを仕掛け相手の動揺を誘い松岡･黒川を軸に得点を重ねるが､キャリア抜群の相手エース・**中村華祈**や**館山萌菜**の華麗な個人技に苦しみ前半終了間際に逆転を許す展開。後半も逃げ切りを図る山の手、怒涛の追い上げを見せる開誠館という目まぐるしい攻防が続き、残り3分**山本涼菜**の連続バスケットカウントで2点差まで追い詰めるが、直後に終始ゲームをコントロールしてきた中村と館山に得点を許し万事休す、7点差で惜しくも初のベスト8入りを逃した。

【東海国体】　令和元年8月　　三重県津市　　サオリーナ

今年から少年男女がアンダーカテゴリーに準ずることとなり、高2の早生まれ、高1、中3の遅生まれによる構成となった。男女とも岐阜県との試合が事実上本国体出場決定戦となったが、**少年女子**が岐阜県との近年稀にみる接戦を制し10月の**茨城国体**出場権を掴んだ。

令和元年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

令和元年度第33回**東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選**が令和2年1月25日に藤枝順心高校体育館他で開幕する。26日に男女ブロック決勝と決勝リーグ初戦・5位決定トーナメント、2月1日に**焼津シーガルドーム**で決勝リーグ第2戦と5位決定戦、2日に決勝リーグ最終戦を**静岡県武道館**で行い、上位3チームが2月15,16日に岐阜県の**OKBぎふ清流アリーナ・東美濃ふれあいセンター**で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。令和最初の県新人大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人に駒を進めるのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。なお2月2日には令和元年度（一社）**静岡県バスケットボール協会U18優秀選手**の表彰式も合わせて行われる。この大会から年末のウインターカップ2019でともに勝利を勝ち取った、藤枝明誠・男子と浜松開誠館・女子が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。

男子

今大会は大逆転でウインター県予選を制し全国でも1勝した藤枝明誠と、昨年は下級生を中心としたチームで県総体優勝・ウインター準優勝を果たした飛龍という「東西の横綱」を中心とした優勝争いが繰り広げられるであろう。

ウインター県予選優勝、県代表として全国でも1勝した**藤枝明誠**は3年生中心のチームだっただけに今大会はメンバーも一新した布陣で戦うことになる。また新チームになってまだ3週間余り、準備時間も制約がある中で迎える大会となる。

その中でも昨年から常時出場しインサイドを任せられてきた**カミソコ・オマール**がチームの中心となる。長いリーチを生かしたリバウンド支配はもちろん､超人的な跳躍力､そして早いトランジションにも対応できるだけのスピードを併せ持つプレーヤーである。また先月東京で行われた「第 6回 3x3 U18日本選手権大会」にも「SILVERBACKS」として先輩達と出場し見事に優勝を勝ち取った。新チームの中では一番試合経験を積んでいるだけに、今年は心身共にチームの大黒柱としての活躍が求められる。カミソコとともにチームの浮沈のカギを握るのはU18日本代表候補にも選ばれた経験を持つ195cm**川越大輔**。センタープレーヤーとしては比較的線が細く、今までは恵まれた体格を生かし切れていなかったが、前月行われたJr.ユースアカデミーの第1回キャンプにも招集され、体力面･心理面･技術面のさらなる向上の鍛錬を重ねてきた。まずは出場機会を確保し、与えられた時間の中で自分の責務を果たせるよう頑張って欲しい。

石橋永遠もカミソコとともに3x3日本選手権に出場し優勝を経験､その成果をコートで発揮してくれるだろう。ポイントガード・**朝比航士郎**はスピード満載のパスでボールを前に出し速攻の起点となる。183cm**遠藤千晟**はドリブルが器用で点が取れるフォワード､**稲井大**はアウトサイドシュートを得意とする選手｡**ロカニト**は小柄ながら強靭なフィジカルを武器にレギュラー争いに割って入るだろう。藤枝明誠の特色は全員が得点を狙って常にゴールを狙い続けることとそのオフェンスで作ったリズムをそのままディフェンスに持って行けるところ｡ずば抜けた高さを誇る留学生を活かして縦のドライブにつなげられる強さ、堅いディフェンスからブレイクを繰り返し仕掛けられる粘り、アウトサイドを生かした内外の共存、そして攻守においての激しさや多彩な攻めを前面に出して県新人連覇、そしてその先の東海新人連覇も目指して欲しい。

県総体を制しながらもウインター県予選決勝で藤枝明誠に逆転負けを喫して全国を逃した**飛龍**は背水の陣でこの大会に挑む。

新エース・**保坂晃毅**は1年次から多くの試合に出場し実績は十分。今年はチームの中心選手として自分のプレーだけでなく、チーム全体を見ながらゲームコントロールを行う重責も担っているが、昨年から常にチームのフロアバランスを意識したプレーを心掛けているシーンが多く見受けられており、その点もそつなくこなしてくれるであろう。また元日からU16日本代表のチェコ遠征にも参加、現地のクリスタル・ボヘミアカップにも出場し貴重な経験を積んだ。積極的にゴールに向かう姿勢はもちろん、わずかなスペースを見つけてスピードあふれる鋭いドライブ、ディフェンス時もハリーバックを心掛ける気持ち、そしてスティールからのワンマン速攻時の俊敏さ、まさにスピードバスケの申し子である。自分が日本を代表する選手であるという意識を常に心の中に置いて､みんなに夢と希望を与えるバスケを披露して欲しい｡U18日本代表候補の経験もあるシューター･**古大内雄梨**は昨年後半怪我に苦しみ､ウインター県予選では実力を十分に発揮できなかった｡精度の高い3Pで何度もチームの窮地を救ってきた救世主、アウトサイドの魔術師、彼のプレーに関する形容詞・枕詞を挙げたら枚挙に暇がない。今大会では本来の実力を十分に発揮してコート狭し、と動き回って欲しい。

山本愛哉は160cmながら飛び込みのリバウンド、スピードある切れ込み、3P、スティール、セイフティー、司令塔としてのゲームコントロールと八面六臂の活躍をするプレーヤー、県選抜選手として東海国体にも出場、ウインター県予選でも全試合にスタメン出場した有望株である。**佐藤彩人**もウインター県予選全戦でスタメン、ゴール下で黙々とリバウンドを頑張るタイプである。その他にも、リバウンドとスピードが武器の三**橋翔**、3P・ドライブ共に器用にこなしオフェンスのバリエーションも豊富な**鳥見勇敬**、インハイ以降成長著しい**遠藤渉夢**、県選抜選手の**渡邉晴**など戦力は県内随一と言っていい。タレント揃いの戦力の中、選手個々の特徴を生かした試合展開に持ち込み、ディフェンスからのブレイクで相手の戦意を削いでいくようなバスケットができれば2年ぶりの優勝がさらに現実味を帯びてくるだろう。

この両横綱を猛追するのが、ともにウインター県予選3位、中部新人覇者・静岡学園と西部覇者の浜松学院。

ウインター県予選3位の**静岡学園**は昨年この大会で3位に入り19年ぶりの東海新人出場を果たした。今まで3年間ゴール下を支えてきた市川が引退し、「ポスト市川」の育成が急務となっている。2m超の日本代表選手の代替・後継など容易に育成できるものではないが、中部総体を見る限りは、決勝で19得点を挙げた1年生・**保谷蒼空**がこの重責を立派に果たしゲームメイクもしていた。

チームを牽引していくのは言わずもがな、シューター・**良知宏大**。ウインター県予選準々決勝・加藤学園戦では3P4本を含む27得点、特に後半は打つシュートがすべてリングに吸い込まれていくように思えた。スナップが柔らかで力むことなくシュートが打てる選手である。**小川大新**も良知同様、1年次からキャリアを積んでおり新チームの柱となる長距離砲である。ウインター県予選・藤枝明誠戦では相手の猛攻に苦戦する中、一人気を吐きチーム最多得点を記録、次年への光明となった。その他インサイドの三**井勇一郎**、3Pを得意とする**北堀晃征**など人材も豊富、昨年までの長身選手を中心としたセットオフェンスから戦術変更する可能性もあるが、「静学スタイル」の代名詞であるディフェンスからの速攻を合言葉にまずはブロック決勝で予想される浜松開誠館戦を勝ち切って2年連続の東海新人出場に弾みをつけたい。

浜松学院はウインター県予選・オーバータイムで沼津中央の猛追を振り切り準決勝進出、飛龍戦でも敗れはしたものの最後の最後まで持ち味の粘りを発揮して県3位を勝ち取った。今回西部予選でもライバル・浜松開誠館を破り波に乗って今大会に臨む。

チームの中心は**後藤陸人**。速攻の展開で必ずと言っていいほど得点に絡む秀逸プレーヤー。切れ味鋭いドライブが魅力で沼津中央戦では3P6本を含む28得点、飛龍戦では20得点をたたき出した。チームが苦しい時でも常に顔色1つ変えず冷静に状況を見極め得点パターンの組み立てが出来るのも強み。インサイドには**中川賢人**が待ち構える。体を張ったポストプレーといい位置取りからのリバウンド試合でチームを支える。その他にも、沼津中央戦で逆転のシュートを決めた**伊藤楓**、果敢にパスカットを狙う**前田晃希**、勝負所の3Pが持ち味の**小金沢彪**、186cmの長身を利したリバウンドでチームを支える**曽布川翔月**、ミドルシュートを得意とする**後藤新葉**、国体選手・ブロックショットを得意とする**船尾裕二郎**など厚い戦力を誇る。激しいディフェンスからの速攻、そして持ち前の粘り強さでアベック優勝を果たした平成27年度以来4年ぶりの優勝を狙う。

上記4チームを追い、決勝リーグそして東海新人出場を目指すのは各地区準優勝チーム。

東部準優勝の**沼津中央**はウインター県予選準々決勝・浜松学院戦で脅威の追い上げを見せ、敗れはしたものの底力を証明した。特に県選抜選手として東海国体にも出場した**新井楽人**は1年生ながらその試合で3P3本を含む25得点、将来へ末恐ろしさを感じさせた。同じく1年生の**福島寿希也**も新井と共にチームの得点源となるであろう。リバウンド支配率が高い**村上瑠惟**も面白い存在である。順調に勝ち上がるとブロック決勝で浜松学院との再戦が予想され大会屈指の好カードが実現することとなる。

中部準優勝の**清水東**は決勝で静岡学園を土俵際まで追い詰め存在感を示した。ガッツ溢れるプレーの**横川蓮**、インサイドには決勝でも3P4本を含む23得点で躍進の立役者となったシューター・**横井颯大**、目にも止まらぬドライブで相手を引き付け華麗に合わせのパスを出す**松田岳歩**、3Pも打てる**杉山翔惟**、アウトサイドには180cmの**梅原瑠也**が泥臭くリバウンドを頑張り、要所で起用されるシックスマン1年生・**保科真澄**が華麗なパスワークでオフェンスのリズムを作るバランスが取れた好チーム、ブロック決勝で予想される飛龍相手にどこまで通用するか楽しみである。

西部準優勝・**浜松開誠館**は昨年の大会で4位に終わり東海新人を逃した。今回は雪辱を期して大会に挑む。中心は昨年から出場機会を多く与えられていた**川嶋耕平**、チームの浮沈を握る重要なキーマンである。同様にウインター県予選・藤枝明誠戦で途中出場、終盤連続得点を挙げた**田村宙**にも注目したい。毎年クオリティーの高いバスケットを披露してくれるだけにブロック決勝で予想される静岡学園との戦いに勝負を賭けて2年ぶりの東海新人出場、そして初優勝を狙う。

その他、ウインター県予選ベスト8**加藤学園・浜松湖東**、県総体5位・西部3位・東海国体でも活躍した**山下晃汰**が柱となる**浜松工業**、東部3位の**三島北**、中部3位の**静岡東**などが虎視眈々とブロック決勝突破、そして東海新人出場を狙う。

上記以外の注目選手として**邑上雄亮**（韮山）、**田中涼也・長島大斗**（加藤学園）、**国澤響・杉山涼・古根村友哉**（三島北）、**中村壮護**（三島南）、**岩崎裕大・渡邉絢心**（日大三島）、**櫻井翔**（清水国際）、**稲葉心・内山幸大**（静岡東）、**大城和也・浮島光央・大橋勇輝・澤井元輝**（静岡市立）、**川口司**（城南静岡）、**増田尽・有賀智也・五十嵐恭平**（静岡商業）、**杉本寛・永石圭・高田乾人**（焼津中央）、**樋口倭・中村航大**（島田工業）、**鈴木暁人・小林叶人・平本大也**（浜松工業）、**玉木俊介・杉本晋作・加藤大智**（浜松西）、**石田翔大・鈴井翔人・大淵拓巳・木戸口和樹**（浜松湖東）、**町田蒼希・山崎悠斐・松野巧**（浜松商業）、**川島暢洋**（浜松湖北）、**鈴木俊介・鈴木雄大**（浜松聖星）、**内山裕規**（浜松城北工業）などウインター県予選でも活躍した一級品の選手を擁しており、今大会ではその後の成長を見られるのも楽しみである。

最後に今大会初出場となる2チームを紹介したい。

まずは中部10位で初出場する**清水国際**。平成10年に清水女子から校名変更・共学化を経て創部、22年目にして悲願の初出

場を果たした。エースの**望月敬太**は長い間左脚の怪我に苦しんできたが昨年秋に見事復活、チームを初の県大会に導いた。インサイドに構える**櫻井翔**の動きにも注目したい。

そして**沼津工業**。こちらは昨年度県総体に初出場したが、今回は県新人初出場となった。夏の工業大会で私も対戦したがその時はまだ荒削りのチームでミスが目立った印象があったが、時間をかけてその点を修正し今大会4勝1敗,堂々 9位で初出場を決めた。**渡邉健斗**を中心に個々の1on1と速攻で雰囲気を盛り上げていくチームである。

また久しぶりに県新人に戻ってきたチームが多いのも今大会男子の特徴。中部8位・**静岡大成**は平成16年に静岡精華から現校名に変更し共学化、直後の平成18年度に出場して以来13年ぶりの出場となった。エースは**鬼澤惇**。186cmという恵まれた体格を生かしたド迫力のプレーが持ち味で東海国体でも活躍しキャリアを積んだ静岡県を代表する逸材である。

西部8位の**掛川西**は司令塔・**後藤慶**を中心とした守り勝つバスケで18年ぶりの出場を勝ち取った。どのチームも出場することだけに満足せずに勝利目指して悔いのない戦いを繰り広げて欲しいと思っている。

女子

こちらは現在県内高校大会11連覇、77連勝中、さらには他カテゴリーを含めた全日本選手権県予選も3連覇達成、全カテゴリーを含む県内大会も14連覇、連勝も86連勝まで伸ばして社会人・大学生をも寄せ付けない無敵の強さを誇る**浜松開誠館**が今年も頭一つも二つも抜けている感がある。

ウインターでは初戦・強豪作新学院に終盤の鮮やかな逆転劇で勝利、2回戦・出場回数は最多の42回、優勝回数も桜花学園に次ぐ5回を誇る名門中の名門・昭和学院に第2Q以降1度もリードを許すことなく快勝、3回戦で準優勝した岐阜女子に惜敗したが堂々の全国ベスト16。その戦いぶりを見ると間違いなく全国トップレベルの域に達していた。長年主力としてチームを支えた松岡は引退したが、3試合ウインターのスタメンを飾った残り4人はすべて2年生、戦力ダウンは全く感じさせない。

エース・**山本涼菜**は1年次から主力として活躍する大黒柱、主にインサイドを任されているが、アウトサイドも器用にこなす抜群の選手である。身長171cmとセンターとしては長身とは言えないが、ミスマッチになってしまう相手に対しても積極的に体を張ってディフェンスをし、必死にボールを奪いに行くプレーが持ち味である。巧みなステップ、鋭いドライブを使って毎試合得点を量産、ウインター 3試合すべてでチーム最多得点、合計66得点を稼ぎだした。どの試合でもチャンスがあればディフェンスが来る前に果敢に3Pを放ち、昭和学院戦では3本の3Pを決めた。全国の檜舞台で培ったテクニックを今大会でも遺憾なく発揮してくれるだろう。新キャプテンに就任したシューター・**黒川菜津奈**は何といってもボールミートしてから瞬時に放たれる正確な3Pが魅力、何度も何度もチームの窮地を救ってきた。ウインター 3試合では3Pを36本試みて、3Pでの得点が33点。全国強豪相手にそれだけのシュートチャンスを見出せる類まれな判断力･決断力、果敢に3Pを打てる度胸、ディフェンスを振り切りシュートチャンスを見出す才能、味方も彼女にボールを集めようとするスキルとチームワーク、リバウンド支配力、すべてが備わっていないと成しえない数字である。フリーにしておくとどこからでも長距離砲を放ってくるだけに今大会でも相手チームは対応に苦慮するであろう。

スモールフォワード・**樋口沙彩**は秋以降、得点力が増してきた選手である。以前から高さやドライブ、粘り強いディフェンスやブロックショットでチームを支えてきたが、ここにきて得点に直接結びつく攻撃でチームに貢献できるようになった。その要因はオフェンスリバウンド、彼女がきちんとゴール下絶好の位置にポジショニングするからこそ山本や黒川が安心して3Pを打てる環境を作り出している。セカンドチャンスをそのまま得点に結びつけたり、ディフェンスが寄って来るとアウトレットパスを出したりとプレーの応用力も強み。今後さらなる成長を見せてくれるだろう。**塩澤小夏**は東海総体後スタメンを外れることもあったが、ウインター 3試合ではすべてにスタメン出場、復調の兆しを見せ始めた。派手さはないがパスやスクリーンなど数字に表れないところでチームに貢献し続けている選手である。司令塔を任されている関係からそのポジションの難しさ・奥の深さに日々思い悩むことも多いだろうが、常に考えながらプレーできる頭脳明晰な選手なので、あとは思い切りよくプレーする努力を培って成長し続けて欲しい。その他、昨年はシックスマンとしてチームを支え、特に終盤シビアな展開で投入されても指揮官の期待通りの働きを見せてチームの躍進の原動力となった**中田絵美**、U16日本代表にも選出され国内合宿やニュージーランド遠征を経てさらに成長、茨城国体にも出場し得点を挙げた**マッカラム杏菜**、インハイ全試合でスタメン、国体もスタメン出場、ウインターでも1年生で唯一得点を記録した**中山未悠**、同じく国体でスタメン出場した**岩永美空**、国体で得点を挙げた**西田妃那**など戦力の厚さ、そして経験値は間違いなく昨年を上回っている。信条の粘り強いディフェンスを続け、人もボールも動くチームオフェンスをさらに徹底すればこのチームを打ち負かすところが出てこない難攻不落の状態が当面続くであろう。もちろん油断は禁物、その点を指揮官も選手も常に意識しながらプレーしているのも強みである。

東海新人出場、そして打倒・浜松開誠館を目指すのは各地区優勝チームだけでなく、上位のチームも多く名を連ねる。そういう意味では2番手争いは混沌を極めていると言えるかもしれない。

ウインター県予選3位・東部新人覇者の**市立沼津**は打倒・浜松開誠館を狙える戦力が整っている。

主将として国体に出場した**齊藤汐海**はスピードあるドライブが持ち味、さらに相手が対応してくると状況を見極めてパスをさばくこともできる技巧は選手である。視野も広くゲームコントロールも出来るのが強み。**西山沙季**は時折見せる反転しなが

らのリバウンドが印象深い。献身的なプレーも多くそのひたむきな姿勢は模範にもなっている。またこのチームも鈴木・望月という1年生長身コンビの活躍が光っている。**鈴木芹菜**は172cm、望月と共にインサイドを任せられてゴール下での得点を量産、国体2試合でも22得点、ウインター県予選準決勝・準々決勝で計32得点を挙げた。アウトサイド・インサイドどちらからでも得点パターンを持ち、特にインサイドはゴール下だけでなくドライブで点を取れるのも魅力である。174cm**望月莉七**は長身を生かしたインサイドプレーのスペシャリスト。中でのプレーに境地を見出し自分の信念を強く貫き通すスタイルは見ている側も好感を覚える。その他にも粘り強いディフェンスの**落合璃子**、巧みなドリブルでディフェンスのタイミングを遅らせてドライブに切れ込む**飯岡寧々**、予備登録選手として国体にも帯同した**川口美空**など多彩な戦力を誇る。得意の脚を使ったオフェンスを軸に高さを有効に使い、粘り強いディフェンスと勝負どころのリバウンド、そしてパスランの徹底などが有機的に機能していけば浜松開誠館とも互角に戦えるだけの戦力は十分にあるはずである。まずは2回戦で予想される宿敵・常葉大常葉との戦いに集中し、ブロック決勝をも勝ち抜いて決勝リーグ進出そして2年ぶりの東海新人出場権を勝ち取りたい。

中部王者の**静岡西**は昨年の県総体4位・ウインター県予選ベスト8と常に県の上位を維持、今回中部新人を初めて制し優勝候補の一翼に名乗りを上げた。

もちろんエースは昨年からチームを支える**北條明星**。ウインターの展望内でも絶賛したが、1on1の強さ、ドライブ、精度の高いシュート、相手との駆け引き、間合いの取り方、すべてにおいて「超」がつくほどの一流選手である。ウインター県予選・藤枝順心戦では敗れはしたものの25得点、今年もチームの得点源となるであろう。先日の中部決勝を見た限りではすべての攻撃の起点になっているのはもちろん、崩れた体勢からも確実にシュートを決め切れる決定力、ドライブでティフェンスを引き付けアウトサイドの合わせにアウトレットパスを出し3Pを演出するなどさらに進化した姿が見られた。加えて試合中コート内で積極的にチームメイトに話しかけ、約束事の確認やアドバイスをしているシーンが多々見受けられた。今までは先輩たちとプレーすることが多く遠慮もあっただろうが今大会からは同級生中心となり気兼ねもなくなったのだろう。またチームを担う責任感も出てきたはずだ。そんな光景にもチームの強さが垣間見られた。その他、今季キャプテンに就任・飛び込みのリバウンドに境地を見出す**鈴木菜々花**、ウインター県予選準々決勝にも途中出場・小柄ながら力強いバスを繰り出す司令塔・**山田まや**、中部決勝では3P4本・北條から合わせのパスを角度のないところからでも高確率で決めていく**渡邉優蘭**、リバウンドへの初動が速くいい位置をしてセカンドチャンスに備える**竹田菜々実**など恵まれた戦力を生かし、まずは初の東海新人出場を狙う。

激戦の西部新人を3年連続で制した**浜松学院**は4年前のこの大会の覇者、その時は浜松開誠館を破って初優勝を飾り、現王者・浜松開誠館が最後に負けた県内チームでもある。しかしながらそれ以降ベスト4の壁を打ち破れずにいる。今大会はまずその壁を突破し東海新人出場を目指したい。今年の特色は内外のバランスが良く、得点パターンが多岐にわたることだろう。

伝統のアウトサイドには170cm・怪我から復帰した大器・**関百花**、174cm・**足立玲那**など170cm代の選手4人を擁する。インサイドにはウインター県予選・浜松開誠館戦でチーム最多の19得点・集中力を高めて3Pを放つ**金井凛莉**、相手の注意がインサイドに集中するのを見計らって3Pやミドルを器用に決める**白井凛**、ロッカーモーションなど巧みなステップで相手をかわすのが上手い**金谷百々子**などを中心に今年もディフェンスからの速攻を軸とした浜学らしいバスケが展開できると4年前の再来も期待できる。

地区上位の注目チームは藤枝順心・駿河総合・常葉大常葉の中部勢と西部の浜松市立。

ウインター県予選3位・中部準優勝の**藤枝順心**は主力の3年生が抜けたことを感じさせない戦力の厚みを誇る。粘り強いディフェンスから速攻がモットー、リバウンドでのボディコンタクトにも個々の選手が自信を持ち、コート上で伸び伸びとプレーしているのが特徴。アウトサイドにはキャプテンに就任しプレーもリーダーシップもひとまわり成長、瞬発力に長け成功率が高い3Pを放つ**服部満里奈**、ウインター県予選からレギュラーに定着、常にリバウンドを意識しながらボール保持に固執して得点につなげる**木村奈々美**、マイボールになる瞬間の一歩目が速い**鈴木はるり**、インサイドには1on1強く3Pも打てる**高田晴妃**や国体出場・中部新人静岡西戦では相手に離されまいと必死に打った3Pが4本決まり白熱の好ゲームを展開させた**野末舞**などフレッシュなメンバーを多く擁し、満を持して6年前4位で惜しくも逃した東海新人初出場を目指す。

西部2位の**浜松市立**は10年ぶりに進んだウインター県予選準々決勝で常葉大常葉を相手に大善戦、強豪相手に好勝負を演じた。新人大会も2年連続で6位、6月から一足早く新チームを始動させたアドバンテージを生かして射程圏内に捉え始めた決勝リーグ進出を果たしたい。常葉戦21得点を挙げたスコアラー・鋭いドライブに加え精度の高い3Pが持ち味の**花田明音**と175cmインサイドを守る**萩原羽海**という内外の中心選手を軸に試合を組み立てる。共に国体選手に選ばれて試合にも出場、特に花田は2試合で16得点をマークし、その貴重な経験をウインター県予選で十分に発揮した。その他、相手に合わせてポジションを変えられるオールラウンダー・**坂本光咲**、常葉戦・県武道館に綺麗な軌道を描く3Pを決めた**頭島百音**など多彩な戦力を誇る。例年より高さもあり、その点も相手にとっては脅威。伝統の粘り強いディフェンスからリズムを作るバスケットをコートで発揮し、全身全霊で相手にぶつかって勝利を積み重ねて行って欲しい。

駿河総合は昨年のこの大会で3位となり3年連続で東海新人出場を果たした。中部予選では藤枝順心に惜敗し中部3位に甘んじたが、今回も東海新人出場を狙う一翼であることは間違いない。スコアラーの鈴木が引退し得点力不足が心配されたが、中部予選を見るとどの選手からも得点が生み出されており心配は杞憂、改めて個々のポテンシャルそしてチームの総合力の高さに感心させられた。昨年から経験を積んだ**佐々木聖愛**は172cmの恵まれた体格を生かしゴール下の守護神となっている。入学直後からレギュラーとなりキャリアを重ねてきた**勝亦彩乃**は鈴木の後継者として度胸満点の3Pでチームを盛り上げる。中

部予選・常葉戦でもチーム最多の24得点、頼りになる長距離砲の得点源である。同じく常葉戦・途中出場し第3Qに3連続3Pを決めて相手に傾きかけた流れを再度引き寄せた**山﨑奏美**、球際に粘りを発揮し得点に結びつける**山田遥翔**、徐々にプレイングタイムも増えてきた**土勢佳穂**などの少数精鋭のメンバーで今大会に臨む。東海新人出場のためには2回戦では県総体で敗れた浜松市立との再戦、勝てばブロック決勝で浜松開誠館との戦いが予想される厳しい組み合わせとなったが、チーム一丸となって目標達成に突き進みたい。

ウインター県予選準優勝の**常葉大常葉**は中部予選で静岡西、駿河総合に連敗し4位という不本意な成績に終わった分、不退転の決意でこの大会に臨む。チームの得点源を担った中心選手は引退したが、若い芽が多くいるのがこのチームの特色。その中でも中心選手は東海国体で岐阜県を破り本国体出場の原動力となった植田と市川のフレッシュな1年生コンビ。**植田希歩**は国体でもスタメン出場し2試合ともに2桁得点を記録、続くウインター県予選でも全試合にスタメン出場、特に県武道館決戦の3試合では強豪チームの上級生相手に勇往邁進に突き進み、厚いディフェンスをかいくぐりながら計29得点を挙げた。派手さはないが、ミドルポジションからのシュートが秀逸でプレーにもスピードがある安定したスコアラーである。今後170cmの長身を生かしたポストプレーにさらに磨きがかかると鬼に金棒となるであろう。**市川凛香**はその爆発的な攻撃力が魅力、県総体・東海総体で得点を量産した姿は「これが高校入学間もない新入生か」と驚嘆したほどである。その後は相手チームも対策を講じてきて得点が伸び悩んだが、中部総体を見る限り持ち前の得点力が復調したように見えて安堵した。他にもステイローのディフェンスが信条の**伊藤愛莉**、3Pを武器とする**成瀬こころ**、スピードが売りの**太田結優**、そしてチームの精神的支柱**三原ことみ・本間海麗**など実力あるプレーヤーを多く擁し、持ち前の手堅いディフェンス、どこからでも得点できるオフェンスで地区大会のリベンジを狙う。そのためには2回戦で予想される市立沼津との戦いが正念場となる。

上記以外の注目選手は**森山未愛**（沼津商業）、**奥脇愛美**（三島北）、**刈田遥**（三島南）、**渡邊七海**（飛龍）、**梅津清香**（加藤学園）、**久保田愛・前嶋心花**（沼津中央）、**岡田来夢**（日大三島）、**佐野有美佳・川上愛花**（富岳館）、**柴琴葉**（東海大静岡翔洋）、**前島真子・小澤夏葉**（静岡東）、**市川ことね・望月麻美**（静岡商業）、**伊藤優希**（静岡市立）、**鈴木美沙・八木愛理奈・渡邊彩乃**（島田）、**太田くみこ・酒井柚葉・鈴木芙実奈・中澤愛理**（浜松商業）、**小野寺秀花・鈴木杏実**（浜松東）、**森下紗羽・伊藤成美・田開理生**（西遠女子）、**内山優奈・種子永萌**（浜松聖星）などはブロック決勝以上でその華麗なプレーを見たいと思わせる一流の選手たちである。

参考資料

静岡県高等学校体育連盟75周年記念に添えて

【静岡県高体連創立75周年記念誌（令和５年４月刊行）寄稿文】

（一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島　洋己　（県立科学技術高校教諭）

まずは静岡県高等学校体育連盟の創立75周年を心からお祝い申し上げます。この場を借りてバスケットボール専門部の平成10年度以降の25年間を振り返らせていただきます。

平成10年度からは、高校バスケにとって変革期となった時期、田臥勇太の「能代工業９冠達成」の時期とも重なり、全国的なブームにも乗って静岡県の高校バスケも大いに盛り上がりました。男子は「西部地区独走」の時代から中部・東部にも強豪チームが誕生し、静岡学園、沼津学園（現・飛龍）が複数回に渡って全国大会出場を果たしました。特に静岡学園にはのちにプロリーグでも活躍する波多野和也選手というスーパースターがファンの目を釘付けにしました。女子では長く市立沼津を率いていた青木良浩氏が静岡商業に異動、直後から強化を始めて平成12年の全国総体では決勝で桜花学園との東海対決、敗れはしたものの見事準優勝を飾りました。県勢の決勝進出は40年ぶり、その冬のウインターカップでも堂々４位入賞を果たしました。そして平成14年度は静岡県高校バスケにとって忘れられないエポックメイキングな年となりました。常葉学園(現・常葉大常葉）女子が総体・ウインターカップを県勢初制覇して２冠達成、さらに秋に行われた高知国体でも常葉学園・静岡商業・沼津中央などの混成チームを結成した少年女子が優勝、３大大会の優勝を静岡県が独占するまさに歴史の１ページを飾る年となりました。この年以降、女子の優勝は常葉学園が独占していくようになりました。平成15年には静岡県で47年ぶりに国体が開催され、少年男子が３位入賞を果たすなど大いに盛り上がりました。また大会の開催にあたって多くの先生方・生徒の皆さんが役員・補助役員として汗を流していただいたことも忘れてはいけません。

平成17年秋、現在まで静岡県高校男子バスケ界に大きく影響する出来事がありました。当時はサッカーや陸上を中心に強化をしていた藤枝明誠がバスケットの強化にも着手、過去に昭和学院で全国大会優勝７回を遂げた名将・西塚建雄氏を監督に招聘、巧みなスカウティングで中国人留学生を複数名招き、県外出身選手主体のメンバーで就任からわずか10 ヶ月で全国大会出場、以後監督が代わっても強化の基本姿勢は一貫して変わらず現在まで17回の全国大会出場を記録、現在まで静岡県の高校バスケを牽引し続けています。その藤枝明誠に対抗すべく、沼津中央の監督に飛龍で全国出場19回を誇る杉村敏英氏が着任すると平成21年に県内初アフリカからの留学生を呼び寄せ、静岡県に異次元の高さとパワーのバスケを持ち込みました。このことにより、どこのチームも留学生の高さに対応すべくスピードの強化および留学生対策のバスケを行うようになり、静岡県のバスケットボールのレベルは急激に上がったと言えます。その沼津中央は平成23年のウインターカップで県勢男子初の準決勝進出、敗れたものの３位決定戦で強豪・福岡大大濠に勝ち３位を確保、女子に続き男子にも全国制覇が見えてきた瞬間でした。その間、平成21年の新潟国体では、藤枝明誠・興誠（現・浜松学院）を中心とした少年男子が洛南・東山を母体とした京都と決勝で対決、残り１分で逆転され40年ぶりの優勝は逃したものの静岡県のレベルが他県と比較しても遜色ないところまで来ていることを実感したことも付記したいです。平成25年には全国総体で藤枝明誠が見事準優勝、４年前から総体上位2校にはウインターカップ出場権が与えられ、静岡県に出場権の増枠をももたらしてくれました。現在もＢリーグの一戦で活躍する角野亮伍選手が当時日本最年少で日本代表候補に選ばれ大々的にニュースでも報道され、静岡県のバスケットは一躍全国の注目の的になりました。

現在の男子は上述の藤枝明誠・飛龍・沼津中央・浜松学院・静岡学園に加え、平成24年に創部した浜松開誠館などの新興勢力を加えた私学勢中心の争いとなっています。練習時間の限られた公立高校は厳しい状況に置かれていますが、独自の練習方法などの工夫により上位進出を狙っています。女子は長い間常葉学園の一強時代が続いてきましたが、平成28年の県総体で初の県制覇を果たした浜松開誠館が以降他の追随を許さず、現在も県内大会19連覇、127連勝を継続中、まさに「開誠館独走時代」と言っても過言ではありません。しかしながら他のチームもその独走を止めるべく日々練習に精進しているのは言うまでもありません。

これからも静岡県の高校バスケット界が発展し続け、「強い静岡のバスケット」を全国の檜舞台で披露できるよう我々も微力ながら支えていきたいと思っています。静岡県高等学校体育連盟の益々のご発展、心より祈念しております。

★歴代高体連バスケットボール専門部委員長一覧

昭和26年～42年	馬渡　猛	昭和43年～45年	稲葉 松彦
昭和46年～47年	宮沢 隆明	昭和48年～51年	松崎 保夫
昭和52年～59年	松下 嘉幸	昭和60年～63年	竹原 英明
平成元年～3年	海野 幹夫	平成4年～10年	渡邊 正知
平成11年～18年	小林 一雅	平成19年～24年	三浦 昭彦
平成25年～令和4年	佐野 和好	令和5年～	伊藤　忠

ウインターカップ2020静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第73回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2020）静岡県予選が令和2年10月24日に開幕する。11月15日に**静岡県武道館**で行われる決勝戦の勝者が12月23日に東京体育館他で開幕する**全国選手権大会**への出場権を獲得する。今年は**新型コロナウイルス感染症**の影響により地区・県・東海・全国総体・国体すべてが中止となり、この大会が昨年の東海新人以来約8 ヶ月ぶりの公式戦となる。感染症対策を施しながらの開催となり試合以外にも気を遣うことが増えるだろうが、今後は感染症と共存しながら大会を運営していく**ウィズコロナ**の時代になっていくことが予想される。選手・スタッフ・役員だけでなく保護者や周りの方々にも協力して頂きながらこの大会が滞りなく運営されていくことを願っている。コロナ対策の一環として、今大会は若干レギュレーションが変更された。まず**原則無観客開催**、1試合2時間を確保し感染対策を徹底することとした。また対戦相手も従来は全県一斉開催の意義を尊重し初戦は他地区チームと対戦することとなっていたが、今年は移動による感染リスクを最小限にするために3回戦までは同地区同士で対戦することとなった。今後も状況に応じて変更が生じ皆様方にご迷惑をお掛けする点も多々あると思うがご協力を願いたい。

全国大会に関しては**Jr.ウインターカップ**の関係で今年度から年始開催の予定であったが、Jr.ウインターを年始にまわすこととなった関係で、従来通り**年末開催**となった。また昨年男女各60チームに増えた出場枠は今年に限り登録数が多い東京・神奈川にプラス1枠、ブロック新人大会優勝都道府県に1枠（関東は準優勝県にも1枠・九州はブロック新人大会が中止となったため協議の結果男女とも福岡を推薦)、そして各都道府県代表と開催地枠（東京）となった。メイン会場は3年ぶりとなる聖地・**東京体育館**。サブ会場には一昨年・昨年とメイン会場となり、来年の東京パラリンピック・車椅子バスケ会場となる**武蔵野の森総合スポーツプラザ**も3年連続で使用される。コロナ禍で開催される高校バスケ最高峰の戦い、その栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

今大会の展望を執筆するにあたって、参考資料となる大会の多くが中止となった現状をふまえて今回は執筆を辞退させていただこうかと悩んだ時期もあったが、限られた資料を使って一人でも多くの選手を取り上げたい、そして志半ばでウインター前に引退を余儀なくされた3年生やウインターの開催を信じて日々練習に精進する選手たちのためにも例年通り大会展望を書きあげたい、1人でも多くの選手を載せてあげたい、という思いで僭越ながら執筆させていただいた。情報を出来る限り収集し、色々な方々にも力を借りながらまとめたつもりではあるが、私自身の勉強不足・取材不足または男女・地区の偏り等あってご迷惑をお掛けするかと思うが、現状と趣旨を御理解いただければ幸いである。

男子

今年は大逆転で県新人を制し、8月の県会長杯でも社会人に3連勝して優勝、堂々 11月の東海総合初出場を決めた飛龍と、県新人準優勝・藤枝明誠を中心とした優勝争いが予想される。その中でも飛龍の底力は頭一つ抜けている。

飛龍は県新人では劣勢から土壇場で起死回生の大逆転劇、2年ぶりの優勝を飾った。東海新人は初戦で美濃加茂にまさかの苦杯を喫したが、コロナ禍でどのチームも練習が十分に行えない中でも万全な調整をして臨んだ県会長杯では危なげなく決勝に進み、前年覇者イカイレッドチンプス相手に1度もリードを許すことなく快勝し、大会史上初の男子高校生王者となった。そして何よりも大会中止が続いたこの時期に貴重な公式戦を3試合こなして実戦経験を積んだことも大きい。リュウが卒業し原田監督着任以降初めて留学生がいない純国産のチーム編成となったが、常々留学生の高さだけに頼らないバスケットを心掛けているので心配は無用だろう。

大黒柱は**保坂晃毅**。1年次からレギュラーとして活躍、持ち前のスピードとテクニックを生かしてコートを縦横無尽に動く姿は多くのファンを魅了する。県新人・藤枝明誠戦では屈辱のスタメン落ちを経験したがその悔しさを胸に途中出場、試合終了間際に自陣バックコートから果敢にパスカットを敢行、そのままワンマン速攻に持ち込み逆転優勝への口火を切る大車輪の活躍をした。また先頃U16アジア選手権日本代表として最終発表され今後のさらなる飛躍が期待される。半年ぶりの公式戦となった県会長杯決勝でもチーム最多18得点を稼ぐ八面六臂の大活躍、ドリブルで社会人ディフェンスを華麗に突破する力強さを見て「超高校級」という言葉がまさしくふさわしい印象を受けた。入学時から保坂と共にチームを支え、U18日本代表候補の経験もある**古大内雄梨**は怪我からの回復具合との戦いとなる。その影響で多少好不調の波があるが、体調が万全であれば正確な3Pでチームが勢いづく突破口となる。美濃加茂戦でも挙げた得点すべてが3P、15得点とイメージは完全に3Pシューターだが最近は積極的にドライブも試み、平面的なバスケットも展開できるようになった。満身創痍ではあるが最上級生としての自覚も芽生え積極的に声を出して心身ともにチームを支える屋台骨である。

このチームに色を添えるのが成長著しい**遠藤渉夢**。藤枝明誠戦では残り10秒、1点ビハインド、土俵際まで追い詰められた状況で果敢に放った3Pがリングに吸い込まれるように入り大逆転、王座奪還の立役者となった。3P3本を含む両チーム最多17得点を挙げたこの試合に象徴されるように持ち前のガッツあふれるプレーだけではなく3Pの精度も確実に上がっているので、185cmの高さを生かしたゴール下だけでなく、アウトサイドにも注目したい。課題のインサイドは県新人・静岡学園戦

でチーム最多の12得点を挙げた187cm**鳥見勇敢**や同じく187cm・内外器用にこなす急成長の**池田涼**が任されるであろう。その他にもチーム一の小兵・161cmながら目にも止まらぬスピードで相手ディフェンスをかいくぐる**山本愛哉**、県会長杯で公式戦初スタメンを果たし、3試合すべてで活躍した**坂田翔**、昨年東海国体にも参加した**渡邉晴・畑尻祐哉**、実戦を重ねてゲームコントロールが出来るようになった**斎藤大**、持ち味のディフェンスやリバウンドがさら磨きかかった**三橋翔**、昨年この大会で一躍脚光・社会人との試合で見せた献身的に体を張ったディフェンスが信条の**佐藤彩人**、そしてこのタレント揃いの面々をうまくまとめ上げて飛龍代々の主将に脈々と受け継がれる絶大なキャプテンシーを持つ**櫻井椋介**など戦力充実、2年ぶりの優勝を射程圏内に捉えている。どのチームよりも情熱的に伝わってくる勝利への飽くなき探求心とチームスローガン「小事は大事を生む」を胸に熱血漢・原田監督の胴上げを誓う。

優勝候補筆頭・飛龍を猛追するのが前年覇者・**藤枝明誠**。指揮官に北海道で国体少年男子の監督経験を持つ日下部二郎氏を迎え、新たなスタートを切った。入学予定のマリ人留学生はコロナの関係で来日出来ていないが昨年来の大黒柱カミソコを中心とした高さのバスケットは健在、2年連続ウインター出場を狙う。

身長200cm**カミソコ・オマール**はチームで唯一ウインター出場経験を持つ貴重な存在。全国大会で強豪と対戦した経験が一段とプレーに表れている。県新人決勝リーグで68得点、東海新人・安城学園戦でも29得点、県会長杯でも社会人相手に19得点と名実ともにスコアラーとしてチームを牽引、長いリーチを生かしての素早いリバウンド、柔軟に膝を使っての超人的な跳躍力、着地時に見て取れる安定した下半身、そして激しいトランジションにも対応できるスピードなどどれを取っても一級品。昨年までは他の留学生とプレイングタイムを分け合う起用法が続き随時レストを取りながら試合に臨めたが、今年はチーム唯一の留学生となりフルタイムでの出場が予想される。来日以来まだ公式戦での40分フル出場の経験がないだけにスタミナ面が多少心配されるが、日々のトレーニング、そしてチームの総合力でカバーしていくだろう。

カミソコ以外の選手は今年からレギュラーに定着したフレッシュな面々が並ぶ。新チームが始動した県新人では経験不足からか詰め手を欠き飛龍に逆転負けを喫して辛酸を舐めた。その悔しさと苦しみながらも練習で培った成果を手ごたえに成長の証を見せてくれるだろう。新チームのキャプテンに就任して精神的にもチームを支える**石橋永遠**は強気なドライブと絶妙なシュートが持ち味。東海新人・富田戦ではカミソコが相手留学生に完全に封じられて得点源を失った試合でも一人気を吐き24得点、一矢を報いて留学生に頼らなくても得点が重ねられることを証明した。ポイントガードの**朝比航士郎**も石橋と共に速い展開の中でカミソコの高さを生かしながら得点していくチームスタイルを顕著に表すプレーヤー。速いパスで速攻の起点となることはもちろん、セイフティーを気にしながらも必要に応じて飛び込みのリバウンドにもチャレンジし、セカンドチャンスをものにするプレーも魅力。県新人決勝リーグでもカミソコに次ぐ43得点、外へのこだわりよりも果敢にインサイドへ切れ込む積極性を評価したい。195cm**川越大輔**はU16日本代表候補にもなった未完の大器。長らく怪我に苦しみ県新人も最後3試合を棒に振ってしまったが東海新人では途中出場、体調を万全にして臨んだ県会長杯は見事スタメン、内外から得点を奪い大器晩成の片輪を見せた。これだけの長身選手がカミソコと共にツインタワーとして機能すると他のチームにとって脅威の的となること間違いない。

また近年になく県内出身選手が多いことも特徴。**遠藤千晟**は昨年度県選抜にも選ばれたフォワード選手。ドリブルが器用でスピードもあり、時折3Pも放つオールマイティーな選手である。安城学園戦では3P2本を含む20得点の大活躍、まだ2年生で今後十分伸びていく選手なだけに将来が楽しみである。**神谷大樹・藤川夏希**は昨年ベンチ入り出来ず悔しい思いをした。その分応援で貢献し「ウインターカップ応援大賞」受賞の立役者となったが、今年は声だけでなくプレーでもチームに貢献する立場となった。シックスマン・神谷はレギュラーの座を掴むためにもまずは出場機会を増やしたい。藤川は途中出場した県新人・沼津中央戦で3P2本を含む18得点、スピードあふれるガードとしての印象を残した。**ロカニト**は強靭なフィジカルから繰り出されるレイアップが武器、チームのために体を張るフォワードである。**和太駿治**は192cmの長身を生かしたプレーに注目したい。その他にも東海国体・東海新人に出場した**眞野皓斗**、アウトサイドシューター・**稲井大**、昨年度全中優勝を経験した新星・**西村星汰**、同じく1年生有望選手・**上野幸太**など新進気鋭のメンバーで県王者の奪還、そして大会連覇に向かって勇往邁進する。

この2強に続くのが昨年度3位、県新人も3位となり出場した東海新人で強豪・桜丘を返り討ちした**静岡学園**。

中心は昨年度県協会優秀選手**良知宏大**。昨年・加藤学園戦で見せたリングに吸い込まれていくシュートの連発の残像が私の瞼から1年たった今でも離れない。背筋が伸びた理想的な姿勢から仕掛けるドライブは絶品、東海新人では桜丘・四日市工業という全国トップレベル相手に3P8本を含む53得点の大活躍、今大会注目の選手である。良知を助ける主将**小川大新**も下級生の時から実戦経験を多く積みキャリア抜群である。監督からの全幅の信頼を得て3Pシューターとしてチームの得点源となる。市川の後継として大役を任されている185cm**保谷蒼空**は経験を積むたびに成長が実感できる選手で新チームになり公式戦全試合にスタメン出場、広い肩幅とスピードを駆使していい位置に待ち構え、さらに深く膝を曲げて巧みにポンプフェイクも活用できるテクニシャンである。その他、東海新人2試合で3P4本を含む28得点、相手ディフェンスの動きを見てドライブから機転を利かせてジャンプシュートに切り替える**瀧澤良斗**、チーム1の長身・東海新人でもスタメンで出場した185cm**齊藤龍哉**、同じくインサイド184cm**三井勇一郎**、3Pを得意とする**北堀晃征**など2強に勝るとも劣らない戦力を持ち合わせる。全員ディフェンス・全員リバウンドで速攻を繰り出す伝統の「静学スタイル」で20年ぶりの優勝を狙う。

県新人4位・**沼津中央**は大会ごとに着実に順位を上げ、いよいよ5年ぶりの優勝が視界に入る位置までたどり着いた。中心は2年生エース・**新井樂人**。魅力は何といっても1on1の強さ、絶対的な自信を持って仕掛ける攻撃に相手ディフェンスはきりきり舞いとになる。どの試合でも確実に20点以上稼げる得点力と長身を利してのリバウンドも魅力。同じく2年生**福島寿希也**も爆発的な得点力を持つ。相棒・新井と対をなすプレーヤーで外角からのシュートを切り札とする。県新人決勝リーグでは計59得点、特にチームがオフェンスを完全に封じられた飛龍戦では孤軍奮闘、チーム60得点中25点を1人でたたき出し、厚い

プレスをものともせず3Pも6本決めた。3年生**村上瑠惟・弓削田修都**も下級生に負けじと長身を生かしたリバウンドで得点を重ねるプレーが醍醐味。その他**小瀬村雄大・吉戸皓太**など有望な選手を擁するチームの平均身長は出場校中No.1の180cm、高さを生かしたプレーで一気に優勝を狙う。そのためには昨年から激戦を繰り広げている浜松学院の対戦が予想される準々決勝が山場となるだろう。

昨年3位・**浜松学院**も侮れない。県新人は準々決勝で宿敵・沼津中央に敗れたが5位を確保、底力を見せつけた。中心は**後藤陸人**。県新人では怪我で出場機会を失ったが、ドライブからの得点がチームの攻撃の起点となる。実戦から離れていて試合勘が心配だが抜群のポテンシャルを持つ選手、復活を期待したい。187cm**中川賢人**はインサイドの柱、県新人・浜松西戦ではゴール下で26得点、ボールがローポストに入ると確実に得点に結びけられる選手である。その他にも、3Pシューター**縣剛人**、鋭いドライブと正確なフリースローが持ち味の**前田晃希**、190cmから豪快に繰り出されるブロックショットが武器の**船尾裕二郎**、ミニ・中学共に全国大会出場のキャリアを持つ**曽布川翔月**、さらには**伊藤楓・後藤新葉・大島ジオバニ・鈴木遥斗**など戦力満載。まずは13年続く4強の座を死守するためにも準々決勝で予想される沼津中央との戦いに全身全霊で挑む。

西部6位で臨んだ県新人で県6位に躍進、台風の目となった**浜松西**は**杉本晋作・玉木俊介・窪園孝太郎**という主力3年生が残り、上位と互角に戦える布陣が整った。加えて今大会最高身長・203cm**加藤大智**、長身185cm**和久田登馬**、ガード・**大村海斗**や昨年度県協会中学部優秀選手・185cm**平野太基**など下級生戦力も充実、いよいよ23年ぶりの4強が見えてきた。

県新人7位・**浜松湖東**は昨年度3大大会すべてベスト8をキープ、今回も主力3年生**石田翔大・木戸口和樹・大淵拓巳**が残り、浜松西同様22年ぶりの4強に手が届くところまで来た。188cm木戸口や183cm**江間淳斗**など長身選手が多く、新戦力のガード**上野真輝**を使いながら攻守でリバウンドを多く支配し速攻につなげる組織力が魅力である。

同じく県新人7位の三**島北**は近年確実に8強をキープしてきたが県武道館には未踏である。今年は大型選手が多く、昨年東海国体にも出場した186cm**古根村友哉**や187cm**廣和睦**・183cm**小林信之介**など180cm台を5人も抱える。中盤の**吉川爽人・野口大明**も機動力のある期待のホープ、まずは県武道館を目指して一意専心頑張って欲しい。3校はすべて公立高校、男子に限るとメインコートにたどり着いた公立高は7年間現れておらず厳しい戦いが続く。その重い壁を粉骨砕身の努力と研鑽で突破して欲しい。

また一昨年準優勝・**浜松開誠館**もリバウンド・ルーズボールなど球際の泥臭いプレーに汗を流す**川嶋耕平**や昨年この大会で輝きを放った**田村宙**、力強いリバウンドで真骨頂を発揮する**須和部陸**、昨年度中学生として初の国体少年男子選抜選手に選ばれた長身196cm**鈴木楓大**など一流の戦力を擁しており、8年連続の県武道館を賭けて対戦が予想される浜松学院戦が上位進出への試金石となる。

今回プログラムを作成するにあたり何度も選手名簿を確認したが、近年選手の大型化が進んだといえども190cm以上の選手を見つけるのは至難の業である。それでも今回は11人が該当、その中から3人を紹介したい。190cm**西山えんり**（御殿場）、193cm**牧田滉平**（吉原工業）、191cm**佐野颯馬**（藤枝北）。3人とも工業系の高校に所属している関係から工業大会や練習試合で対戦する機会も多く、類まれな長身を生かしたプレーが心に残った。高校入学時から身長が10cm伸びた牧田は高さに加えスピードも持ち合わせブレイクにも対応できる選手である。西山はミニ時代から注目していた選手で当時からポストプレーが上手く、恵まれた体格を生かしてのスクリーンアウトやリバウンドで他を圧倒していた姿が今でも忘れられない。先日久々に見た時には持ち前のパワープレーがさらに磨きかかっていた。佐野は浅いキャリアながらも実践向きで、シールやポジショニングのスキルが見るたびに上達した選手である。このような特色のある選手達に注目するのも興味深い。

上記以外の注目選手として、**古株俊輔・邑上雄亮**（韮山）、**新保晴也・山口裕也**（裾野）、**藤曲海斗・勝又海斗・横山貴大**（御殿場）、**鈴木蓮・鈴木豪**（沼津工業）、**田中涼也・深澤響・長島大斗**（加藤学園）、**ナーガケンジ**（誠恵）、**山崎未希也**（桐陽）、**中村壮護・白井響己**（三島南）、**岩崎裕大・渡邉絢心**（日大三島）、**清隼斗・佐野大河・井上快星**（富士宮東）、**大隅裕心**（星陵）、**鈴木涼斗・坪井寛大**（富岳館）、**松田岳歩・横井颯大・保科真澄・山本哲平・櫻井翔也**（清水東）、**白土裕太・新村泰樹・鈴木智也**（清水西）、**望月敬太・谷口晴紀・櫻井翔・曲渕大輝・阿形祐輝**（清水国際）、**稲垣遥斗**（東海大静岡翔洋）、**神保蓮・鈴木義宗**（静岡）、**堀切川瑠・金城琉之介**（科学技術）、**小川大輝**（駿河総合）、**宗村美輝・磯部省伍・岩崎公輔**（静岡商業）、**内山幸大・根岸飛向・望月心太郎・松崎舟馬**（静岡東）、**白鳥達也**（静岡城北）、**西島佑紀・澤井元輝**（静岡市立）、**鬼澤惇**（静岡大成）、**山田陽太・新村留季也**（常葉大橘）、**久野愛留**（静岡北）、**川口司・望月隆太・小澤綺羅・漆畑賢人**（城南静岡）、**永石圭・杉本寛・高田乾斗**（焼津中央）、**シャイェギヤン羅瑠**（清流館）、**近藤優希・木野広道・深澤剛至**（藤枝東）、**法月孝太郎**（藤枝北）、**樋口倭・但馬柊輝**（島田工業）、**塚本陽和**（島田樟誠）、**八木孝樹**（相良）、**比嘉海輝**（小笠）、**櫻井葵・佐々木潤之介・渡部博熙**（常葉大菊川）、**内田周佑**（掛川東）、**西尾俊哉**（袋井商業）、**甘日岩元**（磐田南）、**刑部隆**（浜松南）、**小畑樹・町田蒼希・松野巧・山﨑悠斐・太田愛李**（浜松商業）、**杉山聖**（浜松湖南）、**山下晃汰・平本大也・鈴木暁人・鈴木弥真斗**（浜松工業）、**川島暢洋**（浜松湖北）、**鈴木俊介・鈴木雄大・鈴木偉陽冴**（浜松聖星）などを挙げさせていただきたい。

女子

現在県内高校大会15連覇・83連勝中、まさに県内敵なしの強さを誇る浜松開誠館が他の追随を許さない状況が続いている。県会長杯では決勝で静岡産業大学に惜敗、全カテゴリーを通じての県内大会連覇・連勝はストップしたがこの記録は高校生が足かけ5年かけて打ち立てた不滅の金字塔、決して色あせることはない。独走態勢に入って長期政権を続ける無双王者を共に東海新人初勝利を挙げた藤枝順心と浜松学院が追う展開となるだろう。

大会5連覇を狙う大本命の**浜松開誠館**は県新人も圧倒的な強さで優勝、東海新人では準決勝で桜花学園に敗れたものの3位決定戦で安城学園に快勝、全国ワンツーに続く3位となった。直後にコロナ禍となり練習もままならない時期が続いたが、再開後は練習内容を教育支援アプリに記録するなど常に一歩先に行く姿勢でこの難局を乗り切った。県会長杯での敗戦は選手にとって非常に悔しいものであろうが、8月に県武道館で流した悔し涙を11月に同じ会場で感涙に変えてくれるであろう。

チームの中心は1年次より主力として活躍する**山本涼菜**。全国レベルのセンターをインサイドで相手にするには正直苦しい171cmながらもスピードとテクニックで互角以上に渡り合ってきた大黒柱。元来内外ともに器用にこなせるユーティリティープレーヤーで安城学園戦では3P4本も決めアウトサイドからも得点を量産できることを証明した。任されたポジションに応じて、巧みなステップ、鋭いドライブを駆使し自分のバスケットが出来る順応型プレーヤーと言える。今まではインサイドでミスマッチとも思えるほどの大型選手に体を張って中に入りドライブやターンシュートで得点を重ねてきたが今年はチーム事情で中盤を任される可能性もある。どこを任されてもソツなくこなすであろう。シューター**黒川菜津奈**は県新人・静岡西戦では多少精彩を欠き3Pは1本にとどまったが、その1本は相手の猛追を振り切る値千金の一撃であった。藤枝順心戦では3P3本を決めてきちんと復調、さらに東海新人では天下の宝刀を遺憾なく発揮し3試合で3P14本、総得点も57を記録した。テクニックもさることながら、シュートセレクションの判断力・決断力、度胸、そして相手に対応されてもそれをかわす適応力が誰よりも優れた秀逸プレーヤーである。新チームになって大きく成長したのが**樋口沙彩**。今までも縁の下の力持ちとしてリバウンド・ルーズボールを誰よりも一所懸命に追い続け、果敢にブロックを試みる姿が見られたが県新人ではさらに進化、その結果が数字にも顕著に表れ始めた。決勝リーグでは68得点、特に順心戦では両チーム最多の31得点をマーク、東海新人でも3試合で57得点、山本・黒川と並ぶチームのスコアラーに成長した。半年ぶりの実戦となった県会長杯では大学生・社会人相手の3試合で48得点、全試合で3Pを決めるなどますますプレーの幅が広かった。

パスやスクリーンなど数字に表れない部分で黒子に徹しチームに貢献するのが**塩澤小夏**。県新人決勝リーグでは全試合スタメン出場、途中他選手と交代しながら堅実なディフェンスや的確なパスでチームの4連覇に貢献したが、東海新人では出場機会に恵まれず失意のどん底に陥った。そんな中でも誰よりも熱心に練習に取り組み続け県会長杯ではスタメンの座を奪還、司令塔として状況を考えながら冷静沈着にプレーする姿が見られた。元来天才肌の選手、今後出場機会を確実にしていくためにはさらに積極的に得点に絡むことが求められる。

今年は6人も170cmオーバーの選手がいるのも今までにない特徴、昨年は2人だったことを考えると相当な戦力アップである。平均身長166.4cmは出場校随一、今まで泣き所であった高さでも全国トップレベルに迫る勢いである。国体への参加経験も持ち昨年度も東海新人を始め随所で途中出場を果たしいい働きを見せた176cm**西田妃那**、茨城国体にも帯同した171cm**平井朋美**などの現有戦力だけでなく、新入生ながら県会長杯堂々の全試合スタメン、海千山千の相手にゴール下の新守護神として必死に自分の本分を全うした県内最高身長178cm**前田理咲子**が加わったのが大きい。過度に期待や負担をかけることは禁物だが、この稀にみる逸材の活躍が今から楽しみである。その他にも、昨年は切り札としてチームを支え有事に備えてきたが県新人では全試合スタメン起用されて期待に応えた**中田絵美**、茨城国体メンバーの**岩永美空**、そして1年生では県会長杯全試合スタメン・20得点を記録してレギュラー獲得に一歩前進した**萩原加奈**やミニで全国出場経験を持つ**小幡夕夏**など戦力は頭ひとつもふたつも抜けている。従来の力強さ、粘り強いディフェンス、人もボールも動くオフェンスに加えて今年は高さまで加わり、鬼に金棒となった感さえある。毎回無敵女王と言われながらも常に「油断は禁物」「勝って兜の緒を締めよ」と気持ちの引き締めに余念がない。スローガンである「集中・気合・徹底」を胸に刻んで全国の檜舞台での勝利を視野に入れながら県予選の階段を一歩一歩慎重に大切に着実に上がっていくだろう。

絶対王者を追うのが藤枝順心と浜松学院。**藤枝順心**は県新人準優勝で初出場を果たした東海新人、四日市商業に会心の勝利、敗れたものの岐阜女子にも胸を借り全国トップレベルを肌で感じたことは大きい。初出場となった県会長杯では社会人Freeクラブと対戦、見事接戦をものにし初勝利、打倒・浜松開誠館の一番手に改めて名乗りを上げた。

3年生**服部満里奈**はこの試合3P3本を含む17得点の活躍、今まではよく走ってスピードで相手を攻守に翻弄するスタイルであったが、長距離砲にも正確さが加わった。下級生を統率する抜群のリーダーシップも持ち合わせる如才ない選手に成長した。アウトサイドには得点源の171cm**高田晴妃**と170cm**野末舞**が待ち構える。高田は県新人決勝リーグで77得点、四日市商業戦でも32得点を奪った点取り屋。1on1にも強く、ドライブしたら常にシュートまで持って行ける猪突猛進型の選手である。野末は長身を生かしたポストのディフェンスに活路を見出す。オフェンスではポストにボールが入らない時には瞬時にキックバックして外でもらって果敢に3Pを放つ。**鈴木はるり**は安定感抜群のプレーヤー、県新人決勝リーグ40得点、東海新人2試合で38得点、常に2桁得点を計算でき、特に岐阜女子戦で見せた相手に臆することなくカットインして得点を重ねる姿は非常に頼もしかった。**木村奈々美**はリバウンドへの執念、その一語に尽きる。四日市商業戦では献身的なディフェンスで19リバウンド、歴史的勝利へ陰の立役者となった。**鈴木ひより**は今まで出場機会に恵まれなかったが、県会長杯で初スタメンを果たすと大覚醒、社会人・大学生相手に35得点、力強いオフェンスリバウンドからセカンドチャンスをものにするプレーで一躍チームの救世主となった。インサイドにチーム最高身長172cm**松林亜美**も加わり下級生中心の若いチームではあるが、チームの

生命線はリバウンド、ファンダメンタルな練習を繰り返し、それを実践でフィードバックする。「練習は裏切らない」、悲願の初優勝を手にするためにも1つ1つ目の前の試合を確実に勝利へつなげていきたい。

浜松学院も魅力的な戦力を誇る。今までなかなか4強の壁を突破できなかったが県新人で4年ぶりの4強、さらに静岡西と大接戦の末東海新人出場権を獲得、待望の東海初勝利も挙げた。内外にバランスよく実力のある選手が揃い、どの試合でも4～5人が2桁得点を記録するオフェンシブな布陣である。
エース・**金井凛莉**は今大会屈指の3Pシューター。県新人決勝リーグで11本、東海新人・美濃加茂戦では1試合で9本も決める離れ業、相手にシュートチェックされてもいとも簡単にシュートをリングに叩き込む。ステップも華麗でドライブも鋭いだけにどのチームも対応に苦慮するだろう。173cm**足立玲那**はゴール下でもらったパスを確実に得点につなげるプレーヤー。時折放つ3Pオフボール時に見せるスクリーンなど器用な側面が目立つようになった。2度の手術を乗り越えて昨年見事復活、以来持ち前の力強いリバウンドや高い得点力を生かしチームの原動力となった**関百花**はミニで2度、中学で1度全国を経験した抜群のキャリアの持ち主。怪我から不死鳥のようによみがえった逸材は高校でも全国を狙う。**白井凛**はポイントガードとして3Pやドライブ、ミドルなどの個人技を使いながらも周りを生かしたパスを出せる抜群の状況判断力を持つ。その他にも東海新人でスタメン出場・2試合で3P6本を決めた**鈴木音葉**、静岡西戦で16得点、第3Qに決めたミドルのブザービーターが印象深い**金谷百々子**など有力選手を多く抱え、ディフェンスからの速攻を軸としたバスケットで一気に初優勝を狙う。

上記3チームを追うのが静岡西・常葉大常葉・浜松市立。**静岡西**は昨年度県総体・県新人ともに4位で東海大会初出場を逃した。この悔しさをバネにまずは県武道館メインコートを目指す。
エースは言わずもがな、**北條明星**。ドライブ、ジャンプシュート、3P、パス、状況判断どれをとっても一流のオールラウンダー。1on1にも強く、相手との駆け引きもうまい。相手との間合いの取り方も絶妙、ドライブ、3P、スキップパスなど多くの選択が出来る距離感を常に保つ。そんな多彩なテクニックの中でも持ち前の爆発的な得点力は今大会注目の的である。県新人決勝リーグで74得点、特に会場が割れんばかりに揺れた大熱戦・浜学戦では3P4本を含む大会最多の36得点、まさに神がかった活躍であった。この選手を周りがさらに活かせる展開に持って行きたい。**渡邉優蘭**は北條に次ぐ得点源に成長、得意の3Pだけでなく、リバウンドにも精を出し時には北條からの合わせに対応してシュートを決める。**山田まや**は経験を積むごとにプレーの幅が広がり、持ち味の3Pだけでなくディフェンスの動きに応じてさまざまなバリエーションのシュートが打てるようになった。その他にも積極的にリバウンドにも参加しキャプテンとしてチームを統率する**鈴木菜々花**、チーム随一の長身でいち早くリバウンドを支配、その後はセカンドショット・アウトレットパスなど状況を見極めて最善の策をチョイスできる**竹田菜々実**、そしてチームの精神的支柱・**木村杏莉愛**など上級生主体のチームで今大会に臨む。チームワークの良さの中にも垣間見られる自分たちに向けた徹頭徹尾の厳しさ、飽くなき向上心、その気持ちを全員が持ち続け準々決勝で予想される常葉大常葉との戦いに競り勝って浜松開誠館に挑戦したい。

昨年準優勝・ウインター出場16回を誇る名門・**常葉大常葉**は県新人ブロック決勝で藤枝順心に惜敗、5位に甘んじた思いを胸に雪辱を期して今大会に臨む。チームの中心は昨年来チームの中心として活躍する**植田希歩**と**市川凛香**。植田は1年生として参加した昨年の県武道館決戦3試合で29得点、インサイドには絶対の自信を持っており、170cmの長身を生かしたポストプレーでチームに貢献した。ハイ＆ローもうまくこなしミドルの成功率も高く、県新人では3Pを決めるシーンも見られプレーに幅が出てさらなる進歩が楽しみである。市川の良さは爆発的な得点力。一時相手チームが対策を講じ得点が伸びない時期もあったが県新人・浜松市立戦では28得点、完全にスランプを脱出した。もともと厳しいディフェンスでリズムを作りオフェンスにつなげていく選手、今大会でも攻守に活躍する姿を見てみたい。他にも3Pシューター・**成瀬こころ**、膝を深く曲げてお手本のようなステイローで堅守を見せる**伊藤愛莉**、スピードあふれるプレーでコート狭しと駆けまわる**太田結優**、そして鋭いドライブを見せる**本間海麗**と得意のリバウンドで出場機会をうかがう**三原ことみ**は共に170cm、高さでチームに貢献する。駿河総合・静岡西など強豪との戦いが予想されるが、まずは11年連続で県武道館メインコートにたどり着き、その先に5年ぶりの優勝を目指す。

浜松市立は近年常にベスト8を維持する安定感あるチーム、昨年は10年ぶりに県武道館に凱旋して常葉大常葉に大善戦、館内から拍手喝采を浴びた。県新人5位決定戦でも再度常葉と対戦、リベンジはならなかったものの3年連続県新人6位、確かな手ごたえを掴んだ。チームの柱は茨城国体にも出場した**花田明音**。鋭いドライブと3Pが持ち味、特にドライブの切れ味は天下一品、県新人常葉戦では27得点、特に第3Qは大活躍、連続して4ゴールを決め最後3Pも決めるなど独壇場であった。また長身選手が多いのも特徴、国体にも出場・インサイドを守る175cm**萩原羽海**、昨年の常葉戦でスタメン出場を果たして得点も挙げた170cm**川合杏里**、2月の常葉戦にスタメン出場し萩原とともにゴール下の戦いに挑み見事2桁得点をマークした173cm**山田菜都美**など170cm以上の選手を4人擁する。他にも昨年沼津中央戦で途中出場し激しいルーズボールの争いを演じた**桑原佳鈴**や何事にもひたむきに頑張る**中川紗希**など高さとスピードを使ってまずは県武道館までたどり着き、準々決勝で予想される宿敵・浜松学院との戦いを制したい。

その他、スピードを生かした1on1で相手を振り切る**木野歩美**、パスを受けてのジャンプシュートを得意とする**石川真佑**、3Pシューター・**鈴木ひな**、相手レイアップをブロックするのが上手い**佐野日菜子**、新入生の有望株**立脇里菜**の下級生と3年生の**内山優奈・内山香里奈・種子永萌**が有機的に機能して力を発揮する県新人7位・**浜松聖星**、同じく県新人7位・粘り強いディフェンスが持ち味、チーム一丸となって声を出し試合に臨む姿も印象的、1on1を得意とする攻守のキープレーヤー・**森山未愛**、シューター・**植松舞香**、インサイドの攻撃が魅力の**近藤美桜**、ルーズボールへ人一倍執着心を持つ**高橋冴笑**が地道な努力で高さを補う**沼津商業**、ドライブ時に相手ディフェンスの動きを見て華麗にパスをさばく**斉藤汐海**、安定した下半身を使って反転

リバウンドを試みる**西山沙希**、1線でのディフェンスが粘り強い**滝口祐里**、相手オフェンスの流れを止める粘り強いディフェンスがモットー・**落合璃子**の3年生に加えて、内外どこからでも得点できる172cm**鈴木芹菜**とインサイドプレーに力強さが出てきた174cm**望月莉七**のツインタワーズ、相手のタイミングを巧みなドリブルでかわす**飯岡寧々**、リバウンドでチームに貢献する**川口美空**など厚い選手層を誇る前回3位の**市立沼津**などがまずは県武道館、そしてその上を虎視眈々と狙う。特に県武道館を賭けて対戦が予想される**沼津商業－市立沼津戦**は壮絶な戦いとなるだろう。

上記以外の注目選手として、**吉長美夢**（松崎）、**小針千朋**（三島北）、**苅田遥・田中美桜歌**（三島南）、**岡田来夢・曾澤琴音・佐藤花梨**（日大三島）、**森目向子**（沼津西）、**森麗華・堤紗亜弥・菊地架帆**（飛龍）、**久保田愛・前嶋心花・白井叶望**（沼津中央）、**佐久間悠穂**（加藤学園）、**佐野有美佳・川上愛花・藤田花**（富岳館）、**佐々美咲**（清水東）、**小川咲楽**（清水西）、**宮城島彩名**（清水南）、**橋本紗那・池ヶ谷美妃**（東海大静岡翔洋）、**青木日菜子**（静岡）、**花村萌衣・前島真子・小澤夏葉・吉永芽生**（静岡東）、**市川ことね・望月麻美・栗田彩花**（静岡商業）、**伊藤優希・山本つぶら**（静岡市立）、**佐々木聖愛・勝亦彩乃・土勢佳穂・堀池つぐみ・山田遥翔**（駿河総合）、**櫻井愛里・小林芽生**（静岡女子）、**吉村桃華**（常葉大橘）、**道土井さくら**（焼津水産）、**内海唯**（藤枝順心）、**鈴木彩夏**（島田）、**前林佑実**（島田商業）、**高塚那菜**（小笠）、**長谷川愛永・山口もも・海野恵利圭**（常葉大菊川）、**佐藤有香**（掛川東）、**蜂須賀凛・齋藤千春**（磐田南）、**堀内ひなの**（磐田農業）、**久保田真菜・奈良和音**（浜松西）、**飯吉美羽・勝村寧々**（浜松南）、**太田くみこ・酒井柚葉**（浜松商業）、**永田芽依・田中七海・サリッチ月奈**（浜松湖南）、**市原董・鈴木咲**（浜松東）、**福田渚・杉田千夏**（浜松日体）などを挙げさせていただきたい。

【参考資料】　国民体育大会・国民スポーツ大会　≪少年男女≫

年度	開催県	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位（順不同）		優勝	準優勝	3位（順不同）	
全国国民体育大会（国体）									
H26	長崎	福岡	茨城	広島	京都	愛知	千葉	北海道	福井
H27	和歌山	茨城	宮城	愛知	福井	愛知	岐阜	静岡	千葉
H28	岩手	京都	石川	福岡	岩手	愛知	岐阜	愛媛	東京
H29	愛媛	京都	福岡	静岡	宮城	岐阜	東京	大阪	奈良
H30	福井	福岡	愛知	千葉	京都	愛知	宮崎	大阪	北海道
R元	茨城	福岡	宮城	京都	茨城	愛知	大阪	栃木	宮崎
R２	鹿児島	新型コロナウイルス感染症の影響で開催延期							
R３	三重	新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止							
R４	栃木	茨城	東京	福岡	兵庫	愛知	岐阜	京都	福岡
R５	鹿児島	茨城	新潟	静岡	宮城	京都	千葉	愛知	岐阜
全国国民スポーツ大会（国スポ）									
R６	佐賀	福岡	茨城	静岡	京都	京都	愛知	静岡	大阪
R７	滋賀								

プレイバック静岡・高校バスケ 2019〜2020

文=中島　洋己（県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

【茨城国体】　令和元年10月　　茨城県水戸市　リリーアリーナMITO

8月に三重県で行われた**東海国体**で岐阜女子を母体とする岐阜県を破って本国体出場を決めた**少年女子**。この大会から少年の部はアンダーカテゴリーに準じて、高2の早生まれ、高1、中3の遅生まれによる「U16」の構成となり、高2の遅生まれと高3は成年の部に出場できるレギュレーションに変更となった。

初戦は湯沢翔北、大曲などまさに「オール秋田」で出場権を勝ち取った**秋田県**と対戦。序盤は緊張からか選手に堅さが見られ決定力不足に苦しんだが、身長差を生かした攻撃と激しいディフェンスで第2Qに逆転。司令塔・主将の**斎藤汐海**が的確なパスをゴール下に繰り出し、さらに途中出場の**花田明音**が粘り強い攻守でチームを支え25点差の快勝、初戦突破を飾った。2回戦は**東京都**との対戦、東京成徳、八雲学園、実践学園など名門校のオールスター勢を迎え撃つことになった。序盤は強豪相手に必死に食らいつく互角の展開であったが、**山田葵**（東京成徳）のスピードあふれるトリッキーなプレーや八王子第一中学の和歌山全中優勝立役者・**森美麗**の手足の長さを生かしたダイナミックな技に翻弄され、さらに東京都の勝負所での確実なシュートや厚いディフェンスに屈し、惜しくも2回戦敗退となった。

【ウインターカップ】　令和元年12月　　武蔵野の森総合スポーツプラザ, エスフォルタアリーナ八王子

≪**男子**≫　令和最初のウインター、5年ぶりの出場となった**藤枝明誠**は初戦・**松山工業**（愛媛）と対戦し、**菊地広人・岩下恵達・浜本健**の3人で73点を記録するなど100点ゲームで快勝、6年ぶりのウインター勝利を飾った。2回戦は激戦区・京都決勝で名門・洛南を下した優勝候補・**東山**と対戦、第2Q途中まで試合を優位に進めるなど善戦したが、**脇坂凪人**が繰り出す正確無比の3P、**松野圭恭**の鋭いドライブ、司令塔・**米須玲音**が巧みに使い分ける速攻・遅攻のリズム、そして232cmというNBA選手並みのウイングスパンを誇る**ムトンボ・ジャン・ピエール**が放つ絶妙のブロックショットに圧倒され2回戦敗退。その中でも菊地が36得点を挙げ一人気を吐いた。会場ではバスケ部だけでなく、サッカー部やチアリーディング部など様々な部活の生徒たちが一体となって応援している姿が印象的で、**最優秀応援賞（応援大賞）**を受賞した。

≪**女子**≫　4年連続の出場、すでに常連の風格が漂う**浜松開誠館**は初戦名門・**作新学院**（栃木）と対戦、過去練習試合で何度か対戦経験がある勝手知ったる相手であったが前半で**松岡木乃美**がファウルトラブルでベンチに退き一時は13点差をつけられる大苦戦。感動大賞投票で第3位に入った**柿沼菜月**の献身的なディフェンス、エース・**大越早姫**のミドル、**早乙女優羽**の強気の1on1などに翻弄され攻め手を欠く戦いとなったが、フォワードの**樋口沙彩**が守備で体を張り、アフェンスでは積極的にドライブを仕掛け終盤に逆転、センター・**山本涼菜**も25得点を挙げるなど薄氷の勝利ながら緊張の初戦を突破した。2回戦は前回大会3位・大会史上最多42回を誇り優勝回数も5回を数える**昭和学院**（千葉）が相手。序盤から順調にペースをつかみ中盤には18点差をつけ楽勝ムードすら漂ったが、中盤は平均身長173cmを越える相手の高さに攻めあぐむ展開、シューター・**中村帆香**やインサイドでリバウンドを支配する**三田七南・花島百香**の猛攻に遭い第4Q中盤には4点差まで詰め寄られ窮地に立たされる。しかし勝負際で**黒川菜津奈**が絶妙のタイミングでスティールを仕掛けカウンターで得点、完全に流れを引き寄せる値千金のゴールを決めるなどチームトップタイ22得点の大活躍で追いすがる相手を振り切り会心の勝利を飾った。強敵が続く戦いの中、3回戦は前回覇者・**岐阜女子**との対戦、過去桜花学園にも大金星を挙げたことのある開誠館としては岐阜女子を破って「東西の横綱」から勝利を奪う絶好のチャンスとなった。立ち上がりは順調そのもので相手の厳しい攻めにも動じず落ち着いて対処していたが､途中アクシデントで大黒柱の松岡を欠く戦いを強いられ窮地に陥る｡勝負所の安定感が際立つシューター・**林真帆**、抜群の脚力を誇る**大角地黎**、広い視野から抜群のアシストを放つ**藤田和**のアウトサイド勢に加え、プレイングタイムを共有しながら出場する留学生の**イベ・エスター・チカンソ**と**ジョル・セイナブライ**、今大会最高身長197cm**勅使河原帆南**のインサイド勢に翻弄され王者の牙城を崩せず3年ぶりの8強入りは逃したが、新チームの柱となる山本・黒川がそれぞれ19得点,13得点を挙げるなど光明が見えた試合であった。

【東海新人大会】　令和2年2月　　岐阜県　大垣市総合体育館・OKBぎふ清流アリーナ

≪**男子**≫　県新人3位･2年連続の出場となった**静岡学園**は昨年も1回戦で対戦したウインターベスト8の**桜丘**（愛知）と対戦、抜群の跳躍力を誇る**センマム・リバス**の高さに苦しんだが、中盤以降追い詰められながらも終始リードをキープする展開で接戦を制し2年連続の初戦突破を飾った。2回戦は三重王者・名門の**四日市工業**と対戦。揺るぎない体幹を誇る**藤本拓実**の突破力を止め切れず準決勝進出を逃したが、この2試合でエース・**良知宏大**が53得点、シューターの**小川大新**も3Pを5本決め、インサイドの**保谷蒼空**もリバウンド争いに積極的に参加するなど新チームのビジョンが明確になった1日であった。県新人決勝で飛龍に逆転負けを喫しこの大会に雪辱を期す**藤枝明誠**は初戦・愛知3位の**安城学園**と対戦。年末のウインターで阿部桂監督が勇退､新人戦からは**金本鷹**コーチが暫定的に采配を振る新しい体制となった。初戦の**安城学園**（愛知）戦は**カミソコ･オマール**、**遠藤千晟**の活躍でクロスゲームをものにして見事勝利、続く岐阜王者・**富田**との戦いはカミソコと**サルモハメド・ナビ**という一級品の留学生対決となり、空中戦では互角以上の戦いを見せたが、相手エースの岐阜新人MVP**高橋快成**のオールラウンドなプレーに手を焼き、終盤追い上げを見せるも及ばず上位進出はならなかった。劇的な逆転劇で県王者に就いた**飛龍**は初戦で皇學館を下した**美濃加茂**（岐阜）と対戦，前半はどちらも主導権が握れず1点を争う好ゲームであったが、後半美濃加茂の高さに苦しみ、必死のディフェンスを試みるも主力のファウルトラブルが続きその都度**アジャイ・アーノルド**がことごとくフリースローを決め、さらにリバウンドも支配されるなど徐々に点差を離されて始めまさかの初戦敗退、県勢男子は15年ぶりに初日で姿を消すという残念な結果に終わった。

≪**女子**≫　静岡西との壮絶な東海新人出場決定戦を制し4年ぶりの出場を果たした**浜松学院**は岐阜2位の**美濃加茂**と対戦。

主将・**金井凜利**が3P9本、怪我から復帰した**関百花**は17リバウンド26得点のダブルダブルを達成、東海新人初勝利を掴んだ。2回戦はウインター覇者**・桜花学園**（愛知）と対戦。王者相手に臆することなく果敢に挑んだが、絶対的司令塔**・江村優有**、ジャンプショットや鋭角のドライブを武器とする**前田芽衣**、3Pシューター**平下結貴**、1年生ながら強気の攻めを見せる**伊波美空**などのタレント軍団に翻弄されて完敗。しかしながら絶対王者に対しどれだけ点差が離れても決して諦めることなく立ち向かう不撓不屈の姿勢は見る者の心を打った。県新人準優勝・悲願の東海新人初出場を果たした**藤枝順心**は初戦から公立の強豪・**四日市商業**（三重）と対戦。ウインター出場15回を誇る相手に第3Qまで大接戦を繰り広げる。昨年末もスタメンでウインターのコートに立った**小林明夢・池田沙恵**を完全に封じ込め、終盤には攻守でリバウンドを制圧、1年生・**木村奈々美**の献身的なプレーで主導権を握り、ブレイクで相手を意気消沈させ東海初勝利、**高田晴妃**も両チーム最多の32得点を記録した。続く2回戦は前年度覇者・ウインター準優勝の**岐阜女子**。スコアラーである**佐藤果歩**の3Pに対してはシュートブロックや執拗なディナイで対策を講じたが、インサイドのエスターや**アググア・チカチュウク**などに得点を許し結果的には完敗となったが、全国トップレベルとの差を肌で感じることが出来ただけでも収穫、貴重な経験となった。絶対的県王者・東海初優勝を狙う**浜松開誠館**はウインターにも出場した名古屋女子大学高を破り勝ち上がってきた新興勢力・**四日市メリノール学院**（三重）と対戦、併設中学は近年全中の常連であるだけに油断は禁物、序盤こそ接戦となったが1年生中心の若いチーム相手に落ち着いて連続得点を積み重ね、終わってみれば40点差の快勝となった。準決勝は**桜花学園**と一昨年のウインター以来となる対決。近年両チームは東海・全国で激闘を繰り返しており、一昨年の東海新人では浜松開誠館が、ウインターでは桜花が勝利を飾っておりまさに決着戦となる戦いとなった。前半から猛攻を仕掛ける桜花学園に対して必死に食らいつき、茨城国体少年女子優勝の立役者・182cm**朝比奈あずさ**にボールを持たせない展開に持ち込むが、186cm**オコンクウォ・スーザンアマカ**のリバウンド支配やゴール下からの得点に苦しめられて攻め手を失う。主力の山本・黒川・樋口でチーム総得点の約9割、43点を奪うものの勝利まで届かず3位決定戦にまわった。その相手・**安城学園**とは昨年の東海総体で苦杯を喫しリベンジマッチの意味合いも含んだ戦い。序盤から樋口が一気に9得点を奪い主導権を握る展開、相手も3Pシューターの**近藤京**、1年生ながらウインター全戦に出場し飛び込みのリバウンドで気を吐いた179cm**美口まつり**を中心に逆転を試みるが、この試合も山本・黒川・樋口で約9割の69得点、一度もリードを許すことなく快勝、全国ワンツー・桜花学園、岐阜女子に続く堂々の東海3位となり静岡県王者の面目躍如、しかるべき選手が得点を重ねていけば全国屈指の強豪相手でも簡単には負けない浜松開誠館の底力を見せつけた試合となった。

【東海高校総体】 令和2年6月　　岐阜県岐阜市
【全国高校総体】 令和2年7月　　石川県金沢市
【東海国体】 令和2年8月　　愛知県
【国民体育大会】 令和2年10月　　鹿児島県
すべて新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止（国体は延期）

令和2年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

【延期前版】

≪お断り≫　令和3年1月12日現在、静岡県の新型コロナウイルス警戒レベルが5に引き上げられており、「**静岡県高等学校体育連盟主催大会の実施のためのガイドライン**」に則り、大会開催日までに警戒レベルが4以下に引き下げられない場合は大会を延期としますが、この大会展望は日程・会場・実施の可否等は延期・中止を考慮せず執筆しています。その点を了解してお読みいただければと思います。

令和2年度第34回**東海高校バスケットボール新人大会静岡県予選**が令和3年1月23日に藤枝順心高校体育館他で開幕する。24日に男女ブロック決勝と決勝リーグ初戦および5位決定トーナメント1回戦、30日に**草薙このはなアリーナ**で決勝リーグ第2戦と5位決定戦、翌31日に同じく草薙で決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月13,14日に三重県津市の**サオリーナ**で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。今年最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人に駒を進めるのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。この大会から年末のウインターカップ2020でともに勝利を勝ち取った飛龍・男子と浜松開誠館・女子が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。

昨年秋に行われたウインター県予選もコロナ禍での開催となったが、今大会も残念ながら**新型コロナウイルス感染症**の拡大はとどまることを知らず、我々の静岡県も日々感染者数右肩上がり、1月12日には静岡県の感染状況がステージ3、警戒レベルも「**5（特別警戒）**」への引き上げが発表されるなど先行きが不透明な状況が続いている。そのような状況下での開催となることから、運営側および参加校側も今まで以上に感染症対策を万全に施しながらの大会開催となる。ウインター県予選の展望内でも触れさせていただいたが、今後は感染症との共存しながら大会を行っていく**ウィズコロナ**の時代となり、皆様方の御協力・御理解をいただいての大会運営となる。安全・健康面を第一に考えて、県高体連および県協会のガイドラインに従った上で感染症対策を十分講じて大会を実施していく。残念ながらこの大会も**全日程無観客開催**とし、さらに例年最終日に行っていた県協会U18優秀選手の表彰式も感染防止の一環として今回は行わず、後日協会HPおよび新聞紙面への掲載・発表をもって代えさせていただくこととした。こちらも御理解いただきたい。

最後にコロナ禍で実施されるこの大会が1人の感染者を出さずに全日程終了すること、そして新型コロナウイルス感染症の早期収束を心から願ってやまない。

【延期決定後版】

令和2年度**県高校バスケットボール新人大会**が令和3年2月20日に浜松商業高校体育館他で開幕する。当初は東海新人大会の県予選を兼ねて1月23日に開幕予定だったが、1月12日に静岡県の新型コロナウイルス警戒レベルが5に引き上げられたため、**静岡県高等学校体育連盟主催大会の実施のためのガイドライン**に則り開催延期を余儀なくされていた。その間にも2月13,14日三重県・**サオリーナ**で開催される予定だった**東海高校新人大会の中止**が発表されるなど残念な知らせが届き、そのような状況であっても県新人の開催を信じて「人事を尽くして天命を待つ」気持ちで日々練習に精進し続けてきた選手のことを考えると毎日胸が張り裂けんばかりの思いであった。私自身もこのまま県新人が中止になってしまうのでは、という不安が幾度となく胸中をよぎり疑心暗鬼に駆られることもあった。しかしながら2月8日に県の警報レベルが「4」に引き下げられ、生徒の健康や安全が確保できると判断されたため、このたび大会の開催にこぎつけられたことを安堵の気持ちと共に心から感謝している。レギュレーションも例年と若干変わり、大会期間や日程を一部縮小しての3日間の短期集中開催とし、全会場高校体育館を使用、さらに決勝リーグを行わず**完全ノックアウト方式のトーナメント**（3位決定戦・5位決定Tも行わない）とすることになったが、まずは県新人大会が遅ればせながら開催出来ることを素直に喜びたい。今年最初の大会を制するのはどのチームなのか、地区予選が終わって1 ヶ月あまり、各チームがどのような調整をしてどのような戦力で今年の戦いに挑むのか、今から興味が尽きない。

男子

今大会は県代表としてウインターに出場し、準優勝した東山（京都）相手に大善戦した飛龍を中心とした優勝争いとなるであろう。

飛龍はウインター 1回戦・日本初の高卒プロ契約選手・川村卓也などを輩出した全国大会常連の伝統校・盛岡南（岩手）に快勝、続く2回戦は1級品の留学生を抱える東山と対戦、互角以上に戦ったがキーマンのピエールと米須を封じきれず惜しく

も敗れたが全国制覇にあと1歩まで迫った相手に立ち向かった経験は後輩たちへの刺激になったはずである。長年チームを支えてきた保坂・古大内・遠藤そして三橋など主力がこぞって引退し、今大会はフレッシュな戦力で臨むこととなるがウインターでの戦いを見る限り今大会でも優勝候補筆頭に推したい。

新チームの柱となるのはキャプテン・坂田と司令塔・山本。共にポイントガードでポジションが重なる部分もあり、ツーガードで試合出場するかは不透明な部分もあるがこの2人が中心となることは間違いない。**坂田翔**は飛龍で数少ない県内出身選手。ジャンプシュートを得意とし、盛岡南戦でも終盤短い時間ではあるが出場して全国の雰囲気を味わった。代々飛龍に受け継がれるキャプテンシーを秘め今大会に臨むであろう。**山本愛哉**は新チームで一番経験値が高い選手、途中出場したウインター県予選決勝・準決勝でも限られたプレイングタイムの中、3P4本を含む18得点、特に沼津中央戦第3Q終盤に見せた華麗な3Pは反撃の狼煙（のろし）となり相手の戦意を削ぐ決定打となった。新チームでは唯一ウインターにも2試合出場、臆することなく9本の3Pを放つも成功はなかったが、フィールドゴールで勝ち取った10得点は値千金のもので大いに自信となったはずだ。インサイドには昨年11月に行われた東海チャンピオンシップ・リンタツ（愛知）戦で先輩の三橋・佐藤が不在の中、センターを任されことごとくリバウンドを拾い貴重な経験を積んだ**渡邉晴**や怪我から復調し持ち味のパワープレーも冴えてきた**田村春人**、そして**宮田翔矢**が待ち構える。インサイドは例年よりも小柄となるが、藤枝明誠戦で三橋がカミソコを抑えたように、飛龍の選手は自分よりも背の高いプレーヤーに対してのディフェンス時、脚の入れ方に創意工夫があり身長のハンデをものともせずに相手の動きを封じ込めて高さのハンデを克服するスキルを持ち合わせる。スモールフォワードの**畑尻祐哉・永見純**、共に3Pを得意とする**土谷悠真・庄司空人**、他にも**安藤優太・山内リザク琉衣・生川竜輝**など将来性あふれる有望選手を多く抱え、毎試合どのようなメンバーで試合に臨むのか楽しみなチームである。特色である堅いディフェンスから速攻につなげるプレースタイルで大会連覇を狙う。

本命・飛龍を追いかけるのか一昨年の県新人・東海新人覇者、ウインター県予選準優勝、そして中部新人を制した**藤枝明誠**。

飛龍同様石橋・朝比・川越などの主力の多くが引退し、新たな面々で今大会に臨むこととなる。またチーム唯一の外国人留学生だったカミソコも引退し、16年ぶりに留学生なしの「純国産」チームで臨むこととなった。

新チームの中心となるのは昨年からレギュラーを堅守する**遠藤千晟**。2年時からレギュラーを掴みウインター県予選でも下級生で唯一全試合スタメン出場、要所での得点力に優れ、状況に応じてドライブ・3Pを繰り出すオールマイティーな選手である。中部予選決勝には怪我で出場できなかったが、この延期期間を治療と調整に充てられたことは大きい。今大会には万全な状態でコートに戻ってくることであろう。新・司令塔は**谷俊太朗**、しつこいディフェンスと鋭いドライブが特徴。全中優勝のキャリアを持つ**西村星汰**はドライブの速さに目を見張るものがある。インサイドを任されているのは**櫻庭光生**と**上野幸太**。2人とも180cm代中盤と例年のセンター陣と比べると小柄な部類に入るが、上野はアウトサイドシュート、櫻庭は低い姿勢で肩から前に入るリバウンドが特徴で今後試合経験を積んでさらに成長していくだろう。新キャプテンは**眞野皓斗**。ウインター県予選は直前で出場登録を外れてしまったがもともとは東海国体・東海新人にも出場経験がある実力派の選手、中部新人決勝・静岡学園戦でも27得点、特に激しいファウルレシーブ後のフリースローも間合いを取りながら独特のルーティンをこなして落ち着いて決める姿はまさに冷静沈着。その他にも、ウインター県予選準決勝・緊迫する場面で途中出場した**杉山英大**、チーム一の長身193cm**和太駿治**、ミドルが得意な**川村康汰**、3Pシューター**原田翔太・福間啓人・仲田創太**など新進気鋭の面々で2年ぶりの優勝を狙う。

飛龍と藤枝明誠の2強を追いかけるのが、東部新人王者・沼津中央、西部新人王者・浜松開誠館、そしてウインター県予選3位・中部新人準優勝の静岡学園。

沼津中央はウインター県予選・準決勝で飛龍に敗れたものの堂々の3位、留学生が抜けたあと4強入りを逃し続けた時期もあったが大会ごとに着実に順位を戻し昨年は県新人・ウインター県予選とライバル・浜松学院に連勝、今回も東部新人を制しさらなる上位進出をうかがう。濱野・村上という中盤を支えた3年生は引退したが、1年時から辛抱強く起用され続けてきた選手たちが主力となり、戦力充実期に差し掛かりつつある。新チームのキャリアという点では飛龍・藤枝明誠を上回るといっても過言ではない。

チームの中心はインサイドの新井、アウトサイドの福島。**新井楽人**はアグレッシブにリバウンド確保に汗を流し攻撃の起点となる。オフボール時でも素晴らしい位置取りで外からの裏パスを受け巧みにディフェンスをかわして決めるバックシュートは超美技、つなぎの役割としてもシュートモーションを見せながらワンハンドでアシストパスを出して得点を導き出すテクニックも一流、ディフェンスでは相手シュートに対して遅れながらも後ろから接触を起こさずに長い手で払うようなブロックショットを見せる。司令塔・**福島寿希也**は膝を柔らかに使いながら高い位置でボールリリースして放たれる3Pが特徴、新井が完全に封じ込められた飛龍戦でも厳しいプレッシャーディフェンスの中でも3P8本を含む35得点を決めてスコアラーの面目躍如となった。**吉戸皓太**も福島同様司令塔の役割も兼ねるガード選手。ウイング付近からハンドオフパスを多用し、ローポストの新井につなげてドライブ、時には福島のアウトサイドシュートを導き出すいぶし銀の存在、数字に表れない貢献度は計り知れない。自身も3Pを武器にしており、フリーにさせておくと非常に厄介な選手である。他にも、飛龍戦で途中出場、安定感あるプレーを見せた**小林慶哉**や186cm恵まれたフィジカルでゴール下の攻撃に厚みを加える**滝野伶太**、チーム1の長身193cmの1年生・**高橋透生**など経験値・期待値が非常に高い選手を中心に、走り負けないディフェンスからファストブレークにつなげるバスケットで一気にアベック優勝した平成23年度以来、9年ぶりの県新人優勝を狙う。

ライバル・浜松学院を決勝で接戦の末に下して2年ぶりに西部新人を制した果たした**浜松開誠館**は西部2位で臨んだ昨年、2回戦で浜松西にまさかの敗戦、屈辱のベスト16止まりとなった。ウインター県予選でも浜松学院に惜敗し同じくベスト16、

言葉に言い表せないほどの悔しさを全員が味わったことは想像に難くない。それから今まで以上にたゆまぬ努力と精進を重ね、西部新人決勝では序盤リードを奪われながらも第2Qで逆転、その後も追いすがる相手を3点差で振り切り接戦を制して見事リベンジを果たした。

抜群のリーダーシップを兼ね備え、チーム全体を掌握して考えながらバスケが出来る天才肌のプレーヤー・主将**鷲尾風河**、中学生時代に県選抜選手に選出され、さらにはU14ナショナル育成センターの強化指定も受けたことがある大型センター196cm**鈴木楓大**、本来のポジションはフォワードながらも鈴木が執拗な相手マークに遭った場合にセンターポジションも器用にこなせる西部新人優勝の立役者**・上杉亮雅**、ガード陣の**奥宮翔太・海野来晟**、そして大怪我から1日も早い復帰を目指し日々トレーニングに励みながら献身的にチームを支える**須和部陸**など厚い選手層で1つ1つ勝利を積み重ね、その先には初の県制覇も見据えている。

静岡学園は攻守の要だった良知・小川が引退、戦力的に苦しいと思われていたが中部新人決勝では藤枝明誠相手に互角の戦い、一時は逆転し勝利が見えたが最後は藤枝明誠に競り負けて惜敗、しかしながらその戦いぶりから今年も十分に優勝が狙える戦力であることを示した。

中心は司令塔**・瀧澤良斗**。ドライブ時に相手ディフェンスが遅れながらも対応して来ると瞬時に機転を利かせた状況判断を行い止まってジャンプシュートに切り替えて得点につなげるテクニシャン、プレー中の心がけは平常心、まさにその通りのプレーをする。ウインター県予選・藤枝明誠戦でも両チームとも上級生が活躍する中スタメン出場して3P2本を決めるなど存在感を示した。中部新人決勝でも3P3本を含むチーム最多の25得点、新たな攻撃の要が誕生した。インサイドはキャリア十分の**保谷蒼空**。昨年来「市川の後継者・後釜」というプレッシャーを受けながらも与えられた役割をきちんとこなし成長の跡が目に見えてきた。どんな状況にも必ずいいポジションを占めてリバウンドに絡み、攻撃では器用にミドルシュートも決める。丸太のような太い腕っぷしに象徴される恵まれた体格そして柔らかい身体を生かしたプレーに注目したい。その他にもウインター県予選全試合でスタメン出場、体を張ったプレーに境地を見出す**齊藤龍哉**、ドライブが得意とする**三井勇一郎**、3Pシューター**・北堀晃征**、ランニングリバウンドやブロックショットが持ち味の**河村真育**、オフボール時の動きに気を配る**関緑羽**などの充実した戦力で21年ぶりの優勝を手に入れたい。その前に準々決勝で予想される浜松開誠館との戦いは大会屈指の好カードである。

西部2位**・浜松学院**も侮れない。ウインター県予選準々決勝・沼津中央戦、西部新人・浜松開誠館戦と続けて接戦を勝ち切れなかったが、戦力的には上記5チームにひけを取らない。1年時からチームの勝利に貢献しつづけた後藤・中川が引退したが、沼津中央戦第4Q・3P2本を決めた**縣剛人**、長身190cmコンビ**船尾裕二郎・大島ジオバニ**、1年生ながら沼津中央戦でスタメン出場した**伊藤ハリー大河**、手堅いプレーの**鈴木遥斗**、走れるセンターとして重宝される**曽布川翔月**、キャリア抜群の**後藤新葉**など多彩な戦力を有する。まずは目の前の相手を確実に倒して準々決勝に進み、対戦が予想される長年の宿敵・沼津中央との戦いに勝負を賭けたい。

その他にも一昨年県新人7位・東部新人準優勝の**加藤学園**、西部新人3位・激戦区西部の3位決定戦で浜松工業に競り勝って久々に西部地区公立高校トップとして大会に臨む**浜松商業**、静岡東との激戦を制し中部3位を勝ち取った公立の雄**・清水東**なども虎視眈々と上位進出を狙う。

今大会には3Pと速攻を武器に勝利を重ねて20年ぶりに県新人出場を決めた**浜名**や中部の県新人出場決定戦を制し最後の1枠を勝ち取って13年ぶりに出場する**静岡農業**など長いスパンを経て久々に出場するチームもある中、男女通じて唯一の初出場となるのが西部10位**・小笠**。前身の小笠農業時代を含めて初の県新人出場。常に粘り強い全員ディフェンスを心掛けて、そのリズムから気持ちよくオフェンスにつなげるバスケスタイル。キャプテンの**比嘉海嘉**を中心に得点力のある**高野佑悟**や**戸塚湧斗**、司令塔として攻守でチームのスイッチを入れる**小野田研心**などが一丸となって夢の初舞台に臨む。対戦相手は沼津中央、優勝候補相手に最後まで自分たちのバスケットを貫き通してもらいたい。

上記以外の注目選手として、**古株俊輔・菊澤和・望月綾人**（韮山）、**山本翔己・木代拓人**（伊豆中央）、**鈴木蓮・杉山諒輔**（沼津工業）、**古根村友哉・野口大明・吉川爽人・山本陸**（三島北）、**白井響己**（三島南）、**渡邉絢心**（日大三島）、**勝又郷・小長井俊晴**（加藤学園）、**大隅裕心・秋山和希**（星陵）、**坪井寛大・上嶋純矢・土谷涼介**（富岳館）、**保科真澄・山本哲平・櫻井翔也・齋藤瑠已**（清水東）、**山本怜侍・笹間滉矢**（静岡農業）、**稲垣陽斗・磯部省伍・岩崎公輔**（静岡商業）、**内山幸大・根岸飛向・松崎舟馬**（静岡東）、**西島佑紀・澤井元輝**（静岡市立）、**ブラウン龍輝・細野歩・渡辺大輝**（静岡大成）、**矢入滉和・中野巧登・高野翔**（城南静岡）、**高田乾斗**（焼津中央）、**近藤優希・髙松稜・深澤剛至・木野広道**（藤枝東）、**加藤大智・大村海斗・和久田登馬・平野太基**（浜松西）、**前田遙・江間惇斗・山本平蔵・上野真輝**（浜松湖東）、**米津蓮・大坂京也**（浜松江之島）、**藤原健祐・鈴木唯斗・古橋巧海**（浜名）、**阿保翔太・太田愛李・山﨑悠斐・梅林柾希**（浜松商業）、**平本大也・鈴木弥真斗・袴田大靖**（浜松工業）、**青木陽・鈴木偉陽冴**（浜松聖星）などを挙げさせていただきたい。

女子

こちらは現在県内大会13連覇、88連勝中、無敵の強さを誇る**浜松開誠館**が今年も頭一つ抜けている感がある。

ウインターでは初戦で中村女子学園監督として2回の全国制覇を誇り、常葉学園が全国2冠達成時の決勝戦の相手でもあった名将・吉村明率いる熊本国府と対戦、前半こそ接戦に持ち込まれたが後半一気に突き放し終わってみれば24点差の快勝、続く2回戦は前回3位の強豪・京都精華学園と対戦。外国人留学生2人を擁し全国トップレベルの高さを誇る相手に試合中盤猛攻を受け勝負あったかに思われたが、最終Qでオールコートプレスを仕掛けると怒涛の追い上げを見せて猛追、一時は2点差まで詰め寄ったが最後は力尽きて惜敗、コートで悔し涙を流した。その涙を目の前で見た下級生が悔しさを晴らしていくことであろう。

黒川・山本・塩澤・樋口という1年時からチームの主力として活躍した選手が抜けた新チームの大黒柱は浜松開誠館中学から引き続きキャプテンを務める**岩永美空**。途中出場した京都精華学園戦・相手に突き放されて重苦しい雰囲気が漂う第3Q終盤に3本連続で3Pを決めて反撃の口火を切り、その後チームは息を吹き返し第4Qの追い上げにつながった。高確率の3Pは言うまでもなく、絶対的な統率力でチームを牽引する。**萩原加奈**は入学時から司令塔を任され見事その責務を十分に果たし続ける大器。この選手を会場またはテレビ中継で初めて見た方々はその華麗かつ果敢なプレーに惹きつけられたはずである。加えて1年生であることを知ってさらに驚いたかもしれない。視野が広くリズミカルなドリブルで相手を翻弄し、ドライブ、シュート、グッドパス、スティールなど何でも難なくこなすユーティリティープレーヤー。コートでの動きはまさに八面六臂という言葉が実に似合う選手である。ウインター県予選でも準決勝で21点、決勝で23点を挙げるなどスコアラーとしても大活躍、ウインターでも初戦序盤は緊張のあまり思うような動きが出来なかったが徐々にリズムを取り戻しゴール下への鋭いパスでカットインを演出するなど持ち味を発揮し12得点、続く京都精華学園戦では3P2本を含む20得点、チーム一の小柄158cmながら果敢にゴール下に飛び込み7リバウンドを記録、飽くなき攻めの姿勢を貫き通した。今大会でも全国の檜舞台で培ったテクニックを我々に見せてくれるであろう注目選手である。

県内最高身長178cm・1年生の**前田理咲子**はウインター県予選ではすべて途中出場だったがウインターでは2試合とも堂々のスタメン出場、積極的にリバウンド争いに参加した。長身を利したポストプレーも魅力、今までのチームになかった高さを武器にチームに貢献する。176cm**西田妃那**もインサイドを守りウインターには2試合とも出場、貴重な経験を積んだ。粘り強いリバウンドが信条でチームにセカンドチャンスをもたらす好選手でもある。ガードの**小谷梨緒**と**今井杏**は似たようなタイプの選手でスピードあるドライブや度胸満点の3Pでオフェンスの潤滑油としての役割を果たしている。2人とも短時間ながらウインター初戦に途中出場、このかけがえのない経験をどう生かしていくか注目したい。その他にも内外を器用にこなすオフェンスで相手ディフェンスを翻弄する**安田百亜**、キャリア十分・波に乗ると止められない**小幡夕夏**、ドライブの初動が速く一気にゴールを駆け抜ける**山下來郁**、長身173cm**大橋茜**など新チームも相変わらず選手層が厚い。スローガンである粘り強いディフェンス・人とボールが動くチームオフェンスで常に全国のレベルを意識しながら戦いを続けながら、男女を通じて初となる大会5連覇を狙う。

常勝軍団・浜松開誠館の牙城を崩す1番手はウインター県予選で堂々の準優勝を果たして大会に旋風を巻き起こした西部新人王者・**浜松市立**。このチームは一言でいうととにかく大きいに尽きる。そしてもう一言加えさせていただければ「上手い」。ウインター県予選では長年辛酸を舐めさせられ続けた同地区ライバル・浜松学院に競り勝ち、準決勝・市立沼津戦では近年稀に見るシーソーゲームを制し、トーナメント制になってからは初の決勝進出、女王・浜松開誠館との戦いでも全力で立ち向かい、決勝戦として恥ずかしくない試合を見せてくれた。西部新人でも決勝で浜松学院と再戦、接戦となったが相手に雪辱を許すことなく勝利を掴み今大会に臨む。絶対的エース・花田が抜けた穴はあまりに大きいが、それを補って余りある戦力を誇るチームである。

自慢のインサイドは山田・萩原・川合のオーバー 170cmの長身トリオ。173cm**山田菜都美**は市立沼津戦で決勝点となるリバウンドシュートを決めた殊勲選手、23得点を記録したウインター県予選・浜松学院戦でもリバウンドの位置取りが良く、キャッチから瞬時にセカンドショットに持っていくスキルが目を引いた。さらに自身のシュート時もきちんと軌道を確認し、外れると見るやすぐさま広い肩幅を生かしてインサイドに位置取りをして相手ディフェンスをもろともせずリバウンドショットを決める技術は圧巻、時にはバスケットカウントも決める心強いプレーヤーでもある。国体に出場経験もある175cm**萩原羽海**は大舞台に力を発揮する選手、苦しい戦いとなった浜松開誠館戦でもチームの総得点の1/3を占める14得点を記録、今年も山田と共にゴール下の屋台骨を支え続ける。170cm**川合杏里**はポジション的にはフォワードの選手だが長身を生かして積極的にリバウンド戦線に参加、さらにはシューターの役割も果たし、ウインター県予選・県武道館決戦では3試合とも3Pを決めて貴重な長距離砲となった。同じくフォワードの**桑原佳鈴**はリバウンド・ルーズボールなどの泥臭いプレーに一所懸命汗を流すバイプレーヤー、ハイポストに絶妙なタイミングで入れるパスやブロックをかわすフックシュートも魅力。黒子に徹しつづける彼女が浜松開誠館戦前半終了間際に決めた3Pを見て新たな才能を感じずにはいられなかった。主に上記の4人に引退した花田を加えた5選手でウインター県予選を戦ってきたが、シックスマンとしてチームを支え続け県武道館決戦では3試合すべてに途中出場して経験を重ねた**鈴木梨乃**は典型的なガードプレーヤー、相手のボールマンにも素早くプレッシャーをディフェンスが魅力。新チームでは花田に代わる司令塔という重責を任される可能性もあるポテンシャル十分の選手である。その他にも長身171cm**柴朱花**やチームの精神的支柱・**中川紗希**なども控えており、打倒・浜松開誠館に向けて戦力は整っている。今年度のウインター県予選決勝・再現カードとなる浜松開誠館との一戦は両校が順調に勝ち上がれば準決勝で実現する。その試合で善戦するだけに終わらず勝利を収め、初優勝に向かって「手を抜かず気を抜かずひたむきに」頑張り続けて欲しい。

浜松市立とともにストップ・ザ・浜松開誠館を目指すのはウインター県予選3位・東部新人覇者の**市立沼津**。ウインター県予選・準決勝では浜松市立との接戦の落とし惜しくも決勝進出を逃した。表彰式の際、無念の涙に明け暮れる選手たちを見て胸が締め付けられる思いだった。今大会にはその雪辱を期して万全の調整で臨んでくるはずだ。新チームも例年以上に高身長のチーム、長身選手を軸としたインサイドプレーと俊敏なパスランがチームの特色。

その中心となるのがインサイド・174cm**望月莉七**。ウインター県予選・藤枝順心戦ではインサイドに構えてゴール下をことごとく決めて28得点の大活躍、県新人準優勝チームの追撃を許さなかった。準決勝でも敗れはしたがチームの6割にあたる35得点を稼ぐ爆発的な攻撃力を見せてくれた。力強いミート、攻撃の起点となるポストプレー、接触をいとわずにシュートを決めるオフェンス力、そして隙のないインサイドシール、どれをとっても一流である。長身172cmの**鈴木芹菜**はタイプ的にはフォワードのオールラウンダー、素早いドライブや高いジャンプ力を生かしてのリバウンドはもちろん、ディフェンスとの駆け引きも巧みでジャブステップやロッカーモーションを使って相手をかわし最後までシュートに行き切る突破力を持つ。また随所に決まる鈴木と望月のハイローブレーにも注目して欲しい。他にも藤枝順心戦でスタメン出場、先制点を決めて勝利の口火を切り、ディフェンスでもボールマンの1線に対し強いプレッシャーをかける**萱沼柊**、途中出場した藤枝順心戦で3P1本・フリースロー 5本を決めてチームに貢献、司令塔として相手ディフェンスのスペーシングを常に意識して攻撃につなげ、力強いリードパスを正確に放つ**飯岡寧々**、浜松市立戦でスタメン出場・ディフェンス時のフロアバランスを意識し仲間の位置取りを意識しながらのディフェンスが出来る**法月歩瑚**、リバウンドでチームに貢献する**川口美空**などが中心となり、まずは山場となるのは準々決勝で対戦が予想される常葉大常葉戦。ライバルを倒して準決勝に進めばおのずと12年ぶりの優勝も十分に視界に入ってくるであろう。

上記3チームを追うのは中部新人決勝で常葉大常葉との激戦に勝利、4年ぶりに中部新人を制した**駿河総合**。一昨年まで3年連続で東海新人に出場した強豪校であるが、昨年は2回戦で浜松市立に敗れベスト16に終わった。ウインター県予選でも常葉大常葉に敗れ同じくベスト16、今回はその常葉大常葉に勝利を収め4年前東海新人4位に輝いた時同様中部王者として大会に臨む。

チームの中心は入学当初からレギュラーとして活躍する**勝亦彩乃**。司令塔として広い視野を持ち、ドライブ・3Pなどさまざまな得点パターンをもつオールラウンドプレーヤー、中部新人決勝でも3P3本を含む31得点、チームに勝利を呼び寄せた。同じく昨年から主力を務める**山田遥翔**も勝亦と並ぶチームの得点源、決勝でも19得点を挙げて優勝に貢献した。2人で全得点の7割を稼ぐ爆発的な得点力は他チームにとっては脅威の的となるだろう。2人とも決して背は高くないが持ち前のスピードで相手をかわしていく駆け引きの能力が素晴らしい試合巧者である。センター・長身176cm**水井茉琴**はインサイドプレーだけでなくスピードやステップで相手ディフェンスを巧みにかわすレイアップ、時には3Pも決める器用な選手、多彩なプレーに相手は対応に苦慮するだろう。他にも小柄ながら必死にスクリーンアウトを行い味方のリバウンドチャンスを演出する**保坂七菜**や**山崎奏美**、シュートセンスが秀逸な3Pシューター・**鈴木優菜**など日々の練習で鍛え抜かれた選手が揃う布陣でまずは立ちはだかる多くの難敵を倒して決勝進出を目標とするが、最終目標はさらに上に設定してあることは言うまでもない。学校創立8年目にしての初優勝を狙う。

その他にも、西部新人準優勝の浜松学院、中部新人準優勝の常葉大常葉、そして中部3位の藤枝順心にも注目したい。

浜松学院は関・金井など主力が引退しスタメンもガラッと入れ替わった。その中でも昨年からレギュラーを確保、ウインター県予選・準々決勝でも下級生で唯一スタメン出場し得点も挙げた**足立琉那**のキャリアが貴重となる。中部新人・浜松湖南戦でも3Pを含む22得点、長身を利して新チームの攻撃の柱となる。他にも浜松湖南戦で後半だけで3P3本を決めた長距離砲、ゴールに向かう意識が誰よりも伝わってくる**岩田亜花里**、新チームの高さを担う170cm**竹下涼・丸山紗絵香**、司令塔・**伊藤風音**などまだまだ荒削りながらも試合の中で経験を積んで伸びていくと思われる実戦的プレーヤーが十分揃っている。西部予選決勝でも今大会の優勝候補・浜松市立相手に敗れはしたものの5点差の接戦を演じ、ウインター県予選の時よりも点差を大いに詰めたことは新チームにとっても自信につながったはずである。

常葉大常葉はウインター県予選ベスト8、中部新人も決勝で駿河総合に逆転負けを喫し背水の陣で大会に臨む。

攻撃の鍵を握るのは植田と市川。**植田希歩**は173cmの長身を生かしたポストプレーで攻撃の起点となる。リバウンドへの意識も高く、相手よりも素早く位置取りし、より高く跳ぶことを意識している。**市川凛香**は優れた得点力が持ち味、ビハインドの状況下でも果敢にロングシュートを放ちチームの窮地を救い続ける。守備の要は**伊藤愛莉**。常に重心を低く保ち続ける常葉バスケットの申し子的存在、ここぞという場面で幾度となくピンチの芽を摘んできた。その他にも、駿河総合戦で連続11得点を含む25得点を挙げ新たな攻撃の柱に名乗りをあげた**太田結優**、1年生ながら入学以来公式戦全戦でスタメン出場を続ける**三瀬未来**など十分に優勝を狙える戦力がある。中部決勝を見る限り常葉伝統ステイローの姿勢はまだまだ健在、まずは準々決勝で予想される市立沼津との「名勝負数え歌」が今から楽しみである。

藤枝順心は服部が抜けた以外は準優勝して東海新人に初出場した昨年と主力は変わらない。ウインター県予選からチーム一の長身・**髙田晴妃**を怪我で欠き続ける苦しい布陣ではあるが、攻守においてポストプレーを得意とするエース・**野末舞**や中部新人3位決定戦・第3Q10分間だけで17得点をたたき出す爆発的な得点力を見せた**鈴木はるり**、内外どこからでも自在に得点を挙げられる**谷川果梨**、飛び込みのリバウンドや体を張った献身的なプレーでチャンスを広げる**鈴木ひより・木村奈々美**など昨年の県会長杯で社会人チームを下した実力は折り紙付き。どのチームよりも選手が実戦経験を多く積んでいるキャリア軍団であるだけに決して侮れない存在である。

今回女子に初出場のチームはないが、久々に出場するのが西部8位・**浜松北**。平成18年度以来実に14年ぶりの出場となる。西部予選決勝トーナメント初戦で第4シードの常葉大菊川を僅差で下し早々に県新人出場を決めた。キャプテンの**中村優衣**は攻守の切り替えが非常に素早い上、3Pを連続で決めるシュート力と、周囲の動きに俊敏に対応するディフェンス力を持ち合わせる。インサイドは**岡本菜穂**が体を張ったプレーと柔軟に決めるゴール下のミドルシュートが特色。1年生ながら司令塔を任されている**池野舞香**やディフェンスに詰められてもシュートまで持ち込む力強さがあるフォワード・**三原史佳**そしてチーム一の長身・**瀧本かのん**も面白い存在、一丸となってさらに欲を出し、勝負所で強気になれれば県新人初勝利も見えてくるであろう。またボトムアップ理論を用いて「自ら考えて行う主体的なバスケ」をチームモットーとする**磐田南**は6年ぶりの出場、**齋藤千春**や**松島華蓮**の1on1、主将・**蜂須賀凛**のリバウンドや献身的なディフェンスも魅力だが、局地戦を任せられても攻め切ることができる**香田葵**のオフェンス能力にも注目したい。

上記以外の注目選手として、**小針千朋**（三島北）、**苅田遥・田中美桜歌**（三島南）、**佐藤花梨・齊藤涼**（日大三島）、**森日向子**（沼津西）、**近藤美咲・高橋冴笑・新西柚杏**（沼津商業）、**菊地架帆・佐々木悠安**（飛龍）、**前嶋心花・鵜飼優輝・岩田渚**（沼津中央）、**佐久間悠穂**（加藤学園）、**大石紗矢・望月海音**（清水東）、**川口陽葉・宮城島唯名**（清水南）、**柴琴葉・池ヶ谷美妃**（東海大静岡翔洋）、**小澤夏葉・吉永芽生・髙橋咲季奈**（静岡東）、**杉本美結・牧田美蘭・伊藤澄香・小長井若葉・森芽吹**（静岡西）、**栗田彩花・池上柚葵**（静岡商業）、**宮城島佑奈**（静岡女子）、**加藤友香・鈴木彩夏**（島田）、**出口響希・石川遥**（常葉大菊川）、**松本心・杉本伊織**（浜松南）、**中根はづき・伊藤朱里・荒川夏帆**（浜松商業）、**永田芽依・田中七海・サリッチ月奈**（浜松湖南）、**竹内陽織・野口莉琉奈**（浜松東）、**木野歩美・鈴木泉美・佐野日菜子・鈴木ひなの・立脇里菜**（浜松聖星）、**福田渚・杉田千夏**（浜松日体）などを挙げさせていただきたい。

県バスケットボール協会広報委員長

中島（なかじま） 洋己（ひろき）さん 46

パンフで選手応援

県バスケットボール協会の広報委員長を務め、足掛け十年。勤務先の科学技術高校では英語科教諭と総務課長として三足のわらじを履く。

全国高校バスケットボール選手権（ウインターカップ）県予選に向けたパンフレット作成に毎年関わり、製本と印刷以外はほぼ自分でこなす。パンフレットは計百八十四ページ、写真は約四百枚というボリュームが売りだ。

「一人でも多く、頑張る選手の名前を載せたくて」。八ページにわたって執筆した大会展望の欄では、男女合わせて三百人弱の選手を取り上げた。過去の大会記録も充実している。不明な箇所は国立国会図書館まで足を運ぶなどして収集してきた。

中学、高校時代は柔道部。バスケとの出合いは教師になり、部活の顧問を引き受けてからだ。「競技経験がなくても貢献できることはある。選手や保護者のモチベーションが上がれば、何よりです」。静岡市葵区。（谷口武）

おはよう

令和2年11月　中日新聞静岡版　掲載記事

令和3年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

令和3年度第69回全国高校総体静岡県予選が令和3年5月22日に藤枝順心高校体育館他で開幕する。男女とも各地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、23日午前に行われるブロック決勝を制した4校による決勝リーグが同日午後から始まり、5月29,30日には**エコパアリーナサブコート**にて残りのリーグ戦が行われ、優勝校が男子は7月25日から新潟県長岡市・**アオーレ長岡**、女子は8月10日から新潟県新潟市・**テルサ新潟**で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月12,13日に三重県伊勢市・**県営サンアリーナ**での**東海高校総体**への出場権を獲得する。昨年は**新型コロナウイルス感染症**の影響で地区・県・ブロック・全国を含めた高校総体が史上初の中止となり、今年は2年ぶりの開催となる。しかしながら新型コロナウイルスの拡大状況は決して落ち着いたとは言えないのが現状で、さまざまな変異株の出現により首都圏では「**緊急事態宣言**」の延長、本県でも5月14日に**県独自の警戒レベル**が3ヶ月ぶりに「**レベル5（特別警戒）**」に引き上げられるなどいわゆる「**第4波**」の状況にある。従来であればレベル5になった段階で原則大会は中止または延期の措置が取られることになっており、それに準拠して1月の県新人も延期となったが、今回はこれまで行った大会での感染症対策の蓄積やノウハウを生かしての開催が可能、と判断された。このようなひっ迫した状況下でも集大成の舞台が開催できることを感謝しながら感染症対策を今まで以上にきちんと行っての運営が求められる。

今年の全国総体は例年と違い上記の通り**男女別日程**で行われる。男女で開催都市が分かれたことは今までにもあったが、日程がここまで大幅に分かれる総体は記憶にない。前回大会（令和元年度）から静岡県の出場枠が男女とも1枠減って優勝校のみとなり、今まで以上に過酷な争いとなることが予想される。また前回総体同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末のウインター追加出場枠が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が増枠となる。そのためにも各県はより強いチームを東海総体に送り込み、ウインターの追加出場枠を獲得する使命も担っていると言えるだろう。さらに今年度もこの大会が**全日本選手権（オールジャパン）**県予選の出場選考も兼ねており、上位2チームが8月に静岡県バスケの聖地・**静岡県武道館**で行われる県代表決定トーナメント大会の出場権を獲得する。この予選は今夏開催予定の東京オリンピックでバスケットボールのメイン会場となる**さいたまスーパーアリーナ**で行われる大会につながるので、選手・指導者共にモチベーションが高まっていることに違いない。今大会は県新人大会では日程縮小のあおりを受けて中止となった5位決定トーナメントが実施される。その結果もウインター県予選シード順の参考資料となるだけにこちらも決勝リーグに劣らぬ熾烈な戦いが予想される。

昨年のウインター県予選や年明けの新人戦もコロナ禍での開催となったが、今回も同じくコロナ禍での大会開催となり、感染症との共存しながら大会を行っていく**ウィズコロナ**というコンセプトのもと、高体連および協会のガイドラインに従った上で感染症対策を十分講じて大会を実施していくこととなり、選手・スタッフも普段の練習時から感染防止の意識をより一層高めて大会に臨んでいただくよう御協力を願いたい。実際コロナの影響で昨年末のウインターでも試合を棄権せざるを得ない状況に追い込まれた高校やBリーグでも試合が中止となる事例が多く見られた。自分だけは感染しないだろう、感染させないだろう安易な考えを捨てて日頃から細心の注意を払って生活を送っていくことを切に願う。また先ごろ今夏の新潟インターハイの原則無観客開催が発表されたばかりだが、残念ながらこの県総体も**全日程無観客開催**となった。さまざまな部分でご迷惑・ご不便をおかけすることとなるが選手・スタッフの健康、そして安全な環境での大会開催を最優先に考えてのことと御理解いただき、ご協力を願いたい。

今回も大会展望を執筆するにあたり十分な資料と時間が確保できず、記載内容に関して皆様に御迷惑をお掛けしていると思うが、拙筆ながら展望執筆の趣旨と無観客試合となり試合を見たくても見られない方々に少しでもチームや選手の様子や特徴を文面で伝えたいという私の切なる想いを御理解いただければと思う。また今回の展望では初めて参加全64チームの注目選手の名前を複数名ずつ記載することが出来た。この大会展望を読んで自分の名前やチームメイト、そしてミニバス・中学時代に共に汗を流した旧友、そして切磋琢磨したライバル選手の名前を見つけた時の選手や親御様、指導者の喜ぶ顔を思い浮かべながら名前を載せた。もちろん記載選手以外にも優秀な選手や金の卵がたくさんいることも付け加えておきたい。

最後に月並みではあるが、この大会が関係者を含めて1人の感染者を出さずに無事全日程終了すること、そして新型コロナウイルス感染症の早期収束を心から願ってやまない。

《出場・優勝等の連続・連覇表記について》

昨年すべての「総体」が中止となったため、優勝や出場回数を記載する際に一部実際の回数と年数の整合性が取れない部分が生じました。統一をはかるためにも今回は「年数」を基準にして記載させていただいたことを御了承下さい。一部大会の連続出場に関しては解釈の都合上「大会」を基準にしているものもあります。なお、連続記録や連覇に関しては昨年大会が中止になっても「記録継続中」と解釈して記載させていただきました。

男子

今大会も県新人戦を圧倒的な強さで制し、東部総体でも優勝を果たした飛龍を中心とした優勝争いとなるであろう。

飛龍は新人戦地区予選免除で県大会から出場、新チームとして公式戦初日、2回戦・浜松西戦では大苦戦を強いられ5点差で辛くも逃げ切る薄氷の勝利であったが、その後は飛龍らしさを取り戻し、決勝戦・浜松開誠館戦では1度もリードを許すことなく快勝、県新人連覇を達成した。その後の東海新人が中止となり東海での立ち位置を測ることは出来なかったが、今年も飛龍強し､を印象付ける戦いぶりを見せてくれた。3月に新潟で開催された「高校バスケスプリングキャンプ」では開志国際（新潟）には敗れたものの、ウインター出場44回を誇る土浦日大と同じく43回出場の北陸という全国トップレベルの強豪に勝利、京都で行われた「全国高校交歓大会」では一昨年度のインハイ・ウインター王者・福岡第一と接戦を演じるなど、昨年からスタメンがガラリと様変わりしたとは思えない戦いを見せてくれた。全体的にサイズがない分、個々の能力、特に1on1の強さでカバーしていくのが今年の飛龍の特色と言える。

チームの柱は昨年シックスマンとしてチームを支え、要所で貢献してきた**山本愛哉**。162cmの小柄ながら生粋の点取り屋、長距離砲、ゴール下、鋭いドライブすべてを器用にこなすオールラウンダーである。浜松西戦では試合最終盤相手の猛追に対して断崖絶壁の窮地を救う神業3Pを決めるなどここ一番の勝負強さは県内随一である。県新人・浜松開誠館戦では黒子に徹しドライブから合わせのパスを放ちアシストを連発するなどチームプレーに徹する姿勢も見受けられた。また前半5点ビハインドで折り返し劣勢を強いられた東部総体決勝・沼津中央戦では後半開始直後「ここが勝負時」と試合を見極め、積極的なオフェンスを仕掛けて試合の流れを引き寄せてチームを勝利に導いた。本人が課題として挙げるビッグマンへの寄りやボックスアウトを再度徹底し、持ち味であるアグレッシブな攻撃を続けゲームを冷静に見極めてコントロールしていく司令塔の役割を果たして欲しい。山本と共にチームの中心となるのが成長著しい2年生**･田村春人**。4月に行われたU16日本代表エントリーキャンプにも招集されて、本年開催予定のU16アジア選手権大会を目指す全国レベルの選手たちと切磋琢磨、しのぎを削った。坂田と共に飛龍では数少ない県内出身選手、私も中学時代のプレーを見たことがあるが、その当時はまさか日の丸を背負おうとするまでに大成するとは思わなかった。怪我に苦しんだ時期もあったが持ち味のパワープレーにもますます磨きがかかってきてさらなる活躍が期待される逸材、東部総体決勝は怪我で欠場したが県総体までには十分間に合うであろう。

シューター・**庄司空人**は浜松開誠館戦でも両チーム最多22得点を挙げたスコアラー、ディフェンスでも積極的に相手にプレッシャーをかけてボールを奪いに行く攻守の起点となるプレーヤーである。**渡邉晴**はインサイド･リバウンドの要､体を張ったプレーでチームを支える。県新人全試合スタメン出場した**永見純**は決勝戦でチームの口火を切る先制3Pを決めるなど積極性が魅力、プレーも安定の兆しを見せてきた。一昨年の茨城国体にも出場した**畑尻祐哉**は昨年来長いスランプに苦しんできたが県新人を見る限りは見事に復調、浜松開誠館戦では第2Q・相手がゾーンディフェンスを仕掛けて流れを掴もうとする中で連続して3Pを決めるなど17得点、チームに勝利を呼び寄せた。そんな個性派軍団をまとめる主将・**坂田翔**は絶大なキャプテンシーを持ち､得意のジャンプシュートを武器に数字に表れにくいところでもチームに貢献し続ける。その他にもシューター・**土谷悠真**、県新人決勝で途中出場・得点を挙げた**鈴木麗大**、出場機会は限られているが将来性を感じさせる**安藤優太・ワシントンケネス・アダムソン武蔵・宮田翔矢・山内リザク琉衣・生川竜輝**、そして新入生では得点力の高い**野田悠峨**と長身190cm・**松野優人**が加わり戦力にさらなる厚みが出てきた。特に松野の加入によって喉から手が出るほど欲しかった高さも補強された。まだ入学して1 ヶ月余り、即戦力として期待するのはあまりに酷だが早くチームに順応して救世主となってもらいたい。堅いディフェンスから速攻につなげる伝統のプレースタイルで大会4連覇を狙う。

本命・飛龍を追いかけるのが各地区王者、ウインター県予選準優勝・県新人3位、そして中部総体15連覇を飾った藤枝明誠と5年ぶりに西部総体を制した同じく県新人3位・浜松学院。

留学生を効果的に活用して強豪チームを作ってきた**藤枝明誠**は16年ぶりに純国産体制で挑んだ県新人で準決勝・浜松開誠館に一度もリードを奪うことが出来ず完敗、3位に甘んじた。すでにマリ人留学生が加わることが確定しているが、コロナ禍の中で県総体までに合流することは難しく、今大会も純国産チームで挑むことになりそうである。

チームの中心は昨年からチームの主力としてキャリアを積んでいる**遠藤千晟**。要所での得点力に優れ、ドライブや3Pなどバリエーションに富んだオフェンスが持ち味。久々にプレーを見た中部総体では個人技だけでなく、ドライブで相手ディフェンスを引き付けてアウトサイドプレーヤーに合わせのパスを出して3Pを導き出すなどチームプレーに徹する姿勢が見られ成長の跡を感じた。試合中も状況を的確に把握し全体に指示を出すなどコート上で抜群のリーダーシップを発揮しており心身ともにチームの大黒柱である。司令塔は**谷俊太朗**、しつこいディフェンスと鋭いドライブが特徴。京都精華学園時代に全中優勝がある**西村星汰**もアウトサイドを任されて時に谷とツーガードトップを結成し相手ディフェンスを崩しにかかり、ドライブの速さも特徴的。インサイドを任されているのは193cm**和太駿治**。絶妙なゴール下でのポジショニングでリバウンドを支配、オフェンスではセカンドチャンスにつなげ､ディフェンスでは瞬時にリードパスを出してブレイクにつなげる攻守の要である。和太がセンターに固定されたことで**上野幸太**がプロパーポジションの中盤に戻り、持ち味のミドルシュートを放つ状況が増えたことも攻撃力の上積みにつながった。

今回中部総体決勝をコートレベルで観させていただき一番驚いたのはフォワード・**福間啓人**のプレーである。昨秋のウインター県予選ではベンチ入りはしていたが出場機会がなく、中部新人ではベンチ入りすらしていなかった選手。県新人では全試合スタメン出場したが私自身直接観戦する機会がなく、中部総体決勝で初めてそのプレーを見たがまさにオールラウンドプレーヤーの言葉が何よりも似つかわしい選手である。180cm、飛び抜けて高身長とは言えないが肩の力を完全に抜ききって

放つ3Pはバランスもよく、高確率でリングに吸い込まれる。長距離砲だけでなく、ドライブ、ジャンプシュート、パスワーク、フロアバランスを考慮したオフボール時の動きなどどれを取っても一級品のテクニックを持ち合わせる大器である。県新人でも活躍した**眞野皓斗**と**櫻庭光生**は中部総体決勝ではベンチ入りメンバーから外れていたが県総体では復帰してコート狭しと活躍してくれるであろう。その他にもミドルが得意な**杉山英大**、力強いドライブを見せる**川村康汰**、3Pシューター**原田翔太・仲田創太**、期待の新人・**片山ジャズィエル**などフレッシュな顔ぶれで7年ぶりの優勝を狙う。

浜松学院は昨年の県新人・ウインター県予選で連敗を喫した沼津中央に今年の県新人では空中戦を制して見事リベンジ、準決勝・飛龍に敗れたものの終盤猛追をして接戦に持ち込んだ。西部総体は稀代のビッグマンを擁する浜松西を相手に要所を封じ込めて優勝、県総体は23年ぶりの優勝が射程圏内に入る第2シード位置で臨む。

大黒柱は主将・**縣剛人**。浜松西戦では開始早々シュートを決めてチームを勢いづけ、その後も相手ディフェンスがプレスを強めて対応を強化する中でもタフショットを決め続け、終わってみれば両チーム最多の3P4本を含む30得点を挙げる大活躍、特にポンプフェイク並みに低い姿勢から膝を十分に使って高い地点からリリースされる3Pは近年膝を十分に曲げ切らずに手先だけでシュートを打って跳躍力を生かしきれない高校生が多い中で模範となるプレーである。

司令塔・**渡邊棟介**は167cmと比較的小柄ではあるがその分持ち味のスピードを生かしベストポジションでパスをもらいスピードあるドライブを導き出す。インサイドには188cm**伊藤ハリー大河**・190cm**船尾裕二郎**・186cm**曽布川翔月**という長身選手が揃う。伊藤は県新人では出場機会がなかったが西部総体ではスタメン出場、持ち前のフィジカルでゴール下を占拠しリバウンドでチームに貢献した。船尾は長身を生かしたリバウンドもさることながら浜松西戦でも決めた効果的に放つ3Pも魅力、相手のショットブロックも巧みにかわせる巧者でもある。走れるセンター曽布川は県新人・飛龍戦でスタメン出場を果たしチーム最多の20得点を挙げるなど本来のポテンシャルを生かせるようになってきた。その他にも、エース縣と中盤を形成・県新人沼津中央戦では3P4本を決めた**鈴木遥斗**、その沼津中央戦で途中出場ながらも3P7本を決める大活躍で勝利に貢献・浜松西戦前半終了間際に決めた3Pの綺麗な放物線が印象的な**内藤航**など激戦区・西部を制した底力で4年ぶりの全国大会出場と現校名・浜松学院になってから初の優勝を狙う。ブロック決勝でまたしても対戦が予想される平成・令和と続く「名勝負数え歌」沼津中央との戦いは大会屈指の好カードである。

各地区総体覇者を追いかけるのが準優勝校、東部・沼津中央、中部・静岡学園、西部・浜松西。

沼津中央は県新人準々決勝で因縁のライバル・浜松学院に2点差で敗れ目標としていた9年ぶりの優勝には届かなかった。今回の東部総体では決勝で同地区のライバル・飛龍と「沼津学園通り対決」を行い、序盤2桁リードを奪う優位な展開に持ち込むも飛龍のディフェンスが効き始めると反撃に遭い5点までリードを縮められて前半終了、後半直後に逆転を許し最終Q・ドライブを仕掛けて猛追するも2点及ばず優勝を逃したが、県新人王者相手に互角以上の戦いを見せて今大会も優勝候補の一角に挙げられる。

中心選手はインサイドの新井、アウトサイドの福島・吉戸。**新井楽人**は懸命なリバウンドと巧みなテクニック、力強い1on1でチームに貢献する攻撃の起点、司令塔・**福島寿希也**は成功率の高い3Pが魅力、プレッシャーをかけられた状況でも難なく3Pを決めるスコアラー、相手ディフェンスはファウル覚悟でシュートチェックに跳ぶしかないのが現状である。**吉戸皓太**は福島とは違うタイプのガード選手、3Pも持ち合わせるが鋭いドライブや巧みなパスワークでチームを支える玄人プレーヤー。他にも中盤に位置して安定感あるプレーを見せる**小林慶哉**、福島と共にゴール下を守りチームの屋台骨となる186cm**滝野伶太**、チーム1の長身193cm・**高橋透生**、そして飛龍戦で得点を量産し今後のさらなる活躍が期待されるホープ・**土勢雄介**などの戦力を擁して、攻撃的かつ組織的なディフェンスそして40分間走り続ける足を使ったバスケットをモットーに5年ぶりの優勝を狙う。

静岡学園は県新人・準々決勝で浜松開誠館に敗れ2年間すべての高校大会で堅持してきた県4強の座を手放すこととなり、今大会はその雪辱を期して挑む大会となる。

中心選手はインサイド・185cm**保谷蒼空**。広い肩幅、筋肉が張り詰めた丸太のような腕、そして恵まれたフィジカルを生かして攻守・内外器用にこなすユーティリティープレーヤーに成長、「静学のインサイド」としても板についてきた感がある。責任感の表れからか何から何まで一人でやろうとする面もあり、その点はきちんと役割分担を明確にしながらプレーできるともっと活躍の幅が広がるはずである。その保谷が時に外や中盤へシフトチェンジできるのもインサイドに185cm**齊藤龍哉**・184cm**三井勇一郎**という長身選手もいるからである。特に齊藤は味方ボールマンが自分の方向にドリブルしてきた時に機敏にオポジットサイドに動くクリアアウトが非常にうまい選手でもある。その他にも司令塔・常に冷静沈着に時機を捉えてドライブを繰り出す**瀧澤良斗**、得意のブロックショットに加えてディフェンスにも安定感が出てきた**河村真育**、浜松開誠館戦で3P3本を決めたシューター・**北堀晃征**、ドライブを得意とする**関緑羽**、中部総体決勝で途中出場を果たした**鎌田優芯・石川凛久**など厚い選手層を誇り、まずは2大会連続となる東海総体出場に焦点を定め、さらなる上位を狙うためにはブロック決勝で予想される中部総体決勝のリマッチ・藤枝明誠戦がすべての運命を握る。

浜松西は西部総体決勝で浜松学院に一時は4点差まで詰め寄るも力及ばず平3総体以来の西部制覇を逃した。その悔しさをバネに23年ぶりの東海総体そして30年ぶりの優勝を狙う。

個々の力だけでなくチームの総合力で勝負するチームではあるが、キーマンは言わずもがな県内最高身長203cm**加藤大智**。今まではスピードとスタミナに課題を抱え、誰よりも恵まれた高さを十分に生かしきれなかったが、今大会ではインサイドでひと際存在感を放ち長いリーチを生かしてゴール下で攻守に活躍した。特に準決勝・浜松開誠館戦ではいつも以上にディフェンスリバウンドを制し、チームの持ち味であるブレイクにつなげる橋渡しをした。今後オフェンスリバウンドももっと支配で

きるとチームにさらなるセカンドチャンスが生まれチームを勝利に導く確率がぐっと上がるであろう。
攻撃力のある強豪相手にロースコアに持ち込み競り勝つのが浜西バスケの真骨頂、5点差で敗れはしたものの県新人・飛龍戦で3P2本を含む20得点を挙げたスコアラーの**髙橋颯**、切れのあるドライブが魅力・1on1で得点を取る技術が高い**渡邊陽**、浜松学院戦で18得点・合わせのプレーを得意とする**和久田登馬**、バランスの取れた選手が多いチームの中でここ一番で得点が欲しい時に個の力を駆使し力ずくでシュートをねじ込めるタフネス・**平野太基**、そして足首の怪我で西部総体後半3試合を負傷欠場したがキャプテンとしてベンチから声を出す姿が見られ県総体には万全な体調でコートに戻ってきてくれるだろうキャプテン・**大村海斗**など戦力充実期に差し掛かった面々で大会に挑む。ブロック決勝では西部で激闘を演じた浜松開誠館との戦いが予想されるが、その前に同じく西部・準々決勝で対戦し最後の最後で逆転、1点差で勝利を掴んだ浜松工業との戦いが待ち構える。非常に厳しい激戦ブロックに入ったが優勝を目指して1つ1つ勝利を重ねていって欲しい。なお、公立高校として決勝リーグに進めば平成25年・浜松西以来、東海総体となれば平成24年・浜松商業以来、優勝となれば平成15年・同じく浜松商業以来の快挙となる。

県新人準優勝・**浜松開誠館**も侮れない。一昨年の県総体で7位となって以来、ベスト4の厚い壁に阻まれ続けたが今冬の新人大会では西部予選優勝、県大会でも静岡学園・藤枝明誠を倒して見事3年ぶりの決勝進出、惜しくも初優勝は逃したが王者・飛龍相手に堂々と渡り合った。西部総体では準決勝で浜松西の高さに攻略の糸口がつかめず4点差で惜敗したが、3位決定戦はきちんと勝って優勝も狙える位置に踏みとどまったのはさすがである。
今までは比較的小柄な選手で戦ってきた印象があるが、実際に県新人や西部総体を見る限り、ビッグマン・197cm**鈴木楓大**が加わったことによりインサイドを効果的に活用した今までにない新しいバスケットが有機的に展開されている印象を受けた。西部総体・浜松商業戦で3P5本21得点を挙げたシューター・**奥宮翔太**、器用にどのポジションでもこなす**上杉亮雅**、放つシュートの精度が高い**鷲尾風河**、3Pを得意とする**海野来晟・杉山真**、県新人決勝・飛龍戦で1年生ながらチーム最多の15得点を記録・初めて見るそのプレーに無限の可能性を感じさせた**清川颯**、そして昨年大怪我を負い県新人では誰よりもベンチから声を出してアドバイスを送り、その後たゆまぬ努力と精進の結果見事西部総体で復活・スタメン出場も果たして先制点も決めた**須和部陸**など戦力は四隅のチームにひけを取らない。まずは3年ぶりの東海総体出場を目標とし、さらに初優勝そして初の全国大会出場を狙う。そのためにはブロック決勝で対戦が予想される浜松西との再戦に西部総体のリベンジを果たしたい。

その他にも東部3位・常に安定した実力で県上位をキープし続ける**加藤学園**、44年ぶりに中部3位を確保して県総体に臨む**静岡商業**、西部4位・ウインター県予選ベスト8・主力の身長が平均的に高いチームで得点源の**太田愛李・阿保友飛**が波に乗ると爆発的な得点力を生み出す**浜松商業、古根村友哉・白幡脩空・山本陸**の活躍で県新人ベスト8入りを果たした東部4位・**三島北**、西部総体で浜松西に1点差の逆転負けを喫するもその後はきちんと連勝、大黒柱・**平本大也**がゲームメイクを行い自らも得点を重ねる相乗効果で命運を担う県新人ベスト8・**浜松工業**なども実力のあるチーム、まずはブロック決勝までたどり着いて決勝リーグ進出、そして東海総体出場を狙う。

新人大会と違って高校総体は歴史も古く、新人戦の結果が地区総体のシードや組み合わせに反映されているため比較的初出場校が生まれにくい大会でもある。そんな中、今大会男女64チーム中唯一の初出場校となるのが東部総体6勝1敗・9位で初の檜舞台に挑む**裾野**。昨年夏に行われた地元・駿東大会で優勝、秋のウインター県予選でもベスト32に入り県新人出場も見えてきたが県新人出場決定戦で終始リードを奪いながらも沼津工業に延長戦の末逆転負けを喫し悔し涙を流した。万難を排して臨んだ東部総体では、視野が広くボールコントロールに長けて多彩なオフェンスを見せるゲームキャプテン・**新保晴也**、ディフェンスの要としてチームを支え効果的に決めるスリーポイントでチームの得点源となっている**山口裕也**、主将としてチームをまとめる**綾部真樹**を軸に堅守速攻のバスケットを披露、見事大願成就となった。初出場は裾野だけだが、先の県新人にも出場した**浜名**は22年ぶり、県総体最後の1枠を賭けた浜松南との戦いに快勝した**袋井**は19年ぶり、**ダウィスクリント**と**知念ヒデキ**がインサイドで力強いプレー・**奥村カウエ**が巧みなボールコントロールでディフェンスをかわし得点につなげるバスケットで西部9位に上り詰めた**横須賀**は8年ぶりの県総体出場となる。どのチームも組み合わせ的には厳しい位置に入ったが、出場することだけに満足せず、勝利を目指して県大会に向けて練習に励んでもらいたい。

上記以外の注目選手として、**古株俊輔・菊澤和・森本樹・望月綾人**（韮山）、**鳥居海都・山本翔己・戸塚雅弥・木代拓人**（伊豆中央）、**鈴木豪・森木大次郎**（沼津工業）、**野口大明・江原光樹**（三島北）、**山口友輝・白井響己・藤井航紀**（三島南）、**勝又郷・小長井俊晴・佐久間秀人・鈴木聖也・寺崎匠**（加藤学園）、**大隅裕心・秋山和希・田中凱大・佐野柊也**（星陵）、**坪井寛大・上嶋純矢・沙原壮宏**（富岳館）、**保科真澄・山本哲平・川野洋輝・櫻井翔也・齋藤瑠已**（清水東）、**稲垣陽斗・磯部省伍・岩崎公輔・宗村美輝・小杉琢磨**（静岡商業）、**内山幸大・根岸飛向・望月心太郎**（静岡東）、**齋藤陽平・半田聖・澤井元輝**（静岡市立）、**ブラウン龍輝・細野歩・渡辺大輝**（静岡大成）、**矢入滉和・中野巧登・小澤綺羅・漆畑賢人**（城南静岡）、**高田乾斗・秋野蒼太**（焼津中央）、**近藤優希・髙松稜・深澤剛至・木野広道・杉本空聖**（藤枝東）、**マソングフランシス・大村弥夢**（横須賀）、**村松和季・金子耀太・上段椋雅**（袋井）、**岡本隼・林竜輝・大野澪亜**（袋井商業）、**袴田歩人・上野真輝・渡辺颯翔**（浜松湖東）、**米津蓮・大坂京也・三浦明仁・鈴木ローレンス・オベデンシアイサム**（浜松江之島）、**藤原健祐・鈴木唯斗・古橋巧海**（浜名）、**阿保翔太・山﨑悠斐**（浜松商業）、**鈴木弥真斗・佐藤凛太朗・江間愛斗・小久保拓弥**（浜松工業）などを挙げさせていただきたい。

女子

こちらは現在県内高校大会14連覇、97連勝中、5年以上無双の強さを続ける**浜松開誠館**が今年も頭1つ抜けている感がある。

県大会から出場した新人大会は新チーム始動から2ヶ月弱という短い調整期間ながらも順調な仕上がりを見せて、1つの山場と見られていたウインター県予選決勝でも激闘を繰り広げた浜松市立との準決勝・序盤相手の高さに戸惑い苦戦を強いられるも第2Qでペースを取り戻し終わってみれば23点差の快勝、底力を見せた。続く決勝、舞台は昨年末に完成・県新人がこけら落としとなった『KAISEIKAN ARENAⅡ』、ホームで常葉大常葉と対戦、相手の鋭いドライブとリバウンド支配に大苦戦、実際私も観戦させていただいたが、終了直前まで「浜松開誠館が5年ぶりの黒星を喫するのではないのか」と思うような試合展開、近年まれにみる大接戦の名勝負となった。最後はスティールからのブザービーターで勝利、辛くも県新人5連覇を達成した。王者相手に果敢に挑んだ常葉大常葉の健闘も見事であったが、最後まで諦めず粘り強く耐えて攻めることを止めなかった浜松開誠館の飽くなきハングリー精神に、また1つ「チームのレベルが上がった」と感嘆せずにはいられなかった。主将・**岩永美空**は要所で効果的に決まる3Pが特徴、プレーだけでなく絶大なキャプテンシーで常勝軍団を牽引する。中学時ECCカップU14全国大会でMVPにも輝いた経験があり、昨年のウインター県予選で衝撃の高校デビューを飾った小さな巨人158cm・**萩原加奈**は視野が広く独特のリズムで繰り出されるドリブルで相手を翻弄、ドライブ、シュート、アシスト何でもこなせるまさにオールマイティー、常葉大常葉戦でも両チーム最多27得点を挙げて勝利に貢献、終始劣勢が続いた展開でも1on1で強さを発揮、得点を重ねて逆転の口火を切った。同点で迎えた残り8秒で相手の決して不用意ではない速いパスを果敢にもスティール、そのまま走りこんだ安田に絶妙のパスを出して決勝点をアシスト、チームは女王の座を死守した。西部総体準決勝・浜松聖星戦では前半で退いたものの18得点、ドライブを止めるために相手がダブルチーム、時にはトリプルチームを仕掛けてもマークマンがいなくなったところにすかさず鋭いパスを出す判断力は絶品、控え選手とプレイングタイム分け合いながらも県新人5試合で106得点を稼いだこの選手をいかに抑えるかはどのチームも頭を悩ますところであろう。

インサイドには176cm・**西田妃那**と県内最高身長178cm・**前田理咲子**が待ち構え攻守のリバウンドに汗をかく。西田には自身の得点だけでは測り切れない貢献度がある。常葉戦では13得点を挙げたが元来は粘り強くリバウンドに絡みパスを出して得点を導き出すプレーヤー、彼女の献身的プレーに恩恵を授かっている選手も多い。前田はポストプレーを得意とし、ゴール下でも高さを十分に活用して得点を重ねる。この選手はセカンドショット時に腕が下がらない、リバウンドキャッチ位置からそのまま打てるのが強み。今まで浜松開誠館に足りなかった高さがこの二人の成長で強化されたことは最大の補強、インサイドが強化されたことによりオーソドックスなハーフコートバスケも強化され、相手がインサイドのディフェンスを固めると**小幡夕夏**が得意のスピードあふれるドライブでシュートを決めていく。小幡には3Pもありプレーの引き出しが多い選手である。**今井杏**は度胸満点の3Pシューター・県新人・浜松市立戦では3P4本を決めてチームの勝利に貢献、切れ味のあるドライブも魅力である。**安田百亜**は何といっても常葉大常葉戦・スティールした萩原が出すパスのラインを十分読み切りひたすら走ってのワンマン速攻のレイアップでブザービートを決めたプレーが印象深い。このシーンは「令和の名場面」としてこれからも末永く語り継がれていくことであろう。その他にも、オフェンスの潤滑油になる**小谷梨緒**、一気にトップスピードで加速するドライブを見せる**山下來郁**、長身173cm・内外を器用にこなせる**大橋茜**、圧倒的なリバウンド力でチームを鼓舞する**平井朋美**、スーパールーキー・**黒川芽依**、そして一昨年の茨城国体に出場・長い間怪我に苦しんだが見事復活・西部総体でコートに帰ってきた**中山未悠**など控え選手の能力も非常に高いのが特徴、県新人で経験した県内での大苦戦というかけがえのない経験を生かしながら、スローガンである粘り強いディフェンス・人とボールが動くチームオフェンスを続けて大会6連覇に向けて余念がない。

浜松開誠館の背中を猛追するのが中部総体覇者・県新人決勝では王者を土俵際徳俵まで追い詰めながらも終了間際に勝利が手からこぼれ落ちて準優勝に終わった常葉大常葉とウインター県予選準優勝・県新人3位・西部総体準優勝・浜松市立、そして東部総体覇者・市立沼津。

常葉大常葉は先述の通り、県新人決勝で浜松開誠館相手に互角以上の戦いを繰り広げ終始リードを奪う展開に持ち込んだが最後の最後で逆転負けを喫し涙を飲んだ。7年ぶりの優勝は逃したものの近年では一番浜松開誠館を追い詰めたチーム、今大会も優勝争いの対抗馬としていの一番に挙げたい。中部総体決勝・静岡東戦を見させていただいたが、いつも以上にチーム信条ステイローが徹底されていた気がした。とにかく一段と姿勢が低い。股関節の柔軟性を使って広いスタンスを取り、ボールマンへのマークは常にハンドチェックしてドライブに行かせないディフェンスに強さを感じた。試合も3Pなしで68得点を重ね、1度もリードを許さず落ち着いた試合運びでまずは中部を制した。

得点源・173cm**植田希歩**は得意のポストプレーだけでなくドライブやジャンプストップしてのミドルシュートなどを器用にこなすプレーヤー、浜松開誠館戦でも23得点、静岡東戦でも両チーム最多の26得点を挙げた点取り屋。特に静岡東戦で決めたスティールから縦パス一本の先制シュートは鮮やかの一言、リードパスから速攻の教科書通りのプレーであった。**市川凛香**は優れた得点力に目が行きがちだが、この選手の魅力は何といっても守備、ボールマンへの寄りが非常に厳しい。素早くコースに入ってドライブに行かせない初動での体の入れ方が巧みである。守備の要である**伊藤愛莉**は持ち前の低い姿勢での堅実な守備は健在、一時期課題であったオフェンス力にも磨きがかかり浜松開誠館戦では効果的にジャンプシュートを放つなど14得点を挙げた。**太田結優**は破壊力あるオフェンスが持ち味、ウィング位置から鋭角に切れ込むドライブやインサイドのパワープレーで攻撃の柱となっている。ボールをコントロールする時間が長く、ティフェンスを引き付けてウィークサイドにいる味方にアシストパスを出して得点に結びつける。その他にも、入学以来スタメン出場を続け、速攻時には基本に忠実にもターゲッ

トハンドをきちんと出して味方のパス精度を上げてからレイアップを決める**三瀬未来**、中部総体決勝でもスタメン出場・序盤連続して決めたフリースローが印象深い**佐野玲奈**、県新人準決勝・藤枝順心戦で途中出場・得点も決めた**成瀬こころ**など試合に出場する選手は限られているが少数精鋭、個々の能力が秀でた選手が揃っている。県新人で味わった言葉に言い表せない悔しさを胸に刻み続け、今度こそ6年ぶりの優勝と3年ぶりの全国総体出場を手中にしたい。

浜松市立は持ち前の高さ、磨き鍛えられた上手さで勝負する。昨年のウインター県予選以降、果てしなく高い壁としてそびえたつ浜松開誠館相手に善戦はするものの3連敗、今大会こそ万全の調整・対策を行って、西部総体決勝から3週間後に再戦が予想されるライバル相手に勝利を目指して立ち向かう。

昨年度県協会U18優秀選手にも選ばれた173cm**山田菜都美**はシュートを放ったあとの動きが素早い選手、シュートが外れてオフェンスリバウンドを取ったのは誰だろうと確認すると山田自身、いつの間にその位置にいたのか、と驚いてしまうほどの俊敏さを見せる。初動の速さ、シュートの見極め、ディフェンスのかわし方、どれを取っても一流のスキルである。175cm**萩原羽海**は山田とはひと味タイプの異なるセンター、より高い位置でリバウンドを確保すべく見せる跳躍力、ボールキャッチ後に決して下がらない肘、相手ディフェンスにシリンダー内を支配された時に決して無理にシュートに行かずパスをセレクトする状況判断力が持ち味である。170cm**川合杏里**は十分にセンターが務まる高さとテクニックを持っているがフォワードを任されて得意の3Pを放つ。県新人準決勝・浜松開誠館戦では相手の堅守に苦慮しながらも3P3本を含む26得点、一人気を吐いた。同じくフォワードの**桑原佳鈴**はリバウンド・ルーズボールなどを懸命に奪いに行くバイプレーヤー、ポストにパスを出しハイローを導き出すプレーやブロックをかわすフックシュート・フェイダウェイも見せる。新チームの司令塔を今年から任されている**鈴木梨乃**は県新人全試合でスタメン出場、私も初日の試合を見させていただいたが、スタート直後は重責による極度の緊張が伝わるようなプレーだったが、試合が進むにつれて平常心を取り戻し落ち着いたボール運びを見せてくれた。その他にもシックスマン的存在・常に前向きな気持ちで出場機会をうかがう**原田沙波**、157cmの小柄ながら県新人準決勝で初のスタメン出場を果たした**萩原朱莉音**、徐々にプレイングタイムが増えてきた**中川紗希**なども控えており戦力的には十分整っている。まずは確実に決勝リーグまで勝ち進み、26年ぶりの東海総体出場、そして41年ぶりの優勝に向かって手を抜かず気を抜かずひたむきに努力し続ける。

ウインター県予選3位・東部総体14連覇の**市立沼津**は県新人3試合を交代なしの同じメンバーで戦い準々決勝・常葉大常葉に敗れベスト8に終わった。私自身今年の市立沼津の試合を見ていないので県新人までの情報しか記載できないが、結果だけ見ると危なげなく東部総体を制していることから今大会でも優勝候補の一角に挙げられるだろう。今年のチームも長身選手を軸としたインサイドプレーとパスランがチームの特色、日々の練習から当たりを嫌がらない体力づくりに重点を置きフィジカルを鍛え続けている。

その中心となるのがインサイド・174cm**望月莉七**。県新人では浜松商業戦でゴール下をことごとく決めて47得点の大活躍、ロースコアに抑え込まれた常葉戦でも22得点、インサイドのシールでディフェンスを背中に負ってポストへボールを入れさせるプレーが得意、ボールミートも強く、接触を伴うシュートを力強く決められる万能選手である。ウインター県予選・藤枝順心戦でスタメン出場、先制点を決めて勝利の口火を切り、ディフェンスでもボールマンの1線に対し強いプレッシャーをかける**萱沼柊**は3Pシューター、ボールマンへの激しいプレッシャーをかける際の寄り方・脚の入れ方・腕の構え方、すべてがきちんと基本に忠実なディフェンスでチームを支える。**飯岡寧々**は司令塔、154cmの小柄ながらもコートを縦横無尽に走りスピードで相手を翻弄、トップの高い位置でボールをキープし広いシュートエリアを保ちながら相手でフェンスの位置取りを把握して空いているスペースにドライブで切り込んでいく。中盤の**磯崎諒**はウインター県予選・準決勝にも途中出場、時折放つ3Pと粘り強いリバウンドに活路を見出す。キャプテン・**法月歩瑚**は試合中常に全体を掌握して声を出し、適切な指示を与えながらプレーに臨む。試合中は味方の動きとフロアバランスを意識しながら黒子に徹してチームの得点場面を演出できるバスケIQの高い選手である。その他にも県新人は出場機会がなかったが1年次からチームの主力・ディフェンスとクレバーな駆け引きをしてシュートを決め切る高い技術を持つ長身172cm・**鈴木芹菜**やリバウンドと声でチームに貢献する**川口美空**が控えており、4年ぶりの東海総体出場そして12年ぶりの優勝に向かって日々練習に打ち込んでいる。その目標を果たすためにも順調に勝ち上がり、ブロック決勝での浜松市立とのウインター県予選以来の再戦を是が非でもものにしたい。

中部総体準優勝・静岡東、中部総体3位・藤枝順心の中部勢にも注目したい。

静岡東は中部新人5位で出場した県新人は浜松市立に敗れてベスト16、相手の高さに十分対応しきれなかったが、脚やチームプレーで見るべきものがあり総体での活躍の兆しを予見できた。中部総体では準々決勝でウインター県予選3位・静岡西、準決勝で東海大翔洋を立て続けに破り、第3シード位置で県総体に臨む。

インサイドに構える長身174cm**吉永芽生**はリバウンドやポストプレーが持ち味・スピードもあり落ち着いて決めるフリースローも魅力、キャプテン・**杉山綾美**はチームの得点源・ペイントエリアで肩をリング方向に向けて待ち構え、ボールを入れてもらって瞬時に放つターンシュートは圧巻である。司令塔・**小澤夏葉**は3Pシューター、苦しい時に放つロングシュートでチームの窮地を救う。**前島真子**は1年次からチームの主力として活躍しながらも体調不良で今年の新人大会を欠場、私もミニバス時代から活躍を知っていただけに心配していたが、中部総体で見事戦線復帰、決勝T初日にコートで雄姿を見た時には感無量であった。現在はスーパーサブとして出場時間を限定しながらチームを支えている。その他にも中盤の**五條華**、シックスマン・**高橋咲季奈**、ルーキーながら中部総体決勝で堂々のスタメン出場を果たした**中村日愛里**などの陣容で初の東海総体出場を目指す。そのためにはまずブロック決勝で対戦が予想される浜松学院との一戦に勝利を収めたい。

県新人3位・**藤枝順心**は近年安定した成績が続いており、今回も注目チームである。県新人・中部総体では共に同地区のラ

イバル・常葉大常葉に敗れたが、県新人では40点近く離された点差を中部総体では一気に8点差まで縮めてきた。今大会でも順調に勝ち上がれば三度（みたび）常葉大常葉との戦いが予想されるだけに今度こそ勝利を手中にし、5年ぶりの決勝リーグ進出そして東海総体初出場を果たしたい。不動のエース・**野末舞**は攻守においてポストプレーを重視、効果的に放つ3Pも魅力である。そのエースを助けるのが鈴木姉妹。**鈴木はるり**はカットインしてのドライブで得点を重ねる。**鈴木ひより**は昨年の全日本総合県予選でスタメン出場して以来、見るたびにプレーに成長の跡が見られる選手、特に中部総体3位決定戦では八面六臂の大活躍、3Pを含む29得点を挙げて相手の反撃の芽を摘んだ。**木村奈々美**の代名詞はリバウンド、165cmと決して長身とは言えないが懸命に腕を伸ばしボール保持に貪欲さを見せ、キャッチ出来なくともタップアウトでチームにセカンドチャンスを呼び寄せる。その他にもシュートエリアの広い**谷川果梨**、県新人駿河総合戦19得点を挙げ第1シード撃破の立役者となった**山田真子**など恵まれた戦力を生かした戦いを見せてくれるはずだ。

その他にも県新人浜松聖星戦では途中出場ながら17得点を挙げた**熊澤凛**の活躍で2年連続ベスト8入り、インサイドの攻撃力が魅力の主将・**近藤美桜**やルーズボール獲得に執念を燃やす**高橋冴笑**が常に声を出して積極的にコミュニケーションを取り合いチームの潤滑油となる東部総体準優勝・**沼津商業**、そしてキャリア抜群・内外ポジションをうまくこなし3Pも放つスコアラー 173cm**足立琉那**、3Pシューター・**岩田亜花里**、足立と共にインサイドを任されてお家芸「高さのバスケ」の一角を担う**竹下涼**、司令塔・**伊藤風音**など下級生中心の新進気鋭な戦力で臨む県新人ベスト8・西部総体3位の**浜松学院**も決勝リーグ進出と初の東海総体出場を虎視眈々と狙う。

今回女子に初出場のチームはないが、久々に県総体に帰ってきたのが東部7位・**富士宮東**。昭和最後にあたる昭和63年以来、実に33年ぶりの出場となる。31年間の平成を通り越して令和になっての出場に喜びもひとしおであることは間違いない。これまで厳しい戦いが多く何度も高い壁に跳ね返され続けてきたが、ミスの少ない堅実なプレーが持ち味の主将・**和田華音**、県大会出場を決めた加藤学園戦39得点を記録したインサイドの要・**中野有理**、爆発的なオフェンス力が魅力の**天願陽菜海・深澤優里**、そして泥臭いプレーに汗をかく**渡井乙葉**など中心にチームフィロソフィーでもある不撓不屈の精神で今回早々と県総体の切符を掴み、さらに最終日も勝利で締めくくり県総体の勝利が見える位置までたどり着いた。

また今冬19年ぶりに県新人に出場した**浜松北**は今回県総体も見事20年ぶりに出場を決め、中部11位・**焼津中央**は、中部新人11位決定戦で清水東相手に逆転負けを喫し県切符を逃した雪辱を期して今大会11位決定戦で再度清水東と対戦、終始接戦となったが最後まで追いすがるライバルを振り切り23年ぶりの県総体出場を決めた。切れ味あるドリブルワークから展開されるオフェンスが多彩な**大窪那奈羽**、3Pシューター・**岡村侑美**、リバウンドに新境地を見出す**山口京夏**を中心とした粘り強いバスケで檜舞台に臨む。

上記以外の注目選手として、**米田美遥・田代有花**（三島北）、**苅田遥・田中美桜歌・大木千優・窪田恋奈**（三島南）、**佐藤花梨・齊藤涼・野村優希・森谷野依**（日大三島）、**水野美咲・遠藤若夏**（沼津商業）、**菊地架帆・二村優衣・杉本希**（飛龍）、**前嶋心花・鵜飼優輝・水野萌々花・名取美憂**（沼津中央）、**川口茜・木村光玖**（加藤学園）、**佐野琴音・古屋亜実**（富士宮北）、**川口陽葉・中山花音・宮城島唯名**（清水南）、**柴琴葉・池ヶ谷美妃・船山穏香**（東海大静岡翔洋）、**杉本美結・牧田美蘭・伊藤澄香・小長井若葉・森芽吹**（静岡西）、**栗田彩花・池上柚葵・柴菜摘**（静岡商業）、**勝亦彩乃・山田遥翔・水井茉琴・鈴木優菜・廣田愛奈**（駿河総合）、**川村美愛・宮城島佑奈**（静岡女子）、**綾部美梨・川村亜利沙・鈴木彩夏**（島田）、**齋藤千春・蜂須賀凛・香田葵**（磐田南）**松本心・杉本伊織・森島愛佳・今村仁子**（浜松南）、**伊藤朱里・荒川夏帆・伊藤春那・長谷川未於**（浜松商業）、**市原董・大手穂花・片山瑠紀**（浜松東）、**山口諒子・杉田涼**（浜松湖東）、**木野歩美・鈴木泉美・内山瑚子・大滝菜々子・立脇里菜・佐野日菜子**（浜松聖星）、**辻村朱音・板倉七海・杉田千夏**（浜松日体）、**岡本菜穂・池野舞香・澤柳千智**（浜松北）、**名倉桜那・石川乃愛**（浜松学院）などを挙げさせていただきたい。

ウインターカップ2021静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第74回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2021）静岡県予選が令和3年10月16日に開幕する。11月7日に**静岡県武道館**で行われる決勝戦の勝者が12月23日に**東京体育館**他で開幕する**全国選手権大会**への出場権を獲得する。残念ながら今年も昨年同様コロナ禍での開催となる。**新型コロナウイルス感染症**の状況は昨年から全国的に悪化の一途をたどり、さまざまな変異株が主流となった現在、いわゆる**第5波**の真っただ中にある。静岡県も例にもれず県独自の警戒レベルが7月29日には「**レベル5（特別警戒）**」、8月6日には「**レベル6（厳重警戒）**」に上昇し、8日には「**まん延防止等重点措置**」が適用、さらに20日には静岡県に「**緊急事態宣言**」が発令されるなどまさに非常事態に陥った。当初宣言は9月12日までの予定だったが9月30日まで延長となり、執筆現在も緊急事態宣言のさなかにあり、次なる**第6波**への懸念が聞こえてくるなどいまだに予断を許さない状態が続いている。そのような状況下で実施される今大会も今まで以上に万全な感染症対策を講じながらの開催となる。**ゼロコロナ**が理想ではあるが、現状では感染症と共存しながら大会を運営していく**ウィズコロナ**で、選手・スタッフ・役員・保護者がそれぞれ意識をより高くして大会に臨まなければならない。まずは大会が1人の感染者も出すことなく運営されていくことを切に願っている。宣言中は土日祝の練習が原則中止、平日の練習も相当制限されているのが現状で、ましてや練習試合や遠征も組むことが出来ず実戦経験を積めないまま大会に突入することも考えられる。さらには若年層への**ワクチン接種**も徐々に進み始めた半面、腕の痛み・発熱・倦怠感などの**副反応**に苦しんでいる方々も多くいると聞く。怪我はもちろん日々の体調管理にも十分留意して大会に臨んでいただきたい。

コロナ対策の一環として、今大会も若干レギュレーションが変更された。まず昨年同様**原則無観客開催**、1試合2時間を確保し感染対策を徹底することとした。また従来は全県一斉開催の意義を尊重し初戦は他地区と対戦することとなっていたが、移動による感染リスクを最小限にするために3回戦までは同地区同士で対戦するシステムを継続させた。今後も状況に応じて変更が生じ皆様に御迷惑をお掛けする点も多々あると思うが御理解願いたい。

全国大会出場枠に関しては、昨年はインハイ関連がすべて中止になった関係で、登録数が多い東京・神奈川にプラス1枠、ブロック新人大会優勝都道府県に1枠、そして各県代表と開催地枠（東京）となったが、今年は一昨年同様全国総体優勝・準優勝チーム、ブロック総体優勝都道府県に1枠（関東は準優勝県にも1枠、未実施ブロックは客観的事実に基づき決定）、開催地、計60チームとなる。会場は今年も聖地・東京体育館をメインに前回の東京オリンピックでレスリング会場となった**駒澤オリンピック公園総合運動場体育館**も初めて使用される。コロナ禍で開催される高校バスケ最高峰の戦い、その栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

今回の大会展望も毎年参考としている公式戦や大会の多くが中止となり例年以上に資料や情報が限られた中での執筆となったが、それでも1人でも多くの選手を取り上げたい、ウインターの開催を信じて日々練習に精進する選手たちの励みになりたい、という思いで僭越ながら執筆させていただいた。情報を出来る限り収集し、色々な方々にも力を借りながらまとめたつもりではあるが、私自身の勉強不足・取材不足または男女・地区の偏り等あってご迷惑をお掛けするかと思うが、現状と趣旨そしてこの胸の想いを御理解していただけると幸いである。

男子

今年は県総体優勝決定戦で再々延長の末勝利を掴み、インハイでも強豪相手に3勝して全国ベスト8となった飛龍を中心に、浜松開誠館・沼津中央の東海総体で勝利を挙げた両チームが追いかける優勝争いとなる。

飛龍は優勝と全国を賭けた県総体・浜松開誠館戦、40分では決着がつかずオーバータイム、3回の延長の末、見事優勝を果たして4連覇を飾った。県王者として臨んだ東海総体は初戦で富田にまさかの苦杯を喫したがインハイでは全国ベスト8、底力を見せつけた。インハイのメインコートを踏んだ経験は何事にも代えられない大きなものとなったはずである。今大会でも優勝候補の筆頭に挙げられる。

昨年同様今年も純国産のチーム、中心となるのは言わずもがな・エース**山本愛哉**。162cm、小柄ではあるがまさしく小さな巨人、スピード・テクニック・知性・正確性すべてを持ち合わせるオールラウンダーである。スピードの切れ味はもちろんだがシュートチャンスを逃さないその眼力は超高校級、放たれるシュートの成功率も高く県総体決勝リーグでは3試合で83得点、インハイ4試合では相手に執拗なディフェンスでシュートチェックされながらも98得点、3Pに至っては成功率驚異の40%を誇る怪物である。シューターの役割だけでなく、司令塔として得点の起点にもなる。全国の強豪がフェイスカードでマンマークしても止められなかったことを考慮すると、県内でもこの選手にきちんと対応できる選手は見当たらない、それくらいのスーパースターである。しかし各チームも手をこまねいているはずもなく映像やデータを分析して対策を練っているに違いない。他チームがこの選手に対してどのような秘策を考えてくるのかも今大会の楽しみの1つである。試合の状況を見極めて味方に積極的にパスを送り攻撃の幅を広げられるのも強みである。インサイドに構える**渡邊晴**は185cmと高身長が集うインサイド

選手の中では決してサイズ的に恵まれた選手ではないが、この選手の特色はスコアシートにもスタッツにも数字で表れないチーム貢献度にある。「相手にボールを取らせない・いい位置取りをさせないディフェンス」「相手に体を当てる回数を増やし、接触を嫌がらない」ことがモットー、シュートに対する初動も速く、体勢を低くして肩から入り膝を使ってポジションを確保して位置取りを確定し、相手の持ち味を完全に封じて地上戦に活路を見出す。インハイでも完全ミスマッチの留学生相手に基本的なことを地道に繰り返して成果を得てきた。「小よく大を制す」、ゴール下のリバウンド争いでの一連の動きに注目したい。東海国体で少年男子主将としても活躍、本国体出場権獲得に貢献した**田村春人**は186cmの身長で中盤を任される次世代のエース、そのダイナミックなプレーは見る者を大いに魅了する。小学生時に打ち込んだバレー仕込みの跳躍力を武器に決勝リーグでは山本に次ぐ64得点を記録、特に沼津中央戦ではリズムよく3本の3Pを決めるなど空中戦にも対応できるところを見せた。春にはU16日本代表候補合宿にも参加、全国トップアスリートのレベルを体感してきた。相手ディフェンスの網をかいくぐり崩れた体勢からも正確なシュートを放つことが出来る逸材のプレーにも注目したい。シューター・**庄司空人**は果敢に放つ3Pが魅力。派手さはないが勝負所で安定して長距離砲を決められる選手。県総体決勝リーグでも7本3Pを決めるなどここぞの状況で頼りになる存在である。上記4人とともに不動のスタメンを張るのが**永見純**。県新人決勝でも活躍したが県総体では出場機会に恵まれず、沼津中央戦に至っては出場することすら出来なかった。その悔しさから一念発起しインハイでは4試合すべてにスタメン出場、チームに貢献した。飛龍に数多くいるシューターの一角としてさらなる飛躍が期待される。

主将代々に伝わる絶大なキャプテンシーを受けつぐ**坂田翔**はスタメンこそ他選手に譲ることもあるが、ベンチでも常に状況を見極めてチームを鼓舞し、ひとたびチャンスをもらえばコート上でパフォーマンスを十分に発揮する。そしてこの選手を忘れるわけにはいかない、**畑尻祐哉**。この選手なくして県総体優勝、そしてインハイで4試合をこなしてチーム全体の経験値を上げることすら出来なかったはずである。3度の延長となった浜松開誠館との死闘、全員が疲労困憊で気力だけで戦い続ける中、再々延長で3本連続3Pを決めて勝利の立役者となったことは記憶に新しい。土俵際まで追い込まれた延長戦でも同点シュート決めて再延長へ、再延長でも決着がつかずに突入したトリプルオーバータイム、1本目は坂田から、2,3本目は山本からのグッドパスを3Pにつなげて今後永遠に語り継がれるであろう令和の名勝負に終止符を打った。まさにゾーンに入った神がかり的なプレーを短時間で連発、この勝負強さを今大会でも再び見せてくれるに違いない。その他にもインサイドの控えとして存在感を発揮する**宮田翔矢**、同じくインサイド・チーム随一の長身193cm**松野優人**、短時間ながらインハイにも出場して貴重な経験を積んだ成長著しい**ワシントンケネス**、高い身体能力を誇る**アダムソン武蔵**、県協会U15優秀選手を受賞した経験を持つ**鈴木麗大**、東海国体でもスタメン出場して勝利にも貢献した**野田悠峨**、同じく東海国体で出場機会を掴み広いシュートエリアから3P、パス、ドライブを見せ技巧派であることを証明した**山内リザク琉衣**、同じく県選抜選手の**安藤優太・澁木勇気・佐藤柚人**、予備選手として練習にも帯同した**長尾祥汰・阿部光音・植木大夢・中村飛鳥**などフレッシュな面々も多く抱え選手層の厚さを誇る。ディフェンスからのブレイクを起点とし、ポイントガードを中心とした組織的なオフェンスを展開して大会連覇を狙う。

優勝候補筆頭・飛龍を猛追するのが県総体準優勝・東海総体4位の**浜松開誠館**。昨年1年間は県ベスト8の壁に阻まれ上位に進出できなかったが、今年の県新人は見事準優勝、満を持して臨んだ県総体は地区総体で浜松西に不覚を取り西部3位で出場、非常に厳しいブロックに入ったものの浜松西との再戦に快勝、全勝で臨んだ飛龍との優勝決定戦では一時は12点も離される苦しい展開だったが驚異的な粘りを見せて相手を追い詰め残り14秒で同点に追いつき延長戦へ。そのあと両軍とも一歩も譲らず3度の延長戦、最後の最後は力尽き初優勝と全国出場を逃した。私も数多くバスケットの試合を見てきたが、プロ・アマ問わず全種別を通じて間違いなく史上最高の名勝負だったと断言したい。悔しさの余り選手たちがコートで人目もはばからず流した涙を忘れられない。その悔し涙を嬉し涙に変えるためにも万難を排して今大会に臨む。

中心となるのは**海野来晨**。何といってもこのチームは彼が心身ともに大黒柱である。飛龍戦・敗戦が色濃く見えてきた中盤、反撃の口火を切るバスケットカウントを決め、さらには気持ちを切らすことなく常に前向きに声を出し、仲間にも声を掛け続ける姿が驚異の追い上げや粘りにつながった。決してトップクラスのテクニックを持ち合わせている選手ではないが、ひたむきに懸命に泥臭いプレーに汗をかき、気持ちで仲間を奮い立たせ、チームの総合力を高めていく選手、まさにラスト・サムライ、今年の浜松開誠館はこの選手の存在がすべてである、と言っても過言ではない。飛龍戦後、その悔しさは察するに余りあるものであっただろうが、マスコミへも誠意ある対応で質問にも気持ちを振り絞って応じ、私が声を掛けた際も「ありがとうございました。ウインター頑張ります。」と噛みしめるように答えてくれた。その立ち振る舞いは立派の一言に尽きる。その飛龍戦、攻守に大活躍だったのが**須和部陸**。この選手のプレーは縁あってミニバス時代からよく見させてもらったが、当時は一言でいえばバイプレーヤー、つなぎの選手であった。スペースウォッチングに優れ、パスランでチームオフェンスを有機的に機能させる職人肌の選手という印象が強かったが、昨年大怪我を負い満足にプレー出来ない時期が長く、その間リハビリ・トレーニングに励みながら不断の努力を続け見事総体予選で不死鳥のようによみがえったフェニックス、飛龍戦でも要所で自ら得点に絡みドライブや1on1からのジャンプシュートなどでチームに貢献した。クライマックスは何といっても2点ビハインドの最終Q残り14秒、バスケットカウントを決めて同点に追いついたシーン、その後一連の延長戦でも脚を引きずりながら必死にボールに食らいつくシーンは今でも私の脳裏から離れない。まわり道をしたことが精神的にも肉体的にもひとまわり成長させたに違いない。

飛龍戦におけるシューター・**杉山真**の活躍も忘れてはならない。平均身長178.2cmの長身チームの中で1番低い170cmながらもチーム最多の3P4本を含む25得点を記録、勝負所で果敢に放たれるシュートや速攻の起点となるドライブが魅力、執拗に体を寄せて相手のコースにいち早く入って受けるディフェンスも絶品、今大会でもスコアラーとしてチームを勢いに乗せていくだろう。インサイドには197cm**鈴木楓大**が待ち構える。長年大器として期待され続けているがなかなか恵まれた長身を生かしきれていないようにも思える。しかしながらインサイドで位置取りをした際の力強さやリバウンドへの貪欲さ、そして腕を決して下に降ろさないボールキープ術など目を見張るスキルも多い。東海総体・豊田大谷戦では最多タイの22得点を稼ぎだし、今大会では未完の大器が完全に開花することを期待する。その他にも、精度の高いシュートが持ち味の**鷲尾風河**、類

まれなポテンシャルを持ち、県新人決勝での大活躍が忘れられない**清川颯**、沼津中央戦でチーム最多の3P5本を含む23得点、相手の戦意を削ぐような決定打となる3Pを多く決める**奥宮翔太**、どこのポジションでも器用にこなせるユーティリティープレーヤー・**上杉亮雅**、東海総体に全試合途中出場、東海国体では予備選手として選出された期待の新人・**山下朔史**などの充実した戦力は打倒・飛龍の1番手である。今年で創部10年、今まで県総体・ウインター県予選・県新人すべてで準優勝の実績を持つ。機は熟した、県総体での悔しさ、東海総体で得た自信、そして積み重ねた総合力で初の県制覇、そして全国大会出場を狙う。

東西の両横綱を追うのが県総体ブロック決勝で宿敵・浜松学院との接戦を制し3位、東海総体でも勝ち星を挙げた**沼津中央**。

このチームは何といっても稀代の点取り屋・**新井楽人**抜きでは語れない。とにかく点を取ることに関しては天賦の才能があるとしか言いようがない。飛龍・山本同様1年時から活躍し、その名を知らぬ者はいない存在、各チームも対策を入念に練っての対戦であろうが、決勝リーグでは浜松開誠館戦の51得点を始めとして3試合で3P8本を含む驚異の105得点、東海総体でも四日市工業相手に3P6本・計50得点、岐阜王者・富田戦も3P4本・39得点、全国レベルの強豪でも止められないまさに得点の申し子である。この選手をライバルチームがどのように止めることが出来るか、その点だけでも今から興味あふれる。3年間新井と共にチームを支えるダブルエース・**福島寿希也**も力強い1on1でディフェンスを圧倒、新井との相乗効果で攻撃力が増す。新井の影に隠れがちだが決勝リーグでは75得点、東海総体2試合でも42得点をたたき出せる爆発的攻撃力はこちらも脅威、相手の意識が新井に偏った時にチャンスを逃さずより高い能力を発揮する。ダブルエースの集大成となるこの大会に賭ける決意も強いはずである。福島と共に時にツーガードの役割を任せられる**吉戸皓太**はドライブ・さばき・3Pなど攻撃の引き出しが多い職人肌の選手、新井・福島とは違った魅力を持つ。

インサイドには**滝野伶太**を擁する。この選手を県総体で間近見た時、昨年来の成長とそのプレーの迫力に驚いた。以前は力任せに強引なプレーが多かったが、インサイドで迫力あるリバウンドはもちろんセカンドチャンスへの力強さ、状況を見極めたアウトレットパスそして何よりもゴール下に陣取る威圧感がすさまじい。そして期待の新戦力として今年台頭してきたのが**土勢雄介**。昨年のウインター県予選ではベンチ入りすらしていなかった選手だが、新チームになって頭角を現し地区新人でも活躍、周囲の協力でバスケットに集中できる環境が整い、県新人でのさらなる飛躍が期待されたが大会延期中に怪我を負い2月の県新人は断腸の思いで欠場、思い悩んだ時期もあったが完全復活した総体予選で大ブレイク、東部総体・飛龍戦では大活躍し王者を土俵際まで追い詰めた。その活躍が覚めぬまま県総体・東海総体でもチャンスをものにし今では貴重なシックスマンとしてチームを支える存在に成長、四日市工業戦では見事スタメンも勝ち取った。その他にも、不動のレギュラーとして中盤での安定したプレーで貢献する**小林慶哉**、チーム1の長身選手192cm**高橋透生**、190cm・恵まれた体格を生かしたプレーに期待を込めたい**木戸口正貴**など戦力的には2強にひけをとらない。まずは準決勝に駒を進めて県総体で惜敗した浜松開誠館との戦いに勝利して王者・飛龍に挑み、6年ぶりの優勝を目指して欲しい。

2年連続3位・**静岡学園**は県総体ブロック決勝で同地区のライバル・藤枝明誠に見事勝利、決勝リーグに進出した。総体・新人戦の中部決勝は長年このカード、そして県大会でも準決勝やブロック決勝で何度も対戦し、その都度藤枝明誠に煮え湯を飲まされ続けた。今年の中部総体決勝でも惜敗、県総体でも非常に厳しい戦いが予想されたが第2Q,3P攻勢を見せて逆転、そのままリードを守り切る会心のゲーム、藤枝明誠戦初勝利を飾った。また藤枝明誠が公式戦で同地区に負けたのも15年ぶりである。決勝リーグでは白星をあげられず東海総体を逃したが、今回も優勝候補の一角であることは間違いない。

大黒柱はインサイド185cm**保谷蒼空**。強靭なフィジカルを武器にどんな状況でもリバウンドに絡めるチームの生命線、器用にミドルシュートも決められる。アドバイスにもきちんと耳に傾けて前回展望で指摘した課題も県総体ではきちんと修正してきた。司令塔・**瀧澤良斗**とインサイド184cm**三井勇一郎**はお互いの好不調を敏感に感じ合いフォローしあう阿吽の呼吸を見せる。瀧澤は天下の宝刀・ドライブからのジャンプシュートで相手をきりきり舞いにし、三井もドライブが得意でプレーの随所に知的な面が垣間見える。2人とも決勝リーグでは1試合で25点を記録した経験もあり、今大会では2人同時に爆発力を発揮することに期待する。**北堀晃征**は3Pシューター、藤枝明誠に勝った試合では逆転の狼煙となる3Pを決め、前半終了にも3Pバスカン、直後のフリースローも落ち着いて決める4点プレーを披露、才能が開花した瞬間を見せてくれた。その他にも、チーム1の長身186cm・クリアアウトを得意とし体を張ったプレーを心掛ける**齊藤龍哉**、ランニングリバウンドやブロックショットで貢献する**河村育真**、1年生ながら途中出場の機会を得始めた**石川凛久**、そして東海国体でもスタメン出場・小柄ながら必死に飛び込みのリバウンドでボールに食らいつき、攻撃では3P・ドライブ・バスカンまで見せて将来のエースの予感を漂わせた**鎌田優芯**など幅広い選手層を持つ。まずは準々決勝で予想される強豪・浜松学院戦に是が非でも勝利し、再度飛龍の壁に挑みたい。

県総体5位・平均身長ナンバーワン・178.6cmの**浜松学院**も侮れない。ブロック決勝では毎回4強を賭けて対戦する沼津中央に2点差で敗れたが浜松西・藤枝明誠に連勝して5位を確保、底力を見せた。

主軸の**縣剛人**は柔軟性のある3Pを武器に得点を重ね、インサイド190cm船尾裕二郎はリバウンドだけでなくワンゲーム通して決して落ちることのないスタミナが魅力、司令塔・**渡邊棟介**はスピードあふれるドライブで得点を重ね、シューター・**内藤航**は沼津中央戦後半だけで11点を挙げて必死に相手を猛追、**鈴木遥斗**も負けじと3Pを連続して決めた。また大器晩成が待たれていた186cm**曽布川翔月**も徐々に覚醒、沼津中央戦では途中出場して10得点を挙げた。192cm**大島ジオバニ**も激戦区・インサイドで出場機会をうかがう。そして今大会注目の選手として**伊藤ハリー大河**を推したい。少年男子不動のセンター、東海国体でも全国レベル選手が揃う愛知にも一歩も引かないパワープレーを見せてくれた。力強い腕っぷしを武器に颯爽とリバウンドを確保しワンフェイク入れてのセカンドショット、器用に見せるドライブ、時に状況を十分に把握して繰り出すノールックパスなどまさにスピード・パワー・テクニックを兼ね備えたオールラウンダー、すべてを総合して、さらに大きな期待も込めて言わせてもらえば「和製ドンチッチ」と称して本人を激励・最大の賛辞としたい。2年ぶりの4強進出を賭けて対戦が予

想される静岡学園戦は今大会屈指の好カードである。

一昨年王者の**藤枝明誠**は背水の陣で今大会に臨む。県総体ブロック決勝では2週間前に快勝したばかりの静岡学園に不覚を取り15大会ぶりに決勝リーグ進出を逃した。5位決定戦でも浜松学院に惜敗して6位に終わった。元来留学生主体の高さで勝負するチーム、このコロナ禍で入学予定のマリ人留学生の来日もままならず苦戦が続いている。その中でも昨年来チームを牽引する**遠藤千晟**、司令塔・**谷俊太朗**、キャリア抜群の**西村星汰**、中盤で正確なミドルを連発する**上野幸太**、抜群のバスケセンスを持ち華麗なプレーで魅了する**福間啓人**、先輩留学生から学んだインサイドワークをプレーに生かし始めた193cm**和太駿治**、実戦経験豊富な3年生トリオ・**眞野皓斗・川村康汰・櫻庭光生**、東海国体にも出場した**仲田創太・鬼倉拓司・赤間賢人**、そして将来のスター候補・**片山ジャズウェル**など十分に優勝争いに絡む戦力を持ち合わせる。チームのモットーである、真面目に守り、ひたむきに走り、高さを生かしたバスケットを展開して、まずは16年連続の準決勝進出を果たすためにも準々決勝で予想される沼津中央戦を落とすわけにはいかない。

その他にも、**勝又郷・寺崎匠・佐久間秀人・望月祐輝**という不動のレギュラー 3年生に、新星・**鈴木聖也**、シックスマン・**山本叶哉人**が加わって県総体でも最終Q・飛龍相手に40点取って大健闘した県総体7位・**加藤学園**、全国日本人高校生最高身長203cm**加藤大智**をはじめ、**和久田登馬・神村幸太郎・高橋颯・渡辺陽**の主力3年生がそのまま残留、2年生・**平野太基**の攻撃力が有機的に交わって強さを発揮、西部総体では浜松開誠館に競り勝った実績が光る県総体7位・**浜松西**なども聖地・県武道館のメインコートを虎視眈々と狙っている。

今回、**伊東・伊東商業**が男子初の合同チームとして出場する。再来年令和5年度に統合することが決まっているため、「統合が決定している高校はその2年前から合同チームで出場できる」という規定に照らし合わせての出場である。女子は平成28年に常葉学園橘と静岡英和女学院が合同チームで出場、見事勝利も飾ったが、合併前提での合同チームは大会史上初である。決して部員不足による合同チームではなくそれぞれ別々のチームで参加することも出来たが、すでに4月から同じ校舎・同じ体育館で学習・練習を行っており、団体競技の特性も考慮ながら学校の方針として合同での出場を決めた。まずは男子合同チーム初の勝利を目指して頑張って欲しい。

上記以外の注目選手として、**和田拓真・秋田颯斗・長澤紀忠**（韮山）、**戸塚雅弥・木代拓人・山本翔己・瀬尾健颯**（伊豆中央）、**新保晴也・山口裕也・新保晴也・田中和広**（裾野）、**寺田昇平**（沼津工業）、**ピアスリンカーン**（加藤学園暁秀）、**石川真裕・白井響己・藤井航紀**（三島南）、**山木陸・江原光樹・櫻井環・清水陽和太**（三島北）**岩崎裕大・渡邉絢心**（日大三島）、**山口朋郎**（富士東）、**オルタブライアン**（吉原）、**増田陽斗・北郷蓮**（富士市立）、**井上快星**（富士宮東）、**田中凱大・渡邊吾留・佐野柊也・谷村遥斗**（星陵）、**杉山樹・坪井寛大・土谷涼介・沙原壮宏**（富岳館）、**齋藤瑠己・原佑・小永井陽樹・白鳥真希**（清水東）、**大多和善**（清水西）、**曲渕大輝・阿形祐輝**（清水国際）、**千葉瑠人・渡邊ジョエル**（東海大静岡翔洋）、**神保蓮・鈴木義宗**（静岡）、**大川悠希・丸山修平・川口奏汰**（科学技術）、**堤辰月**（静岡農業）、**小川大輝**（駿河総合）、**岩崎公輔・小杉琢磨・稲垣陽斗・宇江喜創太**（静岡商業）、**岡本康佑・良知鈴大・真鍋慈・望月優作・荒木智哉**（静岡東）、**白鳥達也**（静岡城北）、**齋藤陽平・原田将希**（静岡市立）、**山﨑智晴**（静岡聖光学院）、**ブラウン龍輝・細野歩・渡辺大輝**（静岡大成）、**新村留季也・山田陽太**（常葉大橘）、**小澤綺羅・漆畑賢人・中野巧登・高野翔・矢入滉和**（城南静岡）、**石川槙也・平野春輝・中村脩人**（焼津中央）、**シャイェギヤン羅瑠**（清流館）、**深澤剛至・菅谷優斗・中江悠陽**（藤枝東）、**永田陽亮・太田元基・但馬柊輝・落合亮太**（島田工業）、**長木カルロス・小塩雄太**（島田樟誠）、**比嘉海輝・戸塚湧斗**（小笠）、**名波俊裕・渡部博熙**（常葉大菊川）、**佐々木テツヤ**（掛川東）、**ダヴィスクリント・マソングフランシス・知念ヒデキ・大村弥夢・奥村カウエ**（横須賀）、**佐藤右乃**（袋井）、**山田和輝・岡本隼**（袋井商業）、**長谷川侑志**（磐田農業）、**繁田昂志**（浜松南）、**米津蓮・三浦明仁・鈴木ローレンス・鈴木一織**（浜松江之島）、**上野真輝・鈴木幸太朗・渡辺颯翔**（浜松湖東）、**阿保友飛・長屋聖那・中野蒼・鈴木裕也・高橋莉玖**（浜松商業）、**平本大也・鈴木暁人・鈴木弥真斗・辻大楽・江間愛斗**（浜松工業）、**茂津目優希・星諒矢**（浜名）、**塩崎拓海**（浜松聖星）などを挙げたい。

女子

現在県内大会15連覇・101連勝中、まさに無双の強さを誇る浜松開誠館が他の追随を許さない状況が続いている。県新人決勝・常葉大常葉戦では残り5秒で決勝点を挙げる薄氷を踏む思いで勝利を飾ったが、その経験が「勝って兜の緒を締める」結果となり県総体では危なげなく5連覇を飾った。東海国体でも主力は成年女子、下級生は少年女子で活躍、改めて層の厚さを見せつけた。県総体での戦いぶりを見ると盤石という言葉が当てはまるが、勝負事はいつ何時何が起こるかわからない、油断は禁物である。浜松開誠館が男女を通じて初の大会6連覇を成し遂げるか、それとも連覇・連勝にストップをかけるチームが現れるのか、今から楽しみである。

絶対的本命・**浜松開誠館**は全国一の激戦・東海総体で価値ある3位を勝ち取った。インハイでは2回戦で京都精華学園に惜敗したものの、互角に戦う姿は全国常連の風格が漂うものであった。県新人決勝での薄氷の勝利がチーム内に危機感を生み、いい意味で緊張感を持ちながら日々の練習に取り組むことが出来た成果であろう。今年は主に下級生主体の若いチーム、常に挑戦者という気持ちで相手に立ち向かう。

中心は昨年の大会で鮮烈な高校デビューを飾った**萩原加奈**。独特のリズムで得点を量産するプレーヤー、県新人で散々苦し

められた常葉大常葉との再戦では前回の反省点を十分研究・分析して45点を荒稼ぎ、打つシュートすべてが入るのではと錯覚するくらいの精度でシュートがリングに吸い込まれていった。表情には表れないが極度の緊張体質、立ち上がりのシュートが入ると徐々に緊張がほぐれてリズムに乗るタイプ。決勝リーグ・市立沼津戦では立ち上がりで立て続けにシュートを落としリズムを崩した反省から翌週にはきちんと修正、2試合で67得点。内外から多彩な個人技で攻撃を繰り出すスコアラー、苦戦を強いられた東海総体・岐阜女子戦でも全国トップの強豪相手に3P3本を含む22得点、特にあまりに鋭いドライブで相手のディフェンスが一歩も二歩も遅れる場面も見受けられた。衝撃デビューから1年、各チームの対策も進んでいるはずである。相手チームがどのような戦術を模索してくるか、そして萩原がその対策に対応するのか注目したい。浜松学院戦で立ち上がりに3Pを3連続で決めて相手の出鼻をくじき、終わってみれば3P8本を含む26得点、5年前に最後の敗戦を喫した相手からメモリアルとなる100連勝目の原動力となったのが**小幡夕夏**。シュートエリアが広く、左右両サイドから滞空時間の長い華麗なアーチを描きながらリングに吸い込まれる3Pはまさに芸術品、3Pと見せかけてのドライブもありディフェンスにとっては対処しづらい選手である。名経大高蔵戦でもチーム最多タイの14得点、怪我でインハイは出場できなかったが不屈の精神でウインターのコートに戻ってきてくれることを信じている。**中山未悠**は大怪我から復帰して2年ぶりのウインターに臨む。1年時は全試合にスタメン出場、茨城国体にも出場して勝利に貢献した。その後長い間怪我に苦しみ続け紆余曲折の日々を過ごしたが今年の新人戦でベンチ入り、そして総体予選で見事復活、インハイではスタメンに戻ってきた。まだまた本調子には程遠い感はあったがウインターまでには確実に仕上げてくるはず、持ち味のスピードで速い展開を導き出して周りも生かせるプレーを見せて欲しい。

インサイドには176cm**西田妃那**・178cm**前田理咲子**、そして新戦力178cm**中老小雪**が待ち構える。少し前までは浜松開誠館のインサイドと言えば170cm強の選手が相手選手とミスマッチ覚悟で必死にリバウンド争いをしていたが170cm代後半の選手3人を擁して唯一の泣き所だった高さの弱点を完全に克服した。西田は経験を積み重ねリバウンド確保が一段とうまくなった。インハイ・鵠沼戦でも20得点を挙げたが特に注目したいのはディフェンスリバウンド、シュートが放たれるとさっとマークマンから離れ、落下位置を予知しリバウンド、ロングパスでブレイクやアーリーオフェンスにつなげる攻撃の起点となっている。県内最高身長・前田はポストプレーを得意とし、リバウンド時にも腕を下げることなく高さの優位を生かし続ける堅実なプレーが魅力、以前は途中出場が多かったが地区総体からインハイまで一貫してレギュラーの座を譲っていない。中老も同じく県内最高身長、出場した東海国体でも自分より一回り大きい相手インサイドに対して面取りやシールなど積極的なプレーを見せて攻守に渡って盛り上げた。都精華学園戦では前田に代わって途中出場、大役を任せられながらも果敢に放つ3P・落ち着いて決めるフリースローで見事重責を果たした。今大会でも西田・前田のサポート選手として出番があるだろう。中盤を任されている**小谷梨緒**は東海総体でブレイクした選手、県総体まではシックスマン的な存在であったが、いなべ総合学園戦で途中出場し13得点と結果を残して以降見事レギュラーを獲得、以降東海総体・インハイ4試合はすべてスタメン、平均出場時間も34分、千載一遇のチャンスを生かした典型例と言える。東海国体でも成年女子の県選抜に選ばれ途中出場、大学生や社会人相手に負けないオフェンス力を見せた。そして精神的支柱・**岩永美空**を忘れてはいけない。彼女を語る上で昨年のウインター・京都精華学園戦での終盤で決めた3連続3Pは欠かせない。キャプテンとしてチームを統率し全体に気を配ってチームを牽引する抜群のリーダーシップを今大会もコート上で見せるだろう。他にも県新人優勝の大役者・**安田百亜**、3Pシューター・**今井杏**、圧倒的なリバウンドでチームを盛り上げる**平井朋美**、173cmの長身を生かした内外のオフェンスが魅力・**大橋茜**、東海国体にも出場して経験値を積んだ1年生・**黒川芽衣**・**福田翠生**・**望月秋桜**・**蔀桃菜**など戦力を上げれば枚挙に暇がない。特に173cm蔀は東海国体でも愛知・岐阜のトップ選手と堂々と渡り合うインサイドワークを見せた。平均身長167cmは県内では群を抜く高さ、目標に掲げる粘り強いディフェンスと人もボールも動くチームオフェンスをより高い完成度で実践するためにも日々飽くなき練習に励み、最終目標である全国ベスト4を達成すべく、まずは県予選で優勝を勝ち取ることに全力を尽くす。

浜松開誠館の連覇・連勝を止めるチームを探すのは容易なことではないが、県新人・県総体と共に準優勝、特に県新人では土俵際徳俵まで追い詰めた常葉大常葉と県総体3位・バランスの取れたチーム編成で臨む市立沼津を挙げたい。

常葉大常葉は県新人決勝で浜松開誠館が仕掛けた積極的なパスカットからのワンマン速攻で逆転負けを喫したものの、この5年半で王者を1番追い詰めたのはこの試合、このチームである。今大会も打倒・浜松開誠館の一番手に挙げたい。

中心となるのは**植田希歩**、この選手の得点力なしに賜杯奪還はあり得ない。決勝リーグ3試合で脅威の77得点、特に浜松開誠館戦ではチームの6割にあたる30得点を挙げる大活躍、点差を徐々に離される苦しい展開でも最後まで果敢にゴールを目指し走り続けた。開誠館のインサイド陣にも負けない175cmの長身を利して巧みなステップでゴール下に入り込み高い位置でジャンプシュートを打ち相手をきりきり舞いにさせた。東海総体では普段見せることのない3Pを決め、引き出しの多さを感じさせた。植田と共にチームを支える**市川凛香**は攻撃では研ぎ澄まされた3P、シャープなドライブ、守備ではボールマンに対して厳しい寄りを見せて素早くコースに入ってドライブを止めるプレーが光る。最近は堅実なディフェンスに新境地を開き、数字に表れない部分での貢献度が非常に高い。

常葉伝統のディフェンス「ステイロー」の申し子・**伊藤愛莉**は県総体でまた1段と低い姿勢での効果的なディフェンスを見せてくれた。ここまで強靭かつ柔軟性のある下半身を作るには相当苦労したことであろう。膝もよく曲がり体幹も強く、ボールマンへのハンドチェックも忘れない。ディフェンスでつかんだリズムをオフェンスにつなげるタイプ、フルタイム出場を果たした名経大高蔵戦ではリズミカルな守備から掴んだチャンスでドライブを連発、初のチーム得点王となる20点を稼いだ。この選手の成長がチームの総合力を大きく上げたことは間違いない。フォワード・**佐野玲奈**は新人戦まで出場機会に恵まれなかったが総体地区予選から全試合スタメン出場、県総体・藤枝順心戦では3Pを含む自己最多の13得点を挙げて遅咲きの大器を感じさせた。東海総体でもチャンスを逃すことなくシュートを放つなどの積極性を見せてさらなる活躍を期待したい。**三瀬未来**はキャリア抜群の選手、入学直後からレギュラーを掴み実績を蓄積、速攻への走りも速く絶妙のアシストも連発してチー

ムに貢献してきたが、ハイライトは浜松学院戦残り30秒・逆転のかかった緊張の場面で冷静沈着にフリースローを2本決めて勝利を引き寄せた場面。高蔵戦ではオフェンシブなプレーも披露して18得点を記録した。その他にも破壊力あるオフェンスでドライブ・カットインを繰り出し、ウィークサイドへ走る仲間に合わせのパスを出す**太田結優**、要所で起用され自分の役割を忠実に果たす**成瀬こころ**に加え、1年生ながら東海総体でも出場機会を得て経験を積んだ**海野希帆・佐野実咲・山田楓**など例年になく新入生の選手層が厚く、苦しい夏の練習を経ての成長が楽しみである。6年ぶりの女王奪還という最大の使命に向かって勇往邁進する。

市立沼津は昨年の大会・準決勝で浜松市立に惜敗し3位、しかしながら県総体でその浜松市立に雪辱を果たし決勝リーグに駒を進めた。常葉大常葉に競り負けて3位に終わったが、東海総体ではウインター準優勝経験もある安城学園と最後まで接戦を演じてその実力を十分に見せてくれた。

中心となるのはインサイドの174cm**望月莉七**。とにかく相手チームもこの選手に中でボールを持たせてしまったら望みはない、そう観念するしかないくらいの得点力。いい位置取りを心掛け絶妙のポジショニングをキープしてボールミート、体を寄せてシュート、外しても高い位置でリバウンドショット。決勝リーグ3試合で57得点、安城学園戦37得点、今大会No.1のインサイドプレーヤー、各チームがいかにしてペイントエリアに入れさせない戦略を練って来るか楽しみである。**萱沼柊**は派手さはないが基本に忠実な選手、淡々と与えられた任務をこなしチームに多大な貢献をする。1線でボールプレッシャーをかけ続けながらも意識は2線・3線にも行き届く。ディフェンスも力強く、攻守にチームの要となる。望月とのツインタワーズとして入学以来チームを支えた172cm**鈴木芹菜**は総体予選には怪我で出場することが出来なかったが、昨年の大会や県新人では巧みな駆け引きでディフェンスをかわしてドライブに行くなどオールマイティーなプレーを見せてくれた。高校バスケの集大成となる今大会では怪我から回復し万全の体調で数々の美技を披露してくれることを願う。**飯岡寧々**はディフェンスの動きに応じた攻撃パターンを持つ選手、**法月歩瑚**はひたむきなディフェンスでチームに貢献する。そして今年は年始に開催されたJr.ウインターの檜舞台を踏んだ面々が加わって県総体・東海総体・東海国体という経験を積んだことが最大の強み。東海国体に主力として出場した**遠藤陽向・川口青空・小山内悠桜**はすでにレギュラーを獲得して主軸級の働きを果たしている。特に遠藤は期待の新星、得点力ある司令塔としてパスにドライブにリバウンドにトップレベルのバスケセンスを見せた。他にも東海国体予備選手として大会にも帯同した**横山文音**は174cm、鈴木・望月とともに高さに厚みを加えた。平均身長は浜松開誠館に次ぐ165.1cm、高さとうまさで10年ぶりの優勝を目指す。そのためには準決勝で予想される常葉大常葉との浜松開誠館への挑戦権決定戦を是が非でも制したい。

東海総体出場の3チームに続くのが、県総体4位の浜松学院と県総体5位・前回準優勝の浜松市立。

浜松学院は県総体で静岡東を破り18年ぶりに4強進出を果たした。決勝リーグでは十分実力を発揮しきれずに東海総体を逃した。特に常葉大常葉戦では中盤逆転したが、そのリードを最後の最後にひっくり返され1点差で涙を飲んだ。今大会は雪辱を果たすべく魅力的な戦力を武器に19年ぶりのメインコートを目指す。エース・**足立琉耶**は決勝リーグ3試合でチーム断トツの3P7本を含む64得点。ミニ時代からキャリアを積み続け、相手との駆け引きや間合いの取り方に一日の長がある。司令塔・**伊藤風音**も貴重な得点源、ゴール下への気迫がこもったカットインなどプレーでチームを鼓舞する。**名倉桜那**は一言でいえばテクニシャン、鋭角に切れるドライブや華麗なポストプレーを見せる。その他にも常葉大常葉戦・要所で3Pを立て続けに決めた**飛騨彩未**、今年から全試合スタメン出場を継続している**後藤菜千**、東海総体を賭けた市立沼津戦・随所で長短のシュートを決めた**竹下涼**、小柄ながら度胸満点の3Pを放つ**岩田柊憂花**など戦力は多彩、今年は高さだけでなくスピードやうまさも併せ持つ。メインコートに立つためには準々決勝で予想される昨年敗れた浜松市立との戦いに勝つことが絶対条件となる。

浜松市立は昨年準決勝で市立沼津に逆転勝ちして見事33年ぶりの決勝進出を果たして準優勝。県新人でも3位、県総体ではブロック決勝で市立沼津との再戦に敗れたものの5位決定Tは連勝、県5位を確保した。主力の山田・桑原は引退したが**萩原羽海・川合杏里**が残り、平均身長は164.4cm、県内トップレベルを維持して大会に臨む。メンバーの中心となるのは県総体で4試合にスタメン出場した**鈴木彩花**。1点差の大接戦で辛くも勝利を掴んだ浜松聖星戦ではチーム全体に疲労が色濃く残るなかで生き生きとした動きを見せて3Pを含む11得点、勝利に大きく貢献した。**原田沙波**は県総体全試合に途中出場、緊張する状況での出番もあり限られたチャンスで経験を積めたはずである。**杉浦心蓮**も県総体に途中出場して雰囲気を体感した。そしてインサイドには県総体でも得点を決めた171cm**柴朱花**、そして県総体では出場機会がなかったが県選抜に選ばれて東海国体に出場、貴重な実戦経験を積んだ県内最高身長178cm**黛彩良**を擁し今年も高さで勝負する。まずは準々決勝で予想される浜松学院戦に勝利を収め、昨年同様メインコートで浜松開誠館との戦いに挑みたい。

県総体6位・**藤枝順心**は一部の3年生が引退したが、主力が残り2年ぶりのメインコートを目指す。県総体では常葉大常葉と浜松市立に惜敗したが、攻守にポストプレーを意識・県総体5試合で3P12本を決めたシューター・**野末舞**、カットインしてのドライブが信条・**鈴木はるり**、インサイドで地道にリバウンドを集めシュートにつなげる**鈴木ひより**、昨年からシックスマンとして出場を重ねドライブへの突き出しが上達しレイアップへの速さが増した**谷川果梨**、チーム一の長身173cm**松林亜実**、ミニ時代からキャリアを積んだ新戦力・県総体にも途中出場した**石部希歩**などの戦力を武器に、固い絆で結ばれたチームワークで上級生と下級生がうまく機能すれば2年ぶりのメインコートも現実味を帯びてくる。何度も激闘を繰り返した市立沼津との対戦が予想される準々決勝が大きな山場となる。

県大会7位・浜松聖星と静岡東は共に新チームで大会に臨むこととなり、新たな布陣で始動する準備期間が十分あったアドバンテージを生かしたい。

浜松聖星は県総体でライバル・浜松市立とのシーソーゲームに1点差で敗れ7位に終わった。大黒柱の木野は引退したが、昨年来レギュラーとして修羅場を何度も潜り抜けて経験を重ねた2年生の**立脇里菜・鈴木泉美**を始め、東海国体にも出場した1年生・**土谷陽菜・大滝菜々子**、予備選手の**内山瑚子・山下菜々美**、県総体全試合で途中出場をした**鈴木奏音**などの新戦力が加わり、今大会だけでなくその先を見通した時には台風の目になる存在である。準々決勝で対戦が予想される常葉大常葉相手にどこまで通用するか楽しみである。

静岡東もチームを牽引した吉永・杉山・前島などが引退して苦しい陣容となったが、ECCカップU14全国大会3位の経験を持ち、東海国体にも出場して東海のトップアスリートとしのぎを削った**中村目愛里**が加わって大きな戦力補強となった。県総体全試合で途中出場した**小澤美結・小泉凛音**、出場機会を得た**吉川瑞季**、期待の星・**住吉ひなた**などさらに鍛えれば光る金の卵を多く抱える。もちろん目標は県武道館のコートに初登場して浜松開誠館と戦うことだが、そのためにも8強を賭けての対戦が予想される**駿河総合**との戦いがカギを握る。

どのスポーツでも少子化の影響を受けて競技人口が減少し、どの大会でも参加チームが年々減少している。残念ながらバスケットボールも例外ではなく、今年は男子が5チーム減となった。女子も廃部・休部になった学校はあったが、**静岡サレジオ・静岡英和女学院・磐田東**・西遠女子学園が2年ぶりに出場、参加チームは2校増となった。特に**西遠女子学園**はインハイ出場3回・県総体優勝1回・県新人優勝1回、ウインター県予選でも2度準優勝している、言わずと知れた県内有数の名門校である。昨年度は部員不足でウインター・新人戦と出場できなかったが、今年度は新入生が入部し総体予選から出場、ウインターにも2年ぶりにエントリーした。選手5人というギリギリの人数ではあるが、まずは2年ぶりの勝利を目指して練習に精進して欲しい。

上記以外の注目選手として、**長島里桜**（松崎）、**永田ひかり・田代有花**（三島北）、**田中美桜歌・小澤砂智・窪田恋奈**（三島南）**佐藤花梨・齊藤涼・野村優希・芹澤煌**（日大三島）、**森目向子**（沼津西）、**野原恋**（沼津城北）、**近藤美桜・高橋冴笑・青柳奈旺・遠藤若夏**（沼津商業）、**菊地架帆・杉本希・二村優衣**（飛龍）、**前嶋心花・名取美憂・鵜飼優輝・後藤みずき**（沼津中央）、**佐久間悠穂・木村光玖・菊地咲帆・小城悠亜貴**（加藤学園）、**諸星莉央**（富士東）、**佐野琴音・古屋亜実・諸星澪**（富士宮北）、**和田華音・天願陽菜海・中野有理・齊藤友夏**（富士宮東）、**大石紗矢**（清水東）、**白鳥ひなた、小川咲楽**（清水西）、**川口陽葉・宮城島唯名**（清水南）、**橋本紗那・池ヶ谷美妃・船山穏香・遠藤すず**（東海大静岡翔洋）、**牧田美蘭・小長井和香葉・杉本美結・森芽吹・亀山菜々美・伊藤澄香**（静岡西）、**柴菜摘・池上柚葵**（静岡商業）、**花村凛・志田美桜**（静岡市立）、**勝亦彩乃・山﨑奏美・山田遥翔・水井茉琴・鈴木優菜・保坂七菜・小澤桜**（駿河総合）、**宮城島佑奈・小澤華・大谷紗耶香**（静岡女子）、**江嶌凛香**（静岡学園）、**杉井はな・鍋田あかり**（焼津中央）**菊地美羽・飯塚春奈**（清流館）、**鈴木彩夏・杉山月子**（島田）、**高塚那菜**（小笠）、**石川遥・稲森百華**（常葉大菊川）、**赤堀杏紗・岩本美月・伊藤冴**（磐田南）、**松島彩花**（磐田北）、**瀧本かのん・池野舞香**・（浜松北）、**奈良和音・髙橋みなみ・頭島光音**（浜松西）、**今村仁子・森嶋愛佳・鳥居花帆・岡本笑依・佐藤美帆**（浜松南）、**長谷川未於・鈴木佐和・伊藤春那**（浜松商業）、**サリッチ月奈・永田芽依・阿部史奈**（浜松湖南）、**大手穂花・鈴木咲・伊藤柊里**（浜松東）、**杉田千夏・板倉七海**（浜松日体）、**嶋野菜々美・鈴木奏来**（浜松湖東）、**中木優希・渡邊結衣**（浜松湖北）などを挙げたい。

プレイバック静岡・高校バスケ 2020〜2021

文=中島　洋己（県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

【ウインターカップ】　令和2年12月23日〜　東京体育館、武蔵野の森総合スポーツプラザ

≪**男子**≫　3年ぶりに聖地・東京体育館に帰ってきたウインター。インハイ・国体が中止になっていたので、1年ぶりの全国大会開催となった。

2年ぶりの出場となった**飛龍**は初戦、日本初の高卒プロ契約選手・**川村卓也**を輩出した伝統校・**盛岡南**（岩手）と対戦、相手シューター**佐藤歩**の3Pに苦しんだがゾーンプレスで劣勢挽回、**古大内雄梨**が3P4本を含む26得点、チームも後半51得点で快勝。2回戦は優勝候補・**東山**（京都）との戦い。組み合わせ決定直後から映像等を分析して徹底的に相手を研究、身長206cm・ウイングスパン232cmを誇る**ムトンボ・ジャン・ピエール**には**三橋翔**が身長差26cmをものともせずに脚を相手のストライドに深く入れる得意のディフェンスで動きを封じ、司令塔・**米須玲音**には主将・**櫻井涼介**が継続的に体を当て続けてフラストレーションをためさせる執拗なディフェンスでシュートやパスを封じて抑え込み前半は9点のビハインドで折り返したが、安定感あるプレーの**中川泰志**、スコアラー・**堀田尚秀**、キャプテン・**西部秀馬**の3選手に46失点、20点差で惜しくも勝利を逃した。

≪**女子**≫　5年連続出場となった**浜松開誠館**は初戦・中村女子学園監督として全国制覇2回を誇る名将・**吉村明**率いる**熊本国府**と対戦、序盤こそ相手エース・**野中由姫乃**のドライブや2年生・**澤田留依**の高さを生かしたセンタープレーに苦戦し接戦に持ち込まれたが、後半は粘り強い守備で主導権を握り、**樋口沙彩**が37得点、怪我から完全復活したエース・**黒川菜津奈**も16得点で終わってみれば24点差の快勝。続く2回戦は前回大会3位・**京都精華学園**と対戦、相手は190cm級の留学生2人を擁し、戦前劣勢が伝えられたが結果として3本の指に入る大会屈指の名勝負となった。交代で出場するマリ人留学生190cm**トラオレ・セトゥ**と188cm**イソジェ・ウチェ**に加え177cm**柴田柚菜**の高さだけではなく、**中江美友**の1on1、**荻田美**のドライブにも予想以上に苦戦、前半で16点を離される展開となったが、後半インサイドに対して激しいディフェンスを仕掛けボールマンに対しトリプルチームもいとわない厳しい寄りを見せ相手を困惑、第3Q終盤に**岩永美空**が3本連続3Pを決めて反撃の狼煙を上げて第4Qへ。オールコートでボールを追って全員でリングまでつなぐ執念のバスケを展開、**山本涼菜**は4Qだけで3P4本、絶好調の樋口も得点を重ねるなど一時は2点差まで迫り館内を騒然とさせたが7点差で惜敗。敗れたものの最後の1秒まで諦めず全力で戦った浜松開誠館の雄姿は絶対に忘れることが出来ない。また1年生の**萩原加奈**がこの試合で3P2本を含む20得点を挙げて新チームへ大きな収穫となった。

【東海総体】　令和3年6月　三重県津市　県営サンアリーナ

≪**男子**≫　県総体3位・5大会ぶりの出場となった**沼津中央**は今年度インハイ出場を逃したが全国常連の三重2位・**四日市工業**と対戦、昨年のウインターで1年生ながらスタメンでフル出場を果たしたエース・**水谷旭**の鋭いドライブや司令塔・**荒尾翼**のドライブを止め切れずに序盤は苦戦を強いられるが徐々にペースをつかみ始め、第2Qに入ると**新井楽人**・**福島寿希也**両エースのアウトサイドがリズムよく決まりリードを広げる展開。外れたシュートも確実にリバウンドでフォロー、最終盤に相手のゾーンディフェンスやカットインに手こずり点差を縮められたが危なげなく勝利、新井は3P4本を含む50得点の大活躍、福島も21得点を挙げ面目躍如となった。2回戦は全国初出場を決めた**富田**（岐阜）と対戦。この試合でも新井は3P4本を含む39得点の大活躍を見せるが、B3岐阜スープスに特別指定で入団して得点も決めた岐阜総体MVP**高橋快成**のオールラウンドなプレーや県総体で1試合平均3P6本・この試合も9本決めた**植田碧羽**の長距離砲、セネガル人留学生**サル・モハメドナビ**の豪快なダンクシュートを止められず惜しくも敗れたが途中出場の**土勢雄介**が3P3本・13得点を決めるなど実り多い1日となった。

県総体優勝決定戦で再々延長の末惜しくも全国を逃した**浜松開誠館**は**鷲尾風河**・**奥宮翔太**ともに6本の3Pを決めるなど攻撃的なバスケットで初出場の愛知3位・**豊田大谷**に圧勝、難なく初戦を突破した。続く2回戦は28年ぶりのインハイ出場を決めた三重王者・**津工業**と対戦。一進一退の攻防が続くシーソーゲームで共にリードが広がらず同点のまま最終Qへ突入。浜松開誠館は**須和部陸**のミドル・**杉山真**の3P、津工業は**脇将哉**の連続得点で目まぐるしく展開が入れ替わる中、奥宮が逆転の3Pを決めて逃げ切り初の準決勝進出を決めた。準決勝の相手は全国屈指の強豪・**中部大第一**（愛知）。ブラジル出身・196cmの長身を利してローポストでボールをもらってゴール側の足を軸に素早くターンしてバックシュートを放つ**田中流嘉洲**、鋭いドライブ・正確な3Pが武器の**福田健人**、空中でボールをもらってワンフェイク・ゼロステップを駆使して大きなストライドで左右に相手を揺さぶるユーロステップを切り札とする司令塔・**小田晟**、195cmの長身から高い打点で3Pを放つ**坂本康成**、そして208cmマリ人留学生**アブドゥレイ・トラレオ**の平均身長194.4cmのスタメン人に加え、ナイジェリアからの留学生**アンリケ・ジョージイトド**も200cm、異次元の高さを誇る相手に浜松開誠館も**海野来晟**のミドルや杉山の3P、**鈴木楓大**のインサイドプレーで一時は点差を縮めるが力及ばず、のちに全国制覇を果たすことになる相手に体を張った粘り強いディフェンスで対抗し好勝負を演じた。疲れの残る中で挑んだ**高山西**（岐阜）との3位決定戦ではスタートダッシュで逃げ切りを図る相手を追う展開、ゾーンプレスの応酬から一時は鷲尾の3Pで逆転に成功、その後も激しいトランジションが続くがインサイドの**角竹正多**やマリ人留学生に立て続けにゴール下を決められ万事休す、4位に終わった。しかしながら全国レベルの相手に堂々渡り合ったことは何事にも代えられない「財産」となった。

県総体で浜松開誠館との歴史に残る死闘を制し県王者として臨んだ**飛龍**は高山西と対戦、序盤はオールコートマンツーで相手のミスを誘発するなど優位に試合を運んだが、代わる代わる出場する204cm・**シスコ・ガウス**と203cm・**コネ・ラミネ**を中心とした高さのバスケに大苦戦、必死に留学生相手にマッチアップする**渡邊晴**や果敢に3Pを放つ**山本愛哉**の活躍で2桁差から4点差まで猛追したが最後は相手のストーリングを攻略できず、まさかの初戦敗退となった。

≪**女子**≫　4年ぶりの出場となった**市立沼津**は昨年のウインターでベスト8となり「2年生カルテット」として旋風を巻き起

こした**近藤京・美口まつり・関遥花・伊藤虹歩**が最上級生となった**安城学園**（愛知）と対戦。スタメン平均身長174cmの高さを利したプレーに苦戦を強いられるが、市立沼津はインサイドの防波堤・**望月莉七**が攻守に孤軍奮闘、13リバウンド39得点の大活躍、**遠藤陽向**の連続3Pなど前半1点差リードで折り返すが、後半相手スコアラーの近藤が速攻に3Pに大活躍、一気呵成に攻め切られ逆転を許しその後も必死に追いすがるが逆転には至らず6点差で逃げ切られ白星を逃した。

県総体準優勝・**常葉大常葉**は**名経大高蔵**（愛知県）と対戦、先制点直後に相手がゾーンプレスディフェンスに変えてその対応に苦慮しリズムをつかめずに試合を運ばれる。オフェンスでも**ディクソン・ミッシェル**、**佐藤莉子**を中心としたインサイドプレーに手を焼きなかなか点差が縮まらない。常葉も**伊藤愛梨**のドライブや**植田希歩**の3Pで浮上のきっかけをつかもうとするが高さの壁に予想以上の苦戦、両センターに52得点を許し最後まで主導権を握れず初戦敗退となった。

5度目の県総体王者として臨んだ**浜松開誠館**は昨年ウインターにも出場した**いなべ総合学園**（三重）と初戦で対決。エース**加藤凛**のドライブや3Pの対応に苦慮したものの1度もリードを許すことなく快勝。準決勝では直近10年で全国制覇5回を誇る**岐阜女子**と対戦、序盤から激しい一進一退の攻防を繰り広げ、相手チームの支柱・**古澤青依**のパワープレーを封じながら**萩原加奈**のドライブや3P、**西田妃那**を起点としたローポストの攻めで得点を重ねるが、岐阜女子も185cm・ナイジェリア人留学生**アングア・チカチュウク**が素早いポストアップから得点を奪い続け前半を29-29、互角以上の戦いで折り返す。しかしながら後半岐阜女子が早いパス回しから一気に加勢、司令塔・**藤澤夢叶**のドライブや大怪我から復帰した**清水紫音**のブレイクなど勢いを止められず惜しくも準決勝敗退。激戦から息つく暇もなく臨んだ3位決定戦・**名経大高蔵**との戦いは決勝に勝るとも劣らない白熱した戦いとなった。高蔵が**佐久間琴葉**の立て続けに繰り出す3Pで突き放しを仕掛ければ浜松開誠館は**小幡夕夏**のドライブや3P、**中老小雪**のポストプレーで応酬、逆転を試みるが高蔵の巧みなパスワークやインサイドプレーに翻弄され点差が縮まらず最終Qを迎える。しかしここが勝負、と見極めてゾーンに変えたことが功を奏し逆転に成功し12点差の勝利、岐阜女子・桜花学園に続く価値ある東海の3位に輝いた。

【全国高校総体】　男子：令和3年7月　新潟県長岡市　アオーレ長岡他
女子：令和3年8月　新潟県新潟市　東総合スポーツセンター

インハイ史上初の男女別日程、さらに別都市での開催となった**新潟インターハイ**、昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となったため2年ぶりの開催となった。

≪**男子**≫　東海総体初戦敗退の屈辱を背負って出場した**飛龍**は初戦・**駒大苫小牧**（北海道）と対戦、205cm**ティオウネ・ハバカル**にディフェンスリバウンドを支配され速攻の起点とされる大苦戦を強いられるも点取り屋・**畑尻祐哉**の連続3Pなど5点リードで前半終了。後半以降1度も相手にリードを許さずそのまま逃げ切るかと思われたが、最終盤に相手が怒涛の追い上げを見せ、残り3分でまさかの逆転に遭い万事休すと思った瞬間、エース・山本が放ったシュートが決勝点となり熱戦に終止符を打ち辛くも初戦突破。続く**柴田学園**（青森）はインハイ出場14回を誇る柴田女子が令和元年に男女共学となり名称変更、男子バスケ部は創部3年目で早くもインハイ初出場を果たした新興勢力。飛龍は前日の疲れを見せないはつらつとした戦いぶりを見せ、途中出場してきた相手の**須藤礼暢**が成功率8割を超すシュートを決め反撃のきっかけを与える場面があったが、黒子に徹してアシストを連発した**坂田翔**と初戦に続き26得点を決めた山本の頑張りで快勝。ベスト8を賭けて戦う相手は優勝経験もある**八王子学園八王子**（東京）。強豪相手に得意の留学生対策が功を奏し独走を許さず、205cm**ンジャイ・ムハマドゥ・ムスタファ**の高さや司令塔・**管野希**一得意のジャンプシュート、**神長龍昇**の3Pを必死に封じながら駒大苫小牧戦同様じっと耐えて追いすがる我慢の展開、前半3点ビハインドの折り返し直後、ここぞとばかり山本・畑尻・**庄司空人**の3Pで空中戦を挑み逆転に成功、相手も**半田峻期**の長距離砲などで必死に追い上げるもクロスゲームで勝利を積み重ねてきた飛龍は最後までリード守りきり2点差で勝利、3大会ぶりのベスト8入りを果たした。強豪相手に連戦が続くなか迎えた準々決勝の相手はウインター覇者・言わずと知れた日本の至宝・**八村塁**の母校・**仙台大明成**（宮城）。飛龍は一昨年の前回大会でも2回戦で対戦し苦杯をなめた相手、留学生なし・純国産チームながらスタメン平均身長は脅威の196cm、2mに手が届こうとする選手を4人も抱える超高校級軍団、この試合からラトビアでのU19ワールドカップを終えた199cm・**山﨑一翔**と198cm・**菅野ブルース**が隔離期間を経て合流、2人の不在を必死に守ってきたインサイド198cm**ウィリアムスショーン莉音**・197cm**山崎紀人**、180cm代後半の大型アウトサイド陣・**内藤晴樹**・**丹尾久力**・**佐藤晴**など王者の牙城はあまりにも高く、最終スコアだけ見れば完敗となったが、飛龍もインサイドの渡邊は完全ミスマッチになりながらも体を張って13得点、山本も得意の1on1や3Pで27得点・8リバウンド・7アシストを記録、さすがの明成もこのまま無防備に打たせまいと途中からフェイスガードで守ってきたのが印象的だった。堂々の全国ベスト8、県代表として十分その重責を果たした。

≪**女子**≫　5大会連続出場の**浜松開誠館**は初戦、神奈川王者・**鵠沼**と対戦、昨年ウインター初出場・総体は3年連続の出場となる相手にも終始冷静沈着なチームプレーを見せる。相手キーマンとなる攻守の要・**後藤葉の佳**と力強いミートシュートを立て続けに決める**吉田歩加**に対してもフリーで打たせず常にプレッシャーをかける堅実なディフェンスで相手の持ち味を封じながら得点を重ね、最後は控え選手を投入する余裕の展開で快勝。2回戦は昨年のウインター再戦となる**京都精華学園**とのリベンジマッチ。強豪集う近畿総体で57年ぶりの優勝を果たし波に乗った状態で返り討ちを図る相手に全員一丸バスケで挑んだ戦いは思った以上の大苦戦を強いられ序盤から猛攻に遭い必死に追いすがるも17点のリードを奪われ前半終了。ミートと同時にリングを視野に捉えステップと同時にボールを頭上に引き寄せプルアップジャンパーを打つ**瀬川心暖**、5得点ながらも華麗なノールックビハインドパスで13アシスト・13リバウンドというトリプルダブル目前のプレーを見せたスーパールーキー**堀内桜花**、ドリブルからワンハンドでレイアップ、空いた腕できちんとディフェンスのブロックを忘れないイソジェ、力強い1on1を見せた188cm**ディマロ・ジェシカ**など全国トップレベルの戦力を揃えて襲い掛かる相手に開誠館も動揺を隠しきれず焦りの色も濃く、時間だけが流れていく展開。3P22本を試みるも強引なシュートや早打ちも目立ち、決まったのは3本のみ。相手よりもシュート数は多く果敢に得点を狙うも、決定力を欠きシュート成功率24%、惜しくもリベンジを果たせなかった。その中でも攻守でゴール下に飛び込み、ドライブやリバウンドで体を張って18得点を記録した萩原や10cm以上も高い留学生

相手に必死にリバウンド争いを続けた西田、2試合でチーム一の出場時間を得てチームに貢献した**小谷梨緒**などの活躍は目を見張るものがあり、冬への足掛かりになったはずである。

【東海国体】　令和3年8月　　静岡市　　草薙このはなアリーナ

昨年は鹿児島国体が中止・延期となったため2年ぶりの開催となった東海国体。今年の国体には開催地三重県が全種別予選免除で出場、残りの3県で少年は2枠、成年は1枠の出場権を争うこととなった。

≪**男子**≫　県総体上位の5校から選抜された**少年男子**は初戦・**岐阜県**と対戦。岐阜県は東海総体に出場した富田・高山西・**美濃加茂**を中心としたオール岐阜のチーム編成。インサイドは**伊藤ハリー大河**（浜松学院）と**浦奏太**（美濃加茂）の激しいポジション争いが繰り広げられるもフィジカルの差で伊藤が制し試合を優位に進める。静岡は主将・**田村春人**（飛龍）のドライブや**山内リザク琉衣**（飛龍）の広い視野とエリアから出される多彩なパスで岐阜の追随を許さず快勝、その後愛知が岐阜に圧勝、初日終了時点で静岡は2大会ぶりの本国体出場を決めた。インハイ王者・中部大第一を母体とする**愛知県**との優勝決定戦は開催県・三重が国体中止を政府に要請するという衝撃的なニュースが飛び込む中、両軍とも不安と動揺を隠せず試合が始まる。愛知は**榊原快俐**（中部大第一）のトリッキーなパスを起点に突き放しにかかるが、静岡も必死にこらえる我慢のバスケを展開し勝機を窺う。**赤間賢人**（藤枝明誠）のドライブや田村のバックシュートも決まり前半9点差で折り返す。後半も愛知県の厳しいゾーンディフェンスやインサイドの**カッター勲生**（名古屋）の激しい寄り、攻撃では**玉井心**（愛工大名電）の3Pを中心とした高い攻撃力を攻略出来ず敗れたが、バスケ王国・愛知を相手に予想を上回る好勝負を演じ、堂々の準優勝を果たした。しかしながら8月26日に**三重国体**の中止が正式に決まったことは非常に残念であった。

≪**女子**≫　全選手が高校1年生というフレッシュな陣容で臨んだ**少年女子**は初戦・インハイを制したばかりの**桜花学園**を母体とする**愛知県**と対戦、今年のJr.ウインターで優勝経験もある司令塔・**黒川心音**を中心にインサイドには**松本加恋・山田英真**など170cmを優に超える選手をずらり擁する。静岡も170cmオーバーの**蔀桃菜**（浜松開誠館）・中老・**黛彩良**（浜松市立）で対抗するが、異次元の高さを持つ192cm**福王伶奈**も途中出場、攻略の糸口を掴めないまま敗戦。背水の陣で臨んだインハイ3位・岐阜女子単独の**岐阜県**との戦いは予想以上の接戦となる。静岡は目まぐるしく選手交代を繰り返し、出場する選手すべてが好機を生かしコート上で持ち味を発揮するまたとない試合運び、主将**・望月秋桜**（浜松開誠館）を中心に一丸となったプレーを見せて2点リードで前半を折り返す。後半**高桑利加・佐々木アリシタ那夕**などのインサイドが徐々に力を発揮し劣勢が続くなか**川口青空**（市立沼津）のドライブや遠藤のフェイダウェイなどで応酬するが岐阜も反撃の手を緩めことなく点差が開き始めて10点差の惜敗、2大会連続の本国体出場は叶わなかったが全国一の激戦区で強豪相手に果敢に挑んだ姿に感動を覚えた。

浜松開誠館から西田・萩原・小谷・小幡・**前田理咲子**の5人が選出された**成年女子**は大学生や社会人との混合編成で出場、高校生も交代で出場しそれぞれ有機的に機能し持ち味を発揮、初戦・**岐阜県**にゾーンを効果的に活用して快勝、本国体出場決定戦となった**愛知学泉大学**単独の**愛知県**との戦いは予想以上の接戦となり高校生も出場機会を得て活躍、第4Q途中でリードを奪う絶好の展開となったが、最後は相手のうまさを攻略しきれず惜敗、優勝を逃した。

【国民体育大会】　令和3年10月　　三重県津市　　サオリーナ

新型コロナウイルス感染症のため開催中止　（国スポとして令和17年に開催予定）

令和3年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

令和3年度第35回**東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選**が令和4年1月22日に藤枝明誠高校他で開幕する。昨年度は**新型コロナウイルス感染症（covid-19）**の影響により大会が1 ヶ月間延期されて2月中旬に開幕、決勝リーグ・5位決定形式から3位決定戦も行わない**完全ノックアウト方式**に急遽変更され東海新人も中止となったが、今年度は決勝リーグ・5位決定トーナメントともに行う通常の方式に戻り、22日に1,2回戦、23日にブロック決勝と決勝リーグ初戦・5位決定T、28日に**草薙このはなアリーナ**で決勝リーグ第2戦と5位決定戦、29日に同じく草薙で決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月19日、20日に愛知県豊田市・**スカイホール豊田**で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人に駒を進めるのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

しかしながら、年末に新変異種・**オミクロン株**が出現、年始早々に全国で猛威を振るい始め、一部の県では「**まん延防止等重点措置**」が適用されるなどいよいよ恐れていた**第6波**が始まった。今回の地区予選でも数チームが断腸の思いで棄権を決断、一部の順位決定戦等が中止となり大会運営に支障をきたした地区もあった。静岡県も1月11日に感染状況や医療ひっ迫状況等を表す**国評価レベル**が**レベル2（警戒を強化すべきレベル）**に引き上げられ、感染症対策のより一層の徹底を求められるようにもなった。そのような中で開幕を迎える今大会は**県高体連主催大会実施のためのガイドライン**に則って行われることとなり、1試合110分を確保、高校が会場となる22,23日は無観客開催、草薙このはなアリーナが会場となる29,30日は選手の御家族に限定しての条件付有観客開催となっている。感染拡大する現状を御理解いただき、十分な感染症対策を施した上での皆様の観戦・応援をお願いしたい。また、毎年県高校新人最終日に行われている**県協会U18優秀選手表彰式**は今年度も中止となった。すでに選手選出や理事会の承認は終えており、先日協会HPで発表され後日新聞紙面でも報道される。今年度の高校バスケ主役の雄姿を見る最後のチャンスであったが、こちらもコロナ感染拡大の現状を鑑みて御理解頂ければと思う。

この大会から年末のウインターカップ2021に県内初のアベック出場を果たし、ともに勝利を勝ち取った、浜松開誠館男女が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。最後に月並みな言葉ではあるが、この大会が関係者を含めて一人の感染者も出すことなく予定通り全日程終了することと、コロナの早期収束を心から願ってやまない。

≪追記≫

選手・保護者の願いもむなしく、1月25日に2年連続の**東海新人大会中止**が決定、さらに2月7日には初の**県新人大会中止**までもが決定した。すでに発表された組み合わせやこの大会展望までが「幻」となってしまった。今さらではあるが「コロナが憎い」、この一言に尽きる思いである。

男子

今大会はウインター初出場・初勝利を果たし全国での経験も積んだ浜松開誠館と前年度覇者・大会3連覇を狙う飛龍の2強を中心とした戦いが予想される。

11月のウインター県予選で創部10年目にして初の県制覇を飾り、初出場したウインターカップでは留学生や前年のJr.ウインター大会ベスト5にも選ばれた選手も擁する羽黒（山形）を相手に快勝、続く強豪・八王子学園八王子（東京）戦で惜しくも敗れたものの接戦を演じた**浜松開誠館**を今大会の優勝候補1番手に挙げたい。長年チームを牽引してきた海野・須和部・杉山・鷲尾などは引退したが、主力として実戦経験を積んだ下級生も多く、新チームも戦力がダウンすることなく充実している印象を受ける。

中心となるのは毎回大会展望で未完の大器と謳われながら、ウインター県予選でその大器が見事覚醒、大器晩成した**鈴木楓大**。インサイドを任せられ、今大会参加選手最高身長197cmという恵まれた天賦の体格を生かしたプレーは幅が出てきた。ウインター県予選決勝前、期待も込めて声を掛けたところ普段の柔和な表情から闘志むき出しの表情に変えて一言、「頑張ります」と力強く返してくれたことが印象深い。その言葉通り、決勝ではリバウンドに大活躍、先輩たちのシュート成功につなげるプレーを数多く見せてくれた。持ち前の周りを生かしたポストプレーだけでなく、全国切符獲得後にはU18日本代表候補にも選ばれ、その合宿で外からのドライブも体得、八王子戦では留学生とも互角に渡り合い10リバウンドを記録、今大会は一流の留学生相手にも通用したインサイドプレーを我々にも見せてもらいたい。ウインター全試合スタメン出場しアシストを連発した**奥宮翔太**も新チームの大黒柱、全国大会2試合で12本放った積極的な3Pとスピードに乗ったドライブ、激しいディフェンスが特徴、新チームでも司令塔を任されるであろう。途中出場したウインター 2試合ともに得点を挙げた**上杉亮雅**はどのプレーを取り上げてもパワフルの一語に尽きる。力強いリバウンドとディフェンスが寄ってくる前にためらいなく放つ3Pでチームに勝利を引き寄せる。**清川颯**は昨年この大会で大ブレイク、類まれなバスケセンスとポテンシャルを見せて我々を驚かせた。またウインターにも短時間ながら途中出場、貴重な経験を積んだ。低い姿勢からのドライブは天下一品である。

その他にも、1年生ながらウインター県予選決勝の大舞台でスタメン出場、前半終了直前に放ったスピードあふれる逆転のドライブシュートが印象的、ドライブと見せかけてのジャンプシュートも巧みな**山下朔史**、羽黒戦・最終盤にわずかながら出場機会を得たことが大きな自信につながっている**萩田凌平**、187cmの長身を利したパワープレーを見せる**半場太刀**、ウインターで見事ベンチ入りを果たしコートレベルで全国の試合を体感した**岡山晃大・三輪玲也**など経験豊富な選手と今後の伸びしろが大きい選手が混在した期待感あふれるチームである。昨年創部10年目、苦節10年でつかんだ初の県制覇と全国出場、その座を簡単に渡す訳にはいかない。厚い選手層の中で常に多くの選手を起用しながら人とボールが常に動く素早いオフェンスとチェンジングを繰り返しながら激しくそして粘り強くプレスをかけるディフェンスを毎試合40分間続けられれば初の県新人優勝にも手が届くはず。常勝の女子チームとともに「チーム開誠館」でウインター県予選に続きこの大会でも平成23年度の沼津中央以来10年ぶりのアベック優勝も目指す。

県総体を制しながらもウインター県予選決勝で浜松開誠館の返り討ちに遭い惜しくも全国を逃した**飛龍**は東部新人を危なげなく制し、万難を排してこの大会に挑む。大黒柱の山本や庄司・渡邊などの主力は抜けたが、ウインター県予選でスタメンを務めた下級生が2人残り、新チームはその2人を中心としたチーム構成が予想される。

ワシントンケネスは何と言っても抜群の跳躍力から生まれるリバウンドが魅力。**野田悠峨**は1年生ながらウインター県予選全試合スタメン、3P・ドライブと持ち味を十二分に発揮、ポテンシャルの高さを見せてくれた。キャリアを積んだ2人に絡むのがU16日本代表候補歴もある**田村春人**。東海国体ではキャプテンを務め本国体出場権獲得に多大な貢献をした。ドライブだけでなく連続して決まる3Pにもさらなる成長を感じさせる大器である。司令塔は182cmの3Pシューター**永見純**が務める。昨年のガード陣が山本・坂田ともに160cm台だったことを考えると大幅に大型化したことになる。中盤には器用に3Pも放つ**アダムソン武蔵**、リバウンド支配率が高い**宮田翔矢**、ゴール下には巧みなインサイドプレーを見せる193cm**松野優人**や187cm**植田悠路**などの1年生の起用も予想される。その他にも、ウインター県予選決勝でも起用された**鈴木麗大**、ゲームコントロール能力が光る**渡邊光**、シューターの**植木大夢**、ガードの**阿部光音**、県選抜選手となり東海国体でも活躍した**安藤優太・佐藤柚人・澁木勇気**、そして同じく東海国体でその雄姿を見せて華麗なパスさばき、スピードあるオフェンス、相手に密着したディフェンスの寄りを披露してくれた**山内リザク琉衣**など戦力は浜松開誠館をもしのぐものを持つ。2点差で全国大会を逃した悔しさを胸に刻んで日々ルーズボールを追い続け、ハードワークに励み、執拗以上に激しいディフェンスから速攻につなげる伝統のバスケットを続ける選手たちにとって、賜杯を奪回しての3連覇は至上命令であろう。

この東西の両横綱を追うのが、地区予選を制した西部王者の浜松学院と中部新人で両校同時優勝、ともに初優勝を飾った静岡商業と城南静岡。

浜松学院はウインター県予選準々決勝で静岡学園を下して準決勝進出、準決勝で飛龍に敗れはしたものの最後の最後まで持ち味の粘りを発揮して県3位を勝ち取った。とにかくディフェンスを頑張り、ボールを奪ってから一気呵成に攻めるスタイル、今回西部新人でも決勝で浜松商業の積極的な攻撃を堅守で抑え込み着実に得点を重ねて快勝、2年ぶりの優勝を飾り今回も優勝候補の一角に挙げられる。

チームの中心は東海国体・ウインター県予選でもその迫力を十分に見せてくれた「和製ドンチッチ」**伊藤ハリー大河**。強靭のフィジカルと恵まれた体格を武器にしたゴール下のプレーに加え、速攻にも積極的に加わることで相手により脅威を与える選手である。また対策を講じてきた相手がダブルチーム・トリプルチームを仕掛けてきても冷静にシュートに持ち込むこともフリーの仲間にパスを出すことも出来る知的なプレーヤー、浜松商業戦でも24得点を記録しチームに勝利を呼び寄せた。フリースローも得意とし、極度のプレッシャーがかかる場面でも自身のルーティンで心を落ち着けて確実に決めることが出来る今大会No.1の注目選手である。**渡邊棟介**は小柄ではあるがオフェンスに転じてからのファストブレイクを牽引し確実にレイアップに持ち込むプレーが特色、ドライブにも自信を持つ。1年生ながら県武道館決戦にスタメン出場した**大倉成矢**は身長こそ違えど渡邊とタイプ的には似ているが最大の魅力は3P、浜松商業戦でも3P5本を決める大活躍を見せた。キャプテン・**鈴木隆太**は試合経験も豊富でキャリア抜群、アウトサイドからの突破力が高く、ミドルやレイアップで得点を重ねられるのが魅力。シックスマン・**古田壮真**は試合中効果的な場面で投入されて限られたシュートチャンスを確実にものにできる選手である。インサイドには192cm**大島ジオバニ**、187cm**衛藤巧**、185cm**伊藤匠**などの長身選手を擁する。激しいディフェンスからの速攻、伊藤を中心としたハーフコートバスケ、これらが有機的に機能した時、5年ぶりの優勝が現実味を帯びてくる。

中部王者・**静岡商業**は中部新人準決勝で県総体4位の静岡学園を破り決勝進出、決勝が中止となったため城南静岡と共に中部新人初優勝、前身大会である選抜大会予選兼中部新人までさかのぼれば昭和52年度以来44年ぶりの優勝を飾った。静岡学園戦では粘り強いディフェンスで前半を同点で折り返し第3Qで一気に逆転、最終Qで相手の猛追をしのぎ切って勝利、アップセットを演じた。平均身長が174cmと決して大きくはないがスタメンや交代で出てくる選手を見ると決して小さい選手もいない。バランスの取れたコート上の5人が常に自分たちで戦況を理解して考えながらバスケに専心している様子が感じ取れるチームである。中心は3Pシューター 180cm**岩崎公輔**。類まれなシュートセンスを持ち、ユニフォームからあふれ出る筋肉隆々の両腕から放たれる長距離砲はチームの窮地を何度となく救ってきた。キャプテン・**稲垣陽斗**は心身ともチームの大黒柱、決勝の中止を誰よりも無念に感じ、鍛えられたフィジカルでリバウンドに一所懸命精を出す。その他にも静岡学園戦・勝負所でドライブを2本決めて勝利を手繰り寄せた**落合櫂**一、高いバスケIQで状況を掌握して3Pを放つ**北堀史也**、絶妙なタイミングで合わせを繰り出す縁の下の力持ち・**佐藤瑛士**、キャリア抜群の**山本健・根岸真叶**など中部王者の名に恥じない戦力を誇る。当たり負けしないディフェンス力を構築すべくフィジカル強化に精進した成果が今大会見事に開花、全員でリバウンドに向かい、全員でボールを前に運ぶバスケットでまずは初の決勝リーグ進出を目指したい。そのためにはブロック決勝で予想される沼津中央との戦いが試金石となる。間違いなく熱戦必至となるはずだ。

同じく中部新人覇者・**城南静岡**も平成15年の共学化・創部以来初の地区大会制覇で今大会に臨む。このチームのハイライトは何と言っても中部新人準決勝・藤枝明誠戦。相手は言わずもがな強豪中の強豪、静岡学園を始めとする並みいる中部の挑戦者が何度も何度も地区大会で土俵際まで追い詰めながらもあと一歩及ばず敗戦、辛酸を舐めさせられ続けてきたこの偉大なる「ガリバー」相手に終始試合を優位に進めながらも終盤に明誠の猛追に遭い逆転を許して万事休すと思った残り9.7秒、再度試合をひっくり返しそのまま逃げ切り常勝軍団・藤枝明誠から大金星を勝ち取った。私も会場でその「世紀の瞬間」を目撃したが、終始劣勢だった藤枝明誠がいつかは巻き返して逆転勝ちするのでは、という雰囲気やバイアスが最後の0.1秒まで会場全体に漂うなかで勝利をもぎ取ったことにも一層の価値がある。藤枝明誠はバスケ部の強化を始めた平成18年から出場した中部新人（ウインターに出場したため中部新人免除の年が6回あり）すべて優勝、46連勝、中部総体も含めた中部予選と解釈すれば足掛け16年間負けなし、24連覇、121連勝。これら前人未到の偉業すべてをストップさせるまさに歴史的勝利だった。

チームの主力は城南静岡中学時に東海中学総体にも出場経験がありキャリア十分、万全の戦力で県大会に臨む。粒揃いの選手層を誇る陣営だが敢えてエースを挙げるとすれば藤枝明誠戦で値千金の逆転シュートを決めた187cm**漆畑賢人**。まさにオールラウンダー、3P・インサイド・ドライブと多彩な攻撃力を誇り、1度波に乗ると手が付けられない選手である。**小澤綺羅**は攻守にチームの要となりムードメーカー、鋭いドライブは絶品である。**中野巧登**は184cmの長身を生かした高い位置からの3Pが魅力のシューター、スピードもあり速いトランジションにも機敏に対応するユーティリティープレーヤーである。そして何と言っても藤枝明誠戦の影のMVP**高野翔**を忘れてはいけない。スコアシートの数字に表れないところで泥臭くチームに貢献、リバウンド・ルーズボールの球際はもちろん、鋭く素早く的確な位置に入り込むスクリーンアウトの連続でチームに勝利をもたらした。その他にもアグレッシブにシュートを繰り出す**安藤佑真**、試合中も常に気を利かせてチームのパワーバランスを意識する**小林向日葵**、ディフェンスに活路を見出す**櫻井隆**、そして抜群のバスケセンスを持つサラブレッド・**島田羽流**など今後が楽しみな選手を数多く擁する。まずは勝利を重ね6年ぶりのベスト8を勝ち取り、初の4強入りを確実に勝ち取ってその先を目指す。ブロック決勝で予想される浜松学院との戦いは大会屈指の好カード、「和製ドンチッチ」をどのように攻略するか今から楽しみである。

上記5チームを追かけて、決勝リーグそして東海新人出場を目指すのは東部・西部の準優勝チーム。

東部準優勝の**沼津中央**は充実した戦力で臨んだウインター県予選準々決勝・藤枝明誠戦でまさかの敗戦、ベスト8に終わった。3年間チームを引っ張った新井・福島・吉戸・滝野などが引退、まさにフレッシュな新戦力で今大会を迎えることになった。中心となるのが新司令塔・**土勢雄介**。今年度に入って飛躍的に成長したホープは3Pシューター、スタメン出場した藤枝明誠戦でも2本を決めて成長の証を見せてくれた。昨年からレギュラーを務める**小林慶哉**は相手エースを抑えるディフェンスが光る。中盤からインサイドにかけては長身選手がズラリと並ぶ。力強いプレーが魅力の185cm**金子大和**、3Pやミドルを自在に放つ**岡大翔**の中盤勢、長身を生かしたセンタープレーが持ち味の190cm**木戸口正貴**、国体予備選手にも選ばれリバウンドに精を出す**高橋透生**などのセンター勢などバランスの取れたチーム編成が今チームの特色。他にもドライブからのミドルを得意とする**上原遼人**、鋭いドライブの**鈴木陸**、3Pシューター・**多田夢叶**など控えも充実している。速いトランジションを仕掛けて終始しつこいディフェンスを継続すれば上位進出も見えてくるはず、対戦が予想される浜松工業、静岡商業という公立の伝統校を倒しての決勝リーグ進出を目指す。

西部準優勝の**浜松商業**は西部新人決勝・浜松学院戦では相手エース・伊藤ハリーをなりふり構わず激しいディフェンスでプレスをかけ、オフェンスも果敢に攻撃の糸口を探るも効果的な突破口を掴めず惜しくも敗れたが、古豪復活を強く印象付ける戦いを見せてくれた。ガード陣を中心にドライブで切り込み、無理にカットインせずアウトレットパスを繰り返しながら相手ディフェンスを崩していくバスケが特色、県総体終了直後に新チームに移行しチームの完成度は高く、円熟期に差し掛かっている。エース・**長屋聖那**はディフェンスのわずかなズレを見逃さずに正確にドライブするスコアラー。**中野蒼**はディフェンスを抜ききれなくても半ば強引にシュートに持ち込み決め切ることが出来る選手。**小島凱斗**は仲間が作ったスペースを見逃さず積極的に飛び込むチャンスメーカー。インサイドの**田澤響介・新保航太**は共に果敢にドライブし自らシュートを狙いながらも広い視野を駆使して空いている味方へパスを出すオフェンスの要となっている。

他にも**上乗翔真・国本大翔・佐藤空・佐藤大地**などがスタメンをサポートし「いざ鎌倉」に備えて来たるべき出番を待っている。粘り強いディフェンスとバリエーション豊かな攻撃でまずは準優勝した平成16年度以来17年ぶりの4強入りを狙う。そのためにはブロック決勝で予想される王者・浜松開誠館の牙城を何としてでも崩さなければならない。

その他にも、西部新人3位決定戦・浜松西戦では相手キーマンを徹底的に狙った激しいディフェンスで勝利、選手自身が状況に応じて今すべきプレーを選択できるチーム、スピード感あるドリブルが魅力の**鈴木弥真斗**、バックコートから1人でレイアップに持ち込む力を持つ**疋田凛**、初速から一気に加速するドライブが魅力の**辻大楽**などを擁する**浜松工業**、ウインター県予選ベスト8・アウトサイドからドライブを狙いながらも3Pを打つこともできる長身のオールラウンダー・**平野太基**や積極的に1on1を仕掛ける突破力を持つ**藤田琥珀**、難しい角度からもディフェンスの壁をすり抜けてレイアップを狙う**佐々木大河**などの戦力を擁する**浜松西**、同じくウインター県予選ベスト8・エースのビッグマン187cm**鈴木聖也**やウインター県予選で先輩に交じりながらもスタメン出場を果たした**望月興誠**、スペースを見つけてペネトレイトしてのレイアップを放つ**森口海輝**などフレッシュな面々を中心に東部新人3位を勝ち取った**加藤学園**などが虎視眈々と決勝リーグ進出、そして東海新人出場を狙う。

そして忘れてはいけないのが、それぞれ中部の3,4位に甘んじた藤枝明誠と静岡学園。

ウインター県予選3位・**藤枝明誠**は中部新人準決勝で城南静岡に1点差で敗れ16年ぶりに中部予選で黒星を喫したため、今回の県大会は16年ぶりに4隅以外からのスタートとなる。東海国体でも大活躍・シュート力があり得点感覚に優れた**赤間賢人**、3Pシューター**霜越洸太朗**、鋭いドライブと堅いディフェンスが特徴の**仲田創太**、キャリア抜群の**西村星汰**、スピードあるインサイド193cm**和太駿治**、そしてキャプテンとしてチームをまとめ速い展開を演出する**谷俊太朗**などをライバル勢と比べても引けを取らない戦力を誇る。機動力を重視してしっかり守りしっかり走る展開に持ち込めば3年ぶりの優勝を夢ではない。まずは2回戦で予想される加藤学園戦に勝って飛龍への挑戦権を得たい。

静岡学園も中部新人準決勝で静岡商業に不覚を取り、続く3位決定戦でも藤枝明誠に敗れ中部4位で今大会に臨む。リバウンダー・**川村真育**、東海国体でオールマイティーなプレーを見せた**鎌田優芯**の他にも**関緑羽・増田瑛慈・渋谷尚汰・若杉大悟・石川凛久**など十分上位を狙える戦力を抱える。2回戦で対戦する浜松商業にはウインター県予選・2点差で勝利を収めている。当時は3年生を含めた戦力なので単純比較はできないが、今回も勝利をもぎ取り浜松開誠館との戦いに持ち込みたい。

最後に今大会は男女とも初出場チームはないが、男女通じて一番のロングスパンを経て出場するのが**松崎**。「最後の一枠」東部11位決定戦を制して平成8年度以来25年ぶりの県新人出場を決めた。スピードあるドライブと素早く相手コースに入り込み受けるディフェンスを得意とする**稲葉健太**、どんな相手にも物おじしない強気のディフェンスが持ち味の**端山泰**、試合や相手の状況への対応力を生かしたプレーでチームの安定感を導き出す**石原滉太**、そして惚れ惚れする跳躍力から繰り出すリバウンドが持ち味の**ワシントンマーロン**が中心選手。4半世紀を経ての出場、組み合わせ的には非常に厳しいところに入ったが、全力で中部王者に立ち向かって欲しい。

上記以外の注目選手として、**小澤一晴・黒田雅**（下田）、**和田拓真・長澤紀忠**（韮山）、**戸塚雅弥・木代拓人・山本翔己・竹本陽登**（伊豆中央）、**ピアスリンカーン・ソルバヤルアナンダ・バゴチャイジェラード**（加藤学園暁秀）、**山本陸・櫻井環・川口翔蓮・清水陽和太**（三島北）、**白井響己・石川真裕・藤井航紀**（三島南）、**田中凱大・渡邊吾留・佐野柊也・谷村遥斗**（星陵）、**齋藤瑠已・杉山優希・原佑・山口永遠・小永井陽樹**（清水東）、**岡本康佑・良知鈴大・望月優作・福地海**（静岡東）、**白鳥達也・福地達斗・岡元気**（静岡城北）、**細野歩・青木悠凱・牧野修也・山下遼大**（静岡大成）、**山田夏生・山本烈輝・中村脩人**（焼津中央）、**ブイクオツクフォック・戸塚湧斗**（小笠）、**渡部博熙・鈴木遥・羽田龍聖**（常葉大菊川）、**山田和輝・浅井翔久**（袋井商業）、**上野真輝・鈴木幸太朗・渡辺颯翔**（浜松湖東）、**オベデンシアオサム・鈴木謙信・鈴木一織**（浜松江之島）、**茂津目優希・田内智也**（浜名）などを挙げたい。

女子

今大会も現在県内大会16連覇、106連勝中、まさに無敵の強さを誇り王者に君臨する浜松開誠館が今年も頭一つも二つも抜けている感がある。

浜松開誠館は昨年のウインター県予選で大会6連覇、7度目の出場となったウインターでは三田松聖（兵庫）に快勝して4年連続の初戦突破、この試合ではベンチ入り選手全員が出場、全員が檜舞台のコートに立ってプレーしたという意義は引退した3年生にとってもチームを受け継いだ下級生にとっても何事にも代えられないものとなった。続く岡豊戦（高知）、前日とうって変わってこの日は思うようにシュートが入らず中盤まで苦戦したが終盤はペースを取り戻し終わってみれば16点差の快勝、この日は男子も全国大会初出場初勝利、県勢初の全国大会アベック勝利を飾ったメモリアルデーでもあった。ベスト8を賭けた3回戦は前回大会準優勝・東京成徳大学、前半7点ビハインドと必死に全国トップレベルの強豪に食い下がり一時は4点差まで詰め寄るも相手のシステマティックな守備を最後まで崩し切れず、流れを自軍に引き寄せられないまま惜しくも敗退、5年ぶりの準々決勝進出を逃した。しかしながら3試合を通して多くの下級生が活躍、経験値を上げて県新人に臨むこととなり新チームも楽しみが尽きない。

大黒柱は前年からエースとしてチームを牽引する**萩原加奈**。この選手のことはすでにすべてを書き尽くした感もあるがウインター本戦・県予選を見させてもらって改めて感じるのは凄い選手の1語に尽きる。県予選決勝で28得点、東京成徳戦でもチーム総得点の約半分となる22得点を挙げるなど得点力に関しては天才としか言いようがない稀代の点取り屋、ドライブ、ジャンパ、3Pなど多彩な攻撃を独特のリズムで繰り出して相手を翻弄させる。各チームが必死に研究し相手のマークが厳しくなっても、内外角の選手にパスを散らすなど周りを生かすプレーを覚えたことにより、一層自分のプレーにも新境地を見出せるようになってきた。そのような発想の転換を行ってチームの底上げにつなげていく、まさに開誠館バスケの申し子である。インサイドでチームを支える前田と中老も全国の舞台で実力を存分に披露した。大会最高身長178cm**前田理咲子**が圧巻だったのが10リバウンド19得点のダブルダブルを達成した岡豊戦、第1Q・中老からの相手頭上を通る速いパスをペイントエリアで受けた瞬間、相手選手4人が一気に前田を取り囲むクアトロチームを仕掛けてきたがディフェンスとの身長差を生かしボールを下げることなく高い位置から落ち着いてジャンプシュートを決めたシーンはまだ消極さが見え隠れした前回大会とは見違えるものだった。パスだけに頼ることなく、自分が決めなければという責任感が出てきた証（あかし）、今までも見せてきた堅実なリバウンドとポストプレーに加え、持ち前の脚力を生かして速攻にも加わり、時には3Pも放つなどプレーの引き出しが多い選手である。同じく178cm**中老小雪**もチームの高さを厚くした1人、ウインターでも大活躍した。彼女のハイライトもチーム最多の20得点を決めた岡豊戦、前日はよく決まっていたチームの3Pが落ち出して「外では苦戦」と見るや、前田とのツインタワーでインサイドに入り込みゴール下のシュートを連発、相手のファウルも誘発してフリースローを確実に決めるなど「中

での勝負」に徹する試合巧者ぶりを見せてくれた。元来ゴール下から3Pまでシュートレンジが幅広く、攻守においてダイナミックなプレーでチームを鼓舞する選手、まだ末恐ろしい1年生、さらなる飛躍を期待したい。昨年から不動のレギュラーを続ける**小谷梨緒**も新チームの中心選手、粘り強いディフェンスと3P、そしてドライブからのジャンプシュートが武器、東海総体・東海国体・ウインターとキャリアを積み重ねた成果を見せてくれるであろう。

そしてこのウインターで才能が一気に開花したのが全試合にスタメン出場したスーパー 1年生・**望月秋桜**。全国大会初スタメンとなった三田松聖戦、スタメン全員が下級生、全国大会の初戦という独特の雰囲気が漂う駒沢体育館、コート上の全員が極度の緊張で思うようなプレーが出来ない中、相手ディフェンスに追い詰められて難しい体勢になりながらも積極的にシュートを放ち3P4本を含む18得点を記録、得点で貢献しただけでなくチームの雰囲気や張り詰めた緊張感をほぐす役割も果たし勝利へとつなげていった。中学時代は主にパスさばきに徹し、受けたボールをポストプレーに結びつけるプレーが目立ったが、積極的に自分でゴールを狙うようになりプレーが一皮むけた感がある。東海国体で主将を務めたことも自信をつけた一因になっているのだろう。その他にも、ウインター 2試合に途中出場、鋭いドライブと高確率で決まる3Pが魅力の**小幡夕夏**、ポストプレーを中心に得点を重ねる**安田百亜**、ウインター県予選決勝でスタメン出場、相手の隙をついてのペネトレーションや状況判断に応じてのアシストパスを得意とする**今井杏**、3P・ドライブ・ポストプレーなど器用にこなすオールラウンダー173cm**部桃菜**、度胸満点に放たれる高確率の3Pを武器とする**黒川芽衣**、鋭角に切れるドライブが魅力・**福田翠生**、171cm・堅実なポストプレーや献身的なリバウンドでチームを支える**和泉利來**など層の厚さはもはや全国トップレベル。ウインターで全国の強豪と熱戦を繰り広げたスタメン全員がそのまま新チームに残っていることも他チームにとってはさらなる脅威、全国で見せた戦いぶりを県内でも存分に披露してくれるだろう。常勝・無敵と言われるたびに勝って兜の緒を締めて大会に臨む王者、練習に裏打ちされた脚力を使って粘り強いディフェンスを徹底し、当たり負けせず球際の争いを制してゴールを目指すバスケットを展開し続けている限り、6連覇への死角は全く見当たらない。

東海新人出場そして打倒・浜松開誠館を狙うのは各地区優勝チーム、東部・市立沼津、中部・静岡東、西部・浜松学院の地区王者が中心となる。

ウインター県予選3位・東部新人覇者の**市立沼津**は、チームを支え続けた鈴木・望月が引退したが、経験を多く積んだ下級生が中心となる新チームも戦力的に楽しみである。東部新人決勝では勢いに乗る相手に苦戦の連続、劣勢が続いたが高さを生かしたプレーで何とか延長戦に持ち込み一進一退が続く中、辛くも1点差で勝利を掴んだ。ウインター県予選準決勝では接戦を落として涙を飲んだだけに値千金の勝利となった。

中心は入学時からスタメンで活躍、東海国体も県選抜として勝利に貢献した遠藤と川口。**遠藤陽向**は素晴らしいバスケセンスを持つ惚れ惚れする選手、ボール運びやパスワークも巧みで片目でマークマンを見て、もう一方の目で空きスペースを探しているのではないかと思うプレーを随所に見せる。味方を使って裏パスを出しシュートを導き出すプレーも醍醐味である。鋭いドライブが魅力の**川口青空**はフィジカルが強く、体の軸がぶれない。リバウンド・ルーズボールなど球際の泥臭いプレーに汗をかくところも好感が持てる。その他にも同じく県選抜・リバウンダー・171cm**小山内悠桜**、ドライブからのジャンプシュートを繰り出す**遠藤有菜**、正確なパスを繰り出す一**藤木楓**、174cm・チーム1の長身を生かしたリバウンドやボックスアウトで貢献する**横山文音**、3Pシューター**秋山叶羽・合澤小菊**など1年生を中心とした若いチームながらも十分上位を狙える戦力が揃う。互いのポジショニングを意識しながら1on1で守り切るディフェンスを徹底し、パスランを駆使して相手との間に生じるズレやミスマッチを見逃さず攻めるオフェンスで4年ぶりの東海新人出場、そして13年ぶりの優勝を目指す。

中部王者・**静岡東**は中部新人決勝で前年度覇者・県武道館進出を賭けたウインター県予選4回戦で対戦し敗れた駿河総合を接戦の末見事な逆転劇で破り初優勝を果たした。第4Qで見せた一気呵成の攻め、そして終了直前まで続いた相手の猛攻をしのぎ切った守りを見る限り非常に総合力の高いチームである。

中心は抜群のキャプテンシーでチームを統率、試合中積極的に声を出し常にフロアバランスを意識しながら適切な指示を出すキャプテン・**小澤美結**。攻撃ではエルボー位置からのシュートを高確率で決め、ディフェンスは相手へ寄る位置・角度・タイミングを意識している。東海国体にも出場したスコアラー・**中村日愛里**は決勝でも3P3本を決め勝利に貢献した。インサイドを任せられている**小泉凛音**は確実に決めるゴール下や時折放つ3Pが魅力。そして何と言っても**青木詩**の頑張りをここで評価させていただきたい。スクリーンアウト、オフボール時のスクリーン、飛び込みのリバウンド、ルーズボールへの執着、すべてに対して必死にひたむきに取り組む姿勢が印象的、決勝戦では3P4本を決める大活躍、この選手の働きがチームに優勝を呼び寄せたと言っても過言ではない。その他、**池田遥華・原田美涼・藤田彩花・岡野友香**など控えの層も厚い。今回同様県総体でも外枠からのスタートとなったがブロック決勝で浜松学院に敗れ決勝リーグ進出を逃した。その悔しさを糧に今回はブロック決勝で予想される沼津商業との戦いを制し決勝リーグ進出、そして初の東海新人出場を手にしたい。

2年ぶりに西部新人を制した**浜松学院**は昨秋のウインター県予選で3位になった時のスタメンがそのまま残る強力な布陣で今大会を迎える。

エースは県総体やウインター県予選でも大活躍、今年度の県協会U18優秀選手にも選ばれた169cm**足立琉那**。3P・ドライブ・1on1・リバウンド・パス回し、すべてに攻守の要となるオールラウンダー、ウインター県予選・浜松開誠館戦では3P4本を含む24得点、チームの約4割に当たる得点を稼ぎだした。そしてもう1人のエースはインサイドに構える170cm**竹下涼**。飽くなき向上心を持ったプレーヤー、長身を生かした高い位置から放たれる精度の高いシュートを武器にするスコアラー、特にオフェンス時はインサイドにステイせず積極的に外にも飛び出すなどイン・アウトどちらからでも点を取れるのが強みである。その他にも、怪我から完全復活し持ち前の高速オフェンスでブレイクを量産する**松浦千夏**、ドライブと3Pで攻撃を組み立てる**伊藤風音**、竹下と共にゴール下の要となる**名倉桜那**、司令塔としてゲームをコントロールする**石川乃愛**、正確な3Pとリバ

ウンド支配が信条の**鈴木愛名華**など入学時から経験値を積み重ねた能力の高い選手が揃う。トランジションゲームを想定して鍛え抜かれた走り負けない強固な足腰を武器に、徹底的にディフェンスを頑張り、高さを生かしながら速攻でも遅攻でも点が取れるオフェンスで2年ぶりの東海新人出場、そして6年ぶりの優勝を狙う。

上記チームを追いかけるのが地区新人準優勝チーム、沼津商業・駿河総合・浜松市立。

沼津商業は東部新人決勝・市立沼津戦、東部予選では10年間黒星がない強豪相手に前半粘り強いディフェンスで好機を窺いオフェンスに繋げていくイメージ通りの展開に持ち込みながらも、後半相手の高さを生かした1on1に苦しみオーバータイムに持ち込まれ1点差での惜敗、悔やんでも悔やみきれない敗戦となったが、持ち前の全員バスケは健在、指導者との信頼関係も厚く、さらにステップアップしそうなチームである。スピードを生かしたドライブからの1on1が魅力、味方を巧みに使ってアシストも連発する**青柳奈旺**、柔軟な身体を使って見せる力強いプレーが持ち味の**三浦みずき**、攻守の要として常に勝利への貪欲さを忘れないチームの精神的支柱・**遠藤若夏**、県総体・浜松聖星戦で途中出場してシュートを決めたシーンが印象深い**安井暖々花**などが中心選手。決して身長は高くないが運動量で必死にカバー、長身が揃う相手に対しても徹底的に鍛えられて粘り強いディフェンスから攻撃に繋げるバスケットで2年連続阻まれているブロック決勝突破を目指す。そのためには対戦が予想される中部王者・静岡東との公立高校対決を制することが必須条件となる。

中部準優勝・ウインター県予選ベスト8の**駿河総合**は中部決勝で終始リードを奪いながらも終盤逆転されて連覇を逃した。しかしながら最終盤に見せた怒涛の反撃は目を見張るものがあり、そして何よりも徹底的に指導されて鍛えられたことが一目でわかる独特なゾーンディフェンスが予想以上に機能し、準決勝・決勝ともに相手は相当対応に苦慮しており、特に初見のチームはどこも必ず苦戦するはずである。エースは3Pシューター・小さな巨人157cm**鈴木優菜**。決勝戦でも3P4本を含む22得点。崩れた体勢で、また3Pラインの1m後ろからも果敢に3Pを打って決め切る能力を持ち、軌道を確認しながら飛び込みのリバウンドにも入る。自分で無理だと判断した場合はパスを散らし、インサイドに切れ込んで再度シュートチャンスを待つ。中盤の**保坂七菜**はドライブを得意とするがシュートコースにディフェンスが追いつくと判断するや瞬時に鈴木に合わせのパスを出して得点を演出する技巧派。インサイドの168cm**見崎穂香**・169cm**廣田愛奈**、中盤の**青木妃奈乃**を中心に少数精鋭で県新人に臨む。2日で4試合戦う過密スケジュールを鍛えられたタフネスで戦い抜きたい。

西部準優勝・ウインター県予選ベスト8の**浜松市立**も今大会27年ぶりの東海新人出場を目指す。昨年県新人で3位となるも、東海新人が中止となったため東海新人出場の夢を果たすことが出来なかった。萩原・川合の抜けた穴は決して小さくはないが、一丸となった全員バスケで大会に臨む。試合中終始走り続けてもスピードが落ちない無尽蔵のスタミナを誇る**鈴木彩花**、素早い対応からの激しいディフェンスと鋭いドライブが持ち味のキャプテン・**原田沙波**、東海国体にも出場・ゴール下ではボールを下に降ろさず膝を使っての跳躍力でより高い打点でシュートを放つ県内最高身長178cm**黛彩良**、同じく171cmのインサイド・**柴朱花**、そしてウインター県予選準々決勝・緊張するなかでの途中出場、3本連続のフリースローそして3P2本を決めるなど新チームへの光明を見せてくれた**杉浦心蓮**を中心に、持ち前の高さをゴール下で生かしながらディフェンスを基盤とした従来の粘り強いバスケットを展開してブロック決勝で予想される市立沼津との戦いに勝利を収めたい。

最後に大会の「台風の目」となりうる3チームを簡単に紹介したい。

西部3位・**浜松聖星**は新チームで挑んだウインター県予選準々決勝で常葉大常葉に7点差で敗れたものの大善戦、交代で出てくる選手の能力も遜色なくチームの質が落ちない層の厚さが最大の武器。中心選手は、ゴール下を主戦場とするスコアラー・**鈴木泉美**、ドライブ・3Pを多用する**立脇里菜**、県選抜選手の**大滝菜々子**・**土谷陽菜**、特に大滝は常葉戦21得点、第4Qだけで13点を取る離れ業を披露した。その他にも**小幡美月**・**内山瑚子**・**鈴木奏音**・**山下菜々美**など多彩な戦力で上位進出を狙う。

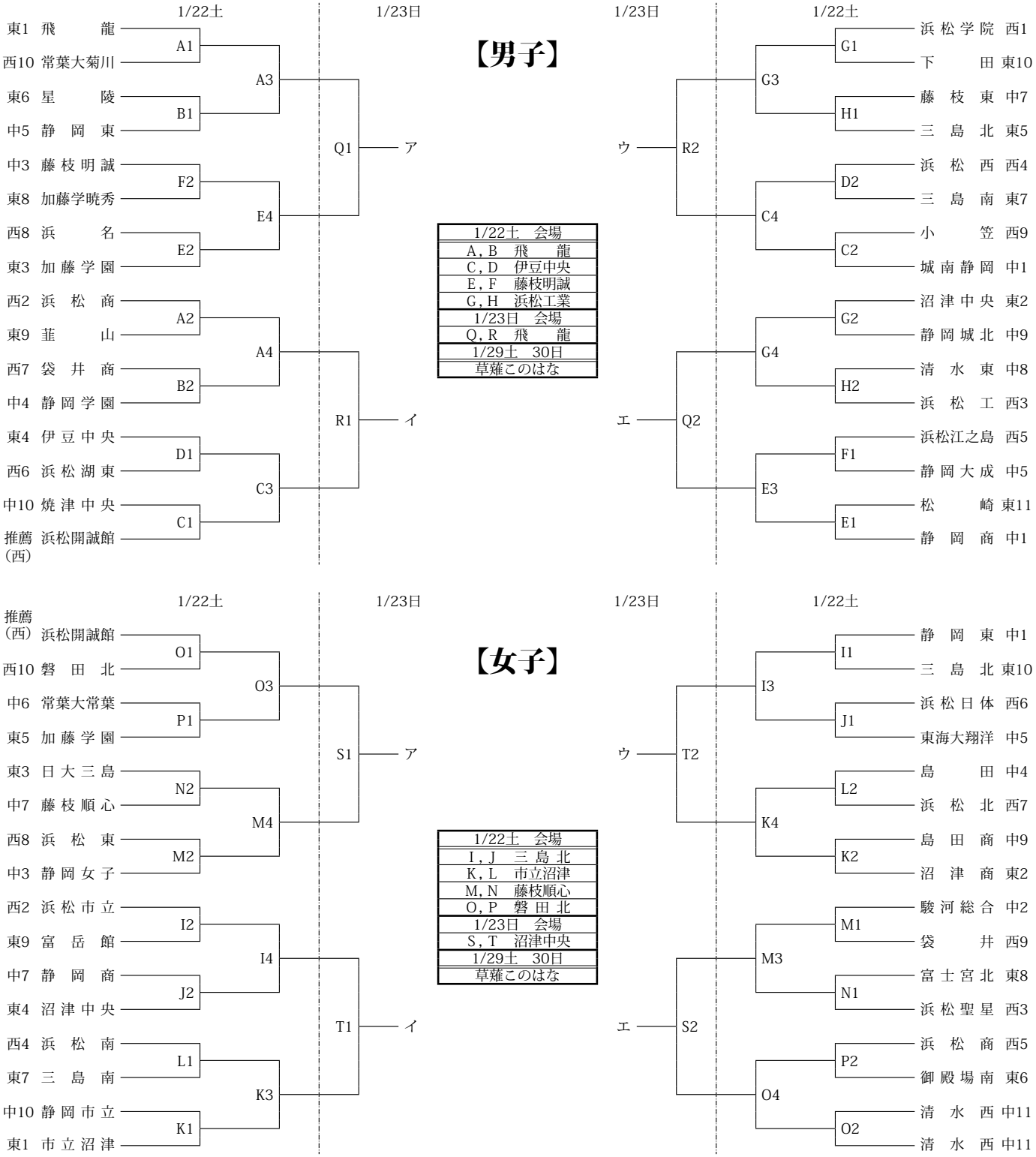
中部7位・**藤枝順心**もウインター県予選8強の実力は健在。不断の努力でレギュラーを掴んだ3Pシューター**山本百音**・**谷川果梨**、173cmの長身を生かしたい**松林亜美**、ウインター県予選準々決勝で途中出場して貴重な経験を積んだ**加藤咲空**・**石部希歩**など興味深い選手が揃う戦力、初戦から東部3位と対戦する厳しい組み合わせだがブロック決勝まで勝ち上がる可能性は十分ある。

そしてウインター県予選準優勝・大会最多13回の優勝を誇る**常葉大常葉**に言及せずにこの展望は終われない。中部新人では静岡女子・東海大静岡翔洋にまさかの連敗、6位という衝撃の結果に終わった。選手たちはしくじたる思いを抱いて背水の陣で今大会に臨むはずだ。伊藤・植田・市川という主力が退くなか、スピードあふれるドライブとしぶといディフェンスが特色の三**瀬未来**を中心に、ウインター県予選決勝にも途中出場して得意のジャンプシュートを披露した長身173cm**鈴木爽**、同じく途中出場してカットインの非凡さを見せた**海野希帆**、3Pシューター・**山田楓**、リバウンドを頑張る**佐野実咲**など予選順位以上の戦力を持つことは言うまでもない。初戦に勝てば浜松開誠館と対戦、ウインター県予選決勝の再現カードが初日から実現することになる。どのチームにとってもこの位置に常葉がいることは不気味な存在であることは間違いない。

今回久しぶりに西部の磐周地区から2校が出場権を得た。**磐田北**が10年ぶり、**袋井**が17年ぶりの出場となる。土地柄比較的サッカーやバレーボール、ラグビーが盛んな地域で一時は「バスケット不毛の地」と呼ばれたこともあったが、地域をあげての粘り強い普及や裾野拡大の結果、地域全体が徐々に盛り上がり、選手の頑張りも相まってチーム力が強化、県大会出場を果たした。袋井は**小林菜緒**・**阿部夕実**・**新村日和**、磐田北は**杉本蒼波**・**名倉杏梨**などの主力を中心に久々に晴れ舞台に臨む。

上記以外の注目選手として、**勝間田咲良・伊與田優花**（御殿場南）、**永田ひかり・田代有花**（三島北）、**森田真帆・高木唯来・小野寺風花**（三島南）、**佐藤花梨・齊藤涼・芹澤煌・吉田七海**（日大三島）、**木村光玖・ワシントンジュリ・菊地咲帆**（加藤学園）、**後藤みずき・大嶽咲夢・野村美綾・森彩由美**（沼津中央）、**大久保乃綾・諸星澪・望月和夏**（富士宮北）、**望月小雪**（富岳館）、**中濱結・小川千遥・穴水柚衣**（清水西）、**池ヶ谷美妃・船山穏香・森菜々子・遠藤すず**（東海大静岡翔洋）、**川合心・川村美愛・森天澄・山田梨央奈**（静岡女子）、**柴菜摘・池上柚葉**（静岡商業）、**志田美桜・仲安未来**（静岡市立）、**杉山月子・鈴木彩夏・川村亜利沙・黒宮陽葉利**（島田）、**加藤小雪・深澤七海希・北川加恋**（島田商業）、**今村仁子・森嶋愛佳・鳥居花帆・岡本笑依・佐藤美帆**（浜松南）、**伊藤春那・鈴木佐和・長谷川未於・田原侑良**（浜松商業）、**大手穂花・伊藤柊里・鈴木咲**（浜松東）、**瀧本かのん・澤柳千智・池野舞香**（浜松北）、**板倉七海・玉川希・鈴木深生**（浜松日体）などを挙げたい。

令和３年度 県高校新人兼東海新人県予選 組み合わせ



地区大会終了組み合わせ決定後に「中止」となった令和3年度県高校新人大会
「幻の組み合わせ表」（令和4年1月）

令和4年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

令和4年度第70回全国高校総体静岡県予選が令和4年5月21日に浜松西高校他で開幕する。今年1月に予定されていた県新人大会は組み合わせ発表直後に延期のアナウンスがあり、再延期を経て最終的に中止、今回の県総体は待ちに待った半年ぶりの県大会となる。出場校数は男女各32校で変わらないが、日程が若干変更された。通常4日間だった日程を5日間に増やし、疲労がピークに差し掛かる大会2日目、従来はブロック決勝と決勝リーグ初戦を同日に行っていたが、選手の健康面を考慮し別々の日に設定、初日以外はすべて1試合ずつとなった。その代わり、大会自体は足掛け16日間の長丁場となる。レギュレーションは当初今年度から決勝リーグ制を廃止し、3位・5位決定戦を実施するトーナメント制にする予定であったが、県新人・東海新人が中止となり実戦経験が圧倒的に不足している現状を踏まえ、**今年までは決勝リーグを実施、来年度以降はトーナメント制に移行**することとなった。従って、22日に**雄踏総合体育館**で行われる**ブロック決勝**を制した4校による**決勝リーグ**と**5位決定トーナメント**が29日から始まり、6月4,5日には**エコパアリーナ**にて残りのリーグ戦と**5位決定戦**が行われ、優勝校が7月27日から愛媛県高松市**・高松市総合体育館**他で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月18,19日に愛知県**・いちい信金アリーナ（一宮市総合体育館）**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。

一昨年は**新型コロナウイルス感染症**の影響ですべての高校総体が中止となったが、昨年から続いて2年連続**コロナ禍での開催**となる。**ウィズコロナ**という言葉が一般的になって久しいが、言葉だけが先歩きし内容が伴わない日々が続いているのが現状である。今冬急速に襲ってきた**第6派**と**変異種オミクロン株**、今までにない感染力の速さに驚かされ、多くの方々が感染または**濃厚接触者**となり、社会生活にも大きく支障をきたしてきたが、**まん延防止等重点措置**の適用などが功を奏し、今年度になって第6波の収束の兆しが見えてきた。しかしながら新型コロナウイルスの拡大状況は決して落ち着いたとは言えないのが現状で、地区予選でも各地区コロナ関連で棄権をするチームが相次いだことは痛恨の極みであった。また大型連休明けからどの都道府県も感染者数が再び右肩上がりの傾向を見せ、さらなる置き換わりの**変異株**も次々出現し本格的に**第7波**に突入していくのではという危惧も芽生えている。さらには3回目の**ワクチン接種**も若年者層にも進み始める一方で**副反応**に苦しむ選手も多いと聞く。日々の体調管理を今まで以上に注意していくとともに、感染症対策をきちんと行って大会に臨むことが求められる。

今年度も例年同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末の**ウインターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が**増枠**となる。そのためにも各県はより強いチームを東海総体に送り込み、ウインターカップの追加出場枠を獲得する使命も担っていると言えるだろう。さらにこの大会は**全日本選手権（オールジャパン）県予選**の出場選考も兼ねており、上位2チームは8月に静岡県バスケの聖地・**静岡県武道館**で行われる県代表決定トーナメント大会の出場権を獲得することはご承知の通りだが、8月に愛知県名古屋市で今年度から開催される「**日清食品U18東海ブロックリーグ**」への出場義務も負うこととなる。このリーグ戦は今年度新設だが、関東ブロックはすでに昨年度プレ大会と称して試行実施、熱戦が繰り広げられた。強豪ひしめく東海ブロック、その証拠に昨年のインハイ男女優勝チームはともに東海ブロックの愛知県。貴重な経験値を積むとともに激戦区・東海における自チームの立ち位置を測るには絶好の大会である。残念ながら今年の県総体も初日の1,2回戦は**原則無観客開催**、2日目のブロック決勝以降は人数の上限を定めながら保護者の入場・観戦を認めることとなった。引き続きさまざまな制約が伴い、皆様にはご迷惑・ご不便をおかけすることとなるが選手・スタッフの健康、そして安全な環境での大会開催を最優先に考えてのことと御理解いただき、ご協力を願いたい。

今回も大会展望を執筆するにあたり十分な資料と時間が確保出来なかったことや県新人が中止になったことなども踏まえ、例年のような形での大会展望を書き上げることが難しく、非常に頭を悩ませたが、チームの特色や個々の選手のプレー・テクニックに関しては今年の県新人のために書いた展望をベースにしながら可能な範囲で観察・情報収集した内容を加味し、優勝候補順に挙げていくスタイルではなく、各ブロック別に注目チームや好カード等を取り上げるオーソドックスなスタイルでまとめることにした。今回もいたるところで皆様に御迷惑をお掛けすると思うが、拙筆ながら展望執筆の趣旨と一部無観客試合となり試合を見たくても見られない方々に少しでもチームや選手の様子や特徴を文面で伝えたい、選手にも夢と希望を与えたい、という切なる想いを御理解いただければと思う。

地区予選では多くのチームが感染症の影響で棄権を余儀なくされた。未だに収束を見ない敵との戦いはまだまだ続くが、この大会では棄権チームを出すことなく無事全日程終了すること、全チームが全力を出し切ること、そして新型コロナ感染症の早期収束を心から願ってやまない。

男子

昨年は優勝決定戦で飛龍が歴史に残るトリプルオーバータイムの末、浜松開誠館を破り優勝を手にしたが、続くウインター県予選では浜松開誠館がリベンジを果たし初の全国大会出場を果たした。県新人が中止となったことや今回地区予選の棄権も

相次いだことなどで、チームの状態や新戦力などが不明確な部分もあるが、ここでは4ブロックに分けて大会を展望させていただきたい。

まずは左上のブロック、4連覇中の飛龍を中心とした争いになるだろう。

第1シードの**飛龍**は県内随一とも言われる厚い戦力を誇り、ドライブやリバウンドでチームに貢献する**田村春人**を中心に、昨年のウインター県予選で大ブレイク、抜群の跳躍力を生かしてリバウンドやゴール下で八面六臂の活躍を見せた**ワシントンケネス**、スピードあふれる躍動感が魅力の**アダムソン武蔵**、リバウンダー・**宮田翔矢**、稀代の点取り屋・**野田悠峨**、長身194cm**松野優人**、堅いディフェンス力を誇るポイントガード・**阿部光音**、フォワードポジションで内外の橋渡しを務める**中村飛鳥**、シューター**中原春翔・植木大夢**、新戦力の**竹村勇祐・小川優乃丞**など挙げればきりのない厚い選手層である。全国を狙うチームとしてはサイズ的に苦しい面もあるが必死にルーズボールやリバウンドなど球際に執念を見せる全員バスケットで5連覇を狙う。

このブロックでは1回戦から大会屈指の好カードが実現する。「**静岡学園**―**三島北**」、この両チームは過去何度も県大会2回戦からブロック決勝にかけて対戦し死闘を演じてきた。
公立の雄・**三島北**は東部総体でツートップの私学勢に続く堂々の3位、3位決定戦でも星陵を圧倒する強さを見せた。エース・**山本陸**と器用な長身選手・188cm**櫻井環**を中心に4年ぶりのブロック決勝進出を狙っており、そのためにも絶対に負けられない戦いとなる。
静岡学園は県総体3大会連続4強入り、3大大会でも現在14回連続8強以上をキープし続ける、言わずと知れた強豪校。中部総体では決勝T初戦を棄権した関係で9位決定Tにまわり、さらに体調不良で主力の一部を欠く苦しい戦力であったが接戦をものにし見事3連勝、9位を勝ち取った。初戦から非常に厳しい相手との戦う組み合わせとなったが、抜群の跳躍力を生かしたリバウンドでチームを支える**河村真育**、ウインター県予選・準々決勝でもスタメン出場して自信をつけた**大串泰雅**、3Pシューター・**渋谷尚汰**、ドライブが鋭い**関緑羽**を中心とした万全の戦力で是が非でも勝利をつかみたい。

他にも、**鈴木幸太朗・青島史未也**など大型選手を多く抱える西部3位・**浜松湖東**や昨年7位・ウインター県予選でもベスト8を堅持、恵まれた体格を生かしたパワープレーに磨きがかかった鈴木聖也を中心とした**加藤学園**など上位を狙える戦力を持つチームが揃う。

その他の注目選手として、**植田悠路・佐藤柚人**（飛龍）、**平野春輝・山田夏生**（焼津中央）、**オベデンシアオサム・鈴木一織・鈴木謙信**（浜松江之島）、**望月興誠・森口海輝**（加藤学園）、**上野真輝・渡辺颯翔**（浜松湖東）、**川口翔蓮・清水陽和太**（三島北）、**鎌田優芯・望月泰輝・増田英慈・若杉大悟**（静岡学園）などを挙げたい。

左下のブロックには東部総体決勝で飛龍に1点差まで迫ったが惜敗・東部2位で6年ぶりの賜杯奪還を狙う沼津中央に公立の強豪校が挑む展開が予想される。

沼津中央はトランジションの速さと徹底された粘り強いディフェンスが特色、飛龍戦でもサイズで劣る分、個々の1on1では相手を翻弄する場面が多く見られた。エースの司令塔・**土勢雄介**はどんな苦しい場面でも顔色一つ変えず淡々と正確な3Pを放つポーカーフェイスの大黒柱。相手エースを抑えるディフェンスを誇る**小林慶哉**、3P・ミドルと多彩なシュートを放つ**富岡大翔**、ドライブで点を稼ぐ**尾崎太陽**、力強いプレーが魅力の**金子大和**などの戦力で強豪校を迎え撃つ。

西部総体決勝で浜松工業に惜敗したもの、粘り強いディフェンスとバリエーション豊かな攻撃が魅力の**浜松商業**が第4シードに入った。シュートチェックされた後のドライブへの切り替えも上手な3Pシューター・**長屋聖那**、崩れた体勢からも強引にシュートを決められる**中野蒼**、チャンスメーカー・**小島凱斗**、オフェンスの要であるインサイドプレーヤー**田澤響介・新保航太**など粒ぞろいの戦力で10年ぶりの決勝リーグ出場を狙う。そのためにはブロック決勝で対戦が予想される沼津中央戦はもちろんだが、2回戦で対戦可能性がある浜松西も油断できない相手である。

その**浜松西**は西部総体準々決勝で優勝した浜松工業に2点差で敗れたが、強靭なフィジカルを持ち、ボールミートからのドライブが誰よりも素早い**平野太基**を軸としたバスケットで残りの2試合に勝利を収め5位で県総体に臨む。2回戦で予想される浜松商業との浜松対決が見ものである。

静岡商業も侮れない。今回の中部総体は4位であったが、冬の中部新人では44年ぶりの優勝、内外で攻撃の起点となる**岩崎公輔**、泥臭いプレーに汗を流す**稲垣陽斗**、3Pを得意とするスコアラー・**北堀史也**などを中心に全員でリバウンド、全員でボールを前に運ぶバスケットを見せてくれるだろう。

そして今大会男女を通じて唯一の初出場校・**常葉大橘**にも注目したい。県新人は昭和63年に1度だけ出場、初戦・韮山に3点差の逆転負けで涙を飲んだ記録が残るが今回中部7位で県総体初出場。相手は西部5位・浜松西、格上相手にも臆することなく全力でぶつかって県大会初勝利を目指す。

その他にも、**高橋透生・上原遼人**（沼津中央）、**渡部博熙・鈴木遥**（常葉大菊川）、**秋田颯斗・和田拓真・長澤紀忠**（韮山）、

落合權一・佐藤瑛士・小杉琢磨（静岡商業）、**藤田琥珀・佐々木大河**（浜松西）、**片瀬怜央・片瀬悟央**（常葉大橘）、**光林伊織**（日大三島）、**上乗翔真・国本大翔**（浜松商業）を注目選手に挙げたい。

右上のブロックにも実力ある公立高校が集まった感がある中で、昨年準優勝の浜松開誠館がノーシードで今大会に臨むのが最大の見どころと言える。

浜松工業は西部総体悲願の初優勝、第2シードとしてまずは初の決勝リーグ出場を狙う。強いフィジカルを生かしたプレーでチームを支える大黒柱・**鈴木弥真斗**、広い視野と類まれなパスセンスを持つ攻撃型のポイントガード・**疋田凛**、無尽蔵の体力で攻守のバランスに優れたチームの安定剤となる**江間愛斗**、豊富な運動量で相手のガードを苦しめるチーム随一のディフェンダー・**山中遼平**、そして高い身体能力でインサイドを支えるチームのムードメーカー**辻大楽**など激戦区・西部を制しただけの厚い戦力が揃う。

浜松工業が初戦を勝ち上れば、「浜松開誠館－静岡」戦の勝者と戦うこととなる。

浜松開誠館はウインター県予選で悲願の初優勝を果たした強豪、今回西部総体を途中棄権し7位で出場となったが、優勝候補の一角であることは紛れもない事実である。未完の大器が多くの実践を積み重ねて大きく成長、いつか日の丸を背負うような選手になれるだけの素質を持つ逸材197cm**鈴木楓大**、3Pを積極果敢に狙う**奥宮翔太**、鋭いドライブが持ち味・惚れ惚れするバスケセンスを放つ**清川颯**、ドライブに対応された時でも機転の利いた判断ができる**山下遡史**など全国を経験したキャリアのある面々で激しいディフェンスからブレイクで得点を重ねる開誠館スタイルが発揮できれば悲願の初優勝も現実味を帯びてくる。強いて不安材料を挙げるとすれば、今年になって公式戦をまだ1試合しかこなしていないことではあるが、そこは百戦錬磨の兵（つわもの）が揃うチーム、すぐに実践感覚を取り戻し順応していくことだろう。
浜松開誠館と初戦で戦う**静岡**にも注目したい。中部総体では優勝した藤枝明誠に敗れたのみの6勝1敗、決勝Tでは静岡大成、清水東という県新人出場権獲得チームを次々倒し堂々 5位で県総体へ。バランスの揃った戦力が特徴、エース・**神保蓮**は鋭いドライブと正確な3Pが持ち味、合わせを使って仲間のシュートを導き出すクレバーなバスケットを見せる。司令塔・**鈴木義宗**はまさにつなぎ屋、シュートエリアの高い位置から3P・ドライブと見せかけて巧みなノールックパスを繰り出す職人、もちろんドライブ・3Pも操れる曲者でもある。そしてなんといってもチーム躍進の立役者はインサイドを任される**楊岩**。元来ガード選手であるが劇的に身長が伸び、チーム事情もあり現在は中をこなしているが、3P・ドライブ・ゴール下・パスまわし・ポストプレー、すべてを器用にこなすオールラウンダー。驚くべきことにまだ2年生、将来が非常に楽しみな選手である。

中部総体準優勝の**静岡東**は、準決勝で中部新人覇者の城南静岡に競り勝ち底力を見せた。得点源の**岡本康佑**は常にフロアバランスを意識しながらコートを動き回り、頭に描く得点パターンと現状を瞬時に考慮しながら最善の策をチームに伝えられる知的なプレーヤー、他にも**良知鈴大・望月大雅・真鍋慈・稲葉司**など多くの選手が入れ替わり立ち代わりコートに登場、出てくる選手のレベルが全く落ちないのもチームの特徴、ディフェンスも状況によって効果的にゾーンとマンツーを使い分ける多彩さ、攻・走・守にバランスの取れた好チームでまずは8年ぶりのブロック決勝を目指す。

その他に、**麓亮太・増井悠人**（静岡）、**望月優作・田中秀太・菊池陽晴・荒木智哉**（静岡東）、**高松稜・中江悠陽・菅谷優斗**（藤枝東）、**ピアスリンカーン・國松彰一**（加藤学園暁秀）、**上杉亮雅・半場太刀・岡山晃大**（浜松開誠館）、**山田和輝・浅井翔久・加藤進太朗・岡本隼**（袋井商業）、**小澤一晴・黒田雅**（下田）などを注目選手に挙げたい。

右下のブロックには私学の強豪チームが多く集まる中で、全国総体出場19回を数える浜松学院もノーシードで出場するところに注目したい。

第3シード・**藤枝明誠**は中部新人で城南静岡に敗れた悔しさをバネに練習に一層精進、見事中部総体16連覇を飾った。中部総体決勝・第1Qだけで3P3本を含む15得点、目を見張るほどの始動の早さで相手の戦意を削いで意気消沈させる**赤間賢人**が得点源、抜群のキャプテンシーを見せて数字に表れない貢献度が高い**上野幸太**、速い展開を作り出すドライブの達人・**谷俊太朗**、長身193cm**和太駿治**などバランスの取れた戦力が揃う。すでにナイジェリアからの留学生も入学しており来日を待つばかり、県総体に出場するかは微妙だが、間に合うようであれば鬼に金棒、年ぶりのインハイ出場、そして8年ぶりの優勝を狙う。

その藤枝明誠を中部新人で破る大金星を挙げた**城南静岡**もこのブロック、今大会優勝候補の一角と目される。度胸満点のシュートが魅力のエース・**漆畑賢人**、引き出しの多い多彩な攻撃を見せる**小澤綺羅**、長いウイングスパンを生かしたインサイドプレーだけでなくアウトサイドから吸い込まれるような3Pも放つ**中野巧登**、広い肩幅を利してゴール下で味方のパスを待つ**高野翔**などの現有戦力に加え、昨年併設中学校で全中にも出場した新入生も加わりさらに戦力がアップしたことは朗報である。まずは創部以来初のブロック決勝進出を目標とし、決勝リーグの舞台にも立ちたい。

ウインター県予選3位・西部新人覇者の浜松学院は何といっても「和製ドンチッチ」**伊藤ハリー大河**が大黒柱。丸太棒のように鍛えられた太い腕から繰り出されるシュートは圧巻、ゴール下では常に相手ディフェンスを席巻し、自分のプレーを自由自在に引き出す。彼がゴール下に存在するだけで相当なプレッシャーとなる。また、緊張する場面でのフリースローも与えられた時間内で気持ちを落ち着け確実に決めきる力をもち、まさに今大会No.1の注目選手である。他にも、巧みなレイアップが魅力の**渡邊棟介**、長身192cm**大島ジオバニ**、ドライブから得点を生み出す**鈴木隆太・大倉成矢**など戦力も充実している。チー

ムは西部総体途中で棄権し7位、苦しい位置からの県総体スタートとなるが伊藤を有機的に生かした粘り強い全員バスケでノーシードから一気に5年ぶりのインハイ出場を狙う。そのためには勝ち上がれば2回戦で対戦が予想される城南静岡を攻略しなければならない。

東部4位の**星陵**と5位・**伊豆中央**も同ブロック、特に伊豆中央は大型選手が揃うだけに楽しみな存在である。

その他の注目選手として、**島田羽流・小林向日葵・高松天成・塩坂優斗**（城南静岡）、**齋藤瑠已、原佑・山口永遠・栗田嘉門**（清水東）、**仲田創太・小澤朋樹・櫻井一気**（藤枝明誠）、**市川天都・森川湧斗**（浜松湖北）、**木下結斗・塩﨑拓海**（浜松聖星）、**戸塚雅弥・木代拓人・山本翔己・竹本陽登**（伊豆中央）、**田中凱大・渡邊吾留・佐野柊也・谷村遥斗**（星陵）を挙げたい。

今大会は地区予選で有力チームの途中棄権などが出て、内枠・外枠だけでなく、各ブロックの中側にも強豪が入っているのが特徴。一方で実力派チームが各ブロックに散らばり、いわゆる死のブロックというものは見当たらないが、各地区の上位チームはどこも実力を兼ね備えるチーム、それだけに1回戦から白熱した戦いが予想される。言い換えればどこのチームにも決勝リーグ進出、東海総体出場、そして優勝・インハイ出場のチャンスがあるともいえる。近年稀に見る激戦となること必至である。

女子

こちらは現在県内高校大会16連覇、110連勝中、6年以上無双の強さを続ける浜松開誠館が今年も頭1つも2つも抜けている感がある。しかしながら各地区の上位校が独走を許すまいと追撃し、まずは東海総体、そして県総体優勝・全国総体出場を目指す構図が予想される。

左上のブロックはその**浜松開誠館**が第1シードとなり、8チーム中4チームが県総体優勝を経験、強豪・古豪・新鋭がひしめき合うブロックとなった。

浜松開誠館は県新人・東海新人が中止となり4月29日の西遠女子戦が5 ヶ月ぶりの公式戦、新チームの初陣となったが、圧倒的な強さで勝ち上がり危なげなく西部総体を制した。
天性の点取り屋・**萩原加奈**が繰り出す多彩なバリエーションの攻撃を柱に、粘り強いディフェンスからリズミカルに展開される正確な3Pやジャンプシュートが得意な**小谷梨緒**、昨冬のウインターで才能が開花、華麗なパスワークだけでなく自ら積極的に得点に絡むようになった**望月秋桜**、今まで以上にキャリアを重ね熟練したプレーが目立つようになった**小幡夕夏**、相手の虚を突くペネトレーションからシュートに持ち込む**今井杏**などのアウトサイド・中盤位置の盤石さはもちろん、県内最高身長178cm**前田理咲子・中老小雪**、3Pやドライブを器用にこなす173cm・**蔀桃奈**の高さに加え、昨年の全中やJr.ウインターでも大活躍、1on1の仕掛けに抜群のポテンシャルを見せた176cm**後藤音羽**も加わり今まで以上にペイントエリアでの脅威が増した。特徴であるチェンジングを織り交ぜた粘り強いディフェンスでゴールを死守し、ブレイクで得点につなげるバスケットを展開している限りは6連覇への死角は全く見当たらない。チームは目先の勝利だけでなく、長期的なビジョンでその先にあるものを見据えているように思われる。まさに部活内でも学校全体で取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）の礎がしっかりと根付いている感がある。

決勝リーグ進出を賭けて浜松開誠館と対戦するのは、順当に勝ち上がれば西部総体3位・浜松市立か東部総体3位・沼津商業が予想される。

昨年5位・**浜松市立**はインサイドの長身178cm**黛彩良**やトップからのドライブでディフェンスを崩し、周りを生かすことが出来る**鈴木彩花**に加えて、ディフェンスの状況を見ながらドライブから冷静にミドルシュートを選択できるようになった**松下心**の成長が好材料、大型センターを据えながらも、アウトサイドの攻撃力が増した感がある。

沼津商業もグッドパスでアシストを連発する**青柳奈旺**、攻守の柱・**遠藤若菜**、力強いプレーが持ち味の**三浦みずき**を中心とした一丸バスケで初の県総体ベスト8を狙う。

他にも、昨年6位・7大会連続県総体8強を堅持する**藤枝順心**、3年前に見事3位で東海総体にも出場した**島田**などの実力派チームだけでなく、中部総体最後の1枠争いでエース・**小田眞鈴**を中心としたバスケで勝利、12年ぶりに県総体出場を果たした**静岡大成**など話題性のあるチームが揃う楽しみなブロックである。

その他に、**黒川芽衣・福田翠生・安田百亜・和泉利來**（浜松開誠館）、**松永茉夕・杉山彩樹**（静岡大成）、**杉山月子・鈴木彩夏・川村亜利沙・太田奏夢**（島田）、**後藤みずき・大嶽咲夢・野村美綾・森彩由美**（沼津中央）、**原田沙波・杉浦心蓮**（浜松市立）、**松林亜美・谷川果梨・鈴木麻琴・石田希茉里・高橋結季菜**（藤枝順心）、**志田美桜・花村凛**（静岡市立）、**安井暖々花・中村ひなた**（沼津商業）などを注目選手に挙げたい。

左下のブロックは西部と中部の準優勝校・浜松学院、駿河総合を浜松南・浜松聖星が猛追する展開が予想される。

昨年4位・ウインター県予選3位・好成績を続ける浜松学院はその時の主力メンバーが多く残るアドバンテージを持つ。**名倉桜那**は以前にも増してプレーが力強くなり、ディフェンスに阻まれてもシュートを打ち切る技術が身についた。**竹下涼・足立琉那**はともに長身選手ながらアウトサイドシュートも会得し、これまでのインサイドプレーと合わせて幅が広がった感がある。長身選手も含めた全員がどこからでもゴールに向かう意識を持ち、パス回しからディフェンスのズレを作り出すバスケが終始展開できれば前回最後の最後で逃した東海総体出場も現実味を帯びてくる。

駿河総合は3Pシューターの小さな巨人**鈴木優菜**が放つ「天下の宝刀」長距離砲が生命線、中部総体決勝でも3P5本を決める健在ぶりを発揮した。鈴木だけでなく**見崎穂乃香**も3Pが劇的に上達、対戦チームは早めのシュートチェックを心掛けることが絶対条件となる。またいぶし銀・**保坂七菜**はここぞという場面での得点が目立つようになった。どの選手も相手の出方によってシュート・ドライブを瞬時に判断できる得点感覚に優れた選手を多く抱え、内外から得点出来るオフェンスと効果的に用いる独特のゾーンでまずは4強入りと4年ぶりの東海総体出場を目指す。

西部総体4位・**浜松南**は苦しい時でもキャプテンとしてチームを鼓舞し攻撃の起点となる**今村仁子**、力強いドライブ突破からシュートまで持ち込む強さを持つ**鳥居花帆**、オフェンスをコントロールしながらディフェンスの隙を作り出し、自らのシュートチャンスも逃さない**忠内清**を中心としたスクリーンアウトやルーズボールなどの球際に強く、基本に忠実なチームである。

浜松聖星も西部総体で浜松南に惜敗したものの、経験値・能力・チームワークどれをとってもトップレベルの選手が集い、高い個々の能力を基に得点を重ねるチーム。**大滝菜々子**は非常に高いオフェンス能力を持ち、巧みにディフェンスを抜いていくドライブを止めるのは至難の業、**内山瑚子**は場所を問わずミドルでもアウトサイドでもシュートを狙える攻撃力を持つ。

その他に、**廣田愛奈・青木妃奈乃・松永紗波**（駿河総合）、**二村優衣・佐野満里奈・織田愛加**（飛龍）、**柴菜摘・牧田伊織・前田殊伽**（静岡商業）、**森嶋愛佳・岡本笑依・佐藤美帆**（浜松南）、**鈴木泉美・土谷陽菜・小幡美月・立脇里菜**（浜松聖星）、**望月小雪**（富岳館）、**小川千遥・大瀧陽向・望月悠理**（清水西）、**松浦千夏・伊藤風音・石川乃愛**（浜松学院）などを注目選手に挙げたい。

右上のブロックは、第3シード・中部王者の東海大静岡翔洋中心の戦いになるであろうが、各チームの実力が伯仲しており混戦模様、まさに群雄割拠のブロックと言える。

東海大静岡翔洋は中部総体決勝で駿河総合相手に接戦をものにし見事初優勝、4年前に初のインハイ出場を果たした時は中部5位での出場だっただけに5年ぶりの全国・東海が見据えられる位置からのスタートとなった。**池ヶ谷美妃・木村友美**を中心とした基本的にドライブ主体のチームではあるが、インサイドを起点に内外から得点できることが魅力、**藤根晴菜**がタイムリーに放つ3Pやディフェンスをギリギリまで引き付けて対面への絶妙な合わせなども持つバランスの取れた技巧派チーム、今大会台風の目となるだろう。

東海大静岡翔洋の対抗馬となるのが東部総体準優勝・**日大三島**。**佐藤花梨・齊藤涼**のWエースが円熟期を迎え、東部総体準決勝でも沼津商業を2点差で振り切り決勝に進出、今大会ではブロック決勝や決勝リーグも見える所まで来た。そのためにも2回戦で予想される静岡東との戦いが試金石の一戦となる。

その**静岡東**は中部新人を制し、第1シードで臨んだ中部総体、終盤で連敗、4位で県総体に挑むが、**中村日愛里・青木詩**を中心とした一気呵成の爆発的な攻撃力、**小澤美結**がコート内で適切に指示、時に叱咤激励しながら終始一貫して見せる堅いディフェンスは上位でも十分通じるものであり、まずは2年連続のブロック決勝進出に目標を定める。

初戦の注目カードとして「**三島南―浜松日体**」を推したい。
三島南は大会を重ねるたびに順位を上げて県大会に出場、今回は東部5位、13年ぶりの県総体勝利も見えてきた。**森田真帆・高木唯来・小野寺風花**を中心にゴール下への激しいドライブもいとわないバスケが魅力である。
対する**浜松日体**はウインター県予選4回戦で後に中部新人を制する静岡東を土俵際まで追い詰めた印象が強い。152cmの小柄ながらコート狭しと走り回り得点を量産する**板倉七海**、1on1のドライブを得意としつつ速攻の時には先頭を走る事が出来るガード・**鈴木深生**、スピードに乗ったドリブルでゴールに向かう**宮本千華**など県総体初勝利を狙える布陣、最後まで接戦になることは間違いないだろう。

その他に、**遠藤すず・伊妻佐笑・船山穏香**（東海大静岡翔洋）、**鈴木久・小林菜緒**（袋井）、**勝間田咲良・伊與田優花**（御殿場南）、**吉川瑞希・原田美涼・山本寧々**（静岡東）、**嶋野菜々美・太田珠梨**（浜松湖東）、**芹澤煌・吉田七海**（日大三島）を注目選手に挙げたい。

右下ブロックで1歩リードしているのは危なげなく東部総体15連覇を飾った市立沼津だが、同ブロックには中部3位の静岡女子、昨年準優勝の常葉大常葉など地力のあるチームが揃い、気が抜けない激しいしのぎ合いが予想される。

市立沼津は東部総体決勝でも新興勢力・日大三島を圧倒、昨年の県総体・ウインター県予選ともに3位と安定した成績が続いている。昨年も浜松開誠館に肉薄した戦いを演じており、打倒・浜松開誠館の一番に挙げたい。主力にキャリアを積んだ下級生が多く、昨年からの伸びしろも楽しみである。ドライブや巧みな裏パスが持ち味・広い視野でオフボール時も常に動き回る**遠藤陽向**、鍛えられたフィジカルで身体にぶれが生じない**川口青空**、長身のリバウンダー・**小山内悠桜**、ドライブからジャンプシュートを繰り出す**遠藤有菜**、正確なパスが信条・**一藤木楓**など恵まれた戦力で9年ぶりの優勝、6年ぶりの全国総体出場を目指す。唯一の気がかりは2回戦で対戦可能性がある常葉大常葉との相性。昨年の県新人・県総体・ウインター県予選で対戦、すべて惜敗ながら3連敗を喫している。市立沼津にとってはブロック決勝・決勝リーグの前に2回戦が大きな山場になるかもしれない。

中部総体3位の**静岡女子**は準決勝で駿河総合に敗れたものの3位決定戦で静岡東に快勝し、インハイに出場した平成23年以来の決勝リーグ出場が見える位置に来た。実際私も静岡東戦を観戦したが、プレッシャーをかけられる前に早めに放つシュートがことごとく入り、ディフェンスもボールマンに素早く寄り、プレスやディナイを試みて相手の突破口を封じる完成されたバスケットを見て、正直強い、という印象が残った。内外そつなくこなすエース・**川村美愛**と3Pシューター・**本間梨乃**が攻撃の中心であるが、どの選手も積極的にゴールを狙ってくるので対戦チームにとっては油断できない時間が続くだろう。

中部総体5位ながら、昨年の県総体・ウインター県予選準優勝チーム・**常葉大常葉**も同ブロック。入学時からレギュラーを堅守、鋭いドライブからゴール下に切れ込み得点を量産する司令塔・**三瀬未来**を中心に、代々脈々と受け継がれる伝統のステイローを徹底したディフェンスで相手の攻撃の糸口を封じ、ブレイクで得点を重ねるパターンを確立できれば今年も最終日にエコパのコートに立っている可能性も十分にある。

その他に、**片岡あやめ・大竹伶奈**（沼津西）、**森天澄・大谷紗耶香・山田梨央奈**（静岡女子）、**大手穂花・一ツ渡真桜・鈴木咲**（浜松東）、**伊藤春那・鈴木佐和・長谷川未於・田原侑良**（浜松商業）、**木村光玖・ワシントンジュリ・菊地咲帆**（加藤学園）、**佐野美咲・山田楓・伊藤亜莉沙・森輝月・植田柚希**（常葉大常葉）、**瀧本かのん・澤柳千智・池野舞香**（浜松北）を注目選手に挙げたい。

今大会も浜松開誠館を中心とした優勝争いになることは間違いないが、総当たりの決勝リーグに進出すれば実力だけでなく当日のコンディション・心理状態・対戦順・相性・他チームの動向・得失点差などさまざまな要素が絡み合ってくる。新人戦をコロナに奪われた悔しい思いと、この日まで続けてきた努力の成果をこの大会で悔いなく発揮してくれることを心から願う。

ウインターカップ2022静岡県予選 大会展望
【県協会HP掲載・ブロック別版】

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第75回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2022）静岡県予選が令和4年10月22日に開幕する。11月13日に**静岡県武道館**で行われる決勝戦の勝者が12月23日から**東京体育館**他で行われる**全国選手権大会**への出場権を獲得する。残念ながら今年も**新型コロナウイルス感染症**の猛威に振り回され続けた1年となり、3年連続コロナ禍での開催となる。7月に日本を襲ったいわゆる**第7波**は過去最大の感染者数と死者数を数え、1日の感染者数が全国では10万人、静岡県でも7千人を超す日があり、学校や部活内でも多くの感染者や**濃厚接触者**が出て練習もままならない日々が長く続いた。そのような状況下でも過去2年で培った感染症対策のノウハウを十分に生かしながらインターハイ、今年から始まった『**日清食品U18リーグ**』、3年ぶりとなる**国体**も開催されて、さらには県内でもリーグ戦も始まり、感染症と共存しながら大会を開催する**ウィズコロナ**が一層定着したように思える。もちろん感染症を撲滅させるのが1番良いのだが、現実的には難しい現状の中で、**ゼロコロナ**を目指しながら細心の注意を払って大会を運営していくスタイルを理解していただき運営側・指導者・選手・保護者が一丸となって大会を盛り上げてもらいたいと思う。

コロナ禍開催3年目の今大会、初戦は他地区対戦を原則とし、人数制限を設けながら高校会場も有観客開催とするなど少しずつコロナ前に近づきつつあるレギュレーションではあるが、試合間隔を十分に確保、ハーフタイムのアップ禁止をしての**完全総入れ替え制**にするなど徹底した感染症対策も忘れていない。油断をすれば瞬く間に再感染・再流行の恐れがある目に見えない敵に対して、大会にかかわる全員が危機感を持って大会に臨む姿勢が伝わってくる。

全国大会出場枠に関しては、従来インハイ優勝・準優勝の「チーム」に与えられていたウインター出場権とシード権が昨年からそのまま「当該都道府県」に与えられることになり、例外なく全チームが少なくとも予選の準々決勝からは出場を義務付けられた。加えて例年通り、ブロック総体優勝県に1枠増枠、開催地枠を加えた計60チームとなる。会場は聖地・東京体育館をメインに、プロレス・ボクシングなど格闘技会場としても親しまれている**大田区総合体育館**が初めて使用される。全国を賭けた「秋の風物詩」静岡県高校バスケ最高峰の戦い､その栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

今年は静岡第一テレビの編集協力のもと、『**ウインターカップ県予選特集号 ＤＲＩＶＥ**』が刊行されることになった。特集雑誌の発行は7年ぶり、オールカラーで初のまるごとウインターカップ特集、県総体に出場した男女全64チームを網羅、多くの注目選手がピックアップされている。私も僭越ながら巻頭の大会展望を寄稿させていただくという身に余る光栄な重責を担わせていただいた。DRIVE誌には限られた誌面の中で優勝候補順に書き上げる従来のスタイルで執筆させていただいたが、今回はインハイ予選でも試みたブロック別に書き上げる形を取らせていただいた。紙幅も十分あるので、また違った角度から大会を分析できることに喜びを感じている。

男子

全体を総括して書けば、夏のインハイで並みいる強豪を撃破し全国3位に輝いた藤枝明誠が大本命であることには変わりないが、同じく県総体の4強の浜松開誠館・飛龍・浜松商業、5位決定Tを勝ち抜いた浜松学院も手をこまねいて藤枝明誠の独走を傍観しているとは思えない。各チームがこの全国トップレベルの強豪にどのような対策を講じてくるか、そして藤枝明誠がその包囲網を突破できるかが最大の関心事である。

左上のブロックは、第1シードの藤枝明誠が圧倒的な強さを誇ることは言うまでもないが、県総体7位･第8シードの静岡東、中部新人で藤枝明誠に黒星を付けた城南静岡、オールラウンダー・**楊岩**を擁する**静岡**など楽しみなチームが多いのも特色である。

藤枝明誠は県総体で試合を重ねるたびにチームの調子が上昇、決勝リーグでは完全な仕上がり具合を見せて対戦チームを圧倒、7大会ぶりの優勝を飾った。東海総体では高山西の留学生を起点とした高さのバスケにまさかの初戦敗退を喫したが、その敗戦要因を個々が冷静に分析してインハイに臨み、北陸学院・仙台大明成・北陸という名だたる強豪校を次々破る旋風を起こし、優勝した福岡第一には惜敗したものの相手のお株を奪う堅守速攻で完成度の高いバスケを披露、3位を勝ち取った。続くU18東海リーグ、天皇杯県予選も立て続けに制覇し国士無双の強さを披露した。
県総体後にナイジェリアからの留学生205cm**ボヌロードプリンスチノンソ**がチームに合流、異次元の高さを生かしながらも献身的に味方にパスをさばくなど技巧派の面も垣間見える。私もプレーを見させてもらったが、バスケットセンスは今まで県内で活躍した留学生と比べてもナンバーワンと断言できる。あとはマークが厳しくなった時や相手が必要以上にコンタクトプレーをしてきた時、または自分の基準と異なった笛が鳴った時にもナーバスにならず平常心でいられるメンタルが整えば期

待以上の選手に成長することは間違いない。留学生の加入により、ゴール下を任されていた**上野幸太**が定位置の中盤に戻り、飛び込みのリバウンドや3Pに持ち味を発揮し始めたのは大きい。他にもインハイ5試合で27本の3Pを決めて「月バス」誌の大会ベスト5にも選ばれた**霜越洸太朗**や2年生ながらチームの中心として得点を重ねるスコアラー・**赤間賢人**、巧みなドライブで速い展開を導くスピードバスケの申し子・**谷俊太朗**、192cmの長身を利してリバウンド争いに精を出す**和太駿治**、輝かしいキャリアをプレーに生かし始めた**西村星汰**、栃木国体に出場した**野田凌吾**など他の追随を許さないほどの厚い戦力を有する。インハイ後には**目下部二郎**監督が勇退して総監督となり、**金本鷹**コーチが新監督に就任、経験豊富な青年監督のもと3年ぶりの優勝を目指す。

静岡東は夏の強化試合などは若い力の新チームで調整しながらも、県総体8強入りの立役者・**岡本康佑**と**菊池陽晴**の3年生がリーグ戦から合流、**福地海・稲葉司・望月大雅・荒木智哉**などの主力下級生が有機的に機能し、お家芸の走るバスケを披露できれば4位になった平成25年以来の県武道館を十分視界にとらえられる。

その静岡東と県武道館のコートを賭けて戦うことが予想されるのが**城南静岡**。忘れもしない中部新人準決勝・藤枝明誠戦、1点差を怒涛のバスケで守り切り大金星、藤枝明誠に地区大会16年ぶりの黒星をつけた。世紀のアップセットを演じたスタメンの**小澤綺羅・漆畑賢人・中野巧登・高野翔・小林向日葵**が大会にエントリー、中学時に全中出場経験をもつ**高松天成・塩坂優斗**など地力ある下級生も多く揃う。是が非でも県武道館までたどり着いて藤枝明誠との因縁の再戦を見てみたいチームである。

このブロックの注目選手として、**堤辰月・狩野彪**（静岡農業）、**渡部博熙・千葉壮悟・梶山柊**（常葉大菊川）、**吉田優希・小針那智**（日大三島）、**山田響貴・板持舜**（常葉大橘）、**土屋一城**（伊豆中央）、**増井悠人・近藤丈介**（静岡）、**中村脩人・山本烈輝**（焼津中央）、**増田陽斗・北郷蓮**（富士市立）、**中西星眞**（島田樟誠）などを挙げたい。

左下のブロックはまさに激戦、どのチームが県武道館のメインコートにたどり着くか予想もできない群雄割拠のブロック、その中でも浜松商業・浜松学院・沼津中央の三つ巴が予想される。

第4シード・**浜松商業**は県総体で10年ぶりの決勝リーグ進出、東海総体出場は逃したが浜松開誠館戦では最後の最後まで相手に食い下がり勝利そして東海出場への飽くなき執念を見せた。主力の3年生が引退し下級生主体のフレッシュな陣容、短い時間ではあったが決勝リーグの舞台を経験した**佐藤大地・佐藤空**のシューターツインズとこちらも3Pが切り札・**国本大翔**、有望1年生の**大石真弘・宮本剛都・枝村漱夕**など新進気鋭の戦力が揃う。特に枝村は佐藤兄弟とともに全国ミニバス出場経験もありキャリア抜群、年々上達する跳躍力とリバウンド支配力は今後の成長が楽しみである。10年ぶりとなる県武道館のメインコートに立つためには沼津中央・浜松学院など強豪との戦いが予想されるが、上位の中ではどのチームよりも新体制への移行が早く、準備期間も十分確保されていたアドバンテージを生かしてウインターに臨む。

県総体5位の**浜松学院**は県総体ブロック決勝・藤枝明誠戦、最終Qに18点差を追いつかれ延長戦へ、そのまま相手に持って行かれ悪夢の大逆転、その悔しさを胸に今大会を迎える。
大黒柱は注目No.1選手、「和製ドンチッチ」**伊藤ハリー大河**。「リアル桜木花道」とも言われ、バスケを始めたのは中学1年生後半、バスケ歴5年とは思えない類まれなセンスを持ち、188cm110kgの恵まれたフィジカルでローポストに陣取る彼にボールを落とされ1on1を挑まれたら相手はもう諦めるしかない。また常にポジティブ志向でゲームをコントロールするのも特徴、劣勢時に沈みがちになるチームの士気を何度も鼓舞し、反撃の狼煙を上げてきた。外からループパスをもらい相手ブロックをかわしてそのまま華麗に決めるフックシュートは超美技。その他のレギュラー陣、**鈴木隆太・渡邊棟介・大島ジオバニ・大倉成矢**に栃木国体にもスタメン出場をした**石原弘幸**を加えた厚い戦力で、相手に間合いを与えない得意の力強いディフェンスで6年ぶりの優勝を目指す。準々決勝で予想される浜松商業との対戦に勝利をすれば、準決勝で藤枝明誠と再戦する可能性が高い。実現すれば大会屈指の好カード、初対決となる伊藤とロードプリンスのマッチアップは今大会最大の注目対決、ド迫力のせめぎ合いが今から楽しみである。

沼津中央も侮れない。夏・冬合わせて9回の全国出場を誇る強豪、県総体は2回戦で静岡商業に不覚を取りベスト16に甘んじ、背水の陣で今大会に臨む。淡々としたポーカーフェイスで内外からシュートを決めるエースシューター・**土勢雄介**を筆頭に外回りにはスピード満載の**上原遼人・小林慶哉**、栃木国体2試合で25得点を挙げた**小林吏駒**、インサイドには193cm**高橋透生**・192cm**木戸口正貴**・184cm**濱野武流**・187cm**桐生武蔵**など粒ぞろいの長身選手が揃う。お家芸のプレッシャーディフェンスで相手を幻惑すれば準決勝で藤枝明誠と相対するのはこのチーム、という可能性も十分ある。

他の注目選手として、**木下結斗**（浜松聖星）、**加藤優作・オペデンシアイサム**（浜松江之島）、**森優太・秋津有**（韮山）、**齋藤瑠已・松田悠吾・白鳥真希**（清水東）、**監物那由大・櫻井環**（三島北）、**大島唯翔・新藤楓月**（三島南）、**遠藤啓介・渡邉海晴**（清水西）、**稲垣快音・市川天都**（浜松湖北）などを挙げたい。

右上のブロックは、平成以降10度の優勝を誇る飛龍を県総体6位の静岡商業、ベスト16の加藤学園・浜松工業が追いかける展開となるだろう。

県総体3位の**飛龍**は例年のような飛び抜けたエースはいないがガードに**中原春翔・野田悠峨・竹村勇祐**、中盤に**ワシントン**

ケネス・石塚響・田村春人、インサイドに**宮田翔矢・中村飛鳥・永見純**などバランスのとれた粒ぞろいの戦力が揃う。そして何と言っても飛龍の醍醐味は全国でも定評のある留学生対策、創意工夫を施したディフェンス時の独特な脚のスタンスは初めて対処する留学生には相当なフラストレーションとなるであろう。平均身長179.4cmは今大会No.1の高さを誇る。高さを生かした粘り強いディフェンスから得意のブレイクにつなげる伝統バスケで2年ぶりの賜杯奪還を狙う。

静岡商業は県総体ブロック決勝で浜松商業に競り負けたものの、5位決定Tでは中部新人に続き優勝経験もある静岡学園を返り討ち、古豪復活への第1歩を確実に踏み出した。主力だった3年が引退していち早く新チームを始動、長身と広い肩幅を生かしたプレーでインサイドを席巻する**根岸真叶**、スピードあふれる司令塔・**松野蒼空**、国体予備選手にも選ばれたユーティリティープレーヤー・**市川昊**、力強い静商ディフェンスの申し子・**山本健**を中心にスキルもコミュニケーションも総合的に強化、まずは初の県武道館進出を目指す。

その静岡商業と県武道館を賭けての対戦が予想されるのが西部総体覇者・県総体でも準優勝した浜松開誠館と1ゴール差の接戦を演じた**浜松工業**。こちらも新チームで今大会に臨むが、サイズが落ちた分、スピードを駆使したブレイクを多用、工業大会も5連覇を飾った。1年次からレギュラーに定着し経験値を積んできたパワフルなフォワード・**辻大楽**がどれだけ成長しているか楽しみである。

加藤学園は直近6年で3度県武道館のコートを踏む安定した実力派チーム。見るたびに身体に筋肉が付き力強いプレーで相手を圧倒する**鈴木聖也**や無尽蔵のスタミナを誇る**梅田将也**を中心に走り勝つバスケットで2年連続の県武道館を賭けて戦うであろう飛龍との再戦に全力を尽くす。

他にも注目選手として、**長房輝樹**（島田）、**長谷川侑志**（磐田農業）、**上野真輝･鈴木幸太朗･渡辺颯翔**（浜松湖東）、**渥美航･岡嵜大毅・住吉虎太郎**（科学技術）、**林佑次**（静清）、**松本陸・奥山流羽**（島田工業）、**シャイェギヤン羅瑠**（清流館）、**加藤龍飛**（下田）、**望月良依繁・宇江喜創太**（静岡商業）、**望月興誠・三田村陸斗**（加藤学園）、**大城愛翔・鈴木小次郎**（浜松工業）、**戸塚湧斗・ブイクオックフォック**（小笠）、**深瀬大太・田中和広**（裾野）などを挙げたい。

最後に右下のブロックは本命・藤枝明誠の絶対的対抗馬・県総体準優勝、そして前回大会優勝の浜松開誠館の独壇場が予想されるが、優勝経験もある静岡学園と浜松西がそれを許すまいと全力で追いかける。

浜松開誠館は昨年創部10年目にして初の県制覇、全国出場を果たした。チーム事情で西部総体7位からの出場となった県総体では激戦を勝ち抜き藤枝明誠には惜敗したものの2年連続の準優勝、しかしながら決してそれに満足することなく悔しさだけが残る日々が続いたことは容易に想像がつく。
目指す目標は連覇のみ、そのカギを握るのは昨年の大会で覚醒した未完の大器・**鈴木楓大**。もう未完などという言葉は彼に失礼かもしれない。日本人最高身長197cm、長いリーチから膝をしなやかに使って高い位置から放たれるシュートと広いウイングスパンで重心低く相手に対峙するディフェンスはまさに天下一品。相手の注意がインサイドに集中した途端、外から度肝を抜くほど高くて美しい軌道を描く3Pを放つ。もう誰にも止められない､彼を形容するのにこれほどふさわしい言葉はない。他にも昨年のウインターにも先発出場した司令塔・**奥宮翔太**、中盤に構える攻守の要・**上杉亮雅**、抜群のバスケIQを誇るサラブレッド・**清川颯**、力強いドライブが魅力の**松土夢土**、抜群のキャプテンシーを見せる**尾崎恵吾**、そして栃木国体でも共にスタメン出場を果たした3Pシューター・**山下朔史**と190cmのリバウンダー・**工藤寧朗**など上級生と下級生が有機的に機能して競り勝つバスケで連覇を遂げて、日々のハードワークは嘘をつかないことを改めて証明したい。

県総体7位の**静岡学園**は185cm・恵まれたフィジカルを生かしたリバウンドと守備でチームを支える**河村真育**や2年連続で国体の県選抜選手・低い重心から独特の間合いで巧みなパスを出す**鎌田優芯**、司令塔を任された県総体では才能を発揮し監督の信頼を得た**石川凛久**などの多彩な戦力でまずは6年連続の県武道館、そしてその先にあるメインコートを虎視眈々と狙う。

県総体ベスト16・**浜松西**は**平野太基・藤田虎伯・太田雅人・佐々木大河**の県総体レギュラー陣に新キャプテン・**竹内新**を加えた不動のスタメンが予想される。特に唯一の3年生・平野は185cmの長身を生かしたリバウンドからドライブ、絶妙のパスさばきなどすべてをオールラウンドにこなすキープレーヤー。3年連続の県武道館進出のために、前年覇者・浜松開誠館の牙城を崩すべく、高さに頼らない走るバスケットで練習に精進を続ける。

男子唯一の合同チーム､**伊東･伊東商業**もこのブロック。来年の統合を控えて昨年から合同チームで出場､勝利はならなかったがハンデをものともせず相手に立ち向かった。伝統ある伊東･伊東商業も今年で最後の参加となるのは寂しいが､来年は「伊豆伊東」として再出発することが決まっている。あの敗戦から1年、悔しい思いを胸に練習し続けた成果を発揮し勝利を勝ち取って伝統ある両校の有終の美を飾って欲しい。

その他の注目選手として、**ゾルバエルアナンド･若菜晴**（加藤学園暁秀）、**久保田龍愛･小川大輝**（駿河総合）、**杉山海斗**（焼津水産）、**岡元気・池ノ谷瑠海・花村詩穏**（静岡城北）、**佐藤誠真・大長優友・鈴木晃和**（静岡市立）、**深澤亮太・川口龍輝**（静岡大成）、**宮城直哉・岡村亮壱**（藤枝東）、**鈴木翔太・岡本隼・山田和輝**（袋井商業）、**中田舜**（誠恵）、**望月泰輝・澁谷尚汰・大串泰雅・味大斗**（静岡学園）、**谷村遥斗・大竹勘太・三輪瑠海**（星陵）、**鈴木啓斗**（富岳館）、**髙木空**（浜松湖南）などを挙げたい。

最後にどの都道府県でも参加チームが年々右肩下がりで競技者人口の減少に苦悩しているが、今回は男子の参加チームが2チーム増、110チームとなった。2年ぶりの出場となる**富士見**と**清水南**の健闘も心から祈りたい。

女子

今大会も6連覇中の浜松開誠館中心の優勝争いになることは間違いない。そんな中でも浜松学院や市立沼津などが長期にわたる浜松開誠館の独走を止めるべく勝負をかける展開が予想される。

県内高校116連勝、県内大会17連覇、U18東海リーグ全勝優勝、皇后杯県予選制覇、**浜松開誠館**の栄光を数え上げれば枚挙に暇がない。大会展望でも記録を枕詞で語るのが風物詩となってきた感もある。この夏のインハイでも優勝した京都精華学園と対戦し王者を土俵際徳俵まで追い詰める大善戦、最後は逆転負けを喫したがこの大会を通して王者を1番苦しめた試合でもあった。試合を見るたびに高い総合力のバスケが完成に近づきチーム史上最強と言っても過言ではない。
全国トップレベルの注目プレーヤー・**萩原加奈**は代名詞である3Pに加え、ドライブに対応してきた相手の機先を制して止まってのジャンパーも多用するようになりプレーの幅がさらに広がった。県内最高身長178cmの**前田理咲子**はリバウンドやセカンドチャンスだけでなく外から3Pも放つようになり京都精華戦でも果敢に10本の3Pを試みた。相手のショットブロックも必然的に遅れ、仮にジャンプブロックで対応されてもポンプフェイクやドライブに切り替えるなど冷静沈着に対応できるのも強み。その前田を助けるのがスーパールーキー 177cm**後藤音羽**。まさに持って生まれた抜群のセンスから繰り出されるスピード、テクニック、パワーは今後の成長が末恐ろしい逸材である。その他にも、巧みなユーロステップが魅力の**井口姫愛**、随所で効果的に起用される**杉山実子**、3P・ドライブを器用にこなす**蔀桃菜**、グッドパスを出したあとインサイドに切れ込み得点を奪う積極的なプレーが目立つ望月秋桜、ディフェンスやルーズボールなど球際の泥臭さでチームを支える**小谷梨緒**、相手の虚を突く素早いペネトレートが魅力の**今井杏**、相手への対応が誰よりも早く一手先を見越して考えたディフェンスが出来る**小幡夕夏**などどの学年にも核となる選手がいて、その選手を中心に周りが相乗効果で能力を発揮するのも強み。常に目の前の勝利に飽くなき執念を燃やし、どんな相手に対してもひたむきに自分達のバスケットを貫き通す常勝女王に7連覇への死角は見当たらない。

県総体7位・**静岡東**は新チームに移行しても主力を担ったレギュラーが3人残り楽しみな存在である。何とて言ってもこのチームの原動力は「猪突猛進」**青木詩**の突破力。外からも中からも得点を奪い、時には低い姿勢からカットインして相手との接触もいとわず果敢にゴールにねじ込む。球際にも泥臭く汗をかく好感の持てる選手でもある。昨年度県選抜として東海国体にも出場した**中村日愛理**は攻守でチームを支える大黒柱。**原田美涼**はボールミートからシュートまでの時間が速い3Pシューター。キャリア抜群の3選手を中心に昨年最後の最後で阻まれた県武道館のコートを目指す。

浜松開誠館への挑戦権を賭けてその静岡東と争うのが昨年準優勝の**常葉大常葉**。大会5連覇2回、ウインター出場16回、全国優勝まで果たしている屈指の名門、今年はレギュラーに1年生3人を含む新進気鋭の顔ぶれで大会に臨む。キャプテン・**三瀬未来**を中心に、**佐野実咲・伊藤亜莉沙・植田柚希・森輝月**の不動のメンバーで相手の動きよりも1歩速くプレスをかけるプレッシャーバスケットがうまく機能し、伝統的に受け継がれるステイローの姿勢を貫き通せば、県武道館で昨年決勝カードが今年も見られるはずである。

このブロックの注目選手として、**中森美里・仲安未来**（静岡市立）、**谷川果奈・加藤咲空・石部希歩・石田妃茉里**（藤枝順心）、**鈴木沙季・河村紗彩**（浜松商業）、**板倉七海・岩切瑠杏・宮本千華**（浜松日体）、**二村優衣・佐野満里奈・織田愛加**（飛龍）、**藤田彩花・岡野友香・小泉凛音・山本寧々**（静岡東）、**遠藤若夏・青柳奈旺・三浦みづき・高橋来唯**（沼津商業）などを挙げたい。

左下のブロックは一言で言うと混戦ブロック、どのチームにも県武道館そしてメインコートのチャンスがある群雄割拠の様相を呈している。

その中でも中部総体を制し県総体4位になった東海大静岡翔洋が頭1つ抜けている感がある。このチームは選手層が厚く交代で出場する選手もスタメン陣と遜色ない能力を発揮するのが特徴。今大会もどの選手をスタメンに起用してくるか、どこで交代カードを切ってくるのか、という視点で観戦するのも一興である。シューター・**池ヶ谷美妃**、攻撃の起点・**遠藤すず**、一気呵成に攻めるドライブが魅力・**木村友美**、司令塔・**藤根晴菜**、インサイドプレーが絶妙・**船山穏香**、効果的に放つ3Pで得点を重ねる**森菜々子**、チームの窮地を救う救世主・**望月涼音**など相手もうらやむ多彩なメンバーでまずは初の県武道館メインコートを目指す。

その東海大翔洋と準決勝進出を賭けて戦うことが予想されるのは**浜松南**。県総体ではブロック決勝で浜松学院に敗れたものの5位決定Tでは浜松市立・静岡女子という強豪校に連勝、特に静岡女子戦では相手の猛追をプレッシャーディフェンスで耐えに耐え、効果的にストーリングを繰り出しながら5位を確保した。この試合を最後に3年生が引退、今大会は新チームで臨むことになるが、数少ない引退試合で勝利を飾って後輩にバトンタッチした雰囲気がそのまま新チームに引き継がれている印

象を受ける。オールマイティーにすべてを無難にこなす文字通りのエース・**忠内清**を中心に3Pシューター・**伊達咲良**、低い重心からトップスピードでディフェンスに対峙していくドライブが魅力の**平澤心花咲**などを中心に常に勝利をイメージしたバスケットを心がける。昭和60年度には優勝経験もある古豪であるが、まずは初の県武道館、そして35年ぶりの4強を狙う。

県総体で静岡女子とも接戦を演じ、ツインタワーズの176cm**木村光玖**・173cm**ワシントンジュリ**がゴール下を支配する**加藤学園**、3P2本を含む16得点を挙げた**窪田恋奈**の活躍で13年ぶりに県総体で勝利を飾るなどレベルアップが顕著な**三島南**もこのブロック。果たしてどのチームが準決勝に出てくるのか今現在全く予想がつかない。

その他の注目選手として、**菊池姫奈・小長井和香葉**（静岡西）、**勝又真唯・永井咲花**（御殿場南）、**遠藤楓・小林菜緒**（袋井）、**金田ありさ・辻村明日花**（三島南）、**前田殊伽・山道光葵**（静岡商業）、**松浦千夏・嵯峨有梨花**（浜松北）、**髙橋心杏・髙橋凛・佐藤詩織**（加藤学園）、**山村梨心・吉田遥**（浜松南）、**南澤千尋**（遠江総合）などを挙げたい。

右上のブロックは県総体3位の市立沼津を全国出場経験もある静岡女子・駿河総合の中部勢が追いかける展開が予想される。

市立沼津は11回の優勝を誇る、言わずと知れた強豪中の強豪、脈々と受け継がれる激しいディフェンスと粘り強いリバウンドで安定した成績を残し続けている。県総体4強の中で唯一新チームでの出場だが、県総体時と全く変わらないメンバーを維持しているが大きなアドバンテージ。下級生ながらキャリア豊富な面々が揃い、本当の意味での勝負が始まったと言ってもいい。
エース司令塔で得点源・広い視野から巧みなパスワークを見せる**遠藤陽向**を筆頭に、相手を華麗なドリブルで翻弄する**遠藤有菜**、鋭いドライブが持ち味の**一藤木楓**、鍛えられた体幹で軸のぶれが生じない**川口青空**、ドライブからジャンプショットへの判断力に長ける**秋山叶羽**、県総体・東海総体でもスタメン出場を果たし175cmの長身を利してしなやかなシュートを決めた1年生・**河谷真矢**、こちらも1年生・スーパーサブ的な役割を担い指揮官の期待に応える**勝亦麻結**など経験値の高い陣容で挑む。順調に勝ち上がれば県総体で完敗した浜松学院との再戦が準決勝で実現する。決勝進出と常勝王者への挑戦権をかけた戦いに注目したい。

静岡女子は6位になった県総体と同じ布陣で大会に臨むのが最大の特色。特に競り負けた浜松南との5位決定戦での敗戦がある意味選手たちの戦うモチベーションになっていると言える。大黒柱はこの試合で29得点の荒稼ぎをした**川村美愛**。開始13点目まではすべて川村の得点、3Pで空中戦を挑んで来たかと思えば、臨機応変にドライブに転じるなど相手が対応に苦慮すること必至のプレーヤー。ゴール下の守護神・**大谷紗耶香**、ディフェンスの要・**森天澄**、共に中盤に位置しながらキックアウトされたボール一歩下がって3Pに結び付けられる**本間梨乃・山田梨央奈**など修羅場を潜り抜けた海千山千の選手が揃う。まずは確実に8強入りし、準優勝した平成23年以来11年ぶりの県武道館メインコートを視界にとらえる。対戦が予想される市立沼津にとってはこの上なく手強い相手との準々決勝になるだろう。

過去3度の準優勝を誇る**駿河総合**はエースである「小さな巨人」**鈴木優菜**の高確率に決まる3Pが生命線。選手は8人と少数精鋭だが、全国出場3回の実績を持つ**立野幹夫**新監督を迎え、どのチームも苦戦する独特のゾーンディフェンスを残しながらも、アウトナンバー・セットオフェンスなど新しいスタイルのバスケットも取り入れて、県武道館を目指して市立沼津に挑む。

他の注目選手として、**中濱結・小川千遥・望月悠理**（清水西）、**大竹怜奈・小澤菜々美**（沼津西）、**奈良和音**（浜松西）、**宮城島唯名**（清水南）、**梅本理世**（静岡）、**有海愛美**（小笠）、**久保山奈南**（藤枝北）、**川合心**（静岡女子）、**保坂七菜・廣田愛奈・青木妃奈乃**（駿河総合）、**佐藤花梨・齊藤涼・野村優希・杉山侑里夏・芹澤煌**（日大三島）などを挙げたい。

右下は県総体で準優勝を飾った浜松学院の強さが際立つが、浜松市立・浜松聖星という実力校も同じブロック、浜松開誠館を倒して初優勝を狙う浜松学院にとっては絶対に気を抜くことが出来ない相手が続く。

浜松学院は、東海総体・U18東海リーグ、そして皇后杯県予選という大舞台を経験したことが最大の収穫、「全国に出られなければ2位も3位も同じ」と思いがちだが、東海リーグと皇后杯は準優勝したからこそ出場できた大会、その経験は血となり骨となっているはずである。特に初出場の東海総体で3度の全国優勝を誇る岐阜女子を土俵際まで追い詰めた底力は浜松開誠館も脅威に感じているはずである。
気迫あふれる1on1を見せる**足立琉那**は攻守そして精神面においてもチームの要、県総体・市立沼津戦では3P5本を含む44得点、エース特有の得点感覚を持ち、波に乗ると手を付けられないプレーヤー。足立とWエースでチームを牽引するのが内外どこからでも得点が取れる**竹下涼**。プレー全体がパワフル、相手ディフェンスを寄せ付けないオーラすら見える。この2人の活躍なしに初優勝は絶対にあり得ない。他にも、チームが信条とするスピードバスケの申し子・**石川乃愛**、広いシュートエリアを持つ**岩田亜花里**、ファストブレイクの起点となる**松浦千夏**、連続して決まる3Pが魅力・**伊藤風音**、そして東海国体にも出場した**ワネケジジュリエット杏奈**などバランスが取れた戦力と粘り強いディフェンスでまずは確実に決勝戦までたどり着き、6年半ぶりに浜松開誠館を倒して悲願の初優勝をつかみ取りたい。

県総体7位の**浜松市立**は準々決勝で浜松学院との対戦が予想される。平成30年度の県新人以降常にベスト8以上をキープし安定した成績を続ける。そのハイライトは一昨年の準優勝、王者・浜松開誠館を相手に決勝戦の名に相応しい戦いを演じた姿は今も私の記憶から離れない。今年は県内最高身長178cm**黛彩良**の高さを生かしながら、県総体もレギュラーで全戦スタメ

ン出場して華麗なドライブや長距離砲を披露した**松下心**を中心に、**石山愛結・木下綾菜・齋藤楚奈**など実戦経験を積みながら成長を続ける将来性豊かな期待のホープも多く擁する。相手に攻撃の起点を作らせない徹底した粘り強いディフェンスで2年ぶりのメインコートを目指す。

浜松聖星は前キャプテン・170cm**鈴木泉美**がチームに残ってインサイドを守り続けることが大きい。加えて2年連続県選抜に選ばれた**大滝菜々子**、今年初めて県選抜選手となった**鈴木奏音**、昨年東海国体に出場した**土谷陽菜**、キャプテンとしてチームの精神的支柱となる**山下菜々美**など昨年来からキャリアを重ねた百戦錬磨の下級生とそれを補う大黒柱の最上級生がうまくケミストリー（化学反応）を起こせば県総体で敗れた浜松学院相手に互角の勝負が出来るポテンシャルを持つチームである。

富士東・富士見は学校統合以外での理由では平成28年の橘・英和以来6年ぶりの合同チームでの出場。男女通じて公立と私立の合同チームは大会史上初となる。双方ともに部員不足が原因ではあるが、今年は女子の参加チームが一気に5チームも減少した中で、周りの方々が選手に出場機会を作るべく奔走し、合同チームでの出場を決断したことは容易に想像がつく。お互い限られた時間の中で練習時間を確保し、富士東・**望月咲希**、富士見・**佐野桃花**両キャプテンのもと、新体制での「初勝利」を目指して頑張って欲しい。

その他に、**宮野友里・嶋野菜々美**（浜松湖東）、**市川由那・高田ゆらら**（浜松東）、**木村実子・千葉かのん**（清水東）、**小田眞鈴・杉山彩樹・丸山真央**（静岡大成）、**後藤みづき・山本こころ・後藤さつき**（沼津中央）、**新間美咲・太田奏夢・市川加恋**（島田）、**喜多川朋香・荻彩羽・望月小雪**（富岳館）などを注目選手に挙げたい。

最後に月並みではあるが、男女計201試合、棄権チームを出すことなく無事全試合行うことが出来ることを切に願うばかりである。

ウインターカップ2022静岡県予選 大会展望
【DRIVE誌　寄稿版】

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第75回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2022）静岡県予選が令和4年10月22日に開幕する。11月13日に**静岡県武道館**で行われる決勝戦の勝者が12月23日から**東京体育館**他で行われる**全国選手権大会**への出場権を獲得する。全国を賭けた「秋の風物詩」静岡県高校バスケ最高峰の戦い、その栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

男子

大本命は全国総体で旋風を巻き起こし見事3位となった**藤枝明誠**。試合を重ねるたびに成長、抜群のチームワークで8年ぶりに県総体を制覇、全国では優勝候補の仙台大明成・北陸に圧勝、優勝した福岡第一には惜敗したものの相手のお株を奪う「堅守速攻」で完成度の高いバスケを披露、今大会でも総合力は群を抜いている。

果敢に放つ3Pが魅力の主将・**上野幸太**、攻守のバランスが良く、得点感覚に優れた**赤間賢人**、巧みなドライブで速い展開を導く司令塔・**谷俊太朗**、総体5試合で27本の3Pをたたき出し『月刊バスケットボール』誌選定の大会ベスト5にも選ばれた爆発的シューター・**霜越洸太朗**、そして県総体後に合流、205cmの高さを生かしてリバウンドを支配、無理にシュートに行かずボールを外にさばく絶妙の判断力も見せる**ロードプリンス**など選手層の厚さは全国トップレベル。留学生が加わったことで上野が本来の中盤に専念して持ち味を発揮、外回りにも長距離砲を多く擁し、空中戦を演じてもリバウンド勝負には絶対の自信を持つチーム。総体後には**金本鷹**コーチが監督に昇格、経験豊富な青年監督のもと3年ぶりの優勝を目指す。

打倒・藤枝明誠の1番手は県総体準優勝の**浜松開誠館**。昨年創部10年目にして悲願の初優勝、後藤監督が流した涙は今でも忘れられない。

中心は日本人選手最高身長197cm・**鈴木楓大**。「未完の大器」がついに覚醒、桁外れの跳躍力や長いリーチを生かしたリバウンドと力強いポストプレーで相手守備陣をなぎ倒す。他にもスピードに乗ったドリブルが特色・**奥宮翔太**、ジャンプシュートを得意とする**上杉亮雅**、内外から果敢にゴールを狙う**松土夢生**、栃木国体で県選抜の司令塔を務めた**山下朔史**など連覇に向けての戦力は十分整っている。

過去10度の優勝を誇る**飛龍**も侮れない。ガード陣は**安藤優太・中原春翔・野田悠峨**、中盤には県総体でも活躍した**田村春人・ワシントンケネス**、インサイドは**宮田翔矢**という布陣。飛び抜けたビッグマンはいないが留学生対策には定評があり、平均身長179.4cmは今大会トップ。高さを生かしたディフェンスから得意のブレイクにつなげるバスケットで2年ぶりの賜杯奪還を狙う。

3強を猛追するのが県総体で藤枝明誠相手に終始リードを保ちながら土壇場で追いつかれ延長の末敗れて涙を飲んだ**浜松学院**。中心は今大会No.1選手の呼び声が高い**伊藤ハリー大河**。強靭なフィジカルから放たれる魅力的なシュート、いち早くコースに入って体で受ける絶妙のディフェンスはまさに『和製ドンチッチ』の名に相応しいプレーヤー。準決勝で藤枝明誠との再戦が実現すれば今大会屈指の好カードとなる。

その他にも、県総体で10年ぶりのベスト4入りした**浜松商業**、6位の**静岡商業**、7位の**静岡学園・静岡東**、優勝経験もある**沼津中央・浜松西**、そして新人戦で藤枝明誠を倒した**城南静岡**なども県武道館を視野にとらえ、メインコートに立つチャンスは十分にある。

女子

県内高校大会17連覇、公式戦116連勝中、6年以上無敵の強さを続ける**浜松開誠館**が他の追随を許さない盤石の強さを誇る。県総体も危なげなく6連覇、全国総体でも優勝した京都精華学園に第4Q序盤までリードを奪う大健闘、互角以上の戦いを演じて会場を沸かせた。続く『U18東海リーグ』では全国一の激戦区・東海で全勝優勝、『皇后杯県予選』でも大学生・社会人を破り県代表の座をつかみ、総合力の高さを再確認させてくれた。今年は経験を積み続けた主力が最上級生となり、全国での上位進出も視野に入れた戦いに挑む。

絶対的エースは全国的にも注目される**萩原加奈**。代名詞である3Pに加え、ミドルレンジでのジャンプシュートも多用するようになりさらにプレーの幅がさらに広がった。**前田理咲子**は今大会最高身長178cm、ポスト・リバウンド・速攻、すべて

を器用にこなすオールラウンダー、その前田を助けるのが177cmのスーパー 1年生・**後藤音羽**。全国の檜舞台でスタメン出場し留学生相手に一歩も引くことのない堂々としたプレーを見せた。他にも、巧みなステップが魅力の**井口姫愛**、3P・ドライブを器用にこなす**蔀桃菜**、ディフェンスや球際の泥臭さでチームを支える**小谷梨緒**などどの学年にも核となる選手がいて、その選手を中心に周りが相乗効果で能力を発揮するのも強み。今年はチーム史上最強と言っても過言ではない。常に目の前の勝利に飽くなき執念を燃やし、どんな相手に対してもひたむきに自分達のバスケットを貫き通す常勝女王に7連覇への死角は見当たらない。

無双王者を脅かすチームとして浜松学院と市立沼津を挙げたい。

浜松学院は浜松開誠館が最後に黒星を喫した相手、毎年徐々に順位を上げて県総体は準優勝、初出場の東海総体では3度の全国優勝を誇る岐阜女子を土俵際まで追い詰める底力を見せた。気迫あふれる1on1を見せる**足立琉那**と内外どこからでも得点が取れる**竹下涼**のWエースを筆頭に、チームが信条とするスピードバスケの申し子・**石川乃愛**や東海国体にも出場した**ワネケジュリエット杏奈**などバランスが取れた戦力と粘り強いディフェンスで悲願の初優勝を狙う。

市立沼津はエース司令塔で得点源、広い視野から巧みなパスワークを見せる**遠藤陽向**、相手を華麗なドリブルで翻弄する**遠藤有菜**、鋭いドライブが持ち味の**一藤木楓**、鍛えられた体幹で軸のぶれが生じない**川口青空**などキャリアを積んだ経験値の高い下級生中心の布陣で挑む。順調に勝ち上がれば準決勝で実現する王者への挑戦権をかけた両雄の戦いに注目したい。

その他にも、**池ヶ谷美妃・木村友美・船山穏香**など得点能力の高い選手を数多く擁する**東海大静岡翔洋**、**忠内清**が新チームを牽引する**浜松南**、県総体と同じ厚い戦力で臨む**静岡女子**、178cm**・黛彩良**の高さを生かしたい**浜松市立**、**青木詩**が見せる「猪突猛進」の攻撃力が魅力の**静岡東**、「小さな巨人」**鈴木優菜**の3Pが冴え渡る**駿河総合**、そして大会最多16回の優勝を誇る**常葉大常葉**など注目チームは枚挙に暇がない。

ウインターカップ2022 静岡県予選 大会展望

文責：中島 洋己（（一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

女子

世界遺産や大会行事、公式戦、6年以上無敵の強さを見せている県総体開催前が、他の追随を許さない強さを誇る。総体大会でも、優勝した京都精華学園から第4Q序盤までリードを奪うなど、互角以上の戦いを演じて会場を沸かせた。続く「U18東京リーグ」では全国一の激戦区・東海で全勝優勝、「皇后杯 静岡予選」でも大学生に社会人を交じり代表の座を勝ち取り、総合力の高さを再確認させてくれた。

今冬は経験を積み続けた主力が最上級生となり、全国でも上位進出も視野に入れた戦いに挑む。絶対的エースは全国的にも有名な高校3年生・代名詞である3Pシュートに加え、ミドルレンジからのジャンプシュートも多用するようになり、プレーの幅がさらに広がった。前田理瑚子は大会屈指の高校No.1ガードと言っても過言ではないだろう。リバウンド、速攻、すべてを前向きにこなすオールラウンダーだ。その前田を助けるのが1アウセンチのスーパー1年生・後藤音羽。全国の檜舞台でスタメン出場し、留学生相手に一歩も引くことのない堂々としたプレーを見せた。他にも、巧みなステップが魅力の井口姫愛、3P・ドライブを器用にこなす蔀桃菜、ディフェンスや球際の泥臭さでチームを支える小谷梨緒などどの学年にも核となる選手がいて、その選手を中心に周りが相乗効果で能力を発揮するのも強み。今年はチーム史上最強と言っても過言ではないだろう。常に目の前の勝利に飽くなき執念を燃やし、どんな相手に対してもひたむきに自分達のバスケットを貫き通す常勝女王に7連覇への死角は見当たらない。

無双王者を脅かすチームとして浜松学院と市立沼津を挙げたい。

浜松学院は浜松開誠館が最後に黒星を喫した相手、毎年徐々に順位を上げて県総体は準優勝、初出場の東海総体では3度の全国優勝を誇る岐阜女子を土俵際まで追い詰める底力を見せた。気迫あふれる1on1を見せる足立琉那と内外どこからでも得点が取れる竹下涼のWエースを筆頭に、チームが信条とするスピードバスケの申し子・石川乃愛や東海国体にも出場したワネケジュリエット杏奈などバランスが取れた戦力と粘り強いディフェンスで悲願の初優勝を狙う。

市立沼津はエース司令塔で得点源、広い視野から巧みなパスワークを見せる遠藤陽向、相手を華麗なドリブルで翻弄する遠藤有菜、鋭いドライブが持ち味の一藤木楓、鍛えられた体幹で軸のぶれが生じない川口青空などキャリアを積んだ経験値の高い下級生中心の布陣で挑む。順調に勝ち上がれば準決勝で実現する王者への挑戦権をかけた両雄の戦いに注目したい。

その他にも、池ヶ谷美妃・木村友美・船山穏香など得点能力の高い選手を数多く擁する東海大静岡翔洋、忠内清が新チームを牽引する浜松南、県総体と同じ厚い戦力で臨む静岡女子、178cm・黛彩良の高さを生かしたい浜松市立、青木詩が見せる「猪突猛進」の攻撃力が魅力の静岡東、「小さな巨人」鈴木優菜の3Pが冴え渡る駿河総合、そして大会最多16回の優勝を誇る常葉大常葉など、注目チームは枚挙に暇がない。

男子

大本命は総体全国大会で準優勝を果たし、3年生が8人中5人と経験値の高いバスケを展開するたびに成長を遂げ、指導のチームワークで8年ぶりに総体県大会を制覇した。全国では優勝候補の仙台大明成、北陸に圧勝、優勝した福岡第一には惜敗したものの、相手のお株を奪う「堅守速攻」で「完成度の高いバスケを展開するなど、今大会でも能力は群を抜いている。

果敢に攻めるドライブが魅力の主将・上野幸大、攻守のバランスが良く、得点感覚に優れた副将・大野入、巧みなドライブで速い展開を導く司令塔・谷健太朗、絶体絶命の試合で27本の3Pを決め「3Pスナイパー」と謳われた小川翔大スカットボール」認定の大会ベスト5にも選ばれた爆発的シューター・前原彼方朗、そして総体県大会決勝で負傷しながらも、2Qセンターの務めを果たしたリバウンドでの支配や、第2Qに3Pを決めたリバウンドでの支配や、第2Qに3Pを決めたリバウンドでの支配や、第2Qに3Pを決め

令和4年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

令和4年度第36回**東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選**が令和5年1月21日に静岡商業高校他で開幕する。昨年は組み合わせが発表された直後にコロナの第6波に飲み込まれ2度の延期を経て最終的には中止、今年は2年ぶりの開催となる。例年通り、初日に1,2回戦、2日目にブロック決勝と決勝リーグ初戦・5位決定トーナメント、3日目に舞台を**草薙このはなアリーナ**に移して決勝リーグ第2戦と5位決定戦、28日に同じく草薙で決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月11,12日に地元静岡県袋井市・**エコパアリーナ**で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。東海高校新人大会も一昨年・昨年と中止となっているため3年ぶりの開催となる。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人でエコパのコートに立っているのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

新型コロナウイルス感染症に関しては収束した訳ではなく現在も**第8波**に襲われ、年始早々静岡県も死者数・感染者数ともに過去最高を記録、医療状況も数字以上に危機的状況になってきており1月13日には全国2例目となる「**医療ひっ迫防止対策強化宣言**」が発令されるなど予断を許さない状況である。併せて3年ぶりに**インフルエンザ**も流行の兆しを見せ、コロナとの同時流行も懸念されている。中には学年閉鎖・学級閉鎖せざるを得ない学校も少なくなく、練習に支障をきたす状況であることは3年前から全く変わっていない。しかしながら、その失われた3年間の経験からスポーツを中止しない・させないという新しい観点での**ウィズコロナ開催**も定着してきており、感染症対策を十分施しながら細心の注意を払って今大会そして東海大会も開催していくことになる。今回も**原則無観客開催**という苦渋の決断をさせていただいたが、感染拡大する現状を御理解いただければと思っている。また、毎年県高校新人大会最終日に行われている**県協会U18優秀選手表彰式**は今年度も中止となった。すでに選手選出や理事会の承認は終えており、先般協会HPで発表を終え、20日に静岡新聞と中日新聞の紙面で報道された。今年度の高校バスケの「顔」となる選手の雄姿を見る最後のチャンスであったが、こちらも感染拡大の現状を鑑みて御理解いただきたい。

この大会から年末のウインターカップ2022に出場して勝利を収めた浜松開誠館女子と、インターハイに続いて全国3位を勝ち取った藤枝明誠男子が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。

最後に月並みな言葉ではあるが、この大会が1チームの棄権を出すことなく予定通り全日程終了することと、コロナの早期収束を心から願ってやまない。

＜大会展望をお読みになる前に＞

新型コロナウイルス感染症の影響で、県新人については、一昨年は規模縮小・3位決定戦行わず・東海新人の出場権付与なしで実施、昨年は県新人の出場権のみ付与し中止、東海新人については一昨年・昨年と2年連続で中止となったため、連続記録や○年（○大会）ぶりの出場等の記録等に一部実際と整合性が合わない部分が生じていることをご了承下さい。

男子

今大会はウインター県予選でも他チームを圧倒、本戦でも優勝した開志国際と残り1秒までどちらが勝つかわからない互角の戦いを繰り広げた藤枝明誠の独壇場との見方もあるが、藤枝明誠は新チームを始動してまだ3週間程度、新チームとして試行錯誤を繰り返している最中であろう。その合間を縫って各地区予選上位チームが包囲網となって全国屈指の強豪に挑む展開が予想される。

ブロック別に分けて詳細を見てみると、左上のブロック、第1シード位置にはその**藤枝明誠**が陣取る。今年度インターハイ・ウインターともに全国3位。國學院久我山・仙台大明成・北陸・福岡大大濠など優勝経験のあるチームを次々破る快進撃を見せて大会に旋風を巻き起こした。全国の檜舞台から凱旋、東京体育館のメインコートを沸かせたプレーを県内で見られることはうれしい限りである。主力の上野・谷・霜越などは引退したが、ウインターでも注目を集めた赤間やロードプリンスが残っており、戦力ダウンを微塵も感じさせない陣容で今大会に臨む。

今年のチームを背負って立つのはインハイ・ウインターを通して全国に名を轟かせた**赤間賢人**。この選手に関しては説明をすれば紙幅が尽きてしまうほど絶賛の文章が並ぶ。日本出身選手として全国でも指折りのグッドプレーヤー、いずれかは日の丸を背負う選手になる可能性が高い選手である。一言で言えばスコアラー、ウインター 4試合で106得点。得点王は1試合多い介川アンソニー翔（開志国際）に譲ったが、1試合平均得点26.5点は大会No.1、真の意味での得点王とも言える。派手な得点ばかりに目が行きがちだがリバウンドへの執念もすさまじく、自分より頭一つ分高い留学生相手にも果敢にジャンプをしてボールを勝ち取ることもあり、粘り強いディフェンスも含めて文字通り攻守の要、今大会ではさらに進化したプレーを見せて欲しい。そして赤間と共に新チームを牽引するのが**ボヌロードプリンスチノンソ**。身長はさらに3cm伸びて現在208cm、派

手なリバウンドだけでなくコート上の駆け引き、スクリーン、ポストプレーなどたくさんの引き出しを持つ選手、ウインターに出場した留学生を見渡しても全国で5本、いや3本の指に入る留学生と言っても過言ではない。4試合で93リバウンド、2位を20も突き放してのリバウンド王に輝く活躍ぶり、全国大会で1試合平均23リバウンドはもはや超人としか言いようがない。ブロックショット8本も大会4位、全国レベルでも誰一人彼を止められない、まさに空中権を完全に支配されている状態である。どのチームも対策を講じてくるはずではあるが、その糸口は容易に見つからないだろう。強いて課題を挙げるとすれば、昨年までのチームが引退した3年生に赤間・ロードプリンスを加えた布陣で戦ってきたので、2人以外の経験値の上積みが必要となることだろう。

そのためには、途中出場した国体2試合で20得点、ウインターでも2試合に出場し限られた時間でポイントカードとしてグッドパスを2度見せ得点も挙げた**野田凌吾**、ウインター県予選準決勝でも終盤に投入され果敢に3Pを放つなど豊かな将来性が魅力の**大塚絢心**、昨年の県選抜選手でもあり飛び込みのリバウンドに境地を見出す**鬼倉拓司**、ジャンプシュートを得意とする**斎藤佑真**、國學院久我山戦で出場機会を得た**天田虎之介・小澤朋樹**、赤間とともに新主将に就任した**小澤朋樹**、大塚同様数県内出身選手・**斎藤匠・高橋星名・野田遼聖・中村奏太**、レギュラー奪取を目標とする**遠藤新・片山ジャズイェル・白崎上総**などの戦力に実戦経験を積ませながら勝ち続ける必要もある。最終的な目標はあと一歩で逃した全国制覇であることは間違いないが、その土台となる県制覇そして次なる東海制覇という目先の目標を1つ1つクリアして全国に飛躍して欲しいと思う。新チームの初陣となる掛川西戦、どんなメンバーでどんな戦いを見せてくれるか今から心が躍る思いである。

ブロック決勝で藤枝明誠への挑戦権を得るのは東部3位・星陵か中部3位・城南静岡であろう。**星陵**はウインター県予選3回戦で伏兵・東海大静岡翔洋にまさかの敗戦を喫したが例年より早く新チームのスタートを切っており総合的な仕上がりのクオリティーが高い。昨年来レギュラーを務める185cm**大竹勘太**を筆頭に183cm**谷垣圭人**・188cm**谷村遥斗**など長身選手が揃い、外回りには司令塔・**熊谷厚汰**やインハイ予選・浜松学院戦で途中出場、8得点を決め鮮烈デビューを果たした**飯田彗斗**など粒ぞろいの陣容で今大会に挑む。

城南静岡の中心選手は**小林向日葵**。昨年の中部新人で藤枝明誠を破る大金星をコート上で経験した大黒柱。中部新人最終日は欠場したが、その穴を心身で埋めたのが**漆畑颯**。他にも城南静岡中学時代に全中出場を経験した**高松天成・生子遥仁・塩坂優斗・小峯舞大**など有望な1年生を多く抱え、例年より高さで劣る分トリッキーなチェンジングディフェンスで堅実に守り切るバスケットが信条。2回戦で予想される両チームの戦いが今から楽しみである。

平成9年度以来、4半世紀ぶりに県新人出場を果たした**浜北西**もこのブロック。高校時代に全国ベスト8を経験、大学やB3ベルテックス静岡でも活躍した**菅川浩樹**監督着任3年目にして地道な指導が実を結び西部8位での出場。ボール運びが秀逸、若干ボールを持ちすぎてしまう傾向はあるものの自他を生かし切るプレーが魅力の**中村颯良**、がむしゃらにゴールに突き進む姿勢が好感を持てる**多田悠矢**、主将としてチームをまとめる**近都友祐**など菅川イズムが浸透した面々で県1勝を目指す。

このブロックの注目選手として、**中山諒・竹下絢都**（掛川西）、**杉山祥太・深澤亮太・成島翔也**（静岡大成）、**尾崎聖・村田烈・吉田優希**（日大三島）、**伊藤智泰・上別府辰悟・古川巧明**（沼津東）などを挙げたい。

左下のブロックには3連覇を目指す飛龍を中心に静岡学園・加藤学園など県大会上位常連のチームが集まった感がある。

東部新人覇者・**飛龍**は昨年のインハイ県予選以来の県制覇が今大会の使命。田村・ワシントンなど華のある選手は引退したが、今年のチームは山椒は小粒だがピリッと辛い選手が多く集まった感がある。そして何よりも飛龍のお家芸「留学生対策」が超一級品の留学生に通用するのか、大いに気になるところである。脈々と受け継がれる飛龍のキャプテンシーを胸に刻む**佐藤柚人**、ドライブや3Pを得意とする**野田悠峨**、シューター**瀬古迅・中原春翔**、ゴール下で献身的に体を張るチームの防波堤・**中村飛鳥**、ウインター県予選準決勝では途中出場ながらも18得点、極めて精度の高いフリースローも魅力の**澁木勇希**、ウインター県予選でレギュラーを掴み、死守できるかが楽しみな**中久喜光祐**、状況やプレーのツボを見極める眼力を持つ**竹村勇佑**、国体にも出場した**竹本雅矢・庄田斗星**、県内出身の**植田悠路・植木大夢**など多彩な戦力が一致団結して足掛け4年の3連覇を狙う。

その飛龍とブロック決勝で対戦が予想されるのが**静岡学園**。中部新人決勝では静岡商業に惜しくも競り負けたが個々の能力は他の上位チームと遜色なく飛龍とは接戦になる可能性が高い。常にコート全体を視野に入れて中でも外でも勝負が出来る司令塔・**石川凛久**を始め、恵まれたフィジカルを生かしてコール下のしのぎ合いで活路を見出す**大串泰雅**、大串とともにインサイドを支える**伊藤大和**、2年連続で国体選手に選ばれてチームの攻撃の起点ともなる**鎌田優芯**、つなぎ役に徹しながらも時折放つ3Pも魅力・**米内天馬**、中部新人を通して効果的に投入されて地道に役割を果たした**金城光史朗**、そしてチームで唯一選出された県選抜の一員として出場した東海国体で値千金の大活躍をして静岡県を本国体出場に導いた立役者・**味岡大斗**など気持ちと技術を連動させて県総体ブロック決勝でも熱戦を繰り広げた飛龍との再戦に勝ち、3大会連続の東海新人出場を狙う。

このブロックの注目選手として、**杉﨑旺亮・森優太・中村昊誠**（韮山）、**梅田将也・山田歩夢・櫻庭晴陽・石川琉斗・岡澤一颯**（加藤学園）、**青島史未也・伊村空雅・山田文太**（浜松湖東）、**中村脩人・山本烈輝・稲森颯汰・オクラロナン**（焼津中央）、**佐藤誠真・鈴木晃和・大長優友・田村勇人**（静岡市立）、**木下結斗・渥美稜平・鈴木朔也**（浜松聖星）などを挙げたい。

右上のブロックは中部新人で連覇を果たした静岡商業を県総体4位の浜松商業とウインター準優勝の浜松開誠館が追う展開が予想される。どのチームが決勝リーグのコートに立っているか想像がつかないブロックである。

静岡商業は今年度のインハイでも県6位、今回の中部新人決勝・静岡学園戦では一線からプレッシャーをかけ続ける厳しいディフェンスで相手の機先を制してロースコアのゲームに持ち込み競り勝って連覇達成、今大会でも公立高校唯一の四隅位置に入り、完全に古豪復活を果たした。攻撃の起点は1年生・**市川昊**。一言で言えば器用なオールラウンダー。攻撃の起点として、いつ何時、どんな所からも点が取れる得点感覚に優れた選手、決勝でも総得点の半分に迫る22点を挙げた点取り屋。そして市川を支えるのがセンター 184cm**根岸真叶**。豪快なリバウンドプレーとマークマンへの執拗なディフェンスはもちろん、プレーを重ねて心身ともに大きく成長し、中部新人ではチームプレーに徹する献身的な部分が多く目についた。まさに大きく成長した証、本人だけでなくチームにとっても大きな上積みとなった。

その他にも、誰よりも走り誰よりも一所懸命にボールを追い求めるキャプテン・**松野蒼空**、派手さはないがひたむきにリバウンドに精を出す**山本健**、司令塔として華麗なパスさばきと相手の隙をついて果敢に切れ込むプレーが醍醐味の**望月良依繁**、静岡学園戦で最終盤に大逆転劇の立役者となった**法月勇真**などを中心にインサイドプレーを起点にしながらも外からも攻められるバスケットで初の決勝リーグ、東海新人出場を狙う。2回戦では浜松開誠館、ブロック決勝では県総体で惜敗した浜松商業との対戦が予想される非常に厳しい組み合わせとなったが、粘り強く勝ち続けて大会に旋風を巻き起こして欲しい。

西部新人準優勝の**浜松商業**は県総体終了直後から新チームにシフトチェンジ、始動が早かった分、公式戦やリーグ戦での経験を通じての上積みも大きい。西部新人準々決勝・浜松開誠館戦で見せた会心の勝利は浜商バスケの真骨頂、今年のチームを物語る試合だった。

双子の佐藤兄弟がチームの中心、弟の**佐藤大地**が攻撃の要であれば兄の**佐藤空**は守備の要、二人とも激しいディフェンスと力強いリバウンドで速攻に繋げる攻守の起点でもある。他にも司令塔・**宮本剛都**、正確なシュートが光る**大石真弘**、文字通り走るバスケの申し子・**国本大翔**、両手を添えての丁寧なレイアップや鋭いドライブでチームに貢献・**齊藤怜央**、そして佐藤兄弟とともにミニバス時代全国も経験、恵まれた体格と超人的な跳躍力を生かしたダイナミックなプレーに将来性を感じる**枝村漱夕**など伸びしろあるプレーヤーを多く抱えるのが強み。伝統の激しく粘り強いディフェンスからの速攻で18年ぶりの東海新人出場を目指す。

西部5位・**浜松開誠館**も当然優勝候補の一角である。西部新人では浜松商業に惜敗したものの、昨年のウインター県予選では決勝まで進み藤枝明誠と激闘を演じたことは記憶に新しい。当時のスタメンも2人残っており、一気に藤枝明誠の対抗馬に躍り出る可能性も十分にある。

中心となるのは高精度を誇る3Pでチームだけでなく国体選手として静岡県選抜でも多大な貢献をした今大会注目選手の1人・**山下朔史**。持ち味はスピードだが、3P・ドライブ・合わせ・アシストなどすべてを上手にこなすユーティリティープレーヤー、ウインター県予選決勝でもチーム最多の17得点、そのプレーに県武道館が大いに沸いた。国体でもセンタープレーヤーとしてリバウンドを支配、元来はパワーフォワードであるが190cmの長身を生かしてインサイドを任されてリバウンド・1on1・スクリーンに汗をかく**工藤寧朗**を筆頭に、186cm**半場太刀**、187cm**野村煌貴**など長身選手が揃っているのも今年の特色、2回戦で対戦が予想される中部新人王者・静岡商業との対戦が今から楽しみである。

このブロックの注目選手は、**松尾大輔・鈴木漣・宇佐美倭**（磐田南）、**監物那由大・櫻井環・勝又琉陽・永田平郁海・安田一平**（三島北）、**大島唯翔・安井誠人・阪本圭亮・村上悠翔**（三島南）、**楊岩・近藤丈介・片山幸湧・市川翔大**（静岡）、**小松星南・竹内拓弥・荻野陽向**（東海大静岡翔洋）などを挙げたい。

右下のブロックはウインター 3位の浜松学院を中心に、地区新人1敗しかしていない沼津中央・静岡東・浜松西、ウインター8強の浜松工業など強豪校がひしめき合う激戦ブロックと言える。

西部王者の**浜松学院**は伊藤ハリーを始めとする主力の3年生がごっそり抜けたが、次の芽が着実に育ってきていて新チームへの新陳代謝がうまく行ったように思える。

新チームの中心は3Pシューター・**大倉成矢**。シュートエリアが広く、どこからでも長距離砲を打てるのが強み。シュートの判断力と正確性も併せ持つ大黒柱である。東海国体・栃木国体ともに全試合スタメン出場して勝利に貢献した**石原弘幸**は度胸満点果敢に放つ3Pが魅力、本国体では相手ブロックに阻まれる場面もあったがウインター県予選・藤枝明誠戦ではプレッシャーディフェンスの中でも効果的に2本決めるなど光明を見出した。他にも、その藤枝明誠戦で途中出場、11得点を挙げた**鈴木海成**、闘志あふれる激しいディフェンスがトレードマーク・**衛藤巧**、国体選手・**丸山昊太**、衛藤とともにインサイドを任される187cm**鈴木友真**など顔ぶれは一新したが充実した戦力は例年通り県内トップレベル。代名詞であるハードなディフェンスでリズムを作って速攻へとつなげる伝統バスケで藤枝明誠にどこまで肉薄するか楽しみである。

東部新人準優勝・**沼津中央**は1年生を中心とした布陣で今大会に臨む。中心となるのは東海国体・栃木国体全試合でスタメン出場、特に国体準々決勝・茨城県戦ではチーム最長のプレイングタイムを記録し最後まで相手に食い下がった1年生パワーフォワード**桐生武蔵**。この選手の特色は何と言っても187cmの長身を利したリバウンド。1試合で20を超える時もあり、特にディフェンスリバウンドには絶対の自信を持ちブレイクの起点となる。途中出場ながら国体2試合で25得点、ウインター県予選準々決勝でも下級生で唯一スタメン出場した**小林吏駒**も忘れてはならない。他にも国体予備選手にも選ばれた**新垣颯野・具志堅理大・前嶋天聖**など新進気鋭の面々が揃う。今年は高さがない分、速さとテクニック応酬、ブロック決勝ではウインター県予選準々決勝の再現となる浜松学院との対戦が予想される。幾多の名勝負を繰り広げた両雄の戦いは今大会屈指の好カードである。

その前に沼津中央は西部3位・**浜松西**との戦いが待ち受けるであろう。浜松西は昨年来主力を務める**竹内新・藤田虎伯・佐々木大河・太田雅人**を中心に**山田凌大・増田健大**などの控えを務めていた選手出場機会を得て成長、選手層の厚さはここ数年見ても随一である。積極的な交代策を用いてもコート上の選手レベルが落ちないのも強み。残念ながらウインター県予選は体調不良により4回戦で棄権したが、その分の雪辱を今大会で果たすべく沼津中央との戦いで競り勝ち、西部新人準決勝・4点差で涙を呑んだ浜松学院とのリベンジマッチに挑みたい。

このブロックの注目選手として、**千葉壮悟・鈴木遥**（常葉大菊川）、**岡元気・小澤柚貴・花村詩穏・新村俊樹**（静岡城北）、**辻大楽・鈴木心・中沢勇翔・鈴木小次郎・坂野陽翼・窪田遥斗**（浜松工業）、**福地海・荒木智哉・田中秀太・一瀬恩絆・稲葉司・望月大雅**（静岡東）、**石田朱蕾・藤井秀矢**（松崎）などを挙げたい。

女子

今大会も現在県内大会18連覇、121連勝中、まさに7年近く無敵の強さを誇り続け王者に君臨する浜松開誠館の総合力が今年も群を抜いている。そのような状況の中でも昨年来から下級生に経験を積ませ続けた市立沼津と浜松聖星、そして飛び道具を駆使して中部を制した藤枝順心の地区覇者勢が常勝王者を追いかける展開が予想される。

左上ブロックは中部覇者の藤枝順心とウインター県予選ベスト8・常葉大常葉の中部勢を中心とした展開となるだろう。

藤枝順心は中部新人決勝で静岡女子に快勝、初優勝を飾った。昨年は県総体で初戦敗退と本来の強さが影を潜めた感があったがウインター県予選ではベスト16、今回は中部を制して第1シード位置で2大会連続の東海新人出場を狙う。「空中戦」が今年のチームのお家芸、どこからでも誰からでも飛び出す長距離砲はわかっていても止められない。
原動力は何と言ってもキャプテン・**加藤咲空**。今まで何人もの優れた3Pシューターを見てきたが、いわゆる角度のない「0度位置」からことごとく難なく吸い込まれるような3Pを決める選手は見たことがない。特に左サイドから打たせたら諦めるしかない。この位置のシュートはバックボードを使ったバンクシュートが出来ないため相当な難易度となる。中部決勝でも3P9本を第2,3Qで決める離れ業を披露。シュートチェックやブロックを試みてもこれほどまでにリングに吸い込まれれば相手は意気消沈どころか戦意喪失してしまう。空中戦の申し子が県内の強豪相手にどこまで通じるか今から楽しみである。他にも、リバウンド・ルーズボールを追いかけ、ハイポストフラッシュも巧みにこなすなど数字に表れない貢献度が高い**石部希歩**、170cmの長身を利したポストプレーやリバウンドへの嗅覚が優れた**石田妃茉里**、加藤に負けじと思い切りのある3Pを決勝でも3本決めた**小池紫寿**、決勝第4Qだけで3P3本を含む13得点、冷静沈着に決めるフリースローも魅力・**高山莉良**の5人がスタメンの基本であるが、控えの**前林実希・増井弥生・杉山未緒**などもスタメンと遜色ない働きをこなす。激しいディフェンスと力強いリバウンドを武器に大会を席巻する予感が十分に漂う。

ブロック決勝で藤枝順心との対戦が予想されるのが前回大会準優勝・**常葉大常葉**。中部新人準決勝で対戦した両雄は最後まで一進一退の攻防を繰り広げ、最後に悔しい敗戦を喫した。今回はその反省を修正してまずは決勝リーグ進出を狙う。メンバーには下級生時から経験を積み続けた選手が揃い、キャリアとテクニックは各地区王者と全く遜色ない。特にオフェンスではスピードとパスランを重視、リスクの高い3Pに頼らず中でパスを回してスペースを見出し切り込むプレーを基本とする。連動してディフェンスも伝統のステイローでオールコートマンツーを仕掛け間合いを詰めることを徹底する。リバウンドで頑張る**佐野実咲**、ディフェンスにいぶし銀の働きを見せる**松本しずく**、1年生ながらウインター県予選準々決勝でもスタメン出場して晴れ舞台に立った**伊藤亜莉沙・植田柚希**、長身177cm**室伏理緒**、そしてスコアラー・中部新人3位決定戦で29得点、チームにとって貴重な3Pも繰り出す**大久保里香**などの戦力でブロックを突破し4年ぶりの東海新人、そして一気に8年ぶりの賜杯も狙う。

今大会唯一、県総体・県新人を通じての「県大会初出場」となる**常葉大橘**もこのブロック。中部新人決勝T2回戦で前年準優勝の駿河総合を僅差で破り早々に県大会出場を決めた。粘り強いディフェンスからルーズボール・リバウンドなど球際に執着し積極的にゴールを狙うバスケットが特徴、どこからでも得点に絡む**山本結心**やゲームコントロールが巧みな**長橋凛**、オフボール時に積極的にスクリーンをかけ相手ディフェンスの1歩目を封じるディフェンスがうまい**森田芽夏**などフレッシュなメンバーで「進取果敢」のスローガンのもと初勝利を狙う。

このブロックの注目選手として、**大竹伶奈・小澤菜々美・山西美優**（沼津西）、**今七星・宮本千華・岩切瑠杏**（浜松日体）、**青木詩・小泉凛音・中村目愛里・原田美涼・小柳夏実・望月美空・山本寧々**（静岡東）、**ワシントンジュリ・髙橋心杏・藤倉華音・福原彩**（加藤学園）、**宮野友里・池口凛・小林生実**（浜松湖東）を挙げたい。

左下のブロックはともにウインター県予選3位に輝いた市立沼津と浜松南がブロック決勝で相まみえる可能性が高い。

東部新人9連覇を飾った**市立沼津**は昨年来の主力がそのまま残り、円熟味を増した戦力で今大会に臨む。ウインター県予選準決勝・浜松学院戦では終盤驚異の追い上げを見せ、2点差で敗れたものの勝利への飽くなき執着心を見せてくれた。

キープレーヤーの**遠藤陽向**はオフェンスのバリエーションが多彩でどこからでも得点できるスコアラー、彼女が得点を重ねるとチームの調子も上向く相乗効果を生み出す。常に全体を見渡し仲間への声掛けも忘れない大黒柱である。**一藤花楓**は効果的に放たれる3Pに目が行きがちだか持ち味は堅いディフェンス。ボールマンに対するプレッシャーのかけ方は他の選手もお手本として一見の価値がある。**遠藤有菜**の魅力はリバウンド、164cmと決して大柄とは言えない体格で接触をも厭わない体の入れ方でボールを奪いに行く姿勢に拍手を送りたくなるプレーヤー。175cm・インサイドの**河谷真矢**はその類まれなる身体能力と跳躍力を生かして高い位置でボールをとらえるリバウンドが特色、ボールを下げることなくセカンドショットやウィークサイドにパスを落とし得点に結びつける。初動が速いドライブも魅力で、次の市立沼津を背負う期待の星である。

その他にも、途中出場した浜松学院戦で15得点、走りに走ったあとに打つフリースローもきちんと決めてさらにまた走り始めるなど無尽蔵のスタミナが目につく**勝亦麻結**、ショートコーナーからの3Pを得意とする**秋山叶羽**、174cmの長身を利したリバウンドに精を出す**横山文音**、巧みなミートからのジャンプシュートが上手い**小山内悠桜**など実戦経験を多く積んだ厚い戦力を誇り、今年は打倒・浜松開誠館の一番手との呼び声も高い。ディフェンスで果敢に1on1を挑み、必死にボールを奪ってブレイクにつなげて全員で走る伝統バスケで5年ぶりの東海新人出場、そして14年ぶりの優勝も狙う。

西部新人準優勝・**浜松南**ももちろん侮れない。県総体5位、ウインター県予選では準々決勝で県総体4位の東海大静岡翔洋を一蹴して3位、大会を重ねるたびに順位を上げていく快進撃を見せている。チームの「飛車角」にあたる**平澤心花咲・伊達咲良**を大怪我で欠く苦しい現状ではあるが､エコパ･県武道館でも大活躍し今年度の県協会優秀選手にも選出され安定したボール運びとハードなディフェンスで相手を翻弄する不動のエース・**忠内清**を中心に、チームの窮地を救うべく**鈴木愛唯・矢波芽依・川合菜摘**などの上級生と、絶妙なパスワークと精度の高い3Pで自らだけでなく仲間の良さも引き出す**山村梨心**、球際の泥臭いところで必死にボールを追い求める**吉田遥**、そして東海大翔洋戦・中盤に逆転の3Pを放ちチームをメインコートに導いた**輿水想来**の1年生トリオで厳しい現状を打破し、ハードなディフェンスから速攻につなげるバスケットで初の東海新人出場を狙う。ブロック決勝で予想される市立沼津との今年度初対決は見どころの多い戦いとなる。

昨年度の県総体に38年ぶりに出場した**富士宮東**は今回東部9位で県新人初出場を決めた。キャプテン・**横尾天音**はインサイドの体の強さ、スピード生かしたドライブ、ミドルからのシュートを得意とし、チームの精神的支柱でもある選手、**石川真琉**はクイックリリースで放つ3Pが魅力、東部新人でも流れを変えるシュートを何本も決め、コートバランスにも常に気を配る。**山崎苺花**はチームのブレーンとして攻守の管制塔的な働きをする。初戦から強豪との対戦となるが、スローガンである「百折不撓」のもと、全員が連動性のあるバスケットを心掛け、気後れすることなく勝利を目指して欲しい。

このブロックの注目選手として、**遠藤すず・船山穏香・森菜々子・田島圭乃・花枝咲和・吉川舞**（東海大静岡翔洋）、**松浦千夏・嵯峨有梨花・権田千遥**（浜松北）、**織田莉々菜・市川由那・高田ゆらら**（浜松東）、**前田殊伽・谷川原夢衣・中山志緒梨・増田悠伽・山田芽以・山道光葵**（静岡商業）、**吉田七海・清笑理・杉山侑里夏・中路優奈**（日大三島）を挙げたい。

右上のブロックはウインター県予選準優勝・浜松学院や3位・浜松南相手に圧倒的な強さを見せた西部王者・浜松聖星の強さが群を抜いている。

浜松聖星は6年ぶりに西部を制し一躍打倒・浜松開誠館に名乗りを挙げた。1年次から県選抜選手として東海国体に出場した選手を多く擁し、昨年度の県総体は7位、ウインター県予選はベスト8と快進撃を続けてきたが、今年度は県総体･ウインター県予選ともにベスト16止まり、悔しい思いを抱き続けてきたことは想像に難くない。西部新人決勝ではウインター県予選3位の浜松南に快勝、実力通りの力を発揮し始めた。

大黒柱は2年連続で国体選手にも選ばれた**大滝菜々子**。この選手を止めるのは容易ではない。西部新人決勝でも37得点、ドライブ･3P･ジャンパー･グッドパスなど様々なプレーがスピードに乗って繰り広げられるから相手はたまらない。相手がボックスワンで応戦してきてもマークマンをかいくぐって得点を導き出すエリートである。守備の要・**山下菜々美**は相手の一線からプレッシャーをかけてスティールやターンオーバーの誘発を虎視眈々と狙う。勝ち続けるチームには山下のような黒子に徹する縁の下の力持ちが必ずいるのは興味深い。インサイドには今年度国体選手に選ばれた**鈴木奏音**や昨年度の国体選手・**土谷陽菜**、そして**内山瑚子**と170cm級の選手を擁する。そしてこのインサイド陣は後半になっても運動量が落ちないのが強み、相当フィジカルを鍛えられている印象を受ける。個々の特長を生かしながら得点を重ねてリズムよくディフェンスも徹底するバスケットで9年ぶり、そして現校名「浜松聖星」になって初めての東海新人出場を目指す。

その浜松聖星とブロック決勝で戦うのは東部2位の**沼津商業**かウインター県予選ベスト8・西部新人4位の**浜松市立**、両雄は順調に行けば2回戦で対戦する。ともに粘り強いディフェンスが特長のチーム、タイプが似ているだけにたった1つのミスが致命傷につながるロースコアのシビアな戦いになること必至である。

このブロックの注目選手として、**鈴木榎奈美･庄司奈納･臼井小夏･清水杏那**（沼津商業）、**中森美里･仲安未来･澤渡歩**（静岡市立）、**坪井菜々子・木村実子・千葉かのん**（清水東）、**山田嘉乃・矢吹夏海・飯田綾夏・田中双葉**（三島北）、**河村紗彩・小林倖・鈴木沙季・野村侑永**（浜松商業）、**佐野満里奈・織田愛加・富髙華音**（飛龍）、**黛彩良・松下心・石山愛結・齋藤楚奈・北野杏純・石濱怜**（浜松市立）などを挙げたい。

右下のブロックは大会5連覇中の浜松開誠館が新チームとして初の県内試合に臨む。もはや連覇・連勝を伸ばすという数字だけの興味にとどまらず、どんなチーム作りをしてどのような内容で勝ち続けるのかにも注目が集まる。その浜松開誠館への

挑戦権を賭けてウインター県予選準優勝の浜松学院とベスト8の静岡女子が争う構図となるだろう。

浜松開誠館は昨年のウインター県予選で大会7連覇、8度目の出場となったウインターでは留学生を擁する強豪・開志国際に立ち上がり苦戦するも徐々に点差を離して快勝、5年連続の初戦突破を飾った。続く2回戦では過去最多出場を誇る昭和学院を破って出場した千葉経済大附属と対戦、残り2分まで一進一退が続く激戦を繰り広げたが惜敗、それでも全国に爪痕を残すとともに「浜松開誠館強し」という印象を与えた。3年間チームを支えた萩原・前田という両エースは引退したが、次の世代がすでに育っていて総合力が全く落ちないのが長期政権の秘訣、今年も充実した戦力が揃う。

中心となるのがウインター 2戦でもスタメン出場、全国トップレベルの選手相手に堂々と渡り合った1年生コンビ・**井口姫愛**と**後藤音羽**。中学時に全中・Jr.ウインターの2冠に輝いたキャリアを持つ井口は入学して即レギュラー獲得の即戦力選手。インハイ・ウインターでも「これが1年生か？」と思わせるプレーを連発して我々を魅了してきた。157cmの小柄でコート内を縦横無尽に走る姿はもはやトップアスリート、果敢にボールにアタックし隙あればスティールを試みる眼力と低い姿勢で相手に迫るハードなディフェンスは一級品である。後藤はインハイ後にレギュラーに定着、それまでは出場時間が限定されていたが元来実践的なプレーヤー、経験を積むにつれてポテンシャルを十分発揮、ウインターは2試合とも30分を超えるプレイングタイムとチーム最多得点を記録、2試合で41得点を挙げる見事な活躍ぶりを見せた。開志国際戦では190cmの留学生相手に一歩も引かない攻防を繰り広げ、特にタフショットを打たせ続けたディフェンスは将来を期待されたサラブレッドがまさに覚醒した瞬間、その奮闘を生配信で見ていた私も思わず「あっぱれ」とうなってしまった。178cmの長身と柔軟なフィジカルそして天賦のバスケットセンスを生かしながらさらに練習に精進して日本を代表する一流選手へと成長して欲しいと思う逸材である。

その他にも、インサイドには178cm**中老小雪**・175cm**杉山実子**・173cm**部桃菜**・172cm**細田琹愛**などの長身選手が多く揃い、中盤から外回りにかけてはウインターでも途中出場して得点に絡むだけでなくリバウンドでも貢献した**望月秋桜**やウインターで全国デビューを飾った**黒川芽衣**、国体選手の**山本さくら・八重柏憂奈・大杉光・岡田美紀**など例年以上に厚い戦力を誇る。未だ果たせぬ夢「全国4強以上」の目標を現実のものとするために、他チームの追随を許さない粘り強いディフェンスをさらに徹底し、まずは確実に県制覇を果たし、21年ぶりとなる「県勢東海制覇」を成し遂げて、次の夏そして冬につなげたい。浜松開誠館は新たな章に向かってスタートを切ったばかりである。

浜松学院は新チームを始動させて1ヶ月余りで西部新人に臨み3位、主力選手が大幅に入れ替わったためまだ調整不足の感は否めないが、尻上がりに仕上げてくることは間違いない。中心となるのは東海国体にも出場した1年生**ワネケジジュリエット杏奈**。173cmの長身と抜群の跳躍力を生かしたリバウンドには多くの将来性を感じる。他にも前チームのエース・足立琉那の妹でドライブを得意とする**足立珊那**、ウインター県予選では勝負所で投入されて得点を挙げて監督の期待に応えた**鈴木愛名華**、県武道館での決勝戦にも出場した**山田野乃実・相川樹由**、ともに174cmの長身で次世代のセンターを担うであろう**篠原美咲・高山璃世**など今後の成長が楽しみな選手も揃い、まずはウインター県予選決勝の再現・浜松開誠館との戦いまでたどり着きたい。

中部新人準優勝の**静岡女子**も浜松開誠館との対戦を目指す。昨年も上級生と下級生が有機的に作用するチーム作りをしていため主力の3年生が抜けても新チームへの移行がスムーズに出来た印象を受ける。ジャンプストップしてのミドルシュートを得意とする**本間梨乃**、ドライブを得意とする**川合心**、中部新人決勝ではチーム最多14得点を決めたクラッチシューター**山田梨央奈**、実戦経験を積みながらの成長を見せる**小泉美奈子・望月優那**など誰が得点源という訳でもなくどこからでも得点を呼び込めるのが特徴。長年チームを率いて全国の舞台にも3度導いた名将・**柘植夏也**監督最後の大会、7人の少数精鋭で1試合でも多く監督とバスケをして欲しい。

最後にこのブロックの西部2チームを紹介したい。2年連続で県新人出場権を獲得した**磐田北**は10年ぶりの出場となるはずだった昨年、まさかの大会中止、今年は満を持して11年ぶりに県新人の舞台に立つ。**澤井玲音**と**加藤胡乃琹**がチームの核、特に加藤はバスケを始めてまだ2年とは思えないセンスの持ち主である。過去優勝1回・準優勝2回の輝かしい栄光を持つ**西遠女子学園**も一昨年部員不足で予選に出場できず、昨年は浜松大平台との合同チームで予選出場、3年ぶりの単独出場となった今回は**平野菜陽**と**鈴木碧衣**を中心とした一丸バスケで浜松西との県新人出場決定戦を5人で戦い切り、最後の県切符を掴んだ。両チームとも厳しい組み合わせとなったが、最後まであきらめずにゴールを目指す試合をして欲しい。

このブロックの注目選手として、**芹沢怜南・勝又真唯・中達朝花・永井咲花**（御殿場南）、**五十嵐華音・辻村明日花・金田ありさ・江本瑠奈・御手洗寿奈**（三島南）、**新間美咲・太田奏夢・市川加恋・木下利彩**（島田）などを挙げたい。

地区予選から県新人までの10日間、世の中の感染状況やチームの状態、そして個々の心身バランスなどが刻一刻変化していくなかで、選手たちが感染症対策を徹底しながら体調管理に十分留意して万全の状態で大会に臨むことを心から願っている。

令和5年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

令和5年度第71回全国高校総体静岡県予選が令和5年5月27日に浜松市立高校体育館他で開幕する。まずは大会概要に触れさせていただく。昨年コロナ対応により5日間で実施されたこの大会、今年は従来の形式に戻り4日間で実施する。最大のレギュレーション変更は今年から決勝リーグ制を廃止し、**トーナメント制**に変更となった。しかしながらウインター県予選とは違い完全トーナメント制ではなく、5位決定Tと東海総体出場権を賭けた3位決定戦も行う。これは令和元年度から静岡県の全国総体出場枠が男女各2枠から1枠となったことから、トーナメント制実施に踏み切ったと聞く。上位チームは最大5試合、2日目以降は1日1試合の実施となり、よりその試合に専念できる環境が整った。28日に**引佐総合体育館（引佐アリーナ）**で行われる準々決勝を制した4校による準決勝と**5位決定トーナメント**が6月3日に**エコパアリーナ**で行われ、4日に同じくエコパで決勝戦と3位・5位決定戦が行われる。優勝校は7月27日から北海道札幌市・**北海きたえーる（北海道立総合体育センター）**他で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月17,18日に地元浜松市・**浜松アリーナ**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。

令和元年末から全世界で猛威をふるい続けた新**型コロナウイルス感染症**も完全収束とは言えないが、今年5月8日から**感染症法上の5類相当**に引き下げられて分類されるようになり、いわゆる季節性インフルエンザと同じ扱いとなった。県協会および県高体連ともに同日をもってコロナ対応ガイドラインの適用を終了し、事業・活動に対し原則行動制限を行わないこととした。そしてマスク着用・手指消毒などの感染症対策も個々の判断に任されることとなった。従って今大会は試合観戦の人数制限等行われないこととなり、4年ぶりに観客と声援が戻ってくるとは大変喜ばしく、まさに4年前以前の**ビフォーコロナ**にタイムスリップしたかのようであるが、我々運営側・応援する側、そして選手・スタッフも**アフターコロナ**を見据えた感染症対策を十分に施し続けて大会に臨む必要があるように思える。**ウィズコロナ**からアフターコロナへの変革過渡期での実施となるが、運営面でも細心の注意を払っていきたい。

今年度も例年同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末の**ウインターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が増枠となる。そのためにも各県はより強いチームを東海総体に送り込み、ウインターの追加出場枠を獲得する使命も担っていると言えるだろう。

さらにこの大会は**全日本選手権（オールジャパン）県予選**の出場選考も兼ねており、上位2チームは8月26,27日に静岡県バスケの聖地・**静岡県武道館**で行われる県代表決定トーナメント大会の出場権を獲得することはご承知の通りだが、昨年に続き8月に愛知県および三重県で2度目の開催となる「**日清食品U18東海ブロックリーグ**」への出場義務も負うこととなる（すでに藤枝明誠は「**日清食品U18トップリーグ**」への出場権を獲得しているため、男子は状況によって3位が繰り上がりで出場する可能性もある)。このリーグ戦は全国屈指の激戦区・東海ブロックの強豪校と連続して対戦する絶好の機会であり、チーム強化にとってはこれほど効果的な「良薬」はない。その証拠に昨年度本県から出場した男女4校は他チームが味わえない貴重な経験を積み上げて4校ともウインター県予選決勝の舞台に戻って来た。もちろんどのチームも今大会での勝利が最優先事項であるが、長期的な強化ビジョンを考えればこの大会への出場権も是か非でも手に入れておきたいと思っているであろう。

今大会からトーナメント制になったことで優勝・全国を目指すチームは絶対に負けが許されないという緊張感のある戦いが求められる。決勝リーグ制の時は1敗しても得失点差で優勝、また全国総体出場枠が2枠あったときは2敗しても全国出場が決まるという場合もあった。しかしながらこれからは1敗も許されない戦い、たとえ1点差でも勝ち続ける以外全国への道はない。そういった意味で緊張感あふれるトーナメント制の醍醐味を味わっていただきたい。

コロナが5類相当に引き下げられたことになり、感染者数も全数把握から**定点把握**に変わり、流行の度合いがわかりづらくなっているが、潜在的な感染者も間違いなくいるはずである。現に先日発表された初の定点発表では県内は増加傾向にあるという発表も出された。今後も各自最大限の感染症対策をしていただき、プレーも応援も「アフターコロナの意識」でバスケットボールを楽しんでもらいたいと思っている。コロナ禍4年目で迎える今大会、コロナだけでなくインフルエンザでも学級閉鎖などという報道を時折耳にする。今大会も棄権チームを出すことなく全日程が終了することを心から祈っている。

なお、この大会展望執筆においては、私の右腕として職責を務めてくれている**山口裕史**県協会広報副委員長に多大な御尽力をいただいた。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、情報収集の場を提供してくださったチーム関係者皆様にも心から感謝の意をお伝えしたい。

男子

今大会も新チームで県新人・東海新人を圧倒的な強さで制した藤枝明誠の強さが群を抜き、場合によっては独壇場となる雰

囲気を感じさせるが、浜松開誠館や飛龍など東海新人を経験した各地区覇者が独走を許すまいと鉄壁の牙城を崩すために猛追する図式が展開される。

まずは左上のブロック、大会連覇はもちろん、東海総体・全国総体制覇まで見据える藤枝明誠を中心とした争いになる。そして準々決勝での藤枝明誠挑戦権を賭けて対戦が予想される静岡学園と浜松工業の争いも興味深い。

敢えて華麗なる戦績を説明する必要はないかもしれないが、昨年はインハイ・ウインターともに全国3位、前述のとおり県新人・東海新人でも圧勝、今年も全国トップレベルの力を維持する**藤枝明誠**が第1シード。昨年度の実績から今年はU18トップリーグにも参加することになった。4月に入学したガンビア出身留学生の来日は県総体に間に合わない可能性もあるが、既存の留学生と優れたシューターを中心としたオフェンシブなバスケットは今年も健在、中部総体決勝でも静岡学園を攻守で圧倒、言わずもがなの優勝候補大本命である。
個々の選手の特徴に関してはすでに書き尽くしている感があるが､最上級生となり正真正銘のエースに成長した**赤間賢人**は、将来日の丸を背負う姿が想像できる逸材、ゲームキャプテンを拝命してよりプレーに責任感が出てきたように思える。東海新人や中部総体を見る限りプレーの本質は変わることないが、精度の高いシュートだけでなく試合を重ねるごとに厳しくなる相手マークをまるで楽しんでいるかのように引き付けてスペースを見出しパスで周囲を生かすテクニックが見られるようになった。インサイドには日本のバスケットにも順応してきた208cm**ボヌ・ロードプリンス・チノンソ**が待ち構える。私も県内外多くの留学生を見てきたが、現在の高校生留学生としては全国ナンバーワン、日本に来た歴代留学生の中でも5本の指に入る実力の持ち主と断言したい。高さだけを生かしたいわゆるポートボールバスケにならないよう細心の注意を払い、常に動いてコート内の動きを把握しながらその状況でチームにとって最善のプレーを選択できるクレバーな選手、リバウンド・パス・スクリーン・フラッシュどれを取っても一級品である。あとは東海新人でも見せた試合中に生じるストレスを周りが早めに察知し､コミュニケーションを取ってガス抜きをしてあげると今以上に実力を発揮できるはず。15歳で慣れない異国に単身で来て、言葉の壁、文化の壁と闘いながらバスケットと勉学にひたすら打ち込むことは容易ではない。県・東海・全国と続く総体を通じて技術だけでなく心の成長を温かく見守りたい。
その他のプレーヤーでは、今年になって出場機会が増えた新進気鋭の面々となる。ガードの**小澤朋樹**、恥ずかしながら私はこの選手のことを県新人まで全く意識をしていなかった。東海新人では3試合で48得点、特に3P4本を含む22得点を挙げた桜丘戦は彼の活躍なしでは勝利はありえなかったほどの大活躍、私もゴール下で写真を撮りながらそのポテンシャルに目を見張った。東海新人決勝で初スタメンを勝ち取りいぶし銀のプレーで11得点を稼いだ**大塚絢心**は数少ない県内出身選手、応援にもより力が入る。ガードを任された**天田虎之介**も新チームで機能する姿が見られた。他にも、中部総体決勝でスタメン出場した**野澤洸汰･野田凌吾**、同じく途中出場して気を吐いた**柴田陽･斎藤匠**、そしてついに未完の大器がベールを脱いだ**片山ジャズウェル**など他県の強豪チームもうらやむ充実度満点のチーム。金本監督になって迎える初の総体となるが、目標は県総体連覇だけでなく、東海総体を制して静岡県にウインター出場のもう一枠を引き寄せ、最後には県勢男子初となる全国総体も制してさらにもう一枠をも呼び寄せてくれる、そんな楽しみも覚えさせてくれる全国トップレベルの強豪である。

その藤枝明誠と初戦で戦うのが今回17年ぶりの2度目の出場となる**浜松学芸**。平成8年に信愛学園から校名変更して男女共学化、同時に部も創設して28年目、西部地区最後の県切符を勝ち取った。身体能力に優れた選手が多く、1on1で得点を重ねていくのが特色。強いフィジカルと優れたボディバランスを持ち、自らコースにカットインしてシュートをねじ込むポイントゲッター・**鈴木宏侑**を中心に全員で守りリズムよく攻撃につないでいくチーム。3Pシューター・**碇石優希**、主将・**岸井勢**、1年生ながらコートでチームに貢献する**太田優真**など県で戦える戦力が整った。県大会初勝利を狙うにはあまりにも高くそびえるガリバー相手となるが気後れすることなく立ち向かっていって欲しい。

静岡学園は中部2位で出場した県新人で東部9位・韮山にまさかの敗戦、しばらく記憶にない県大会初戦敗退となった。雪辱を期して臨んだ中部総体では中部新人決勝で惜敗した静岡商業に競り勝ち、中部2位で今大会を迎える。司令塔・**石川凛久**が常にボールを持ちながらコートバランスを見極めて指示を出す姿が印象的、インサイドの**大串泰雅**は元来3Pも含めて何でも器用にこなすオールラウンダー、チーム内ではリバウンダーに徹して高い位置でボールを試合し攻守の起点となっている。他にも国体にも出場した**味岡大斗・鎌田優芯**に加え、**米内天馬・伊藤大和**などの上級生、将来性豊かな**金城光史朗**、さらには中部総体決勝でもスタメン出場した**小永井優磨**や高い位置でしなやかボールをリリースするジャンプショットが魅力の**内山直陽**、早々にベンチ入りを果たし途中出場の機会も得た**大長真士**などの1年生も戦力として機能、個々を生かしつつも連係を怠らないバスケットで浜松工業を撃破し、藤枝明誠との再戦にこぎつけたい。

浜松工業は西部5位ながら第8シード位置、こちらも藤枝明誠への挑戦を目指す。個人の能力が高く、チームとしても高いポテンシャルを秘めており、波に乗ったら止められない勢いのあるチームである。エース・**辻大楽**は184cmの長身を生かしたインサイドプレーだけでなく運動量の多さにも目を見張る。そのうえ加速スピードも一級品で速さでもチームに貢献する大黒柱。自らの「ゾーン」に入ると手が付けられない無双状態、ヘルプディフェンスも難なく突破する。他にもスコアラーの**鈴木心**をはじめ**鈴木小次郎・坂野陽翼・中澤勇翔**、そして西部総体5位決定戦で途中出場、鈴木心と並びとチーム最多の21得点を稼ぎ、高いハンドリング力と突破センスを見せながらタイミングをずらしてディフェンスを抜くハイクオリティーのプレーを見せた**大城愛翔**などの面々でまずは静岡学園との戦いに挑む。

東部9位・**富士宮西**は19年ぶりの県総体出場、これは男女を通じて1番のロングスパンを隔てた出場である。しかも今大会での敗戦は三島南戦1試合のみ、今回は県大会での勝利も目指せる勢いを見せる。統率力が輝く3Pシューター・**深澤和加**、小

柄なからも強いメンタルでチームを鼓舞する**折戸優太**、独特なリズムや間合いで相手を翻弄する**若林立樹**、下級生のオールラウンダー・**今村奏太**、ブレイクの起点となり3Pをも繰り出す**小長井謙達**などを中心に初戦突破を目指す。

その他の注目選手として、**大島唯翔・新藤楓月・室伏駿希・瀬川ジョエル・村上悠翔**（三島南）、**梅田将也・山田歩夢・櫻庭晴陽・石川琉斗・井上颯悟・岡澤一颯**（加藤学園）、**木下結斗・鈴木朔也・安間孝太郎・渥美稜平**（浜松聖星）などを挙げたい。

左下のブロックは、西部2位・浜松西と同じく3位・浜松学院との一騎打ちになるであろうが、両チームはその前に実力派・中部3位城南静岡と東部4位星陵との熾烈な戦いが待ち受ける。

浜松西は県新人で浜松商業に5点差で敗れ7位に終わった。今回は西部総体で準優勝して第4シード、積極的なディフェンスでボールを奪取、決断と展開の速いオフェンスで好機を作り出すバスケットを展開する。体勢が崩れてもシュートまで持ち込むミスタータフネス・**山崎達也**と高い身体能力とシュートセンスで積極的に1on1を仕掛ける183cm**藤田虎伯**が攻撃の主軸、西部総体でも平均して6割が2人の得点である。他にも**佐々木大河・太田雅人・末永悠翔・鈴木遥大**、そして精神的支柱・**竹内新**など多彩な面々がそろう。順調にいけば準々決勝では浜松学院と対戦、技術面では私学勢と互角以上に張り合うものを持つだけに、体力面で負けないよう徹底したトレーニングを行い県新人ではブロック決勝で完敗している相手にリベンジし、10年ぶりの県総体4強、そして25年ぶりの東海総体出場を目指す。

県新人4位・**浜松学院**は西部総体準決勝で浜松開誠館相手に6点差で敗れたものの浜松商業には快勝し3位で今大会に臨む。卒業した先輩たちより若干フィジカルや器用さで劣る分、実直かつ気持ちの面で頑張る姿が伝わるチームである。伊藤ハリーのようなずば抜けた選手はいないが､平均的に粒ぞろいの戦力が揃う。インサイドの高さとディフェンスへの意識は県内屈指、そのアドバンテージを生かして相手を封じオフェンスに転じて得点を重ねるスタイルが今年の浜学バスケと言える。特に187cm**衛藤巧**や**伊藤匠**､そして**西垣玲央**のセンター陣が不器用ながらも愚直に熱心にインサイドを支える。昨年来主力を務め、インサイドからアウトレットでパスアウトされたボールを高い精度で3Pを決める**大倉成矢**をはじめ**鈴木海成・石原弘幸**なども3Pシューター、さらに浜松与進中時代に全中3位、HAMAMATSU BRUSHの一員としてJr.ウインターにも出場した大型新人・**末永蒼**が加入、西部総体3位決定戦でも堂々スタメン出場し3P3本を決めた。浜松西との戦いを制し昨年ブロック決勝で逆転負けして大魚を逃した藤枝明誠との再戦にこぎつけたい。

このブロックには、中部4位・昨年から主力を担い高身長とは言い難い高さでインサイドを任されて一所懸命に献身する**小林向日葵**を中心に全中出場経験を持つ**高松天成・生子遥仁・塩坂優斗・金剌琥幸**、そして中部総体でもスタメン起用された1年生・**佐野翔礼**など恵まれた戦力で今大会に臨む**城南静岡**や、県新人6位・その5位決定戦ではシューター・**増田圭吾**が序盤から3Pを連発し26得点、他にも同じくシューター・**川崎蒼汰・熊谷厚汰**、献身的にリバウンドを取りに行くインサイドの砦・**谷村遥斗**、キャプテン・**小澤希星**などポジションバランスがいい東部4位・**星陵**など準々決勝進出の可能性を感じさせるチームがいるのも興味深い。特に星陵は長年チームを率いて東海新人へ2度導いた**須藤剣吾**氏が系列校の静岡北へ転任、**野沢滉太**新監督のもと心機一転で臨む県大会の初陣に注目したい。

その他にも、**中村脩斗・稲森颯汰・山本烈輝・藤田侑・オグラロナン**（焼津中央）、**田中秀太・一瀬恩絆・荒木智哉・福地海・稲葉司・望月大雅**（静岡東）、**伊藤智泰・上別府辰悟・古川巧明**（沼津東）、**鈴木李胡・鈴木遥・千葉壮情・野中廣人**（常葉大菊川）などを注目選手に挙げたい。

右上のブロックは西部王者の浜松開誠館を沼津中央と静岡商業が猛追する展開が予想される。

浜松開誠館は一昨年ウインター県予選を制して初の全国大会出場を果たして以降、県総体･ウインター県予選ともに準優勝、県新人3位と安定した成績を残している。東海新人でも三重2位・津工業には鮮やかな逆転勝ち、全国常連の桜丘相手にも大善戦し、激戦区・東海の中でも実力的に上位チームであることは間違いない。攻撃バリエーションが多彩で個々の選手がどんな場面でもシュートを決める｡追い詰められても慌てずに貫禄ある試合運びを演じて相手を突き放すのが特徴｡今年もテクニック・フィジカルともにさらにパワーアップした大黒柱・山下を中心に全員で攻めて全員で守るバスケットを展開する。

山下朔史は国体にも出場した3Pシューター、今大会注目選手の一人である。攻撃的なポイントガードとして自ら突破して得点を積み重ねる場面はもちろん、アシストやスティールなどで間接的に得点に絡むシーンも見られるようになった。インサイドの柱はこちらも国体選手・日本人県内最高身長191cm**工藤寧朗**。津工業戦ではゴール下に仁王立ちする力強いディフェンスで相手の攻撃を封じ、オフェンスではチーム最多の20得点で勝利に貢献、ゴール下の空いたスペースでボールを受けて確実に決めることができる選手である。フォワードの**川島純**は当たり負けしない強靭なフィジカルが持ち味、情熱的なバスケの中にも冷静さを忘れず落ち着いたプレーを見せる頭脳明晰プレーヤー、一言でいうと天才肌と言える。**萩田凌平**は県新人以降出場機会に恵まれて本来の実力を発揮、特に津工業戦では序盤に4連続得点を記録するなど波に乗ったら手を付けられない選手、相手が慌ててマークを厚くすれば工藤を使っての合わせで得点を導き出す試合巧者、東海新人では2試合で26点を記録した｡西部総体決勝は終盤に無念のファウルアウトをしてしまったがそれまで25得点､チームのスコアラーにもなりつつある。もともとJr.ウインターにも出場した実績を持つキャリアある選手、このような渋い選手に注目して感染するのも面白い。その他にも**小野田祐之・甘日岩仁・木村郁斗・岸川藍佑**、そして昨年度の県協会U15優秀選手にも選ばれた**高森カイル**など他チームもうらやむ熱い戦力、準決勝で予想される県新人で惜敗した飛龍との再戦を制し、藤枝明誠にも競り勝って悲願の初優勝、

そして初のインターハイ出場を手中にしたい。

東部総体準優勝の**沼津中央**は東部総体を見る限り怪我人を抱えて本調子とは言いにくい状態だった。そのような状況下でも並み居る強豪を倒して準優勝を果たしたのはさすが、県総体までには万全な状態に仕上げてくるだろう。昨年の県総体は2回戦で静岡商業に逆転負け、県新人も2回戦で浜松西に2点差で敗れて上位進出を逃した。背水の陣で今大会に臨む。東部総体決勝・飛龍戦では滑り出しでオフェンスの歯車が噛み合わずリードを許してそのまま逃げ切られてしまったが、元来強烈なプレッシャーをかけたハードなディフェンスでリズムをつかみ、怒涛のオフェンスで相手を追い詰めるバスケットが魅力のチーム。先日OBの岡田雄三が主将を務めるベルテックス静岡のB2昇格を賭けたプレーオフをチームで応援、劇的に昇格を決めた瞬間を目の当たりにして夢と勇気を与えられ、自チームにも何か得たものがあったはずである。
3年生は**上里颯慎**を始めとする3人の少数精鋭ではあるが、下級生に県内屈指のリバウンダー 188cm**桐生武蔵**とウインター県予選準々決勝でスタメン出場して得点も決めた**小林吏駒**の国体選手コンビを始め、**新垣颯野・具志堅理大・前嶋天聖**など将来性豊かなホープが揃う。目指すは2年ぶりの東海総体、そのためにもまずは2年連続2回戦での対戦が予想される静岡商業との雪辱戦、昨年の借りを返すためにも絶対負けられない一戦となる。

昨年の県総体で6位入賞を果たした**静岡商業**は中部総体準決勝で静岡学園に競り負けたが、翌日は城南静岡を振り切り3位で県総体に臨む。このチームは何と言っても次世代の逸材である**市川昊**。この展望で何人ものオールラウンダーを見出してきたが正真正銘・高次元のオールラウンダーである。ドライブしてもよし、外から打ってもよし、崩れた体制で打ってもよし、そしてその高い精度は相手の戦意をも奪い取るまさに手の付けられないプレーヤー。しかしながらチームも彼に依存するわけではなく、多くの選手が多彩なバリエーションの攻撃を繰り出せるところも魅力、ディフェンスでも一線から鬼気迫るプレスをかけて相手の出鼻をくじく。インサイドには強靭なフィジカルを持つ**根岸真叶**、球際の泥臭いプレーに汗をかく**山本健**、スピードあふれる司令塔・**松野蒼空**、要所で3Pを決める**望月良依繁**、有事に備えて気持ちを高めながら出番を待つ**宇江喜創太**、そしてベルテックス静岡に新設された「ユース育成特別枠」として選手登録された実績を持つ**北堀遥大**など充実した戦力、2回戦で対戦が予想される沼津中央を返り討ちし、県新人6点差で惜しくも敗れた浜松開誠館にリベンジを果たしたい。

その他に、**井上亮星・栗橋大寿・刈谷蓮・寺尾楓河**（富士宮東）、**片嶺大清・竹内拓弥・小松星南・新海涼太・池谷佑月**（東海大静岡翔洋）、**尾崎聖・村田烈・吉田優希**（日大三島）、**青島史未也・伊村空雅・山田文太・清水彪牙・間瀬直也**（浜松湖東）、**鈴木翔太・鈴木仁・大石修也**（袋井商業）などを注目選手に挙げたい。

右下のブロックは強豪・飛龍に浜松商業・三島北、そして後述する韮山・静岡城北など能力の高いプレーヤーが有機的に機能して高い総合力を発揮する公立勢が立ち向かう絵図が想像できる。地力のあるチームが多く揃う、いわゆる「群雄割拠・死のブロック」とも言えよう。

県新人準優勝・東部総体王者・**飛龍**は2月の東海総体を最後に10年間監督務めた**原田裕作**氏が退任、母校・福岡第一高校のアシスタントコーチへと転身した。全国大会出場9回、原田氏が残した功績と指導は飛龍だけではなく静岡県のバスケット界にも多大な影響を及ぼした。特に留学生対策として徹底させたディフェンス時の「脚の使い方」は見ている側にもまさに目から鱗であった。新監督には長年原田氏の懐刀として帝王学を学んだ**大石康史**氏が就任、アシスタントコーチには二人の愛弟子である**原千容**氏が着任､新生･飛龍がスタートしたと言ってもいい。前監督のいいところを財産として残しながら､新しい「色」も取り入れて出発した東部総体は決勝でも沼津中央に圧勝、力の差を見せつけた。どこからでも点が取れるオフェンスとオールコートのプレッシャーディフェンスがきちんと機能し、より一層迫力が増した感がある。
脈々と飛龍に受け継がれるリーダーシップは**佐藤柚人**が発揮、ポイントカードには**渡邊光**や県新人での活躍が記憶に新しい**澁木勇希**、時に下級生司令塔を任される**竹村勇佑**、スモールガードとしてこちらも飛龍伝統「アウトサイドの魔術師」を踏襲する**野田悠峨**、県新人決勝リーグで途中出場ながら得点を量産した**瀬古迅**、ディフェンスの要・**阿部光音**、フォワードに内外中盤どこからでも得点できる**中久喜光佑**、成長著しい**植木一夢**、インサイドには県新人・東海新人でも前監督に辛抱して起用されて花開いた**植田悠路**、ゴール下のリバウンド位置に肩から入って占有し、恵まれた脚力で膝を有効に使ってより高い位置でボールを捕らえる**中村飛鳥**、ローポストプレーに成長の跡が見える**竹本雅矢**などどのポジションにもバランスよく能力の高い選手が散らばる布陣、原田前監督へ全国総体での「恩返し」を胸に、2年ぶりの賜杯奪回に挑む。

県新人5位の**浜松商業**は昨年この大会で10年ぶりに決勝リーグ進出、結果は4位となったが最終戦最後の最後まで東海総体出場の可能性を残した戦いを演じた。直後に思い切って新チームに移行、1年間手塩にかけて育てたメンバーで11年ぶりの東海総体出場を狙う。平均的に上背のある選手が揃い、ゴール下に切り込んだ勢いでシュートを決めて得点を重ねるバスケを特徴とする。不断の努力で急成長、カットインから突破口を見出す**国本大翔**、力強いドライブが魅力・**佐藤大地**、ディフェンスでチームを支える**佐藤空**、フォワード選手ながらもキックアウトして外からの3Pを見事に決める**神谷将太郎**、司令塔として全体を掌握しながらプレーを選択、3Pを絡めて連続得点を決めるケースが増えた**宮本剛都**、県新人・5位決定戦でもスタメン出場して天賦の跳躍力でリバウンドを支配して勝利に貢献した**枝村漱夕**などの戦力で、新チーム始動から1年の集大成としてまずは確実に準々決勝まで勝ち上がり、準決勝での対戦が予想される飛龍戦に臨みたい。

私学勢が群を抜いて力を発揮している東部で星陵との接戦も制し3位を勝ち取った三**島北**の存在も面白い。このチームは188cm**桜井環**を筆頭に184cm**監物那由大**,183cm**杉山煌**,同じく183cm**芹澤颯馬**など高身長の選手が多く、スタメンが180cmを超える試合ありまさに「ビッグラインナップ」となることもある。恵まれた体格を生かして効果的に投入されるゾーンディ

フェンスから相手攻撃の機先を制しブレイクにつなげる速い展開のバスケットが魅力。他にも**勝又琉陽**や**安田一平**など目を見張るプレーヤーが多く揃う。2回戦で対戦が予想される浜松商業との公立高校対決は楽しみな一戦となる。

今大会1回戦屈指の好カードとして「**韮山－静岡城北」戦**を挙げたい。**韮山**は東部9位で出場した県新人1回戦で中部2位・静岡学園を破るアップセットを演じた。限られた練習時間と他チームとの体格差を埋め合わせるために常に攻守でイニシアチブを取りに行くバスケットスタイル。攻守の要・オールラウンダーでもある**星谷瑞貴**を中心に、柔らかいシュートタッチから颯爽と3Pを放つ**秋津有**、162cmという小柄のハンデをものともせず、飛び込みのリバウンドと抜群の運動量を生かしたディフェンスに境地を見出す**山田廉太朗**、下級生ながら飛び抜けたバスケIQを持ちどのポジションも器用にこなすユーティリティープレーヤー・**萩原諒**、類まれなキャプテンシーでチームを牽引する**森優太**などの戦力で東部総体5位を勝ち取った。
対する静岡城北は内外から得点が取れるバランスの取れた好チーム。本校もリーグ戦・中部新人で対戦したがロングシュートがさく裂し、手も足も出ずに完敗した苦い思い出が蘇る。外まわりから下級生の**小澤柚貴・新村俊樹・花村詩隠**の長距離砲トリオが躊躇なく3Pを放ち、決まりだしたら止まらない。大黒柱・**岡元気**は1年次から試合に出場、ミスをしても監督が我慢と粘り強い指導を重ねて辛抱強く起用し続けて才能を開花させた「城北バスケの傑作」、特に左サイドから巧みなステップで決めるレイアップは芸術品と言える。その他にも努力で出場機会を勝ち取った努力の人・**池ノ谷瑠海**や玄人好みのするバイプレーヤー・**山本空**なども貴重な戦力、攻守に穴が見当たらない。東部覇者・飛龍への挑戦権を賭けた熱い戦いになること必至である。

その他の注目選手として、**楊岩・片山幸湧・近藤丈介・増井悠人・中村遥希**（静岡）、**大長優友・鈴木泰知・鈴木晃和・田村勇人**（静岡市立）、**中山諒・竹下絢都・杉田知駿・村松直幸**（掛川西）を挙げたい。

女子

こちらは現在県内高校大会19連覇,131連勝,7年以上無双の強さを続ける浜松開誠館が今年も頭一つも二つも抜けている感がある。しかしながら各地区の上位校が独走を許すまいと追撃し、まずは東海総体出場、そのうえでて県総体優勝を目指す構図が予想される。

左上のブロックはその浜松開誠館が第1シード、そして開誠館への挑戦権を賭けて2回戦で対戦が予想される西部5位・浜松商業と東部2位・沼津商業がしのぎを削る展開となるだろう。

県新人6連覇を果たした**浜松開誠館**は東海新人初戦で愛知2位・安城学園に逆転負け、初戦敗退となった。私も監督記者会見と選手の囲み取材に立ち会ったが、悔しさが随所ににじみ出ていていたたまれない悲壮感を感じた。その悔しさを挽回するために日々さらなる精進を重ねたであろう、西部総体を見る限りチームの完成度も高く、プレーのクオリティーも一段上がったように思えた。
チームの中心となるのは2年生・**後藤音羽**。安城学園戦でもチームの1/3に相当する27得点を挙げ孤軍奮闘、西部総体では本人も以前から気にかけていたリバウンドレシーブ時に無意識に腕が下がり相手にチップされてしまう癖も、ヒジはアゴ付近、ボールは目線よりやや上に置き次のプレーに瞬時移行できる体勢に修正されており対応能力の早さに感心せずにはいられなかった。今月に入ってU16日本代表にも選出され、父母に続き本人も日の丸を背負う栄誉を授かった。重責を担いながらのプレーになるが、自チームの練習はもちろん、強化合宿で培った成果も私たちに是非見せてもらいたい。2,3年前までは高さが唯一の弱点などと言われていたが、まるでそれが嘘かのようにチームが大型化、県内最高身長178cmの後藤をはじめ、同じく最高身長178cm**中老小雪**,175cm**杉山実子**,173cm**部桃菜**,172cm**細田栞愛**、さらにルーキー 175cm**小幡美空**が加わりさらにインサイドが強化されて、ますます穴のないチームとなった。そのインサイドには入学早々からレギュラーを務めるキャリア満点の**井口姫愛**、東海新人でも3P4本を決める活躍を見せた。ミートからリリースまでの時間が極端に短く相手ディフェンスにチェックの間合いを与えず思い切りよく打つのが特徴、今大会でも後藤とともに得点を量産してくれるはずである。中学・国体・高校と続けてキャプテンを任されている**望月秋桜**は個性派軍団を上手にまとめ上げて、それぞれのうまさを引き出す選手、黒子に徹することもあるがリバウンド・ルーズボールで積極的にボールキープにも汗をかく。その他にも東海新人途中出場を果たした**渡邊妃芽莉・黒川芽衣**、一年生ながら西部総体でもスタメン出場した**前川桃花**などフレッシュかつ才能あふれるプレーヤーを多く抱えている。県総体優勝はもちろん、全国最激戦区・東海での優勝、その先には全国総体上位進出を目標に設定していることと思うが、まずは県で盤石な強さを見せてこの先も開誠館時代が続くことを示して欲しい。

浜松商業は西部総体準々決勝で浜松南に惜敗したものの、5位決定戦で浜松市立に競り勝って第8シードを確保した。チーム全体でボールを速く動かしてノーマークを作りそのプレーヤーがシュート、速攻が可能であれば一気に縦パス一本でドリブルシュートまで持っていく、いわゆる「ラン＆ガン（ギブ＆ゴー）」のスタイルが特徴、万能型の選手が多く集まっている証拠である。全体的に高さがありながらも速いテンポ感でオフェンスを展開していく。キャプテンで司令塔の**河村紗綾**は広い視野とここぞの場面で決めきる力が魅力、中にドライブで切り込んでレイアップ、仮に外しても相手のファウルを獲得するアグレッシブな選手、フォワード・**小林倖**はチームのために体を張ってボールへの執念を見せるチームのリバウンド王、**鈴木沙季**は堅実なプレーと正確なシュートが持ち味、控えのセンター・**三浦綾夏**も途中出場してすぐにゲームに適応、力強いプレーでゴール下の得点を稼ぐ選手。上背のない分、走り続ける体力、外からのシュート力、そして総合力で県大会初のベスト8を狙う。

沼津商業の特徴は徹底された組織的バスケとチームワークの良さ。最後まで諦めることなく全員で粘るディフェンスから速攻へつなげて得点を導き出す。特に球際への飽くなきこだわりは見習うべきものがある。外の**鈴木榎奈美**と中の**向井京**を軸とした内外のバランスが取れた布陣、**清水杏那・白井小夏・庄司奈納**などを中心にゲームを構成する。過去ウインター県予選と県新人はベスト8の経験があるが県総体ではベスト16が過去最高、初の県総体ベスト8を目指して早いトランジションを仕掛けて走るバスケを展開できればおのずと勝利の女神がほほ笑むであろう。

その他、**中森美里・仲安未来・稲名歩紗・長橋穂乃花**（静岡市立）、**前田殊伽・山道光葵・増田悠伽・小澤杏奈**（静岡商業）、**新間美咲・木下利彩・滝井彩心**（島田）、**小澤菜々美・大竹伶奈・山西美優**（沼津西）、**袴田愛莉・小林生実・宮野友里・竹内結衣・谷川侑来**（浜松湖東）などを注目選手に挙げたい。

左下のブロックは西部総体準優勝・浜松聖星と歴代最多22回のインハイ出場を誇る常葉大常葉を中心とした争いとなる。

浜松聖星は西部新人を制して臨んだ県新人、見事決勝リーグ進出を果たしたが事実上の3位決定戦となる最終戦をコンディション不良で無念の棄権、9年ぶりの東海新人出場も逃した。断腸の思いでの決断、選手の気持ちを思うといかばかりであったか胸が張り裂けそうな気持ちは想像に難くない。今回は万難を排して大会に臨む。個々の選手がテクニックとサイズを持ち合わせ、チームプレーはもちろん攻めあぐんだ時に個人の力でチャンスを作り出せる能力の高い選手がそろう。
大黒柱のエース・**大滝菜々子**は言わずと知れたオールラウンダー。スコアラーとしてチームの躍進に多大な貢献を続ける。一流の上に「超」が付く選手、特にハンドリング技術や身のこなしは天下一品、相手取り駆け引きの中で抜き切るドライブに境地を見出す。西部総体でも相手が極端なボックスワンの戦術を選択し、大滝に執拗なマークが施されボールを持つことすら出来ない時間帯もあったが、そんな時でも冷静沈着に対応、無理にオフェンスに参加せず攻撃の主導権を仲間に託して今自分が出来ることを見極めて職責を果たせる頭脳明晰プレーヤーでもある。**山下菜々美**はボールマンにタイトに密着する厳しいディフェンスを見せて下から救い上げるようにボールをピックしてスティールを試みるプレーを見せる。**土谷陽菜・片山日菜**は個々の能力だけで得点に結びつけることができる実力の持ち主である。他にも**内山瑚子・鈴木奏音・岡本惺永**など攻守に秀でたトップアスリートを擁する恵まれた布陣、まずは初の東海総体出場を目指して勇往邁進する。

その浜松聖星と初戦で対戦するのは6年ぶりの出場となる中部10位・**静岡**。数年来部員不足に悩み続けベンチ入り選手が5人、という時代もあったが今年度は3人の新入生を迎え、総勢11人で県大会に臨む。それでも決して多い人数ではないが、唯一の3年生・**蛯名実菜**は2年前同級生が誰も入部しない状況で1人入部を決意し、この日まで県大会を目指して頑張ってきた。その間人には言えない悩みも多く抱えたことであろう。愚直に練習に一意専心しボール運び・得点・リバウンドすべてに絡む立派なオールラウンドプレーヤーに成長、中部総体での1試合平均得点も20点を超えるスコアラーに成長した。2年生エース・**梅本理世**はペイントエリアの1on1とリバウンドに関しては絶対の自信を持ち、現にそれだけの結果をチームにもたらしいている選手である。中部総体では相手にダブルチーム・トリプルチームでプレスをかけられても空いたスペースにいとも簡単にパスを出して得点を導き出す試合巧者でもある。中部新人では決勝トーナメントすら行けなかった悔しさから、「負けに不思議の負けはなし」の思いから自チームの弱点を冷静に分析、得点力アップのためにこだわり続けた1on1を捨てて合わせでの得点スタイルにシフトチェンジ、その甲斐あって中部新人・予選リーグで敗れた常葉大橘にリベンジを果たし、県総体出場を決めた。強豪との対戦となるがまずは当たり負けをせず、強気なプレーで相手を動揺させて勝機を見出したい。

常葉大常葉は県新人で浜松学院を破り5位を勝ち取り、今大会2年ぶりの東海総体出場が見えるとこまでたどり着いた。中部総体では決勝で藤枝順心に屈し2位に終わったが、戦力的には四隅のチームと全く遜色ない。少数精鋭の選手起用がベースとなりレギュラーは不動の5人、**佐野実咲・松本しずく・望月理央・伊藤亜莉沙・森輝月**。そしてシックスマンに**海野希帆**、そして**大坂澪・須田理子**も今か今かと出番を待つ。近年外からの攻撃が少なかったが今年は佐野・松本・伊藤が3Pを放ち、中部総体では森も果敢に3Pを打つ姿が見られ、決勝では綺麗な放物線を描く3Pを3本決めた。オールコートマンツーを主体とした粘り強いディフェンスとどのチームよりも体勢を低くしてボールプレッシャーをかけるステイローはまだまだ健在、お互い順調に勝ち上がれば準々決勝で実現する浜松聖星戦は大会屈指の好カードである。

今春36年ぶりに監督が交代、全国大会出場3回を経験した**柘植夏也**氏に代わり若き指揮官・**池谷駿佑**氏が就任、エース・**本間梨乃**を軸として堅い守りから攻守の切り替えを速くする堅守速攻のトランジションバスケを展開する**静岡女子**もこのブロック、昨年の県総体6位を上回る成績を目指す。
そして昨年の県総体展望で注目の1回戦としてピックアップした「**浜松日体－三島南**」戦の再現カードが今年も1回実現することになった。**浜松日体**は全体的に上背で劣る面を徹底したスクリーンアウトでカバー、相手にセカンドチャンスを与えず逆速攻を仕掛けるなど基本に忠実なバスケが特徴、スピードあふれる**岩切瑠杏**がオフェンスの起点、ディフェンスでも積極的に前に出て果敢にインターセプトを試みる選手である。対する**三島南**は浜松日体戦勝利を弾みに県総体・ウインター県予選・県新人3大会連続で県ベスト16入りを果たしている。スピード、プレッシャー、スクリーン、パスなど一つ一つのプレー意義を常に理解して試合を重ね、チームの総合力が底上げされたチーム、東部屈指の好選手・**辻村明日花**の華麗なプレーにも注目したい。

その他に、**市川由那・大塚来実・平井優月・福川玲那**（浜松東）、**宮本千華・小島千明・今七星・國井舞子・内山翼**（浜松日体）、**金田ありさ・五十嵐華音・江本瑠奈・御手洗寿奈**（三島南）、**山田嘉乃・矢吹夏海・飯田綾夏・田中双葉**（三島北）、

本間梨乃・川合心・白鳥心葉・山田梨央奈・小泉美奈子（静岡女子）、**河合桜・三浦羽菜・若山紗羽・佐々優華**（静岡）などを注目選手に挙げたい。

右上のブロックは、予選での快進撃を見る限り、中部王者の藤枝順心の総合力が頭一つ抜けている感がある。

中部新人を初めて制覇、臨んだ県新人で見事3位となり2大会連続で東海新人に出場、2点差で敗れたものの三重2位・いなべ総合学園相手に終盤驚異的な追い上げを見せた**藤枝順心**。中部総体でも全試合20点差以上をつけての快勝、中部総体も初制覇して男子優勝の藤枝明誠と共に「学校法人 藤枝学園」姉弟校での優勝を果たした。このチームの特徴は何と言っても誰でもどこからでもスリーが入る、これに尽きる。中部総体決勝・常葉大常葉戦ではスタメン4人が3P17本を決めるお家芸の空中戦で勝利、ここまで決められると相手は意気消沈どころか戦意喪失に追い込まれる。
県新人展望でも絶賛した**加藤咲空**はそのうち12本を決め、総得点56点を挙げた。前回の展望で左側からの3Pが主体であると書かせてもらったが、今大会ではきちんと右からも正確にかつ素早く打つ場面を見て、改めて非凡なセンスと類まれな集中力を感じさせた。彼女の素晴らしいところはダブルチームに行かれても冷静にパスで対応、破れかぶれのシュートブロックにも最後まで指先でボールを押し切るしなやかなシュートタッチの3Pでバスケットカウントも決める。しかもそのあとのフリースローも落とさない。他地区のチームも手をこまねいておらず、当然研究して対策を取ってくるはず、その中でどれだけ自分のプレーが発揮できるか、新人戦とは別の観点で興味深い。**石部希歩**は実践的な選手、試合を重ねるたびに成長を続け、東海新人では加藤のお株を奪う3P7本を含む計27得点を挙げる大活躍、元来つなぎに徹する選手で得意のピック＆ロールで加藤に合わせて得点をアシストするプレーが持ち味､見るたびに技の引き出しが増えていく楽しみな選手である｡他にも正確なジャンプシュートやフリースローでチームに貢献する**斉藤瑠**、中部総体決勝中盤で角度がない位置から加藤ばりの弾丸3Pを見せた**高山莉良**、高さを生かしたプレーで屋台骨を支える**石田妃茉里**、東海新人にも出場し3Pを決めた**小池紫寿**、同じく出場機会を得た**前林実希**、出場機会をうかがう**市来萌華・増井弥空・小出涼寧**など恵まれた戦力を誇る。昨年の県総体では無念の初戦敗退、そのチームが1年後に優勝候補の一角に数えられるとは夢にも思わなかった。まずは準々決勝で対戦が予想される浜松学院との戦いに勝利し、県新人では得意のセットプレーを攻略されて個々の力で競り負けた市立沼津との戦いが予想される準決勝に進出して勝利を挙げ、初の東海総体出場を手にしたい。

昨年初の県総体準優勝を果たし東海総体・オールジャパン予選・U18東海リーグを経験、経験値を上げてウインター県予選でも準優勝を果たした**浜松学院**は主力がごっそり抜けて苦しい戦力となった県新人でも6位に食い込み意地を見せた。西部総体では準決勝で浜松開誠館に敗れたが3位決定戦で浜松南に快勝、今大会は準々決勝で藤枝順心を倒すことにまずは照準を合わせる。例年高さと外からのシュートで勝利を重ねてきた印象が強いが、今年のチームは一言でいうと泥臭い、ルーズボールに身体ごと飛び込み少なくともヘルドに持ち込む献身的なプレーが印象的、ボールマンを追いかける堅いディフェンスからボールを奪ってチャンスを作り出すバスケットが今年の特色である。さらには堅実なディフェンスも目に付き、西部総体4試合の平均失点43点は浜松開誠館の40点と比べても遜色ない。
エース173cm**ワネケジジュリエット杏奈**は優れたドライブ能力を持ち、力でゴール下まで突破する。ワネサジを筆頭として高さのある173cm**髙山瑠世**・171cm**足立珊那**のインサイド陣と**鈴木愛名華・相川樹由・大江芽衣**などのアウトサイドが上手く機能してくれれば2年連続の東海総体出場もおのずと現実味を帯びてくる。

その他に、**佐野満里奈・織田愛加・富髙華音**（飛龍）、**澤井玲音・加藤胡乃栞・柴田優良・鈴木沙綾**（磐田北）、**山本こころ・モア綺蘭・後藤さつき**（沼津中央）、**木村実子・坪井菜々子・杉山春菜・市川日夏乃**（清水東）、**ワシントンジュリ・髙橋心杏・福原彩・藤倉華音**（加藤学園）、**日比野紗奈・今春こころ・石川歩美・望月陽菜**（島田商業）を注目選手に挙げたい。

右下ブロックは危なげなく東部総体16連覇を飾った市立沼津の強さが一段と際立つが、ウインター県予選3位・県新人7位の浜松南と中部3位の静岡東がその壁にどこまで肉薄できるか楽しみである。

市立沼津は東部総体決勝で沼津商業に快勝、昨年・一昨年から主力を務め続けた選手が最上級生になり、加えて下級生戦力も充実、厚い選手層を誇る。パスコースを見極めて素早く遮断する厳しいディナイ・ディフェンスから速攻につなげる一連の「市沼劇場」は進化を続ける｡さらに後半相手に疲労の色が濃く見え始めると一気に突き放しかかる妥協を許さない攻めも特徴、ポジション的にもバランスが整うチーム編成でどこからでも得点を導き出せるのが強みである。2大会ぶりに出場した東海新人でも初戦三重の強豪・四日市商業に快勝、続く桜花学園戦でも果敢に王者に挑んで経験値を上げた。今大会でも打倒・浜松開誠館の一番手に挙げられ、戦力が最も充実した今回が最大のチャンスになる。
中心は**遠藤陽向**。バランスの取れた唯一無二の好選手、とにかくこの選手が得点を重ねると試合の流れが自軍に傾く勝利の女神、東海新人でも桜花学園の厚いディフェンスをもかいくぐり18得点、ドライブやジャンプショットで相手をきりきり舞いにさせる。3Pシューター・**一藤木楓**は県新人・藤枝順心戦で見せた3P5本のオンパレードが記憶に新しい。派手なプレーに目が行きがちだがボールマンディフェンスにも目を見張るものもあり、ディフェンス時に相手と対峙する際の角度と足の位置に注目してもらいたい。**遠藤有菜**は接触をいとわずリバウンドを取りに行くパワフルな選手、攻撃面でも四日市商業戦の第2Q、お互い攻め手を欠き膠着状態が続く中、鋭いドライブで現状を打破して攻撃の突破口を作った。**勝亦麻結**は底なしの体力と一線へのボールプレッシャーで勝利に貢献する。インサイドには長いリーチと膝を有効に使った跳躍力でリバウンドを支配、攻めては瞬発力と突破力でゴール下に切れ込むオールラウンダー 175cm**河谷真矢**と四日市商業戦に途中出場、河谷と連携したインサイドプレーが冴え渡りチーム最多の16点を記録した**横山文音**、ミートからリリースまでが速いジャンプショットを放つ171cm**小山内悠桜**など長身選手が並ぶ。他にも**川口青空・合澤小菊・秋山叶羽・丸山美咲・竹ノ内菜優**など開誠館

顔負けのトップアスリートたちが集う。お家芸である「激しいディフェンスとリバウンド」で流れを引き寄せ得意のブレイクに持ち込み得点を重ねれば7年間県内無敵の女王も慌てるはず。もちろんそれまでの戦いで負けるわけにはいかないが、県新人では29点離れた差を今回どこまで肉薄できるか興味は尽きない。そのためにも2大会連続東海総体出場は最低条件でもある。

西部4位・第7シードの**浜松南**は昨年の県総体で5位を勝ち取りその後の快進撃につなげた。ウインター県予選では3位に入るなど昨年の女子バスケに旋風を巻き起こした。その後は怪我に苦しみ万全の戦力で戦えなかったことは残念である。今大会は大怪我から復調した選手の出来がカギを握るであろうが、過度の負担はかけられないのが現実、このような窮地の状況下で頼れるのは大黒柱・**忠内清**。昨年のこの大会でブレイクのきっかけをつかみ、2年生ながら県立で高校唯一県協会U18優秀選手に選ばれた。対戦相手も次第に対策を練り始めなかなか得点を取らせてもらえないが、その分コート上での風格は増すばかり、仲間を上手く生かすプレーで貢献している。**平澤心花咲・伊達咲良**という上位進出の立役者を怪我で欠く苦しい現状ではあるが、それをカバーするのが3Pシューターの司令塔・**山村梨心**を始め、**吉田遥・輿水想来・矢波芽依・新林芽依・川井菜摘**など日々鍛えられた面々でまずは準々決勝進出を確実に決め、県新人で敗れた市立沼津との再戦にこぎつけたい。

昨年県総体7位・**静岡東**は中部王者・藤枝順心に敗れただけの3位で今大会に臨む。中心となるのは猪突猛進のオフェンスが魅力の**青木詩**。安定したオフェンスについては以前から評価が高く敢えてここで触れるまでもないが、今大会ではディフェンスにも目を見張るものがあった。パスコースに果敢に飛び込み、フラッシュには以前以上に素早い反応をし、シールも積極的に行う姿はさらに一段成長している感がある。**中村日愛里**は攻守の要、安定感あるディフェンスには定評がある。**藤田彩花**は何と言っても天性のスピードが武器、縦横無尽にコートを走り回る。他にも**原田美涼・岡野友香・望月美空・小柳真実**などがチームを支えるが､一番の好材料は大怪我からキャプテン･**小泉凛音**が復帰したことだろう。この選手が復帰したことでチームの1+1が3にも4にもなる勢いである。当然のことながら脚を気にするシーンも見られ、接触や速いトランジションプレーに順応しきれない面もあるが、中部総体・静岡女子戦では3P3本を決めるなど復調の兆しが見えてきた。順調に初戦を突破して浜松南に競り勝ち、3年連続のベスト8を手中にし2年連続の7位からさらにステップアップをして欲しい。

初戦の注目カードとして「**東海大静岡翔洋－浜松市立**」**戦**を挙げたい。静岡商業との接戦を制し中部5位となった**東海大静岡翔洋**は昨年のこの大会は5年ぶりの決勝リーグ進出を果たし、東海総体出場は逃したがチームにとって大きな財産となった。**遠藤すず**はゴール下で身を粉にしてボールを掴み攻撃の起点となる。キャプテンとなり責任感ある重圧を爽快感に変えてプレーする姿が頼もしい。**森菜々子**はスコアシートから読み取れない数字で貢献、スティール・アシストなどのスタッツでチームに勝利を導く。そして勝利のカギは何と言っても171cm**船山穏香**。センターを任されてもおかしくない長身選手だが、チームでは中盤を任されペイントやハイポストでのジャンパーやターンシュートを得意とし、静岡商業戦でも39得点を奪った。注目して欲しいのはむしろディフェンス時の動き。フロート位置をきちんと意識し、片目で腕を軽く上げながらマークマンを捕らえ、もう片方の目でボールマンを凝視、常にボールマン・マークマンと自分が二等辺三角形を描く位置で守る。時折視線もコートに落としながらステップや足の向きも確認、マークマンがフラッシュすると密着し、ボールマンがドライブすれば必要に応じてヘルプで対応、このディフェンスは一見の価値がある。他にも**中島理琴・田島圭乃・吉川舞・星合汐凪・一見陽菜**などの多彩な選手を擁する。

対する**浜松市立**は12年間チームを率いて令和2年にはウインター県予選準優勝を勝ち取り古豪復活を遂げた**小野田宏親**氏が退任、ウインターで大会ベスト5（優秀選手）にも選ばれた実績を持つ**大場あゆみ**新監督のもと新たなスタートを切った。西部総体・浜松学院戦では敗れはしたもののお互い一歩も譲らない互角の攻防を続け、最後まで会場を沸かせた。インサイドには県内最高身長178cm**黛彩良**を筆頭に**齋藤楚奈・北野杏純**を擁しオフェンスの要となる。特に黛の魅力はディフェンスもオフェンス以上に頑張ること。リバウンドはもちろんゴール下での争いも接触をいとわず足と肩で陣地を確定させて空中権も制覇する。アウトサイドからは**松下心**がスピードあるドライブや飛び道具の3Pで攻める。他にも**石山愛結･木下綾菜･髙橋弥恵･石濱怜**などの選手を擁する。バスケファンならずとも垂涎の好カード、最後まで競り合いになることは間違いない。

その他にも、**清笑理・杉山侑里夏・吉田七海**（日大三島）、**横尾天音・山崎苺花・石川真琉**（富士宮東）、**平野菜陽・鈴木碧衣・氏原葵楓**（西遠女子学園）などを注目選手に挙げたい。

ウインターカップ2023静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第76回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2023）静岡県予選が令和5年10月21日に開幕する。11月12日に**静岡県武道館**で県代表が決まり、12月23日から聖地・**東京体育館**および**武蔵野の森総合スポーツプラザ**で行われる全国選手権大会へ出場することとなる。3年間以上に渡り全世界を苦しませている**新型コロナウイルス感染症**も日本では今年5月8日から「**感染症法上の第5類**」に分類されることとなり、通常の**季節性インフルエンザ**と同等の扱いとなった。感染者数も実数把握から**定点把握**になり、正確な感染者数は我々の耳に入っては来ていないが、世間では「**第9波**」突入や**新変異株**の出現のニュースも聴こえ、さらにはコロナとインフルエンザの**同時流行**への懸念も広がり、収束という2文字を容易に当てはめるのはまだ危険である。しかしながら、これから続く「**アフターコロナ**」下での大会開催において、「**コロナ禍**」「**ウィズコロナ**」で開催したノウハウを生かしながら、選手側・運営側双方が十分に感染症対策を施して大会に臨むこととなる。その中で入場制限や応援制限もなくなり、まるで4年前にタイムスリップしたような環境で大会を迎えられることを心から喜ばしく思う。

今大会、静岡県予選は「嬉しい悲鳴」をあげるようなイレギュラーなレギュレーションとなった。6月に行われた地元・静岡県で行われた東海高校総体で藤枝明誠が見事優勝し、静岡県男子にウインター出場枠を「**もう1枠**」呼び寄せてくれた。本大会出場枠が2枠になるのは同じく藤枝明誠が大分インターハイで準優勝した平成25年以来10年ぶり、まさに県内バスケ界待望の快挙と言える。だが当時と大きく違うところは、当時は「当該チーム」に与えられていたプラスワンのウインター出場権が、一昨年からブロック大会優勝を含めてそのまま「当該都道府県」に与えられることになった点である。この変更は大会運営にも大きく影響し、10年前はすでにインハイ準優勝でウインター出場を決めて県予選出場義務を負わない藤枝明誠を除いたトーナメントを行い、その最終戦を県代表決定戦と銘打ち県代表を決めて、そのあと藤枝明誠が満を持して超スーパーシードで決勝戦に登場、優勝を飾ってウインター出場に花を添えた。その特殊なトーナメント形式はTVでも取り上げられたほどである。しかしながら3年前から全チームに3試合以上の予選出場義務が課され、なおかつ出場を2枠持つ都道府県は決勝リーグを実施しており、今回本県も男子は**決勝リーグ制**を採用することとなった。一方で女子は例年通り**完全トーナメント制**で行うため、史上初めて男女でレギュレーションが違う大会となる。決勝リーグはウインター予選では平成9年まで、県総体では昨年まで、県新人戦は令和元年度から実施されており我々にも馴染みのある方式ではあるが、サッカーやバスケのワールドカップ・野球のWBCでも話題になったようにリーグ戦は得失点差や直接対決の勝敗、試合順、相性などさまざまな要因が命運を左右する場合があり、感動のドラマを数々生んできた。上位4チームは最後まで気が抜けない戦いが続く。

また、今年の**県武道館シリーズ**から試合球として**モルテン製12面体球**を使用することとなった。県内U18大会では初の試みとなる。以前は全国大会で**ナイキ**やモルテンの8面体球が使用されていたが令和になってからモルテンの12面体球に変更となり、静岡県も全国大会の基準に合わせて県武道館では12面体球を使うことになった。12面体球は縫い目の間の面が多い分、指先への引っ掛かりがよくシュートも打ちやすく、白いラインが描かれているためリバウンド時に軌道を確認しやすいというメリットがある。なお大会4日目までは例年通りモルテン・**ミカサ**の8面体球を使うこととなる。いずれにせよ、今年は例年以上に激戦になることが予想され注目の大会となること必至である。全国を賭けた「秋の風物詩」県高校バスケ最高峰の戦い、その栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

昨年に続き『**D-Sports SHIZUOKAウインターカップ県予選特集号**』（『Drive』から改題）が刊行されることになった。オールカラーでまるごとウインター特集、県総体に出場した男女全チームを網羅、多くの注目選手がピックアップされている。私も僭越ながら巻頭の大会展望を寄稿させていただくという身に余る光栄な重責を担わせていただいた。D-sports誌では限られた誌面の中で優勝候補順に書き上げる従来のスタイルで執筆したが、2年ぶりの掲載となる大会プログラムの中ではブロック別に書き上げる形を取った。紙幅も十分あるので、また違った角度から大会を分析できることに喜びを感じている。

最後に9月に沖縄県で行われた『**ワールドカップ2023**』で**男子日本代表**がヨーロッパ・南米・アフリカの強豪を相手に3勝し、見事48年ぶりに自力でオリンピック出場権を獲得した。結果もさることながら、その試合内容は日本国中に感動の渦を巻き起こし我々に勇気と希望を与えてくれた。今大会に参加する選手たちも間違いなく試合を観戦し、勇気づけられたはずである。空前の**バスケブーム**を迎えつつある今、来年開催の**パリ・オリンピック**に向けて一過性の盛り上がりで終わらせないよう、代表選手に負けないくらいの気迫あふれるプレーを見せて大会を盛り上げて欲しい。

大会展望の執筆に際して、毎回私の右腕として職務を果たしてくれている**山口裕史**県協会広報副委員長（㈱矢崎部品）に多大な御尽力をいただいている。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、いつか私の後継者となってこの重責を引き継いでいただけることを切に願っている。

男子

昨年度インハイ・ウインター共に全国3位、今年のインハイでもベスト8に入り、その実力は全国指折りである藤枝明誠が優勝の大本命ではあるが、今年の全国出場枠は「2」、その2枠目を巡る争いは熾烈となること必至である。今年は四半世紀ぶり決勝リーグを実施、実質的な試合数も増えることとなり、必然的に私たちの楽しみも増えることになる。混戦になった場合は勝ち方や負け方も命運を左右する緊張感あふれる戦いとなる。

左上のブロックは、第1シードの藤枝明誠が圧倒的な強さを誇ることは言うまでもないが、公立の雄・浜松西、昨年ベスト8・エース**辻大楽**のオフェンス力で得点を量産して一気に勝負を決める**浜松工業**、創部7年目での最高順位・県新人7位に入った**浜松聖星**などの浜松勢が藤枝明誠への挑戦権と初の県武道館メインコートを目指してしのぎを削ることが予想される。

藤枝明誠は県新人・東海新人・県総体・東海総体・天皇杯県予選すべてを制して盤石の安定感でまさに「東海無双」、インハイでも準優勝した東山を大いに苦しめて堂々のベスト8､昨年から新設された『**日清食品U18トップリーグ**』参加校にも早々と選出されるなどすべてか全国トップレベル、その先には常に全国制覇を見据えているチーム、静岡県男子にもう1枠をもたらしてくれた功績は計り知れない。

中心となるのは昨年来チームの主力として活躍する赤間とロードプリンス。人呼んで得点量産機・**赤間賢人**は得点感覚に優れ、ジャンパー・ドライブ・3Pなど多彩な攻撃スタイルで得点を積み重ねる。特に3Pの精度は非常に高く、また時折見せる日本代表･富永啓生を彷彿させるディープスリーで会場を魅了、プレーのすべてに華がある選手である。インハイ終了後、チーム事情でポイントガードにコンバート、司令塔を任されることになり試行錯誤を繰り返す毎日、相手に対策を練られてマークがきつくなり思うような攻めが出来ない状態も見られるが、すぐに司令塔という花形の新天地に適応し我々が想像もしないスーパープレーを見せてくれると信じている。赤間が外の大黒柱なら中の大黒柱は**ボヌロードプリンスチノンソ**。今大会最高身長209cm、全国レベルで見ても日本航空のオルワペルミ・ジェラマイア、美濃加茂のエブナ・フェイバーと並ぶ留学生3本の指に入る実力の持ち主、得意のリバウンドだけでなく執拗な相手ディフェンスに囲まれた時など無理せずいったん外にアウトレットパスを出して仲間のシュートを導き出すつなぎのプレーやスピードも目につくようになり、カーボベルデ代表のエディ・タバレスのような走れるセンターになりつつある。来日して1年が過ぎて日本語も堪能になり、コミュニケーションの点でも不安が解消された。昨年のウインターでリバウンド王に輝き、県新人決勝リーグでは驚異の1試合62得点、数々の栄光を記録したロードプリンスにこの夏新たな勲章が増えた。インハイ2回戦・美来工科戦で46得点・27リバウンド・11ブロックのトリプルダブルを記録した。全国大会でも得点・リバウンド・アシストでのトリプルダブル達成は稀に耳にするが、今回はアシストではなくブロックショットでのトリプルダブルなど記憶にはない快挙、インサイドでの無類の強さを証明することとなった。11本のショットブロックもさることながらフリースロー 8本、3Pなしでの46得点は驚愕のスタッツ、その後の2試合もきちんとダブルダブルを達成、快挙に花を添えることになった。唯一にして最大の気がかりは9月の練習試合で肩を負傷してトップリーグを欠場していること。大事には至らずウインターには間に合う見込みと聞くが、チームの浮沈に大きく影響することだけにその回復の度合いが非常に心配である。

赤間頼みのオフェンスになると攻め手を欠くこともあり､それを補うためにも期待されるのが他のプレーヤーの活躍となる。チームキャプテン**小澤朋樹**は赤間もうらやむシュートタッチの良さが魅力、日本一のシューターになるべく一意専心で練習に打ち込む。数少ない県内出身選手・**大塚絢心**はそのスピードが生命線、50m 6.2秒の俊足でコートを駆け抜く。ルーキー190cm**野津洸創**は中学3年間で身長が30cm以上も伸びて、その成長のたびに求められるプレーにもその都度対応するなど適応能力に秀でる。中学時代クラブチームでJr.ウインターにも出場した実力の持ち主、すでに主力として活躍してチームに貢献している。その他、リバウンドの位置取りが絶妙でセカンドショットへの初動も速い**斎藤佑真**、インハイ後赤間に代わり得点源のスモールフォワードに抜擢されトップリーグ開幕戦では3P4本を含む19得点・上々のデビューを飾った**槍垣奏太**、入学直後の県総体にも出場し国体選手にも選ばれた**柴田陽**、そしてロードプリンス欠場の穴を埋めようと必死にボールに食らいつく190cm**片山ジャズィエル**など全国トップレベルの戦力で全国制覇まで駆け抜ける。東海新人・東海総体ともに決勝戦では美濃加茂が仕掛けてきたチェンジングディフェンスの中で、トライアングルツーを仕掛けられた時間帯で得点が伸び悩むシーンがあった。それでも勝ち切る藤枝明誠はあっぱれであるが、各チームも弱点を研究してくるだろう。万全の状態で戦いを続ければウインター出場は太鼓判の戦力を持つだけに、敵は「ケガと己」にあることを心に刻んで連覇を果たして欲しい。

藤枝明誠とブロック決勝での対戦が予想されるのは**浜松西**。県武道館常連の公立強豪校であるが、昨年は体調不良者が出たため4回戦で無念の棄権、その後の県新人・県総体ともに7位を堅守、今大会は新チームでブロック決勝まで勝ち上がることが当面の目標、そのうえで藤枝明誠とどう勝負していくかを考えたい。昨年来試合出場を続ける**高柿翔・増田健太**を中心に、**山田凌大・倉山和騎・尾藤遙陽・山田悠睦・関宮怜央**という180cm代の選手5人揃えて高さでも勝負する。特に尾藤・関宮は全中3位の実績を持つ大型新人、今後が楽しみなチームである。

静岡北にも注目したい。星陵を長年率いて東海大会出場2回・国体監督の経験もある**須藤剣吾**監督が今春着任、夏の強化大会などを通じて少しずつチームに「須藤イズム」が浸透しつつある。選手にとっては教わることすべてが目から鱗、まだまだ発展途上のチームではあるが、県内有数の指導者に鍛えられた2年後、3年後が楽しみなチームである。

その他の注目選手として、**梅村裕真・鬼倉拓司・天田虎之介・渡邉虹道・金子來樹・福間聖也**（藤枝明誠）、**鈴木心・坂野**

陽翼・中澤勇翔・河合真叶・江間真都（浜松工業）、**木下結斗・渥美稜平・佐野裕章・原田峻**（浜松聖星）、**岸井勢・碇石優希・鈴木宏侑**（浜松学芸）、**川口龍輝・ナカノレイネル・芦澤怜**（静岡大成）、**元野陽斗・片瀬巧**（静岡東）、**山本宙**（静岡北）、**若原創太・百瀬暁・増田脩人**（静岡）、**森彗登・武田大輝**（相良）、**清水彪牙・稲葉啓**（浜松湖東）、**クンナンナッタウット**（沼津工業）、**齋藤光希**（清流館）、**小永井謙達・今村奏太**（富士宮西）、**松浦妙樹・鈴木万弘・鈴木幸喜**（磐田農業）などを挙げたい。

左下のブロックは県総体4位・飛龍と5位・沼津中央が決勝リーグ進出を賭けての直接対決で雌雄を決する展開が予想される。

飛龍は昨年度末で10年間チームを率いて全国に9回導いた**原田裕作**監督が退任、4月からは長年原田氏の懐刀として帝王学を学んだ**大石康史**が新監督に就任、アシスタントコーチには二人の愛弟子である**原千容**が着任、**勝又幸正**コーチも交えた3人での「トロイカ体制」で新チームを始動させた。手探りのうちに始まった県総体では4位に甘んじ6年ぶりに東海総体も逃したが、決勝リーグに進出して全国を手に入れる実力は十分にある。キャプテン**佐藤柚人**を中心に、ガード陣にはエース**野田悠峨**、ディフェンスの要となる**阿部光音**、シューター**瀬古迅**、**渡邉光・中原春翔・竹村勇祐・長尾祥太**、中盤には攻守でチームにリズムを与える**中久喜光祐・植木大夢**、インサイドには**植田悠路・中村飛鳥・竹本雅矢**など多彩な戦力が揃う。原田前監督へ全国大会での恩返しを胸に、3年ぶりの東京体育館を目指す。

沼津中央は県総体準々決勝で浜松開誠館相手に終盤失速し逆転負け、それでも続く浜松商業・静岡学園戦に連勝し5位を確保した。このチームの特色は自分たちのバスケットを貫き通し、リズムを保ちながら相手が仕掛けにうまく対応して最後は勝ち切るバスケットが出来ること。打ち合いには打ち合いで、ロースコアゲームには激しいディフェンスで対応する底力のあるチームと言える。県内屈指のリバウンダー 188cm**桐生武蔵**、静岡学園戦で相手の意気を消沈させるようなシュートを立て続けに決めたことが記憶に新しい**内藤海夏人**、最上級生になって落ち着いたプレーが目につく**新垣颯野・上里颯慎・稲葉司**、昨年の国体選手・シックスマンとしてピンチに馳参じる**小林吏駒**、そして中学時代を千葉県で過ごし日本の教育や文化に十分に慣れてから沼津中央に入学、191cmの長身と筋肉質なフィジカルを生かしたパワープレーで東海国体でも活躍したモンゴル人留学生**エルデネサイハンエルデネバト**（大会規定では日本人扱い）の戦力で決勝リーグ進出、そして8年ぶりのウインター出場を狙う。そのためにはブロック決勝での対戦が予想される飛龍との「学園通り対決」に是が非でも勝たなければならない。

同じブロックの**静岡商業**は昨年の県総体で逆転勝利を飾った沼津中央と今年も県総体で対戦、シュート力とリバウンドに差が出て惜敗、ベスト16に終わった。今回順調に勝ち上がれば5回戦で沼津中央との再戦が待ち構える。エース**・市川昊**はオフェンス力すべてに関してワンランク上の選手、外からシュートを放てば高確率でリングに吸い込まれるアウトサイドの魔術師、ドライブやジャンプショットもそつなくこなすオールラウンダー、今大会注目プレーヤーの一人としてプログラムの裏表紙にも抜擢した。チームも中部新人2連覇中、中部総体も3位と地力があり、県総体のリベンジを果たす可能性は十分ある。

このブロックには男女通じて唯一の初出場、そして公式戦自体も初出場の**焼津**がいる。明治35年創立、120年の歴史を誇る伝統校、県内私学唯一の総合学科で長年女子校を貫いてきたが令和3年に一部系列で共学化、今年全系列で完全共学化となったことで男子バスケットボール部を創部、インハイ予選は参加していなかったため今大会が公式戦の初陣となる。男子部の創設は平成29年の浜松聖星以来6年ぶり、この少子化の中で喜ばしいニュースである。もちろん全員1年生、キャプテンの**秋田隼斗**を始め、主力の**阿部航己・増田悠来**など初々しいメンバーで初の公式戦コートに立ち初勝利も狙う。

その他の注目選手として、**大島唯翔・新藤楓月・村上悠翔・安井誠人**（三島南）、**望月良依繁・北堀遥大・齊藤遥人・仲山柊志・大瀧浩誠・水谷琉貴**（静岡商業）、**清水凰多・塚本大輝・増田好汰・近藤翔太・バヒアンリアンエマヌエル**（島田工業）、**田村勇人・山本蒼翔・尾形空・本田匠**（静岡市立）、**大石海里・久保山大聖・金諒紀**（藤枝東）、**池谷佑月・新海涼太・漆畑椋大・川口将吾・荻野陽向**（東海大静岡翔洋）、**小林美旺斗**（藤枝北）、**山本来瑠寿・後藤日々航**（浜松湖北）、**齊藤壮哉・小林花道**（島田樟誠）、**新西琥仁・中野海球空**（御殿場）、**向島怜生**（藤枝西）、**中村颯良・アセソルカメ**（浜北西）、**カララケルビン・伊藤颯眞**（小笠）、**村上幸斗・髙木強臣・前嶋天聖・手塚晃生**（沼津中央）などを挙げたい。

右上のブロックは東海総体と東海ブロックリーグで強豪・桜丘を追い詰めた浜松学院と県総体6位・キャリアを積んだ上級生と将来有望な下級生が有機的に機能して力を発揮する静岡学園を中心に、三**島北**・韮山という東部の実力校が居並ぶ楽しみなブロックである。

浜松学院は西部総体・県総体で敗れた浜松開誠館に東海リーグで競り勝ち上昇気流に乗っている。先述のとおり桜丘とも接戦を演じ、浜松開誠館とともに打倒・藤枝明誠の最右翼である。昨年の伊藤ハリーのようなテクニックと派手さも持ち合わせる選手はいないが、インサイドの高さとディフェンスへの高い意識で堅守速攻を愚直なまでに貫き通す職人集団である。誰がエース・スコアラーではなく全員が得点源、その中でも**鈴木海成**と**大倉成矢**が得点を重ねる展開が勝ちパターン。元来ともに3Pシューターであるが相手の一線位置が高い場合は無理にシュートに行かずにドライブや3線に落とすパスで攻撃の糸口を見出す頭脳プレーが光る。中盤には**西垣玲央・石原弘幸・末永蒼・藤井惺楽**などの場数を踏んだ兵（つわもの）が、インサイドには**衛藤巧・伊藤匠・松本将虎**など185cm級のプレーヤーが待ち構える。7年ぶりの全国出場を狙う今大会、共に順調に勝ち上がれば決勝リーグ初戦で再び相まみえる浜松開誠館との戦いが事実上の全国出場決定戦と言っても過言ではない。

静岡学園は新進気鋭の1年生が多く加入し上級生とうまく機能すれば台風の目となりうる存在である。上級生には常にボー

ルを持ちながらコートバランスを見極めて適切な指示を出す司令塔・**石川凛久**を中心に**味岡大斗・鎌田優芯・米内天馬・伊藤大和・望月花道**と実績を積んだ選手が揃う。その中でも私はインサイドの**大串泰雅**を非常に高く評価する。現在はゴール下を任されリバウンドに活路を見出しているが、元来は何でも器用にこなすオールラウンダー。県総体・沼津中央戦で見せた密着する相手をパワフルなドリブルでペイントエリアまで押し込みブロックショットが来るとみるやここぞとばかりに絶妙なタイミングで放ったフックシュートはまさに「美技」であった。下級生にも**山田伊吹・金城光史朗・山口遼也・渡邉昊・小長井優磨・内山直陽**、焼津市選抜としてモンゴル遠征にも参加した**大畑旺輝**や国体の予備選手にも選ばれた**大長真士**など有望な選手が多いのが特色。ブロック決勝で対戦が予想される浜松学院との戦いは息つく暇もない展開になるはずだ。

前回県総体の大会展望で取り上げた注目の一戦が再現される可能性がある。両者順調に勝ち上がれば4回戦で実現する「**静岡城北－韮山戦**」。前回は紙面で予想した以上の激闘となり中盤に逆転した韮山が静岡城北の猛追を振り切り5点差で逃げ切る名勝負を繰り広げた。今回はともに新チームでの出場となり当時の戦力とは違う部分もあるが、**韮山**はその試合チーム最多タイ16点を決めた**萩原諒**を中心とした堅守のチーム、**静岡城北**は外回りの**小澤柚貴・新村俊樹・花村詩穏**の長距離砲トリオと球際に境地を開く山本空を加えた攻撃的なチーム。実現すれば今回も熱戦になること必至である。

このブロックには今大会日本出身最高身長選手がいる。**誠恵**192cm・**中田舜**。中学まで運動経験もなく、高校からバスケットを始めたが**田川誉高**監督の粘り強い熱い指導のおかげでインサイドのパワープレーが少しずつ成長、リバウンドは絶対に譲らないという闘志が前面に出て、チームも彼の成長とともに進化する相乗効果を見せ始めた。昨年は2勝してベスト32、今年もまずはそこが目標となる。

今年度伊東商業と伊東が統合して新設された**伊豆伊東**もこのブロック。初出場ではあるが統合2年前の令和3年から合同チームで出場、実質的には3度目の出場とも言える。3度目の正直で文字通りの初勝利を狙う。

その他の注目選手として、**染谷斗海・オクラロナン・藤田侑**（焼津中央）、**桑高綸太郎**（浜名）、**長田一輝**（焼津水産）、**牧野圭祐・増田美勇・曽根田在・戸篠海瑛・大石聖悟**（科学技術）、**ワシントンマーロン・白川紳**（松崎）、**西川尊**（清水南）、**白井佑樹・日野原怜琉**（静岡聖光学院）、**加藤陽・倉智ジョン**（裾野）、**小島創・髙橋奏樹**（沼津東）、**鴻池信一郎・向島鉄朗**（駿河総合）、**廣岡樟大・内田智大・杉田知駿**（掛川西）、**長谷川彰**（富岳館）、**秋山裕大**（誠恵）、**佐藤優生・細木健命**（韮山）、**野田倭・濱田寛太郎・羽生田琉太・芹澤颯馬**（三島北）などを挙げたい。

右下のブロックは昨年準優勝・県総体2位で今大会に挑む打倒藤枝明誠の一番手・浜松開誠館と今年に入って県新人5位・県総体6位と県ベスト8を堅守する公立の星・浜松商業、県新人6位・**星陵**を中心とした争いになるだろう。

一昨年の覇者・**浜松開誠館**は内外に能力の高い選手を多く擁して藤枝明誠を猛追する。エース**山下朔史**は昨年まで2年間県選抜としても活躍、攻撃的なポイントガードとして自ら突破して得点を重ねるだけでなくアシストやスティールなど間接的にも得点に絡む。好不調の波がほとんどない安定感のある選手でどんな相手にもペースに惑わされずに自分の信じたバスケットを貫く硬派な選手。県総体決勝でも東海総体でもチームの半分は彼の得点、特に東海総体では驚異の3P8本を決める大活躍、ブロックに行く留学生の長いリーチの上を行く高くて綺麗な軌道で吸い込まれる3Pシュートは芸術品である。鋭いドライブと堅実なディフェンスでチームの躍進を演出するオールラウンダー、非常に大きな期待を込めて評価させてもらえば先日のワールドカップでMVPを取ったドイツ代表のデニス・シュルダーにも敬意を表しながら「将来の和製シュルダー」と呼ばせてもらい私からの期待も込めた最大の賛辞としたい。
ゴール下の190cm・**工藤寧朗**はプレーの先を見越してゲームをコントロール、リバウンドにも飽くなき執着心を見せて山下に気持ちよくスリーを打たせるお膳立てをする。新人戦までは優しさがプレーに出すぎてしまう場面も見られたが、総体以降は力強さが増して気迫あふれるプレーと表情になってきた。他にも当たり負けしない強靭なフィジカルが魅力・**川島純**、絶妙なタイミングで合わせを使い得点を導き出す**萩田凌平**、東海総体でもスタメン出場を果たした**半場太力**、国体選手にも選ばれて高い得点を披露した**高森カイル**、途中出場した県総体決勝・藤枝明誠戦で3P3本を決めた**岸川藍佑**など誰がコートに出ても遜色ない高いクオリティーのプレーが出来ることが強み、平均身長180.1cmも藤枝明誠に次ぐ高さ、名実ともに全国に近いところまで来ている。まずは決勝リーグにたどり着き、連勝して2年ぶりの全国を確実にしてから藤枝明誠と優勝を争う展開に持ち込みたい。

浜松開誠館とブロック決勝で対戦するのは古豪復活を果たした**浜松商業**と予想する。近年私学勢の堅い牙城を崩すべく浜松西とともに必死に県8強以上を維持し続ける姿勢に感動を覚え、同じ公立高校の指導者として心から声援を送りたい。今回は3年生1人を残しながら新チームにシフトチェンジしてまずは8強を堅持し、昨年の県総体に続く4強に入り、決勝リーグ進出を狙う。今年の中心は昨年から司令塔を任されて経験値を積んだ**宮本剛都**。相手ディフェンスを見極めて無理に中へは入らずにシュートエリアを広く確保して状況を見極めながらボールをコントロール、中に入らないと思わせて果敢にドライブに移行する頭脳明晰プレーヤーである。他にもフォワードながらキックアウトして外からの3Pを見事に決める**神谷将太郎**、どのポジションも器用にこなすユーティリティープレーヤー・**大石真弘**、そしてカットインから突破口を見出すプレーが魅力・誰よりも走り誰よりもチームプレーを重んじる**国本大翔**などの戦力で臨む。

このブロックの注目選手として、**小野寺祐之・甘日岩仁・木村郁斗・渡邉来偉**（浜松開誠館）、**石川凛・井上亮星・栗橋大寿・森川拓登**（富士宮東）、**岩崎隼斗・白鳥兼佑**（常葉大橘）、**前田ガブリエル**（遠江総合）、**別府翔吾**（静岡農業）、**柴田恭成**（清

水国際）、**遠藤彰**（清水西）、**岡嵜晟那・王思斉**（静岡サレジオ）、**小林向日葵・高松天成・生子遥仁・塩坂優斗・佐野翔哉**（城南静岡）、**山崎俐空・皆見一雄**（伊豆総合）、**小島紳太郎・吉田優希**（日大三島）、**櫻庭晴陽・川上大輝・石川琉斗・土屋愛翔**（加藤学園）、**千葉壮悟・草間意・鈴木李胡・鈴木遥・佐藤橙亜**（常葉大菊川）、**伊藤湊司**（清水東）、**岩田悠司・鈴木仁・大石修也・今田琉威・周梓俊**（袋井商業）、**古家颯樹・寺下駆・山崎勝矢・山﨑幸**（掛川工業）、**筒井大輝・白井力兜・山下晴輝・枝村漱夕・小島颯也**（浜松商業）、**谷村遥斗・小澤希星・増田圭吾・飯田彗斗・竹内銀河**（星陵）などを挙げたい。

女子

今大会も7連覇中の浜松開誠館中心の優勝争いになることは間違いない。その中でも長年実践経験を積み続けた主力が最上級生になった市立沼津が常勝女王にどこまで肉薄するか、長期にわたる浜松開誠館の独走を止めるべく勝負をかける展開が予想される。

県内136連勝、県内3大大会20連覇中、インハイベスト16、浜松開誠館の栄光を数え上げれば枚挙に暇がない。大会展望でも記録の数字を枕詞で語るのが風物詩となってきた。左上のブロックはその浜松開誠館の独壇場となる可能性が高いが、主力3年生が多く残った浜松南や新体制となった静岡女子、絶対的エースを擁する加藤学園など興味深いチームが多いのが特徴である。

浜松開誠館は県総体も危なげなく制覇、続く東海総体では全国制覇3回を誇る岐阜女子に残り21秒・大逆転で初勝利、価値ある準優勝を飾った。その勢いでインハイは東京成徳の追撃を振り切り、続く日本航空戦は相手の留学生対応に苦慮したものの蔀・望月という救世主（メシア）が現れて鮮やかな逆転勝ち、精華女子には後藤が留学生に執拗にマークされ動きを封じられての惜敗、しかしながらこれらの試合を通じて今年の浜松開誠館が全国レベルのチームであることが証明された。特に今年は近年の強さの象徴である高さとうまさに加えて、内外のバランスの良さが目につく。

チームの中心は**後藤音羽**。元日本代表の両親のもとに生まれたサラブレッド、英才教育を受けながらきちんと他人の指導や助言にも耳を傾ける勉強家。U16日本代表にも選出され今夏ヨルダンで行われたアジア選手権にも出場、特に中国戦ではチームハイの17得点を記録、日本有数のプレーヤーであることを証明した。178cmの長身ながら恵まれたフィジカルとスピードを生かせるようフォワードとして活躍、檜舞台でキャリアを重ねて持ち前のリバウンドと堅守にますます磨きがかかった。内を警戒されれば外からドライブ、そのドライブも国際大会で通用することを証明した。あとは全国へ行ったときにゴール下に仁王立ちする長身留学生とどう向き合うかという高い次元の問題に直面する。現にインハイで対戦した日本航空と精華女子の留学生対策には頭を悩ませた。そんな中でも久しぶりに表れた日の丸選手、静岡県の至宝としてプレーの一挙手一投足に注目が集まる大会になる。173cm**蔀桃菜**はリバウンドや鋭角にカーブするドライブなど魅力満載の選手だが、日本航空戦で見せた留学生への仕掛けは玄人をうならせる職人芸であった。相手ディフェンスの心理を読んでファウルを誘発させるオフェンスを仕掛けると留学生もたまらずファウルアウト、相手は攻め手を失いチームに勝利を導いた。県内最高身長179cm**中老小雪**は特にディフェンスリバウンドを支配してからの速いパス出しで速攻の起点となる。司令塔の重責を任されて2年目となる**井口姫愛**は157cmの小柄ながら相手ディフェンスをかいくぐって放つ3Pが魅力、スティールでボールを奪うと誰しも外からのシュートで点差を縮めたい思いを抱きながらもつい安全なレイアップに行く傾向にあるが、彼女は果敢に3Pを挑んできちんと決めるスキルがある。天賦の才能もあるだろうが不断の努力の賜物であろう。東海国体にも出場した**前川桃花**は全中制覇のキャリアを持つ大型新人、地区総体から一貫してスタメン出場を続けてさらにテクニックに磨きをかける。スティール・アシストなど数字に見えにくい貢献度も抜群、今年一押しのスーパールーキーである。

そしてこの夏、怪我から復帰しインハイでもチームの窮地を救ったのが蔀とのW主将・**望月秋桜**。5月の練習試合で左膝の怪我を負い、県総体・東海総体とも試合出場がかなわずベンチで声援を送るなど辛い毎日を過ごしたことは想像に難くないがリハビリとたゆまぬ努力の甲斐あって7月中旬に実践復帰、持ち味である堅いディフェンスとリバウンド・ルーズボールという泥臭い球際への執着を取り戻した。途中出場した日本航空戦では点差が9点まで開き始め敗色ムードが漂い始めるなか、ジャンプショットで点差を詰めて最後には3Pまで決めてあっという間に逆転、勝利の女神となった。その他にも、インハイでスタメン出場して大輪の花を咲かせた山本さくら、インハイにも出場した**八重柏憂奈**、東海リーグでの活躍が印象的な175cm**杉山実子**、国体県選抜にも選ばれた**大杉光・小幡美空・鈴木結愛**など県内随一の厚い戦力で大会に臨む。勝利を重ねるたびに反省点も洗い出して即時に修正、さらに連勝を重ねて勝ち続ける。そして勝って兜の緒を締める常勝軍団は全国4強以上を見据えてまずは大会8連覇を目指す。

昨年3位、今年の県新人・県総体ともに7位の**浜松南**もこのブロック。昨年の県総体で5位を勝ち取ったのが快進撃のスタート、昨年のこの大会でも準々決勝で東海大翔洋に鮮やかな逆転勝ちを飾って初のメインコートにたどり着いた。この大会中に主力の**平澤心花咲・伊達咲良**が相次いで大怪我に見舞われ約1年間無念の戦線離脱、その間大黒柱の**忠内清**を中心に下級生の**山村梨心・吉田遥・輿水想来**など新しい力も芽生え、特に司令塔・忠内の多彩な攻撃と山村の気迫あふれる3Pは数々の窮地を救ってきた。例年は県総体終了後に3年生は引退するのが通例だが、今年は平澤・伊達・忠内、そして**矢波芽依**の4人がチームに残った。平澤・伊達の怪我も少しずつ癒えて今大会1年ぶりに公式戦の舞台に立つ。新入生にも少年女子の一員として東海国体にも出場した新戦力・**新林芽依**も加わり、結果的に昨年よりも戦力が充実した状態で大会に臨むこととなった。平澤は鋭いドライブからのカットインを得意とし、相手の出方によってはパスやシュートにシフトチェンジできるバリエーション豊かな攻撃が魅力、忠内は安定したボール運びと接触をいとわないハードなディフェンスが持ち味。順調に勝ち上がれば準々決

勝で浜松開誠館との戦いが待ち受ける。戦力充実の浜松南にとってでも非常に厳しい戦いとなるが、昨年果たせずに終わったベストメンバーでの戦いに挑み、昨年来からの「夢の続き」を実現させたい。そのためにも怪我には十分に気を付けてその日を迎えて欲しい。誰にでも当てはまることであるが、「無事、これ名馬」これほど全選手たちに心に刻んでもらうのにふさわしい言葉は見当たらない。

浜松南と4回戦で対戦が予想される**加藤学園**には不動のエース・173cm**ワシントンジュリ**がいる。私はこの選手を高く評価する。すばらしいボディバランス、卓越した跳躍力、広い視野から繰り広げられる抜群のパスワーク、ファウルされてもアンドワンに持ち込む力強さ、どれをとっても一級品、今大会プログラム裏表紙にも大抜擢した。遠藤（市立沼津）、鈴木（沼津商業）、**辻村明日花**（三島南）と並ぶ東部トップアスリート四天王と評したい。他にもタイトなボールマンディフェンスとスピードが特徴の**高橋心杏**、多彩なドライブや安定した3Pから得点を生むポイントゲッター・**福原彩**、スピード感のあるドライブや広い視野から繰り出すアシストが真骨頂・**藤倉華音**など見どころが多い選手が揃う。

県総体ベスト16・**静岡女子**は昨年度末で創部以来36年間チームを率いた**柘植夏也**監督が勇退、青年監督・**池谷駿佑**が伝統あるチームを受け継いで新生・静岡女子をスタートさせた矢先に柘植前監督が急逝するという訃報に接した。全国出場3回を誇る名監督、教えを受けた選手たちも前監督の薫陶を胸に大会に臨む。**本間梨乃・川合心・山田梨央奈**を中心としたメンバーで1つでも多くの勝利を墓前に捧げて欲しい。

このブロックの注目選手として、**吉松来美・鈴木日和・杉本あゆ美**（藤枝東）、**中野春風・大木愛美・松永紗波・岩田蒼未**（駿河総合）、**山田絢翔・澤渡歩・長橋穂乃花・堀越日菜**（静岡市立）、**前原由奈・山田七菜・田村菜月・遠藤さくら**（沼津西）、**片岡瑞希・水口晃・石川歩美・増田芽依**（島田商業）、**望月優那**《2年生》・**曾根未来・望月優那**《1年生》・**小川心優**（静岡女子）、**宮野友里・小林生実・谷川侑来・根木歩歌・竹内結衣**（浜松湖東）、**田村悠香・大竹里奈**（加藤学園）、**高橋香住**（浜名）、**鈴木咲蘭・内山心・泉地彩音**（常葉大菊川）、**坪田真由美・平野絢音・岡田美紀**（浜松開誠館）、**萩原静音・藤田結依花・若林鈴音**（浜松南）などを挙げたい。

左下のブロックは県総体準々決勝でも激闘を繰り広げた浜松学院と藤枝順心が準々決勝で再戦することになりそうであるが、**浜松市立・東海大静岡翔洋**などの実力派チームも上位進出を狙っており、群雄割拠の注目ブロックとなった。

昨年準優勝の**浜松学院**は県総体3位決定戦で浜松聖星に競り負け2年連続の東海総体出場を逃した。昨年からガラリとメンバーが変わり苦しい1年になるかと思われたがきちんとチームを組み立てて来て、さすがの一言に尽きる。東海新人にも連続出場、中部新人・中部総体も制して浜松開誠館を脅かすかと思われた藤枝順心を相手に一度もリードを許すことなく終わってみれば32点差の圧勝、特に第1Qに見せた怒涛の猛攻38得点は寒鮒までに相手の戦意を奪い取った。「もうあのオレンジ色のユニフォームは見たくない」相手にそこまで思わせる強さを見せたまさに浜学バスケの真骨頂であった。今年の中心は171cm**ワネケジジュリエット杏奈**。市立沼津を3点差まで追い詰めた県総体準決勝では20得点、破壊力のあるドライブでゴール下をペネトレイトする。気迫あふれる闘志でチームの屋台骨を支える**鈴木愛名華**は浜松聖星戦で孤軍奮闘25得点、この選手の表情・気持ちによって選手が鼓舞され、潤滑油となりチーム全体が機能する。他にも藤枝順心戦3P5本を含む27得点、センターを守っても無難にこなせる高さと能力をもちながら中盤に徹して得点を重ねる**足立珊那**、**相川樹由・出口愛珠**のレギュラー陣、170cm超のインサイド**篠原美咲・高山璃世**、東海国体にも出場した**黒野梨緒**や予備選手の**高柳亜知葉**など1年かけて作り上げた渾身のチームでまずは再戦が予想される藤枝順心を返り討ちにしたい。

藤枝順心は浜松学院に思わぬ大戦を喫したあと気を引き締めなおして浜松南に逆転勝ち、続く常葉大常葉戦にも快勝し5位をキープ。今大会は浜松学院との再戦に勝利して浜松開誠館への挑戦権をつかみたい。得意の空中戦に持っていけばとのチームも太刀打ち出来ない強さを発揮、そのためにもプレッシャー対応とリバウンド支配がカギとなる。中心となるのはどこからでも吸い込まれるようにボールがリングに入るアウトサイドの魔術師・**加藤咲空**。浜松学院戦では執拗なダブルチームで足を封じられたが続く5位決定2試合では3P11本を含む60得点。相手ブロックをかいくぐり崩れた姿勢でも確実に決める素晴らしいプレーヤーである。加藤とともにチームを牽引するのは**石部希歩**。加藤の調子を見極めながら3Pとドライブを使い分ける試合巧者、もともとは中距離タイプの選手でミートしてから絶妙なタイミングで放つジャンパーも得意とする。他にもアウトサイドに位置して加藤からのパスにグッドタイミングで反応し3Pを放つ**斉藤璃**、171cmの身長を生かしてリバウンドを一手に引き受ける**石田妃茉里**などこの1年間で培った経験を活かしながら4年ぶりのメインコートを目指す。

その他の注目選手として、**佐藤吏璃子・丸山真央・山下美優**（静岡大成）、**金田ありさ・御手洗寿奈・江本瑠奈・勝部真菜・後藤由奈・深瀬柚月**（三島南）、**辻玲奈・高橋倖菜**（浜松日体）、**氏原楓葵・鈴木碧衣・平野菜陽・野島侑香・佐藤葵**（西遠女子学園）、**遠藤すず・船山穏香・花枝咲和・播磨実花・稲葉叶**（東海大静岡翔洋）、**伊藤琹奈**（清水南）、**穴水柚衣・渡邊蒼衣・星莉留葉・望月悠理・熊﨑千奈**（清水西）、**小林由佳**（静岡雙葉）、**周沚熠**（袋井商業）、**石濱怜・高橋弥恵・柴田那渚**（浜松市立）、**大川原華・大平陽菜乃**（掛川東）、**永見みずほ・河村南美・彦坂好胡**（浜松北）、**小池紫寿・市来萌華・前林実希・高山莉良・杉山未緒**（藤枝順心）、**山田野乃実・伊藤帆南・田開瑚生**（浜松学院）などを挙げたい。

右上のブロックは県総体3位となり初の東海総体出場を果たした浜松聖星とウインター出場県内最多16回を誇る常葉大常葉が頭一つ抜けている感がある。

浜松聖星は東海新人出場を賭けた試合を体調不良で無念の棄権、その悔しさを糧に練習に精進し見事東海総体初出場を勝ち取った。緊張の面持ちで臨んだいなべ総合学園との一戦はオーバータイムまでもつれる死闘となったが最後は力尽きて東海初勝利を逃した。その試合を最後にエースの**大滝菜々子**が戦列を離れたが9月に電撃復帰、チームにとってもこの上ない朗報となった。国体選手としても貢献した超一流のオールラウンダー、安定したシュート力、膝を柔軟に使った加速力のある3P、冷静沈着に決めるフリースロー、相手の心理を巧みに読んだ駆け引きある1on1など挙げだしたら紙面が尽きる。東海総体でも相手の激しいディフェンスの隙をついてチーム最多の17得点、言わずと知れた攻守の大黒柱の復帰に心躍らずにはいられない。大滝とともにチームを支える**内山瑚子**は唯一U18から成年女子国体選手に選ばれ東海国体にも出場した逸材、選ばれた名誉もさることながら大学生を含む社会人と一緒にプレーをしてテクニックを吸収できたことが財産となったはず、勝負所で見せるクロスステップからの高速ドライブで放つワンハンドレイアップにも磨きがかかっている。他にも東海総体で出場機会を得た**岡本惺永・片山日菜**、県総体・浜松学院戦で途中出場しダメ押しの追加点を挙げた**松村莉音菜**などの主力の3年生と夏のリーグ戦を通じて伸びてきた下級生がどこまで阿吽の呼吸で機能するか、まずは県総体同様準々決勝で対戦が予想される常葉大常葉との戦いに全力を尽くしてから9年ぶりのメインコートのことを考えたい。

県新人5位・県総体6位の**常葉大常葉**は全国優勝2回の輝かしい偉業を誇る全国屈指の指導者・**小前宏史**前監督に代わり、長年指揮官の右腕として数々の修羅場をくぐり抜けてきた**佐野恵子**コーチが今大会監督として公式戦初采配を振るう。今まで試合中名将の隣に座ってメモを取り続ける姿が印象的、新体制になって何がどのように変わって進化したのか楽しみである。近年ドライブとペイントエリア中心に中で勝負するスタイルの印象が強く、その申し子が**佐野実咲**であり**松本しずく**である。その中でも**海野希帆**は積極的に3Pを放ち他の選手との役割の差別化を図る。中盤には**伊藤亜莉沙・中野菊花・森輝月・須田理子**、インサイドには176cm**河島唯奈**と県内最高身長179cm**室伏理緒**が待ち構える。実戦経験を通じて新監督の思い描く戦術を選手が理解してコートで実践していくことが現在の課題。どんな変化があっても変わってはいけないこと、それは伝統のステイローを続けること、まずは4回戦での対戦が予想される静岡東戦に勝って県武道館で浜松聖星にリベンジを果たしたい。

その他の注目選手として、**小柳真実・望月美空・山本寧々・栗田詩織・石井伶奈**（静岡東）、**海野陽香・宮本奈菜花・渡邉春菜**（静岡学園）、**江川汐音・菊池姫奈・村松美咲**（静岡西）、**佐久間日向**（静岡農業）、**川口ひいろ**（静岡サレジオ）、**山田芽以・増田悠伽・杉山花音・中山志緒梨**（静岡商業）、**福與芽生・西村歌里那・田尻爽子**（島田）、**石田琴音・窪田陽菜・平野ひまり・飯田綾夏**（三島北）、**山崎苺花・堀田侑希・横尾天音・佐藤心葉・石川真琉・坪井雪羽**（富士宮東）、**平井優月・山崎実琉愛・福川玲那・市川由那・芝本有紗**（浜松東）、**大竹花・三井亜利華**（浜松聖星）などを挙げたい。

右下のブロックは県総体準優勝・市立沼津が圧倒的な力を誇りメインコートに一番近い位置にいる。それを県総体7位の沼津商業が個性的あふれる戦力で追いかける展開、中学時代クラブチームに所属していた1年生が入学直後から主力となり上級生ともマッチして県総体ベスト16に入った**沼津中央**も面白い存在である。

優勝11回を誇る**市立沼津**は円熟期を支えた3年生が迎える最後の大会、県新人・県総体ともに浜松開誠館に敗れ優勝を逃しているだけに、まずは順調に勝ち進んで5年ぶりの決勝に進み充実した戦力で大願成就を果たしたい。東海新人・東海総体ともに勝利を挙げ、さらに東海リーグでは強豪相手に4勝を挙げる躍進を見せた。激しいプレッシャーディフェンスで常に相手に対して優位に立つバスケが特徴である。

エース・**遠藤陽向**は攻守のバランスの取れた唯一無二の好選手、ディフェンスが寄る前に素早く3P、スペースを早めにとらえて鋭く切れ込むドライブ、巧みにジャブステップやロッカーモーションを使って相手をかわすディフェンスなどすでに名人芸の領域、この選手の活躍がチームのバロメーターとなる。**遠藤有菜**は接触をいとわず果敢にリバウンドを取りに行くパワフルな選手でミドルの精度も高い。**勝亦麻結**は底なしの体力と1線へのボールプレッシャー、手足の長さを生かしたリバウンドでチームに貢献する。シューター・**一藤木楓**は自分と遠藤の調子を見極めながら試合によっては3Pに専念、また状況によってはつなぎに徹することができる天才肌の選手、堅い守備面でもチームに貢献する。中盤からインサイドには170cm代の選手が多く揃うのも特色、昨年度遠藤とともに県協会U18優秀選手にも選ばれ、長い手足と抜群の跳躍力を生かしたリバウンド支配が魅力・175cm**河谷真矢**を筆頭に河谷との連携したインサイドプレーが冴え渡る174cm**横山文音**、昨年女子で唯一クラブチームから県協会U15優秀選手に選ばれた170cm**野田志**、他にも172cm**竹ノ内菜優**、173cm**上原美桜**、170cm**植田亜湖**など長身選手が揃う。堅い守備、全員リバウンド、全員で速攻を心掛ける、その当たり前のことを徹底して行えば決して優勝も夢ではない。まずは1つ1つ勝利を積み重ね、常勝王者に勝って13年ぶりの優勝を手にしたい。

沼津商業は県大会でも8強に顔を出す上位常連校となった。県総体では2勝したあと浜松開誠館と常葉大常葉に敗れたが堂々の7位に輝いた。粘りあるディフェンスからアグレッシブな速攻オフェンスにつなげ、組織的な戦術や約束事を徹底して1+1が3にも4にもなるバスケを展開する。インサイド170cm・**鈴木榎奈美**の強靭なフィジカルから繰り出すパワープレーは必見、常葉戦で第2Q始めに3連続で得点したシーンは私の記憶にまだ残る。ランプレーにも十分に対応できるだけのスピードがあり、トレーニングで鍛えられた跡が如実に見える注目選手である。他にも中盤から鈴木に絶妙のパスを出す**向井京**、外からの3Pもある**稲田楓羽**、令和3年度に史上初めてクラブチームからU15優秀選手に選ばれた**庄司奈納**、堅いディフェンスに阻まれた開誠館戦で孤軍奮闘15得点を決めた**梅原優月**など常に県8強を維持できる戦力を誇る。準々決勝で東部総体・東部新人決勝の名物カード・市立沼津戦が予想されるが、まずはその前に県総体で勝利した浜松商業との対戦が控える。相手も雪辱を期すべく対策を講じているはず、絶対に負けられない戦いを制し5年ぶりの県武道館で市立沼津と対峙したい。

その他に、**市川日夏乃・栗田さわ・竹中心南**（清水東）、**堀小春**（常葉大橘）、**河村紗綾・小関若菜・山田千恵・三浦綾夏・**

大塲優菜（浜松商業）、**山本こころ・後藤さつき・江川凪・依田愛巳・モア綺蘭**（沼津中央）、**柴山梨央**（藤枝北）、**五十嵐愛生・中島心遥・鈴木沙綾**（磐田北）、**梅本理世・若山紗羽・河合桜・三浦羽葉・佐々優華**（静岡）、**佐野満里奈・織田愛加・富髙華音・鈴木娃賀・鈴木真花**（飛龍）、**小久保美波・杉田佳奈美・山田和奏・金子ひまり**（浜松湖南）、**清水杏那・臼井小夏・白井碧・江藤碧音**（沼津商業）、**川口青空・合澤小菊・米内心菜**（市立沼津）などを注目選手に挙げたい。

最後に、参加校が年々減少する中、2年ぶりの出場となる**稲取**と**加藤学園暁秀**、同じく2年ぶりに単独チームで出場する**富士東**と**富士見**の健闘も心から祈りたい。

【参考資料】　全国高校総合体育大会（インターハイ）

年度	開催地	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位（順不同）		優勝	準優勝	3位（順不同）	
H26	千葉	福岡大大濠	明成	桜丘	洛南	桜花学園	昭和学院	大阪薫英女学院	聖カタリナ女子
H27	京都	明成	桜丘	帝京長岡	東山	桜花学園	岐阜女子	明星学園	昭和学院
H28	広島	福岡第一	東山	福島南	山形南	桜花学園	岐阜女子	札幌山の手	大阪薫英女学院
H29	福島	福岡大大濠	明成	帝京長岡	福岡第一	岐阜女子	桜花学園	明星学園	大阪桐蔭
H30	小牧/一宮	開志国際	中部大第一	明成	東海大諏訪	桜花学園	岐阜女子	四日市商業	大阪桐蔭
R元	薩摩川内	福岡第一	北陸	報徳学園	開志国際	桜花学園	岐阜女子	大阪薫英女学院	大阪桐蔭
R２	金沢	新型コロナ感染症の影響で開催中止							
R３	新潟/長岡	中部大第一	帝京長岡	福岡大大濠	仙台大明成	桜花学園	大阪薫英女学院	岐阜女子	京都精華学園
R４	高松/丸亀	福岡第一	開志国際	藤枝明誠	中部大第一	京都精華学園	大阪薫英女学院	八雲学園	東海大福岡
R５	札幌	日本航空	東山	福岡第一	開志国際	京都精華学園	桜花学園	大阪薫英女学院	札幌山の手
R６	福岡	東山	美濃加茂	福岡第一	福岡大大濠	京都精華学園	岐阜女子	昭和学院	東海大福岡
R７	岡山								

ウインターカップ（選手権大会）

年度	全国 開催場所	男子				女子			
		優勝	準優勝	3位	4位	優勝	準優勝	3位	4位
全国高等学校選抜優勝大会（ウインターカップ）静岡県予選									
H26	東京体育館	明成	福岡大大濠	市立船橋	桜丘	桜花学園	昭和学院	聖カタリナ女子	安城学園
H27	東京体育館	明成	土浦日大	能代工	中部大第一	岐阜女子	桜花学園	昭和学院	聖カタリナ女子
H28	東京体育館	福岡第一	東山	北陸学院	帝京長岡	桜花学園	岐阜女子	昭和学院	大阪薫英女学院
全国高等学校選手権大会（ウインターカップ）静岡県予選									
H29	東京体育館	明成	福岡大大濠	帝京長岡	福岡第一	大阪桐蔭	安城学園	桜花学園	八雲学園
H30	武蔵野の森	福岡第一	中部大第一	帝京長岡	明成	岐阜女子	大阪薫英女学院	昭和学院	津幡
R元	武蔵野・八王子	福岡第一	福岡大大濠	東山　/　北陸		桜花学園	岐阜女子	大阪薫英女学院 / 京都精華学園	
R２	東京・武蔵野	仙台大明成	東山	洛南　/　北陸		桜花学園	東京成徳大	札幌山の手 / 高知中央	
R３	東京・駒沢	福岡大大濠	帝京長岡	仙台大明成　/　福岡第一		桜花学園	京都精華学園	昭和学院 / 大阪薫英女学院	
R４	東京・大田区	開志国際	福岡第一	藤枝明誠	/中部大第一	京都精華学園	札幌山の手	東海大福岡 / 岐阜女子	
R５	東京・武蔵野	福岡第一	福岡大大濠	藤枝明誠	/ 土浦日大	京都精華学園	岐阜女子	東海大福岡 / 札幌山の手	
R６	東京・武蔵野	福岡大大濠	鳥取城北	東山　/　福岡第一		京都精華学園	慶誠	精華女子 / 大阪薫英女学院	
R７	東京・武蔵野			/				/	

ウインターカップ2023静岡県予選 大会展望
【D-sports SHIZUOKA誌 寄稿版】

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

第77回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2023）静岡県予選が令和5年10月21日に開幕する。男子上位2チームと女子の優勝チームが12月23日から**東京体育館**他で行われる**全国選手権大会**への出場権を獲得する。全国を賭けた「秋の風物詩」県高校バスケ最高峰の戦い、その栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

男子

今年は藤枝明誠が東海総体で優勝してウインター出場枠が2枠になったことにより、例年になく見どころ満載の大会となる。

大本命は**藤枝明誠**。盤石の安定感を誇り、県新人・東海新人・県総体・東海総体・天皇杯県予選すべてを制して東海無双、総体でもベスト8に入った屈指の総合力で連覇を目指す。チームを牽引するのは**赤間賢人**と**ボヌロードプリンスチノンソ**の2人。司令塔・赤間は得点感覚に優れ、ジャンプショット・ドライブなど多彩なスタイルで得点を奪う。土壇場で決める3Pは相手の戦意を完全に奪うほどの威力である。209cmプリンスはトップレベルの留学生、リバウンドだけでなくつなぐプレーも覚え、異次元の高さで相手を幻惑する。この2人を中心に、主将としてチームを支える**小澤朋樹**、柔らかなタッチから放たれる3Pが冴える**大塚絢心**、ブロックを巧みにかわすフックシュートが魅力の**斎藤佑真**、いまだに身長が伸び続ける190cm**野津洸創**、コンバートされた中盤でも3Pを連発する**槍垣奏太**など戦力はタレント揃い。全国制覇も見据える強豪校の唯一にして最大の気がかりは9月に肩を負傷したプリンスの回復具合である。

その藤枝明誠を猛追するのが浜松開誠館と浜松学院である。

浜松開誠館のエース**山下朔史**は正確な3Pはもちろん、意表を突くノールックパスも繰り出して相手を幻惑する。インサイドの190cm**工藤寧朗**はプレーの先を予想してゲームをコントロール、リバウンドを積極的に支配して山下に気持ちよく3Pを打たせる。他にも、当たり負けしない強靭なフィジカルが魅力の**川島純**、合わせを使って得点を導く**萩田凌平**、東海総体でもスタメン出場した**半場太力**、国体にも選ばれた**高森カイル**など例年と遜色ない厚い戦力で2年ぶりの全国を狙う。

浜松学院は東海リーグで浜松開誠館に競り勝ち、7年ぶりの出場を目指すウインターに弾みをつけた。派手さはないが、高さとディフェンスへの意識で堅守速攻を愚直なまでに貫き通す職人集団、どこからでも得点を奪う**鈴木海成**と**大倉成矢**のWエースを中心に、**衛藤巧・石原弘幸・西垣玲央・伊藤匠・末永蒼**など場数を踏んだ選手も揃う。勝ち上がれば決勝リーグ初戦で激突する両チームの勝者が全国を手中にすると言っても過言ではない。

決勝リーグのもう1枠を狙うのは飛龍と沼津中央。

飛龍は得点源の**野田悠峨**を中心に、ディフェンスの要・**阿部光音**、中盤の**中久喜光祐**、シューター・**瀬古迅**などの充実した戦力で得意の速攻と空中戦に持ち込みたい。

沼津中央は戦力のバランスでは県内トップレベル、不動のスタメン**上里颯慎・稲葉司・桐生武蔵・内藤海夏人・エルデネサイハンエルデネバト**でどこまで突き進めるのか。ブロック決勝での対戦が予想される両雄の「学園通り対決」は今大会屈指の好カードである。

その他にもポテンシャルの高い下級生が入り戦力の底上げがなされた**静岡学園**や私学勢の牙城に挑む公立高の使命として常に県ベスト8を堅守する**浜松商業・浜松西**も虎視眈々と決勝リーグ進出を狙う。

女子

県内大会20連覇、公式戦136連勝、7年以上無敵の強さを続ける**浜松開誠館**は強さの質が進化して、今年も全国上位を見据えた戦いを続ける。特に東海総体では強豪・岐阜女子に初勝利、見事準優勝を飾った。総体でもベスト16、今年は近年の強さの象徴である高さとうまさに加え、内外のバランスの良さが目につく。

中心選手はU16日本代表「日の丸選手」**後藤音羽**。178cmの長身ながら恵まれたフィジカルを生かすようフォワードとし

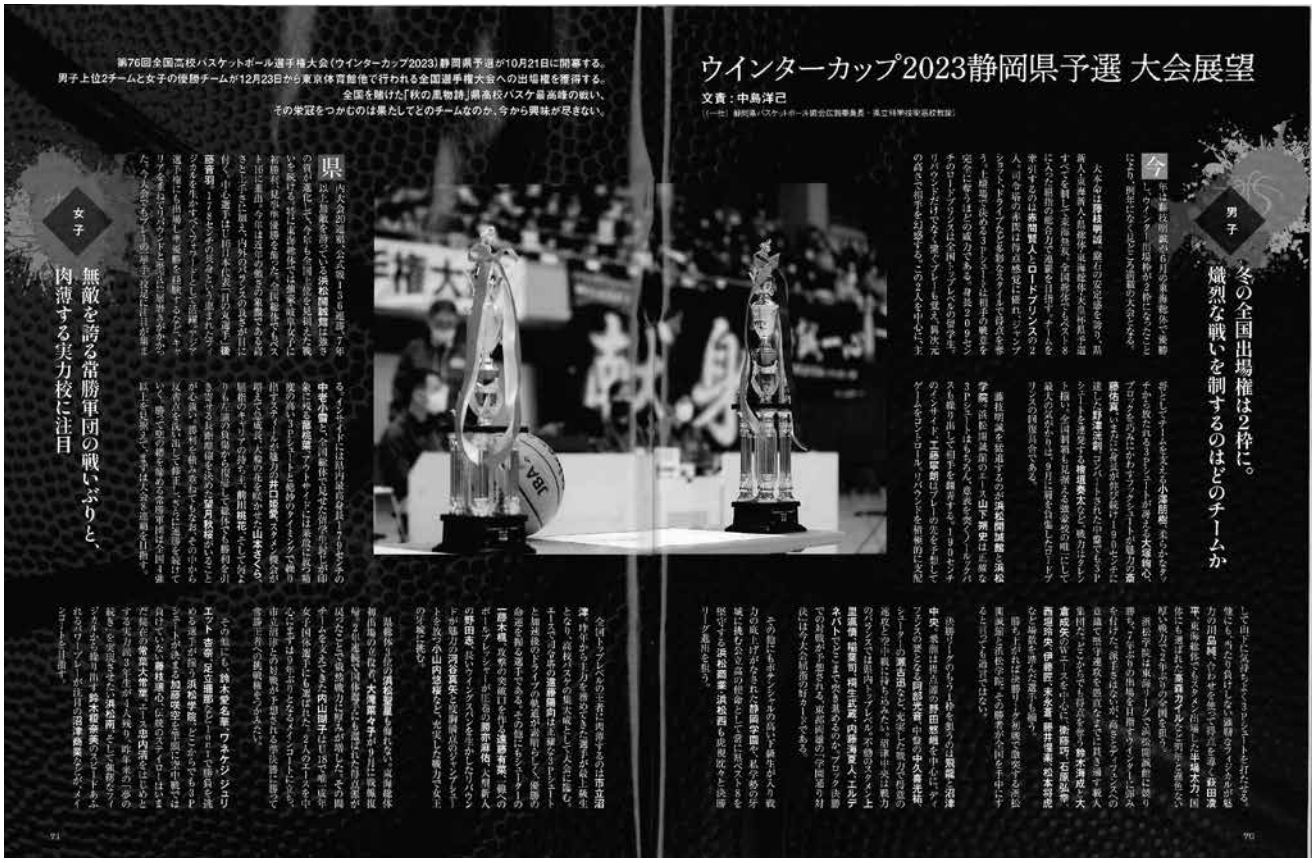
て活躍、アジア選手権にも出場し準優勝、キャリアを重ねてリバウンドと堅守に一層磨きがかかり、今大会でもプレーの一挙手一投足が注目を浴びるNo.1注目選手である。インサイドには県内最高身長179cm・**中老小雪**と全国総体で見せた留学生封じが印象に残る**蔀桃菜**、アウトサイドには果敢に放つ精度の高い3Pと絶妙のタイミングで繰り出すスティールが魅力の**井口姫愛**、スタメン機会が増えて急成長、大輪の花を咲かせた**山本さくら**、キャリア抜群の**前川桃花**、そして何よりも左膝の負傷から見事復帰して総体でも勝利を引き寄せる長距離砲を決めた**望月秋桜**がいることが心強い。

勝利を積み重ねるたびに反省点を洗い出して修正、さらに連勝を続けていく。勝って兜の緒を締める常勝軍団は全国4強以上を見据えてまずは大会8連覇を目指す。

全国トップレベルの王者に肉薄するのは**市立沼津**。主力を務めてきた選手が最上級生となり高校バスケの集大成として大会に臨む。エースで司令塔の**遠藤陽向**は正確な3Pと加速後のドライブの軌道が素晴らしく、優勝の命運を握る選手である。その他にもシューター・**一藤木楓**、攻撃の突破口を作る**遠藤有菜**、一線へのボールプレッシャーが圧巻の**勝亦麻佑**、大型新人・**野田志**、長いウイングスパンを生かしたリバウンドが魅力の**河谷真矢**と度胸満点のジャンプシュートを放つ**小山内悠桜**など充実した戦力で女王の牙城に挑む。

県総体3位・**浜松聖星**も侮れない。東海総体初出場の立役者・**大滝菜々子**が9月に戦線復帰、2年連続で国体選手にも選ばれた得点源が戻ったことで俄然戦力に厚みを増した。その間チームを支えてきた**内山瑚子**はU18で唯一成年女子国体選手にも選ばれた。2人のエースを中心にまずは8年ぶりとなるメインコートに立ち、市立沼津との対戦が予想される準決勝に勝って常勝王者への挑戦権をつかみたい。

その他にも、**鈴木愛名華・ワネケジジュリエット杏奈・足立珊那**など1on1で勝負を挑める選手が揃う**浜松学院**、どこからでも3Pが決まる**加藤咲空**を筆頭に空中戦では負けていない**藤枝順心**、伝統のステイローはいまだに健在・**常葉大常葉**、エース**忠内清**を始めとする実力派3年生が4人残り、昨年来の「夢の続き」を実現させたい**浜松南**、そして強靭なフィジカルから繰り出す**鈴木榎奈美**のスピードあふれるパワープレーが注目の**沼津商業**などがメインコートを目指す。



令和5年10月発売「D-Sports Shizuoka」掲載　大会展望

令和5年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

令和5年度第37回**東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選**が令和6年1月20日に静岡学園高校他で開幕する。アフターコロナにおける最初の新人大会、まさしく4年ぶりにすべての制限が撤廃された完全開催となる。初日に1,2回戦、2日目にブロック決勝と決勝リーグ初戦および5位決定トーナメント、3日目に舞台を静岡市北部体育館に移して決勝リーグ第2戦と5位決定戦、最終日28日に同じく北部体育館で決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月10,11日に岐阜県・**OKBぎふ清流アリーナ・大垣市総合体育館**で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人でコートに立つのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

また、この大会から年末の**ウインターカップ2023**に出場して優勝した京都精華学園相手に互角の戦いを演じた浜松開誠館、男子2枠目の全国切符をつかんでウインターの舞台に戻ってきた浜松学院、そして全国4勝を飾って3位を勝ち取った藤枝明誠が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。**新型コロナウイルス感染症**が第5類に引き下げられてから半年以上が経過したが、感染者がまだいなくなったわけではなく、同時に**季節性インフルエンザ**も流行していて学級閉鎖や地区予選の出場辞退もあったと聞いている。感染対策ガイドラインや応援への制限もなくなったが各自で十分な感染症対策をしてもらい、棄権チームを出すことなくこの大会が無事終了ことを願っている。

最終日の28日には、**（一社）静岡県バスケットボール協会U18優秀選手表彰式**が4年ぶりに開催される。例年県新人大会最終日恒例の風物詩であったがコロナの影響で3年連続の中止、そんな中、今年4年ぶりに開催されるという吉報に心躍る気持ちである。今年の高校バスケを彩った男女24名のスーパースターが集う最後の機会、県協会への多大な貢献に心から拍手を送るとともに次なるステージでの活躍を祈りたい。

この展望を執筆するにあたって山口裕史県協会広報副委員長を始め、各チーム顧問にもお願いをして出来る限りの取材に応じていただいた。それでも十分な展望は書けてはいないが、この場を借りて協力していただいた先生方に心からお礼申し上げたい。

最後に、新年早々から北陸地方が大規模地震に見舞われ心を砕かれる思いの日々が続いている。まずこの場でこの地震によりお亡くなりになられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表すとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げ、1日も早い復興を祈る思いである。本大会参加の選手たちも普段と変わりない環境下でバスケットが出来ることを改めて感謝しながらプレーして欲しい。

男子

今大会はウインター県予選でも他チームを圧倒、本戦でも準々決勝で前年度優勝チーム・開志国際に競り勝って最終的には2年連続の3位に輝いた藤枝明誠の独壇場が予想されるが、浜松学院も第2代表としてウインターに出場してかけがえのない舞台を経験、藤枝明誠を猛追する。しかしながら両チームとも新チームを始動してまだ3週間程度、新たな布陣で試行錯誤を繰り返している最中､その合間を縫って各地区予選上位チームが包囲網となって両チームに挑む展開が予想される。今回もブロック別に展望してみたい。

左上のブロック、第1シードには全国屈指の強豪・**藤枝明誠**が陣取る。今年度全国総体ベスト8・ウインター全国3位。特にウインターでは鳥羽・埼玉栄・八王子学園八王子・開志国際という強豪チームをことごとく破る快進撃を見せて静岡県勢最多勝利に並ぶ全国4勝を勝ち取った。全国の檜舞台から凱旋、東京体育館のメインコートを沸かせたプレーを県内で見られることはうれしい限りである。主力の赤間・齋藤・小澤などは抜けたが、新チームにおける層の厚さも全国トップクラス、今大会も間違いなく優勝争いの大本命である。

新チームの柱は日本のバスケットにも慣れてきてますますインサイドのプレーが冴え渡る209cm**ボヌ・ロードプリンス・チノンソ**。来日当初からスクリーン・ポストプレー・コート上の駆け引きなどよくバスケットを理解した器用なプレーを見せていたが、ウインターでは本来の持ち味であるインサイドプレーがさらに磨きがかかり、全国無双の強さを見せた。それを証明する記録として、ウインター 5試合で驚愕の126リバウンドを記録、大会リバウンド王に輝いただけではなく、平成24年に延岡学園のジェフ・バンバ（現B3八王子）が記録した1大会最多リバウンド記録を11年ぶりに更新した。バンバの記録は不滅の金字塔かと思われていたがロードプリンスがまさに「神領域」のプレーを見せて記録を打ち破った。特に開志国際戦では32リバウンドを記録（歴代4位)、まさに東京体育館の空中権を独占した。1番の強敵は怪我と古傷、昨年9月の練習試合で右肩を脱臼、11月の県武道館シリーズには復帰して以来全国でも全く変わらないプレーを見せているが、脱臼は癖になる傾向もあるので十分注意しながらのプレーを心掛けて欲しい。ともにチームの牽引する**野津洸創**は1年生ながら県協会U18優秀選手にも選ばれた逸材である。少年男子国体選手としても静岡県の3位入賞に貢献､ウインターでも全試合スタメン出場してチームに貢献した。伸び続ける身長は公称190cmではあるが、もう少し伸びている感もある。現在はインサイドを任されている

がアウトサイドや中盤でのプレー歴が長いのでどこでもこなせる万能選手、シュートレンジの広さで3Pも放つため他チームは対策に苦慮すること間違いない。
他にも、ウインターは出場できなかったがトップリーグや国体では大活躍・チーム事情によっては司令塔または3番ポジションどこでも無難にこなせる分、新チームではどこのポジションを任されて本分を全うするのかが楽しみな**槍垣奏太**、ウインター4試合に出場して合計40分で20得点・186cmの長身でリバウンドに絡みながらもリズムよくディフェンスする**柴田陽**、3Pシュートが冴える**福間聖也**、鳥羽戦途中出場して放ったシュート4本がすべて成功してラッキーボーイになった**高松悠季**、鹿児島国体では優勝した茨城県との準決勝で得意のドリブルで相手守備を幻惑して3P3本を含むチーム最多の20得点を挙げた**金子來樹**など新チームも有望株が多く、目標の全国制覇に向けてまた一歩前進した。厳しく間合いを詰めるディフェンスでボールを奪い、素早く果敢にゴールに向かう堅守速攻のバスケットでまずは新人大会で県そして東海の連覇を果たしたい。

ブロック決勝では、昨年の県新人・県総体ともに7位・ウインター県予選ベスト8、公立トップレベルの厚さを誇る選手層のフル活用しタイムシェアしながらコートに立ち最高のパフォーマンスを発揮すべく**増田健大・山田凌台・鈴木遥大・尾藤遙陽**などが攻守に躍動する**浜松西**と前回は東部9位で出場して中部2位・静岡学園を倒すアップセットを起こし、今回の東部新人3位決定戦では三島北との「公立の雄対決」をベンチと一体になった気迫あふれる一丸バスケで制し3位で今大会出場、まさに1年で6つも地区順位を上げて出場する**韮山**の勝者が藤枝明誠と対戦することになるだろう。韮山はオールラウンドなプレーで1年次からチームに貢献する**萩原諒**、ゴール下の防波堤**・岡本心真**、そしてキャプテンの**服部通尚**を中心としたディフェンシブなチーム、2回戦注目のカードとなる。

個人的には東部5位・**富士宮東**に注目したい。チームは予選リーグで松崎に敗れ2位となり決勝トーナメントは苦しい組み合わせとなったが、誠恵・星陵・加藤学園・三島南を次々撃破し東部5位で3年ぶりの県新人出場となった。予選リーグ3勝・決勝T4勝、地区予選計7勝は全地区予選を通じての最多勝利である。エースの**栗橋大寿**は県総体の時はパワフルさの反面、スピードに追い付いていない感があったがトレーニングと食餌制限等で劇的な肉体改造を施し、力強さを残しながら見事スピードを身に着けてプレーヤーとしてのレベルが数段上がった感がある。初戦の西部5位・浜松湖南はフィジカルとスピードにあふれリバウンドからの速攻が武器、ドライブも多用し粘り強いバスケットを展開するチーム、その戦いを制し、藤枝明誠への挑戦権をつかみたい。

その他の注目選手として、**清水凰多・清水明日夢・塚本大輝・増田好汰・近藤翔太・竹内澄海・バビアンリアンエマヌエル**（島田工業）、**佐藤橙亜・河野結翔・山本悠人・雪山慶人・渡邉空聖**（常葉大菊川）、**宮木琉衣・中井香維・永渕睦斗・飯田和真・池田蓮**（浜松湖南）、**百瀬暁・長島翔太・若原創太・小川春陽・増田脩人**（静岡）、**石川凛・森川拓登・刈谷蓮・佐野琉生**（富士宮東）、**深澤昂士郎・佐藤優生・細木建命・山田慎二**（韮山）、**西野友斗・高柿翔・間宮怜央**（浜松西）などを挙げたい。

左下のブロックは、今回男女合わせて唯一の地区王者同士がブロック決勝で直接対決する可能性が高い熾烈なブロック、西部王者・浜松開誠館と東部王者・沼津中央の「地区の横綱同士」が決勝リーグ進出をかけて雌雄を決する、ブロック決勝屈指の好カードとなる。

浜松開誠館は全国出場を狙ったウインター県予選では事実上の全国決定戦となった浜松学院戦で競り負け最終的には4位、言葉にならないほどの悔しい思いをした。その雪辱を期すべく万難を排して背水の陣で今大会に臨む。
新チームの中心となるのはU18優秀選手に選ばれて今年度の高校バスケの顔ともなった**工藤寧朗**と**高森カイル**。190cm工藤の高さはチームの宝、リバウンドやポストプレーでチームに貢献する。私もウインター県予選で間近で彼のプレーを見てきたが、時折人柄の優しさが垣間見えてしまうこともあった。勝負は勝負、情けを捨ててがむしゃらにボールを奪って得点に結びつけることだけを考えてプレーすれば全国でも通じるプレーヤーになるポテンシャルを持ち、彼の活躍が勝敗を分けるであろう押しも押されもせぬ中心選手である。東海国体・鹿児島国体でも活躍した1年生・高森の真骨頂は力強い1on1、これだけのスキルは一朝一夕に身に付くものではない。ドリブルミートしてのジャンプシュートは絶品、まさに新人戦という大会名に似つかわしい注目の選手である。他にも、ウインター県予選全試合スタメン出場・ボール運びが上手くドライブやパス、3Pなど多彩な攻撃の引き出しを持つ**藤原柊**、リバウンドに汗をかきジャンプシュートを得意とする**小野田祐之**、スピードあふれるボールキャリヤーでウインター県予選の飛龍戦で3Pも決めた**永井哩玖**、ウインター県予選で県武道館のコートにも立った**吉田澪央**、国体予備登録選手にも選出された**渡邉来偉**、トリッキーなパスやドリブルを見せる**嘉数隆成**などフレッシュかつ多彩な戦力でまずはブロック決勝を突破し、東海新人出場、そして初優勝を狙う。

沼津中央は東部新人決勝で近年相性が良くなかった飛龍を7点差で破り、宿敵に悲願の勝利を飾った。昨年・一昨年から下級生主体で試合をこなし、その下級生が最上級生となりキャリアを積んで今大会に臨む。
大黒柱は188cmの長身を生かして高いシュート精度で内外から得点を稼ぐ点取り屋・**桐生武蔵**。シューター・**小林吏駒**は高確率の長距離砲とタイミングをずらしてのドライブが生命線。主将・**内藤海夏人**は球際の泥臭さと粘り強いディフェンスで自己犠牲をしてもチームに貢献できる選手。そして国体でも大活躍・191cmの長身で40分フル出場可能な驚異的かつ無尽蔵のスタミナを誇る**エルデネサイハン・エルデネバド**など選手層の厚さとキャリアは藤枝明誠に迫る。他にも、3Pシューター・**新屋彰人**、跳躍力と俊敏性に長けてリバウンドや速攻で攻撃の起点となる**髙木強臣**、国体選手に選ばれて経験値を積んだ**村上幸斗**、実績のある**前嶋天聖・具志堅理大・新垣颯野**などの戦力を武器に、「堅守」とも呼べる徹底されたプレッシャーディフェンスから足を使ったスピードバスケでまずは8年ぶりの東海新人出場を狙う。

今大会男子唯一の初出場校は**御殿場**。創立122年の歴史を持つ伝統ある実業高校、**生越寛道**監督就任以降着実に力をつけて、今大会最終戦では昨年の県新人6位の星陵を破り東部9位で県新人初出場を果たした。優勝チームと並び今年に入って無敗である。前チームから受け継いだチームディフェンスから繰り出すファストブレイクを踏襲、攻撃の軸となる**中野海球空アントニイエ**は高校からバスケットを始めたが持ち味の力強いプレーに加えテクニックを身につけてインサイドを守る。185cm**庄司絢登**はハンドボール部から転部という経歴の持ち主、高さを活かしたリバウンドとシュートブロックでゴール下を支配する。その他にもオールラウンダーでバランスよく何でもこなすマルチプレイヤー・**森山蓮太郎**、中学時代相撲で県を制した強靭な足腰を武器に存在感を示す**横山悠貴**、そして怪我で今大会の出場は難しいが主将としてチームを統率する**芹澤惺瑛**などの戦力で果敢に西部王者・浜松開誠館に挑む。

その他の注目選手として、**櫻庭晴陽・川上大輝・石川琉斗・土屋愛翔・デラナベケンシン**（加藤学園）、**海野伍希・生子達仁・高松天成・塩川蓮太郎・佐野琉哉・勝山海朋**（城南静岡）、**芦澤怜・細川生童南條蒼生・齋藤天馬・ナカノレイネル**（静岡大成）、**渥美稜平・佐野裕章・野島煌羽・安間孝太郎・原田峻**（浜松聖星）、**村上悠翔・安井誠人・工藤泰心・阪本圭亮**（三島南）などを挙げたい。

右上のブロックは中部新人3連覇を飾った静岡商業と前回準優勝・ウインター県予選・3位決定戦で浜松開誠館に勝って意地を見せた飛龍の力が他チームを圧倒、ブロック決勝での対戦が濃厚である。

静岡商業は中部新人決勝で静岡学園に一時は16点差をつけられる劣勢から終盤一気に抜け出し最終的には14点差をつけての逆転劇、3連覇で地区優勝に華を添えた。地区予選における県立高校の3連覇は近年私の記憶にもなく、今後も極めて実現可能性が低い「快挙」である。

中心となるのは県立高校の星・**市川昊**。一言で言えばオールラウンダー、規格外のポテンシャル、そして何よりもこの選手には華がある。ドライブが続く展開で相手が対応し始めるとパスに切り替えて味方を後押し、ディナイすれば果敢に3Pを決める、外も用心すればディフェンスをかいくぐっての飛び込みリバウンド。相手にしてみればまさしく「打つ手なし、白旗」である。コート上ではまさしく無双状態、それを象徴するプレーが上述の静岡学園戦、リードを二桁に広げた残り時間30秒、果敢にスティールしてからのワンマン速攻で決めたダンクシュートに会場は揺れんばかりに沸き上がり、興奮のるつぼと化した。大きな期待を込めて評すれば、彼のプレーや一挙手一投足は日本代表・比江島慎（B1宇都宮）を彷彿させる。是非決勝リーグでロードプリンスとのマッチアップを見て心を躍らせてみたいと思わせる「逸材」である。

他にも、司令塔としてドライブ・3P・ジャンパーなど器用にこなす主将・**望月良依繁**、昨シーズン2月にベルテックス静岡のユース育成特別枠選手としてB3（当時）公式戦にも出場・中部準決勝で3P8本、決勝では4本を決めたスコアラー・**北堀遥大**を筆頭とする1年生の**佐野煌介・仲山柊志・文谷虎斗、齊藤遙人**など若い戦力でコート内縦横無尽に動いてどこからでも得点を生み出せる爆発的攻撃力が強み、練習でのシュート試投数も県内随一と聞く。もちろん「攻撃は最大の防御なり」とは言うが、ファンダメンタルなディフェンスも含めて守備面にも抜かりはない。順調に勝ち上がればブロック決勝で飛龍との対戦することになるが、優勝11回を誇る強豪を打ち破り大会に旋風を起こしたい。

前回大会準優勝の**飛龍**は、監督交代の過渡期となったウインター県予選で意地を見せ3位を勝ち取った。特に浜松学院戦で見せた粘りと浜松開誠館戦で見せた勢いは次につながる光明となった。大石監督と原コーチが作る新たな「飛龍イズム」がチームに浸透した感がある。

先代チームが完全に3年生主体のチームだったため本格的な始動には少し時間がかかるかもしれないが、新キャプテンの司令塔・**竹村勇祐**が飛龍に脈々と受け継がれるキャプテン魂を継承してドライブ・アシスト・3Pでチームに貢献、他にもインサイドの要・怪我から復帰して持ち前のリバウンド確保に汗をかく**竹本雅矢**、昨年の栃木国体にも出場した**小川優乃丞**、シューター・**守谷珂偉**、昨年の東海新人で力強いゴール下のプレーを見せて8得点を記録した**上門京太郎**、全中・Jr.ウインター出場経験をもつ中盤の**松浦光陽**などの戦力で伝統ある粘りのディフェンスと愚直にゴールに走り続ける速攻バスケを武器にブロック決勝で静岡商業を倒し4強、そして8大会連続の東海新人出場を狙う。

その飛龍は静岡商業戦の前に中部3位・**静岡城北**との戦いが予想される。静岡城北は県総体で敗れた韮山にウインター県予選でリベンジを果たし県ベスト16となった。**小澤柚貴・新村俊樹・花村詩穏**という3枚のシューターを擁し、彼らが飛龍のお株を奪うアウトサイドの魔術師と化せば飛龍といえども決して油断は出来ない相手、飛龍にとってはブロック決勝前に一勝負ありそうな雰囲気である。

その他の注目選手として、**アセソルカメ・太田友翔・島尾颯・伊藤悠真**（浜北西）、**田村勇人・山本蒼翔・尾形空・本田匠・朝比奈優馬**（静岡市立）、**芹澤颯馬・濱田寛太郎・野田倭・高田凛乃介**（三島北）、**石塚泰悟・山本来瑠寿・小倉颯太**（浜松湖北）、**望月健太・山本空**（静岡城北）、**山本凰賀・鈴木海翔・青木勇弥・江間真都・河合真叶・ポリスティコユリ**（浜松工業）などを挙げたい。

右下のブロックは、ウインター県予選で浜松開誠館と飛龍を破り7年ぶりにウインターに出場した浜松学院の総合力が群を抜くが、有望な1年生を要所で起用する中部新人準優勝・静岡学園と前回大会5位の浜松商業がブロック決勝進出を賭けて実力伯仲の死闘を繰り広げるであろう。

浜松学院は10年ぶりに巡ってきたウインター出場校2枠のチャンスを生かして全国大会出場、何事にも代えられない貴重な

経験をした。鈴木・大倉・衛藤などの主力は引退したが、ウインターの檜舞台を踏んだ下級生が今大会から主力となり凱旋、7大会ぶりの優勝を狙う。ウインターでは強豪・正智深谷に一時は5点差まで迫った粘り強く泥臭いバスケが信条、その試合でも中盤に見せた素早いパスワークからスペースを作り出して一気に加点して差を詰めているプレーを見ると、戦術の徹底とプレーヤー同士の阿吽の呼吸が感じられた。新チームの中心は国体でも活躍しウインターで堂々のスタメンを飾った1年生の二人。

西垣玲央は県協会優秀選手にも選ばれた逸材、国体・神奈川県戦でも静岡県の目指すスピードバスケで速攻を決めて勝利に貢献、ウインターでも約40分出場し続けて大倉に次ぐ17得点を挙げた。パスで周りを生かす生粋の司令塔であることは県予選でも計り知れたが、正智深谷戦ではディフェンスリバウンドを9本奪い速攻の起点にもなった。**末永蒼**は昨年度北海道全中3位の実績を持つプレーのクオリティーの高い選手、ディフェンスをかいくぐって放つタフショットが決まりだすと止まらない才能の塊のような選手である。その他にも、昨年の国体でも活躍・鋭利な角度で切れ込むドライブが持ち味の**石原弘幸**、短時間ながらウインターにも途中出場して貴重な全国の舞台を体感した**鈴木陽翔**、国体予備登録選手にも選ばれた**藤井惺楽**、ウインター県予選の優勝決定戦で3Pを決めた**戸塚健太朗**、185cmの長身と柔軟性あるフィジカルを生かした攻撃が魅力の**松本将虎**などフレッシュな陣容と全国大会出場という貴重な経験がどのようなケミストリーを見せるのか今から新チームの初陣が楽しみである。

静岡学園は中部新人決勝で静岡商業に惜敗したものの、選手の素材という点で見るべきものが多いチームである。昨年は主力を3年生で固めながらも随所に若い力を投入して経験値を積ませていた。

昨年の東海国体では静岡県を本国体に導く劇的な活躍・玄人好みのディフェンスとスクリーンを見せる**味岡大斗**主将を筆頭に、怪我に悩まされながらも天賦のシュートセンスでスタメン定着を狙う**小永井優磨**、中部決勝でも堂々の先発起用・惚れ惚れするような柔らかい体幹を使ってドライブ・レイアップ・3Pなど内外・ウイングから多彩に攻撃の突破口を見出す**内山直陽**、腕の伸縮を十分に使ってのシュートが素晴らしい**渡邉昊**、鹿児島国体に出場しパスカットからの速攻で得点を挙げた**大長真士**、監督のスタメン起用に応える**久保蒼真・山下敬太**、そしてシックスマンとして有事の出番に備える**山田伊吹**などさらに伸びるマージンが広いチーム。ブロック決勝で浜松学院と戦うためには、強靭なフィジカルから猪突猛進のスピードでゴールに迫る**宮本剛都**と監督の戦術をベースに試合展開やフロアバランス、そして仲間の息づかいを総合的に判断ながらプレーも指示も出来る頭脳明晰プレーヤー・**神谷将太郎**、そして大怪我から見事復活、時間限定出場ながらもキャリアもテクニックも一級品のインサイド・**枝村漱夕**などを擁する西部3位・**浜松商業**との対戦が予想される2回戦を是が非でも突破する必要がある。

その浜松商業と初戦で対戦する**科学技術**は中部7位で13年ぶり2回目の県新人出場を決めた。抜群のキャプテンシーを胸に常に前へボールを回すユーティリティープレーヤー・**牧野圭祐**を筆頭に、昨夏の焼津市選抜モンゴル遠征にも選ばれ、ウランバートルの空に吸い込まれんばかりの3Pを放った**増田美勇・戸篠海瑛**、低い重心から鋭いドライブや機敏な動きでリバウンドにも絡む**曽根田在**、そして1年生ながら中部の大型センター陣に一歩も引けを取らないインサイドワークでチームに貢献した**大石聖悟**が不動のスタメン。強敵相手となるが空中戦だけに頼らずにランゲームかつロースコアに持ち込んで県大会初勝利を目指して欲しい。

その他の注目選手として、**宮崎諒・青木海岬・高杉理己・羽田博理**（日大三島）、**大石真弘・臼井力兜・栗田頼乙・筒井大輝・千葉勢太**（浜松商業）、**増田圭吾・飯田慧斗・小川優多・竹内銀河・望野桂太郎**（星陵）、**水口陽翔・周梓俊・今田流威・井田翔太・鈴木仁・岩田悠司**（袋井商業）、**平山蒼空・稲葉一哲・川口将吾・荻野陽向・平野琥太郎**（東海大静岡翔洋）、**澤野恭助・杉村桜生**（科学技術）などを挙げたい。

女子

今大会も現在県内大会21連覇、141連勝中、まさに8年近く県内無敵を誇る浜松開誠館の総合力が今年も例年以上に群を抜いている。そのような状況の中でも各地区予選王者と昨年の県大会上位チームが何とか女王に一泡吹かそうと必死に追いすがる展開が予想される。

左上のブロックは浜松開誠館の独壇場となるであろう。他チームはまず浜松開誠館と戦うところまで勝ち上がりたい、相手を慌てさせたい、そして何か次につながるものを掴みたいと思って戦うことになるだろう。

現在大会6連覇中の**浜松開誠館**はウインター 2回戦で連覇を達成した京都精華学園と対戦、敗れはしたものの決勝での岐阜女子を除けば全国王者を一番苦しめたチームと言える。その岐阜女子にも東海総体では初勝利を飾っているだけにウインターのスタメン3人残る今年の布陣は全国トップレベルの戦力と言っても過言ではない。

中心となるのがU16アジア選手権で日の丸を背負った静岡県の至宝・**後藤音羽**。その京都精華学園戦では代わる代わる出場する規格外の留学生相手にオフェンスでは一歩も引かない力強い攻めを見せた。特に第3Qに相手が見せた留学生とU18日本代表の八木が仕掛けたダブルチームで挟み寄る執拗なディフェンスにもシュートの1歩目で身体を十分に入れてシリンダーポジションを制して柔らかな膝を使ってゴールに捻じ込むシーンはさらに高いレベルでの才能を感じさせた。本人はインタビューでも謙遜もあるだろうが常々守備への課題を挙げるがボールマンもマークマンも見逃さない身体を張ったディフェンスは日本代表の名に恥じないレベルにある。全国王者との激闘で得たさらなるハイレベルなテクニックを今大会でも見せて欲し

い。主将・**井口姫愛**はウインター 2試合共チーム最多得点を記録し合計44得点、特筆されるのはそのうちの96％にあたる42得点が3P、もはや驚愕のレベルである。京都精華学園戦でも8本を決め、相手選手が苦笑するシーンも見られた。3Pの精度や鋭いドライブはもちろん、大事な場面での勝負強さも天下一品、常に闘志を前面に表しチームの士気を鼓舞する大切な役回りも担う。1年生**前川桃花**もウインター・慶進戦で開始直後に放った3Pに象徴される空中砲も武器ではあるが、基本に忠実かつ一歩先を制するディフェンスが真骨頂、是非ディフェンスに注目して欲しい選手である。

他にも、京都精華学園戦で途中出場しグッドパスで3アシストを記録、自らも3Pやポストで攻める**八重柏憂奈**、粘り強いディフェンスでチームを下支え、ウインターでも32分のプレイングタイムを与えられて実践経験を積んだ**山本さくら**、177cmの長身を生かしてリバウンドを支配する**小幡美空**、東海リーグでの活躍が印象深い**杉山実子**、ウインターでも出場機会を与えられた**大久保愛姫・大杉光・岡田美紀・坪田真由美・橋本瑠那**、県選抜選手として東海国体にも出場した**持田莉子・織田百々花・山本爽未・鈴木結愛**など有望な戦力を挙げれば枚挙に暇がない。粘り強いディフェンスにチェンジングを交えながら攻撃では人もボールも機能的に動くバスケットで1つ1つ勝利を積み重ね、まずは県制覇そして県勢22年ぶりとなる東海制覇をも射程圏内にとらえる。

その常勝女王に初戦で挑戦するのは14年ぶりの出場となる**富士**。長年人数不足に悩まされていたが、2年生8人・1年生も8人計16人の大所帯となり、時間が限られる中での練習にもバリエーションが出てきた成果と言える。大黒柱の**望月さな**は恵まれた身長と運動能力で幅広いプレーをこなすオールラウンダー。**渡邉香恋・渡邉麻琳**はゲームメイクしながら相手の中心選手を抑えるディフェンスが取り柄。全国に名を馳せる強豪相手に自分たちが信じて打ち込んだバスケットがどこまで通じるか、全力で試して欲しい。

浜松開誠館への挑戦権を賭けて2回戦での対戦が予想される「**三島南－浜松南**」も2回戦注目のカードである。

三島南は予選のたびに順位を上げて今回東部3位で大会に臨む。入学当初から類まれなバスケセンスとテクニックで注目を浴びる**辻村明日香**が怪我から復帰し本調子を見せ始めて快進撃、予選でも市立沼津に敗れた1敗のみ。このチームで特筆されるのは厚い選手層とスピード主体の攻撃、そして辻村の個人技。昨年も展望内で「東部四天王」の一人と謳わせてもらったが、今年も勝亦・河谷（市立沼津）、向井（沼津商業）とともに新・四天王の中心となる逸材、チームの総合力だけでなく彼女のプレーが鉄壁のディフェンスを誇る浜松開誠館にどこまで通用するか、今から楽しみである。

昨年3大大会すべてベスト8、安定した成績を続ける**浜松南**は西部新人で浜松学院に決勝で惜敗したものの翌日浜松商業に快勝、3位で県新人に臨む。2年連続で県協会優秀選手となった忠内という絶対的エースが抜け、さらに新チームの始動が他の公立高校より遅れたことは事実だが、実戦経験を重ねた選手が多く残り、粘り強いディフェンスとウイングから鋭く切れ込むドライブ主体のバスケは今年も健在である。3Pやドライブを武器に1年時から活躍する新司令塔・**山村梨心**、オールラウンドな攻撃の組み立てが際立つ長身選手169cm**若林鈴音**、ゴール下の得点源**吉田遥**、大柄とは言えない163cmの身長ではあるが果敢にゴール下へ飛び込んでインサイドに挑み、浜松商業戦ではチーム最多の20得点を挙げて勝利を呼び寄せるなど名前の由来のごとく「想いが来る」プレーが光る**輿水想来**、自身をトップギアに持っていくのが早く、立て続けに入る3Pが魅力の国体選手・**新林芽依**など恵まれた戦力を使ってウインター県予選で敗れた浜松開誠館との再戦にたどり着きたい。

このブロックの注目選手として、**望月優那**《2年生》・**小泉美奈子・望月優那**《1年生》・**大出柚葉・小川心優**（静岡女子）、**佐藤吏璃子・丸山真央・須山心穏・山下美優**（静岡大成）、**鈴木沙綾・中島心遥・萩原葵・五十嵐愛生・鈴木楓花**（磐田北）、**高橋倖菜・高橋詠美・辻玲奈・五味優花・横山わかば**（浜松日体）、**勝部真菜・御手洗寿奈・江本瑠奈・後藤由奈・深瀬柚月**（三島南）、**鷹野瑠美・島田光奈**（浜松南）などを挙げたい。

左下のブロックは初めて中部新人を制した東海大静岡翔洋と前回大会4位・県総体では3位を勝ち取り初の東海総体出場・ウインター県予選でも3位に入り今年こそ10年ぶりの東海新人出場を目指す浜松聖星の一騎打ちとなる可能性が高い。

東海大静岡翔洋は県総体ベスト32、ウインター県予選ベスト16と順位を上げて今大会第4シードとして初の東海新人出場を狙う。秋までチームに貢献した3年生の船山・遠藤は引退したが、中部新人決勝を見ると指導者や先輩から教え込まれたことがチーム内に浸透している印象を受けた。チーム全員が足を使って走るバスケを展開しどこからでも得点を奪えるのが強みである。1年生キャプテン・173cm**稲葉叶**のプレーを初めて見た時、スクリーンへの対応・フロート位置でのステップ・指さしのナンバーコールなどが先輩である船山の影響を色濃く感じた。基本に忠実、プレーを先読みした動き、体勢の低い鍛えられたディフェンス、すでに完成度の高い選手ではあるがさらなるポテンシャルを感じさせた。攻撃ではエルボー位置からワンフェイク入れてのドライブかと思わせておいて切れ込んだ味方にパスを出してアシストを演出、守りではボールマンもマークマンも意識しながら相手に暗黙のプレッシャーを与える。このような貢献度は数字には表れにくいが攻守に関わらずオフボール時の動きこそ注目して欲しい選手である。

その他にも、飛び込みのリバウンドに活路を見出す一**見陽菜**、カットインとボールキャッチのタイミングが絶妙の**星合汐凪**、中部新人決勝で第1Qだけて3P本を決めて相手の意気も戦意も奪い取った**森理椛子**、空いたスペースを見逃さず縦に鋭いドライブを展開する**青島由來**、プレッシャーディフェンスの申し子・スイッチした相手にも素早く寄って突破口を封じる**森理彩子**、中部決勝で途中出場・第3Qから立て続けにシュートを9本決めた**花枝咲和**など1人1人の役割を果たしながらアグレッシブに攻めてまずは初の県新人4強を勝ち取りたい。

対する西部新人準優勝・**浜松聖星**は3年間主力としてチームに貢献した3年生が引退したが、ウインター県予選では下級生を積極的に起用して新陳代謝を図る姿勢が見られた。今年のチームは昨年の大滝・内山のような図抜けたエースはいないが個々に高い能力を持つ選手が多く、機動力で相手のディフェンスをかき乱し、フリーを作って攻めるバスケットが特色である。

新チームは、リーダーシップを持ち合わせ、考えながらバスケットが出来る「心」の部分と高精度の3Pなど「技」を併せ持つ主将・**大竹花**を中心に、高い1on1の能力でペイントエリアに攻め込む**高下加奈・中西杏奈**、冷静沈着なプレーで安定したシュート力を誇る**サリッチ愛奈**、県武道館のメインコートで身体を張ったディフェンスを披露した**三井亜利華**、同じくウインター県予選準々決勝で途中出場して得意のジャンプシュートを放った**長谷川万桜**などの山椒は小粒だがピリッと辛いメンバーが集まっている。まだ完全なる新チームが指導して2ヶ月余り、ここからタイムシェアをしながら多くの選手に実践経験を与えて全員にオールラウンドなプレーを習得させて徹底させていくであろう。昨年は決勝リーグに進みながらも3位決定戦をインフルエンザの影響で棄権、涙をのんだ。まずはブロック決勝を制して決勝リーグ進出、そして東海新人出場を狙う。

浜松聖星の初戦相手は初出場・**桐陽**。バスケ強豪校・飛龍と姉妹校で同じ学校法人沼津学園。こちらも長年深刻な部員不足に悩んでいて出場辞退や合同チームでの出場も経験した。今年度ポテンシャルの高い新入生が多く入部、伸び伸び楽しみながらプレーをするのが特徴、平均身長166.2cmは県内トップレベルである。エースは2年生の司令塔・**遠藤優奈**、小柄ながら相手ディフェンスをかいくぐってのドライブや瞬時に放つ3Pで得点を稼ぎ、献身的なディフェンスも魅力。1年生では高いオフェンス力を武器にインサイドで活躍する**芹澤もか**、長い手足を生かしたリバウンドとパスセンスを武器に攻守でチームに貢献する**河谷唯**、3Pシューター**進藤亜未唯**、そしてチームをまとめる主将の**薄井衣緒菜**は適切な指示とチームを鼓舞する声援で精神的支柱となるムードメーカー。地区予選で6勝した勢いそのままで県新人へ走り抜ける。

今回の地区予選では、初めて全地区で男女11位決定戦が行われた。今までは県大会出場が10枠しかない場合は11位決定戦を行わない地区もあったが、今回は1試合でも多く選手に試合の機会を与えたい、そして4月に行われる地区総体の第11,12シードを確定させたいという運営側の配慮からと推測する。地区によっては県総体・県新人最終日の11位決定戦が「県大会出場最後の1枠決定戦」として注目を浴びるが、今大会では男女合わせて推薦チーム（地区予選免除）が3チーム生まれたため、西部女子のみが「最後の県切符決定戦」となった。64番目にそれを掴んだのが**浜松北**。常葉大菊川との一戦、司令塔・**河村南美**や中盤の**永見みずほ**などの活躍で4年連続の県切符をつかんだ。球際に必死に食らいつき攻撃の機会を増やして得点を重ねるチーム、全力で県新人に臨むとともに西部総体では一つでも上の順位で県総体を目指して欲しい。

このブロックの注目選手として、**水鳥心羽・中嶋夢月・村松奈々・坪井雪羽・山口琴乃香**（富士宮東）、**山田芽以・増田悠伽・中山志緒梨・杉山花音・落合美雨**（静岡商業）、**彦坂好胡・飯尾心海・内山夏緒**（浜松北）、**芝本有紗・西浦李虹・山田彩耶・山崎実琉愛・小山愛加**（浜松東）、**藤倉華音・田村悠香・大竹里奈・藤倉琴音**（加藤学園）、**深間菜月・岡部玲那**（浜松聖星）などを挙げたい。

右上のブロックは東部新人10連覇を達成した市立沼津と中部新人準優勝の常葉大常葉が決勝リーグ進出を賭けて戦う図式が予想される。「市立沼津－常葉」と聞いただけでもバスケファンにとっては垂涎（すいえん）の好カードである。

市立沼津は昨年3大大会すべてで準優勝、女王・浜松開誠館に最も肉薄したチームである。東海大会や東海リーグにも出場し、東海地区の強豪と互角に渡り合える実力を備えている。遠藤・一藤木など3年間を支えた主力は引退したが、アンダーカテゴリー時代からキャリアを持つ選手も多く残っていて今年も楽しみな戦力である。

中心となるのが**河谷真矢**と**勝亦麻結**。県協会優秀選手178cm河谷は身体能力が高く、跳躍力と長いウイングスパンを利したリバウンドが特色。リバウンド支配率も高いので周りも安心してタフショットを打ち、チームに相乗効果を生み出す。東部新人決勝でも30得点を超える大活躍で勝利の女神となった。勝亦はスピードを生かしたドライブが持ち味、ディフェンスでは大型選手相手にも身を粉にして献身的なディフェンスが出来るプレーヤーである。パスランや鋭いドライブ、力強いリバウンドで得点につなげて、粘り強いディフェンスで守り切るチームのスタイルは変わらないが、今年は高さもあるのが最大の特徴、河谷以外にも**野田志・上原美桜・植田亜湖・竹ノ内菜優・外川あこ**など170cm代の長身選手が揃い、ポストプレーも随所に活用する。特に野田は昨年度のU15優秀選手、夏には国体選手にも選ばれるなど輝かしい勲章を持つ選手、ボールハンドリングが天下一品で上手の手から水が漏れることもない素晴らしいスキルを持つ。同じく県選抜選手の上原も中学時代に野田と同じクラブチームで活躍、息の合ったコンビネーションを見せる。他にも、ドライブから広めにステップを踏んでのジャンプシュートを得意とする米内心菜、小柄ながら強めにプレスをかける守備が魅力の**梅原萌々伽**、3Pシューター**杉山萌唯**、粘り強いディフェンスの**當房心瑠**、ドライブからのジャンプシュートを得意とする**米内心菜**など選手層は県内屈指の厚さを誇る。東部新人はウインター県予選で圧倒した沼津商業に1点差を守り切る薄氷の勝利であったが、県新人開幕に再度焦点を合わせて調整してくるはず、まずは2年連続の東海新人出場を確実にし、さらに15年ぶりの優勝を目指して欲しい。

常葉大常葉は前回大会5位、続く県総体でも6位に入ったが、ウインター県予選では静岡東に敗れベスト16に終わった。伝統の常葉バスケを継承する佐野新監督の指導のもと、ステイローディフェンスを信条にオールコートマンツーでの堅守速攻を展開して市立沼津を倒し3大会ぶりの東海新人出場を狙う。

中心となるは**伊藤亜莉沙**。ステイローで培った柔軟な下半身を使ってジャンプ、高い位置でボールを捕らえて滞空時間の長いリバウンドが特徴、セカンドチャンスも逃さない。近年目に付いた平面的なバスケットを打ち破り長距離砲も打てるのが中盤の**森輝月**、ディフェンスでは果敢にブロックを試みブレイクの起点ともなっている。また森とともに度胸満点の3Pを放つ**大坂澪**も見逃せない。177cm・**河島唯奈**は攻守に見るべきプレーが多い選手、攻では正面に切れ込むドライブやリバースター

ンからのシュート、守ではインサイドで相手ビッグマンに脚を入れて初動を抑えるなど冴え渡るプレーに注目、大会最多13回の優勝を経て受け継がれる伝統のバスケを継承しながらも新しい色を入れて、新生・常葉のスタートを切って欲しい。

このブロックの**下田**も学校創立16年目で県新人初出場を果たした。統合前の前身校、下田北･下田南時代も出場経験がなく、今回が正真正銘の初陣となる。常にボールマンとマークマンに素早く対応するディフェンスをベースに、ランアンドガンとパス回しでオフェンスを形成するスタイル、さらには動画やICTを活用しての情報収集やデータ分析も積極的に取り入れた最先端バスケを導入している。リバウンドを絡めた攻守の要は**川端穂積**と**神尾美月**の正副キャプテン、司令塔・**髙橋夢花**は151cmと小柄ながら広い視野でゲームメイクを行い、オンボールディフェンスのプレッシャーが取り柄となる。ウイング位置の**森心明**も同じく151cm、ドライブや3Pと得意として守備では積極的なパスカットでターンオーバーを誘発させて流れを引き寄せる。身長がない分、足を止めないバスケを心掛けて西部の強豪・浜松商業に挑む。

このブロックの注目選手として、**塩崎目向・清水佐和・遠藤陽菜・菅野陽向・伊藤栞奈**（清水南）、**髙橋弥恵・石濱怜・鈴木萌花・伊藤かすみ・山田暖々果**（浜松市立）、**見原楓七・依田愛巳・モア綺蘭・後藤さつき・金子来音・江川凪**（沼津中央）、**原田りの・小関若菜・山田千恵・大場優菜・矢野有彩・三浦綾夏**（浜松商業）、**高橋乃愛・竹内結衣・谷川侑来・鈴木湖遥・平松果歩**（浜松湖東）、**中野菊花・池田愛央衣・須田理子・室伏理緒**（常葉大常葉）などを挙げたい。

右下のブロックは、県総体4位・ウインター県予選3位の実績を誇る西部新人覇者・浜松学院と10年来東部予選無敵の市立沼津を決勝で土俵際徳俵まで追い詰めた東部2位・沼津商業がブロック決勝で相まみえる公算が高い。それを阻止すべく2回戦で両チームと戦う可能性が高いのが、前回3位で2大会連続の東海新人出場を果たした**藤枝順心**と新チームで挑んだウインター県予選で初のベスト8入りを果たした**静岡東**の中部勢が追いかける展開となる。

浜松学院はウインター県予選準々決勝で藤枝順心を返り討ちにし、続く準決勝でも浜松開誠館の牙城に迫る戦いで大善戦、3位を勝ち取った。
新チームの大黒柱は173cm**ワネケジジュリエット杏奈**。長身を生かしたインサイドプレーだけでなく、中に切れ込んでのミートシュートやドライブなど多岐に渡る攻撃が持ち味、さらにはフリースローの成功率が高く、低空飛行でサクっとリングに吸い込まれるボールの軌道は特徴的である。シューター・**足立珊那**は攻守の要、3Pやドライブに目が行きがちだがミドルシュートも高確率に決め、西部新人決勝では23得点を挙げた。175cm**髙山璃世**はワネケジとともにツインタワーでインサイドを制覇する。175cm**篠原美咲**・173cm**荒井香実**・170cm**太田綾夢**・170cm**黒野梨緒**など、ワネケジや高山も含めて170cm級の長身選手が多いのもチームの強みである。中盤や外回りに目を移せば攻撃から守りへのトランジションの要となり状況に応じて適切なジャッジが出来るインテリジェンスプレーヤー・**相川樹由**やディフェンスのスペシャリストとしてチームを幾度となく窮地から救った**伊藤帆南**、新チームからスタメンに抜擢された**田開理世**など高さと能力を兼ね備えた完成度の高いチーム、堅守でリズムを組み立てて個々の能力を生かした攻撃を展開するバスケットでまずは2大会ぶりの東海新人出場、そして浜松開誠館を破った平成27年度以来の優勝を目指す。

沼津商業は過去にも地区予選で市立沼津をオーバータイムまで追い込んだこともあったが、今回も1点差を詰め切れず地区初優勝という大魚を逃した。この悔しさをバネに県新人に臨み、初の4強・東海新人出場を狙う。屋台骨としてチームを支えた鈴木の抜けた穴は大きすぎるが、速いトランジションが特徴的なフォワード陣の破壊力は抜群である。
庄司奈納は試合中常に声を出しチームを鼓舞、ポジション移動も的確でドライブの突破力もある。司令塔・**向井京**はパスのバリエーションが多彩、少し引き気味で攻めることで相手もパスなのかドライブなのかまたはディープスリーなのか判断が遅れるシーンが目に付いた。先述したが私はこの選手の技術を非常に高く評価する。**梅原優月**は勝負の駆け引きに長ける選手、1on1でもジャブステップやロッカーモーション、フェイクを使いながら巧みに相手を抜いていく技巧派である。**稲田楓羽**はウインター県予選準々決勝・終盤に放った綺麗な放物線を描きながらリングに吸い込まれた3Pが印象的、長距離砲だけなく接触をもいとわない激しいディフェンスが強み。鈴木の穴を埋めるのは170cm**白井碧**であろう。ウインター県予選で途中出場ながら聖地・県武道館のコートを踏んだ貴重な経験と鈴木からの尊い教えを生かしてゴール下の砦となって責任を果たして欲しい。シックスマンとしてはハードワークに定評がある**白井千夏**が控えることも心強い。何度も書いているが沼商と言えばチームワーク、しかしここからさらに上に行くためにはその次の一歩が必要、全員ディフェンスからブレイクにつなげて攻守にスピードを重視するバスケットで、まずはブロック決勝を突破することだけを考えてプレーして欲しい。

このブロックの注目選手として、**小池紫寿・石田妃茉里・増井弥空・宮住美桃・清水咲希・和田一茉莉**（藤枝順心）、**梅本理世・佐々優華・河合桜・若山紗羽・三浦羽菜**（静岡）、**栗田志織・小泉芽生・山本寧々・佐藤蓮乃・小柳夏実・伊藤琉那**（静岡東）、**平野ひまり・飯田綾夏・石田琴音・窪田陽菜**（三島北）、**鈴木歩美・中村良蕾・片岡瑞希・木下花翠**（島田商業）、**廻久実子・小久保美波・杉田佳奈美・石垣栞**（浜松湖南）などを挙げたい。

令和6年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

令和6年度全国高校総体静岡県予選が令和6年5月25日に藤枝明誠高校体育館他で開幕する。昨年から長年続いた決勝リーグ制を廃止し**トーナメント制**に変更、5位決定トーナメントと東海総体出場権を賭けた3位決定戦を行うレギュレーションとなり、上位チームでも最大5試合、2日目以降は1日1試合の実施となり、選手のコンディション調整がしやすい環境となった。26日に男子・**雄踏総合体育館（雄踏アリーナ）**・女子・**浜松開誠館高校第2アリーナ（KAISEIKAN ARENAⅡ）**で行われる準々決勝を制した4校による準決勝と**5位決定トーナメント**が6月1日に袋井市・**エコパアリーナ**で行われ、翌2日に同じくエコパで決勝戦と3位・5位決定戦が行われる。優勝校は8月3日に福岡県・**福岡市総合体育館（照葉積水ハウスアリーナ）**をメイン会場として開幕する**全国高校総体（インターハイ）**へ、上位3校が6月29日,30日に岐阜県岐阜市**・岐阜メモリアルセンター（ぎふ清流アリーナ・ぎふ長良川球場・ぎふ長良川スポーツ公園・ふれ愛ドーム）**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。

令和元年末から全世界で猛威をふるい続けた**新型コロナウイルス感染症**も**感染症法上の5類相当**に引き下げられてから1年、「**アフターコロナ**」対応での競技活動や大会運営が続いている。その中でもコロナやインフルエンザがなくなったわけではなく、選手・指導者・運営側そして応援する方々も引き続き十分な感染症対策を取りながら、大会に臨んでいただきたい。

今年度も例年同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末の**ウインターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が「増枠」となる。昨年は藤枝明誠が決勝で美濃加茂（岐阜）が仕掛けたトライアングルツーに苦しみながらもオーバータイムの末劇的勝利、県勢11年ぶりの東海総体優勝を飾り、ウインターカップ出場枠「プラスワン」をつかみ取り、その恩恵で10年ぶりに県勢男子2校（藤枝明誠・浜松学院）がウインターに出場した。他県も喉から手が出るほど欲しいウインター追加出場権、現に藤枝明誠は東海新人大会で美濃加茂の返り討ちに遭うなど今年も予断を許さない状況が続く。増枠を狙うためには静岡県もより強いチームを東海総体に送り込み、容易でないことを百も承知で書くがインターハイでも決勝まで昇りつめてウインターカップのさらなる追加出場枠を獲得する使命も担ってもらいたいと思う。

さらにこの大会は**全日本選手権（オールジャパン）県予選**の出場選考も兼ねており、上位2チームは8月31日,9月1日に静岡県バスケの聖地・**静岡県武道館**で行われる県代表決定トーナメント大会の出場権を獲得することはご承知の通りだが、今年8月に愛知県・名古屋市緑スポーツセンター、三重県・AGF鈴鹿体育館にて3度目の開催となる「**U18日清食品東海ブロックリーグ2024**」への出場義務も負うこととなる。このリーグ戦は全国屈指の激戦区・東海ブロックの強豪校と連続して対戦する絶好の機会であり、チーム強化にとってはこれほど効果的な「良薬」はない。その証拠に一昨年に続き、昨年本県から出場した男女4校も新たに導入された同県対決も含めた貴重な経験を積み上げて4校ともウインター県予選決勝戦（決勝リーグ）の舞台に戻って来た。もちろんどのチームも今大会での勝利が最優先事項であるが、「強化・育成」という長期的なチームビルディングを考えればこの大会への出場権も是か非でも手に入れておきたいと思っているはずである。また今年から男子の各ブロックリーグにB.LEAGUEの下部組織であるＵ18クラブチームが1チーム参加することになった。高校チームがクラブチームと公式戦で対戦するのは初めてのことになる。普段絶対に交わることのない高校とクラブの初対決もこの大会に参加出来てこその特権となる。なお、昨年藤枝明誠が出場した「**U18日清食品トップリーグ**」はすでに前年度上位4校の出場が決まっていて、残りの4校はインターハイや各ブロック総体の成績をポイント換算して後日発表される。このトップリーグはカテゴリーが変更になった国民体育大会（現・**国民スポーツ大会**）に代わり、「インターハイ」「ウインターカップ」と並ぶ「**新・高校三冠**」と呼ばれるようになった。これらのビッグイベントへの出場権もこの大会に臨む選手やコーチの士気を大いに高めていることに違いない。

昨年の大会を見ていると、トーナメント制になったことで優勝・全国を目指すチームは「絶対に負けが許されない」というさらなる緊張感の雰囲気が前面に漂っていた。決勝リーグ制の時は1敗しても得失点差で優勝、また全国総体出場枠が2枠あった時は2敗してもまだチャンスがあり、場合によっては負けているチームがストーリングして時間を稼いで全国出場が決まる、ということさえあった。しかしながらこれからは1敗も許されない戦い、たとえ1点差でも勝ち続ける以外全国への道はない。そういった意味での「ピリピリした」緊張感の半面、負けてしまったチームにも東海総体出場を賭けた3位決定戦、そしてウインター予選での県武道館メインコートにグッと近づく第5シード獲得のための5位決定戦などが待っていて、「転んでもタダでは起きない」不屈の精神で一つでも多くの勝利を目指すアスリートたちの熱い思いが伝わってきた。

なお、この大会展望執筆においては、毎回私の懐刀として職責を務めてくれている**山口裕史**県協会広報副委員長に加えて、今年から着任してくれた三**宅凌**県協会広報委員に多大な御尽力をいただいた。山口副委員長が私の右腕なら、三宅委員は左腕となって情報を収集してくれた。私事で大変恐縮だが、今年から「報道部（放送部）」の正顧問となったためNHK放送コンテストや高文連の行事などが重なって例年以上に十分な戦力分析をすることが出来ない状況にある。そのような中でも毎回の大会展望を楽しみに待っていてくれる選手や保護者の皆様のために、私の分まで時間と労力をかけて情報収集に尽力してくださったお二人にこの場を借りて心から御礼を申し上げるとともに、取材の場や情報を提供してくださった関係者や私の質問に快く回答してくれた皆様にも心から感謝の意をお伝えしたい。

男子

今大会も県新人を圧倒的な強さで制した藤枝明誠の強さが群を抜き、独壇場となる雰囲気を感じさせるが、東海新人に出場した沼津中央や飛龍や県新人上位校の浜松学院・浜松開誠館などが鉄壁の牙城を崩すために猛追する図式が展開される。

まずは左上のブロック、大会3連覇を狙う藤枝明誠を中心とした争いになる。そして準々決勝での藤枝明誠挑戦権を賭けて2回戦で浜松商業と静岡学園の戦いが予想される。県新人2回戦の再現カード、前回は1点差で静岡学園が勝利を掴んだ実力伯仲の両雄、初日屈指の好カードとなる。

藤枝明誠は昨冬のウインターでは前年覇者の開志国際（新潟）との死闘を制して3位、新チーム始動4週間で臨んだ県新人も圧倒的な強さで連覇、続く東海新人でも富田（岐阜）・桜丘（愛知）に連勝して臨んだ決勝戦・ウインターベスト8の美濃加茂との戦いで相手エースの藤田大輝と留学生エブナフェイバーの猛攻を止められず惜敗、準優勝に終わり連覇を逃した。どこの県も総合力の底上げがなされていて本県も危機感を持って強化に取り組む必要があるが、**金本鷹**監督は常に「目標は全国制覇、そして東海総体・インターハイを制して静岡県に3枠のウインター出場権をもたらしたい」と話しており、その言葉は全く大言壮語ではなく、地元愛にも満ちた「視野の広い説得力のある発言」である。春先の交歓大会DAITO CUP・フェニックスカップでは大学や高校の強豪が集うなか、下級生を主力にチームとしての大いなるポテンシャルを披露、さらにGW中の能代カップでも駒大苫小牧・日本航空・東山・能代科学技術の強豪勢を破り準優勝、そして中部総体では得意とする速い展開のバスケを見せるなど安定した戦いで大会18連覇を果たした。県総体でも圧倒的な強さと完成度の高いバスケットを見せて3連覇を達成する可能性が高い。見据えるその先には東海総体連覇、そして全国制覇であることは間違いない。

中心となるのは全国屈指のインサイド・209cm**ボヌロードプリンスチノンソ**。今年からゲームキャプテンを務めて、個人プレーだけでなく連係の核となるプレーも見られるようになった。チームメイトもさらに彼の特性を生かす仕掛けを見せてチームとして攻撃の幅が広がった。昨年は肩の脱臼など怪我に苦しんだが、コートに立てない間に寸暇を惜しんで取り組んだトレーニングが功を奏し、フィジカルが数段パワーアップ、最近はガード顔負けの絶妙なアシストを見せるなどテクニックも一段上がった印象がある。天職のゴール下に関しては、東海新人決勝でナイジェリア時代からの幼馴染みであるフェイバーとド迫力のマッチアップ、ここぞの場面で見せる会心のスラムダンクも冴え渡り、格の違いを見せて24リバウンド・34得点を稼ぐ相変わらずの独壇場、能代カップでも優秀選手賞を受賞、県内広しといえども現在彼を止められる選手は浮かばない、そんな無双選手の一挙手一投足をエコパアリーナで再び見られるのが今から楽しみである。

ロードプリンスとともにチームを牽引するのが、昨年強豪クラブ・ゴットドア（兵庫）から鳴り物入りで入部、噂に違わないオールラウンドなプレーを見せて、さらには伸び続ける身長を利した高さのプレーにも味が出てきた190cm**野津洸創**。入学直後からスタメンに抜擢されこの一年間で多くの経験を積んでメンタル面も成長、プレーでは球際の泥臭いプレーに汗をかき、ポテンシャル十分でさらなる飛躍が期待できる。さらに今季はゲーム中の状況判断に磨きがかかり、まだまだ成長の余地があるスケールの大きい逸材、今後唯一の泣き所と言える好不調の波を克服出来れば先輩・赤間選手のような全国レベルのアスリートになれる可能性を秘めた選手である。

そして忘れてはならないのが、大怪我から復帰して不死鳥のようにコートに戻ってきたキャプテン・**野田凌吾**。昨年のウインターではマネージャーとしてベンチ入り、声とメンタルでチームを下支えしてきた。持ち前の球離れの良さと巧みなアシストが魅力、卓越したバスケIQで相手に流れを渡さない強みを持つ。この選手の復帰により、1+1の連携プレーが3にも4にもなるくらいにチーム力の強化につながった。

その他にも、上背を補って余りあるほどの運動量と気の利いたプレーでチームを支え、数字に表れにくいところでの活躍が光る「一家に一台」便利屋プレーヤー・**篠原遼太**、昨年の日清トップリーグで覚醒、豊富な得点パターンで攻撃のリズムを作り、類まれな身体能力を持った天性のスコアラー・**槍垣奏太**、アウトサイドを小気味よく決めるシューター・**白崎上総**、シュートを狙う積極性に好感が持てる**福間聖也**、ポーカーフェイスとは裏腹にプレーは激しくむき出しの闘志で相手に向かい、時には泥臭いプレーを淡々とこなす必殺仕事人・**柴田陽**、ペネトレイトからチームのリズムを作る司令塔・群を抜く敏捷性と水もこぼさない正確なハンドリングが持ち味の**高松悠季**、常に準備万端・いざ鎌倉に備え、コートに出れば3Pの雨を降らせるゴールメーカー**金子來樹**、入部即スタメンを勝ち取ったゴールデンルーキー・昨年までの大エース赤間が背負った12番を引き継ぎ、192cmの長身から放たれる高精度の3Pでゴールを射抜く**永田貴陸**、そしてロードプリンスとプレイングタイムを分け合いながらも中部総体決勝で途中出場、リバウンドやゴール下の攻防で体を張り14得点を稼ぎ出した新加入・ナイジェリアからの留学生200cm**アメーエマニュエルチネメルン**など戦力は群を抜き、全国トップレベルである。

またもう一つの大きな特色は、例年以上に新入生のリクルーティングが成功したことである。今年も全国大会出場経験のある多くの新入生が藤枝明誠の門を叩いた。先述の永田・エマニュエルだけでなく、Jr.ウインターで全国ベスト8、年度末3月に行われた「Bリーグ U15チャンピオンシップ」ではエーススコアラーとして優勝に貢献、大会ＭＶＰ・大会ベスト5にも輝いた「まだ見ぬ大器」**渡邊聖**（横浜ビー・コルセアーズU15）はその大会の決勝で3P7本を含む36得点、特にクラッチタイムで得点を重ねるシュートセンスは高校の大先輩・藤井祐眞を彷彿させる。

その他にも、昨年の九州中学総体を制し、公立中学ながら香川全中でベスト8となり大会に旋風を巻き起こした長崎小々倉中学出身・冷静沈着なプレーと勝負強さが特徴の**髙平爽平**、Jr.ウインターにも出場した**野口練**（島根スサノオマジックU15）・**佐々木悠斗**（BBC・北海道）・**中島将之介**（INFINITY・山梨）・**金城零流**、**小森蒼斗**（B・FORCE愛媛）・**富髙脩大**（BLUE UNION・熊本）などまだまだ育成期ではあるが、フレッシュな新戦力のプレーが見られる可能性もあり楽しみも倍増である。

これだけ選手層が厚くなるとチーム内での切磋琢磨や相乗効果が生まれることは間違いない。

昨年の県総体7位・**浜松商業**は西部総体準決勝で浜松開誠館に敗れたが3位決定戦の公立対決で最後まで粘る浜松西を9点差で振り切り3位を堅守した。特にこの試合ではエース・**宮本剛都**が素晴らしいオフェンス力を披露、試合を通じて終始得点を重ねつつ後半の勝負所でことごとく長距離砲を決める爆発力を発揮、チームに流れを一気に引き寄せた。奪った得点は3P5本を含む36点、いやはや超人の域である。私もこの選手と公式戦で対戦してコートレベルで見たが、シュートの軌道が落下点に入った直後急激にリングに吸い込まれていくのを見て驚愕した覚えがある。

もちろん宮本に負けない勝負強さで味方が勢いづく3Pを決められる**神谷将太郎**、攻め手に困った場面でも果敢に自らシュートチャンスを作り出す**白井力兜**、テクニックあるドリブルや粘り強い守備が魅力の**栗田頼乙**、そして大怪我を克服してスタメンに復帰・長身を生かしたインサイドプレーとキャリアで積み重ねた高いバスケセンスを持つ**枝村澱夕**などバランスの取れた戦力で静岡学園に雪辱を期す。

対する県新人6位・**静岡学園**は中部総体準決勝で静岡商業に2点差で敗れたものの、3位決定戦ではフィジカルを生かしたインサイドへのアタックや貪欲なリバウンドから勢いに乗った速攻、ドライブからの合わせなどを多用して城南静岡の反撃を抑えて快勝、3位を勝ち取った。

この時期にしては珍しい下級生主体のチーム、中心となるのが188cmの恵まれた体格を十分に生かすプレーを見せる2年生・**内山直陽**。しなやかな体幹と長身という最大のアドバンテージに加えてジャンプ力もあり、リバウンドにも汗をかきアウトサイドにフラッシュしての3Pも放つ。試合を重ねるたびに何かを習得して成長する有望株、静岡学園をエコパに連れて行けるか彼の活躍次第、このプレッシャーを喜びに感じてプレーに結び付け、一段と成長した姿を見せて欲しい。その他にも昨年鹿児島国体にも出場・チーム切り込み隊長として内外で得点を重ねる**大長真士**、柔軟性あふれるしなやかな身体を使ったプレーを見せる**小長井優磨**、そして最上級生としてチームを心身で牽引・途中出場した城南静岡戦では3P2本を含む10得点でキャプテンの面目躍如を果たした**味岡大斗**など新進気鋭なメンバーで浜松商業を返り討ちし、今年初となる藤枝明誠との対戦に挑みたい。

1回戦最大の注目カードは互いに地区予選6位「**静岡城北－浜松湖南戦**」。ともに1月の県新人では初戦を突破して県ベスト16。**小澤柚貴・新村俊樹・花村詩穏**のアウトサイドシュートを武器に粘り、強いディフェンスと人とボールが常に動くオフェンスを展開する**静岡城北**と、4年ぶりの出場・リバウンドからの速攻を武器に一度の攻撃でオフェンスを終わらせない粘り強さが魅力、**池田蓮**がオフェンスを組み立てて**永渕睦斗**が力強いリバウンドでボールを奪いオフェンス機会を増やす**浜松湖南**と対戦は最後の残り1秒までもつれる展開になるだろう。

その他の注目選手として、**小森蒼斗・古田愛礼・野田遼聖**（藤枝明誠）、**宮坂恒志・千葉勢太・伊藤拓海**（浜松商業）、**飯島羚・清水優季・長谷川彰・大竹悠太・望月俊輔**（富岳館）、**望月健大・山本空・川端康太**（静岡城北）、**青木海岬・宮崎諒・羽田博理・南茂昌悟・日吉駿介・渡邉陽平・山口大翔・高杉理己**（日大三島）、**元野陽斗・木南晴義・片瀬巧・西ヶ谷優心・太田一平・安藤悠翔**（静岡東）、**久保蒼真・渡邉昊・山下敬太・金城光志朗・五條澱士・滝井蓮也・水上陽向・山田遼太・村上健太**（静岡学園）、**佐藤柊・中井香維・宮木琉衣・犬塚就斗**（浜松湖南）などを挙げたい。

左下のブロックは、西部総体決勝で雌雄を決した浜松開誠館と浜松学院の再戦が準々決勝で予想される。実現すれば今大会最大の注目のカードとなる。西部総体では浜松開誠館が7点差で辛くも勝利を勝ち取ったが、今回は勝利の女神はどちらに微笑むのだろうか。

西部王者・**浜松開誠館**は県新人ではブロック決勝で沼津中央に不覚を取ったが、その後浜松西・静岡学園に連勝して5位を堅持、西部総体でも永遠のライバル・浜松学院を下して3年ぶりの優勝を果たし今回は四隅位置から4年連続の東海総体出場、そして優勝して初のインターハイ出場も狙う。比較的身長の高い選手が揃うが、高さだけに頼らない緻密なバスケットを展開する。

中心となるのは191cm**工藤寧朗**。強豪チームと対峙する時にビハインドとなる高さを埋められる選手、特に力強いリバウンドは相手の脅威となる。ややスロースターターの傾向にあるのが気になるが、エンジン全開になったら手が付けられない強さと上手さを持ち合わせる。西部総体では緊張感あふれる大切な場面でも落ち着いて決めるフリースローの正確さが目につき、課題であったメンタル面も大いなる成長を見せて一皮むけたトップアスリートに進化した。

キャプテン・**藤原柊**は個性派軍団をまとめ上げる玄人職人、外回りを任され3Pやグッドパスを連発する。ミニバス時代からの竹馬の友・工藤との息の合った連携にも注目したい。昨年度の県協会U18優秀選手・**高森カイル**は縦横無尽に動いてスペースを作り出し絶妙なタイミングでミートしてジャンプシュートに持っていく達人、まさに攻撃の起点となる。**北條隆稀**は新人戦後に急成長したホープ、持ち前の発するプレーに加え、高い身体能力で相手守備をかき乱して得点機会を創り出すプレーヤー。そして**吉田澪央**にも注目、攻撃面ではジャンパーと3Pを得意とするが、守備面では相手より一歩先にコースに入って機先を制し体を密着させドライブに行かせない未然のディフェンスを披露、是非実際にこの目で見て欲しい美技である。

補強面に目を向けると、昨年の香川全中でベスト16、今年初めに名古屋市で開催された「U15 クラブバスケットボールゲームズ」では準優勝、そのメンバーの多くが入部したことは大いなる戦力アップとなった。その中でも注目は**後藤正規**監督の長男で姉も同じ浜松開誠館女子で活躍する**後藤大駕**。昨年の全中では大会最高身長195cmを生かした異次元のリバウンド支配で会場を大いに沸かせた。西部総体ではいきなりスタメン出場、地道にゴール下で奮闘して空中戦で得点やリバウンドを重ねた。1年生ながら今大会日本人最高身長のビッグマン、まだ粗削りなところもあるが将来静岡県の至宝、そして日の丸選手と

なりうる大器、温かい目でその成長を見守りたい。
その他にも、KAISEIKANクラブとして出場した上記U15クラブ大会で月刊バスケットボール誌選定の「ベストシューター賞」にも選ばれた3Pシューター・**上村颯太**、全中準優勝の倉敷南中学からは**宇都宮大騎**、そして全中・Jr.ウインターの二冠王・四日市メリノール学院中学からは**木村晄大**も入学、特に木村は後藤とともに西部総体スタメン出場を果たし、ステップとリズムで巧みにディフェンスをすり抜けてシュートまで持ちこむ技術を披露、これからさらにチーム開誠館のスタッフに鍛え抜かれて芽を伸ばしていくだろう。

対する**浜松学院**は新チーム始動1 ヶ月で迎えた県新人で4位、まだ新チームとしての指針が十分定まらない中の見切り発車としては上出来の結果にも思われるが、常に向上心を持ちながら勝利を目指すオレンジ軍団は現状には満足していない。昨年も一つずつ順位を上げて県新人4位・県総体3位、そしてウインター県予選で準優勝して全国までたどり着いた努力のチーム、雑草魂で今回もまずは2年連続の東海総体出場を目指す。
西部総体決勝では中盤以降の追い上げも実らず浜松開誠館に惜敗し準優勝に終わったが、コート上のスペースに走り込み、パスを回しつつフリーを作って得点を導くなど全員が広い視野で客観的に状況を見極めながら展開を読むチーム、個人技に頼らずチーム力でディフェンスをこじ開ける攻撃を仕掛けるバスケットで2年連続の東海総体、そして7年ぶりのインターハイ出場を狙う。中心となるのはともに国体選手の経験を持つ**石原弘幸**と**西垣玲央**。二人とも高いシュート力でフィニッシャーとなる得点源、石原は1年次から実戦経験を積み重ね、途中出場であっても瞬時に試合展開に順応し、送り出した指揮官の求める仕事を当たり前にこなして期待に応える天才肌、綺麗な弧を描くドライブは絶品、今年のチームでは数少ない3Pシューター、そして県新人決勝リーグ3試合で56得点、西部総体決勝でも24点を決めた稀代のスコアラーである。西垣は天職としてポイントガードを任される名人、常に冷静沈着で的確な判断ができ、パスなのかドライブなのかシュートなのか、または自分が行くのか仲間を生かすのか、ブレインストーミングしながらプレーしているようにも見える。
末永蒼が持つ全中3位の輝かしいキャリアはあまりにも有名、18番はジャンプシュートだがどのプレーもそつなくこなす高いポテンシャルを持つ選手、県新人全試合にスタメン出場した**戸塚健太朗**は元来中盤を任されていてミドルシュートで得点を重ねる選手、県新人・沼津中央戦で見せた鮮やかに決めた3Pは今でも私の心に深く残る。インサイドを任されるのは187cm**鈴木友真**。ゴール下という激戦区の中では決して大型選手とは言えないが、自分より長身選手相手でも強い精神力で負けずにゴール下を一意専心で守る姿が胸を打つ。自己犠牲をしてまでも仲間の持ち味を引き出しチームプレーに徹する献身的プレーヤーでもある。
上記5人が不動のスタメン、この他にも、短時間ながらウインターにも途中出場して堅守を見せた**鈴木陽翔**、ディフェンスに活路を見出す**藤井惺楽**、そして県新人は怪我で無念の欠場、その復調具合が気になるが戻ってくればこれほど頼もしい選手もいない185cm**松本将虎**などの陣容で、まずは浜松開誠館との再戦に是が非でも勝利したい。昨年のウインター県予選決勝リーグで対戦した時のような試合展開が再現できれば勝利はグッと近づくだろう。

その浜松学院が初戦で対戦するのは東部10位の**伊豆中央**。昨年の東部総体で敗れた富士宮西、東部新人で敗れた星陵に連勝、リベンジを果たして見事2年ぶりの県総体出場を決めた。粘り強い守備と時には1試合で二桁本数決まる3Pが持ち味のチーム、中心となるのは3年生の**長友蓮**と**宮永智実**。司令塔・長友は得点力のあるポイントガードで、粘り強いディフェンスとスピードが持ち味、キャプテン・宮永は3番位置から5番位置まで守れるユーティリティープレーヤー、ドライブからの得点力もあり頼れる大黒柱である。

エース**海野伍希**・シューター**望月吹**・テクニシャン**高松天成**などのスタメン勢だけでなく、ディープスリーも放つシューターでありウイングポジションでのミートシュートで相手の反撃の目を摘む攻撃力を持つ**勝山海朋**や激しい攻防が繰り広げられるゴール下でも半ば強引にシュートを決め切るタフネスが魅力の**塩坂優斗**など伏兵の活躍も目覚ましく、中部総体準決勝・藤枝明誠戦では5点差で敗れたものの最終Qまでリードを保つなど横綱を土俵際徳俵まで追い詰めた中部4位・**城南静岡**や、鍛え抜かれた強靭なフィジカルで今や東部を代表するトップアスリートに成長した**栗林大寿**を擁する東部5位・**富士宮東**もこのブロック。両者とも順調に勝ち上がればそれぞれ浜松学院・浜松開誠館と対戦する。強豪相手に一泡吹かせるような試合展開を期待したい。

その他の注目選手として、**小野寺祐之・渡邉虎太郎・渡邊らい・岸川藍佑・永井理玖**（浜松開誠館）・**村上悠翔・工藤泰心・阪本圭亮・安井誠人・保角欣耶・レジュイバオ**（三島南）、**上村恭生・森川拓登・杉澤慧人・瀧内由馬・刈谷蓮・佐野琉生**（富士宮東）、**生子遥仁・佐野翔礼・和賀井翔哉**（城南静岡）、**清水凰多・塚本大輝・清水明日夢・増田好汰・近藤翔太・後藤彩杜**（島田工業）、**佐藤橙亜・河野結翔・野中慶人・渡邉空聖・雪山慶人・山本悠人**（常葉大菊川）、**柏木勇志**（伊豆中央）、**大山流輝・川原暖・宮澤政人**（浜松学院）、**濱津俊太・柏木勇志**（伊豆中央）などを挙げたい。

右上のブロックは県新人で準優勝して8年ぶりの東海新人出場・東部総体では決勝で飛龍に辛酸を舐めたが優勝候補の一角である沼津中央と、中部新人3連覇中で中部総体でも準優勝した静岡商業が準々決勝で対戦することが予想される。両雄は一昨年・昨年と県総体2回戦で対決、一昨年は静岡商業、昨年は沼津中央が勝利を勝ち取った。今年も実現すれば3年連続となり、今回も互角の戦いが予想される。

東部総体準優勝・**沼津中央**は東部新人決勝で飛龍に8年ぶりの勝利を飾り、そのまま県新人でも準優勝して8年ぶりに東海新人に出場、初戦でナイジェリア出身の留学生2人を擁す高山西に屈したが、新人戦以降の戦いぶりや戦力を見る限り、選手層という点では藤枝明誠の次はこのチームであろう。この春先、6年ぶりにアフリカからの留学生も加わりさらに戦力がアッ

プ、新人戦で見せたものとは一味違ったバスケが見られそうだ。
チームの特徴は徹底した前からのプレッシャーディフェンスを起点に足を使った素早い展開、中心となるのはキャプテンを任された司令塔・**内藤海夏人**。心身ともチームの大黒柱、誰よりも努力を惜しまず「練習は裏切らない」の言葉を証明するような選手､攻守でチームに数字に表れにくい部分でも多大な貢献度をもたらす。同じく外回りを任されているのはシューター・**小林吏駒**。精度の高い3Pが冴え渡った東海新人では3P3本を含む29得点､チーム得点の4割強を稼ぎ出した。クイックでスピードを生かした強気のドライブが魅力、調子の浮き沈みが少なくプレーに安定感があるのも彼の強みである。
新垣颯野は対照的に中に切れ込むドライブ派、スペースを見つけて中で勝機を見出す。フリースローも得意とし、頼り甲斐がある選手でもある。インサイドには長身選手が待ち構える。188cm**桐生武蔵**は内外問わず得点をはじき出せる得点源、高さを利したリバウンドだけでなく、アウトサイドにフラッシュしてアウトレットパスをもらってから放つ3P技術も圧巻、しかも高確率に決まるというから相手はお手上げである。ちなみに桐生、小林、内藤は新潟県の中学の同級生、言わずもがなの「阿吽の呼吸」で繰り広げられる連係プレーにも注目したい。
もう一人、モンゴルからの留学生・**エルデネサンエルデネバト**も昨年1年間プレーしてチームに順応、さらなる活躍が期待される。そしてこの盤石の布陣にダメ押しするかのように貴重な戦力が加わった。ナイジェリアからの206cm留学生**・ハビブ・カリファ・アテーザ**。まだバスケ歴は浅いが器用にステップをこなすようになってきた。カリファが加わる前から県内レベルとしては高身長チームであったが、対藤枝明誠や東海地区の強豪相手には高さで競り負けることが多かった。次なるステップへの最大の懸念事項であったゴール下の高さという弱点が解消され総合力は一段と高まった。まだまだ粗削りなところもあり東部総体決勝では出場機会がなかったが、持ち味のリバウンドとブロックショットを武器に県新人・決勝リーグで54点も奪われた藤枝明誠のロードプリンスをどれだけ抑えられるのかも見ものである。チームメイトとの連携はこれからの課題ではあるが、県内公式戦でアフリカ系留学生同士がマッチアップするのも6年ぶりとなり、全国大会や東海大会では見慣れた光景ではあるが、これが県内でも見られることは喜ばしいことである。さらにモンゴル出身のエルデネバトは日本の中学校を卒業しており登録上は日本人扱いとなるため、エルデネバトとカリファの同時出場も可能である。外国籍の「オンザコートツー」は県内初となり、全国的に見てもそう多くはない。この光景が県内トップを決める試合で見られることも今から楽しみである。
その他にも、東海新人出場を決めた浜松学院戦で途中出場して11得点、リバウンド・ルーズボールという球際やアシスト・ナイスディフェンスなど泥臭いプレーに一所懸命体を張る**手塚晃生**、190cmの長身・**高木強臣**、東海新人で途中出場し得点を決めた**具志堅理大**、新チームの公式戦で全試合スタメン出場を果たしている**新屋彰人**、アンダーカテゴリーでのキャリアをこの世代でも発揮し始めた**前嶋天聖**など他チームもうらやむ厚い戦力で3年ぶりの東海総体出場、そして8年ぶりのインターハイ出場を狙う。そのためにも静岡商業戦が東海・全国への試金石となる。

中部総体準優勝・**静岡商業**は、中部新人3連覇で臨んだ県新人、2回戦で三島北に不覚を取りベスト16に終わった。今回は中部総体準決勝で静岡学園に2点差で競り勝ち、決勝戦でも藤枝明誠と好勝負を演じた。一昨年この大会で沼津中央に勝利してブロック決勝進出、エコパでの5位決定戦でも伊藤ハリー率いる浜松学院と熱戦を展開、敗れはしたものの堂々の県6位、大会に旋風を巻き起こした。今回は一時的な旋風に終わらせずベスト4、そして約半世紀ぶりの東海総体を狙う。
中心は度々この展望でもプレーを絶賛し尽くした絶対的エース・**市川昊**。今回の藤枝明誠戦でも相手マークマンの留学生にも果敢にシュートを放ち得点を量産、県内でも数少ない「留学生相手に互角に勝負を挑める選手」である。時折見せる相手の不意を突いた3Pに加えて、1on1になった時に細かいフェイントを交えたステップとドライブで相手を翻弄し絶妙なリズムでシュートまで持っていく､いわゆる「比江島ステップ」を意識したプレーも見せてくれる一流選手､1試合でも多く県総体のコートでプレーを見たい花形選手である。その市川を脇で支えるのがキャプテン・**望月良依繁**。1年次から実戦経験を多く積み、司令塔として広い視野から絶妙のタイミングで放たれるキラーパスは天賦の才能を強く感じさせる超美技である。
その他にも、中部総体決勝でも藤枝明誠の激しいブレスをかいくぐり3P5本を含む23得点、3Pが決まるシュート位置とタイミングを緻密に計算して打っているような感じさえするシューター**・北堀遥大**、果敢にペイントアタックを試みる突貫選手・**齊藤遥人**、途中出場した藤枝明誠戦で決めたバスケットカウントが記憶に新しい**文谷虎斗**、スタメンで起用され続けて監督が目指す得点力の高さを武器にしながら堅い守りも強化するバスケットを体現し始めた**佐野煌介・仲山柊志**など個々の高い能力を生かしながらも状況に応じて速攻・遅攻を使い分けるバスケットと県内随一と言われる日々のシュート練習の成果で沼津中央との「決着戦」を制して48年ぶりのベスト4進出を果たしたい。その前に東部4位・韮山との対戦が予想される2回戦をきちんと乗り切って足元を固めたい。

その**韮山**は東部総体4位、昨年の県総体では静岡城北との激闘を制しベスト16、県新人では浜松西に敗れベスト16、今回は一つ上のステップ、ベスト8を狙う。粘りのディフェンスからの速攻とプレーヤーとベンチが一体となり気迫のこもった全力プレーが特徴のチーム、1年次から実戦経験を重ねて監督の期待に応えながら大きく成長、ドリブル・リバウンド・3Pまで器用にこなせる非凡なバスケットセンスを持つオールラウンダー・**萩原諒**が攻守の要、クラッチシューター・**細木建命**、1年生ながら東部総体でもチームの窮地を救う救世主の活躍をした**新藤穂月**、ゴール下を守る屋台骨・**岡本心真**、抜群のキャプテンシーを持つ**服部通尚**をなどの戦力でまずは初戦突破して静岡商業との戦いに臨みたい。

このブロックの東部9位・**松崎**は7年ぶりの県総体出場となる。元々実力派のチームで3年生が1年次の県新人にも出場した実績を持つ。昨年度の東部新人では御殿場相手に苦杯を喫したが、今回は沼津中央に敗れただけの6勝1敗で県総体を勝ち取った。全部員が地元・松崎中学と西伊豆中学出身の旧知の仲、勝手知ったる仲間たちと息の合ったバスケットを展開する。
中心となるのは**ワシントンマーロン**。兄は飛龍で活躍したワシントンケネス、姉も加藤学園の主力ワシントンジュリ、私も大会展望で何度も二人のプレーを絶賛し、ともにウインタープログラムの裏表紙に抜擢した。今回は末弟マーロンを絶賛させていただく。兄姉に負けない強靭なフィジカルと身体のバネは規格外の強さ、そして東部総体・誠恵戦での相手インサイド

192cm中田舜と見せたゴール下のド派手なポジション争いに観客は大いに沸いた。ゴール下のパワープレーはもちろん、器用に外もこなすから相手には厄介極まりない。今大会でも強靭なフィジカルと猪突猛進のダッシュ力を見せてくれるに違いない。

その他にもシューター**小川孝幸**、ドライブやスピードだけでなく守備でもチームに貢献する**服部翔天**、キャプテンとして冷静に試合展開を体感しながらゲームコントロール・強気のドライブにも味がある**白川紳**などポテンシャルの高い選手たちと今春着任した熱血漢・**大川晋太郎**監督の指導が絶妙にマッチし本来の実力を発揮したチーム、強豪・静岡商業相手にどのような戦いを見せるのか、特にマーロンと市川のド迫力マッチアップは想像しただけでも鳥肌が立つほどに心が躍り、今から試合が楽しみである。

その他の注目選手として、**鈴木海翔・山本凰賀・江間真都・今部陽翔・二橋悠生・内山譲**（浜松工業）、**石塚泰梧・小倉颯太・山本来瑠寿・新村祐太・後藤日々航・石原琥大郎**（浜松湖北）、**渥美稜平・辻野陽向・野島煌羽・佐野裕章・原田峻・杉浦蓮**（浜松聖星）、**芦澤怜・細川生童・増田隼・南條蒼生・齋藤・天馬・牧田瑠次朗・栗田琳蔵・ナカノレイネル**（静岡大成）、**深澤昂士郎・佐藤優生・山田慎二**（韮山）などを挙げたい。

右下のブロックは県新人3位で東海新人にも出場した飛龍の実力が抜きん出ているが、県新人で中部新人3連覇の静岡商業を破り7位入賞、東部総体でも韮山との公立対決に快勝し3位で臨む三島北や公立高校で唯一一昨年度の県新人から4大会連続でベスト8を維持し続ける浜松西も打倒・飛龍の下剋上を虎視眈々と狙っている。

飛龍は東部新人・県新人と連敗していた沼津中央に3度目の正直で10点差の勝利で東部総体7連覇を飾った。この試合や県新人・浜松学院戦、東海新人・桜丘戦で見せたような粘りのバスケットを継続的に見せられれば3年ぶりの優勝も決して夢ではない。2年目に入った**大石康史**監督・**原千容**コーチ・**勝又幸正**コーチのトロイカ体制による熱い指導と選手たちの気迫あふれるプレーの歯車が噛み合ってきた感がある。2年生部員が極端に少なく3年生主体のチームとなるが、個々にポテンシャルの高い選手が多く伸びしろ十分なチーム、特に試合後半での怒涛の勢いは他チームにとっては脅威となる。一時期は県外出身の選手が大多数を占めていたが体制が変わってからは県内のスカウティングにも力を入れている様子も見られる。

キャプテン・**竹村勇祐**は人一倍責任感が強く、クレバーかつ冷静に試合やチーム状況を分析できる大黒柱、司令塔としての重責も担う。中盤には一昨年の栃木国体でも中心選手として攻守で切れ味あるバスケを見せた**小川優乃丞**や177cmと上背がない分、相手のブロックをかいくぐるために身体を密着させてシュートを打つなど身長差のハンデを克服してのプレーが目立つ3Pシューター・**ケビィエリィアス琉海**、同じく3Pシューターの**松浦光陽**、インサイドには先述の浜松学院戦ではチーム最多の17得点を決めるも東部総体は怪我で出場機会出来ず現在県総体に出場すべく練習に精進を重ねる**竹本雅矢**や東海新人でともにスタメン出場した**上門京太郎・大平颯汰**などバランスが取れた戦力を誇る。

その他、東海新人で途中出場、3P3本を含むチーム最多の13得点を挙げた**守谷珂偉**や成長著しい**秋山琳苑・岩戸翼**など多彩な戦力でストップザ藤枝明誠の最右翼として2年ぶりの東海総体出場、そして4年ぶりの優勝とインターハイ出場を射程圏内にとらえる。

2回戦での実現が予想される、素早いパスと多彩な攻撃が特徴の三島北と厚い選手層で積極的にメンバーチェンジを繰り返しても同じ強さで戦力を維持できる浜松西との東部王者への挑戦権を賭けた公立対決に今から期待が募る。

県新人7位・東部3位の三**島北**は伝統ある多彩なディフェンスと精度の高い外角からのシュートが特徴のチーム。とにかくこのチームはシュートが決まりだしたら止まらない勢いと東海総体出場経験もある**長谷川泰**一監督の熱い指導がマッチした魅力あふれるチームである。その急先鋒が**芦澤颯馬**と**濱田寛太郎**。芦澤はインサイドもこなしながら積極的にアウトサイドも試み高確率で決めるシューター、私も公式戦で直接対決したが試合中に白旗を挙げたくなるほど決められた苦い思い出がよみがえる。濱田はドライブに行く判断が抜群に秀でたプレーヤーである。キャプテン・**野田倭**は司令塔として味方を生かし仲間を動かすプレーを実践できるクレバーな選手である。

同じく県新人7位・**浜松西**は安定した実力が特筆されることはもちろん、西部随一の足腰でコートにいる全員が1試合を通じてオールコートで堅守を維持できるディフェンス力を誇り、オフェンスでは個々がシュートセレクションに優れ、その状況でミドルがベストとジャッジすれば初志貫徹してシュートを打ち切る力を持つ。エース・**増田健大**が起点となりコート上を八面六臂にかけまわり、**福澤生也**が高いスコアリング能力でフィニッシュに持っていくのが方程式。**山田悠睦・関宮怜央**も高いリバウンド能力でゴール下を制覇、期待を込めてアドバイスをさせてもらえば、リバウンド後のセカンドチャンスをもう少し生かせれば勝機はさらに近づくように思われる。

飛龍と初戦で対戦する**浜松南**は浜北西との11位決定戦を制し「最後の1枠」を勝ち取り今大会男女通じて最長のインターバル期間となる9年ぶりの県総体出場を決めた。終始追いすがる浜北西に対し上手に時間を使いながら勝ち切った強いメンタルは称賛に値する。全員が鋭いドライブでカッティング出来る粒揃いのチームであるが、**袴田人輝**のゴール下に飛び込むようなドライブからのシュートは天下一品、それでも落ちた場合は**高橋大成**が体を張ってリバウンドに従事しセカンドショットに持ち込む。今回非常に厳しい組み合わせではあるが、最後まで諦めず自分たちのバスケットをして欲しい。

その他の注目選手として、**川上遼賢・羽生田琉太・山田春太朗・堤寛大・亀野広翔**（三島北）、**百瀬暁・若原創太・増田脩人・徳田紘己・平山歩・八木心晴・中上智仁**（静岡）、**岩田悠司・井田翔太・鈴木仁・今田流威・水口陽翔・藤原陽輝・周梓俊**（袋

井商業)、**平野琥太郎・稲葉一哲・数原颯人・長谷川颯大・荻野陽向・近藤丈太郎・白鳥稜真**(東海大静岡翔洋)、**櫻庭晴陽・石川琉斗・土屋愛翔・岡澤一颯・髙藤功磨・川上大輝・土屋翔誠・服部虎士郎**(加藤学園)、**後藤颯仁・木村達平・南野澪**(浜松南)、**高柿翔・鈴木遥大・山田凌大・野中亮良・尾藤遙陽**(浜松西)などを挙げたい。

女子

こちらは現在県内高校大会22連覇、151連勝、8年以上無双の強さを続ける浜松開誠館が戦力的に円熟期に到達、他の追随を許さない独走状態が続いている。しかしながら昨年度すべての県大会準優勝・市立沼津を筆頭に、各地区の上位校が独走だけは許すまいと追撃し、まずは東海総体出場、その上で県総体優勝を目指す構図が予想される。

左上のブロックはその浜松開誠館が絶対的大本命、そして絶対女王への挑戦権を賭けて2回戦で対戦が予想される西部5位・浜松南と中部2位・常葉大常葉などがしのぎを削る展開となる。

またしても圧倒的な強さで県新人7連覇を果たした**浜松開誠館**は東海新人初戦で粘り強さが信条の三重2位・いなべ総合学園に快勝したが、続く準決勝でウインター準優勝の岐阜女子、続く3位決定戦でウインターにも出場した星城(愛知)に連敗、4位に終わった。県新人・東海新人とエース・後藤を負傷で欠く苦しい台所事情での戦いとなったが、代わりに出場機会を与えられた選手や後藤によるベンチからの適切な声掛けなど得るものも多い大会だった。

そのエース・178cm**後藤音羽**は負傷も癒えて戦線復帰、この春U17の日本代表候補にも選ばれて強化合宿に参加、7月にメキシコで開催される「FIBA U17女子ワールドカップ2024」に昨年のU16アジア選手権に続き、日の丸を背負っての出場も見えてきた。しかも「アジア」から「世界」に堂々のステップアップ、全国的にも注目を集める静岡県の宝でもある。オールラウンダーであるのは言うまでもなく、長身を生かしてリバウンドやゴール下で貢献するだけでなく外角からのドライブにも磨きがかかり、適切な状況判断力も加わり内外角問わずに攻められるポイントゲッターとなった。いつでも謙虚な姿勢を忘れず真摯に練習に取り組む姿まで後輩の手本となる人格的にも優れた選手、この選手のプレーを多くの方々に見てもらいたい。

ミニバスでも全国を経験、中学時代はキャプテンとして全中・Jrウインター2冠、輝かしい実績を引き下げて入部、その実績に違わない素晴らしいテクニックで私たちを魅了する**井口姫愛**も全国注目の選手、試合の流れを読みながらペネトレーション、味方にパスをさばきながらのここぞの場面では高確率で3Pを決める勝負強さが光る。強い闘争心を胸に秘め、試合中には負けず嫌いな面も見える闘志のプレーヤー、星城戦では劣勢の中ひとり気を吐き孤軍奮闘、3P7本を含む23得点を挙げて次につなげる戦いをした頼もしい存在である。

前川桃花は中学時代から井口の後輩としてその後姿を手本としながらプレーを続ける。全中連覇も経験、多くの修羅場をくぐり抜けた豊富な経験値と確かな練習量に裏打ちされた堅いディフェンスが武器ではあるが攻撃面もさらに充実、県新人決勝リーグでは3試合で3P9本を含む64得点、急成長を見せた。元来ドライブや3Pを器用にこなす選手であったがシュートの精度が一段と上がり、攻守でチームに貢献する理想的な選手に育ってきた。

後藤が怪我で不在の中、ゴール下を任されてその責務をきちんと果たしたのが175cm・杉山実子。県新人では途中出場が続いたが優勝決定戦・市立沼津戦でスタメン出場、相当な重圧を受けながらも自分の信じるバスケットをコートで体現、その姿勢を指揮官が見逃すはずもなく東海新人では3試合すべてスタメン出場、東海の強豪相手に27点を奪った。このかけがえのない経験は今後必ず生きてくるはずである。

今年に入ってレギュラーを掴んだのが**八重柏憂奈**と**細田栞愛**。八重柏は昨年の夏から急成長、中盤を任されて内外問わず器用にこなしどこからでも得点が取れる器用な選手、もともと3Pの正確さには定評があったが力強いポストプレーも見せるようになり、いなべ総合学園戦では14リバウンド、外からのグッドパスや中からのアウトレットも冴え5アシストを稼ぐ活躍を見せた。細田は171cmの長身を生かしたゴール下のリバウンドが安定、東海新人全試合スタメン出場、強豪相手に1試合平均10リバウンドを記録、後藤・杉山とともに近年強さの代名詞となっている高さに貢献する選手となった。

その他にも、市立沼津戦でスタメン出場・粘り強いディフェンスと鋭いドライブからのジャンプシュートを得意とする**山本さくら**、貴重なシックスマンとしてチームのピンチに投入され窮地を救う**大杉光**、県新人決勝リーグ全試合に途中出場・2試合で得点も決めた**平野絢音・中津川夢花**など今年もどのチームよりも厚く多彩な戦力、高さを生かしたバスケット、さらにその外回りも含めてどこからでも長距離砲を放てることが今年の強み、粘り強さと常に変化していく堅実なディフェンスで連勝を伸ばして大会8連覇、そして昨年岐阜女子を倒しながらも準優勝に泣いた東海総体の初制覇、さらにその先のインターハイでは初の全国4強以上を狙う。

新戦力にも少し触れてみたい。今年の目玉は何と言っても鮮やかすぎる速攻が魅力の攻撃型ガード・**牧田知紘**。長野伊那中学で出場した全中、GOLDEN PHOENIXとして出場したJr.ウインターともに全国ベスト8、司令塔の大役を任され鋭いドライブで攻撃の起点となった。随所で見せるピック&ロールも完成度が高く、特にJr.ウインターでは全試合フルタイム出場を果たし無尽蔵のスタミナを披露し、全国4強以上を目標とする浜松開誠館にとって大きな補強、まさに今年イチ押しの「見るべきルーキー」である。また昨年度全中・Jr.ウインターともに3位の四日市メリノール学院中学から**垣内優希奈**も入学、こちらも即戦力の器であることは間違いない。

その浜松開誠館と初戦で戦うのは平成20年の学校創立以来初出場となる**下田**。冬の新人戦で一足先に東部8位で初出場を果たしたが、東部総体では桐陽・加藤学園に敗れて伊豆中央との最後の一枠争いとなる11位決定戦に回る薄氷の展開、最後は自分たちを信じる落ち着いたバスケットで大願成就を果たした。司令塔の**高橋夢花**、インサイドを担う**川端穂積**、相手守備の

隙を突いてターンオーバーを誘発する**森心明**などを中心に、自分たちが信じて続けてきた練習が常勝女王にどこまで通じるのか、思い切り立ち向かって欲しい。

浜松南は県新人で浜松開誠館に敗れただけの4勝1敗で見事5位、しかしながら西部総体では中部新人・県新人で連勝した浜松商業に惜敗し西部5位で今大会に臨む。昨年から続く両ウイングからスピードに乗ったドライブでの攻めは健在、ディフェンスも固く相手の出方を見極めながら必要に応じて瞬時にフォーメーションを変えるチェンジングも効果的に機能する。司令塔として得意の3Pだけでなくパスランでの攻撃を組み立ててチームに勝利をもたらす**山村梨心**と県新人・浜松商業戦では3P2本を含む19得点、特にプレッシャーがかかる試合でフリースロー7本を落ち着いて決めてチームの勝利を引き寄せた**輿水想来**を中心に、インサイドにボールを集めて仲間に合わせのパス、時には自身が力強く決めるゴール下の得点源・**吉田遥**、3P・ドライブ・ミートシュートすべてそつなくこなす**新林芽依・鷹野瑠美**、そしてチーム一の長身169cmを上手に使ったオールラウンドな攻めが目立つ**若林鈴音**などの面々で、西部総体で対戦出来なかった浜松開誠館との戦いに歩を進めたい。

常葉大常葉は県新人で浜松商業に敗れベスト16に留まった悔しさを今大会にぶつける。中部総体決勝で東海大静岡翔洋に敗れたものの伝統のステイローを徹底した堅守速攻は健在､攻撃ではサイズ感がありながらもスピードあふれるランプレーと、守備では臨機応変にヘルプやスイッチを行う様子が見られた。キャプテン・**伊藤亜莉沙**は長いリーチを生かしたリバウンドを得意とし、持ち前の跳躍力で高い地点でファーストチップをしてセカンドチャンスに導き、オフェンスでは3Pや角度のないところでフックシュートも放つ。怪我のため決勝戦は出られなかったが**植田柚希**は激しい寄りのディフェンスで相手にタフショットの選択をさせて果敢にブロックを挑む。**室伏理緒**は県内最高身長179cmの長身を生かしたリバウンドだけでなく、外からのシュートや鍛えられた腕力を生かしたロングパスを見せる｡ディフェンスの要は**池田愛央衣**､インテンシブなディフェンスでボールを奪い得点につなげるいぶし銀。鍛え抜かれたメンバーで浜松南との戦いを堅守のロースコアで勝ち抜きたい。

その他の注目選手として、**小幡美空・橋本瑠那・岡田美紀・持田莉子・大久保愛姫**（浜松開誠館）、**神尾美月・菅野小波・西村結菜**（下田）、**丸山真央・山下美優・塩坂彩菜・大畑こま・栗田恋羽・出口愛琉**（静岡大成）、**石田琴音・飯田綾見・高屋敷里帆・平野ひまり・窪田陽菜**（三島北）、**水鳥心羽・中嶋夢月・村松奈々・坪井雪羽・山口琴乃音・佐野莉咲**（富士宮東）、**梅本理世・若山紗羽・河合桜・三浦羽菜・渋谷彩桜・坪内杏香里**（静岡）、**島田光香・萩原静香**（浜松南）、**森輝月・大坂澪・佐野麻帆**（常葉大常葉）などを挙げたい。

左下のブロックは実力伯仲の兵（つわもの）が揃う激戦区､「群雄割拠のグループ」と言える。その中でも中部総体覇者の東海大静岡翔洋が頭一つ抜け出し、それを西部3位・県新人6位の浜松商業、中部4位の藤枝順心、東部4位の三島南が猛追する様相を呈している。

第4シード・**東海大静岡翔洋**は中部新人初優勝で臨んだ県新人、初の決勝リーグ進出を果たしたが勝利を挙げられず4位、東海新人出場も逃した｡控室付近で無念の気持ちを抑えきれずすすり泣く選手たちの姿を見て私も胸が痛くなる思いであった。今春選手時代にインターハイ出場の経験もある**大島美代之**監督が就任、新体制となって新たなスタートを切った。県新人では決勝リーグの平均得点42点に象徴されるように得点力不足が敗戦の一因だったが、中部総体では安定して全試合60点以上、準決勝でも静岡東に18点差、決勝でも常葉大常葉に19点差をつけて危なげなく2年ぶりの優勝を飾った。特に決勝では前半の一進一退の攻防から後半一気に攻めのバスケットに転じ、オールコートプレスでプレッシャーをかけて相手のミスを誘発させてドライブで得点を重ねる見事なゲーム運びはまさに快勝のゲームだった。

この試合特に光ったのは**一見陽菜**、力強いリバウンドや鋭いドライブからの得点だけでなく、広い視野からの判断能力も高く、多彩な攻撃バリエーションを見せてくれた。**青島由來**は155cmの小柄ながらアグレッシブな捨て身のディフェンスが功を奏し、持ち味のスピードも冴えていた。

そして何と言っても大黒柱は昨年国体予備選手にも選ばれた2年生・175cm**稲葉叶**。私はこの選手を非常に高く評価している。ボールをキープしている時のオフェンス能力もちろん、オフボール中の緻密かつ献身的な動き、そしてディフェンス時、片目でボールマンもう一方の目でマークマンをとらえているかのような動きは天下一品、あの絶妙な間合いでは相手はドライブに行くにも行けない暗黙のプレッシャーに悩まされるはず、エコパアリーナのコートで是非見てもらいたい選手である。

その他にも、相手の出鼻をくじく3Pを試合序盤から容赦なく決めて流れを自軍に持ってくる**山内楓**、中部決勝でもドライブ中心にチーム最多タイの14得点を決めた**北川伶奈**、中部決勝で華麗にバスケットカウントを決めた**花枝咲和**、3Pでもドライブでもと得点が取れる貴重な選手・**星合汐凪**など誰からもどこからでもドライブで得点できる強力な布陣でまずは2年ぶりのベスト4、そしてインターハイに出場した平成29年以来6大会ぶりの東海総体出場を決めて、無敵王者・浜松開誠館に挑みたい。2年ぶりの4強入りを狙うためにまずは2回戦で予想される堅守速攻を信条とする東部4位・**三島南**との戦いを乗り切る必要がある。ワンランク、いやツーランク上の技術を持ち、勝又・河谷（市立沼津）向井（沼津商業）後藤（沼津中央）と並び、東部を代表する選手・**辻村明日花**の怪我から完全復調した万全のプレーには中部王者としても細心の警戒心を払う必要がある。

中部王者・東海大静岡翔洋に準々決勝で挑むのは2回戦で対戦が予想される浜松商業－藤枝順心戦の勝者となる。

浜松商業は西部4位で出場した県新人2回戦で中部2位・常葉大常葉に33点差をつける圧勝、5位決定トーナメントでも沼津商業相手に1点差で接戦を勝ち切った。西部新人3位決定戦の再現カードとなった浜松南戦では相手の猛攻に屈したものの創部以来最高・県6位の好成績を残した。今回の西部総体では準々決勝で浜松南と再戦、11点差でリベンジを果たし3位決定戦

でも浜松聖星の猛追を振り切りこちらも最高順位西部3位で今大会に臨む。予選の勢いを見ると今大会「台風の目」になる可能性は十分ある。

私が見た県新人・浜松南戦では**山田千恵・大塲優菜・三浦綾夏**の3選手が特に目をひき、この3選手で全67得点中52点を挙げる大活躍、特に三浦の動きには驚かされた。171cmの恵まれた体格を上手に使い、時には高さで勝負、パスを回す、そして器用に3Pも決める。さらに浜松南が事前に対策を講じてボールを持った瞬間にプレスをかけに来ても無理にタフショットに行かずボールを早めにフリー選手にさばき、それでも行けると確信した時には果敢にシュートを放ち得点を重ねた。先述の常葉大常葉戦でも36得点、特に第3Qにはフリースロー 7本を決める大活躍を見せた。さらにはスピードもスタミナもある選手なのでどのチームも対応に苦慮するであろう。山田と大塲は終始コートを縦横無尽に走りまわり、チャンスがあれば果敢に外からでも勝負に出る度胸満点の選手である。その他にも、**谷野有彩・西塚夕愛・原田りの・小関若菜**もスタメンに名を連ねて厚い選手層を誇る。まずは準々決勝に進出し、予想される東海大静岡翔洋相手にランゲームを交えた堅守のバスケットが出来れば最大の目標である県4強も夢ではない。

昨年の県総体5位・**藤枝順心**は中部総体では4位にとどまったが、効果的に見せるゾーンディフェンスで相手を幻惑させるバスケットが特徴、相手が順応してくるとマンツーに戻すタイミングも絶妙である。相手に「寄りのディフェンス」を誘い出し、フリースペースを作ってすかさずシュートを打つのが攻撃パターン、随所にバスケットの上手さを感じさせる。高さと長いリーチを生かして力強いリバウンドから得点を決める献身的プレーヤーの**石田妃茉里**、鋭いドライブからの合わせや周囲を生かしたプレーを引き出せるインサイドワークと強心臓なプレーが魅力の**増井弥空**、巧みなステップと広いストライドで切れ込むドライブが持ち味の**小池紫寿**、スクリナーとしてユーザーを出来るだけショートカットさせながらゴールに切れ込ませるプレーが目を引く**杉山未緒**など、昨年の戦力に引けを取らないものを持つ。浜松商業との戦いは序盤から相手を突き放す一方的な展開に持っていきたいところである。

下田とともに今大会初出場となる東部7位・**桐陽**もこのブロック。1月の県新人にも東部9位で出場、今回はさらに順位を上げて堂々県総体の檜舞台に初登場する。高身長選手が揃いスタメンの平均身長は166cm、その高さと全員でゴールを狙う積極的な姿勢を武器に初出場初勝利を狙う。エース・**遠藤優奈**は落ち着いたゲームコントロールでチーム全体にリズムを生み出し献身的なディフェンスも魅力の選手。中学時代にJr.ウインター出場経験もある**河谷唯**は姉・河谷真矢（市立沼津）にも負けない柔軟なフィジカルが特徴、長い手足を生かし相手オフェンスより一歩早くコースに入りシリンダーを確保してシュートを封じるプレーも見せる。他にも中学時代県選抜の経験を持つ**芹澤もか**、チームのムードメーカー・**薄井衣緒菜**などの戦力で中部4位・藤枝順心に立ち向かう。

その他の注目選手として、**望月凛・羽石あずみ・森理椛子・森理彩子**（東海大静岡翔洋）、**清水恭花・髙田千夏・清水花純・関本咲良・中西葵夏**（御殿場南）、**宮住美桃・大月耶奈実・小池果寿**（藤枝順心）、**進藤亜未唯・寺田晴香・久保田珠蓮**（桐陽）、**伊藤栞奈・塩崎日向・遠藤陽菜・菅野陽向・清水佐和・宮城島夢子**（清水南）、**五十嵐愛生・鈴木楓花・中島心遥・鈴木沙綾・萩原葵・加藤真衣**（磐田北）、**御手洗寿奈・勝部真菜・足立結菜・伊澤せり・渡邉結衣・深瀬柚月**（三島南）、**中野芽衣・原田玲早**（浜松商業）などを挙げたい。

右上のブロックは、西部総体で浜松開誠館と好勝負を繰り広げた浜松学院が実力的にも抜けている感があるが、東部3位の沼津中央や西部4位の浜松聖星も決して侮れない。

浜松学院は昨年の県総体4位で東海総体出場を逃したが、ウインター県予選・県新人ともに3位をキープ、2大会ぶりに出場した東海新人では愛知2位の安城学園を常に一桁得点差で追う接戦を演じ、最終的には7点差で惜敗したが東海ブロックでも十分通じる実力の片輪を見せた。今大会は大黒柱の173cm**ワネケジジュリエット杏奈**を怪我で欠く厳しい布陣ではあるが、エースの欠場を埋めるべく後進が着々と育っているのも頼もしい。大型インサイドを多く揃え、バスケットの基本に立ち返ったポストプレーが多く見られること、そしてディフェンスからリズムを作り選手個々の能力を生かしたオフェンスにつなげることがチームの特色である。

西部総体を見ていると、スタートから175cm**髙山璃世**・173cm**荒井香実**・170cm**足立珊那**が制空権を支配、交代要員にも175cm・**篠原美咲**・170cm**太田綾夢・袴田千愛**など大型選手が居並ぶ。試合中相手のディフェンス意識がインサイドに集中すれば、東海新人で3P4本を含む21得点を奪ったトランジションの要・**相川樹由**が隙を逃さずアウトサイドプレーを仕掛け得点を決める。中盤の**守山ひかり**はスタートから果敢に3Pを狙い、西部総体・浜松聖星戦では4本の3Pを決めた。大型選手も運動量が落ちることなく､内外とも器用にプレーが出来て多数のシュート機会を作り出し攻めることが出来るチームである。足立は今さら説明もいらない一流選手、県新人決勝リーグ3試合でも3P6本を含む51得点、東海新人ではどれも絶妙なアシストを3本決めた。得点能力・リバウンド技術・パスのタイミング、すべてが一級品の技術、バスケ選手が一度は達成してみたいトリプルダブルに一番近い選手とも言える。

その他にも、ディフェンスのスペシャリスト・**伊藤帆南**、3Pシューター・**田開瑚生**、東海新人にも途中出場した**高柳亜知葉・出口愛珠**など1年から3年まですべての学年均等に戦力が分散する厚い選手層を誇る。まずはきちんと準決勝まで昇り詰め、そこから2年ぶりの東海総体出場、そして西部総体決勝で敗れた浜松開誠館を倒して初優勝、インターハイ初出場を掴みたい。

その浜松学院と初戦で対戦するのは2年ぶりに県総体の晴れ舞台に戻ってきた**駿河総合**。平成25年の学校創立以来平成末期を疾風のように駆け抜けてインターハイ出場2回・東海総体出場4回・東海新人出場4回・ウインター県予選準優勝3回という輝かしい実績を残してきたが近年部員数が急激に減少、令和4年度の中部新人は選手5人というギリギリの人数で出場したが

予選敗退、以後県大会出場を果たせずにいた。しかし徐々に部員も増えて普段の練習や戦術のバリエーションも多くなり、今回島田商業を倒し中部10位、悲願の県切符を手に入れた。現役の県立高校指導者として唯一全国大会出場の実績（3回）を誇る**立野幹夫**監督が粘り強く指導して2年余り、ようやく実を結んだ。速いトランジションからカッティングやドライブで攻撃を組み立てることが徹底されたバスケット、果敢に走りきるドライブが魅力の**岩田蒼未**を中心に、巧みなロッカーモーションやミートシュートを披露する**石上七菜**、ローポストで勝負強さを発揮するだけでなく鋭角に切れ込むドライブも冴える**天野なつき**、スピードが生命線の**中野春風**、そしてチームの精神的支柱である**島村梨央**などのメンバーで県総体の舞台に立つ。

浜松学院と準々決勝での挑戦権を賭けて2回戦での対戦が予想されるのは西部4位・浜松聖星と東部3位の沼津中央。

県新人7位・**浜松聖星**は西部総体で浜松学院・浜松商業に惜敗したが、昨年の県総体は3位で東海総体初出場、三重2位のいなべ総合学園とオーバータイムの死闘を繰り広げた強豪、今大会でも各チームにとって油断の出来ない相手である。外枠シードチームと比べると決して大柄ではないが、攻守ともにインサイドで体を張ったプレーで相手と競り合うチーム、試合終盤など緊張感がコートに走る中でも、気負いを感じさせない平常心でのプレーが目立つ。実戦を重ねてプレーに味が出来てきた頭脳派キャプテン・**大竹花**、ディフェンスの隙間をこじ開けるドライブで突破口を作る**三井亜利華**、広範囲のシュートレンジを持ち、ゴール下・ミドル・3Pとオフェンスのバリエーションが多彩な**高下加奈**などが主力選手だが、このチーム最大の武器は誰もがどこからでも3Pを決められるスキルがあること、浜松学院戦では高下・大竹に加えて、**長谷川万桜・室内柚華・長坂莉緒・森美希奈**の6人が合計9本の3Pを決めた。得意の空中戦で沼津中央を倒し浜松学院との再戦にこぎつけて勝利を飾り、2年連続の東海総体出場に前進したい。

対する**沼津中央**は東部総体3位決定戦で三島南を下し、久しぶりの予選上位で今大会に臨む。東部新人5位で臨んだ県新人では浜松市立を倒してベスト16、東部総体では準決勝で市立沼津と好勝負を演じて最終的に3位に食い込み、まずは今大会7年ぶりのベスト8を目標とする。エース・**後藤さつき**は172cmの長身を利したプレーの数々で観客を魅了する。三島南戦・辻村との東部を代表する選手同士のハイレベルなマッチアップは東部総体のハイライトだった。その他にも県新人・市立沼津戦でチーム最多の26得点を挙げた**江川凪**、理論に裏付けされたプレーが魅力の**見原楓七**、すべてのプレーに全身全霊で取り組む**依田愛巳**などの戦力で、日頃の練習で磨いた的確な判断能力を生かしたインテリジェンスバスケでエコパアリーナにたどり着きたい。

このブロックの**飛龍**は16大会連続出場の常連校、東部5位での出場も不思議ではない実力派チームだが、近年部員不足に悩むこともあり昨年の新人戦は地区予選で敗退し、県新人に出場が出来なかった。したがって今回の東部総体では予選リーグからノーシードで出場、準々決勝で沼津中央に敗れただけの6勝1敗、特に三島北との5位決定戦も延長の末に制して県新人に出場できなかった雪辱を果たした。**岩見果穂・鈴木真花・富高華音・近藤湖都**などの3年生とフォワードの2年生・**鈴木娃賀**を中心に全員バスケでまずは西部7位・浜松湖南戦に勝利して5年ぶりの初戦突破、そして次の浜松学院戦に臨みたい。

その他の注目選手として、**青木蘭・見崎ひなた・岩堀未羽・青野愛琉**（駿河総合）、**廻久美子・小久保美波・金子ひまり・刑部樹俐・杉田佳奈美・石垣栞**（浜松湖南）、**望月優那（3年生）・小泉美奈子・曾根未菜・小川心優・大出柚葉・望月優那（2年生）**（静岡女子）、**藤倉華音・山崎琴音・田村悠香・大竹里奈・野田亜澄香・藤倉琴音**（加藤学園）、**栗崎きらら・金子未杏・岩田楓・浅田海**（沼津中央）、**鈴木真花・篠原由愛**（飛龍）、**サリッチ愛奈・岡部玲那・中西杏奈**（浜松聖星）などを挙げたい。

右下ブロックは長年追い続けたライバル・市立沼津を公式戦で初めて倒して地区大会初優勝、市立沼津の東部総体17連覇を阻止した沼津商業と、決勝で敗れて連覇は途切れたものの実力は折り紙付き、一昨年度の県新人から4大会連続で県大会準優勝を続ける市立沼津が準々決勝で再戦する可能性が高い。沼津商業がわずか3点差で悲願の勝利を飾ってからわずか2週間、ゴールデンカードの再戦が見られることに今から心が躍る気分である。しかしながらこのブロックは静岡東、静岡商業、浜松日体など強豪チームがひしめき合う「死のブロック」、2強も安閑としていられない戦いが待ち受ける。

沼津商業は令和2年度の東部新人から7回連続地区大会決勝で市立沼津に挑み、1点差での惜敗や時にはオーバータイムまで持ち込みながらも敗れるなど「近くて遠い永遠のライバル」を倒すことがチームの悲願であった。地区大会にとどまらず、県大会上位戦でも対戦しては惜敗したこともあり、今回の勝利は選手・指導者の留飲を下げるだけでなく、例えようのない喜びとなったはすである。全員ディフェンスから速攻へつなげる速い攻守の切り換えがチームの特徴であることは変わりないが、加えて東部総体では市立沼津戦で象徴されるように「粘り強さ」が随所に見られて総合力の完成度が高まった。一時は市立沼津に18点リードされて試合も決まりかける雰囲気が漂う中、そこから全員ディフェンスで追い上げ4Q残り2分で同点に追いつき、さらに最後まで果敢にゴールを狙い、相手ファウルから得たフリースローを確実に決めて3点差で勝利を飾った沼津商業の力強さは相手の脳裏にも焼き付き、再戦にも影響を与える可能性がある。

このチームの特色は誰がエースで誰が大黒柱などとカテゴライズするのではなく、コート上の5人がお互いの責務を果たしながら困ったときには積極的にヘルプディフェンスにも走る全員バスケットのチーム、その中でも県協会U15優秀選手受賞歴があり、持ち前のシュート力が武器の頼れるキャプテン・**庄司奈納**は足の怪我をおして不退転の決意で出場した市立沼津戦で見せた鬼気迫るプレーは感動を呼んだ。スピードあふれる司令塔・**向井京**は前回展望ではシュートを褒めたが、今回は味方も幻惑されるくらいに絶妙なアシストパスを絶賛したい。**梅原柚月**は独特なリズムから1on1を仕掛けるが巧みなジャブステップなどのフェイクに相手が食いつく瞬間を逃さない。敢えて言えばこのトリオが今年の中核、得点は向井・梅原が量産する。

その他にも3Pシューターとしてだけでなくハードで粘りのあるディフェンスも取り柄の**稲田楓羽**、偉大なる大先輩・鈴木

の跡を任されて170cmの長身を生かして献身的にゴール下で攻守に奮闘する**白井碧**、市立沼津戦・ミスマッチになりながらも相手センターを捨て身の姿勢で必死に防御した**江藤碧音**などを中心に、決して厚い選手層ではないが**齋藤さゆり**監督の指示を熱心に聞き入れそれを愚直にコート上で表現する「沼商バスケ」で市立沼津を返り討ちにし、初の県大会4強、そして東海総体出場を手中にしたい。そのためにもまずは初日2回戦での対戦が予想される静岡商業vs浜松日体戦の勝者との対戦を盤石に乗り切らなければならない。

対する**市立沼津**は県新人準優勝、東海新人でもウインターに出場した星城にも善戦し今回も打倒・浜松開誠館の一番手になるかと思われたが東部総体決勝で沼津商業に悪夢の逆転負け、今大会は背水の陣で臨む。お互い順調に勝ち上がれば準々決勝で再戦する組み合わせ、大会までの2週間どんな気持ちでどんな練習をして来たかの真価が問われる大会となる。

パスランや鋭いドライブからの激しい攻めを主体とし、個々の1on1の能力が非常に高く、どこからでも得点が取れて粘り強いディフェンスから小気味よいリズムで攻撃を仕掛けるバスケット、その中心となるのが昨年の県協会U18優秀選手・**河谷真矢**。身体能力の高さ・ウイングスパンの長さはすでに書き尽くしたので今回は柔軟な膝の伸縮と肩幅より大きく開くリバウンド時のストライドを絶賛したい。重心の安定化、そしてシュートにつなげる際に膝を使って跳躍力をつける意図が伝わってくる。リバウンドシュート時も肘が胸より下がらず視線は常にリング、基礎基本を忠実にそしてハイレベルに応用できる選手である。同じく昨年来から主力を務める**勝亦麻結**は初動スピードを生かしたドライブと柔らかいスナップで放つ3Pが持ち味、東海新人でも3P2本を含む19得点を決めた。2年生・**野田志**は入学当初から主力として活躍、恵まれたバスケセンスと巧みなボールハンドリングで積極的にゴールを狙う。特に県新人・東海大翔洋戦ではチームタイの19得点、ウイング位置やエルボー付近、時にはショートコーナーからもシュートを決める。県新人と東海新人で新たにスターティングファイブに入ったのは**米内心菜**と**常房心瑠**。ともにそれぞれ163cm・157cm、背が高い選手が目立つチームの中でお世辞にも長身とは言えないが、米内はドライブからのジャンプシュートに、常房は一歩距離を詰めたプレッシャーディフェンスに境地を見出す。特に常房は東海新人でも12得点、常時得点に絡める選手になってきた。

そしてこのチームのスーパーサブ・切り札を紹介したい。170cm**外川あこ**、県新人決勝リーグ全試合途中出場で3P3本を含む26得点、東海新人では浜松開誠館にも勝利した星城相手にこちらも途中出場で3P2本を含むチーム最多の20得点を挙げた。県総体ではどのような起用法となるかわからないが、競った展開で彼女が出てくると相手にかかるプレッシャーは想像を絶するものとなる。その他にも、**岩田真奈**など市立沼津中等部時代に全中やJr.オールスターに出場した選手が多く入部、フレッシュな力と現存勢力を混ぜ合わせて沼津商業にリベンジ、4年連続の東海総体出場、そして11年ぶりの優勝を目指す。

その市立沼津は沼津商業と対戦するためには中部3位の**静岡東**に勝たなければならない。静岡東は新チームで臨んだ昨年のウインター県予選で見事ベスト8入り、中部総体では新人戦・2点差で敗れた静岡商業にリベンジ、3位決定戦では3Pを武器に藤枝順心とのめまぐるしいシーソーゲームを2点差で制した。近年急激に部員が増え、正式なデータを確認出来てないが女子では県内最多ではないかと思われる42名の部員を有する。オールコートプレスを主体とした守備のチームでベンチメンバーが状況に応じて積極的に稼働する全員バスケが特徴、多彩なディフェンスも特徴でマンツーから状況に応じて即座にダブルチームに移るなど、チームの約束事が周知徹底されていてそれを試合で実践できる強みを持つ。1on1の強さと流れを見極めて放つ33Pが魅力のキャプテン・**栗田志織**を筆頭にボールキープ能力にたけて渋いアシストも繰り出す**佐藤蓮乃**、そして藤枝順心戦3P3本を含む19得点、ドライブも長距離砲も決められるオールラウンダー・**小柳真実**など数だけでなく質も一級品の戦力で市立沼津に挑む。

1回戦の注目カードとして、「**静岡商業－浜松日体戦**」を挙げたい。ともに県新人初戦突破した実力派同士の対決、速いトランジションによるプッシュでボールを瞬く間にゴールへ運ぶエース・**山田芽以**や静岡大成戦で5本の3Pを含む28得点を叩き出したスコアラー**・増田悠伽**、3P狙いに徹する職人肌の**杉山花音**を中心に、得意の速攻と効果的なパス回し、そして固いディフェンスと高確率の3Pで中部総体5位となった**静岡商業**と、ディフェンスからリズムを作り早い展開に持ち込むのがお家芸、**五味優花**のドライブや**辻玲奈**のインサイドプレーも魅力、チームとしては1on1のディフェンスが固く、**高橋倖菜**や**横山わかば**のフロント陣がチャンスと見るやすかさずダブルチームを仕掛けて先手を制してボールをスティールし得点につなげる展開が特色の西部6位・浜松日体の対戦は初日から会場を沸かせるだろう。

その他の注目選手として、**上原美桜・杉山萌唯**（市立沼津）、**山崎実琉愛・小山愛加・西浦李虹・山田彩耶・柴本有紗・山下寧々**（浜松東）、**石濱怜・鈴木萌花・今西莉子・髙橋弥恵・伊藤かすみ・藤井ひより**（浜松市立）、**近藤美渚・高橋詠美**（浜松日体）、**永見みずほ・河村南美・彦坂好胡・山脇心渚・飯尾心美・河村菜々美**（浜松北）、**臼井小夏・三浦咲**（沼津商業）、**中山志緒梨・落合美雨・小杉凛・清水柚菜・阿多海尋**（静岡商業）、**山本寧々・望月美空・廣田美優・杉山莉彩**（静岡東）などを挙げたい。

ウインターカップ2024静岡県予選 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

第77回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2024）静岡県予選が令和6年10月19日に開幕する。11月10日に**静岡県武道館**で県代表が決まり、12月23日から聖地・**東京体育館**および**武蔵野の森総合スポーツプラザ**で行われる**全国選手権大会**へ出場する。昨年は男子の出場枠が1枠増えたため男子のみ決勝リーグ制で行われたが、今年は男女とも1枠、従来通り**完全トーナメント制**での実施となる。組み合わせがどうであれ、1番強いチームのみが全国切符を手にすることとなる、まさに駆け引きなしの最強チーム決定戦となる。

今年の夏は**高校バスケ**が大いに盛り上がった。インハイでは藤枝明誠がベスト8、浜松開誠館がベスト16、今年度**国民体育大会**から名称変更し10月に佐賀県で第1回が行われる**国民スポーツ大会**への出場権を賭けた**東海国スポ**では高2の早生まれと1年生を主体としたU16の少年男女が激戦区・東海を勝ち抜き出場権を勝ち取った。特に少年男子は愛知・岐阜との三つ巴を**ゴールアヴェレージ（得失点率）**で制し優勝、国スポ出場に華を添えた。さらに9月に開幕した**U18日清食品トップリーグ**には藤枝明誠が2年連続で選出され全国でたった8チームしか参加できない大会で毎週全国の強豪と火花を散らしている。同じく**U18日清食品東海ブロックリーグ**には男子:沼津中央・浜松開誠館、女子:浜松開誠館・市立沼津が出場、東海地区各地で熱戦を繰り広げ、9月には開催3年目にして初めて県内でも試合が行われた。強豪チームとの戦いを通じて静岡県高校バスケの総合力が上がっていることは間違いない。

今年も**県武道館シリーズ**から試合球として**モルテン製12面体球**を使用する。昨年に続いての使用となるが、すでに国際大会でもお馴染みでU18でもすべての全国大会でこの白いラインが描かれたボールを使っている。ただ明らかに従来の**8面体球**と感触が違うので、県武道館を目指すチームはこのボールへの対応もきちんと行っておくべきである。

夏に行われた『**2024パリ・オリンピック**』では48年ぶりに男女が揃って自力出場を果たし、惜しくも男女とも決勝T進出は逃したが応援している側に夢と勇気と希望を与えてくれた。特に男子日本代表の「**日本－フランス**」戦は手に汗握る戦いでテレビに釘付けとなり、第4Q残り30秒で4点差、誰もが勝ったと思った瞬間フランスの執念に屈し惜しくも敗れたが、多くの国民がこの試合を観戦し勝利という目標に向かってひたむきに戦う日本代表の姿に涙した。このバスケ人気を一過性のものに終わらせないためにも全カテゴリーでバスケを盛り上げ続けなければならない。

大会展望の執筆に際して、毎回私の右腕として職務を果たしてくれている**山口裕史**県協会広報副委員長と左腕となってくれている三**宅凌**広報委員に多大な御尽力を頂いている。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、将来的には私の後継者になって県バスケ広報活動を牽引してくれることを願っている。

男子

昨年ウインター 3位、今年のインハイでもベスト8、その実績を評価され今年もトップリーグに選ばれた藤枝明誠が文句なしの優勝大本命である。それを東海総体・東海リーグにも出場して強豪との戦いで経験値を上げた沼津中央・浜松開誠館が賜杯奪回に挑む構図が予想される。

左上のブロックは、藤枝明誠が圧倒的な強さを誇ることは言うまでもないが、県総体7位・令和4年度県新人から5大会連続で県ベスト8を堅持する公立の雄・浜松西が県武道館で藤枝明誠に挑む構図が予想される。

藤枝明誠は今年も県新人・県総体を制し、令和4年の県総体以来高校大会7連覇中、県内の連勝も52に伸ばした。東海新人・東海総体と美濃加茂に連敗したが、インハイでは強豪・近大附属や八王子学園八王子に完勝、準々決勝では昨年のウインター王者･福岡第一と序盤からお互い点差が5点と離れない大接戦、終始優位に試合を展開していたが土壇場で追いつかれオーバータイムへ、延長でも手に汗握る一進一退の攻防を繰り広げ惜しくも3点差で敗れたが全国の頂点を極めるだけの戦力は整っている。戦術面でも**金本鷹**監督の徹底した「考えるバスケット」が浸透､昨年のウインター･開志国際戦､残り5秒で見せた「リードしているチームが時間を消費させて逃げ切るためにファウルゲームを仕掛ける戦術」を見事実行したチームの底力には驚かされた。机上の論理では可能でも、プレッシャーや疲労感そして相手もその戦術を見透かしている可能性もあるなかで、指導者そして仲間を信じて選手たちが見事遂行したところに真の強さを見た。大会3連覇に死角はなく目指すは全国制覇の四文字である。

中心となるのは来日以来中心としてチームを牽引、今年からゲームキャプテンも兼ね卓越した個人技だけでなく全体も掌握したチームバスケに舵を切り始めた209cmナイジェリア留学生・**ボヌロードプリンスチノンソ**。高さと力強さを生かしたバスケはすでに語り尽くした。近大附属戦で見せたド迫力スラムダンクはまさに芸術品、ジャラマイヤ（日本航空)･フェイバー（美濃加茂）など一級品の留学生が集う全国の中でも頭一つ抜けた実力を見せた。唯一の心配事は脱臼を繰り返す肩の状態で

ある。昨年もウインター予選前に肩を脱臼、痛みを押して出場を続けてきたものの東海総体で再度脱臼、インハイには出場したが怪我の影響がなかったと言えば嘘になる。脱臼は癖になりやすくそれを本人も十分理解しながら細心の注意を払いプレーしているが、こればかりは相手もあること、夏休みには短期間ではあるが心身のリフレッシュやオーバーホールも兼ねて来日以降初めて帰国、家族との再会は「最良の薬」となったはずである。「無事、これ名馬」の格言どおりに高校最後の大会でいつも以上に観客を魅了するプレーを見せて欲しい。191cm**野津洸創**は高さを生かしたプレーだけでなく上手さと速さ、クレバーさを併せ持つ。外でボールを持つ仲間に合わせて絶妙に裏パスを誘いそのままバックシュートで放つ名人芸も披露、チーム事情でガードポジションのプレーが増えたがスムーズにアジャストして自らショットクリエイトする天才、リバウンドからフィニッシュまでの所要時間はまばたきしている暇もないくらいの短さ、インハイでは留学生相手にも躊躇なくブロックショットを決めてますます手の付けられないプレーヤーとなった。何といっても生粋の司令塔・**野田凌吾**が前十字靭帯断裂の大怪我から完全復調、長い時間ゲームメークを任せられるようになったことは相当な戦力の底上げと言える。168cmの小柄ながら視野の広さやボール運び、パスワークなどすべてに優れ、インハイではチームが苦しい時間帯に自ら得点を重ねるシーンがよく見られ、流れを呼び込むプレーに磨きもかかった。マネージャーとしての経験を糧に今年はプレーヤーとして全国に挑む。この夏、一番の成長を見せたのが**篠原遼太**。この選手こそ縁の下の力持ち、真骨頂は力強いリバウンド、福岡第一戦では12リバウンドを記録、特にオフェンス時に天賦の才能を発揮しセカンドチャンスを作り出す。ランニングプレーにも磨きがかかり、非常に重宝するユーティリティーである。インハイ3試合でスタメン出場した**柴田陽**は相手エースを標的にとらえ、時に脚を巧みに使ったフルフロントでも守るストッパー、攻撃では効率よく決まる3Pとレイアップが魅力、攻と守のバランスが「黄金比」のプレーヤーと言える。ゴールデンルーキーの**渡邊聖**はインハイでの活躍が全国でも取り上げられた大物、度胸の良さは逸品で強心臓のビックショットを連発してクラッチタイムでの勝負強さを見せた。福岡第一戦では最終盤に託されたタフショットを打ち切れず誰よりも悔しい思いをした。徹底マークが予想される今大会、我々の心配が杞憂となるような活躍を願い今から胸が躍る。留学生200cm**アメーエマニュエルチネメルン**はロードプリンスとオンザコートワンでタイムシェアしながらの出場、休息を与える目的やファウルトラブルだけでなく、監督が直接プリンスに指示を与えたい時にも彼が代役を務めて十分にその重責を果たしてくれるのが大きい。プリンスが帰国中のトップリーグは代わりにフル出場、1on1にも果敢にチャレンジし相手が対応してきたら裏へと切れる野津やウイングから切れ込む篠原への見事な合わせも見せた。相手が寄りすぎたところを見逃さない洞察力も素晴らしく、留学生2人を効果的に活用できることでまた一段と総合力が上がった。その他にも、途中出場ながらインハイ全戦に出場、国スポにも出場した長身192cm**永田貴陸**、素早いノールックや俊敏に走りワイドオープンを創り出してドライブする**古田愛礼**、スピードを生かしたドライブで攻撃の起点となる**髙松悠季**、稀代の3Pシューター**金子來樹**、精神的支柱としてもチームを支える3Pシューター**白崎上総**など全国制覇のために集まった兵（つわもの）が揃う。夏に経験した価値ある悔しさをバネに不撓不屈の精神で練習に精進し、県制覇を置き土産にそのまま県勢男子初の全国制覇に挑みたい。

浜松西は厚い選手層だけでなく安定した戦いぶりが目に付く。特に新チームへの切り替えから仕上がりへの早さには定評があり、近年も体調不良者が出て途中棄権した令和4年以外はきちんと県武道館にたどり着いているから素晴らしい。今年も1,2年生のみで大会に臨むが、実績十分の選手を多く擁する楽しみなチームである。チームの中心は入学直後から主力を務めながらも大怪我で県総体に出場できず悔しさをバネにリハビリやトレーニングに励み不退転の決意で今大会に臨む183cm**尾藤遙陽**。全中3位の実績は折り紙付き、高校バスケでもワンランク上の技術を披露しながらパワフルなプレーを見せてくれた。復調具合が気になるところだが、多くの観客にそのプレーを見てもらいたい選手である。その尾藤の不在を埋めたのがJr.ウインター出場経験もある**山田悠睦**、黒子に徹しながらも期待通りの活躍を見せた。幼少期から尾藤とキャリアを共にする183cm**関宮怜央**も長身を生かしたリバウンドが武器で、無理にセカンドショットには行かず状況に応じてアウトレットパスや高い位置からオポジットに走りこむ仲間にパスする判断力が秀でている。他にも、県総体全試合でスタメン出場、飛龍戦では先制の3Pを含むチーム一の16得点を挙げ成長著しい姿を見せた**福澤生也**などの戦力で得意のファイブアウトにも磨きがかかり、公立高トップレベルの力で藤枝明誠にどこまで通用するか楽しみである。

県総体で東部3位・三島北に速いテンポの試合に持ち込み、粘り強いディフェンスとエース・**鈴木仁**が30得点を挙げる大活躍で競り勝ち久しぶりに県ベスト16を勝ち取った**袋井商業**や令和4年度県新人から5大会連続県ベスト16以上を維持、**渥美稜平**を中心とした個性的な面々が繰り出す攻撃的なバスケットで初の県武道館進出を目指す**浜松聖星**にも注目したい。

その他の注目選手として、**今田流威・井田翔太・水口陽翔・周梓俊**（袋井商業）、**佐野裕章・水野誠太朗・原田竣・山崎巧太郎**（浜松聖星）、**前田ガブリエル**（遠江総合）、**尾形空・本田匠・細井龍**（静岡市立）、**芹澤遼人**（富士宮西）、**佐藤光希**（相良）、**増田脩人・中上智仁・小川春陽・徳田紘己**（静岡）、**野田龍之介・池田純悟**（富士東）、**庄司絢登・中野海球空・森蓮太朗・志村隼杜**（御殿場）、**鈴木翔弥・塚本大輝・清水明日夢・増田好汰・近藤翔太・後藤彩社**（島田工業）、**齋藤天馬・細川生童・南條蒼生・ビエンシャン・市川将翔**（静岡大成）、**山本醍馳**（池新田）、**井本碧**（藤枝北）、**アセソルカメ・太田友翔・島尾颯**（浜北西）、**蓋櫂斗・中谷元**（島田商業）、**齋藤航・武田倫太朗・坂本陽樹・安川仁登**（浜松西）、**ロカジロ**（藤枝明誠）などを挙げたい。

左下のブロックは県総体4位・飛龍と5位・静岡商業がメインコートを賭けて直接対決で雌雄を決する展開が予想される。しかしながら昨年準優勝の浜松学院や、近年安定した実力が目立ち平均身長175.2cmと高さも備え、**荻野陽向・平野琥太郎・近藤丈太郎**など粒ぞろいの選手で挑む**東海大静岡翔洋**など実力派チームが揃い、選手にとっては「死のブロック」、見る側にとっては「群雄割拠のブロック」と言える。

飛龍は就任2年目の**大石康史**監督を中心とした**原千容・勝又幸正**両コーチのトロイカ体制が定着、浜松開誠館との東海総体出場権争いで敗れたが、昨年のウインター予選での浜松開誠館戦や県新人の浜松学院戦で見せた泥臭さ漂う粘りのバスケットを見せれば準決勝でも藤枝明誠を慌てさせる展開に持ち込める可能性は十分にある。中心となるのは1年次からアイディア満載のクレバーなプレーでグッドパスを連発、アシストの申し子と言えるキャプテン**竹村勇祐**。最後まで競った県総体・沼津中央戦では自ら得点に絡みチーム最多の15点、チームで唯一2年連続県武道館を経験していることも心強い。もう一人のポイントガード・**小川優乃丞**は得点能力に長け、ドライブで鋭角に切れ込みシュートに持ち込む。**ケビィエリィアス琉海**、私はこの選手を初めて東海新人で知り、相手に身体を密着させてシリンダーを意識しながらも器用な手つきでボールをスティールするテクニックに目を奪われた。オフェンスでも上背のない分、恵まれた跳躍力を生かしてのリバウンドショットや勝負所で見せる3Pも正確、シュートフォームもしなやか、攻守の要として注目に値する選手、相手がどのような策を練って彼を止めるかも見てみたい。その他にも、3位決定戦で3P4本を含む18得点を挙げた**松浦光陽**、ドライブやリバウンドで体を張る180cm**上門京太郎**、重心の低いディフェンスで相手のターンオーバーを誘う**星野光聖**、高い身体能力の**岩戸翼**、シックスマンとして有事に備え出番が与えられればウイングからミドルを放つ**伊藤凌**、チーム最高身長185cm**坂内洸太**、そしてタフネスさを生かしたリバウンドを見せる**大平颯汰**などの戦力で粘り強いディフェンスからブレイクを仕掛けさらにプレス主体のディフェンスにつなげるバスケットを見せ、王者を脅かすだけでなく勝利をもぎ取り4年ぶりの賜杯へつなげたい。

静岡商業は県総体では沼津中央に敗れたのみの4勝1敗で5位、一昨年の6位を上回る最高順位でウインター第5シードを獲得、初のメインコートを狙う。スーパースター市川やキャプテンとしてチームを支えてきた望月など3年生が引退し、新チームとして今大会に臨む。下級生にも実戦経験を積んだ選手を多く抱えるのがチームの特色、中心となるのがベルテックス静岡のユース育成特別枠選手としてBリーグにも出場経験のある**北堀遥大**。170cmと大柄とは言えない体格ながら飛び込みのリバウンドやインサイドの攻防にも積極的に参加し成果を出す選手、城南静岡戦では3P4本を決める大活躍を見せた。182cm**齊藤遙人**には市川の穴を埋める活躍が期待される。果敢にペイントエリアにアタックする猪突猛進型の選手、まだまだ粗い面もあるが将来的には十分その穴が埋められる未完の大器、温かい目で見守り成長を期待したい。中盤を任されるのは**文谷虎斗**と**仲山柊志**。文谷は県総体・浜松西戦第2Qで見せた綺麗な弧を描く3Pが印象的、もちろん中に切れ込んでのインサイドプレーにも一日の長がある。仲山は城南静岡戦で3P3本を含む19得点の大活躍、特に第2Qに決めたバスカンは超美技、アンドワンも見事に決めるなど随所に見せるグッドプレーが印象に残る。その他にも、県総体でも出場機会を得た**久保山大飛・富井遼真・鈴木陽翔・齋藤龍門・鈴木瑛斗・岡庭正樹・出島健徳**など若いチームながらも熱血漢・**増田哲也**監督に鍛え抜かれ、磨き抜かれ、大きく成長した器が多い。死のブロックを象徴するような組み合わせ、初の県武道館進出をかけて強敵・浜松学院との対戦が予想される。その後も飛龍・藤枝明誠と難敵が立ちはだかるが、持ち前の守備とフィジカルを強化して大勝負に臨む。

このブロックの内枠に昨年県予選で準優勝し7年ぶりにウインター出場を果たした**浜松学院**がいることに各チームは戦々恐々としていることであろう。県武道館にたどり着くためには前年度ウインター出場校を破らなければならない。しかし苦しい組み合わせは浜松学院にとっても同じである。ウインターで正智深谷と好勝負を展開、新チーム始動から1 ヶ月弱で臨んだ県新人も東海は逃したものの堂々 4位、満を持して挑んだ県総体2回戦で城南静岡の怒涛の攻めと粘りのバスケットにまさかの敗戦、ウインター出場校が県2回戦で姿を消す衝撃的な結末に会場が静まり返った。屈辱の敗戦から5 ヶ月、チームは万難を排して今大会に挑む。今年は決定的なシューターがいないことが苦しさの一因ではあるが､それを補うだけの総合力を持ち、努力を続ける選手を多く抱える｡中心となるのはチームだけでなく県選抜選手としても活躍した**石原弘幸**｡チームのスコアラーとして3Pと切れ味あるドライブが魅力、チームの舵取りも任せられてゲームコントロールにも優れる存在。司令塔・**西垣玲央**はボールを持たせればそのパスワークに、オフボールの時は自身の動きに目を奪われる一流選手、試合を冷静に分析できる極めてバスケIQの高い選手である。**末永蒼**はすべてにハイスペックなテクニックを持つ天才肌、相手司令塔にパスを出させないディナイや密着する寄りは天下一品である。その他にも、怪我から復帰して得意のリバウンドに精を出す**松本将虎**、チーム一の長身187cm鈴木友真、粘りのディフェンスが持ち味・**鈴木陽翔**、唯一の泣き所であるアウトサイドからの得点を稼ぐべく3Pでも勝負する**戸塚健太郎**、ルーズボール・リバウンドなど球際の泥臭いプレーにも汗をかく**藤井惺楽・宮澤政人**、国スポ予備選手にも選ばれた**川原暖**など4強にひけを取らない戦力を有する。

浜松学院にとって今大会が現校名で臨む最後のウインターとなる。来年度から校名を「**浜松学院興誠**」と改称、平成23年以来5回の全国出場を果たした現校名と伝統の旧校名「興誠」を組み合わせた校名になる。興誠と聞くと全国出場29回を誇る強豪軍団を真っ先に思い浮かべ、その名称が14年ぶりに蘇ることに喜びを感じる。新たなスタートを切る前に、まずは平成10年以来26年続く県ベスト8で県武道館に辿り着き、さらに4年連続のメインコートを目指したい。

県内有数の指導力を誇り、選手育成にも定評がある**須藤剣吾**監督が星陵から異動して2年目を迎えた**静岡北**もこのブロック。私も夏の市民大会で対戦し直接チームを見たが、国体や東海大会出場の実績を持つ監督からバスケットの技術を吸収するべく選手全員がひたむきに指示に耳を傾け、愚直にコートで実践しようとし、選手たちの顔は「上手くなりたい」と書いてあるかのように真摯にバスケに向き合う姿が心に残った。監督が日々教えるバスケットの奥深さに魅了されて心酔し、指導者と選手の潤滑油となり後輩たちに「須藤バスケ」を根付かせようと必死に奮闘する唯一の3年生・**山本宙**にも勝利の感動を味あわせたい。

誠恵の192cm・**中田舜**にも注目したい。今大会後藤に次ぐ日本人2番目の高身長、徐々に加速してリングに叩き込むシュートが代名詞。今夏練習試合で胸を借りたが全得点の9割近くを叩き出すなどさらに得点力がアップしていた。ただ相手に対応された時に別の得点パターンを確立するのは急務、大会までの課題と言える。188cm**山本靖仁**・186cm**張笑嘉**などビッグマンを多く抱えるのも特色、県大会初出場を狙った東部新人で栗橋、東部総体ではマーロンという好選手に攻略され敗退した悔しさをバネに一昨年同様県ベスト32進出を狙う。

その他の注目選手として、**白鳥兼祐・岩﨑隼斗・小林まはろ・栗田健吾**（常葉大橘）、**千葉歩夢・吉田康靖**（誠恵）、**望月琉愛・山川遼大**（静岡北）、**金諒紀・木下昊翼**（藤枝東）、**桑高綸太郎・喜多野瑛大**（浜名）、**柿澤昭伯・前田夕雅**（静岡サレジオ）、**小山太一・小田木茉悠・井田康介・田中有翼**（浜松湖東）、**木村海琉**（加藤学園暁秀）、**齋藤光希・石田逢士**（清流館）、**増井心汰朗・石間遼太・瀧井俊巴**（焼津中央）、**長谷川彰・望月俊輔・大竹悠太・市川慧**（富岳館）、**野中慶人・山本悠人・渡邉空聖・雪山慶人・増田そら**（常葉大菊川）、**萩原諒・深澤昂士郎・岡本心真・小林巧実・山田慎二**（韮山）、**川口将吾・平山蒼空・松本翔和・山本航大**（東海大静岡翔洋）、**浅田海・髙松竜樹**（伊豆総合）などを挙げたい。

右上のブロックは、県総体3位で4年連続の東海総体出場、沼津中央と共に数少ない藤枝明誠に対抗できる戦力を持つチームである浜松開誠館と、県総体でウインターにも出場した浜松学院を破るアップセットを演じ6位まで昇りつめ大会に旋風を巻き起こした城南静岡が県総体同様準々決勝で対戦する構図が予想される。

昨年4位の**浜松開誠館**は県新人・5位に甘んじたが、県総体では3位に入り東海総体でも三重2位の津工業に快勝、全国制覇の経験もある愛知県王者・中部大第一には敗れたものの好勝負を演じた。工藤・藤原・高森という昨年来の主力がさらにスキルアップし今大会に臨み、3年ぶりの優勝を目指す。9月に東海リーグで沼津中央と対戦、県予選準決勝の前哨戦とも言える「関ヶ原の戦い」で最終Qに逆転し2点差で勝利、今大会での再戦を見据えてライバルに相当なプレッシャーをかけることができた。今大会でもきちんと勝利を収めて決勝戦のコートで藤枝明誠と対戦したい。

中心となるのが3年間ゴール下の砦として攻守でチームに勝利をもたらす190cm**工藤寧朗**。この選手の長所を上げたら紙幅がいくらあっても足りない。しなやかな柔軟性と惚れ惚れするような体幹、すべてを器用にこなすオールラウンドなテクニック、挙げれば枚挙に暇がない。津工業戦では22得点・15リバウンド、圧巻のダブルダブルを達成、試合でも泥臭い仕事への積極性を決して失わなかった。私も毎回大会展望で期待を込めながら彼の課題を挙げ、前々回はメンタル面、前回はスロースタート面を指摘したが、いずれもきちんと次の大会までには修正されていて、まさに天才的プレーヤーと言える。留学生に対しても日本代表が見せたようなヒットファーストで互角以上の勝負を見せてもらいたい。その工藤とミニバス時代から深い友情をはぐくむ主将**・藤原柊**はトランジションが速くなるほど力を発揮、そこには練習に裏打ちされた足腰の強さが垣間見られ、独特な間合いを創り出してドライブで一気に切れ込んでいく。昨年の県協会優秀選手・**高森カイル**はいつでもどこでもその時チームに一番必要な役割をこなせる万能選手、ジャンパーや1on1,ドライブなどすべてが一流、リーチを生かしたスケールの大きさとプレーの正確さが光る。中学時代に全中・Jrウインターを制覇した実績を持つ**木村晄大**は巧みなステップとリズムで相手ディフェンスをいとも簡単にかわすテクニックを持ち外からのシュートも決められ国スポにも選ばれた大型ルーキー、東海総体では2試合で3P4本を含む31得点を記録、今後の成長がますます楽しみである。同じく大型ルーキー**後藤大駕**。ご存じの通り**後藤正規**監督の長男、親子鷹という重圧を受ける厳しい環境の中で期待通りに成長する逸材、196cmは今大会日本人最高身長、将来を嘱望される至宝でもある。県総体では幾分プレーに遠慮や粗削りな部分も見られたがそのポテンシャルは折り紙付き、沼津中央戦では華麗に決まる3Pも披露、プレーの一挙手一投足に注目が集まる。この夏にはU18日本代表にも選出され、韓国で行われた「日韓中Jr.交流競技会」にも出場、父,母,姉に続く後藤家4人目の日本代表選手となった。父に追いつき追い越す選手になってもらいたい、心から願うとともに将来フル代表での日の丸戦士を目指す大器の初めてのウインターに注目したい。その他にも、3位決定戦で15得点の大活躍・東海総体出場に貢献した180cm**北條隆稀**、中部大第一戦で途中出場し得点も決めた**片岡未空斗・小野寺祐之・渡邉虎太郎**、スピードを生かしたボールキャリーに定評がある**永井哩玖**、昨年の全中で準優勝したキャリアを持つ**宇都宮大騎**、沼津中央戦でスタメン起用された**宮城琉希**など藤枝明誠に匹敵する厚い戦力で3年ぶりの優勝を狙う。そのためには準々決勝で予想される城南静岡戦に勝ち、県新人で敗れたものの東海リーグでリベンジを果たした沼津中央との完全決着戦を制する必要がある。

城南静岡は先述の浜松学院戦でお互いトランジションの激しいシーソーゲームを制し4点差で勝ち切り初の県総体8強入り、5位決定Tで浜松商業との激闘を制し最終的には創部以来最高順位となる6位になった。この大会昨年・一昨年と2年連続ベスト8実力派、今年こそ3度目の正直でメインコートでのプレーを誓う。城南静岡中学時代に全中に出場したメンバーが中心となるが、その中でも大黒柱は**塩坂優斗**。冷静なプレー選択の中に激しい闘志をにじませ、効率よくミドルレンジのジャンパーを決めるいぶし銀プレーヤー、浜松学院戦では16得点を記録したが彼の得点は相手が攻撃する際に出鼻をくじくように要所で効果的に決まり、ジャブのようにダメージを与え反撃の糸口をつかませなかった。数字以上に相手にダメージを与えチームを勝利に導くバスケットを見て私は躊躇することなく彼をプログラムの表紙に起用させてもらった。非常に謙虚な選手であることも特徴、今大会注目選手の一人と言える。その他にも、開始直後からエンジン全開、猪突猛進で得点を奪う姿が印象的、1on1を得意としスキルフルな攻撃の引き出しを持ちクラッチタイムでのアイソレーションからの攻撃にも境地を見出し、紆余曲折を経た高校バスケの総仕上げとして大会に臨む主将・**海野伍希**、浜松商業戦第2Qで決めた3連続3Pが忘れられない**勝山海朋**、中盤選手として黒子に徹し内外のつなぎ役を演じる**生子遥仁**、ドライブだけでなく勝負所の3Pも随所に決まる**高松天成**、下級生ながらスタメン出場、ドライブ・ミドルで矢継ぎ早に得点を決める**佐野翔礼・望月吹**など1年生から3年生まで多彩な戦力を抱える円熟期のチーム、準々決勝での対戦が予想される浜松開誠館との再戦が今から楽しみである。

その城南静岡と県武道館を賭けての戦いが予想されるのが県総体ベスト16**富士宮東**。ストイックなまでの肉体改造で強靭なフィジカルを構築、さらにはテクニシャンと呼ばれるほどの精錬された技術で東部の代表的選手に成長した**栗橋大寿**を中心に**刈谷蓮・森川拓登・瀧内由馬**など厚い戦力を誇る。平均身長176.1cmは全チーム中4位、180cm台の選手を7人も抱え、城南静岡戦での塩坂と栗橋の火花散るマッチアップが楽しみだが、その前に初戦での対戦が予想される県新人7位・**三島北**に勝たなければならない。両者は東部総体準々決勝で対戦、その時は三島北がダブルスコアで圧勝している。当時と今回では選手

も違い一概に比較出来ないが、富士宮東にとっては初戦から難敵を迎えるとともに、見る側にとっては2回戦から屈指の好カードが実現する。県総体に下級生で唯一スタメン出場し14得点を決めた三島北の**川上遼賢**と栗橋は中学時代の先輩後輩、互いの手の内は知り尽くした中での両雄の戦いに今から胸が躍る。

個人的には**松崎**の**ワシントンマーロン**に注目したい。兄・ケネス、姉・ジュリともに過去にプログラムの裏表紙を飾った県を代表する選手、弟のマーロンも二人に負けないレベルのテクニックを持つ。攻・走・守三拍子揃ったオールラウンダー、丸太のような強靭な腕から繰り出される攻撃の数々は一見に値する。ワシントン兄姉弟最後のウインター、順調に勝ち進めば実現する工藤とのマッチアップを見てみたい。

その他の注目選手として、**白井比路・堤寛大・仲野光樹・伊藤利通・佐伯快晟**（三島北）、**大石聖悟・杉村桜生・北原由吉・望月晶斗・児玉祥磨・平澤遼介**（科学技術）、**関塚昂生・岡田太一**（磐田西）、**川端康太・大橋昭太・江原周侑・高浜瑳笑・杉本光優・石上創士朗・大橋昭太**（静岡城北）、**元野陽斗・太田一平・安藤悠翔・塩崎虎次朗・片瀬巧・曽根田澄真・西ヶ谷優心**（静岡東）、**柏木勇志・新村爽・濱津俊太・勝亦瑛太**（伊豆中央）、**後藤大祐・高杉理己・山口大翔・三枝壱成・鈴木泰惺**（日大三島）、**小川孝幸・奥村海夢・石田大蕾**（松崎）、**石川湊・稲葉蓮・上村恭生**（富士宮東）、安心院慶（榛原）、**天野雄太・飯田風斗・足立政宏**（清水南）、**水野大地・鈴木迪也・小西哲史**（焼津水産）、**大石侑・町田悠輝**（城南静岡）、**赤堀英太**（静岡聖光学院）、**鈴木涼太**（静岡農業）、**浅利奏磨・デラペナケンシン・服部虎士郎・高藤功磨・岡澤一颯・土屋翔誠・土屋愛翔**（加藤学園）、**望月悠雅**（浜松東）、**岸川藍佑・上野莉一**（浜松開誠館）、**加藤瑠騎**（浜松江之島）などを挙げたい。

右下のブロックは東海総体および東海リーグで対戦した三重の3強：四日市工業・津工業・四日市メリノール学院を総なめ、県新人・県総体ともに準優勝で文字通り打倒・藤枝明誠の1番手に挙げられる沼津中央と、県総体7位・常に県上位の成績を残し公立高校としての使命を果たし続ける浜松商業を中心とした争いになるであろうが、県総体でその浜松商業に敗れた静岡学園もこのブロック、県武道館を前にバスケファン垂涎（すいぜん）の好カードが実現することになる。

昨年大会3位の**沼津中央**は、東部・県・東海総体は**反町駿太**監督の代行として同じくOBの**浦田涼脩**コーチが采配を振るったが、今大会は反町監督が復帰、留学生2人と下級生時代から実戦経験を多く積んだ上級生が有機的に機能して9年ぶりの優勝を狙う。総体での浦田代行の采配は反町監督のバスケを踏襲しながら選手を鼓舞して気持ちよくプレーさせるスタイルが目立った。東海リーグ・浜松開誠館戦ではお互い同県のライバル意識がすさまじく最後まで息を飲む戦いが続いたが2点差で惜敗、しかし「冬への宿題」をもらったと解釈し、今年3度目の対戦となる県武道館での決着戦をものにしたい。
中心となるのはスコアラー**小林吏駒**。県総体準々決勝では打った3Pすべて入ったと錯覚するくらいの大爆発、39得点中33点が3P、まさに「アウトサイドの魔術師」と化した。全国レベルでは決して長身とは言えない175cm、その中でも練習に裏打ちされた高い技術と研ぎ澄まされたメンタル、驚異的な跳躍力とクイックネスで試合の流れを引き寄せて相手を意気消沈させる。四日市メリノール戦でも3P10本・美濃加茂戦でも3P5本、県武道館でも高々と舞う3Pを早くこの眼で見たい。もちろん**桐生武蔵**も負けてはいない。188cmの長身を生かしてインサイドに活路を見出すプレーヤー、美濃加茂戦でも18得点11リバウンドのダブルダブルを達成、全国準優勝チームから達成したことに胸を張って欲しい。時に外から勝負に出ることもあり相手にとってはこれほど厄介な選手もいない。小林・桐生と新潟県の中学時代からのチームメイトとなる**内藤海夏人**は泥臭いことにも汗をかくハードワークがモットー、絶妙なアシストや献身的なディフェンスでチームに貢献する。3人一緒に歩んできた6年間の集大成、不完全燃焼に終わった夏の決勝の分まで取り返したい。**新垣颯野**は気配りの出来るプレーヤー、特に留学生との意思疎通的な役割も果たし、そつのないプレーでもチームに貢献する。192cm**エルデネサイハンエルデネバド**は日本人扱いとなるモンゴルからの留学生、大型センター陣とタイムシェアしながらの出場になった分、懸念材料であったスタミナ面の心配もなくなり集中力を高めてのプレーに凄みが増した。日本でのプレー歴も長くなり日本のスタイルにも適応してきたことも好材料である。ナイジェリアからの留学生206cm**ハビブカリファアテーザ**は実戦経験を積ませるべく指揮官の粘り強い起用が功を奏し、堅実なスクリーンプレーや高い位置でのリバウンド確保が板についてきた。細身ではあるが巧みなステップワークでゴール下を制覇する。東海総体やリーグ戦で愛知・岐阜の留学生とマッチアップする機会があったことも大きな収穫、決勝戦で県内唯一の留学生対決を見てみたい。その他にも、共に東海総体にも出場して得点を挙げた**髙木強臣**は190cmの長身を生かしたプレー、**手塚晃生**は執拗なまでハンドチェッキングをしてのスティールと絶妙なアシストでチームに貢献、浜松開誠館戦ではスタメン出場の好機を生かした**具志堅理大**などの戦力で、高さを生かした攻撃と1線から激しく当たるディフェンスで勝ち上がり絶対的王者を倒したい。

沼津中央とブロック決勝での対戦が予想されるのは**浜松商業**。言わずと知れた県大会上位常連校で浜松西・静岡商業とともに公立高として強豪私学勢に果敢に挑む姿は見る者の心を大きく動かす。県総体では城南静岡と最後まで激しい攻防の戦いを繰り広げた末惜敗、それでも県総体3年連続8強以上は素晴らしい実績と言える。近年新チームで臨むことが多かったが、今年は神谷・枝村などは引退したが主力の3年生が一部残り県総体の戦力を維持して大会に臨む。大黒柱は言わずと知れたミスター 3P・**宮本剛都**。この選手の3Pに何回チームが救われ何回観衆がどよめいたことだろうか。県新人で敗れリベンジを期した県総体・静岡学園戦では29得点、相手に対策を練られ外へのこだわりを捨てて中で勝負したこの試合、一進一退の攻防から膠着状態が続く展開で相手の息の根を止める連続3Pを決めて勝利の立役者となった。圧巻は城南静岡戦、前半終了と同時に放った同点に追いつく低空飛行のブザービーター 3Pはゴール真下でカメラを構えていた私に直撃するかのようなスピードで吸い込まれていった。誰もが目を奪われるダイナミックなプレーを簡単にやってのけるまさしくファンタジスタである。そして**栗田頼乙**も忘れてはいけない。チームになくてはならない司令塔、広い視野でのパス回し、ドライブ、3Pと八面六臂に活躍する。城南静岡戦でも3P2本を含む15得点、蓄積されたキャリアから来る肝の据わった精度の高いフリースローも魅力

である。その他、183cmの長身を生かしたインサイドのプレーやゴール下の防波堤として貢献する**白井力兜**、怪我に悩まされながらも最後の舞台に勝負をかける**大石真弘**、シックスマンとして要所で投入されて監督の期待に応えた**伊藤拓海**、次世代のエースとしての期待も込めてプログラム男子扉絵にも抜擢された**千葉勢太**など多彩な戦力で県武道館を狙うが、その前に天敵・静岡学園が待ち受ける。静岡学園とは県新人・県総体に続き今年3度目、過去2回はともに1点を争う好勝負となり1勝1敗、今回は決着戦、両チームとも全身全霊で魂を賭けた死闘が予想されるが、結果のみにコミットして頭一つ抜け出し4年ぶりの県武道館で沼津中央と勝負したい。

平成29年度以来7年連続でベスト8以上をキープし続ける**静岡学園**も県総体・浜松商業との再戦で競り負けベスト16に終わり、今大会は内枠からのスタートとなる。下級生を中心とした布陣のなかで効果的に実力ある上級生を起用しバランスを取りながら勝ち抜くバスケットは健在、今大会での県武道館進出は最低限の目標ラインである。中心となるのは2年生エース・188cm**内山直陽**。県新人6位の立役者で内外左右どこからでも得点が取れるスコアラー、今大会でも注目の選手である。バランスの取れた柔軟な体幹を利してパス、カットイン、スクリーン、ドライブを無難にこなすまさに技のサーカス選手も県総体では相手に対応されてしまった感がある。まだ2年生、経験を通してさまざまな技術や戦術を習得し、策を講じられてもまたその裏を探究していく選手に成長して欲しい。その他にも、国体でも活躍・チームではキャプテンとしての本文を全う、随所で名前の如く「味のあるプレー」を見せながら浜松商業戦では3P7本を含む24得点を挙げて勝利を呼び寄せる怒涛の攻撃を見せた**味岡大斗**、2年連続県選抜選手に選ばれ国体・国スポ両方に出場し今年はキャプテンも務めた**大長真士**、内山が外にフラッシュアウトする際に中でいい働きをする**渡邉昊**、そして県総体・日大三島戦で見せたワンマン速攻からのビッグストライドで放たれたレイアップが印象的な**五條漱士**など県武道館、さらにはメインコートを踏んでもおかしくない戦力が揃う。まずは順調に勝ち進み、浜松商業との決着戦に全精力を傾けたい。県武道館に行く前にこれほどレベルの高い試合が見られる私たちは幸せであるとつくづく実感する。

このブロックの注目選手として、**池田隼平・小林碧志・藤田惟吹・木下節也**（駿河総合）、**森田光雅・小林瀬七**（伊豆伊東）、**川満佑醐・深澤太空斗・市川宗二郎**（清水東）、**遠藤彰・長島航太・宇佐美樟・横山優杜**（清水西）、**竹内銀河・佐野空良・松原陸・井奥夢叶**（星陵）、**遠田俊樹・植松輝**（田方農業）、**大石悠太・田中輝・榎本陽斗**（藤枝西）、**今部陽翔・江間真都・二橋悠生・村本尚輝・中澤悠乙・河合咲陽・ポリスティコユリ**（浜松工業）、**阪本圭亮・保角欣耶・道下砦・安井誠人・工藤泰心・大島優成**（三島南）、**鈴木憚・山本来瑠寿・松尾一樹・石原壮真**（浜松湖北）、**増田悠来・秋田隼斗**（焼津）、**池田蓮・犬塚就斗・佐藤柊・岩田伸之介・清水敦稀**（浜松湖南）、**鈴木隆也・高木悠生・小林逞生・大場悠叶**（浜松南）、**小島颯也・中山雄陽**（浜松商業）、**山田伊吹・金城光史朗・小長井優磨・山下敬太・久保蒼真・滝井蓮也・水上陽向**（静岡学園）、**津ヶ谷拳斗**（清水国際）、**ゴタマルコス**（小笠）などを挙げたい。

女子

今大会も8連覇中の浜松開誠館中心の優勝争いになることは間違いない。その中でも令和4年度県新人から5大会連続準優勝、昨年から残る主力を中心に東海総体・東海リーグなどで実戦を重ねた市立沼津が今年も常勝女王をどこまで脅かすか、長期にわたる女王の独走を止めるべく勝負をかける展開が予想される。

県内高校156勝、県内大会23連覇、栄光を数え上げれば紙幅が尽きる。毎回大会展望でも記録の数々を枕詞で語るのが風物詩、左上のブロックは浜松開誠館の独壇場となる可能性が高いが、県総体7位・県上位を戦い続けた主力が残る浜松商業やノーシードから東部総体を勝ち上がり県総体でも勝利を収めた**飛龍**や昨年度から4大会連続で県16強をキープする**浜松日体**などが女王への挑戦権を賭けて戦いに挑む。

浜松開誠館は県総体を危なげなく8連覇、東海総体では準決勝で岐阜女子に敗れたものの、星城・安城学園という愛知の強豪を倒して見事3位、インハイでも青森商業・小林を連破、再び岐阜女子と相まみえた3回戦では作戦通りロースコアの展開に持ち込み終盤一時は5点差まで詰め寄りながらも惜敗したが、インハイ準優勝チーム相手に東海総体よりも点差を13点も縮めて全国トップに肉薄。後藤・井口という3年間チームを牽引し続けた原動力にとって最後となる大会、県制覇はもちろんその先には全国4強以上という明確な目標が存在し、それも十分現実味を帯びている。

チームの中心は後藤と井口の両キャプテン。179cm**後藤音羽**は今や日本の至宝に成長した。U16アジアカップに続きU17でも日本代表に選出、7月にメキシコで開かれた「FIBA U17ワールドカップ2024」ではキャプテンを務め7試合すべてで2桁得点を記録、アベレージでも大会6位となる15.7点、さらには決勝T以降では18.3点、数字が上がっているから恐れ入る。バスケ王国・アメリカ戦では3P3本を含む19得点で6位入賞の立役者となり、世代屈指のオールラウンダーとしてその技術が世界にも通用することを証明した。プレーの特徴はこの3年間ですでに書き尽くしたので割愛する。まことに僭越ながら毎回課題や助言も書かせてもらったが、すべて受け入れてきちんと修正、その実直な人柄と向上心には頭が下がる思いである。帰国後のインハイでは世界との戦いを肌で学んだことを生かし、中と外の攻撃バランスをよく考えながらプレー、あくなき探究心と向上心を見せた。大会でも個人平均得点25点で5位、小林戦での33得点は大会7位、しかしスタッツを並べるよりも実際プレーをその目で見てもらえば百聞は一見に如かず、「最後の冬」に賭ける熱い気持ちを感じながら今回も観客を魅了するだろう。輝かしいキャリアを引き下げて入学した**井口姫愛**にとっても最後のウインター、試合を重ねるたびに冴え渡る流れを読むプレーには脱帽、自身がボールを持つ時間を減らしパスで裁いて味方を生かすプレーの一方、鋭角に切れ込むペネトレーション

も絶品、果敢に3Pも放つなど何をやらせても合格点以上のプレーを見せる。青森商業戦では積極的に相手との間合いを詰めて3スティール、走り込むシューターにグッドタイミングで4アシスト、仲間を生かしたプレーや重心を低くしてのインテンシブなディフェンスも光る。後藤との阿吽の呼吸で見せる絶妙な連係プレーにも注目したい。**八重柏憂奈**は昨夏にレギュラーを掴んでから一気に主力へと駆け上がり、得意のポストプレーにも一層磨きがかかり、深く振りかぶって思い切り放つ精度ある3Pも板についてきた。小林戦で記録した5アシストが示す通り、巧みなパスでもチームを救う。国スポ出場に大きく貢献した**前川桃花**はこの1年、入学前から評価が高かった固いディフェンスだけでなく攻撃面でも大きく成長、的確なタイミングで見せる見事な連係や果敢にドライブを試み、フィニッシュの豊富さも魅力、インハイ3試合で42得点を稼ぎ、次世代のスコアラーに成長した。**山本さくら**は思い切りのある度胸満点のプレーが信条、指揮官からも太鼓判を押されるほどのアグレッシブさを持つ。その他にも、後藤が負傷欠場時にその穴を埋める活躍を見せ東海総体や小林戦ではスタメン出場して177cmの恵まれた高さを十分に使ったプレーを見せた**小幡美空**、鮮やかなファストブレイクを演出する攻撃型ガード**牧田知紘**、入学直後から出場機会に恵まれ途中出場したインハイ・岐阜女子戦では24分のプレイングタイムをもらい攻守で自身の魅力を十分に発揮した**垣内優希奈**、高さとスピードを兼ね備えて縦横無尽にコートを駆け回る175cm**杉山実子**、国スポ選手に選ばれた**鈴木結愛・小林陽菜乃・鈴木千夏**など県内屈指、全国でも有数の戦力を誇る。**三島正敬**監督が積極的に選手交代を行い、時にはツープラトンも使う新たな試みも見せるなど総合力のレベルが一段と上がり、さらに失点の少なさが目立つのは徹底的に指導し続けたハードなディフェンスが全員に浸透したからに違いない。総力戦で県を勝ち抜き東京体育館のメインコートを目指しての飽くなき戦いが続く。

県新人6位・県総体7位と安定した成績を収める**浜松商業**は主力の3年生・三浦・山田・西塚などが引退、2年生以下の完全なる新チームとして今大会に臨むが、実戦経験を重ねた下級生も多くフレッシュで楽しみな面々が揃う。大黒柱は**大場優菜**、前チームでは中盤のつなぎ役を任されていたが新チームではどのような役割で起用されるのかも興味深い。チーム事情にもよるが、インサイドをやらせても無難にこなすだけのセンスを持つユーティリティー選手、13得点した県総体・浜松南戦では冷静沈着に決めるフリースローや時折披露する飛び道具も印象深く、三浦の後釜として十分に役割がこなせる大器である。正直私もこの展望を書くまで2年生だったとは気づかず、将来末恐ろしい大器となる雰囲気を漂わせる選手である。その他に司令塔を任されて試合序盤から躊躇なく3Pを放つ度胸満点のプレーヤー**原田りの**、パスをさばいて味方へのアシストを連発する**谷野有彩**、シックスマンからレギュラーをつかみ実戦経験を蓄積する**伊藤優月**など新進気鋭なフレッシュメンバーでまずは初の県武道館にたどり着き、常勝王者に挑みたい。

今回唯一の初出場校・**伊豆伊東**にも注目したい。昨年伊東・伊東商業・城ケ崎分校が統合し創設、男子は令和3,4年と「伊東・伊東商業」の合同チームで出場、昨年は晴れて「伊豆伊東」で初出場を果たした。それから遅れること1年、今年は女子が初出場、前身の伊東は令和3年、伊東商業は平成29年が最後の出場、統廃合の関係とは言え平成30年の御殿場西以来の女子初出場校誕生となった。昨年の学校統合時から女子部もあったが人数不足で公式戦に出場できず、他校との合同チームでの活動等を通して成長、新入生6人が加わり、積極的なドライブやシュートを中心に攻撃的なバスケットを目指す。3Pを武器に積極的に点を取るフォワード・**大川卯姫**や力強いリバウンドで貢献するセンター**福原優里**などの上級生を中心に悲願の初勝利を目指す。

その他の注目選手として、**大久保愛姫・細田栞愛・持田莉子・坪田桜子**（浜松開誠館）、**石垣栞・和久田珠寿**（浜松湖南）、**水鳥心羽・中嶋夢月・村松奈々・山口琴乃香・坪井雪羽**（富士宮東）、**高屋敷里帆・吉田光花・遠藤優日・三橋可奈**（三島北）、**富高華音・岩見果隠・近藤湖都・篠原由愛・鈴木真花・鈴木娃賀**（飛龍）、**高橋倖菜・五味優花・西村佳菜・波多藍耶**（浜松日体）、**中島季良・兼子結衣**（磐田西）、**望月優奈**{3年}・**小泉美奈子・曾根未来・小川心優・望月優奈**{2年}・**大出柚葉**（静岡女子）、**中村ののか・玉川冴・森下恋・田内桃花**（浜松商業）、**前田茉莉花**（静岡雙葉）、**伴野花音**（静岡西）、**中嶋希楓**（清水西）、**森心明・田中沙宮良**（下田）、**村上純菜**（富士宮北）、**大津優奈・野村結花**（富士東）、**櫻井瑚々**（掛川東）などを挙げたい。

左下のブロックは2年連続で東海総体を逃した県総体4位・浜松学院と5位決定Tで浜松聖星・浜松南を連破し創部以来最高順位5位を残した沼津商業が準々決勝で対戦することになりそうだが、大会最多16回の優勝を誇る常葉大常葉やエース・**辻村明日花**を擁して県総体ベスト16、**勝部真菜・久芳美羽**など当時のスタメンがそのまま残る**三島南**もこのブロック、激戦が予想される熾烈な戦場と化した。

一昨年準優勝・昨年3位の**浜松学院**は県総体3位決定戦で東海大静岡翔洋の鬼気迫る攻撃に屈したが、戦力的には市立沼津・東海大翔洋と全く遜色なく、まずは準々決勝で沼津商業を振り切り4年連続のメインコートにたどり着き、2年ぶりの決勝戦に駒を進めたい。中心となるのはフォワードとして中盤を任されて内外広いシュートエリアから得点を決めるスコアラー・168cm**足立珊那**、攻守の要として監督やチームメイトからの信頼も厚いプレーヤーである。ゲームコントロールするのは**相川樹由**。判断力に優れ、仲間の表情や息づかいを見ながら**窪田智弘**監督の考えに基づきゲームを組み立てる天才肌、エコパ決戦2試合で30得点、大舞台で勝負強いところも頼もしい。チーム最高身長171cm**高山璃世**はリバウンドに励み、セカンドチャンスをものにする。このチームの特色は高さがあること、平均身長165.9cmはトップの浜松開誠館とわずか0.1mm差、登録選手の多くが160cm台～ 170cm台というのも強みである。その他、県総体全戦スタメン出場し高山とともにインサイドの砦としてリバウンド争いに奮闘した171cm**荒井香実**、国スポ選手にも選ばれた170cm**袴田千愛**、3位決定戦でスタメンを任され国スポ予備選手にもなった**市川水琴**、その3位決定戦で効果的に途中投入されチーム最多の17点を挙げ実力を覚醒させた170cm**太田綾夢**、国スポ予備選手の**本間輝星**など多彩な戦力が揃う。そして忘れてはならないのが**ワネケジジュリエット杏奈**。強靭なフィジカルから繰り出されるドライブや合わせのシュート、リバウンド争いでの身体を使った献身的なプレー、下がりながらも要所を捉えてのディフェンスなどどれを取っても一級品。現在大怪我でリハビリを行いながら戦線復帰に向けて奮闘

中と聞く。私は彼女の類まれなる能力と地道な努力へのリスペクトも込めてプログラム裏表紙を飾るプレーヤーに選ばせてもらった。それをプレッシャーには感じずにまずは怪我の回復を第一に考えながらも調整を続けてコートに戻ってきて欲しい。

対する**沼津商業**は5位決定Tで主力の向井を怪我で欠く苦しい状況下、チームがさらに団結しベンチに掲げられた「背番号5」に魂を込めて一致団結、初の県5位を勝ち取った。勝利のあと、**齋藤さゆり**コーチが涙を浮かべながらエコパの2階席から松葉杖姿で観戦していた向井に手を振って勝利の報告をした光景に私も思わずもらい泣きをした。その向井も怪我から復帰、回復具合が心配であるが持ち味のチーム沼商で初のメインコートを狙う。このチームは個々のハイレベルなテクニックはさることながら、就任18年目迎えた齋藤コーチの情熱あふれる指導に選手全員が魅了され、その教えを実践すべく抜群のチームワークで勝利に向かい突き進む姿が特徴である。チームの中心は**庄司奈納**。キャリア十分の絶対的エース、1on1の駆け引き、勝負所の見極め、コートバランスの掌握などチームの屋台骨を一心に背負いながら個人技にも秀でて、持ち前のスピードと精度のあるシュート力で勝利をグッと引き寄せる。**向井京**は非凡なパスセンスから出されるノールックや力強いハンドリングからのドライブが生命線の選手、腰の痛みに耐えながらプレーした県総体・市立沼津戦で見せた気迫あふれる闘志は無念の欠場となったエコパ決戦でチームメイトに受け継がれ勝利につながった。彼女が完全復調となればこれほど頼もしいことはない。170cm**梅原優月**はトリッキーなオフェンスリズムを駆使し1on1や低い姿勢からのドライブでゴールにダイブ、随所に見せるフレアスクリーンも一級品である。**稲田楓羽**はディフェンスの砦としてチームに貢献、自分が1点取るよりも相手の1点を守りたいという強い意志がプレーから伝わる。そんな守備の人がエコパで決めた2本の3Pの放物線は今でも私の脳裏に残る。172cm**白井碧**は長身を生かしたインサイドプレーでゴール下を旋回、ファウルレシーブ後のフリースローも正確で、絶妙な間合いとルーティンで放たれるフォームも注目である。その他にも、向井欠場の穴を埋める大役を任され見事指揮官の期待に応えた**白井小夏**、効果的に途中で投入され身を挺して自陣を守るディフェンスが目に付いた**江藤碧音**、下級生ながらプレイングタイムを増やし経験を積む**三浦咲・今坂怜愛・加藤和奏**など、全員ディフェンスからブレイクへつなげる速いトランジションを武器に初のメインコートを目指す。浜松学院との対戦は残り1秒まで1点を争う目の離せない試合になるはずだ。

常葉大常葉も侮れない。県総体では浜松南に敗れベスト16に終わったが、新体制2年目となり佐野監督の教えも定着、まずは2年ぶりに県武道館に凱旋したい。持ち味は高さとうまさ、そして変わらぬ伝統の「ステイロー」。平均身長165.6cmは県内3位、県内最高身長・181cm**室伏理緒**を筆頭に177cm**河島唯奈**・174cm**原優花**など長身選手を抱え、**伊藤亜莉沙・森輝月・植田柚希・須田理子・池田愛央衣・佐野麻帆・二宮ひなの・鈴木雅**など技巧派選手が揃う布陣、上位進出の可能性は十分ある。初戦は駿河総合との対戦が予想され、まさに平成29年決勝の再現、2回戦から豪華カードが実現する。**駿河総合**も2年ぶりに県総体出場、**中野春風・岩田蒼未・天野なつき**を中心に山椒は小粒だがピリッと辛いメンバーが揃う。お互い指導者として全国の大舞台で何度も修羅場を経験している常葉・**佐野恵子**監督と駿河総合・**立野幹夫**監督が見せる「勝負のかけ引き」はバスケを学ぶ人にとって何事にも代えられない生きた教材となるだろう。

日大三島は2年ぶりの出場となる。県大会常連校、令和元年から3年連続でこの大会ベスト32、令和4年はベスト16に入り、あと1勝で県武道館というところまで迫った。昨年の県総体にも出場したがウインターには部員不足で出場できなかった。今年は新進気鋭の新入部員が入部、限られた人数の中で粘り強いディフェンスから走るバスケを目標に、抜群のスピードで切れ込む2年生ガード・**秋山心**、1年コンビ・得点力の高いテクニシャンガード・**根緒美来乃**、視野が広くプレーの出来がチームのバロメーターとなるフォワード・**池田あおい**などの戦力でまずは初戦突破を狙う。

このブロックにはある意味今大会最大の注目チームがいる。**静岡学園・静岡英和・焼津水産・焼津中央**、大会史上初の4校合同チーム、もちろん4校の合同は大会史上最多、全国的にも類を見ない合同チームである。近年顕著な右肩下がりを見せる女子競技者数衰退を象徴するような出来事で、学校統廃合を除く純粋な部員不足での合同チームは2年ぶり3度目となる。4チーム合わせても選手は8人という苦しい人数だがキャプテン**白井英蘭**（静岡英和）を中心に、昨年この大会ベスト32進出に貢献した・**引地優**（焼津中央）、長身選手172cm**大島こころ**（静岡英和）、静岡市選抜選手にも選ばれた**廣江さくら**（静岡学園）、焼津水産唯一の選手・**中山明音**、そして下支えする2人のマネージャーなど少数精鋭のメンバーで合同チーム8年ぶりの勝利を目指す。そして来年はこの4校すべてが単独チームで参加してくれることを心から願う。

その他の注目選手として、**島村梨央・石上七菜・見崎ひなた・岸山愛海・山本毬愛**（駿河総合）、**伊藤栞奈・宮城島夢子・菅野陽向・遠藤陽菜・手塚希海**（清水南）、**西村歌里那・八木向日葵**（島田）、**三須愛子**（沼津西）、**若林花波**（富士）、**野邊田和実・山本空・上野梨音**（富岳館）、**渡邉結衣・伊澤せり・足立結菜・山中和奏**（三島南）、**渡邉陽南乃・中田千尋・蓮池未夢・水谷那奈・渡邉陽南乃**（富士市立）、**櫻井寧々**（袋井）、**守山ひかり・田開瑚生・髙柳亜知葉**（浜松学院）などを挙げたい。

右上のブロックは浜松学院との熾烈な激闘を制して7年ぶりに東海総体出場を果たした県総体3位・東海大静岡翔洋と、こちらも5位を賭けた沼津商業との戦いで惜敗したものの、最後まで逆転のチャンスがあった浜松南を中心に、昨年ベスト8・県総体2回戦で市立沼津を追い込み残り1秒まで逆転のチャンスがあった**静岡東**やオールラウンダー**後藤さつき**を擁して8年ぶりの県武道館を狙う**沼津中央**の県総体ベスト16の2チームが加わった争いが予想される。

東海大静岡翔洋は選手としてインハイ出場経験を持つ**大島美代之**監督が今春着任、選手の長所を生かしながら効果的な選手交代を繰り返して3位決定戦を制した。東海総体ではいなべ総合学園に敗れたものの前半を3点差で折り返すなど、東海地区上位にも通用する底力を見せた。中心となる唯一の3年生・**一見陽菜**は下級生中心のスタメン陣を抜群のキャプテンシーでまとめ上げる大黒柱、比較的小柄な部類に入るが飛び込みのリバウンドで得点に絡み、引き出しの多い攻撃バリエーションは職人芸、数字に表れづらい貢献度も計り知れない。私は夏の放送部研修会で翔洋にお邪魔した際の昼休みに体育館で練習を見さ

せてもらったが休息時間でも寸暇を惜しみながらシュート練習に汗を流す姿を目にして、シュート練習の試投数は県下随一だろうと察する。お互い勝ち上がって同じミニバスチームで切磋琢磨した市立沼津・勝亦とのメインコートで対峙したい。177cm**稲葉叶**は基本に忠実かつクレバーなプレーヤー、私が非常に高く評価する選手である。この選手はオンボール時のプレーも秀悦だがオフボール時の動きにも注目して欲しい。フロート・スクリーン・フォローアップ、そしてハイローの動きなど先を読んだプレーに高いバスケセンスを感じる。東海総体でも12得点9リバウンド、まさに今大会注目の選手である。その他にも、3位決定戦でスタメンに抜擢されチーム最多の16得点・度胸ある3Pも4本決め逆転勝利の立役者となり途中出場した東海総体でも9リバウンド・4アシストを記録した172cm**山内楓**、東海総体でスタメン出場・3P3本を含むチーム最多タイの12得点を挙げた**青島由來**、県総体は1試合のみの出場に終わったが東海総体でスタメンに大抜擢され3アシストを決めた**望月凛**、3Pでもドライブでも得点を稼げる**星合汐凪**、小柄ながら積極的に中に割って入りリバウンドに絡む**北川伶奈**など攻守に足を使ってスピードを活用するバスケが特徴、そして随所に功を奏す大島監督の選手起用と大胆な采配にも注目、まずは浜松南を攻略し市立沼津との再戦にも勝利したい。

東海大静岡翔洋と準々決勝で対戦が予想されるのが**浜松南**。従来総体後に3年生は引退するケースが多かったが昨年は4人、今年は2人の3年生がエントリーし2年ぶりのメインコートを目指す。令和4年の県総体以来7大会連続で県ベスト8以上という県立高校では一番の安定感を保ち、一昨年の大会では準々決勝で東海大翔洋を倒して堂々 3位、今年の県総体でも6位という素晴らしい成績を残した。最後の最後で逆転された沼津商業戦の直後、エコパのバックステージで選手全員が号泣する「ラストミーティング」を取材させてもらったが、その瞬間から悔しさあふれる気持ちを整理しながらウインターでの雪辱を誓っていたのが印象的だった。3年生2人と国スポ出場経験を持つ下級生などがバランスよく機能すれば2年ぶりの県4強も現実味を帯びてくる。3年生はメインコートでプレーした貴重な経験を後輩に伝えながら**杉本貴央**監督から教えられたバスケットを実直にコートで実践する。中心となるのは昨年のベスト8,県新人5位・県総体6位の立役者・3年生**山村梨心**と**輿水想来**。山村は1年次からレギュラー、県武道館でも3試合主戦としてプレーし、広い視野から繰り出される絶妙なパスや切れ味のあるドライブ、精度の高い3Pなど多岐に渡るプレーの幅が魅力、輿水はとにかくボールへの執着心が強い。ひたすらボールを追い続けプレーに絡み得点を奪おうとする姿勢が素晴らしい。沼津商業戦でも残り数秒、相手ディフェンスにも密着された体勢でも数％の奇跡に賭けて果敢にシュートを放った姿に感銘を覚えた。昨年から急激に成長した大器晩成型の選手、そのひたむきさに勝利の女神が微笑み、名前の如く「想いが来る」ことを信じたい。下級生では県総体全試合スタメン出場・元来171cmのインサイド選手だが沼津商業戦で見せた先制の3Pで外からも攻撃できることも証明した**若林鈴音**、怪我に苦しんだ時期もあったが県総体では控えの切り札としてチームを支え浜松商業戦では途中出場ながら13得点、特に第1Q終盤に決めた3連続の3Pは相手の出鼻を大きくくじき結果的には勝敗の分岐点ともなるプレーとなった**鷹野瑠美**、昨年県選抜選手として東海国体にも出場した**新林芽依**、入学早々レギュラーを獲得・172cmの長身を生かして県選抜選手として国スポにも出場した**相澤彩乃**、国スポ予備選手にも選ばれた**萩原静音・金森柚妃**、そして同じく国スポ予備選手・中学時代に出場した「U15クラブゲーム」で全国3位、ベストシューター賞も受賞した金の卵・**金子莉央**など多彩な戦力を誇る。東海大静岡翔洋との一戦は県武道館が沸き上がること間違いなく、一昨年は浜松南が競り勝ったが今年も実力伯仲の両チーム、注目の黄金カードとなる。

このブロックの**磐田東**にも注目したい。常葉大常葉（常葉学園）を37年に渡って指導、全国大会出場36回、ウインター県予選優勝16回どちらも県内最多を誇り、平成14年度にはインハイ・ウインターともに全国制覇の偉業を達成した名将・**小前宏史**が監督に就任、新天地で指導を始めた。まだ新たなスタートを切ったばかりのチーム、人数も7人ではあるが少しずつ「小前イズム」が浸透し始めて、これからの躍進が楽しみである。まずは初戦突破して弾みをつけて、優勝候補の一角・東海大翔洋に挑戦するところまで辿り着き、選手に勝つことの幸せを味わって欲しい。

今年の県総体にも出場、県新人は現在まで4年連続で出場権を獲得している**浜松北**は今大会196チームを通じて最少人数、唯一の5人での出場となる。県総体でも下級生として唯一のスタメン出場を果たし先輩からの薫陶を胸にチームを牽引する**内山夏緒**を中心に一致団結、ディフェンス時のプレスなど注意しないとファウルアウトという致命傷になりかねないリスクを背負うが、全員が果敢に相手に挑み、2勝して尊敬する先輩たちの実績に肩を並べたい。

その他の注目選手として、**藤田結依花・鈴木華蓮・鈴木日菜多**（浜松南）、**古川結衣**（清水東）、**柴山凛花**（常葉大橘）、**石川歩美・水口晃・増本栞女・北川ひより**（島田商業）、**高橋乃愛・片桐たまき・鈴木湖遥**（浜松湖東）、**芝本有紗・石野海月・谷口優愛**（浜松東）、**藤倉華音・藤倉琴音・田村悠香・鬼頭菜津・大竹里奈・野口華音**（加藤学園）、**廣田美優・杉山莉彩・杉山奈南・伊藤葵・渡邊夏帆・伊藤瑛那**（静岡東）、**鈴木楓花・山田結月**（磐田北）、**白鳥有菜**（静岡農業）、**依田愛巳・浅田海・江川凪・金子未杏・岩田楓**（沼津中央）、**難波香凛**（浜松北）、**伊藤光虹・山下風音**（磐田東）、**甲賀彩菜・稲葉くるみ・菊池由徠**（吉原）、**石和麒佳**（裾野）、**遠藤衣月・羽石あずみ・森理椛子・森理彩子**（東海大静岡翔洋）などを挙げたい。

右下のブロックは県総体準優勝・市立沼津が圧倒的な力を誇り、14年ぶりの優勝も視野に入る。それを県総体7位の浜松聖星が上級生と下級生を有機的に機能させ、個性的あふれる戦力で追いかける展開、そして県ベスト16・共にその時のスタメンがそのまま残り戦力維持とともに更なる上積みが期待できる藤枝順心と静岡大成が続くであろう。

優勝11回を誇る**市立沼津**は東部総体決勝でライバル沼津商業に不覚を取り17年ぶりに優勝を逃し背水の陣で挑んだ県総体、準々決勝で沼津商業と再戦し今度は快勝、そのまま一気に2年連続の準優勝・4年連続東海総体出場も決めた。東海総体では津商業に思わぬ苦戦を強いられ激しいプレッシャーディフェンスに攻撃の糸口が見いだせず脚が止まる窮地に追い込まれたが1点差で勝利、勝負所でも指導者・選手が慌てることなく信頼し合って戦う市沼バスケの原点が垣間見られた試合だった。中心となるのは**勝亦麻結**。とにかく無尽蔵の体力でコートを走り回りボールに絡もうとする姿勢が好印象、手足の長さを生かしたリバウンドやハードなディフェンスが持ち味、東海総体・桜花学園戦でも孤軍奮闘、3P2本を含む13得点、リバウンドで

も存在感を見せた。また冷静沈着なフリースローにも定評があり、県総体・沼津商業戦、第1Q終盤6本連続で決めたシーンも印象に残る。昨年度県協会優秀選手を受賞した**河谷真矢**は抜群の跳躍力と長い手足を生かしたリバウンド支配、卓越した走力など総合的に完成された選手、井口・後藤とともに「今大会ビッグスリー」と評価したい。時に自分を犠牲にしても周りを生かして得点を導き出すプレーヤー、津商業戦では178cmの長身とジャンプ力を生かして驚異の10得点17リバウンドでダブルダブル、まさに静岡県を代表する選手である。170cm**野田志**は入学当初からレギュラーを任され信頼の厚い選手、2年連続で国スポ（国体）選手となり、相手との駆け引きからシュートに挑む技巧派選手、東海リーグではテンポの良い3Pやドライブ・カットイン･ポストプレーなど器用に技のオンパレードを披露､周りも彼女にボールを集め攻撃の体制を整える援護射撃もあった。経験を積むほどに成長が見える選手、国スポやリーグ戦など貴重な舞台でさらに大きく成長して欲しい。同じく2年連続県選抜選手となった**上原美桜**も173cmの高さを生かしたリバウンドが魅力、フラッシュしてからのミートシュートも上手に放つ。その他にも、国スポ選手にも選ばれ実勢経験を積み、得意のドライブからのジャンプシュートや3Pの切れ味が増した**米内心菜**、1年生ながら県総体全試合スタメン出場・東海総体でも得意の3Pを成功させた国スポ選手・**岩田真奈**、東海総体に出場し得点も決めた**高野紗来・植田亜瑚**、長身173cm**竹ノ内菜優**・170cm**岩川恵里花**など心技体の整った戦力で、一貫して厳しいディフェンスをしながら脚を使ったパスランと力強いリバウンドでまずは決勝まで勝ち上がりたい。ウインター決勝の前哨戦とも解釈できる東海リーグは浜松開誠館に得意のロースコアに持ち込まれ屈辱の26得点、相当悔しい思いをしたことであろう。その悔しさをバネに決勝まで精進を重ね、雪辱を期したい。

浜松聖星は令和4年度新人戦から県8強を堅持、特に昨年のこの大会では3位となり、9年ぶりに県武道館のメインコートに帰還、現校名になってからは初の快挙となった。当然今年も2年連続の4強以上が目標となる。大竹・高下・長坂など一部の3年生は引退したが、キャリアのある主力も残り楽しみな存在である。中心となるのは昨年来レギュラーを務める3年生・**三井亜利華**と2年生・**長谷川万桜**。守りの要・三井は体を張った堅守が信条、相手の目を見て次を読み、一歩先にドライブコースに入って待ち構えるプレーを見せる。カットインして切れ込むドライブや膝を深く曲げた正確なフリースローなど攻撃面でも貢献する。攻めの要･長谷川はミートシュートやドリブルを用いてのボール運びが絶品､エルボーやペイントエリアからのジャンパーなど中心に県総体・浜松学院戦では16得点を挙げた。そのシュートの精度を見る限り相当量のシュート練習をこなしている印象を受けた。その他にも、ここぞの場面で監督の信頼を背負って投入されて期待に応えることが多かったが今大会ではスタメン選手として得意の3Pが期待される**岡部玲那**、ディフェンスが持ち味の**深間菜月**、下級生ながら県総体のシビアな場面で起用されて貴重な経験を積んだ**森美希奈・中西杏奈**など例年と変わらずハイレベルな戦力を持つ。まずは確実に県武道館に進出して昨年準決勝で敗れた市立沼津に勝って2年連続メインコートでプレーをしたい。

昨年のベスト8**藤枝順心**は**小池紫寿・石田妃栞里**、県総体で三島北との接戦を1点差で制して県大会9年ぶりの16強入りを果たした**静岡大成**は**丸山真央・山下美優**という3年生の絶対的ダブルエースを擁する。3年生にとって泣いても笑っても最後の大会、最上級生が見せる意地に期待したい。

桐陽の**河谷唯**にも注目したい。長いウイングスパンを生かしたリバウンドとパスセンスを武器に攻守でチームに貢献、特にリバウンドにおけるファーストタッチの速さと高さに注目して欲しい。1歳上の姉は同じブロック・市立沼津の河谷真矢、たどり着くまでにはシード校2校を倒さなければないが、今年の東部総体で実現した姉妹対決を再び県武道館で見てみたい。

その注目選手として、**伊藤美結・三井琴羽・佐藤碧**（西遠女子）、**鈴木萌花・今西莉子・藤井ひより**（浜松市立）、**山道和奈・佐々有彩・松角悠苺・小野田朋恵**（静岡市立）、**長島凛**（静岡サレジオ）、**芹澤もか・廣末菜央・加藤結愛**（桐陽）、**佐々優華・勝又慶・田中桃葉・坪内杏香里・安間佳穂**（静岡）、**大畑こま・栗田恋羽・須山心穏・柴田愛奈・望月葵衣**（静岡大成）、**増田悠伽・中山志緒梨・落合美雨・小杉凛・稲垣栞瑚・阿多海尋**（静岡商業）、**増井弥空・宮住美桃・大月耶奈実・杉山未緒・石田妃菜野・小出涼寧**（藤枝順心）、**高根夢・芹澤芙実香・勝間田愛果・渡邉梨乙**（御殿場南）などを挙げたい。

ウインターカップ2024静岡県予選 大会展望
【D-sports Shizuoka vol.30 寄稿版】

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

第77回全国高校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ2024）静岡県予選が令和6年10月19日に開幕する。男女優勝チームが12月23日から**東京体育館**他で行われる**全国選手権大会**への出場権を獲得する。新人戦・総体・リーグ戦そして国民スポーツ大会など実戦経験を積んだ選手たちが挑む高校バスケの集大成、聖地・**静岡県武道館**で繰り広げられる熱い戦いに注目したい。

男子

昨年ウインター 3位・総体でもベスト8、全国屈指の強豪・藤枝明誠が大本命、それを東海総体・東海リーグに出場して経験値を上げた沼津中央・浜松開誠館が猛追する。

藤枝明誠は県内大会7連覇・52連勝。盤石の強さを見せての大会3連覇、その先には全国制覇も見据える。明誠バスケの象徴である高さでは全国ナンバーワン留学生の呼び声が高い209cm**ロードプリンス**。トップからのパスが中にいるプリンスに渡ったら諦めるしかない。リバウンドも冴え、総体4試合平均13.2は驚異の数字である。唯一の気がかりは肩の脱臼と回復具合、チームの命運を担うだけに早期の復調を願う。190cm**野津洸創**も随所に超美技を見せる有望株、内外どちらでもプレーできるオールラウンダー、瞬時に決めるリバウンドショットは卓越、守備もガードまで器用にこなすバスケの申し子である。司令塔・**野田凌吾**が大怪我から完全復帰したことは好材料、広い視野で巧みなパスワークで披露し自らタフショットも決める。この3人を中心に、プリンスとともにリバウンドに境地を見出す**篠原遼太**、相手エースを標的に鉄壁の守りを見せるストッパー・**柴田陽**、鳴り物入りで入部の名に違わず総体でも大活躍した**渡邊聖**、プリンスの後継者としてインサイドの帝王学を学ぶ200cm**エマニュエル**など全国制覇のために集まった兵（つわもの）が揃う。夏に経験した価値ある悔しさをバネに練習に精進し、県制覇を置き土産に県勢初の全国制覇に挑みたい。

県新人・県総体準優勝の**沼津中央**は下級生時代から経験を積んだ精鋭と高さで貢献する留学生が有機的に機能したバスケで9年ぶりの優勝を狙う。中心となる**小林吏駒・桐生武蔵・内藤海夏人**は中学からのチームメイト、特に小林はアウトサイドの魔術師として東海総体2試合で3P16本を決める離れ業、百発百中という言葉は彼のためにある。インサイドには192cm**エルデネバド**と206cm**ハビブカリファ**が待ち構える。エルデネバドは日本人扱いのため留学生を同時に使えるのも大きい。
浜松開誠館は県総体3位で出場した東海総体でも素早いトランジションと堅守を見せて勝利を掴み、優勝候補の一角である。190cm**工藤寧朗**はしなやかな柔軟性とバランスの取れた体幹ですべてを器用にこなす唯一無二の選手、県武道館では留学生相手にヒットファーストで互角以上の勝負を見せてくれるだろう。196cm**後藤大駕**は後藤正規監督の長男、U18日本代表にも選ばれ国際大会にも出場し将来が楽しみな大型新人である。他にも、工藤との連係が冴える**藤原柊**、難でも軽快にこなす万能選手・**高森カイル**、国スポ選手に選ばれた**木村晄大**など全国でも通用する厚い戦力で3年ぶりの賜杯奪回を目指す。
両雄は9月の東海リーグで激突、その時は浜松開誠館が2点差で勝利を飾ったが、準決勝で予想される再戦ではどちらに勝利の女神が微笑むか楽しみである。

その他にも、**竹村勇祐**を中心に泥臭いバスケで勝利を目指す**飛龍**、**北堀遥大**を筆頭にフレッシュなメンバーで臨む**静岡商業**、**塩坂優斗**の爆発力がチームを活性化させる**城南静岡**、**尾藤遙陽**を軸に安定した成績を続ける**浜松西**、ミスター 3P稀代の長距離砲・**宮本剛都**の一挙手一投足に注目が集まる**浜松商業**、将来性豊かなスコアラー**内山直陽**を擁する**静岡学園**、そして昨年ウインターに出場、**石原弘幸・西垣玲央・末永蒼**など一流選手を多く抱え、来年度から校名を「浜松学院興誠」に改称するため現校名最後の出場となる**浜松学院**などが県武道館のメインコートを目指ししのぎを削る。

女子

今大会も9連覇を目指す浜松開誠館中心の優勝争いになる。その中でも高校大会5連続準優勝、実戦経験豊富な主力を中心に東海総体・東海リーグで実戦を重ねた市立沼津が女王の独走を止めるべく勝負をかける展開が予想される。

県内大会23連覇、公式戦156連勝、8年以上無敵を続ける**浜松開誠館**の強さはすでに全国トップレベル、東京体育館のメインコートも見えてきた。中心となるのは後藤と井口の両エース。**後藤音羽**はどのポジションでもオールラウンドにプレーできる逸材、夏にU17日本代表主将としてワールドカップに出場し世界の強豪と戦った7試合すべてで2桁得点、特にアメリカ戦では3P2本を含む19得点で6位入賞の立役者となり世界にも通用する世代屈指の選手に成長した。**井口姫愛**は絶妙なパス裁き

や窮地でも決め切る勝負強さだけでなく、仲間を生かしたプレーや重心を低くしてのインテンシブなディフェンスも光る。2人にとって最後のウインター、見る者に夢と感動を与えてくれるプレーを期待したい。他にも、3Pやポストプレーだけでなく随所に見せるいぶし銀の働きで貢献する**八重柏憂奈**、総体3試合で42得点・次世代のスコアラーに成長した**前川桃花**、高さとスピードを生かしたプレーが信条の177cm**小幡美空**・175cm**杉山実子**、速攻を武器とする攻撃型ガード・**牧田知紘**、総体にも途中出場し岐阜女子相手にも通じるレベルの高いスキルを披露した**垣内優希奈**など他の追随を許さない厚い選手層を誇る。今年は総合力が一段と上がったこともあり、積極的に選手交代を行い、時にはツープラトンも使う新たな試みも見られ、さらには失点の少なさも目立つのは徹底的に指導し続けた堅守の姿勢が浸透したからに違いない。総力戦で県を勝ち抜いて全国4強を目指す女王に今年も死角は見つからない。

市立沼津は東部総体17連覇を阻まれた悔しさを胸に県総体準優勝、東海総体でも勝利を収めた。司令塔・**勝亦麻佑**は無尽蔵のスタミナでコートを走りまわりハードなディフェンスで相手を幻惑させる試合巧者、冷静沈着に決めるフリースローにも注目したい。**河谷真矢**は長い手足と柔軟な下半身から繰り出されるダイナミックなプレーが持ち味、**野田志**は相手との駆け引きからシュートに挑む技巧派選手で経験を積めば積むほど伸びていく大器である。他にも国スポ選手に選ばれた**上原美桜・米内心菜・岩田真奈**など心技体の整った一線級の戦力で、厳しい守備と脚を使ったパスラン、力強いリバウンドを駆使して浜松開誠館に雪辱を期したい。

2強を追う県総体3 ～ 6位勢はまさしく実力伯仲と言える。7年ぶりに東海総体出場を果たした**東海大静岡翔洋**には果敢に3Pを放つ**一見陽菜**とオフボールの動きが天下一品の177cm**稲葉叶**、高さを使ったバスケが代名詞の**浜松学院**には広いシュートエリアを持つスコアラー・**足立珊那**や巧みなゲームコントロールを見せる**相川樹由**、そして完全復活を期す**ワネケジジュリエット杏奈**、何処にも負けない団結力で順位を上げる**沼津商業**には**庄司奈納・向井京**という勝負の駆け引きに長けた勝負師、そして全ポジションに多彩な戦力が揃う**浜松南**には県上位を戦い抜いた実績と自信に裏打ちされた技術と闘志を持つ**輿水想来**と**山村梨心**という県を代表するトップアスリートが各チームを牽引する。正直どのチームが勝ち上がるか全く予想がつかない熾烈な戦いが待っている。

その他にも、県総体7位の**浜松聖星・浜松商業**、大会最多16回の優勝を誇る**常葉大常葉**などがまずは県武道館進出を目指す。

令和6年10月発売「D-Sports Shizuoka」掲載　大会展望

History of Winter Cup 2024

ウインターカップ(選抜・選手権)の歴史と静岡県予選の歩み

文=中島　洋己（県協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

第77回**全国高校バスケットボール選手権大会静岡県予選**が令和6年10月19日に開幕する。そして男女優勝校が12月23日に**東京体育館**他で開幕する**全国選手権大会（ウインターカップ2024）**に出場する。「アフターコロナ2年目」となった今年も**日本バスケットボール協会（JBA）**が仕掛けるさまざまなショーアップ化で大会がますます盛り上がるだろう。

この大会は47年間「**選抜優勝大会**」として親しまれてきたが、平成29年に従来**全国高校総合体育大会（インターハイ）**と兼ねて行われてきた「**選手権大会**」を分離し、より大会の権威を高めるために選手権を単独で開催することとなり名称変更が行われた。この改革によりこの大会が名実ともに「**高校バスケの最高峰**」となった。一時期**ジュニアウインターカップ**を年末に開催するために年始に移行する計画もあったが、最終的に年末開催を堅持、やはりウインターは年越しに欠かせない「**年末の風物詩**」として位置づけられている。

ご存知の通りウインターカップは、サッカーの「**選手権**」、バレーボールの「**春高バレー**」、ラグビーの「**冬の花園**」とともに「**冬の高校4大スポーツ大会**」と呼ばれている。選抜大会時代から数えて55年となる歴史はインハイよりも浅いが、3年生が出場できる最後の大会となり、まさに高校生活最後の集大成として認知されている。当然指導者・選手達にとっても、この「**ウインターカップ**」という言葉を聞くと身が引き締まる特別な思いが込み上げてくるはずだ。

まずこのウインターカップ（選抜大会）の歴史を簡単に説明したい。昭和46年春に第1回大会が**代々木第二体育館**で開催された。当時は東北・関東など各ブロックで行われる予選を勝ち抜いた16チームのみが全国選抜に出場することができ、東海地区は男女各1枠しかなく、県予選で優勝しても**東海選抜大会**で敗退したらその年の県代表の出場がない場合もあった。昭和50年から出場枠が各24チームとなり、それに伴い東海地区の出場枠も男女各3チームとなった。ただ昭和63年12月の第19回大会は東海地区の女子が1枠増となり、誠心（現浜松開誠館）が東海選抜4位で悲願の初出場を決めた。逆に平成元年は東海地区男子が1枠減となり、初出場を目指した沼津学園（現飛龍）が県選抜で優勝を飾りながら東海選抜3位、全国選抜初出場を逃すというドラマもあった。このようなブロック予選を経て全国選抜に出場という形は平成元年まで続いた。

その間、劇的な変化も起こっていた。それまで年度末に開催され、1,2年生のみの新人戦形式となっていたこの全国選抜が昭和63年春の大会を最後に年末に以降、冬休み中の開催となり同時に3年生も出場できるようになった。インハイ、**国民体育大会（国体・現国民スポーツ大会）**を戦ってさらに技術を磨いた最上級生のプレーが見られるようになり、明らかに大会のレベルも上がった。平成2年からはブロック予選をなくし、出場チーム数を大幅に拡大、47都道府県代表各1＋開催地（東京）1の合計48チームとなった。それに合わせ大会の通称名を「ウインターカップ」とし、以来この呼称が高校バスケ最高峰の大会として完全に定着している。

ウインターカップが最大の盛り上がりを見せたのは平成10年第29回大会、**能代工業**（秋田）が史上初の高校9冠・108連勝を達成、のちに日本人初の**NBAプレーヤー**となる**田臥勇太**ブームもあり観客の入場制限が行われるなど、いわゆる高校バスケの『**人気飽和状態**』がピークを迎えた。その後平成21年からその年のインハイ優勝・準優勝チームには無条件で出場権が与えられることになり男女各50チームとなった。そしてインハイの出場校枠が大幅に削減された令和元年からは、この50チームに加え**各ブロック総体**（東海総体など）優勝チームの所属都道府県に**プラス1枠**（関東総体のみ優勝・準優勝都県）が与えられることとなり、**男女各60チーム**となった。令和2年は**新型コロナウイルス感染症**の影響ですべての総体が中止となったため､各都道府県代表と開催地枠の他に登録チーム数の上位2都道府県からもう1枠ずつ推薦（東京と神奈川)､そして全国9ブロックから客観的な事実に基づき1チームを推薦の計60チームで行われた。さらに令和3年度からはインハイ優勝・準優勝チームに与えられていた出場権も当該チームではなく所属都道府県に付与し、すべてのチームに「3試合以上の予選参加」を義務付けている。

ここで開催地と各都道府県の予選についても触れてみたい。開催地は前述の通り、昭和46年から平成5年までは代々木第二体育館をメイン会場に行われた。その間昭和63年春の第18回大会だけは**神戸市ワールド記念ホール**で開催された。平成6年は東京体育館、平成7年は代々木第二体育館で行われ、平成8年からは**東京体育館**に定着、改修工事のため平成24年はアジア大会や世界選手権も行われた**広島グリーンアリーナ**、東京オリンピックのための改修工事となった平成30年と令和元年は東京パラリンピックの車椅子バスケ会場となる**武蔵野の森総合スポーツプラザ**をメイン会場としたが、改修が終了した令和2年からは聖地・東京体育館にウインターカップが戻ってきた。また、令和元年の出場枠増加に伴い必然的にサブ会場も必要となり、**エスフォルタアリーナ八王子・駒沢オリンピック公園体育館・大田区総合体育館**などでも熱戦が繰り広げられている。県予選の会場は、**新居町民体育館**、**吉田町総合体育館**、**浜松市体育館**、**沼津市民体育館**など地方の体育館をメイン会場としてきたが、平成13年から5年間は**静岡市北部体育館**、そして平成18年から現在までは一貫して藤枝市の**静岡県武道館**がメイン会場となり、県武道館はウインター出場を目指す県内高校生のあこがれの場所、そして聖地となっている。また予選の方法は各都道府県協会の判断に任されていて、上位8チームのみで行っている地域や静岡県のように地区予選なしで全チーム参加の県予選を行っているところもある。

前置きが長くなったが、ここからは静岡県の選抜優勝大会の歴史をたどっていきたい。昭和46年に始まった選抜大会だが、当時は地区予選・県予選を1月に1,2年生のみで行っていたため「新人大会」も兼ねた大会として始まった。初の県予選優勝チームは男子・浜松商業、女子・浜松市立。しかし当時は全国選抜に出場できるのは東海選抜に優勝したチームのみ。浜松市立は見事東海選抜でも優勝し、県内初の全国選抜大会のコートを踏んだチームとなった。一方の浜松商業は東海選抜で**四日市工業**に敗れ、全国選抜出場はならなかった。だがその**浜松商業**は昭和49年に県内男子初の全国選抜出場を果たす。このように**坂田勝利**率いる浜松商業は選抜大会開始直後の静岡県高校バスケ界を牽引する存在だった。昭和54年に坂田が浜松北に転勤するまでに県選抜制覇4回、全国選抜出場3回を数えた。以後は長らく栄冠に見放されていたが、平成11年に坂田の愛弟子・**加藤佳充**が監督に就任、**菅川浩樹**、**石谷優二**など恵まれた戦力を生かして平成14,15年と県選抜を連覇。私学全盛の平成時代に公立高校として最後まで優勝争いに絡み全国大会出場4回、平成15年のインハイでは全国ベスト8、孤軍奮闘を続けた。

その後、男子バスケ界も名将・**大石功**が黄金期を築きあげて**鈴木和之**へと受け継ぎ全国出場12回を数える**浜松西**や興誠など西部地区の高校が上位を占め、特に昭和62年には浜松商業・興誠が東海選抜で上位に食い込み、初の男子2校全国出場を果たした。なかでも**興誠**（現浜松学院）はOBの**石川友康**が指揮官としてチームを一から作り上げ、昭和56年から県選抜3連覇、59年こそ賜杯を**静岡**に譲ったが60年から再度4連覇。この7回の優勝時にはすべて全国選抜出場を果たしている。さらには**後藤正規・辻村浩**など後年日本代表に選出された選手も輩出し、まさに昭和末期を疾風のように駆け上がってきた。ただこの全盛期の興誠をしても全国を勝ち抜くのは至難の業で、今まで5回準々決勝進出を果てしているがすべて厚い壁に跳ね返されベスト8止まりになっている。平成に入ってからこの石川の教えは後年監督を引き継いだ**村上幸哉**や現監督の**森下貴之**に受け継がれ、平成28年、**田中旭・ダシルバヒサシ**を擁して15年ぶりそして現校名・**浜松学院**として初めてのウインター出場を果たした。ダシルバは**三遠ネオフェニックス**の特別指定選手として18歳9ヶ月で**B1最年少出場記録**を樹立、その後日本人4人目のNBA選手となる**河村勇輝**にその記録は破られたがその輝きは一瞬たりとも色あせることはない。令和5年には2枠に増枠したワンチャンスを生かし7年ぶりに全国の檜舞台に戻って来て、来年度からは校名を**浜松学院興誠**に改称して新たな歴史を築く。

同時期に女子で一時代を築いたのが**浜松市立**。**榎本行宏**が大学卒業直後から33年間一貫して指導し続け、最後の3月開催となった昭和63年までに県選抜優勝・全国選抜出場ともに7回。特に昭和52年は県選抜2位ながら東海選抜で3位を勝ち取り全国に出場、昭和59年には全国ベスト8に導くなど全国出場13回を数えた。平成に入って以降は全国から遠ざかっているが令和2年の県予選で市立沼津を破り見事決勝進出、34年ぶりの優勝は逃したものの就任から10年・**小野田宏親**の指導の下、長身選手を多く擁して王者相手に決勝戦にふさわしい激闘を繰り広げ準優勝、翌年の県新人でも堂々 3位、古豪復活を印象づけた。

同じく高校女子バスケ界を盛り上げた**佐藤政弘**率いる**静岡精華**（現静岡大成）も全国選抜出場3回を数えたが、全国での勝利は果たせなかった。浜松市立同様公立の女子校だった**清水西**は**川崎健三**が県内屈指の強豪校に育て上げ県選抜を2度制覇したが、ついに全国の舞台を踏むことなく現在に至っている。**西遠女子学園**も知将・**鈴木勝郎**のもと、県制覇2回、インハイ出場も3回を数えるが県選抜では最高が準優勝、ウインター出場を目前にしながら涙を呑んだ。また監督個人に焦点を当てれば、静岡商業時代に女子を率いてインハイ出場3回、県総体優勝1回、県新人優勝1回の偉業を果たした**立野幹夫**は、平成18年に**外村悠貴**、平成22年に**内野智香英**というのちに**Wリーグ**で活躍する絶対的エースを擁しながら共に決勝で敗れ聖地のコートにはいまだ未踏であるが、定年退職した現在は駿河総合で指導を続け、当時と変わらない情熱で40年来の夢を追い続けている。

男子の興誠のように昭和後期から平成初期の女子バスケ界を突如席巻したのが**市立沼津**。昭和56年にいきなり県選抜準優勝を果たすと翌57年には優勝。全国選抜でも初出場で堂々のベスト8に入った。**青木良浩**がカリスマ的な指導力で選手の心をつかみ、平成8年まで実に9回のウインター出場を果たした。特に昭和63年3月の神戸開催では全国4位、12月の東京開催では3位。県勢長年の悲願・ベスト8の壁を突破し、初の**メインコート**へと導いた。翌年の大会でも3位。出場9回のうちベスト4以上が5回、そして**秋本恵**、**原久美子**、**木下あゆみ**ら総勢5名の選手を大会ベスト5入りさせている。青木はその後、静岡商業・**静岡南・駿河総合**で指導を続け4校すべてで全国大会出場、そして県内最高のウインター通算26勝、県内指導で一線を退いた後は明星学園（東京）・白鵬女子（神奈川）など県外での指導に軸足を移した。なお市立沼津は青木の転勤後、**大畑昌己**が引き継ぎ平成21,22年に県選抜を連覇、**外山優希・鷹鵜公歌・橋本明歩**などを育てた。現在は**勝間田文乃**がチームを率いてインハイ出場に2度出場、ウインター県予選では決勝に3度進んだが東京体育館には未踏である。

平成に入り大会名も「選抜優勝大会」同様「ウインターカップ」の愛称でも親しまれるようになり、静岡の高校バスケも新たな力が台頭してきた。男子は沼津学園（現**飛龍**）、女子は常葉学園（現**常葉大常葉**）。西部地区に押されていた中部・東部地区が頭角を現してきたのである。**沼津学園**は平成元年の県選抜初制覇のあと、平成5年にウインター初出場を果たした。指導者の**杉村敏英**が平成21年沼津中央に転出するまでに県選抜優勝7回、ウインター出場6回、インハイ出場12回。ウインター最高順位は平成8年の全国ベスト8。杉村は**加藤吉宗・高原純平・種市幸祐・大石慎之介・青島心**など長年プロのトップリーグで活躍する選手を育成し名伯楽ぶりも発揮、東部男子の発展にも大いに貢献した。そのあとは若き闘将・**原田裕作**がチームを率いて11年間で全国大会出場9回・16勝、県制覇12回、インカレMVPにも輝いた**松下裕汰**を育てるなど立派にその伝統を受け継ぎ多大な功績を残して令和5年に母校・福岡第一の指導者になって静岡の地を離れた。

常葉学園は昭和62年に**小前宏史**が着任。4年目の平成2年に初の県選抜制覇を果たすと以後2度の5連覇を含む県選抜優勝16回と圧倒的な強さを誇る。この優勝回数は男女通じての最高回数で、**島田智佐子・名木洋子・田中真樹・篠宮杏奈・見崎南美・植田希歩**など一線級の活躍をした選手を数多く育て上げた。さらに特筆されることは何と言っても平成14年度にインハイに

続き県勢初のウインター優勝を果たしたことである。**櫻田佳恵・山田未来・三浦歩惟**らの活躍で超満員札止めとなった新春の代々木第二体育館、決勝で**中村学園女子**（福岡）を65-54で破り、総体・国体・ウインターの**全国三冠**を達成した試合は静岡県高校バスケ史上最高の名勝負として今でも多くのファンの脳裏に焼き付いて離れない。現在もOGの**根本葉瑠乃**が第一線で活躍を続けている。平成の女子バスケ界は全国選抜出場11回を誇る市立沼津、その市立沼津から異動した青木が指導して**関布紗子・谷川奈穂・松田朋子**を擁して平成11,12年と県予選連覇、12年には高山インターハイで準優勝、その年のウインターでも4位入賞を果たした**静岡商業**、平成10年初優勝の**静岡女子**、**能戸茂樹**が長年の指導を実らせ平成15年に悲願の初優勝を飾った**沼津中央**、そして女王・常葉学園の5校で賜杯を分け合う状況が続いていたが、平成28年**三島正敬**のもと、**浜松開誠館**が見事初優勝。四半世紀以上優勝のなかった西部地区女子に昭和61年の浜松市立以来、実に30年ぶりの賜杯を持ち帰った。28年ぶりに出場したウインターでは全国ベスト8、十分に県代表の責任を果たした。現在高校の大会では県23連覇、156連勝を継続中、全国大会でも通算24勝、まさに黄金の円熟期を迎え、**小笠原ひかる・陽本麻優・石田悠月・石牧葵・鈴木侑**などWリーグで活躍する選手も多く輩出している

平成18年、興誠・飛龍・浜松商業の男子3強の戦国時代に突如参入したのが**藤枝明誠**。指揮官に昭和後期、**昭和学院**（千葉）女子で全国制覇7回の偉業を遂げた**西塚建雄**を迎え、県外選手や中国人留学生を招くなど巧みなスカウティングで就任2年目には早くもインハイ出場を果たす。その年には県選抜準優勝、翌19年には見事優勝しウインター初出場を果たし、以後3年連続で出場、平成21年にはベスト8。オフェンシブなバスケが魅力のチームで特に平成20年の2回戦・海部（徳島）戦でチームが162得点の大会新、そしてのちにBリーグでMVPも受賞する**藤井祐眞**も一人で79得点。昭和47年に**北原憲彦**（明大中野）が記録した58得点を36年ぶりに大幅更新、現在でも55年間の歴史に燦然と輝く**1試合個人最多得点記録**、不滅の金字塔である。平成24年には**札幌創成**（北海道）で女子をインハイに5回導いた**三上淳**が着任、25年の大分インターハイで見事準優勝、同時にウインター出場も決め静岡県男子に出場枠を「もう1枠」呼び寄せた。秋の県予選は決勝戦のみ出場、試合勘という点で心配されたが、県代表・沼津中央にも圧勝し改めてその実力を証明した。ウインターでは現在NBAレイカーズの**八村塁**を擁する**明成**（宮城）に敗れたが堂々の4位、史上最年少で日本代表候補に選ばれた**角野亮伍**を核としたバスケットは静岡県のレベルの高さを証明した。その三上は平成27年に51歳の若さで急逝、3年間という短い間だったがその抜群の指導力は静岡県の高校バスケ界に大きな影響を与えた。その後は東京の公立中学で滋賀全中ベスト8に導いた**阿部桂**を招聘、複数のマリ人留学生を効果的に使う高さのバスケットで就任4年目の令和元年にウインター県予選を初制覇、静岡県初の女性優勝監督となった。阿部はその年のウインターを最後に惜しまれつつその座を退いた。その後は北海道で国体監督の経験もある**日下部二郎**が監督に就任、令和4年のインハイでは3位を勝ち取りその大会を最後に後進に禅譲、見事な引き際を見せ、現在は2度の監督代行経験がある**金本鷹**が青年監督としてチームを指揮、エース・**赤間賢人**を擁して2年連続でウインター 3位、令和5年には東海総体を制し再び静岡県に「もう1枠」をもたらした功績は大きい。

平成後期の男子バスケ界に黒船の如く乗り込んできたのが**沼津中央**。飛龍を長年率いた杉村が平成21年同校に赴任し強化に着手、県内初のセネガル人留学生・**シェリフ・ソウ**を中心とした高さのバスケで平成22年藤枝明誠の4連覇を阻止し初栄冠、ウインター初出場を果たす。その後平成25年まで4年連続出場。2度目の出場となった平成23年では県勢男子初のベスト4進出。これまで県勢が8回跳ね返されてきた準々決勝の壁を突破。惜しくも準決勝で日本人2人目のNBAプレーヤーとなる**渡邊雄太**を擁する**尽誠学園**（香川）に敗れたが、3位決定戦で名門・**福岡大大濠**（福岡）に快勝して県勢男子最高順位となる3位入賞、ソウも県勢男子初の大会ベスト5、**リバウンド王**と**得点王**に輝いた。その杉村も**山口力也・今村拓夢・大橋聖也**や現在ベルテックス静岡で活躍する**岡田雄**三などBリーガーを育て上げ平成25年に勇退、後任の指揮官には**市立船橋**（千葉）でウインター 4位の実績を持つ**廣田誠**が就任し平成27年には**サンブー・アンドレ**を擁して5度目のウインターカップ出場を果たし、現在はOBで杉村の愛弟子でもある**反町駿太**が采配を振るっている。

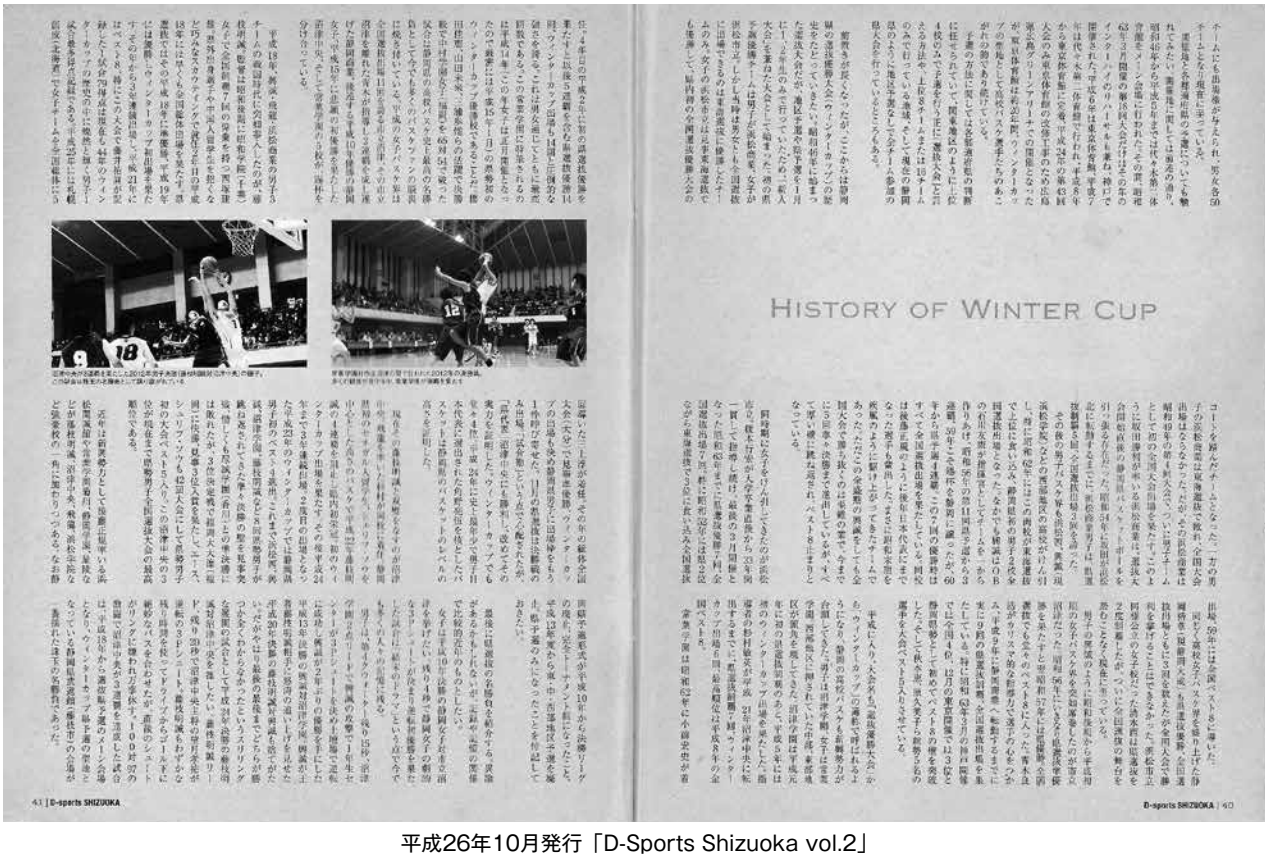
近年は男子の新興勢力として、**城南静岡・星陵・加藤学園**・公立の雄・**三島北**、そして長く**Bリーグ**などで活躍した**波多野和也**が原動力となり平成12年にウインター初出場、近年も日本代表・**市川真人**を擁して2年連続3位に食い込んだ**静岡学園**などが上位に進出している。その中でも**浜松開誠館**が目覚ましい躍進を見せている。平成24年創設と同時に日本代表としても活躍した後藤正規が監督に就任、あっという間に県大会準優勝4回・東海大会出場5回を誇る県下有数の強豪校に鍛え上げたが、なかなか「県制覇・全国出場」を果たせずにいた令和3年、県総体決勝でトリプルオーバータイムの末に敗れた宿敵・飛龍を倒してついに初の県王者、ウインター出場を決めた。苦節10年・後藤が人目をはばからず流した大粒の涙が今でも忘れられない。なお予選形式が平成10年から決勝リーグの廃止、完全トーナメント制になったこと、平成13年からは地区予選を廃止し全県予選になったことも付記しておきたい。

最後に県予選の名勝負を紹介する。異論があるかもしれないが記録や記憶の関係で比較的近年のものとしたい。

女子は平成10年決勝の**静岡女子－市立沼津**。残り4秒で静岡女子・**大場里美**の劇的な3Pシュートが決まり逆転、指揮官・**柘植夏也**が渾身のガッツポーズで初優勝の喜びを表した試合は「結末のドラマ」という点で今でも多くの人々の記憶に残っている。そして平成28年決勝・**浜松開誠館－駿河総合**。「選抜大会」有終の美を飾る試合は近年まれに見る実力伯仲の試合となり、一瞬たりとも目の離せない白熱した戦いが続く中、浜松開誠館が試合終了20秒前に同点に追いつき決勝戦史上初の**オーバータイム**に持ち込み、粘る駿河総合を最後の土壇場で振り切り初優勝を飾った試合は今でも人々の脳裏に焼き付いて離れない。

男子は残り15秒沼津学園が1点リード、興誠の1年生センター・**田中健介**が3Pシュートを決め土壇場で逆転に成功し2年ぶりの優勝を手にした平成13年決勝の**興誠－沼津学園**戦や、興誠が**石原裕貴**を中心に最強王者・藤枝明誠相手に怒涛の追い上げを見せた平成20年決勝の**藤枝明誠－興誠**、そして平成30年の準決勝、第3Q終了時に19点差でリードを許していた浜松開誠館が主将・**神田誠仁**を投入、神風が吹き第4Qだけで43点を挙げ藤枝明誠を歴史に残る大逆転劇で下した**浜松開誠館－藤枝明**

誠も捨てがたいが、それでもやはり最後の最後までどちらが勝つかわからなかったスリリングな展開の試合として平成24年決勝の**沼津中央－藤枝明誠**を推したい。藤枝明誠リードの中、残り20秒で沼津中央のエース・**石川知樹**からのパスを受けた**望月孝祐**が逆転の3Pシュートを決めて逆転。藤枝明誠もわずかな残り時間を使って司令塔・**成田正弘**がドライブからゴール下に絶妙のパスを合わせたが、直後のシュートがリングに嫌われ万事休す。100-97の激闘で沼津中央が3連覇を達成した試合は、県武道館が最も揺れた珠玉の名勝負として永遠に語り継がれるだろう。



平成26年10月発行「D-Sports Shizuoka vol.2」
History of Winter Cup ～ウインターカップの歴史～

令和6年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

令和６年度第 38 回**東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選**が令和７年１月 25 日に三島南高校他で開幕する。初日に 1,2 回戦、２日目にブロック決勝と決勝リーグ初戦および５位決定トーナメント、週をまたいで３日目に舞台を**御殿場市体育館**に移して決勝リーグ第２戦と順位決定戦､最終日に決勝リーグ最終戦を行い､上位３チームが２月 15,16 日に三重県･**四日市市総合体育館**で開催される**東海高校新人大会**への出場権を獲得する。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人に県代表としてコートに立つのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

ここで今回の県新人大会に関するトピックを3点紹介したい。

１点目は今大会から「**７位決定戦**」も行うことである。平成 29 年度の県新人から５位決定トーナメントが導入され５位決定戦は行われているが、７位決定戦は行わず２チームを７位とし、次大会の第７・第８シードは抽選によるものとしてきた。県新人の７・８位は翌年の県総体シード順に大きく影響し、完全トーナメント制で行われる県総体では順当に勝ち上がると第１シードと対戦するのが第７シードの場合は決勝であるのに対し、第８シードは準々決勝で早々に当たってしまう。もちろんシード順は該当校ではなく地区に割り当てられ、さらに優勝するためには当然いつかは最強の相手と対戦してなければならないが、県総体も視野に入れながら緊迫した順位決定戦という貴重な経験を積めることは、プレーヤーズファーストの理念に基づいた運営側の「英断」であると評価したい。

2点目は県大会最終2日間が9年ぶりに東部地区で開催されることである。県新人はこの9年間、草薙このはなアリーナを中心に中部地区で開催されてきた。県総体はエコパ、ウインター県予選は静岡県武道館で開催してきたので、三大大会としては平成27年度県新人の沼津市民体育館以来の東部開催、舞台はU18県大会初使用の御殿場市体育館となる。東部の会場と言えば沼津市民体育館や富士宮市民体育館を思い出すが、御殿場市体育館はU12の県選手権やU15の県新人・県会長杯、そしてBリーグ･Wリーグの会場で頻繁に使用されており、皆様にも馴染みのある体育館、驚くことに高校の県大会では初使用となる。そして何よりも東部地区はU18の地区予選最終日を御殿場市体育館で開催することが多く、つい2週間前の東部新人最終日でも使用され、東部地区の高校生にとっては「聖地」、まさに「ホームタウンゲーム」と言える。

3点目は直接県新人とは関係ないが、新年の挨拶や1月6日の県協会HP記事でも触れた「**県協会公式アプリ**（仮称・**静岡県バスケ**）」の試行をこの大会で行う点である。すでに皆様はHP経由でQRコードを読み取りアプリをインストールしていただいているとは思うが、**(株)ookami**様の協力を得ながら県新人のニュースやスコアを情報発信していく。出来る限り早い情報配信に務め、県新人1,2日目はHP同様全試合終了後、最終2日間は各試合結果確定後瞬時にアプリで通知する予定である。会場主任や高体連広報委員の先生方には今まで以上にご苦労をおかけすると思うが、機能の確認、情報発信の手順、そして導入に向けてのメリット・デメリットの把握を行うためにも協力して頂くとともに多くの皆様にアプリ登録をしてもらい、使い勝手などのご意見をもらいたいと思っている。なお現在このアプリ導入はあくまで検討中、正式運用の可否を決めるための試行運用を今大会で行い、県協会理事会で十分吟味し結果を年度内にお伝えする旨もご理解いただきたい。

この大会から年末の**ウインターカップ2023**に出場して全国ベスト16となった浜松開誠館女子、そして全国3勝を飾ってベスト8になった藤枝明誠男子が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。また、この時期毎年のことだが**季節性インフルエンザ**の流行がすさまじく、静岡県でも「警報レベル」を大きく超える感染者数を記録し続け、一部では学級閉鎖や地区予選の出場辞退もあったと聞く。空気に色が付いているわけでもなく対応にも限界はあるが、各自十分な感染症対策を講じて棄権チームを出すことなくこの大会が無事終了ことを願う。

2月2日には恒例の**（一社）静岡県バスケットボール協会U18優秀選手表彰式**が開催される。昨年4年ぶりに開催され、県新人大会最終日の風物詩が帰ってきたこともあり感無量で集合写真を撮ったことを思い出す。ウインター 3試合で3P9本を決めた井口姫愛、同じく3試合で合計93得点を記録し世代屈指のエースとして日本代表への階段を昇り続ける後藤音羽、長いウイングスパンとストライドを使っての華麗なプレーで観客を魅了した河谷真矢という3年連続受賞者を筆頭に、ウインターで歴代2位の1試合34リバウンドを記録したロードプリンス、4試合で19アシストを決めた野田凌吾を含めた今年度の高校バスケを彩った24名のスーパースターが集う最後の機会、多大な貢献に心から拍手を送るとともに次なるステージでの活躍を祈りたい。

この展望を執筆するにあたって山口裕史県協会広報副委員長・三宅凌広報委員を始め、各チーム顧問にもお願いをして出来る限りの取材に応じていただいた。それでも十分な展望は書けていないが、この場を借りて協力していただいた皆様に心からお礼申し上げたい。そしてこの展望を読んで、少しでも多くの人が実際に会場に行って観戦したいと思ってくれればと思う。

今大会はウインター県予選でも他チームの追随を許さず、本戦でも元日本代表・納谷幸二監督率いる岡山商大附、毎年純国産選手のみで独特なバスケスタイルを披露する新田（愛媛）、13年連続でウインターに出場しインハイ3位の経験もある正智深谷（埼玉）を倒し、3年連続東京体育館のメインコートで雄姿を見せてくれた藤枝明誠が頭1つも2つも抜けているが、昨年県新人・県総体でも準優勝し今回も東部新人連覇を飾った沼津中央、中部新人4連覇を成し遂げた静岡商業、西部新人決勝で浜松開誠館との壮絶な戦いを制した浜松学院の各地区覇者、そしてウインター県予選決勝で藤枝明誠相手に一歩も引けをとらない素晴らしい戦いを見せてくれた浜松開誠館などが藤枝明誠の独走を許すまいと必死に追いかける展開が予想される。藤枝明誠は実戦経験を積んだ下級生が多いといえども全国有数の留学生・ロードプリンスが抜けたことや新チームを始動してまだ4週間程度という事実は変え難く、新たな布陣で試行錯誤を繰り返す中その合間を縫って実力派チームが包囲網となり藤枝明誠相手にどのような試合をするのかが楽しみである。

左上のブロックは大会3連覇中・ウインター全国ベスト8・県内高校大会8連覇そして57連勝中の藤枝明誠が大本命中の大本命であるが、その王者への挑戦権を賭けて地区3位の城南静岡と三島北が争う展開になる。

藤枝明誠はウインター準々決勝で東山（京都）に惜敗したものの、大会ベストゲームの呼び声高い手に汗握る名勝負を演じた。最後の最後に勝利を逃してしまったが、日清食品トップリーグでは12点差で敗れた相手、そしてインハイ王者でもある東山を土俵際徳俵まで追い詰めた試合を見て勇気と感動をもらった人も多いはずだ。私も当日はバスケットLIVEでの動画観戦となったが感涙にむせんでしばらく何もできなかった記憶がある。敗れたことは非常に残念ではあるが、この試合はウインター史上に後々にも語り継がれるだろう珠玉の名勝負であることは間違いない。また感傷的になりがちな試合後の「ラストミーティング」でも指揮官は選手の前で涙を見せることなく前向きな言葉をかけ続けて上級生をねぎらい、下級生をさらに鼓舞する姿を見て藤枝明誠の強さの秘訣が垣間見られたように感じた。ロードプリンス・野田という絶対的エースと司令塔が抜けて戦力的に苦しくないはずはないが、先輩からの薫陶を胸に、果しえなかった全国制覇という大きな目標に向けて今大会で新たなスタートを切る。

中心となるのは、入学早々からレギュラーを獲得し全国の強豪と戦い続ける中で類まれな潜在能力を発揮して新生・藤枝明誠を牽引する191cm**野津洸創**。この選手に関してはすでに語り尽くした感があるが、ウインターを見ているとスピードやテクニックだけでなく、チーム愛に徹した泥臭いプレーにも磨きがかかっていた。4試合で58得点、インサイドプレーもさることながら随所で放つディープスリーも効果的に決まる大車輪の活躍を見せた。東山戦終了後には、悔しさのあまりコート上で人目もはばからず号泣した姿は見ている側にも胸打つものがあった。攻・走・守すべてに超がつくくらいの一流選手であるが、特にオフボール時の位置取りが卓越、味方パスの先を見越した動きで得点を導き出すチームの潤滑油としての働きに注目して欲しい。余談ではあるが、ウインター県優勝インタビュー時には留学生の通訳も即興でお願いし、堪能な英語を披露してくれた。英語科教員である私から見ても素晴らしい天賦の語学力を持つバイリンガル、「天は二物を与えず」ではなく「天は二物も三物も与えた」ということだろう。絶対的エースに指名されたラストシーズン、さらなる成長曲線を描きながら日本一を見据える。野津を支えるのはウインターでも大活躍した篠原・金子・渡邊のレギュラー陣。爆発的な跳躍力を誇る185cm**篠原遼太**のハイライトは東山戦残り21秒、ブレイクからショートコーナーにリードパスを出され3Pを決められたと思ったとたん飛び込んでショットをブロックしたシーンに尽きる。あれだけの距離を果敢にジャンプしてボールを弾き出せる跳躍力は超人レベル、ポーカーフェイスと裏腹なプレーとのギャップも興味深い。私見であるが、あのブロックがなかったら、3Pはリングに吸い込まれていただろう。留学生相手にも果敢に間合いを詰めてボールを奪う気迫あふれるプレーも魅力、ここぞという時にチームの救世主（メシア）となる。鳴り物入りの大型新人として脚光を浴びた**渡邊聖**は今年ゲームキャプテンという要職を任され心身ともにスケールアップが期待される逸材である。コートにいるだけで何かやってくれるような期待感と高揚感を与えてくれる選手、内外問わず得点が決められるスコアラー、圧巻だったのは国スポ準決勝・福岡戦。「ダブルダブルを決める活躍」、と聞けば得点とリバウンドで2桁を、と考える人が多いはずだが、今回は得点とアシストでの達成、特に10アシストは神業の域である。リバウンド能力も高い選手だけに今大会で「トリプルダブル」達成も決して夢ではない。**金子來樹**が脚光を浴びたのは岡山商大附戦、控えから出場したこの試合で膠着した流れを変えるために投入した下級生主体のメンバーがオールコートプレスでチームにリズムをもたらし自身も13得点、翌日の新聞紙面には「セカンドユニット」という言葉が並ぶ程の活躍だった。新田戦でも日本人最多の18得点を挙げた。一度付いたら離れない執拗なディフェンスと崩れた体勢でも決め切れる3Pを持つ、頼れる「3&D（ディフェンスと3Pでチームに貢献する選手）」である。県協会優秀選手にも選ばれた**高松悠季**はスピードと瞬発力を生かした守備とハードな守備が信条、圧倒的なスピードでコートを切り裂きハイテンポなバスケを展開する。**小森蒼斗**はリバウンドからのボールプッシュが魅力、まだまだ1年生、粗削りな部分は多いが誰よりもアグレッシブな姿勢でチームを勢いづける。他にも、溢れんばかりの闘争心でどんな役割も地道にこなす仕事人、ポストプレーとリバウンドに定評がある**柴田陽**、昨年は不本意な日々が続いたが見事復調、思い切りの良さと抜群の身体能力を兼ね備えた生粋のスコアラー・**檜垣奏太**、1年生とは思えないフィジカルと状況判断力で着実に流れをつなぐ万能選手、国スポでも高い得点能力を見せた**徳田翔太**、速攻を先導するビッグマン・**永田貴睦**、期待の有望株・**吉田稜**などセカンドユニットとして躍動してきた面々が今季から主役へと成長し、どのように試合に絡んでくるかも注目したい。

そしてロードプリンスの後釜として期待されるのが200cm**アネーエマニュエルチネメソン**。偉大な先達から日々の練習を通じてインサイドプレーの王道を伝授され、トップリーグでは代役を十分果たし経験値を重ねたことも大きい。今まではオンザコートワンの関係でプレータイムが限定されていたが、今年からファウルトラブルに気を付けながら40分フルタイムでの

活躍が期待される。藤枝明誠を4回全国ベスト4に導いた大黒柱が抜けた穴をどのようにリストラクチャー（再構築）していくか、彼のリムプロテクター（ゴール下のディフェンスに特化した大型選手）としての活躍が鍵となる。最後に新キャプテンの**戸田湧大**にも触れたい。元来得点力のある司令塔で何でも器用にこなす天才肌、プレーにも現れる堅実さで人望も厚く、個性派揃いの常勝軍団を力強く統率する彼の姿勢にも目が離せない。ハードなディフェンスから繰り出す速攻を武器に、冬に味わった悔しさを生かしさらなる「心技体」の充実を図り、まずは全勝での大会3連覇、そして2年ぶりの東海制覇も狙う。

中部3位・**城南静岡**はご存じの通り、3年前藤枝明誠が県内で最後に敗れた相手、県総体6位・ウインター県予選ベスト8と実績を積み続ける実力派、相手がたじろぐプレッシャーディフェンスと得意のアーリーオフェンスは今年も健在、三島北との挑戦権争いを制して是が非でも王者に挑みたい。主力の塩坂優斗・海野伍希などは抜けたが昨年来下級生唯一のレギュラーとして経験値を積んだ**佐野翔礼**を中心に、長距離砲の**大石侑**や美しいフォームから放たれる3Pやマルチに役割をこなせる**望月吹**などの戦力で9年ぶりの県新人8強を狙う。

三島北は昨年のこの大会で中部王者・静岡商業を破るアップセットを演じ県7位、今予選も3位決定戦で飛龍を後半鮮やかに逆転して快勝、藤枝明誠への挑戦権を狙う。キャリアを重ねて立派なエースに成長した**川上遼賢**を中心に、**堤寛大・仲野光樹・白井比路・北幸治**などスタメンでも控えでもコートに立つ選手が一律に高い能力を発揮する実戦経験と厚い選手層が特徴である。そして長年チームを率いるのは**長谷川泰**一監督。県内有数の指導者、そして人一倍の熱血漢、現役の県立高校教員では男女合わせてたった4名しかいない東海大会出場経験監督、しかもその回数は**立野幹夫**（現駿河総合女子監督・5回）に次ぐ3回を誇り、県4強も7回を数える。年度末で定年を迎える名将からの教えをコート上で体現し、2年連続の8強を目指す。

その他の注目選手として、**尾形空・朝比奈優馬・片瀬仁・細井龍**（静岡市立）、**増田脩人・平山歩・中上智仁・奥田彬人・徳田紘己**（静岡）、**今部陽翔・河合真叶・江間真都・ポリスティコユリ・二橋悠生・河合咲陽**（浜松工業）、**山田雄星・和賀井翔哉・小長井琉生**（城南静岡）、**井田翔太・周梓俊・岡本有都・藤原陽輝・出石夏南太・水口陽翔**（袋井商業）、**稲葉蓮・瀧内由馬・杉澤慧人・石川湊・杉谷勇臥・高田颯馬・味岡一輝**（富士宮東）、**亀野広翔・山本旺毅・伊藤利通**（三島北）などを挙げたい。

左下のブロックは男女を通じ県立高校初の地区新人4連覇を果たした静岡商業を中心とした争いとなる。そこに東部新人準優勝・韮山と西部新人最高の4位で挑む浜松湖南の公立勢と県内屈指の強豪校・東部4位の飛龍が加わり打倒・静岡商業を目指す展開となる。

静岡商業は中部新人決勝で3年連続の対戦となった静岡学園に電光石火のドライブを重ねながら1on1の強さと水も漏らさないリバウンド支配で競り勝ち大会４連覇、県立高校としては私も記憶にない偉業を遂げた。今年度県総体5位の実力派、昨年地区大会を含めた公式戦はたった4敗、それだけ見ればこの実績自体何ら不思議はない。しかしながらこの戦力を4年の長きに渡って続けることは並大抵ではない。就任10年・**増田哲也**監督の指導力・スカウティング力、そして選手や見る側をもひき付けるカリスマ的な魅力には敬服せずにはいられない。今年度も早々に新チームを始動させ、市川昊という絶対的スターを欠く戦力でウインター県予選でも前年度全国出場の浜松学院に大善戦してベスト16、県武道館進出は逃したがきちんと冬を見据えた調整でチームを万全に仕上げ、まずは目標の4連覇を果たした。外枠からのスタートとなる4回目の県新人、3年前は組み合わせ決定後に県新人が中止、一昨年・昨年はともに2回戦で不覚を取りベスト16止まり、未だブロック決勝にすら辿り着けていない。今回は万難を排して臨み、決勝リーグ進出が最低ノルマとなる。本来ならこの後エースの紹介に移るのだが、今年の静岡商業は全員が「エース」、ここが例年との決定的な違いである。

司令塔の**北堀遥大**は稀代の点取り屋、風を斬るように相手ディフェンスをなぎ倒す素早いオフェンススタイルと絶妙なタイミングで決める3Pは圧巻である。静岡学園戦23得点のキャプテン・**仲山柊志**は巧みなジャブステップやロッカーモーションを見せて相手を抜き去り柔らかなタッチで大きな放物線を描くシュートを放ち勝利への架け橋を創る。チーム最高身長182cm**齊藤遙人**はインサイドポジションの固定概念にとらわれず、どこにでも駆け込んで仲間の合わせを呼び寄せてリングに叩き込む。決勝戦でも35点の荒稼ぎ、内外から入りだしたらとまらない勢いがあるプレーヤーである。**文谷虎斗**こそ目の肥えたバスケファンが好む垂涎のプレーを見せるいぶし銀プレーヤー、アシスト･スティール･ブロックショットを何事なかったかのように平然と繰り出すその秘訣がコート上でのアイコンタクトにあることを私は見逃していない、まさに名人芸の域に達している。そして4連覇の立役者は何と言っても**佐野煌介**の成長と活躍なくしては語れない。典型的なオールラウンダーであることは知っていたが、柔らかい膝の伸縮を使ってポンプフェイクを入れての3Pやワンマン速攻、先を見越したディフェンスはもちろん、ノーチャージングエリア付近でも止まらず強引に突っ込むと見せかけて、ディフェンスとの駆け引きを一瞬で判断して仲間への合わせやアウトレットに切り替えるペイントエリアでのオフェンスセレクションは超一流、満員の御殿場市体育館で見てもらいたいプレーヤーの1人である。このスタメン勢を見るだけでも県代表として東海に送り出しても立派に責任を果たせるレベル、あとは**富井遼真**を始めとする控えのメンバーが少しずつ底上げされれば、公立高校としては平成24年度の浜松西以来、12年ぶりの東海新人出場も十分現実味を帯びてくる。そのためにはブロック決勝で予想される韮山との公立対決に勝って強豪が集う決勝リーグを勝ち抜きたい。

その静岡商業と県4強・決勝リーグを賭けての対戦が予想されるのは**韮山**。一昨年県新人1回戦で中部新人準優勝の静岡学園を破る大金星を挙げるなど近年の活躍が目覚ましい公立の雄、ウインター県予選でもベスト16、今回の東部新人も第1シード・飛龍を破り初の決勝進出、惜しくも沼津中央には敗れたものの三島北とともに東部を代表する公立強豪校となった。就任6年目との**齋藤潤**監督は前任の伊豆中央時代から丁寧なチームの土台作りやきちんとした選手育成、そして個々の長所を見極

めてそれを着実に伸ばす指導には定評がある指導者である。この秋までチームの中心を担った萩原諒は引退したが、昨年来キャリアを積んで来た下級生が最上級生となりさらに努力を重ね開花、初の県8強そして一気に4強・東海へと目標を掲げて邁進する。今年のチームは粘りのディフェンスからの速攻が主体、相手に先手を取らせずイニシアチブを取りに行く攻撃的なバスケットスタイルと聞く。スタメンを1年生4人が占めることもあり、まだまだ伸びしろあふれるチーム、個々の能力も平均して高く全員が注目選手だが、その中でも東部決勝で3P3本を決めた**新藤穂月**は総体予選でも見せた得点力やゲームコントロール力に秀でる。その他にも、強いフィジカルとリバウンドで攻守の要となる**井上峻輔**、チーム内でのスタメン争いでレベルを高め合い3Pも放つ**川村蓮**と**土屋凛空**、昨年からスタメンで出場を続ける唯一の2年生・**岡本心真**、そしてチームのシックスマンとして指揮官がここぞという場面で起用され「いざ鎌倉」とコートに馳せ参じる**深澤昂士郎**の面々で、まずはすべての県大会を通じて20年ぶりとなる県8強を目指し、初の県4強も射程圏内にとらえる。

浜松湖南は準々決勝でウインター県予選8強の浜松商業に競り勝ち創部以来最高となる西部4位、今大会のダークホース的存在である。全体的にスキルもよく磨かれており、強いディフェンスと対峙しても簡単にボールを奪われない強さが攻撃の特徴、粘り強いディフェンスとリバウンドからのファストブレイクも冴え渡り、その中心となるのは**池田蓮**。ミニバス時代からキャリアを積み上げリバウンドの強さが持ち味、スピードとフィジカルを生かしたペイントエリアのアタックも冴える。その他にも内外から得点を量産し1on1にも絶対的な強さを持つ**佐藤柊**、広い視野からの巧みなアシストを連発する**犬塚就斗**、ハードなディフェンスで献身的なプレーを繰り返す**岩田伸之介**など縦横無尽に駆け抜けるオールコートバスケットでベスト8を狙う。

このブロックに東部4位・**飛龍**がいるのは各チームにとって不気味な存在に映るはずである。男子最多11回の優勝を誇る静岡県が全国に誇る強豪、昨年も3位で東海新人出場、現在まで8大会連続東海新人出場中、今年度の県総体・ウインター県予選ともに4強、主力がごっそり入れ替わり厳しい戦力ではあるが、まさに「新生・飛龍」の新たなる初陣の大会と前向きに解釈したい。キャプテン・**小針琉碧**を筆頭に、ウインター県予選でも準決勝でベンチ入りした**佐藤輝**、東部新人・3位決定戦で3P3本を含む21得点の大暴れをしたシューター**鈴木悠**、強気なプレーを見せる**内田瑛梧**などフレッシュな面々で新たなるスタートを切る。

今大会男女通じて唯一の初出場校となる**田方農業**もこのブロック。県内にたった3校しかない農業高校、そして創立123年の伝統校、9位決勝Tで2勝し東部10位で初出場を決めた。私がウインター県予選で同じ会場となり観戦した印象では、総合力は平均以上、将来性も感じさせる内容ではあったが、試合やクォーターごとに生じる好不調のムラが気になるところではあった。しかしながら1ヶ月に渡る長丁場の地区予選で県大会を勝ち取ったのは心身における真の総合力が底上げされた何よりの証拠である。180cmオーバーの選手を4人抱える大型チーム、ボールプレッシャーを強く、シェルディフェンスを徹底して全員で守り抜くスタイル、オフェンスではオフボールの動きをチーム課題として、スペースにアタックすることを心掛けていると聞く。ハンドリングとドライブを得意とし、センターやシューターへの合わせも上達しチームに不可欠な存在となった**藤本健生**を筆頭に、フルゲームを通じてハードにディフェンスする無尽蔵な体力を持ちキャプテンとして常にチームを鼓舞する声掛けを心掛け、ディフェンスへの意識を徹底させる**植松輝**、長身と身体能力を武器にリバウンドを量産し勝利を重ねるにつれて責任感も生まれ、課題のシュート力も向上している**遠田俊樹**、シューターとしての自信が生まれ周りからの信頼も厚くチームの得点源となる**阪本壮亮**、そしてチーム最高身長183cmのフィジカルを生かしたプレーが魅力・1年生期待の星・**松本実央**などのメンバーで中部王者・静岡商業に立ち向かう。

その他の注目選手として、**佐野匠・内山天夢・細井陸翔・島尾颯・佐藤愛琉**（浜北西）、**辻野陽向・山内崇史・山崎巧太郎・岩井貫太・原田峻**（浜松聖星）、**清水獅王・中村心汰郎・寺本桧**（飛龍）、**戸田旭飛**（浜松湖南）、**平野琥太郎・近藤丈太郎・松本翔和・鈴木優・平山蒼空・荻田翔葵**（東海大静岡翔洋）、**仁科祐真**（田方農業）などを挙げたい。

右上のブロックは東海リーグとウインター県予選準決勝で対戦、1勝1敗の戦績を残す沼津中央と浜松開誠館の両雄が前回大会同様ブロック決勝で決着戦を行う展開が予想される。

沼津中央は昨年県新人・県総体準優勝、ウインター県予選では浜松開誠館のすさまじい執念に屈し3位に終わったが、東部新人は決勝で韮山を破り危なげなく連覇、打倒・藤枝明誠の最右翼であることは間違いない。桐生武蔵・小林吏駒・内藤海夏人の新潟トリオは抜けたが、指揮官が我慢強く起用し続けその期待に応えた選手も多く、藤枝明誠に次ぐ厚い選手層となっている。

今回私が一番注目して欲しいのは191cm**髙木強臣**。この選手名を言ってピンと来る人はまだそれほど多くはないかもしれないが、昨秋に発売された「D-sports SHIZUOKA」誌の表紙でロードプリンスと超ハイレベルの空中戦を繰り広げた選手といえば知らないバスケファンはいないだろう。私もあの写真を見て正直「誰だ、この選手は??」と驚愕した覚えがある。2人の身長差は約20cm、それでも超人レベルの跳躍力で指先2関節差まで迫り、「互角の勝負」だった言える。今まで3年間ロードプリンスの試合を見てきたが日本人選手で高さにおいて互角の勝負が出来たのは彼しかいない。撮影したフォトグラファーですら会心の一枚で、驚きのあまり無我夢中でシャッターを切ったと言う。沼津中央には数少ない県内出身（島田市金谷）選手、ミニバス経験はなく中学校からバスケットを始めた将来性豊かな逸材、時折ダンクシュートも決めると聞く。この大会を通じてさらにスキルを伸ばし静岡県の至宝になってもらいたい。高さで言えば二人の留学生を忘れてはならない。**ハビブアテイザカリファ**は今大会最高身長206cm、ゴール下以外のプレーにも成長の跡が見え、スピードやテクニックも上達してきた感がある。ウインター県予選準決勝14得点、東部新人決勝19得点と留学生にありがちな爆発的な得点力を見せるわけではないが

数字に表れない貢献度は抜群、スタミナも鍛練した今大会ではプレイングタイムも伸び、さらなる比較が期待される。**エルデネサイハンエルデネバト**はフットワークの軽さとスピーディな動きが魅力、「見なし日本人扱い」のアドバンテージを生かし、東部新人ではカリファとのオンザコートツーの時間帯も増え、中盤を任されることによりさらに持ち味を発揮するようになり今大会での活躍が楽しみである。東部新人で新星の如く現れそのベールを脱いだ**中島清之介**は県武道館決戦・浜松商業戦で途中出場したものの強い印象は残せなかったが、新チーム移行時にレギュラーを奪取し韮山戦では18得点を決めて連覇に大きく貢献した。その他にも、多国籍かつ個性派集団をまとめるキャプテン・韮山戦でも23得点を挙げた**本間嵩武**、1on1の強さに自信を持ち決勝でも堂々のスタメン出場を果たした**渡辺碧波**、空中戦を得意とする**諏訪部碧生・村上幸斗**、ゲームコントロールに秀でる**植田陽翔**など、常にオールアウトを目指しながら激しい攻守のトランジションを繰り広げ、人とボールが動く機能的バスケを展開してまずは2年連続の東海新人を目指し、その先には藤枝明誠を倒して一気に13年ぶりの優勝に一気呵成に突き進む。

浜松開誠館は昨年ブロック決勝で沼津中央に敗れ5位に終わったものの、県総体3位で東海総体・日清食品東海ブロックリーグにも出場、強豪との試合を重ねて総合力も上がり、ウインター県予選準決勝では宿敵・沼津中央を中盤の鮮やかな逆転劇で破り準優勝、一つ一つ順位を上げ続け、今回目指す目標は優勝しかない。西部新人では決勝で長年のライバル・浜松学院に惜敗したが、どんな位置からでも這い上がり最後にきちんと結果を残すのが浜松開誠館の真の強さ、今回もまずはブロック決勝での対戦が予想される沼津中央戦に競り勝ち、2年ぶりの東海新人そして初の県頂点を目指す。

中心となるのは2年連続で県協会優秀選手にも選ばれた**高森カイル**。柔軟性豊かなフィジカルを駆使したプレーの一挙手一投足が魅力の塊、瞬発力・ボールハンドリング・ペリメターでのジャンプショットなど挙げれば紙面がいくらあっても足りない。20得点を重ねた沼津中央戦は彼の特色が遺憾なく発揮された象徴的な試合であった。今年はチームを担う役割も増えてますますプレーヤーとしての資質が上がるだろう。鈴木楓大・工藤寧朗と代々チームのビッグマンが担ってきた背番号6を受け継いだ**後藤大駕**はこれからの日本を背負って立つ可能性を秘めた逸材中の逸材、U18日本代表経験もある日本人最高身長196cmは恵まれた体格を生かした高さは相手にとって脅威、さらに相手攻撃の芽を早めに摘むディフェンスにも注目して欲しい選手、今大会最注目の選手の一人である。そして1年生司令塔・**木村咲大**、この選手を県武道館やテレビ・動画で初めて見て驚いた人も多かったとはずである。みんなが抱いた感想は「とんでもない選手が出てきた。」で一致すると思う。何でも器用にこなすオールラウンダー、ドライブもまずは果敢に突っ込む突貫選手、その中にも状況に応じて相手の動きを読み透かし巧みなキラーパスを放ちディフェンスを幻惑させる。ウインター県予選決勝でもチーム最多の15得点、藤枝明誠相手にひるむことなく立ち向かう姿は新たなるスターの誕生を予感させた。後藤とともに1年生ながら県協会優秀選手、国スポ準決勝でも優勝した福岡県相手に3P2本を含む20得点を挙げる大活躍をしてチームだけでなく静岡県にも貢献度が大きいことも特記したい。私事で恐縮だが、ウインター県予選決勝に顧問として駿河総合高校報道部員を撮影のために引率した際、終了後の反省会で1番印象に残った選手を尋ねたところ、部員が異口同音に木村の名前を挙げたことに玄人も素人も唸らせる彼のプレーの魅力が凝縮されている。その他にも、西部決勝でスタメン出場しチームの先制点を3Pで決めた**吉田澪央**、一瞬の隙をつくドライブを見せる**加藤心**、スピードを駆使したランニングプレーが得意・**宇都宮大騎**、トリッキーなパスやドリブルが魅力・**宮城琉希**、3Pシューター・**岸川藍佑**、県武道館のメインコートで2試合とも身体を張った堅守を見せた**石田唯翔**などの戦力で、アウトワイドプレイヤーの力強いドライブや高さを生かしたポストプレーなどによってペイントエリアにボールを持ち込むオフェンシブなバスケ、チームの勢いを加速させて持ち前の素早いトランジションからブレイクに持ち込み、人もボールを常に動くバスケットを今大会でも見せて欲しい。

浜松北は西部10位で8年ぶりの県新人出場を決めた。山口広報副委員長が主力だった平成11年の県新人と県総体で連続4位になった実績もある古豪、昨年4月にOBの**池田卓也**が監督に就任し基本に忠実なバスケの指導を徹底、西部総体で逃した県大会出場を果たした。確実なスクリーンアウトからのリバウンドで相手の攻撃チャンスを減らし、自らの攻撃チャンスを増やす展開が勝利への方程式、上背が無くても強いフィジカルでインサイドにおいても当たり負けせずシュートに持ち込む。**佐藤悠**の1on1や**花村颯真**のポストプレーなどの個人技にも注目したい。

その他注目選手として、**高杉理己・南茂昌悟・山本勘太郎・日吉駿介・後藤大佑**（日大三島）、**浅利奏磨・鈴木琉希・土屋悠・土屋愛翔・仲澤猛**（加藤学園）、**安藤悠翔・太田一平・西ヶ谷優心・曽根田澄真・溝口穣治**（静岡東）、**増田好汰・近藤翔太・河村颯大・池谷月楓・後藤彩杜・杉本和輝**（島田工業）、**江原周侑・川端康太・大橋昭太・杉本光優・石上創士朗・高濱瑳笑**（静岡城北）、**竹田俊太郎・鈴木淳・尾嶋奏亮・山本大馳**（浜松北）、**村上幸斗**（沼津中央）を挙げたい。

右下のブロックは県新人優勝経験を持つチームが4校揃い、公立・私立の強豪が集うまさしく「死のブロック」となった。その中でも浜松開誠館を倒し西部王者として8年ぶりの東海新人出場を目指す浜松学院が頭一つ抜け出し、それを静岡学園・浜松西・浜松商業が猛追する展開が予想され、好カードが目白押しの熾烈な主導権争いが繰り広げられるだろう。

浜松学院は昨年度ウインター本選に出場したため新チームの始動が遅れ、県新人 4 位で東海を逃した。続く県総体は 2 回戦で城南静岡に敗れ、背水の陣で臨んだウインター県予選では静岡商業に快勝したものの準々決勝で飛龍に惜敗しメインコートを逃した。以後新チームをみっちり鍛えた成果が結実し、9 点差で宿敵・浜松開誠館を破り西部王者として今大会に臨む。伝統の堅守速攻のバスケをベースとして、1on1 で決して負けない運動量に裏打ちされた脚力を武器に、ガード陣も高い位置からタイトにかつハードにディフェンスすることができる。西部新人では圧倒的な堅守で優勝した印象を受ける。特に、相手の攻撃の芽をつぶしてオフェンスに持ち込みリズムを掴み、試合終盤になっても脚力は持続されプレッシャーを与え続ける。選手個々に焦点を当てると、比較的**工藤楓**がセンターポジションらしい働きをするが、リバウンドなどは基本的に全員で泥臭

くもぎ取りに行く姿勢が見られる。今年は１年次から２学年上の先輩に交じってレギュラーを任された**末永蒼**と**西垣玲央**のダブルエースが満を持して先頭に立ちチームを牽引する。末永は中学時代の輝かしいキャリアの名に違わないハイスペックな能力を発揮、毎回見せる相手エースとのマッチアップは試合のハイライトとなる。西垣はキャリアを重ねた司令塔、１年次は巧みなパスワークが目に付いたが最近は自分で得点に絡むことも多く、西部決勝ではチーム最多の21点を稼いだ。その他にも、国体予備選手の経験も持ちウインター県予選・飛龍戦でも堂々のスタメン出場を果たし冷静にフリースローを決めた**藤井惺楽**、同じく飛龍戦で先制点を決めた**宮澤政人**、その飛龍戦で3P4本を決めて県武道館からどよめきが上がった**佐藤瑞樹**、そして**伊藤太良**などはドライブからの1on1が強いが、そこに至るまでに他の選手が道筋を作ってフィニッシャーを任せている部分も強さの秘訣だと感じる。まずはブロック決勝を制して３年連続の決勝リーグ進出を決め、さらには東海新人出場、そして９年ぶりの優勝を目指す。今年４月から校名を「浜松学院興誠」と改めるため、現校名で１試合でも多く試合を重ねたい。

昨年6位の**静岡学園**は県総体・ウインター県予選ともに県8強を賭けた戦いで浜松商業に敗れ、ベスト16に終わった。背水の陣で臨んだ中部新人・3年連続同一カードとなった静岡商業との決勝戦、お互いが実力伯仲の中、最後まで1点を争う息を呑む展開となったが5点及ばず準優勝に終わった。この勝敗が今大会の組み合わせに如実に表われて苦しい戦いが続くが、相手の特徴を捉えながら攻守の組み立てをイメージしコートで体現する考えるバスケットで勝利を重ね、5年ぶりの東海新人出場に向けて勇往邁進する。昨年来下級生を中心とした起用が目立ち、新チームも指揮官から丁寧な指導と貴重な経験を与えられた面々が揃う。中心となるのは恵まれた体格を生かした柔軟性あふれるしなやかなプレーを随所に披露し内外で得点を重ねる非凡なスコアラー・188cm**内山直陽**。私はこの選手を非常に高く評価する。専門分野であるインサイドの攻防はもちろん、ショートコーナーや外からでもチームコンセプトに基づいた献身的なプレーが出来るのが特徴、静岡商業戦でも外・中・ゴール下など至る所から得点を生み出し3P2本を含む24点を叩き出した。フリースローの精度も高く、サークル内できちんと時間を使って呼吸を整えてから視線をリングに合わせて落ち着いて決めるルーティンにも注目して欲しい。敢えて助言させて頂けば、外からのこだわりを極度に強く持たずにインサイドに切れ込みターゲットハンドを真上に出して味方のパスを呼び込むプレーも選択肢の1つに考えられればもうワンランク上の選手に成長するポテンシャルを持っている。静岡県少年男子主将として佐賀国スポ3位入賞に大きく貢献した**大長真士**は昨年度の国体から県選抜選手としてトップレベルの実践を積んだことで心身ともに一皮剥けた印象がある。ボール運びも一歩先を見据えた視点で次のプレーを呼び込む達人、アグレッシブに切れ込むドライブも秀逸である。その他にも、体調不良に苦しみながらも完全復調、静岡商業戦でもオフボールの際にスクリーンやトラップを仕掛けるなど数字に表れない貢献度が見る者を喜ばせる**小長井優磨**、190cmの長身を生かした力強いインサイドプレーでコール下の防波堤と化す**小野田礼輝**、人がうらやむほどの長い脚を利してビッグストライドでレイアップに持ち込む**五條漱士**、静岡商業戦途中出場して3Pを2本ずつ決めた**山本晴輝・中澤和雄**、同じく途中出場して絶妙なアシストや飛び込みのリバウンドを見せた**三宅航・石井蓮音**など地区覇者に遜色ないタレント揃いの布陣でまずは浜松西に競り勝ち、ブロック決勝で西部王者に挑みたい。

浜松西は近年安定した成績を堅持する県内公立高校を代表するチーム、一昨年の県新人以来県8強を逃していない。ウインター県予選も新チームの布陣で県武道館に進出し、藤枝明誠に善戦して全国レベルを肌で感じたことは大きい。西部新人で浜松開誠館に敗れたが3位決定戦では積み重ねられた経験の差を示す試合となり、まさに盤石のチームとなった印象を受ける。バスケット関連の洋書を精読し、使える戦術は率先して自チーム流にアレンジし実践する研究熱心な**本間光**一監督のもと、ハードなディフェンスと初動を意識した速攻を徹底したバスケが特徴、全体的に体幹がよく鍛えられており、身長以上に「身体が大きい」という印象を多くの選手から受ける。エースとしてチームを牽引するのは**尾藤遙陽**。大怪我に苦しみ昨夏から戦列復帰、ミニバス時代から代名詞である鋭いドライブだけでなく、驚異的なジャンプ力をいかしたシュートやリバウンドも冴える。**山田悠睦**はハイレベルなリバウンド力を武器とし浜松湖南戦でもチーム最多の26得点、懸念されていたスタミナ面も不断の努力で克服、40分間縦横無尽にコートを動く。**関宮怜央**は尾藤を欠く戦いを強いられた県総体での活躍が印象的、長身を生かした力強いゴール下のプレーでセカンドチャンスやブレイクの起点となる。以上3人共180cmオーバーの長身選手、高さは県内トップレベルである。その他にもオフェンスの引き出しが多彩、ファウルレシーブの技術にも長けて時にはロングシュートも放つ**福澤生也**、1年生に目を移すと力強いドライブと果敢に攻めるカッティングが魅力の**坂本陽樹**、そしてウインター県予選で覚醒、天下の藤枝明誠から3P4本を奪ったスコアラーの司令塔の**辻本直矢**など、チーム全員がその強靭なフィジカルでインサイドプレーもこなし、ただゴール下へアタックするだけではなくフリーになった瞬間にミドルを打つシュートセレクションの良さも強み。2回戦で予想される最注目の好カード、静岡学園戦を乗り切り西部王者・浜松学院も撃破して、一気に12年ぶりの東海新人出場を決めたい。

浜松商業は県新人・県総体に続きウインター県予選でも8強を賭けて静岡学園と3度目の対戦、1勝1敗で迎えた決着戦は記憶に残る壮絶な戦いを3点差で制し4年ぶりに聖地に辿り着いた。絶対的エースの宮本剛都や3Pシューター臼井力兜が引退し、さらにウインターを上級生主体で臨んだ関係で新チームの立ち上げがやや遅れた感はあるが、県新人までには完成された状態に仕上げてくるだろう。西部予選を見る限り、ドライブ・3P・ポストプレーなどバランスの取れたオフェンスを無難に繰り出し相手ディフェンスのわずかな隙を見逃さず、さまざまな戦術で得点を重ねていた。その中でも、怪我から完全復調し新エースと目される**小島颯也**の空中で相手をかわす卓越した技術、182cm**中山雄陽**の長身から器用に出されるドライブ力、筋肉隆々のたくましい肉体を築き上げた**千葉勢太**のパワフルなプレー、1年生・**和田悠心**が静岡学園戦で上級生にまじって見せた遜色ないハイクオリティーなバスケなどは十分に上位進出を狙える戦力、早々に2回戦で予想される浜松学院との伝統の一戦は目の離せない戦いになる予感が漂う。

8年ぶりの出場となる**富士**は予選9試合で7勝を挙げて大会最多勝利、東部9位で県新人に臨む。優勝チーム同様今年に入っ

て負けなし3連勝、勝ち続けることで精神的余裕が生まれ、プレーに自信が出ることが大きい。普段は監督やコーチの助言を参考に選手主体で練習メニューを組み立てて、指導者と意見交換したうえで練習に臨むチームポリシー、試合では粘り強いディフェンスとボックスアウトを徹底しブレイクでの得点を狙い、ピック&ロールやオフボールスクリーンを多用するなかで得点につなげていくプレースタイル、ノーミドル、ローテーションディフェンスを徹底し、相手にイージーシュートを打たせないチームディフェンスも心掛ける。巧みなハンドリングとステップを見せるチーム随一のスコアラー・東部新人でも各校指導者から称賛の声が上がった**大塚友貴**、粘り強いディフェンスが特徴・広いシュートレンジを持つ**篠原歩樹**、確率の高い３Pを放ちチームの流れを変える**鈴木賢剛**、高いジャンプ力を活かしたリバウンドとセンタープレーが特徴の**光森煌介**などを中心に新人戦「8勝目」を目指す。

その他注目選手として、**市川将翔・南條蒼生・細川生童・齋藤天馬・ヴィリャジャンハツ・ビエンシャン**（静岡大成）、**辻村未来・内山晧心・山下晴輝・久野綾大・平塚大輝**（浜松商業）、**武田倫太朗・金子晴人・花井飛雄**（浜松西）、**竹内銀河・松原陸・工藤大輔・佐野空良・笠井惺勇琉**（星陵）、**高木琉太郎**（富士）、**濱津俊太・勝亦瑛太・奥本悠太・柏木勇志・加藤泰史**（伊豆中央）、**鈴木麻也**（静岡学園）などを挙げたい。

女子

今大会も現在県内大会24連覇、161連勝中、まさに9年近く県内無敵を誇る浜松開誠館の総合力が断然群を抜いている。そのような状況の中でも各地区予選王者と上位チームが何とか女王に一泡吹かそうと必死に追いすがる展開が予想される。そして2番手以降はまさに「群雄割拠」、これは男子にも言えることだが、東海新人出場権争いも例年にも増して熾烈な争いとなる。

左上のブロックは今年も浜松開誠館の独壇場であろう。他チームはまず浜松開誠館と戦うところまで勝ち上がり、試合の中で絶対女王を慌てさせ、何か次につながるものを掴み取りたいと思って戦うことになる。その中で、静岡東と沼津中央の地区3位同士のチームがブロック決勝での浜松開誠館挑戦権を賭けてぶつかり合う展開になると予想する。

大会8連覇を狙う**浜松開誠館**はウインターで近江兄弟社（滋賀）、そして本県が過去に何度か苦杯を喫した千葉英和にも快勝、戦前から大きな山場と予想された3回戦、インハイ3位・精華女子（福岡）戦では相手留学生の爆発的攻撃力に苦しみ終始追いかける展開となり終盤の反撃も一歩及ばず惜敗、しかしながらインハイに続き堂々の全国ベスト16となったことは私たちにとっても誇りである。主力としてチームを牽引し続けたダブルエースの井口・後藤やチームを下支えした八重柏憂奈・杉山実子などは引退したが、実戦経験を多く積んだ下級生が先輩たちの魂を受け継ぎ、チームをリビルドして今大会に臨む。

中心となるのはウインターの檜舞台3試合で3P5本を含む33得点を挙げ、次世代のエースとしての貫禄を十分見せた**前川桃花**。中学3年時に全中優勝・Jr.ウインター 3位という輝かしい実績を誇り、高確率の3Pと緩急あるプレースタイルが特徴の逸材、ピンチの際も冷静に現状を把握しながらプレー、常にリスクマネージメントも出来ていてミスも少なく安定感あるプレーヤーと言える。高校入学後も浜松開誠館躍進への貢献はもちろん、昨年の国スポにおける少年女子3位入賞の立役者となり、2年連続で県協会優秀選手に選ばれるなど今大会ナンバーワンの注目選手、特に国スポでは今回から新設された個人表彰制度による初代「スリーポイント王賞」を受賞、優勝した京都相手に7本の3Pを決める大車輪の活躍が評価された。得点を量産できるポテンシャルがあるため攻撃ばかりに目が行きがちだが、守備面での貢献度も計り知れない。決して大柄とは言えない161cm、しかしながらコートの上ではその体格差を感じさせないディフェンスを見せる。相手へ密着する執拗な寄りを見せ、そのプレッシャーに耐えきれないボールマンのターンオーバーを誘発し、時には果敢にスティールを仕掛けワンマン速攻に持ち込む。ウインター 3試合で9スティールという数字が彼女の卓越した守備力を物語っている。今相手が一番どんなプレーを嫌がっているかを瞬時に分析しながらプレーとして体現できる新たなるスターの一挙手一投足に注目して欲しい。前川とともに新チームを支えるのは**小幡美空**。県内最高身長177cmの長身を生かしたリバウンドプレーが魅力、ウインター 2試合でスタメンの大役を与えられるなど指揮官からの信頼も厚い。力強いリバウンドからセカンドチャンスでのゴール下のシュートを得意とし、ティフェンスがブロックに来てもそれを押し切って決めるバスケットカウントは圧巻である。1年生・**垣内優希奈**は昨年までは八重柏との併用が続いていたが今年からは主力としてチームに貢献する。緩急のメリハリが効いたプレーと積極的に放つ高確率の3Pが持ち味、きちんと鍛錬された守備力にも定評がある。その他にも、前川とともに県選抜選手に選ばれ鋭いドライブや3Pで国スポ3位入賞に多大なる貢献をした**鈴木結愛**、国スポ・福井県戦で2点ビハインド残り13.2秒で鮮やかな弧を描く値千金の3Pを決め3位入賞への道筋を作ったプレーが忘れられない**牧田千紘**、国スポ選手にも選ばれウインターにも出場しスピードを生かしたプレーで得点を挙げた**小林陽菜乃**、高いポテンシャルを生かしたダイナミックなプレーでウインター初得点を挙げた**織田百々花**、絶妙のアシストやドライブを得意とする**坪田桜子**、貴重なユーティリティー・**鈴木千夏**、ウインター 2試合に出場した**持田莉子・山本爽未**、広いシュートレンジから多彩なシュートを打つ**佐々木涼渚**、気持ちで負けないガード**片岡美紗**など全国トップに肉薄する厚い戦力、東海・全国を見据えながらも決して油断・慢心せずにひたむきに目の前の勝利にこだわり徹底したディフェンスをさらに強化しながら人とボールが常に動く理想的な攻撃スタイルをさらに強固なものにしている絶対王者に今回も死角は見当たらない。まずは確実に県制覇を達成し、桜花学園・岐阜女子を倒して初の東海制覇を成し遂げて欲しい。

その絶対王者に初戦から果敢に挑む**掛川東**は平成31年の県新人以来6年ぶり、令和初の出場となる。しばらく低迷した時期

があったが、指導者の熱意と選手の気持ちが一つになり、チームディフェンスを徹底してリズムよくオフェンスにつなげるバスケスタイルで県大会を勝ち取った。限られた人数、そして実績のある選手も多くない中で、全員で一つの勝目標に向かって取り組んできた成果と言える。**早川幸来**はキャプテンとしてチームを引っ張る3Pシューター、**大平陽菜乃**はポイントガードとしてチーム戦術の中心選手、最も得点力が高く頼れる存在でもある。1年生に目を移すと**今井和花**は攻守の起点としてすでにチームに欠かせない存在となっている。非常に厳しい組み合わせではあるが、右膝前十字靭帯断裂の断裂の大怪我を負いながらも総体予選での復帰に向けて日々リハビリに取り組む**櫻井瑚々**のためにも全力を尽くして次につながる戦いを見せて欲しい。

静岡東は県内有数の選手数を抱え能力が非常に高い選手が揃う。中部予選でも厚い選手層を武器にめまぐるしくメンバーチェンジを繰り返し、出てくる選手すべてが監督の戦術をきちんと理解してコートできちんと体現、機能的ディフェンスとリズミカルに決まるアウトサイドで3位を勝ち取った。機動力と得点力に秀でるエース・**廣田美優**を中心に昨年度のウインター県予選以来の県8強を決めて絶対王者に挑みたい。

過去2度の優勝実績を誇る**沼津中央**は沼津商業との3位決定戦に快勝し8年ぶりの健8強が射程圏内に入る位置で大会に臨む。7人という参加チーム最少人数ではあるが個々の能力は抜群である。スピードとテクニック満載の**浅田海**を始め、スタメンの**依田愛巳・江川凪・金子未杏・五十嵐小梅**、どこからでも誰からでも均等に得点を積み重ねて勝利を掴み取るスタイル、スピードあるドリブルワークは一見に値する。両雄の戦いは最後まで息をのむ戦いになることは間違いない。

その他注目選手として、**渡邊夏帆・伊藤葵・池田雛希・村上花歩・杉山莉彩**（静岡東）、**錦戸あきら・三次咲妃**（掛川東）、**小川心優・稲葉友奏・望月優那・大出柚葉・植阪晴愛**（静岡女子）、**大月耶奈実・宮住美桃・清水咲希・石田妃菜野・小池果寿**（藤枝順心）、**今西莉子・内山留瑠・関根美緒・菊岡南那・鈴木萌花**（浜松市立）、**藤倉琴音・田村悠香・鬼頭菜津・石井優杏・野口華音**（加藤学園）、**岩田楓・春川姫香**（沼津中央）などを挙げたい。

左下のブロックは前回大会5位、そしてウインター県予選準優勝の西部新人覇者・浜松南の実力が他を大きく引き離している。それを懸命に中部新人準優勝の常葉大常葉とウインター県予選3位の沼津商業、そして昨年の県新人・県総体7位の浜松聖星が追いかける展開になる。

浜松南はコロナ禍後の3年間で安定した順位を保ちながら一歩ずつ前進し順位を上げ、公立高校にとどまらず今や県内を代表する強豪校となり、今回も浜松開誠館の対抗馬一番手である。昨年この大会5位、県総体で6位に順位を落とした悔しさをバネにウインター県予選では東海総体に出場した東海大翔洋を一蹴、準決勝では一時14点差をつけられ最終Q残り5分を切ってもまだ2桁得点のビハインドに苦しむ中、インテンシブなディフェンスとブレイクを駆使した猛攻で見事逆転、39年ぶりの決勝進出を果たした。大黒柱・山村梨心が引退し完全新チームで臨んだ西部新人でも浜松商業を寄せ付けず見事初優勝、今大会は初の東海新人出場､そして最終的にはウインター県予選決勝で屈した浜松開誠館を倒すことを目標にしているはずである。中心となるのは、試合後半で神がかり的なシュートを立て続けに決めて市立沼津戦初勝利の立役者・県協会優秀選手にも選出された**萩原静音**。154cmという小兵プレーヤーながら、相手ディフェンスに囲まれる苦しい体勢からわずかなパスコースを見つけるボールつなぎやハイスピードの突破力、そして確かな技術に裏打ちされたテクニックによって繰り出される美技の数々がまさに新エースの真骨頂といえる。当然各チームのマークは予想以上に厳しくなるが、それをある意味自分への試練と解釈し、次なる一手を考えながらさらに成長して欲しい選手である。県選抜に選ばれ国スポでも全国3位に貢献した**相澤彩乃**は172cmの長身を生かしたパワープレーと磨き鍛えられたテクニックに裏打ちされた器用なプレーを併せ持つ選手、浜松開誠館戦ではチーム全体が全国トップレベルの鉄壁ディフェンスに攻めあぐむ中、わずかな突破口を見つけて挙げた3P2本を含む値千金の12得点は何よりも価値あるものだと評価したい。今年度1年生として唯一県協会優秀選手に選ばれたことも大いにうなずける。**鷹野瑠美**は鋭角のドライブや度胸満点の3P、気迫こもったディフェンスを称賛するのは当然だが、何といってもプレーへのスタートダッシュが素晴らしい。ウインター県予選では控えからの出場だったが、コートインしてから試合への適応能力の速さにフロアレベルで見ていた私も目を見開いた。スタメンが続く西部新人でも同様、相手の機先を制するプレーを序盤から見せた。昨年の国体選手・**新林芽依**はボールコントロールが上手く基本に忠実なプレーを続ける。チームを束ねる**藤田結依花**は気持ちで負けない強いキャプテンシーを持ち、日々の練習がそのまま試合のコートに表れることを強く信じる頼もしい主将の鏡、まさにa model of the captainと言える。プレーでは球際への執念や途中出場時のハードワークなどでもチームに貢献する。スーパールーキー・**金子莉央**はU15時代での多くの活躍を耳にし、県武道館で初めて実際にプレーを見たが噂に違わぬ洗練されたプレーの連続に度肝を抜かれたことを思い出す。西部決勝でも途中出場して16得点、この選手がスタメンでなく切り札としてベンチに控えているだけで相手にとって脅威の的、ここに浜松南の強さの秘訣がある。その他、市立沼津戦・浜松商業戦でもスタメン出場を果たした**若林鈴音**、国スポ予備選手にも選ばれた**金森柚妃**、県武道館メインコートを2試合とも踏んだかけがえのない経験を次につなげる1年生コンビ**鈴木瑚々・鈴木華蓮**など近年の県立高校では類を見ない厚い戦力を誇る。そして一歩一歩順位を上げ続け就任5年目にして県頂点まであと1勝にまで迫った若き知将・**杉本貴央**監督の采配にも注目したい。まずは県総体で接戦の末敗れた沼津商業に勝利を収め、常葉大常葉との対戦が予想されるブロック決勝も乗り切って確実にベスト4へ、その先東海新人初出場はもちろん、浜松開誠館との再戦でウインターの雪辱を果たし、初優勝を目指す。

常葉大常葉は中部新人決勝で2年連続東海大翔洋に敗れたものの内容的には互角以上の戦いを見せて、まずは佐野恵子監督就任以来初の県8強に入り、最終的には6年ぶりの東海新人出場を目指す。中部決勝では一進一退の攻防が続く中で見せた粘

り強いディフェンスとリバウンド支配を見せ、県新人への光明となった。特に選手全員に浸透したリバウンドへの執念は凄まじく鬼気迫るものがあった。3Pを得意としフックシュートや綺麗な弧を描くシュートも見せる**池田愛央衣**、県内最高身長177cm・恵まれた体格と鍛えられたタフネスでことごとく相手のシュートをブロック、アップスクリーンも絶妙な**河島唯奈**、攻撃ではミドル、守備ではハンドチェッキングからのスティールが持ち味の**佐野麻帆**、司令塔としてとにかくコートを駆け回り、ターンシュートではピボットフットの使い方が絶妙でディフェンスを交わして見事なアーチを描くシュートにつなげる**堀田明里**、巧みなハンドリングに付随して動きの範囲が広く、リバウンド時に「ここに居たのか」と思わせるベストポジションでボールを支配する**鈴木愛々**などの面々で、流動的にポジションを変えながら練習で培ったコンビネーションでテンポの良いバスケを仕掛けて得意のロースコアゲームに持ち込んで、まずは浜松聖星との対戦が予想される2回戦を突破し、県総体で敗れた浜松南とブロック決勝で対戦したい。

ウインター県予選3位の**沼津商業**は新チームの始動が遅れて今回は東部4位に甘んじたが、昨年度・今年度の全大会でベスト8を逃しておらず、今大会でもベスト8以上堅持が目標となる。庄司奈納•向井京など3年生は抜けたが、その上級生に混じって出場したウインター県予選・浜松学院戦でここぞという場面で決定的なシュートを立て続けに決めて12得点を挙げメインコート進出の立役者となった三**浦咲**を中心に、飛び道具の3Pが入りだしたら止まらない**今坂怜愛**、東部新人3位決定戦でチーム最多タイの19得点を決めた**伏見優来**など偉大な先輩の後姿を見て学び続けた後輩たちが「高さと走力を生かした一丸バスケ」を継承していくはずだ。

安定した成績を続けていた**浜松聖星**はウインター県予選3回戦で静岡商業にまさかの敗戦、1勝も出来ずにコートを後にする屈辱を味わった。雪辱を期す今大会、外角から切れ込む対人の強さが魅力・中部新人浜松学院戦でもチーム最多の15得点を挙げたスコアラー・**長谷川万桜**を筆頭に、長距離砲が冴え渡る**深間菜月**、テクニック満載の技巧派選手・**中西杏奈**、そしてミドルシュートに境地を見出す**森美希奈**など十分に県上位を狙える戦力、持ち前のボールと人がテンポよく連動する攻撃的バスケを機能させれば、11年ぶりの東海新人出場も決して夢ではない。

その他注目選手として、**河谷唯・芹澤もか・今井琴梨・廣末菜央・堀米紗桜**（桐陽）、**森上美波・石野海月・近藤莉愛・谷口陽愛**（浜松東）、**高根夢・芹澤芙実香・芹沢天音・長澤鈴・杉山未来**（御殿場南）、**大畑こま・望月葵衣・須山心穏・塩坂彩菜・栗田恋羽**（静岡大成）、**渡邊紅玲羽・鈴木優実榎**（沼津商業）、**鈴木美虹・冨永悠香**（浜松聖星）などを挙げたい。

右上のブロックは2年連続準優勝の市立沼津を、前回大会6位・県総体・ウインター県予選ともに8強入りして安定した実力が目を引く浜松商業と同じくウインター県予選ベスト8の静岡商業が追う展開になるだろう。

昨年県新人・県総体準優勝の**市立沼津**は東部新人決勝で三島南に危なげなく勝利、東部新人11連覇を飾った。13年ぶりの優勝を狙ったウインター県予選では浜松南に残り1分から逆転負けを喫し3位に甘んじた。その悔しさと無念さをバネに今大会は万難を排して3年連続の東海新人出場、そして絶対女王を倒して16年ぶりの優勝を狙う。チームを支えてきた河谷真矢・勝亦麻結は引退したが、主力として活躍してきた下級生が最上級生となり、新入生の底上げも出来ていて戦力的には例年と遜色なく、浜松南とともに浜松開誠館の対抗馬であることは間違いない。
新たなるエースを任されるのは入学時からチームへの貢献はもちろん、国体・国スポなど静岡県への貢献度も高く、県協会優秀選手にも選ばれた**野田志**。東海リーグでもそのひたむきな姿勢が特集記事として配信されたこともある県を代表するユーティリティー、すべてのスキルがハイレベル、身長170cmで高さも兼ね備え、流れを自陣に引き寄せる神がかり的なプレーを見せたことも1度や2度ではない。東部決勝でも盤石のプレーで3P2本を含む41得点、まるで読心術を使って相手との駆け引きを楽しむかのように放たれるシュートにも注目が集まる「今大会で絶対に見るべき選手」である。**米内心菜**は実戦経験の場を与えれば与えるほど成長し結果を残す選手、国スポにも出場し主力級の活躍も見せた。成長するたびにいい意味で喜怒哀楽が表情に出るようになり、キャプテン自らの気迫溢れるプレーはチームの勢いに相乗効果ももたらす。ゴール下での連係や相手のブラインドで見せる美技も百聞は一見に如かず、是非会場で直接見て欲しい。
上原美桜も国スポ選手に選ばれて自信をつけた選手、173cmの長身を生かしたリバウンドと緊迫した場面でも決め切る正確なフリースローに定評がある。**岩田真奈**は入学当初から主戦として重用され、随所に頭脳明晰なプレーを見せて関係者を驚かせた。もちろん国スポにも選抜された県を代表する次世代のエース、攻撃のバリエーションも多彩、決勝でも3P4本を決める大活躍、プレーの引き出しが多いため捉えどころが難しく、相手も対策に苦慮するだろう。新チームになってレギュラーをつかんだ**梅原萌々伽**はプレッシャーディフェンスから流れをつかみリズムよくオフェンスにつなげるタイプの選手である。その他にも、国スポ予備選手にも選ばれたドライブシュートの達人・**岩川恵里花**、県武道館のメインコートに立ちキックアウトからの3Pを決めた**大波美結**、合わせから3Pに活路を見出す**朝比奈詩**、ボールマンへのディフェンスに自信を持つ**飯田琉永**、フリースローの精度が高い**堀川環菜**、3Pシューター・**奥田倖未**など確かな経験に裏打ちされた技術とテクニックを持つレベルの高い選手が多く集まった。高さを生かした粘りあるリバウンドと激しく詰め寄るプレッシャーディフェンスで試合の流れを引き寄せ、得意のカッティングから攻撃のリズムを作って最後まで機動力を落とすことなくハードに走り続ける妥協を許さない徹底したバスケットでまずは浜松商業との対戦が予想されるブロック決勝を制し決勝リーグに進出、県総体・東海リーグで敗れた浜松開誠館とウインターで敗れた浜松南への雪辱を誓う。

西部新人決勝で浜松南に惜しくも敗れたが地区予選最高順位で今大会に臨む西部2位・**浜松商業**は鍛え抜かれた強靭な足腰を使ったブレイク主体のスピードバスケを展開する。ラン&ガン・ファイブアウトなど多種多様なオフェンスも魅力のチームである。ウインター県予選直前で後輩そして自身のために電撃復帰を決心した山田千恵は引退したが、新チームの始動が早かっ

たためにどの選手も経験を上積みしていることが強み、中心となるのは**大塲優菜**。平均してチームの総得点の4割はこの選手が取るのではと思えるスコアラー、身を挺したゴール下のリバウンドやスピードあふれるランプレーや飛び道具の3Pが魅力、力強さと躍動感を兼ね備える大黒柱である。新チームとなり成長著しいのが**原田りの**。得点感覚に優れ、鋭いドライブや脚力を使ってのレイアップを随所に放つ。この二人を中心に、玄人はだしのパスワークや優れた瞬発力でチームを支える**谷野有彩**、プレーに安定感があり試合中も常に安心して見守れる指揮官からの信頼も厚い**伊藤優月**、自身を犠牲にしてもゴール下を守る献身的ディフェンスが取り柄の**森下恋**、ウインター県予選でも活躍・軽快なステップで相手を抜き去るドリブルワークやスピードを生かしたプレーが光る期待の星・**玉川冴**、控えの切り札としてチームが修羅場の状況で起用されてもきちんと期待に見合ったプレーができる**杉山希愛來・荒川結月**などの成長を見ると、実戦経験を積み重ねて力を付けてきたと改めて実感する。順調に勝ち上がればブロック決勝で昨年敗れた市立沼津との再戦が予想される。最後まで接戦の展開に持ち込み、勝機を見極めた瞬間に一気に逆転劇に持ち込む「浜商劇場」を見せて、初の県4強そして東海新人出場をも目指す。

静岡商業はノーシードで挑んだウインター県予選で浜松聖星・静岡大成のシード校を連破し9年ぶりの県武道館出場を勝ち取った。インサイドを起点にしながら速い展開を仕掛けるスタイルが基本、外回りには**提坂みそら・本間瑠夏**、中にはツインタワー・176cm**長谷川海尋**・175cm**小杉凛**を擁する布陣でまずは県総体初戦で敗れた浜松日体にリベンジし、浜松商業とブロック決勝を賭けた戦いを制し、ウインターに続く県8強を目指す。

その他注目選手として、**勝又慶・佐々優華・元野日菜・坪内杏香里**（静岡）、**稲垣茉瑚・落合美雨・提坂みそら・本間瑠夏・清水柚菜**（静岡商業）、**五味優花・西村佳菜・波多藍郁・池谷璃子・久保田未瑠**（浜松日体）、**遠藤優日・嶋田彩希・吉田光花・高屋敷里帆・菊池萌衣**（三島北）、**秋山心・池田あおい・田形はる・根緒美来乃・鈴木琴鞠**（日大三島）、**鈴木楓花・川上奈子・佐藤あや香・増井日南子・樋口凛優**（磐田北）などを挙げたい。

右下のブロックは中部新人を連覇し悲願の東海新人初出場を目指す東海大静岡翔洋の総合力が際立つが、地区予選初の決勝進出を果たして東部2位で大会に臨む三島南と前回東海大翔洋との決定戦を制し県3位で2度目の東海新人出場を果たした浜松学院が2回戦で対戦予定、勝者が翔洋と決勝リーグ進出を賭けて戦う構図が予想される。また、大会のたびに順位を上げて今回最高順位となる西部5位で挑む**浜松湖東**の戦いにも注目が集まる。

東海大静岡翔洋は県総体3位で7年ぶりに東海総体に出場したが、ウインター県予選準々決勝で浜松南に敗れ初のメインコートを逃した。3年生で唯一秋まで残りチームに貢献した一見陽菜は抜けたものの、残りのスタメンは変わらない顔ぶれ、最後の最後まで競った中部新人決勝・常葉大常葉戦でもドライブとインサイドを中心に勝負所で得点を逃さない徹底した攻めの姿勢で勝ち切った。

チームを引っ張るのは県協会優秀選手・177cm**稲葉叶**。御覧の通り、惚れ惚れするような立派な体格、長い手足や広い肩幅を生かしたダイナミックなプレーが魅力、スピードや緻密さも持ち合わせる大器、顔一つ動かさず素早く的確に出されるノールックパスを見るたびに、今すぐに大学や実業団に行っても通用するのでは、と思うのは私だけだろうか。その中でもゴール下でのポジショニングやスペース取りに優れ、リバウンドを含めたパワープレーにつなげる今大会注目の選手である。**星合汐凪**はゲームの組み立てがうまい司令塔、腕の伸縮を利用した力強いロングパスや高い位置でのリバウンドを武器とする一方、勝負所で果敢に放つ度胸満点のシュートは逸品で、常葉戦でも最終盤2度に渡って決めた相手の猛追をかわす決定打に観客は感嘆のため息を漏らすばかりであった。対面への合わせに出すパスの速さと正確さにも注目して欲しい選手である。172cm**山内楓**は稲葉とともにチームの空中権を守るオールラウンダー、攻撃では仲間のボール回しの間にスペースウォッチングをしてフリースペースに切れ込み合わせをもらってのジャンパー、守備ではボールマンが辿るドライブコースを察知しての位置取りが迅速、相手がチャージングを恐れるあまりにスピードを緩めたところで攻め手を奪う。その星合の合わせの相手が**森理椛子**。どちらがパッサー・キャッチャーではなくそこは阿吽の呼吸、決勝では星合のフローター気味のアウトレットパスをうまく上手に3Pに結び付ける美技を見せた。双子の妹・**森理彩子**も攻守において泥臭いプレーを見せ、飛び込みのリバウンドから先陣として走り込む選手にショットガンパスを出す。その他にもハッスルプレーと脚を相手に寄せたディフェンスが持ち味の**青島由來**、時折見せる華麗なバックシュートとしつこいディフェンスが強みの**北川伶奈**など選手たちも切磋琢磨しながら互いを高め合い最後には仲間をリスペクトして目標に勇往邁進するバスケットでまずは2年連続で決勝リーグに進み、前回最後の最後に手中からこぼれ落ちた東海新人切符獲得に全力を尽くす。

県上位常連の**三島南**は昨年10月のウインター県予選・県武道館進出を賭けて戦い敗れた沼津商業と東部新人準決勝で再戦、県3位そして東部新人第1シードの難敵を破る快挙を成し遂げ初の決勝進出、市立沼津には敗れたものの見ごたえのある決勝戦を演じた。辻村明日花という3年間チームを支えた押しも押されもせぬ大黒柱は抜けたが、切り替えの速いトランジションからの速攻を主体としたチームで安定した試合を展開、選手層が厚いメリットを利してめまぐるしく交代を繰り返して個々の特徴を出し切るのも特徴、中心となるのはやはり2年生である。リバウンド・ルーズボールなど球際を追うことに汗をかく**伊澤せり**、フィールザゲームを意識しながら適切な状況判断ができる**山中和奏**、チームに170cmオーバーの選手がいないためスモールラインナップに頼らざるを得ない中で指揮官に辛抱強く起用され続け粘り強いゴール下の攻防が出来るようになった166cm**中川結衣**、そして辻村の後継者として白羽の矢が立ち持ち前のスピードで相手ディフェンスを翻弄する新エース・**渡邉結衣**など層の厚さが目をひく戦力を誇る。まずは2回戦で予想される難敵・浜松学院との対戦を制し16年ぶりのベスト8以上を確定させ、ブロック決勝で東海大翔洋と戦いたい。

その三島南が初戦で対戦する**駿河総合**は中部9位で3年ぶりの県新人出場を決めた。鋭いドライブや果敢なカットインで突

破口を見出す**岩田蒼未**を中心に、攻撃では巧みなステップシュート・守備では長いリーチを利してリバウンドやスティール・チームへの貢献度は計り知れない**天野なつき**、誰よりもインテンシブにリバウンド争いに挑みゴール下の押し合いにも負けないインサイドワークが見られるようになった**小澤彩葉**、そして9位決定・静岡戦で最終盤相手の猛攻に遭い苦しむなかで起死回生の3Pを3本連続決めて相手の戦意を奪い取り「勝利の女神」となった**岸山愛海**などの戦力で、地区予選6勝の勢いを保ったまま3年ぶりの県新人勝利を目指す。

昨年東海新人に出場した**浜松学院**は、その後の東海総体と県武道館のメインコートを目前にしながら惜しくも逃してしまった。特にウインター県予選では準々決勝で沼津商業の気迫に押され競り負けて涙を流した。しかし安定感は県下トップレベル、実際に平成29年度県新人以来高校大会では19回連続県8強を保ち続けている。これは浜松開誠館に続く長さ、いかに大崩れしないバスケがチームに浸透しているかがわかる数字である。今回は主力選手がガラッと入れ替わり新陳代謝が一気に進み、新進気鋭のメンバーで2年連続の東海新人を目指す。昨年の足立珊那・ワネケジジュリエットのようなタレントが揃うわけではないが、足立からエースの称号を受け継ぎ、まるでボールが手のひらに吸い付くかのような名人芸のハンドリングや跳躍力を生かした高い地点でのリバウンドキャッチで観客を沸かす170cm**太田綾夢**、新キャプテンに就任しフォーザチームの精神のもと身を粉にした献身的なプレーに一意専心、特にディフェンスでは執拗なディナイを仕掛け相手の出鼻を挫く守備を心掛ける**髙柳亜知葉**、メインコートを賭けた「関ケ原の戦い」沼津商業戦では相手の反撃に遭った後半戦で内外から孤軍奮闘、その姿にニューヒロインの誕生を垣間見た**守山ひかり**、ミニ時代からの逸材がついに開花、西部新人・浜松聖星戦では3P5本を決める無双ぶりを見せ大器が晩成した**田開瑚生**、171cm・チーム一の長身を利したリバウンドとポストプレーで浜松学院伝統の高さを生かしたバスケットのDNAを受け継ぐ**荒井香実**、新チームでレギュラーに抜擢され得点に必ず絡む天性の感覚を披露した**市川水琴**、国スポにも出場した170cm**袴田千愛**など、スターに頼らず全員が地道なプレーを積み重ねて勝利に向かうバスケットが今年の浜学スタイル、今回が「浜松学院」で臨む最後の大会、足掛け7年以上にわたる県8強堅持は絶対条件、そのためにもまずは上位シードの東部2位・三島南を倒して県新人・県総体と東海大会を賭けて戦い1勝1敗の東海大翔洋との決着戦に挑みたい。

富士宮西は最終日に東部のみ冠が打たれた「県新人出場決定戦（11位決定戦）」で伊豆中央に勝ち最後の1枠を得て9年ぶりの県新人出場を決めた。2年生4人・1年生7人のチーム、堅守速攻を目標に掲げ練習から走り込んできた結果が「成果」となった。司令塔として試合の状況を俯瞰したオフェンスセレクションとどんな相手にも積極的なディフェンスでチームを支える屋台骨・**梶山稀花**を中心に、夏のリーグ戦を通し3Pの確率を上げ、積極的なドライブが持ち味で相手ディフェンスが間合いを取れば3Pも放つオフェンスの要・**松井怜那**、インサイドで積極的に脚を動かし攻守にわたって献身的なプレーを見せ、球際の強さはチーム随一・**松永凛**、中も外もプレーできる万能選手としてチームの流れを変えられる**加藤愛梨**などの戦力で、中部王者・東海大翔洋と対戦する。胸を借りるという気持ちではなく、挑む・倒すという気持ちで頑張って欲しい。

その他注目選手として、**青野愛琉・見崎ひなた・石上七菜・岩堀未羽・青木蘭**（駿河総合）、**清水佐和・宮城島夢子・手塚希海・菅野陽向・遠藤陽菜・平岡希星々**（清水南）、**髙橋乃愛・齋藤玲愛・大友彩歌・鈴木湖遥・日比野由麻・平松果歩**（浜松湖東）、**髙部咲希・髙橋侑加**（浜松学院）、**井上柑奈**（富士宮西）、**篠原由愛・太田寧織・佐藤ひなた・日吉希心・鈴木姪賀**（飛龍）、**足立結菜・久芳美羽・渡邉萌生**（三島南）などを挙げたい。

【特別付録】令和7年度全国高校総体静岡県予選 大会展望(案)

文：　中島　洋己
（(一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

令和7年度全国高校総体静岡県予選が令和7年5月24日に開幕する。地区予選を勝ち抜いた男女各32校が初日に1,2回戦、翌25日に準々決勝を行い、6月7日に袋井市・**エコパアリーナ**にて準決勝と5位決定トーナメント、8日に同じくエコパで決勝戦と各順位決定戦が行われる。優勝校は7月27日に岡山県岡山市・**ジップアリーナ岡山**および**岡山市総合文化体育館**で開幕する**全国高校総体**へ、上位3校が６月21,22日に三重県四日市市・**四日市市総合体育館**と**四日市市中央第2体育館**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。

今年度も例年同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末の**ウインターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が「増枠」となる。昨年は岐阜県がその特権を生かし、美濃加茂・岐阜女子が東海総体優勝でまずプラスワン、そして両チームがインハイで決勝に進みさらにプラスワン、男女ともに男女各3チームがウインターに出場するという歴史的快挙を遂げた。その反面、長年男女とも複数チームが出場していた愛知県は男女とも1枠の出場権となり今年はその雪辱に燃えて、静岡・愛知・岐阜の三つ巴の争いとなるだろう。どの県も喉から手が出るほど欲しいウインター追加出場権、増枠を狙うためには静岡県もより強いチームを東海総体に送り込み、ウインターカップの追加出場枠を獲得する使命も担ってもらいたい。なお、ウインター出場枠が2枠になった場合、県予選は**決勝リーグ制**、3枠になった場合はトーナメント制に付随して**3位決定戦**を行うことが決まっている。

加えて、この大会は**全日本選手権（オールジャパン:天皇杯・皇后杯）**の出場選考も兼ねている。上位2チームが８月に**静岡県武道館**で行われる**静岡県予選**の出場権を優先的に獲得、決勝に進出した2チームが11月に愛知県で行われる**東海ブロック予選**にも出場できる。優勝チームのみがオールジャパンに出場といういばらの道ではあるが、最終的には「バスケの聖地」**代々木第一・第二体育館**でのプレーにつながることは選手のモチベーションを高めるに間違いない。さらに上位2チームには8月に開催される「**U18日清食品東海リーグ**」への出場権が与えられる。このリーグ戦は2 ヶ月間に渡り東海4県の各地を転戦しながら東海地区の強豪としのぎを削り合い順位を競う大会、昨年は初めて静岡県でも開催された。特に男子は**B.LEAGUE**のU18下部組織が参加し、普段決して交わることのないクラブチームとの対戦は何事にも代えられない貴重な経験となった。なお、昨年・一昨年と藤枝明誠が出場した「**U18日清食品トップリーグ**」はすでに前年度上位4校の出場が決まっていて、残りの4校はインハイや各ブロック総体の成績をポイント換算して後日発表される。インハイ・ウインターと並び、「**高校三冠**」と称される大会への推薦出場も選手たちには大いなる励みとなり、本県チームがトップリーグに選出された場合、通例県総体3位チームが繰り上がりで東海リーグに推薦されており、各チーム1つでも上位の順位を貪欲に狙って欲しい。

また、今大会から県総体でも「**7位決定戦**」が導入されることとなった。今年の県新人で初めて導入され、静岡学園-韮山戦、静岡東-静岡商業戦ともに白熱した戦いを演じ、実施が成功であることを証明してくれた。県総体の順位はウインター県予選のシード順に大きく影響し、地区予選を経る県新人･県総体では地区に割り振られるのに対し、ウインターでは「該当チーム」にそのまま割り当てられ、さらに完全トーナメント制で行われるため決勝まで第1シードとの対戦を回避することができる。もちろんそのようなネガティブ思考では優勝などは絵空事、他にも強豪チームがひしめき合っていることは事実であるが、少しでも有利な展開で結果を求めているロジックでは、この7位決定戦が「単なる1試合」に終わらない重要な一戦になることは間違いない。

なお、この大会展望執筆においては、毎回私の右腕・**山口裕史**県協会広報副委員長、そして左腕・三**宅凌**広報委員に多大な御尽力をいただいた。感謝の気持ちでいっぱいであるとともに、毎回の大会展望を楽しみに待ってくれる皆様のために今回も大会展望を執筆させていただいた。客観的事実の間違えや人名のミス、場合によっては私の主観的な表現があるかもしれないが、執筆の趣旨をご理解いただき観戦の参考にしてもらえればと思う。

男子

今大会も県新人3連覇、東海新人でも圧倒的な強さで2年ぶりの優勝を遂げた**藤枝明誠**の強さが群を抜き独走態勢に拍車がかかる予感もするが、東海新人に出場した**浜松開誠館**や**浜松学院興誠**、そして県新人初の4強入りを果たした**静岡商業**や上位校の**沼津中央・静岡学園**などが優勝争いに絡むとともに東海総体出場権を賭けた熾烈なバトルも展開される。

女子

こちらは現在大会9連覇中、3大大会も25連覇を継続中、東海新人でも４強入りした**浜松開誠館**が頭一つ抜けている感もあるが、東海新人に出場して共に勝利を挙げた**浜松南**や**市立沼津**、そして県新人で浜松開誠館の連勝を165で止める世紀の番狂わせを演じた**東海大静岡翔洋**に加え、県新人5位決定戦でオーバータイムの熱戦を演じた**浜松学院興誠・常葉大常葉**を含む、ここ数年なかった群雄割拠と言える展開も十分に予想される。

おわりに

まずは192ページに及ぶ大作をお読みいただきありがとうございました。

私には忘れられない恩人が2人います。1人は私が平成11年春に浜松東高校に赴任し、全く縁もゆかりもないバスケットボール部（男子）の正顧問になった時、バスケットのことを1から教えてくれた当時女子部の顧問だった塩澤伸人先生です。先生が練習試合などの人脈、審判をするためのルールなどを丁寧に教えてくれたことがバスケットへの愛情を深めてくれました。また塩澤先生が西部高体連の広報委員長をしていて、その役職を引き継ぐことになりそれが縁で「広報」の仕事をすることになりました。私がバレー部の顧問をしていた時には塩澤先生も転勤先でバレー部の顧問をしており、バレー部の監督同士で対戦する、という奇妙な巡り合わせもありました。塩澤先生がいなければ1年でバスケとお別れしていたかもしれません。

もう1人は、私の前の県協会広報委員長・殿岡裕規さんです。殿岡さんは静岡新聞社にお勤めで根っからのマスコミ人、まさに広報のエキスパートでした。今でいうICTの先駆者で、パソコンを駆使しての広報、新聞記者との付き合い、書籍の作り方、情報発信、そしてHPの更新など広報の「いろは」を丁寧に教えてくれました。平成18年・世界選手権での広報活動を認めてくれて私を若干33歳にして県協会理事に抜擢してくれたのも殿岡さんでした。広報委員長を禅譲していただいたあとも随所で適切なアドバイスをして下さり、私を独り立ちさせてくれました。殿岡さんがいなかったら今の私はなかった、と思っています。

バスケットボール競技歴がない人間が、まるで専門家であるかのように執筆してHP・書籍で発表することは相当なプレッシャーがかかります。バスケットは競技歴のない人間にとっては非常に難しい競技です。戦術・テクニック・相手との駆け引きなど何度「自分に競技歴があればなぁ…」と思ったことか。10年以上たった今でもその重圧に押し潰されてしまいそうになることが多々あります。でもそのプレッシャーが時に快感となり、完成した時には爽快感に変わり、皆様に褒められた時に達成感に変わる、そのサイクルでここまで来ました。今後も私の体力と気力が続く限り、そして私の展望・コラムを楽しみにしてくれる人がいる限り、書き続けていきたいと思っています。もちろん、本業である高校教師の仕事も定年まで頑張って行きます。

この本を出版するにあたり、㈱篠原印刷所様には印刷業務だけではなく、デザイン・レイアウトの細部に至るまで尽力していただきました。特に担当の中川行臣様とは私が14年前に初めてウインタープログラムを作成した時からのお付き合いで一緒に県協会理事を務めたこともあり、私のこだわりにも快く応えてくれながら、時に私を勇気づけてくれて編集業務でも大いに助けてもらいました。この場を借りて深くお礼申し上げます。そして私のバスケット広報活動に理解を示してくれた家族にも感謝するのとともに、私にこのような活躍の場を与えてくれた県協会にも心から感謝申し上げます。

10年後、2冊目の本を発行することを励みに、これからも執筆活動・広報活動をライフワークにしながら続けていきたいと思っています。

令和7年　初春　　学校のパソコンに向かい合いながら

【参考文献】

『バスケットボール用語辞典』（廣済堂出版　　小野秀二・小谷究　著）
『バスケットボールまんが用語辞典』（日本文化出版　　倉石平　著　西村友宏　画）
『月刊バスケットボール』（日本文化出版）
『ジュニアアスリート浜松プラス』（ジュニアアスリート）
『DRIVE』『D-sports SHIZUOKA』（くまふメディア制作事務所）
『創立 50 年記念誌　明日への力』『創立 60 周年記念誌　明日に輝く』（静岡県バスケットボール協会　　殿岡裕規　編）
『創立 70 周年記念誌　明日に羽ばたく』（（一社）静岡県バスケットボール協会　　中島洋己　編）
『ウインターカップ静岡県予選　大会プログラム』（（一社）静岡県バスケットボール協会　　中島洋己　編）
『静岡新聞』（静岡新聞社）
『中日新聞』（中日新聞社）
『日刊スポーツ』（日刊スポーツ新聞社）
『スポーツニッポン』（スポーツニッポン新聞社）
『スポーツ報知』（報知新聞社）

【著者略歴】

中島　洋己 （なかじま　ひろき）

昭和49年（1974年）生まれ。静岡県静岡市出身。
現在、静岡県立駿河総合高校教諭。（一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長。
常葉学園大学外国語学部英米語学科卒。平成8年から県立高校英語科教諭。県立浜松東高校、浜松市立高校、県立科学技術高校でバスケットボールを指導。平成19年から静岡県バスケットボール協会理事・広報副委員長、平成23年から現在まで県協会広報委員長を務め、静岡県バスケの広報全般をつかさどる立場として、HPの管理･マスコミへの情報提供･ステークホルダーへの情報発信・大会プログラムや記念誌・テレビ中継時の演出・構成などを担当している。モットーは「静岡県バスケの広報体制は日本一」。

静岡県高校バスケットボール
大会展望クロニクル
2014 ～ 2025

発　行　日　　令和 7 年（2025 年）4 月 1 日
著者・発行者　　中島　洋己
印 刷 ・製 本　　㈱篠原印刷所
写 真 提 供　　㈱くまふメディア制作事務所
連　絡　先　　creativegenius114@yahoo.co.jp（中島直通）